



serena.com

SERENA[®] PVCS[®] VERSION MANAGER[™] 8.1.4

IDE クライアント操作ガイド

Serena が著作権を所有する機密情報



Copyright © 2000-2007 Serena Software, Inc. All rights reserved.

本マニュアルとここで説明されているソフトウェアは、ライセンス下で提供されており、ライセンスの条件に従ってのみ使用またはコピーすることが許可されています。ライセンスで許可されていない限り、本書のいかなる部分も、Serena の文書による事前許可なく、いかなる形式または電子的、機械的記録方法で、複写、保存システムへの保管、転送することはできません。複製されたドキュメントには、全部または一部であるかにかかわらず、この著作権の記述すべてが、変更されることなく含まれていなければなりません。

本ドキュメントには、Serena が所有権を有する機密情報が含まれており、Serena Software の明示された許可なく、記載されている情報を複製または配布することはできません。

このドキュメントの内容は、情報提供のみを目的としており、予告なしに変更される可能性があり、Serena による確約と解釈されるべきものではありません。Serena は、本書のエラーまたは不正確性についていかなる責任も義務も負うことはありません。

商標

Serena, TeamTrack, StarTool, PVCS, Collage, Comparex, Dimensions, RTM, Change Governance および ChangeMan は、Serena Software, Inc. の登録商標です。Serena ロゴ、Professional, Version Manager, Builder, Meritage, Command Center, Composer, Reviewer, Mariner および Mover は、Serena Software, Inc. の商標です。

その他のすべての製品または企業名は、識別する目的でのみ使用されており、それぞれの所有者の商標である場合があります。

米国政府の権利

米国政府、その機関、および手段用またはそれらに代わって、本同意書のライセンスによって取得されたすべてのソフトウェア製品は、FAR によって定義されている「商用ソフトウェア」です。米国政府による使用、複製、公開は、ソフトウェアを取得したライセンスによる制限の対象となります。製造元：Serena Software, Inc., 2755 Campus Drive, San Mateo, CA 94403。

部品番号：MA-VMIDE-J04

発行日：2007 年 3 月

目次

	Version Manager へようこそ	15
	表記上の規則	15
	マニュアルの使用方法	16
	技術サポートへのお問い合わせ	17
パート 1	Version Manager IDE クライアント	19
	はじめに	20
第 1 章	Version Manager ソース管理の概要	21
	はじめに	22
	ソース管理の概念	22
	プロジェクトデータベース	22
	プロジェクトとサブプロジェクト	22
	アーカイブ	22
	リビジョン	23
	作業ファイル	23
	ロック	23
	バージョンラベル	23
	プロモーション	23
	ブランチ	24
	共有	24
	ワークスペース	24
	ソース管理の情報	24
	ソース管理下のファイルのプロパティの表示	24
	ソース管理動作の監視	25
	アーカイブまたはリビジョンに対する動作の履歴の表示	25
	ファイルまたはリビジョンの比較	25
	Version Manager 5.3/6.0 プロジェクトでの作業.	25
	Version Manager と IDE の統合方式	26
第 2 章	SCC IDE によるソース管理のセットアップ	27
	はじめに	28
	推奨されるワークフロー	28
	管理者	28
	すべてのユーザ	28
	ソース管理プロバイダの選択	29
	SCC プロバイダの選択.	29
	SCC プロバイダのテスト.	31
	PVCSC LIServ サービスの停止	31
	プロジェクトデータベースの作成と設定	32
	Version Manager のワークスペースについて	32

Version Manager デスクトップクライアントの起動	33
[Version Manager Options (Version Manager オプション)] ダイアログボックスのデフォルト値の設定	33
デフォルトの設定	34
ソース管理プロジェクトの作成	36
ソース管理へのファイルの追加	36
ソース管理から削除したファイルの追加	36
追加の詳細設定	37
複数のプロジェクトによるファイルの共有	38
ファイルの共有	38
ソース管理からのファイルの削除について	39
第 3 章	
COM IDE によるソース管理プロジェクトの セットアップ	41
はじめに	42
Web ベースのプロジェクトについて	42
推奨されるワークフロー	42
サポートされる Web サーバの設定	43
Web サーバのセキュリティの設定	43
Windows のセキュリティ	43
FrontPage ユーザの権限	44
ソース管理のデフォルト値の設定	45
デフォルトプロジェクト設定の編集	45
外部ソース管理を使用可能にする	47
ソース管理への Web プロジェクトの追加	48
ネストされたプロジェクト構造	48
ソース管理からの Web プロジェクトの削除	49
ソース管理への Web ファイルの復元	49
以前のリビジョンのチェックアウト	49
第 4 章	
ソース管理の使用法	53
はじめに	54
Version Manager プロジェクトへのログイン	54
ファイルの取得	54
取得オプションの詳細設定	55
ソース管理からの IDE プロジェクトの取得	56
ファイルのチェックアウト	57
チェックアウトオプションの詳細設定	57
チェックアウトの取り消しについて	59
チェックアウト取り消しオプションの詳細設定	59
ファイルのチェックイン	60
チェックインの詳細オプションの設定	61
バージョンラベルについて	62
バージョンラベルの割り当て	63

	バージョンラベル名の変更	65
	バージョンラベルの削除	67
	プロモーショングループについて	69
	プロモーショングループに割り当てられたリビジョンのチェックアウト	70
	リビジョンへのプロモーショングループの割り当て	71
	リビジョンの次のプロモーショングループへのプロモート	73
	プロモーショングループの変更	75
	プロモーショングループの削除	77
第 5 章	ソース管理情報の表示	81
	はじめに	82
	プロパティ	82
	プロパティの参照	82
	Pulse によるソース管理動作の監視	83
	Pulse の設定	83
	Pulse の起動について	84
	ソース管理動作の表示	85
	プロジェクト動作の監視の中断	87
	Pulse の終了	88
	履歴レポートについて	88
	履歴レポートの作成	88
	相違点レポートについて	91
	相違点レポートの作成	91
パート 2	各 IDE に固有の情報	93
	はじめに	94
第 6 章	ColdFusion Studio	95
	はじめに	96
	サポートされている機能の使用	96
	ソース管理プロジェクトの設定	97
	複数ユーザで使用されるプロジェクトの設定	97
	ソース管理プロバイダの選択	98
	ソース管理へのプロジェクトのマッピング	98
	ソース管理へのファイルの追加	101
	ソース管理からのファイルの削除	102
	ソース管理の使用法	103
	ファイルの取得	103
	ファイルのチェックアウト	103
	チェックアウトの取り消し	103
	ファイルのチェックイン	104
第 7 章	FrontPage	105
	はじめに	106
	サポートされている機能の使用	106
	ソース管理プロジェクトの設定	107
	ソース管理への Web プロジェクトの追加	107

	ソース管理からの Web プロジェクトの削除	109
	バージョン 6.0 プロジェクトのアップグレード	110
	ソース管理の使用方法	111
	ファイルのチェックアウト	111
	チェックアウトの取り消し	111
	ファイルのチェックイン	112
第 8 章	PowerBuilder	113
	はじめに	114
	Version Manager のプロジェクト構造について	114
	PowerBuilder でサポートされている機能の使用	116
	PowerBuilder でのソース管理プロジェクトの設定	117
	ソース管理への PowerBuilder ワークスペースの追加	117
	ソース管理へのオブジェクトの追加	120
	複数ユーザ環境でのワークステーションの設定	121
	ソース管理からのオブジェクトの削除	123
	ソース管理からのワークスペースの削除	123
	PowerBuilder でのソース管理の使用方法	124
	オブジェクトの取得	124
	オブジェクトのチェックアウト	125
	チェックアウトの取り消し	126
	オブジェクトのチェックイン	127
	新規オブジェクトの追加	128
	新規ターゲットまたは PBL の追加	128
第 9 章	Rational Application Developer 6 (Eclipse 3) のリッチな統合	129
	はじめに	130
	サポートされている機能の使用	130
	統合の概要	132
	TeamTrack 統合	132
	コラボレーティブプロセスの概要	132
	ワークスペースの使用	133
	ロックしないファイルの作業	134
	ファイルロックを使用したチェックアウト	135
	ソース管理プロジェクトの設定	136
	ファイルとディレクトリのソース管理からの除外	136
	以前のバージョンのソース管理統合からのプロジェクトの移行	137
	ソース管理へのプロジェクトの追加	137
	既存のソース管理に追加するワークステーションソース管理 プロジェクト	143
	ソース管理からのプロジェクトの削除	149
	ソース管理の使用方法	149
	接続情報の表示	149
	ソース管理ステータスの表示	150
	〔History (履歴)〕 ビューでの操作	151
	バージョンラベルの割り当て	153
	ファイルの取得	155
	ファイルのチェックアウト	157
	チェックアウトの取り消し	158

	ファイルのチェックイン	159
	名前の変更または移動の使用 (リファクタリング)	163
	ワークスペースとソース管理の比較と同期化	163
	Serena の最新リビジョンとの比較	168
	ローカル履歴との比較	169
	作業ファイルの相互比較	171
	ローカル履歴との置き換え	172
	Serena の最新リビジョンへの置き換え	173
	TeamTrack Issue の関連付けと作業	173
	Issue 管理ワークフロー	174
	IDE フォルダの設定	175
	TeamTrack 接続情報の変更	176
	レポートと Issue の表示	178
	Issue の提出と変更	178
	Issue とファイルの関連付け	179
	デフォルトオプションの設定	181
	ソース管理のオプション	181
	変更管理オプション	188
第 10 章	Rational Rose	191
	はじめに	192
	サポートされている機能の使用	192
	ソース管理プロジェクトの設定	193
	ソース管理へのファイルの追加	193
	ソース管理からのファイルの削除	197
	ソース管理の使用法	197
	ファイルの取得	198
	ファイルのチェックアウト	198
	チェックアウトの取り消し	198
	ファイルのチェックイン	199
第 11 章	TestDirector	201
	はじめに	202
	サポートされている機能の使用	202
	ソース管理プロジェクトの設定	203
	ソース管理を使用可能にする	203
	ソース管理へのプロジェクトの追加	204
	ソース管理からのプロジェクトの削除	205
	ソース管理の使用法	205
	テストの取得	205
	テストのチェックアウト	206
	チェックアウトの取り消し	208
	テストのチェックイン	208
	新規テストの追加	209
	バージョン履歴の表示	209
第 12 章	VisualAge for Java	211
	はじめに	212
	サポートされている機能の使用	212

ソース管理プロジェクトの設定	213
プロジェクトをソース管理に追加する前に	214
プロジェクトのソース管理への追加	214
VisualAge for Java プロジェクトの設定	218
ソース管理からのプロジェクトの削除	219
ソース管理にプロジェクトを戻す	220
ソース管理の使用法	220
プロジェクトの更新 (取得)	221
ファイルのチェックアウト	222
チェックアウトの取り消し	223
ファイルのチェックイン	223
新規ファイルのソース管理への追加	224
ソース管理からのファイルの削除	226
第 13 章	
Visual Basic	227
はじめに	228
サポートされている機能の使用	228
Visual Basic のファイルについて	229
ソース管理プロジェクトの設定	230
ファイルのソース管理への追加	230
ソース管理プロジェクトに追加するワークステーションを増やす	234
ソース管理からのファイルの削除	234
ソース管理の使用法	235
ヒント	235
ファイルの取得	235
ファイルのチェックアウト	235
チェックアウトの取り消し	236
ファイルのチェックイン	236
新しいファイルの追加	237
第 14 章	
Visual C++	239
はじめに	240
サポートされている機能の使用	240
ソース管理プロジェクトの設定	241
ファイルのソース管理への追加	241
ソース管理プロジェクトに追加するワークステーションを増やす	245
ソース管理からのファイルの削除	247
ソース管理の使用法	248
ヒント	248
ファイルの取得	248
ファイルのチェックアウト	248
チェックアウトの取り消し	249
ファイルのチェックイン	249
新しいファイルの追加	250
第 15 章	
VisualCafe	251
はじめに	252
サポートされている機能の使用	252

ソース管理プロジェクトの設定	253
ファイルのソース管理への追加	253
ソース管理からのファイルの削除	258
ソース管理の使用法	258
ファイルの取得	258
ファイルのチェックアウト	259
チェックアウトの取り消し	259
ファイルのチェックイン	260
新しいファイルの追加	261
第 16 章 Visual InterDev	263
はじめに	264
Web ベースのプロジェクトについて	264
サポートされる機能の Web プロジェクトからの使用	265
Web プロジェクトの設定	266
Visual InterDev の Web プロジェクト	266
ソース管理への Web プロジェクトの追加	267
ソース管理からの Web プロジェクトの削除	268
Visual InterDev およびソース管理からのファイルの削除	268
Web プロジェクトでのソース管理の使用	268
個別ファイルの取得	269
プロジェクト全体の取得オプション	269
ファイルのチェックアウト	270
チェックアウトの取り消し	270
ファイルのチェックイン	271
新しいファイルの追加	271
以前のリビジョンのチェックアウト	272
非 Web プロジェクト	272
非 Web プロジェクトでサポートされる機能の使用	272
非 Web プロジェクトの設定	273
ソース管理への非 Web プロジェクトの追加	274
ソース管理からの非 Web プロジェクトの削除	277
ソース管理からの非 Web ファイルの削除	277
Visual InterDev およびソース管理からのファイルの削除	278
非 Web プロジェクトでのソース管理の使用	279
プロジェクトまたはソリューション取得	279
ファイルの取得	279
ファイルのチェックアウト	280
チェックアウトの取り消し	280
ファイルのチェックイン	281
新しいファイルの追加	282
第 17 章 Visual Studio : SCC 統合	285
はじめに	286
サポートされている機能の使用	286
Visual Basic のファイルについて	287
ソース管理プロジェクトの設定	288
Visual Studio .NET 2003 から Visual Studio 2005 へのアップグレード	289

ソース管理動作の設定	289
Web プロジェクトの設定	290
ソース管理からのファイルの除外または削除	290
ソース管理への Visual Studio ファイルの追加	290
ソース管理プロジェクトに追加するワークステーションを増やす	294
ソース管理の使用法	295
ファイルの取得	295
ファイルのチェックアウト	296
チェックアウトの取り消し	298
ファイルのチェックイン	298
第 18 章 Visual Studio .NET 2003 のリッチな統合	301
はじめに	302
サポートされている機能の使用	302
Visual Studio 2003 のリッチな統合の概要	304
コラボレーティブプロセスの概要	305
ワークスペースの使用	305
ロックしないファイルの作業	307
ロックされたファイルのチェックアウト	308
SCC インターフェイスプロジェクトの移行	308
SCC VS 2003 からリッチ VS 2003 への移行	309
Web プロジェクトの操作	310
ソース管理プロジェクトの設定	311
管理対象外ソリューションの操作	311
Version Manager へのソリューションおよびプロジェクトの追加	311
Version Manager からソリューションおよびプロジェクトを開く	314
ファイルの編集	318
ファイル履歴の参照	319
特定のファイルまたはフォルダの取得	321
ファイルのチェックアウト	322
チェックアウトの取り消し	323
ファイルの編集	324
ローカル変更の確認	324
ファイルのチェックイン	325
リビジョンのラベル付け	329
リビジョンのプロモート	331
ダイアログボックスのデフォルトオプションの設定	331
ワークスペースの比較と同期化	333
マージ処理	334
リファクタリングに関する重要事項	334
ワークスペースの比較	335
Version Manager からすべての更新を取得	336
ローカル変更を Version Manager にコミット	338
ワークスペースの同期化	339
ファイルの比較と競合の解決	340
ファイル比較について	340
エンコーディングと表示オプションの設定	341
ファイルの比較	342
競合の確認と解決	344

TeamTrack Issue の関連付けと操作	347
Issue 管理ワークフロー	347
IDE フォルダの設定	348
関連付けオプションの定義	349
TeamTrack へのログイン	350
レポートと Issue の表示	350
Issue の提出と変更	351
Issue の関連付け	351
第 19 章 Visual Studio 2005 のリッチな統合	353
はじめに	354
サポートされている機能の使用	354
Serena ソース管理ツールバーについて	355
Visual Studio 2005 のリッチな統合の概要	356
サポートされているプロジェクトタイプ	356
コラボレーティブプロセスの概要	357
ワークスペースの使用	357
ロックしないファイルの作業	359
ロックされたファイルのチェックアウト	360
Visual Studio ソリューションの移行と変換	360
リッチ VS 2003 からリッチ VS 2005 への移行	361
SCC VS 2003 からリッチ VS 2005 への移行	363
SCC VS 2005 からリッチ VS 2005 への移行	364
Web プロジェクトの操作	366
ブランチの操作	366
ブランチファイルの表示	366
ファイルのブランチ方法	367
ラベルベースの自動ブランチ	367
手動ブランチ	370
ブランチのリビジョンの編集	371
ブランチファイルのチェックイン	372
ソース管理プロジェクトの設定	373
Version Manager へのソリューションおよびプロジェクトの追加	373
ソース管理からソリューションおよびプロジェクトを開く	376
ファイルの編集	380
ファイル履歴の参照	381
特定のファイルまたはフォルダの取得	383
ファイルのチェックアウト	384
チェックアウトの取り消し	386
ファイルの編集	387
ローカル変更の確認	387
ファイルのチェックイン	388
リビジョンのラベル付け	392
リビジョンのプロモート	395
ダイアログボックスのデフォルトオプションの設定	395
エンコーディングと表示オプションの設定	399
ワークスペースの比較と同期化	400
マージ処理	400
リファクタリングに関する重要事項	401
ワークスペースの比較	401

	Version Manager からすべての更新を取得	402
	ローカル変更を Version Manager にコミット	404
	ワークスペースの同期化	405
	ファイルの比較と競合の解決	406
	ファイル比較について	406
	ファイルの比較	407
	競合の確認と解決	408
	TeamTrack Issue の関連付けと操作	411
	Issue 管理ワークフロー	412
	IDE フォルダの設定	413
	関連付けオプションの定義	414
	TeamTrack へのログイン	415
	レポートと Issue の表示	415
	Issue の提出と変更	416
	Issue の関連付け	416
第 20 章	WebSphere Studio Application Developer 5 (Eclipse 2)	419
	はじめに	420
	サポートされている機能の使用	420
	ソース管理プロジェクトの設定	421
	ファイルとディレクトリのソース管理からの除外	422
	WebSphere Studio Application Developer の移行	
	バージョン 4 のプロジェクトをバージョン 5 へ	423
	プロジェクトのソース管理への追加	423
	ソース管理プロジェクトに追加するワークステーションを増やす	426
	新規ファイルのソース管理への追加	428
	ソース管理からのプロジェクトの削除	429
	ソース管理からのファイルの削除	429
	ソース管理の使用法	430
	ソース管理ステータスの表示	430
	ファイルの取得	431
	ファイルのチェックアウト	431
	ファイルのロック	432
	チェックアウトの取り消し	433
	ファイルのチェックイン	433
	名前の変更または移動の使用 (リファクタリング)	435
	ローカルモードの使用	435
	オフライン処理	438
	ワークスペースとソース管理の同期化	439
	ローカル履歴との比較	442
	ローカル履歴との置き換え	443
パート 3	5.3/6.0 プロジェクト	445
	はじめに	446
第 21 章	5.3/6.0 プロジェクトの変換	447
	はじめに	448
	変換する理由	448
	プロジェクトの変換	448

	プロジェクトの変換時の処理	449
	プロジェクト変換の準備	449
	5.3/6.0 プロジェクトの変換	450
	変換レポートの表示	454
	変換の完了	454
第 22 章	PowerBuilder プロジェクトの変換について	455
	はじめに	456
	プロジェクト変換の準備	456
	変換	456
	変換の完了	457
	ソース管理設定の再設定	457
第 23 章	Visual Basic プロジェクトの変換について	459
	はじめに	460
	プロジェクト変換の準備	460
	変換	460
	変換の完了	461
	変換したプロジェクトのオープン	461
	新規プロジェクトへのファイルの復元	462
	プロジェクト間でのファイルの共有の復元	462
第 24 章	Visual C++ プロジェクトの変換について	463
	はじめに	464
	プロジェクト変換の準備	464
	変換	464
	変換の完了	465
	Visual C++ プロジェクトの設定の確認	465
	Visual C++ プロジェクトファイルの更新	465
	変換したプロジェクトのオープン	466
	新規プロジェクトへのファイルの復元	467
	プロジェクト間でのファイルの共有の復元	468
	索引	469

Version Manager へようこそ

ソフトウェアの開発方法に革命をもたらす、用途の広い強力なバージョン管理システム、Serena® PVCS® Version Manager™ を選択いただき、ありがとうございます。Version Manager では、個々のファイルに対する変更の保存や追跡から、開発サイクル全体の管理および監視に至るまでのすべてのレベルにおいて、ソフトウェア開発プロジェクトを編成、管理、および保護することができます。

このマニュアルの内容	このマニュアルでは、Version Manager IDE クライアントにおける特定の IDE に左右されない作業方法の概念および概要について説明するとともに、ご使用の IDE と連携して Version Manager IDE クライアントをセットアップし、使用する手順を説明します。
内容	このマニュアルは、以下の 3 部に分かれています。 <ul style="list-style-type: none">■ 19 ページのパート 1、『Version Manager IDE クライアント』では、Version Manager IDE クライアントの設定と使用に関する、各 IDE 共通の概念および手順について説明しています。■ 93 ページのパート 2、『各 IDE に固有の情報』では、サポートされている IDE ごとの、Version Manager IDE クライアントの設定および使用の手順について説明しています。■ 445 ページのパート 3、『5.3/6.0 プロジェクト』は、Version Manager 5.3/6.0 のプロジェクトを新しい Version Manager のプロジェクトフォーマットに変換する場合の共通の概念および手順を説明します。IDE 固有の変換情報も含まれています。
詳細情報	Version Manager のマニュアル類、Version Manager のおおまかな操作方法、およびオンラインヘルプの使用方法については、『Serena PVCS Version Manager 入門ガイド』を参照してください。
対応バージョン	このマニュアルの内容は、Serena PVCS Version Manager 「バージョン 8.1.4」以降を対象としています。この版によって、このマニュアルの旧版は廃版となります。

表記上の規則

オンラインマニュアルおよびオンラインヘルプでは、以下の表記上の規則を使用しています。これらの表記上の規則は、ドキュメントを利用しやすくするためのものです。さまざまな製品コンポーネントやホストオペレーティングシステムで使用されている標準的な表記上の規則を否定したり、変更したりするものではありません。

表記例	意味
大文字	使用できるキーまたはキーの組み合わせを示します。たとえば、「ENTER キーを押します」などと表記されます。
モノスペース	構文例、ユーザ指定が可能な値、システムから返される結果値などを表します。
モノスペース斜体	ユーザが特定の値を指定する箇所を表します (例: <i>filename</i>)。
モノスペース太字	構文例の中のコマンドおよびコマンドオプションの名前を表します。また、実行されたコマンドの結果も表します。
縦線 ()	メニューとそれに関連付けられたコマンドを区切ります。たとえば、[File (ファイル)] [Copy (コピー)] は、[File (ファイル)] メニューの [Copy (コピー)] を選択することを意味します。また、コマンド構文でどちらか一方を選択する必要がある情報を区切ります。

表記例	意味
中かっこ { }	コマンド構文で、いずれか 1 つを選択する項目のリストを囲みます。各項目間は縦線で区切られます。たとえば、 <code>{version from_ver*to_ver}</code> と示されます。
角括弧 []	指定が必須ではないオプションの項目を示します。たとえば、 <code>SELECT [DISTINCT]</code> の <code>DISTINCT</code> は省略可能なキーワードです。
...	コマンドの単一インスタンスで複数回使用できるコマンド引数を示します。
	クリックするショートカットアイコンを示します。ショートカットアイコンは余白に置かれます。

マニュアルの使用方法

Serena® PVCS® Version Manager™ のマニュアルは、Adobe Portable Document Format (PDF) を使用します。PDF ファイルを表示するには、www.adobe.com から無料で入手可能な Adobe® Reader® を使用してください。



注 フルバージョンの Reader をダウンロードします。ベーシックバージョンには、検索機能が含まれていません。

このセクションでは、Reader の主な機能のいくつかを説明します。詳細は、Adobe Reader のオンラインヘルプシステムを参照してください。

PDF マニュアルには、以下の機能が含まれています。

- しおり：すべてのマニュアルにはしおりが設定されており、これを使って特定のトピックにすばやく簡単にジャンプすることができます。デフォルトでは、各オンラインマニュアル画面の左側にしおりが表示されます。
- リンク：マニュアル内の相互参照リンクによって、マウスをクリックするだけで、そのマニュアルのほかのセクションやほかのマニュアルにジャンプすることができます。これらのリンクは青色で表示されます。
- 印刷：マニュアルを表示しているときに、現在のページ、複数ページ、マニュアル全体を印刷できます。
- 高度な検索：Adobe Reader のバージョン 6 から、指定したディレクトリ内の複数の PDF ファイルを検索できる、高度な検索機能が含まれるようになりました。次の手順を参照してください。

複数の PDF 文書を一度に検索するには、次の手順を実行します (Adobe Reader バージョン 6 以降が必要です)。

- 1 Adobe Reader で、[Edit (編集)] - [Search (検索)] を選択します (または CTRL+F を押します)。
- 2 テキストボックスに、検索する言葉や文章を入力します。
- 3 <All PDF Documents in (すべての PDF 文書)> オプションを選択し、検索するフォルダを参照して選択します。
- 4 オプションで、<Whole words only (完全に一致する語のみ)> や <Case-Sensitive (大文字と小文字を区別)> などの追加検索オプションを 1 つ以上選択します。

5 【Search (検索)】ボタンをクリックします。



注 より強力な追加検索オプションを有効にするには、Reader のウィンドウの右下隅にある〈Use Advanced Search Options (高度な検索オプションを使用)〉リンクをクリックします。
(リンクに〈Use Basic Search Options (基本的な検索オプションを使用)〉と表示されている場合は、高度な検索オプションはすでに有効になっています。) 詳細については、Adobe Reader のオンラインヘルプを参照してください。

技術サポートへのお問い合わせ

ユーザ登録が完了すると、次のサイトにログインできます。<http://support.serena.com/>

パート 1

Version Manager IDE クライアント

Version Manager ソース管理の概要	21
SCC IDE によるソース管理のセットアップ	27
COM IDE によるソース管理プロジェクトの セットアップ	41
ソース管理の使用法	53
ソース管理情報の表示	81

はじめに

- 内容** パート 1 では、Version Manager IDE クライアントを使用する、各 IDE に共通の概念および手順を説明しています。
- 目的** パート 1 では、Version Manager IDE クライアントの設定および使用方法についての概念および手順の概要を解説しており、これは各 IDE に共通です。
- サポートされない機能** IDE の中には、パート 1 で説明するすべての機能をサポートしていないものがあります。IDE ごとにサポートしている機能とその機能を使用する方法については、[93 ページのパート 2、『各 IDE に固有の情報』](#)を参照してください。
- 詳細情報** ここに記載されている情報のほかに、以下の各ドキュメントも参照してください。

情報	参照先
Version Manager の設定	『Version Manager 管理者ガイド』
Version Manager の機能と概念	『Version Manager ユーザガイド』
ご使用の IDE におけるソース管理用の設定と実行	IDE ベンダが提供するドキュメントおよびオンラインヘルプ

第 1 章

Version Manager ソース管理の概要

はじめに	22
ソース管理の概念	22
ソース管理の情報	24
Version Manager 5.3/6.0 プロジェクトでの作業	25
Version Manager と IDE の統合方式	26

はじめに

- 目的** この章では、キーとなるソース管理の概念や Version Manager のユーザが使用できる機能を紹介します。ネストされたプロジェクトのサポートや、プロジェクト全体にわたるバージョンラベルの割り当てなど、サポートされている各 IDE から使用できる、Version Manager の機能を説明します。
- 詳細情報** ソース管理の概念に関する詳細情報や、Version Manager の操作については、『Version Manager ユーザガイド』を参照してください。
- IDE 固有の情報** 各 IDE でサポートされている Version Manager の機能については、[93 ページのパート 2、『各 IDE に固有の情報』](#)を参照してください。

ソース管理の概念

- ソース管理** ソース管理とは、チームで開発中のソフトウェア（またはその他のコンテンツ）の個別のコンポーネントに対する変更を管理する方法です。任意のファイルに対する変更は、ソース管理下に置くことによって、変更へのアクセスと管理を制御できます。

プロジェクトデータベース

- 定義** 「プロジェクトデータベース」は、ソース管理下にあるプロジェクト、サブプロジェクト、およびファイルの階層的な集合です。また、プロジェクトデータベースには、そこに含まれるプロジェクトおよびサブプロジェクトすべてに共通するソース管理設定も定義されます。[32 ページの『プロジェクトデータベースの作成と設定』](#)を参照してください。

プロジェクトとサブプロジェクト

- 定義** 「プロジェクト」とは、ソース管理下にあるサブプロジェクトやファイルの論理的な集合です。「サブプロジェクト」とは、ほかのプロジェクトに含まれているプロジェクトです。

アーカイブ

- 定義** 「アーカイブ」とは、作業ファイルに対して行った変更を格納する Version Manager ファイルです。変更した作業ファイルをチェックインすると必ず、そのアーカイブが更新されます。アーカイブには次の項目も保存されます。

- 変更の説明
- 変更者のユーザ ID
- 変更日時
- バージョンラベルとプロモーショングループの情報

アーカイブは、ソース管理に追加されるファイルごとに作成されます。

リビジョン

- 定義** 「リビジョン」とは、アーカイブ中の記録で、特定の時点で作業ファイルに加えられ、チェックインされた変更が格納されています。リビジョンをチェックアウトすると、Version Manager により、アーカイブから取り出されたファイルが、指定された場所に作業ファイルとして作成されます。
- 初期リビジョンとチップリビジョン** 一番古いリビジョンが「初期リビジョン」と呼ばれ、デフォルトでは、1.0 という番号が付けられます。チェックインされた新しいリビジョンに対して、リビジョン番号の末尾の桁が 1 ずつ増加します（例：1.1、1.2、...）。アーカイブ中の最新リビジョンは、「チップリビジョン」と呼ばれます。
- デフォルトリビジョン** 「デフォルトリビジョン」とは、選択されたものがない場合に操作対象となるリビジョンです。デフォルトでは、デフォルトリビジョンはチップリビジョンです。Version Manager デスクトップクライアントでは、デフォルトリビジョンを特定のバージョンラベルまたはリビジョンに設定することができます。

作業ファイル

- 定義** 「作業ファイル」は、新しいリビジョンまたはアーカイブを作成するために Version Manager にチェックインするすべてのファイルを指します。リビジョンをチェックアウトすると、Version Manager はそれを作業ファイルの場所に作業ファイルとして格納します。

ロック

- 定義** 「ロック」とは、作業中のリビジョンをほかのチームメンバーが変更できないようにする方法です。ほかのチームメンバーはいつでもファイルを表示したり、取得したりできますが、変更をチェックインしてロックされたリビジョンを上書きすることはできません。
- ロック状態の継続** リビジョンをチェックアウトすると、そのリビジョンは自動的にロックされます。ロックされた状態は、その作業ファイルがチェックインされるか、リビジョンのチェックアウトが取り消されるまで継続します。

バージョンラベル

- 定義** 「バージョンラベル」は、アーカイブ内の特定のリビジョンを識別するために使用するタグです。バージョンラベルを使用すると、複数のアーカイブにある関連したリビジョン（1 つのアプリケーションのベータ版を構成する全ファイルのリビジョンなど）を効率的に操作できます。[62 ページの『バージョンラベルについて』](#)を参照してください。

プロモーション

- 定義** 「プロモーション」とは、設計段階から最終リリースまでの開発サイクル内のマイルストーンに基づいて、開発作業を管理する方法です。プロモーションは、Version Manager デスクトップクライアントを使用して設定する必要があります。
- プロモーションモデル** 「プロモーションモデル」とは、開発サイクルにおけるマイルストーンの階層構造で、開発サイクルにおける主要段階を表す階層モデルです。

プロモーショングループ プロモーションモデルの各マイルストーンは、「プロモーショングループ」と呼ばれます。プロモーショングループには、「開発」、「QA」、「製造」などの名前を付けることができます。

チェックアウトでは、プロモーショングループに基づいてリビジョンを選択することができます。チェックインでは、新しいリビジョンにプロモーショングループを割り当てることができます。[ChangeMan Options (オプション)] ダイアログボックスから、プロモーショングループのリビジョンへの割り当て、次のグループへのリビジョンのプロモート、リビジョンに割り当てられているプロモーショングループの変更、リビジョンからのプロモーショングループの削除を行えます。[69 ページの『プロモーショングループについて』](#)を参照してください。

ブランチ

定義 「ブランチ」とは、開発のメインライン（トランク）のリビジョンまたは別のブランチから分岐した、1 つ以上のリビジョンで構成される新たな開発ラインです。ブランチは、新しいリビジョンをチェックインする際に作成できます。

ブランチを使用する理由 ブランチを利用すると、ブランチ元のリビジョンの開発を続行しながら、ファイルの別のバリエーションを開発できます。

共有

定義 「共有」により、1 つの共有アーカイブに変更を保存すると同時に、複数の Version Manager プロジェクトから 1 つのファイルにアクセスすることができます。複数の IDE プロジェクトからあるファイルを使用および編集する場合は、アーカイブを共有します。[38 ページの『複数のプロジェクトによるファイルの共有』](#)を参照してください。

ワークスペース

定義 「ワークスペース」は、プロジェクトデータベースに定義された作業設定の集まりです。これには、プロジェクトデータベース内のプロジェクトおよびアーカイブの作業設定も含まれます。[32 ページの『Version Manager のワークスペースについて』](#)を参照してください。

ソース管理の情報

ソース管理下に置いたファイルについては、4 種類の情報を表示させることができます。

ソース管理下のファイルのプロパティの表示

[Properties (プロパティ)] ダイアログボックス [Version Manager Properties (Version Manager プロパティ)] ダイアログボックスを使用すると、アーカイブ、リビジョン、バージョンラベル、およびプロモーショングループの情報を表示できます。[82 ページの『プロパティ』](#)を参照してください。

ソース管理動作の監視

Pulse 同じプロジェクトにログインしているユーザは、「Pulse」を使用することにより、特定のソース管理イベントを監視できます。たとえば、別のユーザによって、新しいファイルが追加されたり、既存のファイルに加えられた変更がチェックインされると、Pulse によって通知されます。ユーザ自身のソース管理動作に関する結果メッセージを表示させることもできます。83 ページの『[Pulse によるソース管理動作の監視](#)』を参照してください。

アーカイブまたはリビジョンに対する動作の履歴の表示

履歴レポート 「履歴レポート」には、アーカイブまたはリビジョン、あるいはその両方に関する情報の概要が記載されます。バージョンラベル、プロモーショングループ、日付、作成者、所有者、およびロック別レポートのリビジョンを選択することができます。88 ページの『[履歴レポートについて](#)』を参照してください。

ファイルまたはリビジョンの比較

相違点レポート 「相違点レポート」により、2 つのファイルを並べて比較し、ファイルへの追加、削除、変更を確認できます。比較の対象は、特定の複数のリビジョン、リビジョンと作業ファイル、および複数の作業ファイルのいずれかです。91 ページの『[相違点レポートについて](#)』を参照してください。

Version Manager 5.3/6.0 プロジェクトでの作業

新規プロジェクトの設定	Version Manager IDE クライアントでは、Version Manager 6.5 以上がサポートされており、プロジェクトデータベース、プロジェクト、およびサブプロジェクトを使用してバージョン管理ファイルを編成し、実際の作業ディレクトリの構造を反映することができます。
新機能	新しいフォーマットの Version Manager プロジェクトでのみ使用可能な機能には、ネストされたプロジェクトのサポートのほかに、プロジェクトアーカイブの共有、プロジェクト全体でのバージョンラベルの割り当てなどがあります。
プロジェクトの変換	これらの機能を使用可能にし、新しい Version Manager 6.5 以降のプロジェクトと互換性を持たせるためには、既存の 5.3/6.0 プロジェクトを新しい Version Manager プロジェクトのフォーマットに変換する必要があります。
5.3/6.0 プロジェクトの取り扱い	Version Manager 5.3/6.0 と Version Manager Source Code Control (SCC) Interface 6.0 の両方がシステムにインストールされている場合は、既存のバージョン 5.3/6.0 プロジェクトで引き続き作業を行うことができます。ただし、1 つの IDE 内で複数プロジェクトを開くには、それらのプロジェクトが同じソース管理プロバイダを使用する必要があります。
詳細情報	445 ページのパート 3、『 5.3/6.0 プロジェクト 』を参照してください。

Version Manager と IDE の統合方式

Version Manager では、IDE との統合規則として、SCC、COM、および Eclipse の 3 つをサポートしています。以下に、各 IDE との統合に使用されている方式を示します。

- ソースコード管理 (SCC)
 - ColdFusion Studio
 - PowerBuilder
 - Rational Rose
 - Visual Age for Java
 - Visual Basic
 - Visual C++
 - VisualCafe
 - Visual InterDev (非 Web プロジェクト)
 - Visual Studio
- COM
 - FrontPage
 - TestDirector
 - Visual InterDev (Web プロジェクト)
- Eclipse
 - Eclipse
 - Rational Application Developer
 - WebSphere Studio Application Developer

上記に加え、Version Manager は、TeamTrack の Issue 管理機能を活用し、次の IDE へのリッチな統合をサポートします。

- Eclipse 3 および Rational Application Developer 6
([129 ページの『Rational Application Developer 6 \(Eclipse 3\) のリッチな統合』](#)を参照してください。)
- Visual Studio .NET 2003 および Visual Studio 2005
([301 ページの『Visual Studio .NET 2003 のリッチな統合』](#)と [353 ページの『Visual Studio 2005 のリッチな統合』](#)を参照してください。)

詳細情報 IDE と併用するための Version Manager の設定方法については、以下を参照してください。

情報	参照トピック
SCC 準拠の IDE との統合に共通の手順	第 2 章、27 ページの『SCC IDE によるソース管理のセットアップ』
COM 準拠の IDE との統合に共通の手順	第 3 章、41 ページの『COM IDE によるソース管理プロジェクトのセットアップ』
IDE ごとの統合手順	93 ページのパート 2、『各 IDE に固有の情報』

第 2 章

SCC IDE によるソース管理のセットアップ

はじめに	28
推奨されるワークフロー	28
ソース管理プロバイダの選択	29
プロジェクトデータベースの作成と設定	32
[Version Manager Options (Version Manager オプション)] ダイアログボックスのデフォルト値の設定	33
ソース管理プロジェクトの作成	36
ソース管理へのファイルの追加	36
複数のプロジェクトによるファイルの共有	38
ソース管理からのファイルの削除について	39

はじめに

- | | |
|-----------|---|
| 内容と目的 | この章では、サポートされている SCC 準拠の各 IDE に共通する Version Manager IDE クライアントの設定について、その概念と手順を説明します。この章は、プロジェクトデータベースやプロジェクトを作成および設定する管理者向けに書かれています。 |
| IDE 固有の情報 | ご使用の IDE に固有の情報については、93 ページのパート 2、『各 IDE に固有の情報』を参照してください。 |

推奨されるワークフロー

ソース管理のプロジェクトデータベースおよびプロジェクトの作成と設定は、プロジェクトリーダーまたは管理者が行うことをお勧めします。これらが確立されると、すべてのユーザがご使用の IDE からソース管理を使用することができます。

管理者

プロジェクトリーダーまたは管理者はまず、以下の作業を行うことをお勧めします。

- 1 既存の Version Manager 5.3/6.0 プロジェクトがある場合、新しい Version Manager プロジェクトフォーマットに変換するタイミングを決定します。プロジェクトの主要段階が完了した時点で変換することをお勧めします。445 ページのパート 3、『5.3/6.0 プロジェクト』を参照してください。
- 2 新しい Version Manager プロジェクトの場合は、ご使用の IDE のプロジェクトに関連付けるソース管理プロジェクトを含む Version Manager プロジェクトデータベースを作成します。プロジェクトデータベースを作成するには、Version Manager デスクトップクライアントを使用します。32 ページの『プロジェクトデータベースの作成と設定』を参照してください。
- 3 IDE のプロジェクトおよびファイルをソース管理に追加します。93 ページのパート 2、『各 IDE に固有の情報』を参照してください。
- 4 Version Manager デスクトップクライアントでソース管理プロジェクトを設定します。これには、セキュリティおよびプロモーショングループの設定が含まれます。プロジェクト設定の詳細については、『Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。

すべてのユーザ

管理者のワークフローが完了したら、すべてのユーザは、以下のソースコード管理作業を行うことができます。

- ユーザ設定を定義します。
- ファイルを取得またはチェックアウトし、編集します。54 ページの『ファイルの取得』または 57 ページの『ファイルのチェックアウト』を参照してください。
- ファイルをチェックインします。チェックインする際に、バージョンラベルおよびバージョン番号をリビジョンに割り当てることができます。60 ページの『ファイルのチェックイン』を参照してください。
- 以下のソース管理情報を表示します。
 - アーカイブおよびリビジョンのプロパティ。82 ページの『プロパティ』を参照してください。

- プロジェクト動作。83 ページの『Pulse によるソース管理動作の監視』を参照してください。
- 履歴レポートおよび相違点レポート。88 ページの『履歴レポートについて』と 91 ページの『相違点レポートについて』を参照してください。

IDE 固有の情報 これらの機能の使用法については、93 ページのパート 2、『各 IDE に固有の情報』を参照してください。

ソース管理プロバイダの選択

システムに複数の Serena IDE クライアントがインストールされている場合、どのクライアントをアクティブにするかを選択することができます。たとえば、Version Manager Source Code Control (SCC) Interface 6.0 がインストールされており、既存のバージョン 5.3/6.0 プロジェクトでこれを引き続き使用する場合は、このインターフェイスをアクティブなソース管理プロバイダにすることができます。



重要！ Version Manager IDE クライアントには 5.3/6.0 プロジェクトとの互換性はありません。ご使用の IDE 内で新しい Version Manager の機能を最大限に利用するには、既存のバージョン 5.3/6.0 のプロジェクトを新しい Version Manager プロジェクトフォーマットに変換する必要があります。詳細は、445 ページのパート 3、『5.3/6.0 プロジェクト』を参照してください。

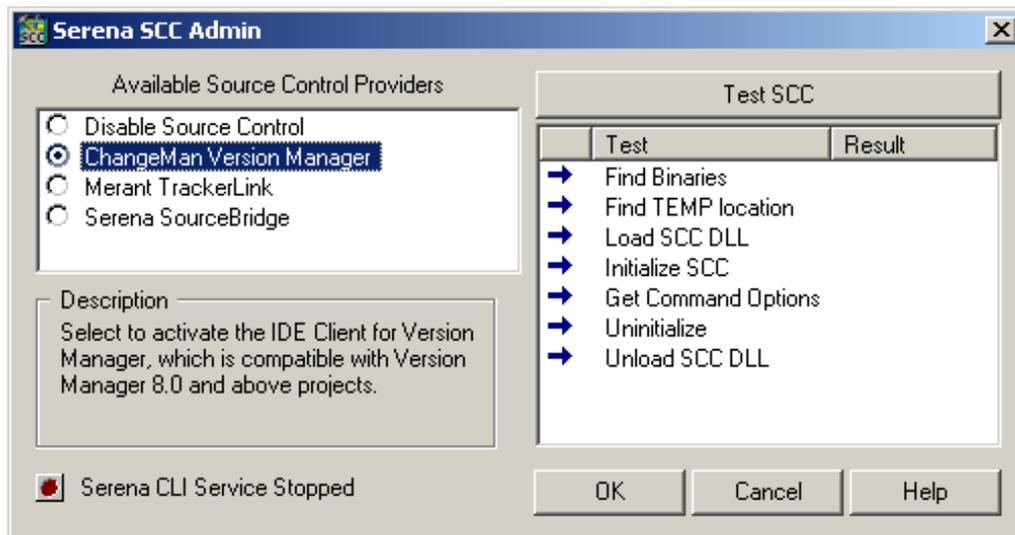
デフォルトでは、Version Manager IDE クライアントが、インストール時にアクティブなソース管理プロバイダになります。

SCC プロバイダの選択

プロバイダを選択するには、次の手順を実行します。

- 1 Serena IDE クライアントで使用するアプリケーションをすべて終了します。

- 2 [Start (スタート)] メニューから [Program (プログラム)] – [Serena] – [ChangeMan Version Manager] – [Version Manager IDE Client (Version Manager IDE クライアント)] – [Version Manager SCC Admin] を選択します。Serena SCC Admin ツールが表示されます。



使用可能な Serena ソース管理プロバイダは、〈Available Source Control Providers (使用可能なソース管理プロバイダ)〉の下に表示されています。選択したプロバイダに関する情報は、〈Description (コメント)〉フィールドに表示されます。

- 3 リストから、アクティブにするプロバイダを選択します。

作業するプロジェクトのフォーマット	選択するソース管理プロバイダ
Version Manager 8.0 以降	ChangeMan Version Manager (Merant Version Manager)
Version Manager 6.5 ~ 7.5	PVCS Source Control
Version Manager 5.3/6.0	PVCS Version Manager
Dimensions 6 以降	Serena Dimensions (Merant Dimensions)



注 システムに TeamTrack SourceBridge または Tracker Trackerlink がインストールされている場合は、これが使用可能なソース管理プロバイダとして表示されます。これを選択すると、これで動作するように設定したソース管理プロバイダがアクティブになります。詳細は、TeamTrack/Tracker のマニュアルを参照してください。

- 4 【OK】をクリックします。

IDE の再起動

選択したプロバイダは、次回 IDE の起動時にアクティブになります。ソース管理プロバイダを変更するたびに、IDE を再起動して、変更を有効にする必要があります。



注 【Serena CLI Service (Serena CLI サービス)】 ボタンの詳細については、[31 ページの『PVCSCLIServ サービスの停止』](#)を参照してください。

SCC プロバイダのテスト

現在アクティブなプロバイダをテストして正常に起動することを確認できます。

SCC プロバイダをテストするには、次の操作を行います。

- 1 Serena IDE クライアントで使用するアプリケーションをすべて終了します。
- 2 [Start (スタート)] メニューから [Program (プログラム)] – [Serena] – [ChangeMan Version Manager] – [Version Manager IDE Client (Version Manager IDE クライアント)] – [Version Manager SCC Admin] を選択します。Serena SCC Admin ツールが表示されます。



重要! テストする SCC プロバイダが現在アクティブなプロバイダでない場合は、[29 ページの『SCC プロバイダの選択』](#)の手順を実行して、Serena SCC Admin ツールを終了してから、この手順に戻ります。

- 3 【Test SCC (SCC テスト)】をクリックします。
- 4 以下のいずれかの結果となります。
 - Success (正常終了) : SCC プロバイダのダイアログボックスが表示されます。ダイアログボックスを閉じます。〈Test (テスト)〉列では、各項目の隣に SCC が正常に起動したことを示す緑のチェックマークが表示されます。
 - Failure (失敗) : 〈Test (テスト)〉列では、失敗した手順の隣に赤のチェックマークが表示されます。



注 問題が発生して技術サポートに連絡した場合に、この情報が必要になる場合があります。

PVCSCCLIServ サービスの停止

使用している IDE で Version Manager と同じ JVM を使用している場合、PVCSCCLIServ サービスが起動されます。これによって、各 JVM が個別のプロセス空間で実行されることとなります。このサービスをいったん起動すると、再起動するか、手動でアンロードするまで継続して実行されます。

PVCSCCLIServ サービスを停止するには

- 1 [Start (スタート)] メニューから [Program (プログラム)] – [Serena] – [ChangeMan Version Manager] – [Version Manager IDE Client (Version Manager IDE クライアント)] – [Version Manager SCC Admin] を選択します。Serena SCC Admin ツールが表示されます。
- 2  赤い丸の付いているボタンをクリックします。茶色の丸の場合は、このサービスは実行中ではありません。
- 3 サービスを停止するかどうかを確認するメッセージが表示されます。【Yes (はい)】をクリックします。

プロジェクトデータベースの作成と設定

プロジェクトデータベースについて	Version Manager のプロジェクトデータベースは、プロジェクト、サブプロジェクト、およびバージョン管理ファイルの階層的な集まりです。プロジェクトデータベースでは、そこに含まれるプロジェクトおよびサブプロジェクトすべてに共通の設定を定義します。
デフォルトプロジェクトデータベース	Version Manager IDE クライアントをインストールするときに、ソース管理プロジェクト用にデフォルトのプロジェクトデータベースを作成することができます。デフォルトでは、このデータベースは <インストール ディレクトリ>\serena\vm\common\vmdevint に作成されます。このデータベースをソース管理プロジェクトで使用するように設定するか、Version Manager デスクトップクライアントを使用して別のデータベースを作成して設定することができます。
コンフィグレーションオプション	Version Manager デスクトップクライアントから、プロジェクトに対するセキュリティ、プロモーションモデル、およびバージョンラベルを設定できます。また、デフォルトバージョン、デフォルトプロモーショングループ、ブランチバージョン、ベースブランチなどのワークスペース設定も定義できます。
詳細情報	プロジェクトデータベースとプロジェクトのプランニング、作成、および設定については、『Serena ChangeMan Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。

Version Manager のワークスペースについて

定義 Version Manager のワークスペースとは、プロジェクトデータベース内のすべてのプロジェクトとアーカイブが含まれている、プロジェクトデータベースごとに定義された作業設定の集合です。Version Manager IDE クライアントのプロジェクトでは、デフォルトバージョン、デフォルトプロモーショングループ、ブランチバージョン、およびベースブランチを設定できます。



注 既存プロジェクトの作業ファイルの場所を無効にして、ワークスペースの設定を使用することはできません。IDE のプロジェクトで、Version Manager デスクトップクライアントまたはプロジェクトコマンドラインインターフェイスを使用する場合は、ワークスペースが既存の作業ファイルディレクトリを参照するよう設定します。こうすると、ファイルがつねに、正しい場所にチェックアウトされるようになります。

パブリックワークスペース、プライベートワークスペース、およびルートワークスペース
 「パブリック」と「プライベート」の両方のワークスペースを定義することができます。「ルート」ワークスペースは、デフォルトのパブリックワークスペースです。ルートワークスペースは、プライベートワークスペースが定義されていないユーザのアクティブなワークスペースです。

チーム環境のワークスペース
 プライベートワークスペースは、通常は個々のプロジェクトチームメンバーによって作成され、ほかのチームメンバーに影響を与えることなく、プロジェクトの作業設定をカスタマイズできます。Version Manager のプロジェクトにユーザがログインする際に、特定のワークスペースの設定を有効にするには、そのワークスペースをユーザのデフォルトワークスペースにする必要があります。デフォルトの個人用ワークスペースが設定されていない場合は、ルートワークスペースで定義されている作業設定が有効になります。



重要! 新しいワークスペース設定を有効にするには、IDE を終了して、再起動する必要があります。

詳細情報 『Version Manager ユーザガイド』を参照してください。

Version Manager デスクトップクライアントの起動

プロジェクトの設定 Version Manager のプロジェクトを設定するには、IDE 内から Version Manager デスクトップクライアントを起動します。

Version Manager デスクトップクライアントを起動するには、次の操作を行います。

- 1 〔Version Manager Options (Version Manager オプション)〕 ダイアログボックスを開きます (IDE ごとのメニューコマンドについては、[93 ページのパート 2](#)、『[各 IDE に固有の情報](#)』を参照してください)。
- 2 〔General (全般)〕 タブを選択します。
- 3 〈Launch (起動)〉グループで、【Version Manager】をクリックします。

詳細情報 『Serena ChangeMan Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。

〔Version Manager Options (Version Manager オプション)〕 ダイアログボックスのデフォルト値の設定

時間を節約し、作業効率を高めるために、Version Manager IDE クライアントでは、通常使用する値をあらかじめ設定しておくことができます。ここでは、以下のデフォルト値の設定方法を説明します。

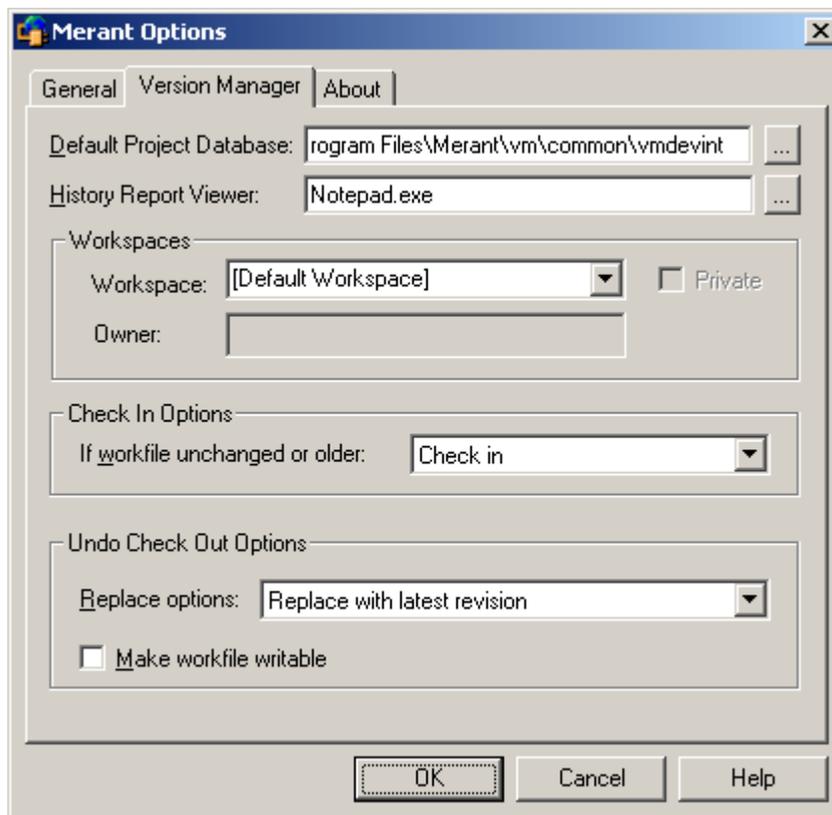
- チェックインの際、およびチェックアウトの取り消しの際の動作
- 履歴レポートの表示に使用されるプログラム
- 使用する Version Manager ワークスペース
- バージョンラベルの割り当てなどの操作の際に開かれる Version Manager のプロジェクトデータベース

設定の対象 ここで説明する設定は、プロジェクトごとに行うものではありません。これらの設定に対する変更は、使用している作業環境全体にわたって有効で、どのプロジェクトを開いても同じ設定が適用されます。

デフォルトの設定

デフォルト値を設定するには、次の操作を行います。

- 1 [Version Manager Options (Version Manager オプション)] ダイアログボックスを開きます (IDE ごとのメニューコマンドについては、93 ページのパート 2、『各 IDE に固有の情報』を参照してください)。



- 2 [Version Manager] タブで、以下のいずれかを行います。

デフォルトの
プロジェクト
データベース

- ソース管理へのプロジェクトの追加、ソース管理からのプロジェクトの取得、およびバージョンラベルの割り当てや変更を行うたびに、デフォルトで表示されるプロジェクトデータベースを指定するには、〈Default Project Database (デフォルトプロジェクトデータベース)〉テキストボックスに、そのプロジェクトデータベースの名前とパスを入力するか、【Browse (参照)】 ボタンをクリックして表示されるダイアログボックスから選択します。この選択肢は、操作中にいつでも上書きできます。

履歴レポートの
ビューア

- 履歴レポートの表示に使用するビューアを指定するには、〈History Report Viewer (履歴レポートのビューア)〉テキストボックスに、その実行ファイルの名前とパスを入力するか、【Browse (参照)】 ボタンをクリックして表示されるダイアログボックスから選択します。ここでビューアが指定されていない場合は、Windows のデフォルトのテキストファイルビューアが使用されます。

ワークスペース

- 使用する Version Manager ワークスペースを指定します。選択した Version Manager ワークスペースに関係なく、実際の作業ファイルの場所は IDE によって管理されますが、ワークスペースに定義されている次の値が有効になります。
 - Default Version (デフォルトバージョン)：リビジョン番号やバージョンラベルを指定しない場合に、Version Manager の操作対象 (チェックアウトなど) となるリビジョンです。たとえば、デフォルトバージョンをブランチ上の特定の浮動ラベルに設定できます。

- Base Version (ベースバージョン) : 自動ブランチを容易にするために使用されます。
- Branch Version (ブランチバージョン) : 自動ブランチを容易にするために使用されます。
- Default Promotion Group (デフォルトプロモーショングループ) : 有効なプロモーションモデルの最下位のプロモーショングループです。

〈Workspace (ワークスペース)〉 フィールドでは、次の操作を実行できます。

- Version Manager で定義されている 〈Default Workspace (デフォルトワークスペース)〉 を選択します。
- Version Manager で定義されている 〈Root Workspace (ルートワークスペース)〉 を選択します。
- Version Manager で定義されているワークスペースを入力するか、選択します。最新の 5 つのワークスペースがリストに保持されます。

ネストされたワークスペースを入力するには、次のように入力します。
ParentWorkspace/ChildWorkspace.

プライベートワークスペースを入力するには、〈Private (プライベート)〉 チェックボックスを選択し、ワークスペースの所有者のユーザ ID を 〈Owner (所有者)〉 フィールドに入力します。



注 プライベートワークスペースがパブリックワークスペースの下にネストされている場合、IDE クライアントからはプライベートワークスペースを使用できません。

ワークスペースの使用と定義については、『Serena ChangeMan Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。

チェックイン オプション

- チェックアウト時から変更されていない作業ファイルや、チェックアウト元のリビジョンより前の日付の作業ファイルをチェックインしようとした場合のデフォルト動作を指定するには、〈Check In Options (チェックインオプション)〉 グループの 〈If workfile unchanged or older (変更がないか、リビジョンより古い場合)〉 ドロップダウンリストから、次のいずれかを選択します。
 - 〈Prompt (確認する)〉 を選択すると、実行する操作を尋ねるメッセージが表示されます。
 - 〈Check in (チェックインする)〉 (デフォルト値) を選択すると、変更されていない場合でも作業ファイルがチェックインされます。
 - 〈Don't check in (チェックインしない)〉 を選択すると、作業ファイルはチェックインされません。



重要! Visual Basic ユーザは、〈Check in (チェックインする)〉 というデフォルトの設定を変更しないでください。229 ページの『Visual Basic のファイルについて』を参照してください。

チェックアウトの 取り消しオプション

- チェックアウトを取り消した場合の作業ファイルに対するデフォルト動作を指定するには、〈Undo Check Out Options (チェックアウトの取り消しオプション)〉 グループの 〈Replace options (置換オプション)〉 ドロップダウンリストから、次のいずれかを選択します。
 - 〈Replace with latest revision (最新リビジョンで置換)〉 (デフォルト値) を選択すると、作業ファイルがチップリビジョンで置き換えられます。
 - 〈Replace with original (元のリビジョンで置換)〉 を選択すると、作業ファイルがチェックアウトされたリビジョンで置き換えられます。

- 〈Leave alone (置換しない)〉を選択すると、作業ファイルに対して何も処理が行われません。
 - チェックアウトの取り消しの際に、デフォルトで作業ファイルを書き込み可能にするには、〈Make workfile writable (作業ファイルを書き込み可能にする)〉チェックボックスを選択します。このチェックボックスは、上記の〈Replace options (置換オプション)〉ドロップダウンリストで、〈Replace with latest revision (最新リビジョンで置換)〉または〈Replace with original (元のリビジョンで置換)〉を選択した場合にのみ、選択可能となります。
- 3 【OK】をクリックします。

ソース管理プロジェクトの作成

IDE のプロジェクトを作成して保存したら、既存の Version Manager のプロジェクトデータベースに追加できます。デフォルトでは、IDE プロジェクトをソース管理に追加すると、新しい Version Manager プロジェクトが作成されます。

IDE 固有の情報 各 IDE に固有の情報については、93 ページのパート 2、『各 IDE に固有の情報』を参照してください。

ソース管理へのファイルの追加

デフォルトでは、ソース管理にファイルを追加すると、以下の処理が行われます。

- IDE プロジェクトのルート作業ディレクトリ内のネストされたサブディレクトリにプロジェクトファイルがある場合は、Version Manager によって、IDE プロジェクトのワークスペースを反映する、ネストされたサブプロジェクトが作成されます。
- 追加されるファイルごとに Version Manager のプロジェクトディレクトリにアーカイブが作成されます。デフォルトでは、各アーカイブの名前は、元の作業ファイルの名前に「-arc」という接尾辞を付けたものになります。プロジェクトデータベースまたはプロジェクト設定で、これ以外の接尾辞を定義することもできます。
- 各アーカイブに対して、初期リビジョンがチェックインされますが、初期リビジョンにはバージョンラベルが割り当てられません。

IDE 固有の情報 各 IDE に固有の情報については、93 ページのパート 2、『各 IDE に固有の情報』を参照してください。

詳細設定のオプション ご使用の IDE で、さらに詳しいコンフィグレーションオプションが使用可能な場合は、初期のリビジョンにプロモーショングループやバージョンラベルを割り当てることができます。

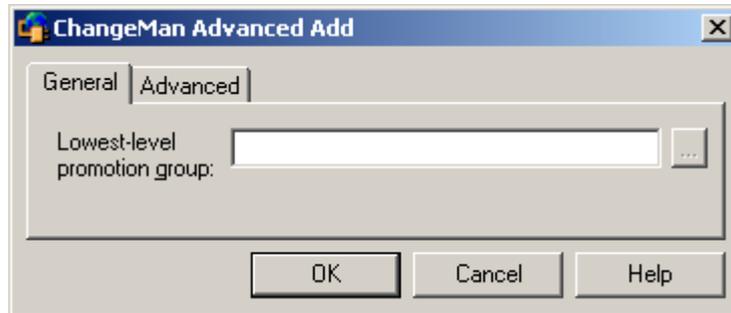
ソース管理から削除したファイルの追加

ソース管理から削除したファイルを再度ソース管理に追加すると、以下のいずれかになります。

- 元のアーカイブがプロジェクトのアーカイブディレクトリに存在する場合は、既存のアーカイブに新規リビジョンとしてファイルをチェックインするようメッセージが表示されます。
- アーカイブがプロジェクトのアーカイブディレクトリから移動または削除されている場合は、新規アーカイブが作成され、ファイルは初期リビジョンとしてチェックインされます。

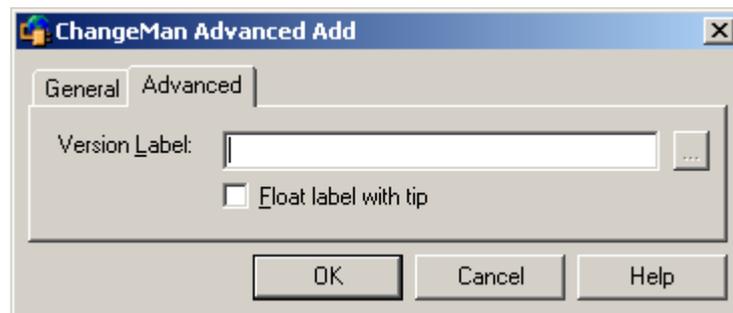
追加の詳細設定

ソース管理にファイルを追加するときに、IDE により表示されるダイアログボックスで【Advanced (詳細)】をクリックすると、[ChangeMan Advanced Add (追加の詳細設定)] ダイアログボックスが表示されます。



追加の詳細オプションを設定するには、次の操作を行います。

- [General (全般)] タブのオプション
- 1 プロモーションモデルが定義されたプロジェクトデータベースまたはプロジェクトにファイルを追加している場合は、〈Lowest-level promotion group (最下位レベルのプロモーショングループ)〉フィールドに最下位レベルのプロモーショングループを入力するか、【Browse (参照)】をクリックして選択することによって、プロモーショングループを初期のリビジョンに割り当てることができます (プロモーションモデルを定義するには、Version Manager デスクトップクライアントを使用します)。
- [Advanced (詳細)] タブのオプション
- 2 [Advanced (詳細)] タブで、以下の操作を行います。



- 初期のリビジョンにバージョンラベルを割り当てるには、〈Version Label (バージョンラベル)〉フィールドにバージョンラベルを入力するか、【Browse (参照)】ボタンをクリックしてバージョンラベルを選択します。
 - アーカイブの最新リビジョンに割り当てられたバージョンラベルを保持するには、〈Float label with tip (浮動ラベル)〉チェックボックスを選択します。
- 3 【OK】をクリックします。
 - 4 ファイルを追加するためのダイアログボックスが再度表示される場合は、【OK】をクリックします。
プロジェクトに対して指定されたアーカイブディレクトリにアーカイブが作成され、選択したファイルがソース管理に追加されます。

共有ファイル アーカイブを複数の Version Manager プロジェクトで共有する場合は、次のセクションを参照してください。

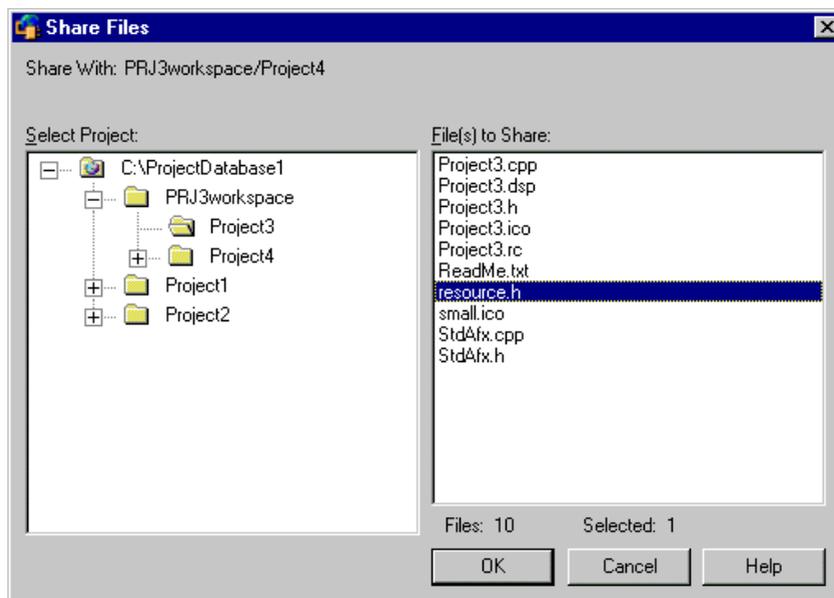
複数のプロジェクトによるファイルの共有

- 共有する理由** 複数の開発プロジェクトで、同じファイルにアクセスして編集しなければならない場合があります。これを行うには、Version Manager プロジェクトデータベース内の複数のプロジェクトで、1 つの Version Manager のアーカイブを共有します。
- 共有の仕組み** アーカイブを共有すると、チップリビジョンが作業ディレクトリにコピーされます。その後、このファイルをほかのファイルと同様にチェックアウト、変更、およびチェックインすることができます。アーカイブは、物理的にコピーされるわけではありませんが、ファイルへの変更は共有アーカイブに保存されます。
- 注** 異なるプロジェクトデータベースに含まれる複数のプロジェクト間でファイルを共有することはできません。複数のプロジェクトでファイルを共有するには、それらのプロジェクトが現在開かれているプロジェクトデータベースに含まれている必要があります。

ファイルの共有

アーカイブを共有するには、次の操作を行います。

- 1 [Share Files (ファイルの共有)] ダイアログボックスを開きます (IDE ごとのメニューコマンドについては、93 ページのパート 2、『各 IDE に固有の情報』を参照してください)。



[Share Files (ファイルの共有)] ダイアログボックスには、現在の Version Manager プロジェクトが表示されます。

- 2 <Select Project (プロジェクトの選択)> フィールドで、共有するファイルを含むプロジェクトを選択します。プロジェクトデータベースツリーを展開するには、「+」記号をクリックします。<File(s) to Share (共有するファイル)> リストボックスには、選択したプロジェクトのファイルがすべて表示されます。
- 3 <File(s) to Share (共有するファイル)> で、アクセスするアーカイブのファイルを選択します。
- 4 【OK】をクリックします。各ファイルの最新リビジョンが、プロジェクトの作業ディレクトリにコピーされます。

ソース管理からのファイルの削除について

ソース管理からファイルを削除しても、作業ファイルや Version Manager アーカイブは削除されません。IDE プロジェクトには変更はありません。

IDE 固有の情報 IDE ごとのメニューコマンドについては、[93 ページのパート 2](#)、『[各 IDE に固有の情報](#)』を参照してください。

ソース管理に
ファイルを戻す ソース管理にファイルを戻す方法の詳細は、[36 ページ](#)の『[ソース管理から削除したファイルの追加](#)』を参照してください。

第 3 章

COM IDE によるソース管理プロジェクトの セットアップ

はじめに	42
Web ベースのプロジェクトについて	42
推奨されるワークフロー	42
サポートされる Web サーバの設定	43
Web サーバのセキュリティの設定	43
ソース管理のデフォルト値の設定	45
ソース管理への Web プロジェクトの追加	48
ソース管理からの Web プロジェクトの削除	49
ソース管理への Web ファイルの復元	49
以前のリビジョンのチェックアウト	49

はじめに

- 内容と目的 この章では、サポートされている COM 準拠の各 IDE に共通の、Version Manager IDE クライアントの設定について説明します。この章は、プロジェクトデータベースや Web ベースのプロジェクトを作成する管理者向けに書かれています。
- IDE 固有の情報 ご使用の IDE に固有の情報については、93 ページのパート 2、『各 IDE に固有の情報』を参照してください。

Web ベースのプロジェクトについて

一般的な Web 開発プロジェクトでは、Web アプリケーションファイルは Web サーバに格納されません。開発者はローカルにインストールされた Microsoft FrontPage などの開発環境からファイルにアクセスして編集します。

ソース管理システムがインストールされている場合、サーバ上のファイルをチェックアウト、編集、および更新できるのは、一度に 1 人の開発者だけです。これによって、複数のユーザによって同じファイルの競合するバージョンが作成されないようにして、各ファイルの変更を簡単に追跡できるようにしています。

ソース管理によって、開発チームによるファイルの変更管理とその追跡がどのように容易になるかについては、第 1 章、21 ページの『Version Manager ソース管理の概要』を参照してください。

推奨されるワークフロー

- 管理者 **プロジェクトリーダーまたは管理者はまず、以下の作業を行うことをお勧めします。**
- 1 以下を Web サーバにインストールします。
 - FrontPage Server Extensions
 - Version Manager
 - Version Manager IDE クライアント

Version Manager IDE クライアントを Web 開発環境にインストールする方法については、『Serena PVCS Version Manager インストールガイド』を参照してください。
 - 2 Web サーバのセキュリティを設定します。43 ページの『Web サーバのセキュリティの設定』を参照してください。
 - 3 新しいソース管理プロジェクト用にデフォルト値を設定します。45 ページの『ソース管理のデフォルト値の設定』を参照してください。
 - 4 IDE のプロジェクトをソース管理に追加します。48 ページの『ソース管理への Web プロジェクトの追加』を参照してください。
- すべてのユーザ **管理者のワークフローが完了したら、すべてのユーザは、以下のソースコード管理作業を行うことができます。**
- ファイルをチェックアウトします。IDE 固有の情報については、93 ページのパート 2、『各 IDE に固有の情報』を参照してください。

- ファイルを編集します。
- ファイルをチェックインします。IDE 固有の情報については、93 ページのパート 2、『各 IDE に固有の情報』を参照してください。



重要! ソース管理を導入する前に、Version Manager、FrontPage Server Extensions、および Version Manager IDE クライアントが Web サーバに適切にインストールされていることを確認してください。

サポートされる Web サーバの設定

Version Manager IDE クライアントは、以下の Web サーバと互換性があります。

Web サーバ	オペレーティングシステム
Internet Information Services 6	Windows 2003 Server
Internet Information Services 5	Windows 2000 Server

Web サーバのセキュリティの設定

Version Manager IDE クライアントでは、Web サーバとの間のアクセスは Windows のセキュリティに従って制御されます。Windows のセキュリティでは、すべての操作に割り当て済みのユーザアカウントを必要とします。

また、FrontPage ユーザ権限を使用して FrontPage がインストールされたサーバ上の Web へのアクセスを管理することができます。

Windows のセキュリティ

Version Manager IDE クライアントは Windows のセキュリティと完全な互換性がありますが、次のオプションを使用するよう推奨します。

- ディレクトリ権限
- 認証

Windows ディレクトリ権限

Windows のセキュリティによるアクセスの制限

Web サーバで定義されている Windows ユーザ権限によって、サーバ上のファイルやディレクトリへの各ユーザのアクセスレベルが判別されます。Web サーバに対する FrontPage クライアントからのすべての HTTP リクエストは、Web サーバ上のユーザアカウントによって実行されます。Web サーバのユーザアカウントに付与された権限によって HTTP リクエスト時に実行できる操作が決まります。

開発者が Web サーバ上のプロジェクトファイルにアクセスしたり、作成したり、変更したりできるようにするには、次の手順を完了する必要があります。

- 1 Web サーバに各開発者用のユーザアカウントを作成します。

- 2 以下のいずれかを実行します。
 - 各ユーザアカウントを〈Administrator (管理者)〉ユーザグループに追加します。
 - 新規のユーザグループを作成し、各ユーザアカウントを新しいグループに追加します。
- 3 ユーザアカウントを割り当てた各グループに次のディレクトリの全アクセス権限を付与します。
 - Version Manager プロジェクトデータベースディレクトリとすべてのサブディレクトリ
 - すべての FrontPage Web プロジェクトディレクトリとサブディレクトリ
 - \System32 ディレクトリとすべてのサブディレクトリ
 - システムの \TEMP ディレクトリ

Windows のセキュリティとの統合方法は Web サーバの設定ごとに異なる場合があります。たとえば、IIS では要求があると Windows ユーザアカウント (ユーザ名とパスワード) を確認してから、そのアカウントとして要求を処理します。ユーザが存在しない場合、またはユーザが間違っパスワードを入力した場合には、ユーザに対して正しいユーザ ID とパスワードの入力を求めるメッセージが表示されます。

ユーザアカウントの作成、グループへのユーザの追加、およびディレクトリの定義権限についての詳細は、Windows のマニュアルを参照してください。

Windows の認証

ユーザ名と
パスワードの暗号化

Windows の認証では、ユーザ名とパスワードが自動的に暗号化されます。実際のユーザ名とパスワードはネットワーク上では送信されません。これらは複数のトランザクションに暗号化され、クライアントとサーバ間のトラフィックを監視しようとする「ハッカー」に対して堅固なセキュリティを実現します。

FrontPage ユーザの権限

FrontPage では、FrontPage に対応した IIS サーバおよびピア Web サーバ上の Windows ユーザグループに割り当てることができる、3 種類のユーザが定義されています。

ユーザタイプ	割り当てられる権限
管理者	管理、編集、閲覧
作成者	編集、閲覧
ビジタ (エンドユーザ)	閲覧

ユーザ権限の設定時には、ユーザ権限が Web サイト単位で定義されることに留意してください。ファイル単位またはディレクトリ単位では権限を制御できません。

すべての FrontPage サブ Web は、ルート Web の権限を継承するか、個別に割り当てられた独自の権限を持ちます。

ソース管理のデフォルト値の設定

前提条件 使用している Web サーバに Version Manager、FrontPage Server Extensions、および Version Manager IDE クライアントをインストールした後は、Version Manager プロジェクトのセットアップを開始できます。Version Manager IDE クライアントのインストールの詳細については、『Version Manager インストールガイド』を参照してください。



重要！

- Version Manager プロジェクトをセットアップする前に、デフォルトプロジェクトデータベースを指定する必要があります。Version Manager IDE クライアントのインストール時にデフォルトプロジェクトデータベースを選択します。詳細については、『Serena PVCS Version Manager インストールガイド』を参照してください。
- 途中で新しいデフォルトプロジェクトデータベースを指定した場合は、COM サーバアプリケーションを再起動する必要があります。

マスターコンフィグレーションファイル

Version Manager では、作成した各プロジェクトデータベース用に、マスターコンフィグレーションファイルが自動的に作成されます。このファイルによってプロジェクトデータベースの設定およびデータベース内のすべてのプロジェクトが管理されます。

デフォルトプロジェクトデータベース内に作成される各プロジェクトは、マスターコンフィグレーションファイルの設定を継承します。新しいプロジェクトを作成する前に、これらのデフォルトコンフィグレーションオプションの変更が必要になる場合があります。Version Manager デスクトップクライアントからこの設定を変更することができます。

デフォルトプロジェクトデータベースを設定すると、プロジェクトをソース管理に追加できるようになります。

詳細情報 『Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。

デフォルトプロジェクト設定の編集

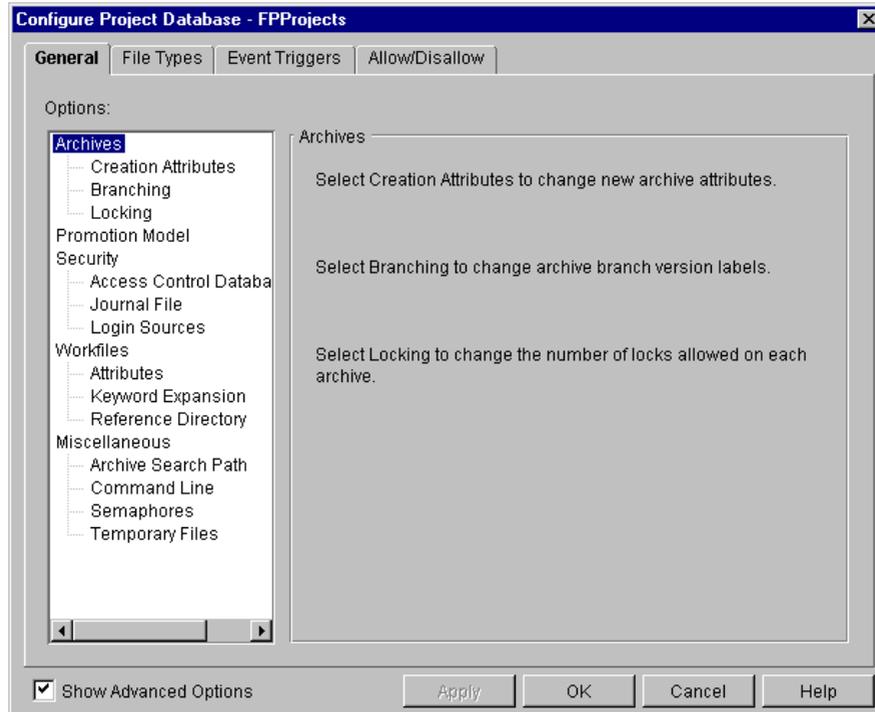
新規 Version Manager プロジェクトのデフォルト設定を編集するには、デフォルトのプロジェクトデータベースのマスターコンフィグレーションファイルを編集する必要があります。デフォルトプロジェクトデータベース内の新規プロジェクトはマスターコンフィグレーションファイルのすべての設定を継承します。



重要！

- Web プロジェクトに関連付けられた Version Manager プロジェクトは、Windows のセキュリティに依拠しています。Web プロジェクトには、アクセスコントロールデータベースを設定しないでください。43 ページの『Web サーバのセキュリティの設定』を参照してください。
- Web プロジェクトにはプロモーションモデルを設定しないでください。プロモーショングループは、Web 開発環境で使用される Version Manager プロジェクトではサポートされません。
- Web プロジェクトを適切に処理するために、Version Manager プロジェクトはデフォルトワークスペース設定に依拠しています。デフォルトワークスペース設定を変更しないでください。

プロジェクトデータベースの設定 マスターコンフィグレーションファイルを編集するには、Version Manager デスクトップクライアントでデフォルトプロジェクトデータベースを選択した後、[Admin (管理)] – [Configure Project (詳細設定)] を選択します。[Configure Project Database (プロジェクトデータベースの設定)] ダイアログボックスが表示されます。



設定の保護 [Configure Project Database (プロジェクトデータベースの詳細設定)] ダイアログボックスで設定したすべてのオプションは、マスターコンフィグレーションファイルに格納されます。この設定がプロジェクトコンフィグレーションファイルでリセットされないようにするには、[Allow/Disallow (許可 / 禁止)] タブで禁止にします。マスターコンフィグレーションファイルのオプションを禁止にすると、Version Manager をマスターコンフィグレーションファイルの設定に基づいて動作させることができます。

必須設定 Web 環境でプロジェクトを使用するときに適切に設定する必要がある、主なプロジェクト設定としては次の 2 つがあります。

- デルタファイル
- キーワード展開

デルタファイル

デルタファイルには、ある作業ファイルとその 1 つ前の作業ファイルとの間に行われた変更が記録されています。デルタだけを格納するか、作業ファイル全体を格納するかを選択できます。

デフォルトでは、一部のテキストファイルはデルタとして格納されます。このオプションは、[Configure Project Database (プロジェクトデータベースの詳細設定)] ダイアログボックスの [File Types (ファイルタイプ)] タブで変更できます。



重要！バイナリファイルについての考慮事項

- ファイル全体を格納すると、アーカイブは大きくなりますが、大きなバイナリファイルを操作する場合は実行効率が向上します。
- デフォルトでは、プロジェクトデータベースにはバイナリファイルのリビジョンのデルタは格納されません。

キーワード展開

キーワードは作業ファイルに埋め込まれる特別な文字列です。ソースコードでは、通常、キーワードをコメントに記述したり、初期化文字列の宣言に記述したりします。

デフォルトでは、一部のテキストファイルでキーワードが展開されます。このオプションは、[Configure Project Database (プロジェクトデータベースの詳細設定)] ダイアログボックスの [File Types (ファイルタイプ)] タブで変更できます。



重要！バイナリファイルについての考慮事項

- バイナリファイルでは、キーワードを展開しないでください。
- デフォルトでは、バイナリファイルではキーワードは展開されません。
- キーワード展開のデフォルト設定がプロジェクトコンフィギュレーションファイルでリセットされないようにするには、[Configure Project Database (プロジェクトデータベースの詳細設定)] ダイアログボックスの [Allow/Disallow (許可 / 禁止)] タブで禁止にします。

外部ソース管理を使用可能にする

COM プロジェクトをソース管理に追加するには、Web サーバで外部ソース管理を使用するように設定する必要があります。



重要！ Windows ユーザアカウントには、コンピュータの管理コンソールとインターネットインフォメーションサービスを起動する権限が必要です。

外部ソース管理を使用可能にするには、次の操作を行います。

- 1 Web サーバから、コンピュータの管理コンソールまたはインターネットインフォメーションサービスを起動します。
- 2 デフォルトの Web サイトを右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- 3 [Properties (プロパティ)] を選択します。[Properties (プロパティ)] ダイアログボックスが表示されます。
- 4 [Server Extensions (サーバ拡張)] タブを選択します。

- 5 〈Version control (バージョン管理)〉 リストボックスから 〈Use external (外部を使用)〉 を選択します。



注 〈Use external (外部を使用)〉 がリストに表示されない場合は、Version Manager Development Interface がサーバに正しくインストールされていません。再インストールしてください。

- 6 【OK】 をクリックします。〔Source Control Project (ソース管理プロジェクト)〕 ダイアログボックスが表示されます。
- 7 【OK】 をクリックします。

ソース管理への Web プロジェクトの追加

前提条件 新規 Version Manager プロジェクトにデフォルトを設定した後は、Web プロジェクトをソース管理下に置くことができます。

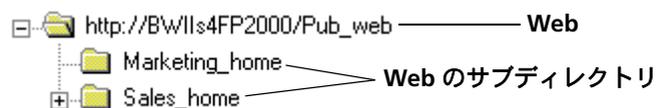


重要! Version Manager デスクトップクライアントを使用して、ファイルを Web ベースのプロジェクトに追加しないでください。Version Manager IDE クライアントからのみファイルを追加してください。

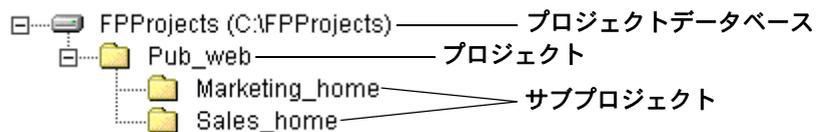
ネストされたプロジェクト構造

Web プロジェクトをソース管理下に置くと、Version Manager はデフォルトプロジェクトデータベース内に新規ソース管理プロジェクトを自動的に作成します。この新規ソース管理プロジェクトは Web プロジェクトの構造によく似ています。Web プロジェクトにサブディレクトリが含まれる場合、このサブディレクトリはサブプロジェクトとして Version Manager に表示されます。

例 たとえば、次の図では、Web プロジェクトの Pub_web には、Marketing_home と Sales_home という 2 つのサブディレクトリがあります。



Pub_web をソース管理下に置くと、Version Manager プロジェクト構造は Version Manager デスクトップクライアントに次のように表示されます。



IDE 固有の情報 ご使用の IDE に固有の情報については、93 ページの [パート 2](#)、『[各 IDE に固有の情報](#)』を参照してください。

ソース管理からの Web プロジェクトの削除

ソース管理からプロジェクトを削除しても、ソース管理アーカイブは削除されません。Version Manager プロジェクトとの関連付けが削除されるだけです。この後、いつでもプロジェクトを追加してソース管理に戻すことができます。



重要！ Web プロジェクトをソース管理に再度追加しても、対応する Version Manager アーカイブにファイルは再度追加されません。代わりに、ランダムな名前が付けられた新しいアーカイブが既存のプロジェクトアーカイブディレクトリに作成されます。次のセクションを参照してください。

IDE 固有の情報

ご使用の IDE に固有の情報については、[93 ページのパート 2](#)、『[各 IDE に固有の情報](#)』を参照してください。

ソース管理への Web ファイルの復元

IDE プロジェクトファイルのソース管理ステータスが消失した場合は、次の手順を実行して、ファイルを正常にソース管理に復元する必要があります。

- 1 ファイルがまだ IDE プロジェクトに残っている場合には、次の操作を行います。
 - a プロジェクトに一時フォルダを作成して、ファイルを新しいフォルダにコピーします。ファイルのコピーがソース管理に追加されます。
 - b 元のファイルを IDE プロジェクトから削除します。
- 2 Version Manager デスクトップクライアントで Version Manager の関連プロジェクトを開きます。ファイルがソース管理プロジェクトに残っている場合、このファイルを削除します。
- 3 IDE で、一時的な場所から元の場所にファイルを追加するか、コピーして戻します。これでファイルがソース管理に復元され、新しいアーカイブが作成されます。
- 4 一時フォルダと手順 1 で作成したファイルのコピーを Web プロジェクトから削除します。

以前のリビジョンのチェックアウト

Visual InterDev と FrontPage では、ファイルの最新（チップ）リビジョンのみをチェックアウトできるようになっています。ただし、Version Manager デスクトップクライアントを使用して以前のリビジョンを取得してから、チップリビジョンとして再びチェックインすると、IDE 内から以前のリビジョンをチェックアウトできるようになります。

以前のリビジョンのチェックアウトは、次の 3 段階で行います。

- 1 リビジョンの取得
- 2 チップリビジョンのロック

3 再度チップとしてリビジョンをチェックイン



注

- 以前のリビジョンを取得する前に、変更する作業ファイルがチェックインされていることを確認します。
- 所属する組織でのセキュリティの設定によっては、この作業の実行を Web 管理者に依頼する必要があります。

第 1 段階：リビジョンの取得

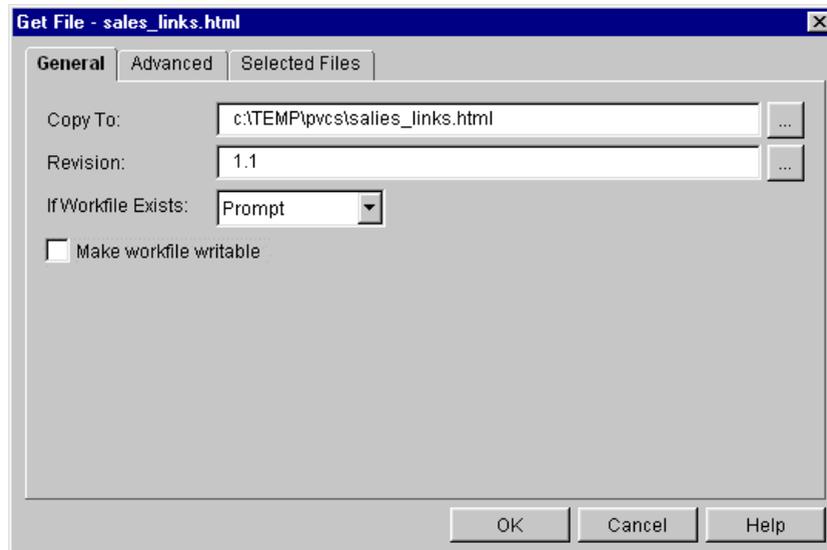
以前のリビジョンを取得するには、次の操作を行います。

- 1 Version Manager デスクトップクライアントでプロジェクトを開きます。
- 2 メインウィンドウのファイル表示部で、以前のリビジョンに復元するファイルを選択します。
- 3 メインウィンドウのリビジョン表示部で、チップに復元するリビジョンを選択します。

以前のリビジョンの選択

Revision	Author	Date	Locked By	Char
1.2	tannerv	6/30/99 12:54 PM		restc
1.1	tannerv	6/30/99 12:53 PM		adda
1.0	tannerv	6/30/99 12:49 PM		Initia

- 4 [Actions (アクション)] - [Get (取得)] を選択します。[Get File (ファイルの取得)] ダイアログボックスが表示されます。



- 5 作業ファイルのコピー先の場所を〈Copy To (コピー先)〉フィールドに入力するか、【Browse (参照)】ボタンをクリックして表示されるダイアログボックスから場所を選択します。
- 6 【OK】をクリックします。指定した場所にファイルがコピーされます。

第 2 段階：チップリビジョンのロック

チップリビジョンをロックするには、次の操作を行います。

- 1 リビジョン表示部でチップリビジョンを選択します。

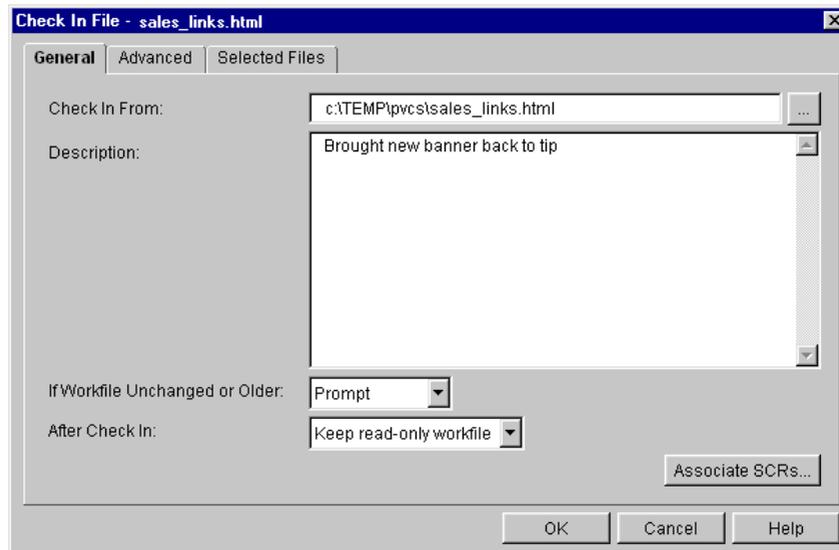
- 2 [Actions (アクション)] – [Lock (ロック)] を選択します。[Lock (ロック)] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 【OK】をクリックします。ファイルがロックされます。

第 3 段階：再度チップとしてリビジョンをチェックイン

チップとして以前のリビジョンを再度チェックインすると、IDE で以前のリビジョンをチェックアウトできるようになります。

以前のリビジョンをチップとしてチェックインするには、次の操作を行います。

- 1 リビジョン表示部で以前のリビジョンを選択します。
- 2 [Actions (アクション)] – [Check In (チェックイン)] を選択します。[Check In File (ファイルのチェックイン)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 [General (全般)] タブで、以下の設定を行います。
 - a <Description (コメント)> フィールドに、リビジョンの説明を入力します。
 - b <If Workfile Unchanged or Older (変更がないか、リビジョンより古い場合)> ドロップダウンリストから <Check In (チェックインする)> を選択します。
- 4 [Advanced (詳細設定)] タブで、チップリビジョン番号を <Revision (リビジョン)> フィールドに入力するか、【Browse (参照)】 ボタンをクリックしてリビジョン番号を選択します。
- 5 【OK】をクリックします。以前のリビジョンが新規チップリビジョンとして格納されます。

次回 IDE でこのファイルを編集する際に、このファイルの内容が以前のリビジョンに戻っていることがわかります。



注 この以前のリビジョンを使用して Web サイトを更新する場合は、Version Manager IDE クライアントを使用してファイルをチェックアウトしてから再度チェックインします。Web サイトが以前のリビジョンで更新されます。

第 4 章

ソース管理の使用法

はじめに	54
Version Manager プロジェクトへのログイン	54
ファイルの取得	54
ファイルのチェックアウト	57
チェックアウトの取り消しについて	59
ファイルのチェックイン	60
バージョンラベルについて	62
プロモーショングループについて	69

はじめに

- 内容** この章では、サポートされている IDE での以下の操作について、デフォルト動作や詳細設定など、共通の情報を記載しています。
- ログイン
 - ファイルの取得
 - ファイルのチェックアウト
 - チェックアウトの取り消し
 - ファイルのチェックイン
 - バージョンラベルの管理
- 目的** この章は、開発チームが Version Manager IDE クライアントで使用可能なソース管理機能を効果的に使用するための手引きです。



注 ご使用の IDE によっては、ここに記載されている機能の一部がサポートされていない場合があります。

IDE 固有の情報 ご使用の IDE に固有の情報については、[93 ページのパート 2](#)、『[各 IDE に固有の情報](#)』を参照してください。

Version Manager プロジェクトへのログイン

Version Manager プロジェクトに設定されているセキュリティによっては、プロジェクトを開くときにユーザ ID とパスワードの入力が要求されます。

〔Version Manager Login (Version Manager ログイン)〕ダイアログボックスが表示された場合は、以下を行います。

- 1 〈User Name (ユーザ名)〉フィールドにユーザ ID、〈Password (パスワード)〉フィールドにパスワードを入力します。

〈Location (場所)〉フィールドには、ログインするプロジェクトを含むプロジェクトデータベースの名前が表示されます。
- 2 【OK】をクリックします。

ファイルの取得

- デフォルト** ファイルを取得すると、デフォルトでは以下の処理が行われます。
- 作業ファイルの場所に、デフォルトリビジョンのコピーが、読み取り専用ファイルとして作成されます。
 - 現在の作業ファイルの場所に書き込み可能な作業ファイルが存在する場合は、作業ファイルを上書きする前にメッセージが表示されます。現在の作業ファイルの場所に読み取り専用の作業ファイルが存在する場合は、確認メッセージは表示されません。

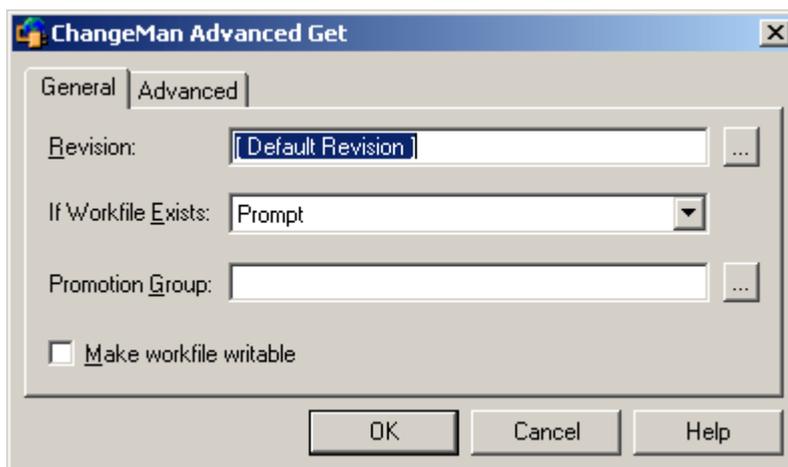
- アーカイブのロックは解除されたままであるため、ほかのユーザがファイルをチェックアウトして編集することができます。

IDE 固有の情報 各 IDE に固有の情報については、93 ページのパート 2、『各 IDE に固有の情報』を参照してください。

詳細設定のオプション ご使用の IDE で詳細設定がサポートされている場合は、ChangeMan の [Advanced Get (取得の詳細設定)] ダイアログボックスで、別のリビジョンを選択したり、特定のバージョンラベルやプロモーショングループに関連付けられているリビジョンを探することができます。

取得オプションの詳細設定

使用している IDE のファイル取得用ダイアログボックスの【Advanced (詳細)】をクリックすると、ChangeMan の [Advanced Get (取得の詳細設定)] ダイアログボックスが表示されます。



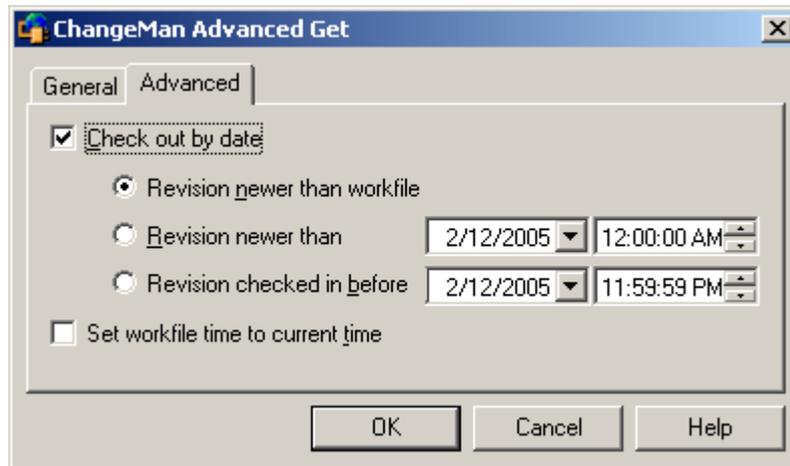
取得オプションの詳細設定を選択するには、次の操作を行います。

[General (全般)]
タブのオプション

- 1 [General (全般)] タブで、以下の操作を行います。
 - デフォルトリビジョン以外のリビジョンを選択するには、〈Revision (リビジョン)〉フィールドにリビジョン番号またはバージョンラベルを入力するか、または【Browse (参照)】ボタンをクリックして選択します。
-  **注** 数字で始まるバージョンラベルを指定する場合は、先頭に円記号 (¥) を付けてバージョンラベル名を入力してください。
- 作業ディレクトリにファイルの書き込み可能なコピーがすでに存在する場合は、〈If Workfile Exists (作業ファイルが存在する場合)〉ドロップダウンリストから以下のいずれかを選択します。
 - Prompt (確認する)：取得中に重複ファイルが検出された場合に、実行する操作を尋ねるメッセージが表示されます。
 - Overwrite (上書きする)：既存の作業ファイルを新しいファイルと置き換えます。
 - Don't Overwrite (上書きしない)：作業ファイルの場所にファイルが追加されません。
 - プロモーショングループを指定してリビジョンを取得するには、〈Promotion Group (プロモーショングループ)〉フィールドにプロモーショングループを入力するか、【Browse (参照)】ボタンをクリックして選択します。ファイルは、プロモーションモデルを定義したプロジェクトまたはプロジェクトデータベースに属している必要があります。

- 編集のために作業ファイルの書き込み可能なコピーを取得するには、〈Make workfile writable (書き込み可能な作業ファイル)〉チェックボックスを選択します。

- [Advanced (詳細)] タブのオプション
- 2 ChangeMan の [Advanced Get (取得の詳細設定)] ダイアログボックスの [Advanced (詳細)] タブで、以下を行います。



- リビジョンを日付で選択するには、〈Check out by date (日付指定)〉チェックボックスを選択して、次のいずれかを選択します。
 - Revision newer than workfile (作業ファイルより新しいリビジョン)：対応する作業ファイルの日付よりも新しい場合にのみ、リビジョンを取得します。
 - Revision newer than (指定日より新しいリビジョン)：最後にチェックインされたのが指定日時より後であるリビジョンを取得します。
 - Revision checked in before (指定日より古いリビジョン)：最後にチェックインされたのが指定日時より前であるリビジョンを取得します。
- ファイルのタイムスタンプを現在の日時に更新するには、〈Set workfile time to current time (作業ファイルのタイムスタンプを現在の時間に設定)〉チェックボックスを選択します。

- 3 【OK】をクリックします。

- 4 使用している IDE のファイル取得用ダイアログボックスが再び表示されたら、【OK】をクリックします。

選択したリビジョンが、作業ファイルの場所にコピーされます。

ソース管理からの IDE プロジェクトの取得

ソース管理からプロジェクトを取得すると、プロジェクトのすべてのファイルの最新リビジョンが指定したディレクトリにコピーされます。この機能は、ほかのメンバーによる変更を反映させるために、プロジェクトのすべての作業コピーを更新しなければならない場合に便利です。

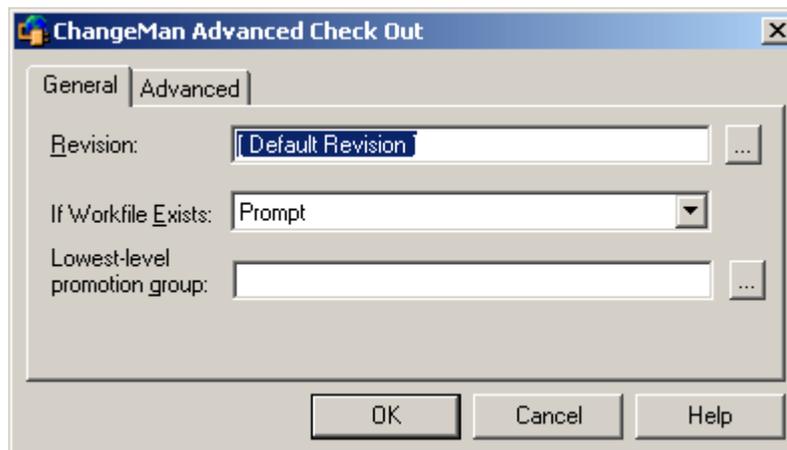
IDE 固有の情報 IDE の中には、上記機能をサポートしないものもあります。各 IDE に固有の情報については、[93 ページのパート 2、『各 IDE に固有の情報』](#)を参照してください。

ファイルのチェックアウト

- デフォルト** ソース管理下のファイルを編集するには、最初にチェックアウトする必要があります。ファイルをチェックアウトすると、デフォルトでは以下の処理が行われます。
- デフォルトのリビジョンがロックされます。
 - デフォルトリビジョンの、書き込み可能なコピーが作業ファイルの場所に作成されます。
 - 現在の作業ファイルの場所に書き込み可能な作業ファイルが存在する場合は、作業ファイルを上書きする前にメッセージが表示されます。現在の作業ファイルの場所に読み取り専用の作業ファイルが存在する場合は、確認メッセージは表示されません。
 - プロモーションモデルが有効な場合は、リビジョンに現在割り当てられているプロモーショングループが保持されます。
- 共有ファイル** 共有アーカイブからファイルをチェックアウトすると、ファイルのリビジョンが作業ディレクトリにコピーされ、共有アーカイブがロックされます。ファイルへの変更は、ファイルの共有アーカイブに保存されます。
- IDE 固有の情報** 各 IDE に固有の情報については、[93 ページのパート 2、『各 IDE に固有の情報』](#)を参照してください。
- 詳細設定のオプション** ご使用の IDE で詳細設定がサポートされている場合は、別のリビジョンを選択したり、特定のバージョンラベルやプロモーショングループに関連付けられているリビジョンを探したりすることができます。

チェックアウトオプションの詳細設定

ご使用の IDE のチェックアウト用ダイアログボックスで【Advanced (詳細)】をクリックすると、[ChangeMan Advanced Check Out (ChangeMan チェックアウトの詳細設定)] ダイアログボックスが表示されます。



詳細設定のチェックアウト用オプションを選択するには、次の操作を行います。

〔General (全般)〕
タブのオプション

1 〔General (全般)〕タブで、以下の操作を行います。

- デフォルトリビジョン以外のリビジョンをチェックアウトするには、〈Revision (リビジョン)〉フィールドにリビジョン番号、バージョンラベル、またはプロモーショングループを入力するか、【Browse (参照)】ボタンをクリックして選択します。

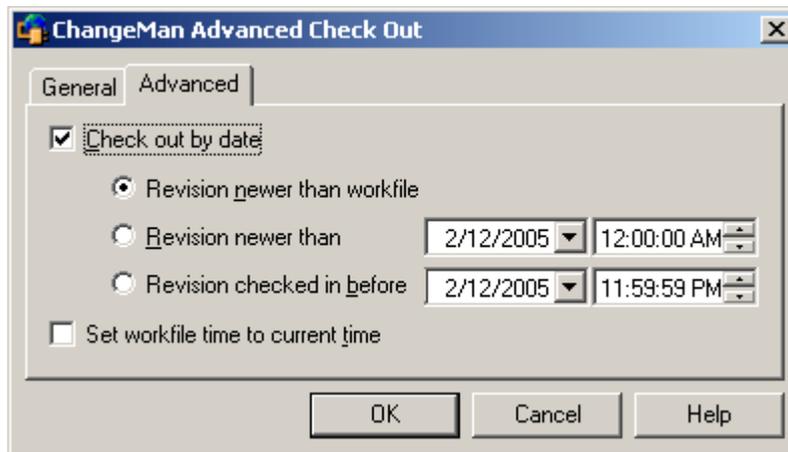


注 数字で始まるバージョンラベルを指定する場合は、先頭に円記号 (¥) を付けてバージョンラベル名を入力してください。

- 作業ディレクトリにファイルの書き込み可能なコピーがすでに存在する場合は、〈If Workfile Exists (作業ファイルが存在する場合)〉ドロップダウンリストから以下のいずれかを選択します。
 - Prompt (確認する)：同名の作業ファイルが存在する場合に、実行する操作を尋ねるメッセージを表示します。
 - Overwrite (上書きする)：同名の作業ファイルを新しいファイルで置換します。
 - Don't Overwrite (上書きしない)：作業ファイルの場所にファイルが追加されません。
- 選択しているファイルに、プロモーションモデルが定義されたプロジェクトデータベースまたはプロジェクトが関連付けられている場合は、〈Lowest-level promotion group (最下位レベルのプロモーショングループ)〉フィールドに作業ファイルと関連付けるプロモーショングループを入力するか、【Browse (参照)】をクリックして選択します。

〔Advanced (詳細)〕
タブのオプション

2 〔ChangeMan Advanced Check Out (ChangeMan チェックアウトの詳細設定)〕ダイアログボックスの〔Advanced (詳細)〕タブで、以下を行います。



- リビジョンを日付で選択するには、〈Check out by date (日付指定)〉チェックボックスを選択して、次のいずれかを選択します。
 - Revision newer than workfile (作業ファイルより新しいリビジョン)：対応する作業ファイルの日付よりも新しい場合にのみ、リビジョンをチェックアウトします。
 - Revision newer than (指定日より新しいリビジョン)：最後にチェックインされたのが指定日時より後であるリビジョンをチェックアウトします。
 - Revision checked in before (指定日より古いリビジョン)：最後にチェックインされたのが指定日時より前であるリビジョンをチェックアウトします。
- ファイルのタイムスタンプを現在の日時に更新するには、〈Set workfile time to current time (作業ファイルのタイムスタンプを現在の時間に設定)〉チェックボックスを選択します。

- 3 【OK】をクリックします。
- 4 使用している IDE のファイルチェックアウト用ダイアログボックスが再び表示されたら、【OK】をクリックします。

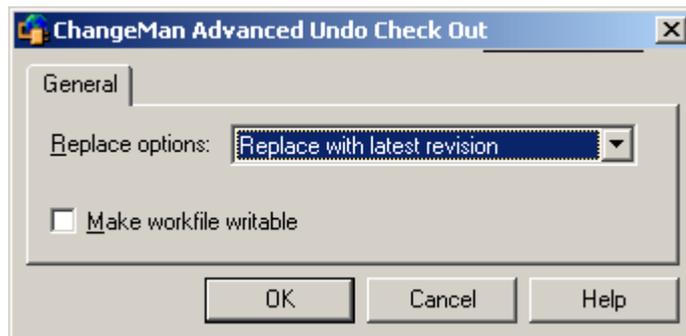
選択したリビジョンの書き込み可能コピーが作業ファイルの場所にチェックアウトされ、リビジョンがロックされます。

チェックアウトの取り消しについて

- | | |
|------------|---|
| デフォルト | チェックアウトの取り消しを行うと、関連アーカイブを更新することなくリビジョンのロックが解除されます。これによって、ほかのユーザがリビジョンをチェックアウトできます。チェックアウトを取り消すと、デフォルトでは以下の処理が行われます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ リビジョンのロックが解除されます。 ■ 作業ファイルが、最新リビジョンの読み込み専用のコピーに置き換えられます。 |
| IDE 固有の情報 | 各 IDE に固有の情報については、 93 ページのパート 2、『各 IDE に固有の情報』 を参照してください。 |
| 詳細設定のオプション | ご使用の IDE で詳細設定がサポートされている場合は、作業ファイルを書き込み可能のままにしておくか、元のファイルに置き換えるか、またはそのまま残すかのいずれかを選択することができます。 |

チェックアウト取り消しオプションの詳細設定

ご使用の IDE のチェックアウト取り消し用ダイアログボックスで【Advanced (詳細)】をクリックすると、〔ChangeMan Advanced Undo Check Out (ChangeMan チェックアウト取り消しの詳細設定)〕ダイアログボックスが表示されます。



チェックアウトの取り消しオプションを詳細に設定するには、次の操作を行います。

- 1 作業ディレクトリにある現在の作業ファイルの処理を指定するには、〈Replace options (置換オプション)〉ドロップダウンリストから以下のいずれかを選択します。
 - Replace with latest revision (最新リビジョンで置換)：作業ファイルを最新リビジョンのファイルのコピーで置き換えます。作業ファイルに加えた変更は、失われます。
 - Replace with original (元のリビジョンで置換)：作業ファイルを、ロックされたリビジョンのファイルのコピーで置き換えます。作業ファイルに加えた変更は、失われます。
 - Leave alone (置換しない)：作業ファイルを現在の状態のまま保持します。

- 2 作業ディレクトリに作業ファイルの書き込み可能なコピーを残すには、〈Make workfile writable (作業ファイルを書き込み可能にする)〉チェックボックスを選択します。
 - 3 【OK】をクリックします。
 - 4 使用している IDE のファイルチェックアウト取り消し用ダイアログボックスが再び表示されたら、【OK】をクリックします。
- アーカイブのロックが解除されます。

ファイルのチェックイン

デフォルト 変更した作業ファイルをチェックインすることにより、ファイルへの変更が新規リビジョンに保存されます。デフォルトでは、以下の処理が行われます。

- 新規リビジョンが作成され、それまでの最新リビジョンの次の番号が割り当てられます。
- 読み取り専用ファイルが作業ファイルの場所に残されます。
- チェックアウトされたリビジョンのロックが解除されます。



注 デフォルトでは、ファイルが変更されていなかったり、最新リビジョンより古い場合でも、IDE クライアントによってファイルがチェックインされます。このデフォルトを変更するには、[34 ページの『デフォルトの設定』](#)を参照してください。

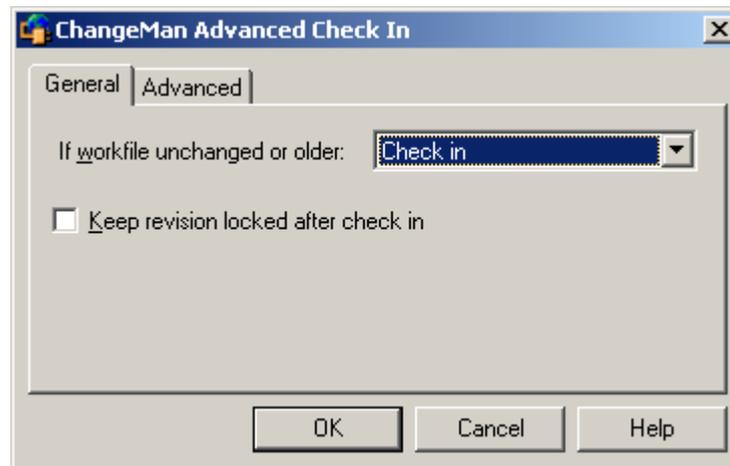
Visual Basic で作業している場合は、このデフォルトを変更しないでください。詳細は、[229 ページの『Visual Basic のファイルについて』](#)を参照してください。

IDE 固有の情報 各 IDE に固有の情報については、[93 ページのパート 2、『各 IDE に固有の情報』](#)を参照してください。

詳細設定のオプション ご使用の IDE で詳細設定がサポートされている場合は、バージョンラベルの割り当て、ブランチの強制、新しいリビジョンのロック、または作業ファイルが変更されていない場合や以前のリビジョンより古い場合の処理の選択を行うことができます。

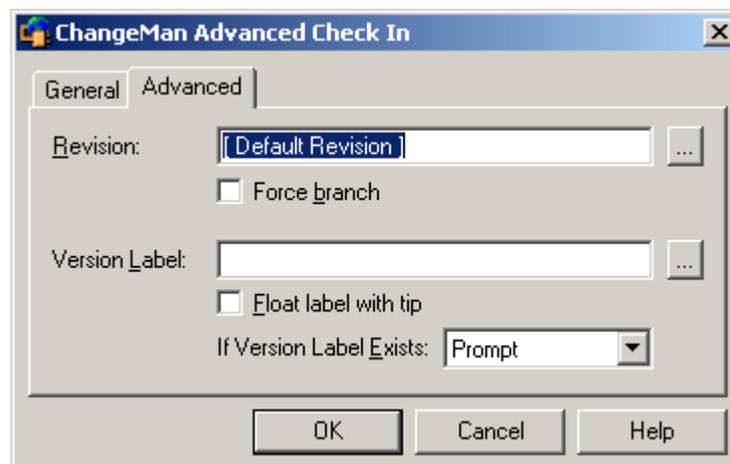
チェックインの詳細オプションの設定

ご使用の IDE のチェックイン用ダイアログボックスで【Advanced (詳細)】をクリックすると、[ChangeMan Advanced Check In (ChangeMan チェックインの詳細設定)] ダイアログボックスが表示されます。



チェックインオプションを詳細に設定するには、次の操作を行います。

- [General (全般)]
タブのオプション
- [General (全般)] タブで、以下の操作を行います。
 - 未変更の作業ファイルや以前のリビジョンよりも古い作業ファイルをチェックインした場合に行われる処理を指定するには、〈If workfile unchanged or older (変更がないか、リビジョンより古い場合)〉ドロップダウンリストから以下のいずれかを選択します。
 - Prompt (確認する)：作業ファイルが未変更の場合は、処理を選択するダイアログボックスを表示します。
 - Check in (チェックインする)：ファイルが変更されていない場合でも、チェックインします。
 - Don't check in (チェックインしない)：ファイルをチェックインしません。
 - ファイルをチェックインしたときに作成されるリビジョンをロックするには、〈Keep revision locked after check in (チェックアウト状態を保持)〉を選択します。
- [Advanced (詳細)]
タブのオプション
- [ChangeMan Advanced Check In (ChangeMan チェックインの詳細設定)] ダイアログボックスの [Advanced (詳細)] タブで、以下を行います。



- チェックアウトしたファイルに複数のリビジョンがある場合は、〈Revision (リビジョン)〉テキストボックスにファイルをチェックインするリビジョンを入力するか、【Browse (参照)】 ボタンをクリックしてリビジョンを選択します。
 - デフォルトの増分を無効にする場合は、〈Revision (リビジョン)〉テキストボックスに新しいリビジョン番号を入力します。たとえば、アーカイブに現在 2 つのリビジョン (1.0 と 1.1) が含まれている場合、「1.5」と入力すると、リビジョン 1.5 としてファイルをチェックインすることができます。
 - ファイルをチェックインするリビジョンからブランチを作成する場合は、〈Force branch (強制的にブランチさせる)〉チェックボックスを選択します。ブランチとは、開発のメインライン (トランク) から分岐した、1 つ以上のリビジョンで構成される新たな開発ラインです。
 - リビジョンにバージョンラベルを割り当てるには、〈Version Label (バージョンラベル)〉テキストボックスにバージョンラベルを入力するか、【Browse (参照)】 ボタンをクリックしてバージョンラベルを選択します。
 - バージョンラベルを現在のトランクまたはブランチの最新 (チップ) リビジョンに割り当てておくには、〈Float label with tip (浮動ラベル)〉チェックボックスを選択します。
 - 選択したアーカイブ内のリビジョンに同じバージョンラベルがすでに割り当てられている場合に行われる処理を指定するには、〈If Version Label Exists (存在する場合)〉ドロップダウンリストから以下のいずれかを選択します。
 - Prompt (確認する) : 同じバージョンラベルが存在する場合は、処理を選択するダイアログボックスを表示します。
 - Reassign (再度割り当てる) : チェックインしているリビジョンに、同じバージョンラベルを再度割り当てます。
 - Don't reassign (再度割り当てない) : チェックインをキャンセルします。
- 3 【OK】 をクリックします。
- 4 チェックインのダイアログボックスが再び表示される場合は、【OK】 をクリックします。
- ファイルがチェックインされます。

バージョンラベルについて

バージョンラベル
とは何か

バージョンラベルは、アーカイブ内の特定のリビジョンを識別するために使用するタグです。一般に、バージョンラベルは、「ベータテスト 1」のように、特定の製品リリースを形成するリビジョンを識別するために使用されます。

特定のリビジョンにバージョンラベルを割り当て、同じアーカイブやアーカイブのグループ内にあるほかのリビジョンと区別します。

バージョンラベルの
使用方法

〔Version Manager Options (Version Manager オプション)〕 ダイアログボックスを使用して、バージョンラベルの割り当て、名前の変更、再割り当て、および削除などのバージョンラベル機能を実行します。



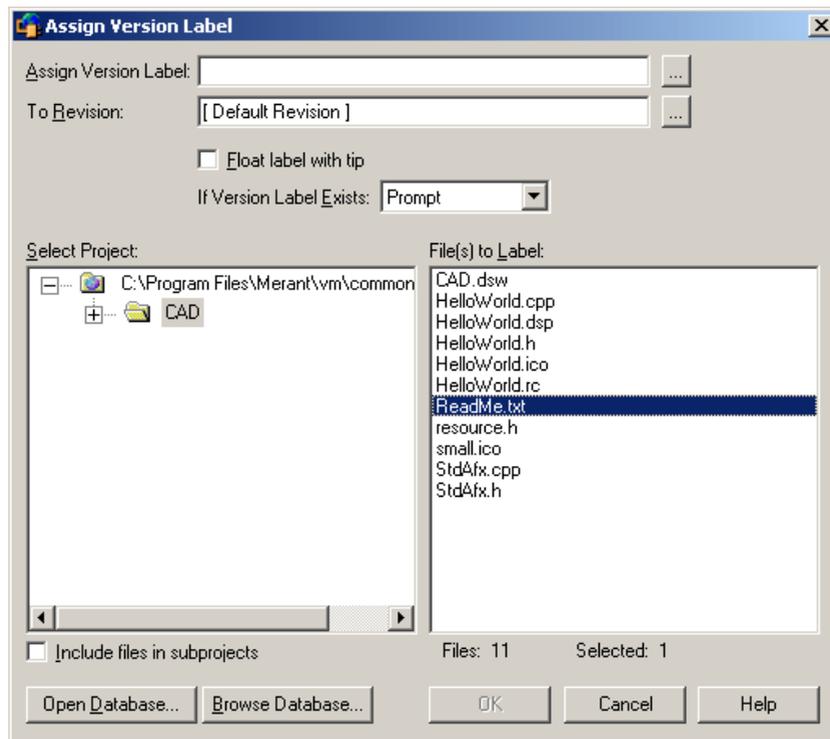
注 ファイルをチェックインするときに、バージョンラベルを割り当てることもできます。60 ページの『ファイルのチェックイン』を参照してください。

バージョンラベルの割り当て

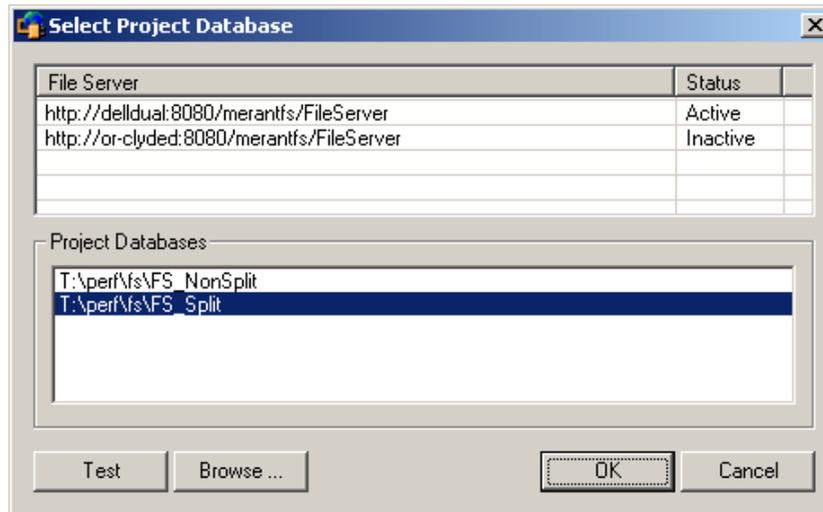
アーカイブ、プロジェクト、およびプロジェクトデータベース全体の特定のリビジョンに対して、バージョンラベルを割り当てることができます。

バージョンラベルを割り当てるには

- 1 [Version Manager Options (Version Manager オプション)] ダイアログボックスを開きます (IDE ごとのメニューコマンドについては、93 ページのパート 2、『各 IDE に固有の情報』を参照してください)。
- 2 [General (全般)] タブを選択し、〈Manage Version Labels (バージョンラベルの管理)〉グループの【Assign (割り当て)】をクリックします。[Assign Version Label (バージョンラベルの割り当て)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 〈Select Project (プロジェクトの選択)〉の下にデフォルトのプロジェクトデータベースが表示されます。別のプロジェクトデータベースで作業する場合は、【Open Database (データベースを開く)】ボタンをクリックします。【Select Project Database (プロジェクトデータベースの選択)】ダイアログボックスが表示されます。



以下のいずれかを実行します。

- 一覧表示されている Version Manager File Server 上にあるプロジェクトデータベースを開くには、〈Project Databases (プロジェクトデータベース)〉リストボックスからプロジェクトデータベースを選択し、【OK】をクリックします。

Version Manager File Server をリストに追加するには、〈File Server (ファイルサーバ)〉リストボックスの空のセルをダブルクリックしてファイルサーバのホストシステム名を入力します。ENTER キーを押すと、入力がオートコンプリート (http:// システム名:8080/serenafs/FileServer) し、テストされます。https サーバまたは非標準ポートを指定するには、オートコンプリートエントリをダブルクリックし、編集して、ENTER キーを押します。

- ローカルファイルシステムまたはネットワーク上のプロジェクトデータベースを開くには、【Browse (参照)】ボタンをクリックして表示されるダイアログボックスから該当の場所を探します。
- 4 〈Select Project (プロジェクトの選択)〉フィールドで、ラベルを割り当てるファイルを含むプロジェクトまたはプロジェクトデータベースを選択します。
- 5 プロジェクトデータベースまたは選択されたプロジェクトのサブプロジェクトにあるすべてのファイルを表示するには、〈Include files in subprojects (サブプロジェクトも含む)〉チェックボックスを選択します。



注 ルートレベルにファイルが含まれていないプロジェクトまたはプロジェクトデータベースを選択した場合は、このチェックボックスを選択する必要があります。

- 6 〈File(s) to Label (選択するファイル)〉フィールドで、バージョンラベルを割り当てるファイルを選択します。



ヒント 表示されているファイル全部に対して操作を実行する場合は、ファイルを選択しないで【OK】をクリックします。すべてのファイルに対して操作を実行するかどうかを確認するメッセージが表示されます。【Yes (はい)】をクリックします。

- 7 〈Assign Version Label (割り当てるバージョンラベル)〉テキストボックスにバージョンラベル名を入力するか、【Browse (参照)】ボタンをクリックして選択します。
- 8 〈To Revision (割り当てるリビジョン)〉フィールドにラベルを割り当てるリビジョンの番号を入力するか、または【Browse (参照)】ボタンをクリックして選択します。リビジョンを選択しない場合は、デフォルトでラベルが各ファイルのチップリビジョンに割り当てられます。
- 9 バージョンラベルがつねに、各ファイルの最新 (チップ) リビジョンに割り当てられるようにするには、〈Float label with tip (浮動ラベル)〉チェックボックスを選択します。
- 10 選択したアーカイブ内のリビジョンに同じバージョンラベルがすでに割り当てられている場合に行われる処理を指定するには、〈If Version Label Exists (バージョンラベルが存在する場合)〉ドロップダウンリストから以下のいずれかを選択します。
 - Prompt (確認する) : 同じバージョンラベルが存在する場合は、処理を選択するダイアログボックスを表示します。
 - Reassign (再度割り当てる) : リビジョンに、同じバージョンラベルを再度割り当てます。
 - Don't reassign (再度割り当てない) : バージョンラベルをリビジョンに割り当てません。
- 11 【OK】をクリックします。

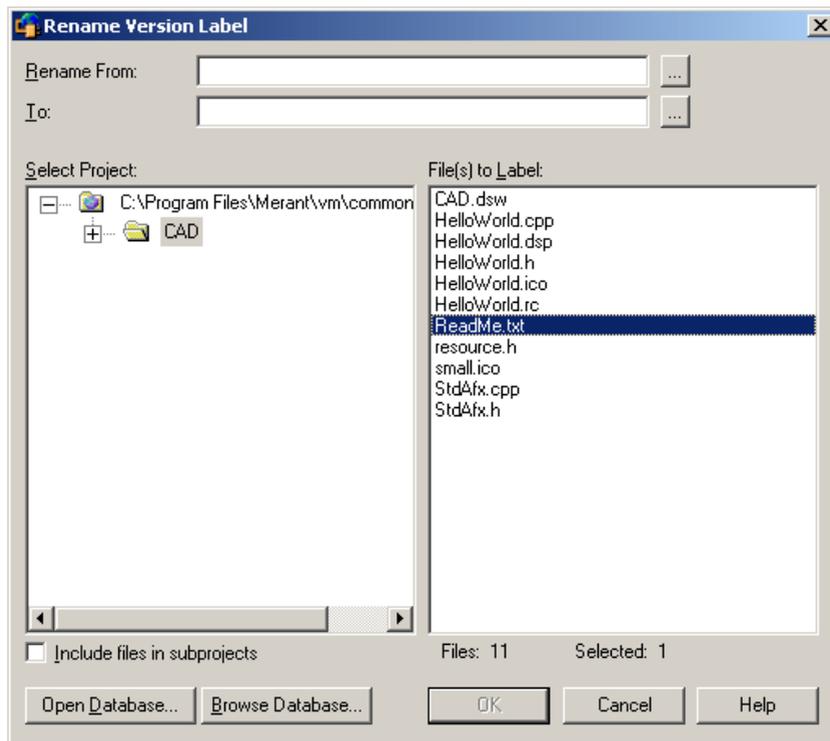
バージョンラベル名の変更

1 つ以上のアーカイブ、1 つのプロジェクト、またはプロジェクトデータベース全体の既存のバージョンラベル名を変更することができます。

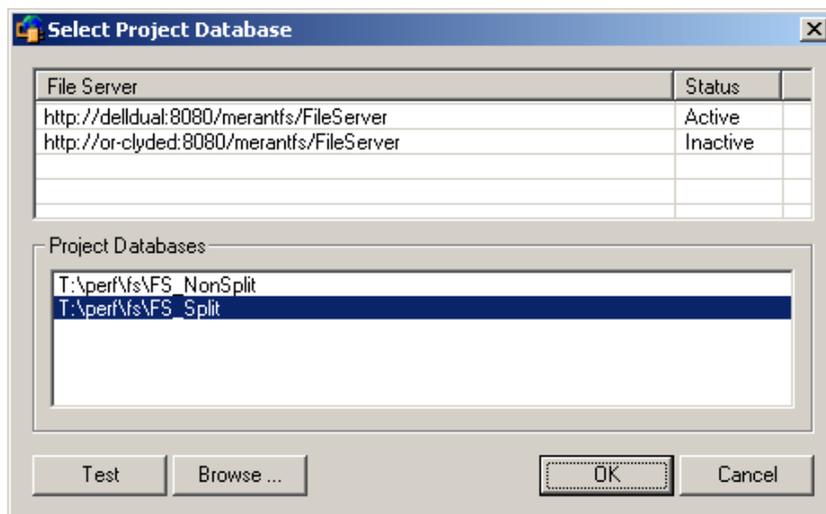
バージョンラベル名を変更するには

- 1 [Version Manager Options (Version Manager オプション)] ダイアログボックスを開きます (IDE ごとのメニューコマンドについては、[93 ページのパート 2](#)、『[各 IDE に固有の情報](#)』を参照してください)。

- 2 [General (全般)] タブを選択し、〈Manage Version Labels (バージョンラベルの管理)〉グループの【Rename (名前の変更)】をクリックします。[Rename Version Label (バージョンラベル名の変更)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 〈Select Project (プロジェクトの選択)〉の下にデフォルトのプロジェクトデータベースが表示されます。別のプロジェクトデータベースで作業する場合は、【Open Database (データベースを開く)】ボタンをクリックします。[Select Project Database (プロジェクトデータベースの選択)] ダイアログボックスが表示されます。



以下のいずれかを実行します。

- 一覧表示されている Version Manager File Server 上にあるプロジェクトデータベースを開くには、〈Project Databases (プロジェクトデータベース)〉リストボックスからプロジェクトデータベースを選択し、【OK】をクリックします。

Version Manager File Server をリストに追加するには、〈File Server (ファイルサーバ)〉リストボックスの空のセルをダブルクリックしてファイルサーバのホストシステム名を入力します。ENTER キーを押すと、入力がオートコンプリート (<http://システム名:8080/serenafs/FileServer>) し、テストされます。https サーバまたは非標準ポートを指定するには、オートコンプリートエントリをダブルクリックし、編集して、ENTER キーを押します。

- ローカルファイルシステムまたはネットワーク上のプロジェクトデータベースを開くには、【Browse (参照)】 ボタンをクリックして表示されるダイアログボックスから該当の場所を探します。
- 4 〈Select Project (プロジェクトの選択)〉フィールドで、名前を変更するラベルが割り当てられたファイルを含むプロジェクトまたはプロジェクトデータベースを選択します。
 - 5 プロジェクトデータベースまたは選択されたプロジェクトのサブプロジェクトにあるすべてのファイルを表示するには、〈Include files in subprojects (サブプロジェクトも含む)〉チェックボックスを選択します。



注 ルートレベルにファイルが含まれていないプロジェクトまたはプロジェクトデータベースを選択した場合は、このチェックボックスを選択する必要があります。

- 6 〈File(s) to Label (選択するファイル)〉フィールドで、バージョンラベルを変更するファイルを選択します。



ヒント 表示されているファイル全部に対して操作を実行する場合は、ファイルを選択しないで【OK】をクリックします。すべてのファイルに対して操作を実行するかどうかを確認するメッセージが表示されます。【Yes (はい)】をクリックします。

- 7 〈Rename From (変更前の名前)〉テキストボックスに名前を変更するバージョンラベルを入力するか、または【Browse (参照)】 ボタンをクリックしてバージョンラベルを選択します。
- 8 〈To (変更後の名前)〉テキストボックスに新規バージョンラベル名を入力するか、または【Browse (参照)】 ボタンをクリックしてバージョンラベルを選択します。
- 9 【OK】をクリックします。

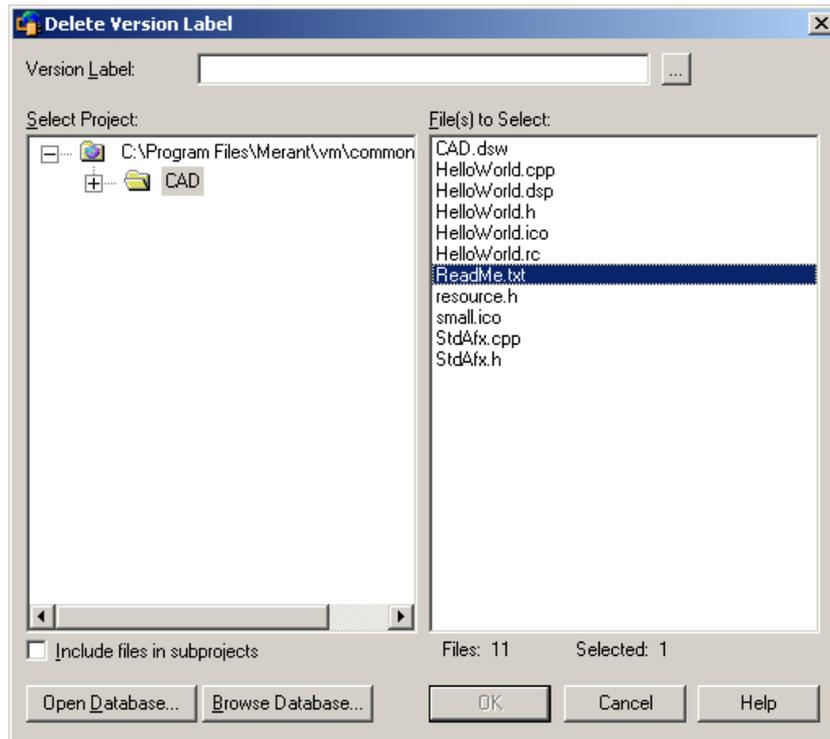
バージョンラベルの削除

不要となったバージョンラベルは、削除できます。

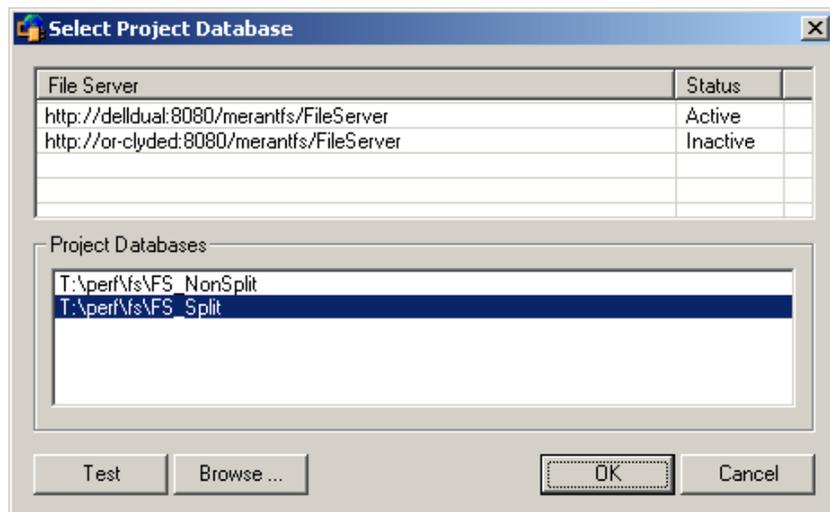
バージョンラベルを削除するには

- 1 [Version Manager Options (Version Manager オプション)] ダイアログボックスを開きます (IDE ごとのメニューコマンドについては、93 ページのパート 2、『各 IDE に固有の情報』を参照してください)。

- 2 [General (全般)] タブを選択し、〈Manage Version Labels (バージョンラベルの管理)〉グループの【Delete (削除)】をクリックします。[Delete Version Label (バージョンラベルの削除)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 〈Select Project (プロジェクトの選択)〉の下にデフォルトのプロジェクトデータベースが表示されます。別のプロジェクトデータベースで作業する場合は、【Open Database (データベースを開く)】ボタンをクリックします。[Select Project Database (プロジェクトデータベースの選択)] ダイアログボックスが表示されます。



以下のいずれかを実行します。

- 一覧表示されている Version Manager File Server 上にあるプロジェクトデータベースを開くには、〈Project Databases (プロジェクトデータベース)〉リストボックスからプロジェクトデータベースを選択し、【OK】をクリックします。

Version Manager File Server をリストに追加するには、〈File Server (ファイルサーバ)〉リストボックスの空のセルをダブルクリックしてファイルサーバのホストシステム名を入力します。ENTER キーを押すと、入力がオートコンプリート ([http:// システム名:8080/serenafs/FileServer](http://システム名:8080/serenafs/FileServer)) し、テストされます。https サーバまたは非標準ポートを指定するには、オートコンプリートエントリをダブルクリックし、編集して、ENTER キーを押します。

- ローカルファイルシステムまたはネットワーク上のプロジェクトデータベースを開くには、【Browse (参照)】 ボタンをクリックして表示されるダイアログボックスから該当の場所を探します。
- 4 〈Select Project (プロジェクトの選択)〉フィールドで、削除するラベルが割り当てられたファイルを含むプロジェクトまたはプロジェクトデータベースを選択します。
 - 5 プロジェクトデータベースまたは選択されたプロジェクトのサブプロジェクトにあるすべてのファイルを表示するには、〈Include files in subprojects (サブプロジェクトも含む)〉チェックボックスを選択します。



注 ルートレベルにファイルが含まれていないプロジェクトまたはプロジェクトデータベースを選択した場合は、このチェックボックスを選択する必要があります。

- 6 〈File(s) to Select (選択するファイル)〉フィールドで、バージョンラベルを削除するファイルを選択します。



ヒント 表示されているファイル全部に対して操作を実行する場合は、ファイルを選択しないで【OK】をクリックします。すべてのファイルに対して操作を実行するかどうかを確認するメッセージが表示されます。【Yes (はい)】をクリックします。

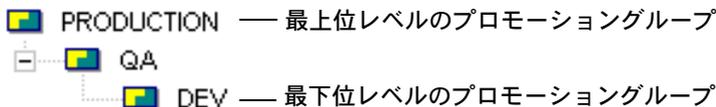
- 7 〈Version Label (バージョンラベル)〉テキストボックスにバージョンラベル名を入力するか、【Browse (参照)】 ボタンをクリックして選択します。
- 8 【OK】をクリックします。

プロモーショングループについて

使用前の準備 プロモーショングループを使って作業をするには、プロジェクトデータベースにプロモーションモデルが設定されている必要があります。「プロモーションモデル」とは、開発サイクルの節目の階層です。節目は、プロモーショングループで表されます。プロモーションモデルの設定方法については、『Serena PVCS Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。

プロモーショングループとは
 プロモーショングループは、プロモーションモデル階層内の節目です。プロジェクトデータベースにプロモーションモデルが作成されている場合は、リビジョンが最下位レベルのプロモーショングループに割り当てられます。開発が進んで一定の節目に達すると、権限のあるユーザはリビジョンをプロモーションモデル階層内でプロモートできます。開発は、リビジョンがプロモーションモデル階層の最上位レベルのプロモーショングループに達した時点で終了となります。

この図は、プロモーションモデルの典型的な例です。



プロモーショングループを使用する理由

プロモーショングループは、リビジョンが開発プロセスのさまざまな段階を経ていく過程を追跡するために使用されます。編集することができる唯一のリビジョンであるロックされたリビジョンは、必ず最下位レベルのプロモーショングループに割り当てられ、ソフトウェアの変更が規制されます。また、プロモーショングループを使用すると、プロモーションモデルをさまざまなセキュリティオプションと統合することによって、ソースコードへのアクセスを制御できます。

ソフトウェアを段階的に開発する正式な手順が決まっており、プロジェクトチームのメンバーがそれぞれ明確な個別の役割を持っている場合は、プロモーショングループを使用すると便利です。

プロモート権限

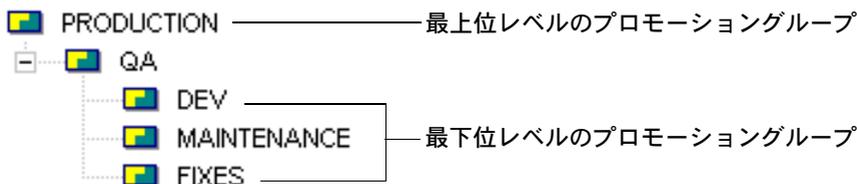
通常、プロジェクトリーダーと管理者のみがリビジョンをプロモートする権限を持っています。リビジョンをプロモートするには、管理者によって割り当てられたプロモート権限が必要です。

プロモーショングループに割り当てられたリビジョンのチェックアウト

プロモーショングループについて覚えておかななくてはならない重要な規則は、リビジョンは、開発用に予約された最下位レベルのプロモーショングループにのみチェックアウトできます。リビジョンがどのプロモーションレベルに達していようと、リビジョンをチェックアウトしてロックする場合は、リビジョンを最下位レベルのプロモーショングループに割り当てする必要があります。

ワークスペース設定を使用して、デフォルトプロモーショングループを定義することができます。アクティブなワークスペースにデフォルトプロモーショングループが定義されていない場合、Version Manager は以下の処理を行います。

- プロモーションモデルに複数のプロモーショングループが定義されている場合は、最下位のプロモーショングループから 1 つを選択する画面が表示されます。
- プロモーションモデル内で最下位レベルのプロモーショングループが 1 つだけ定義されている場合は、それを使用します。



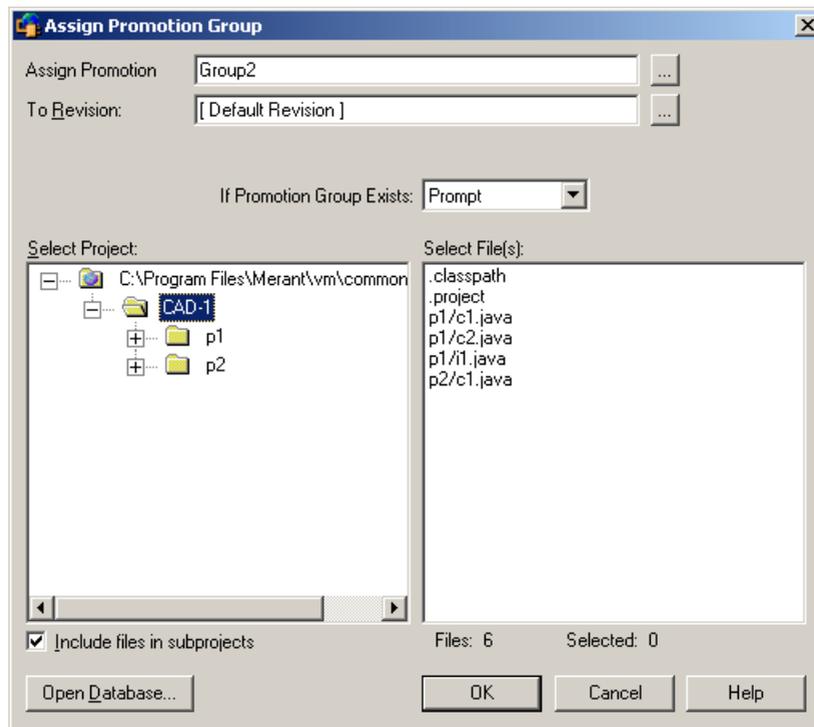
プロモーションモデルに関する詳細な規則については、『Serena PVCS Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。

リビジョンへのプロモーショングループの割り当て

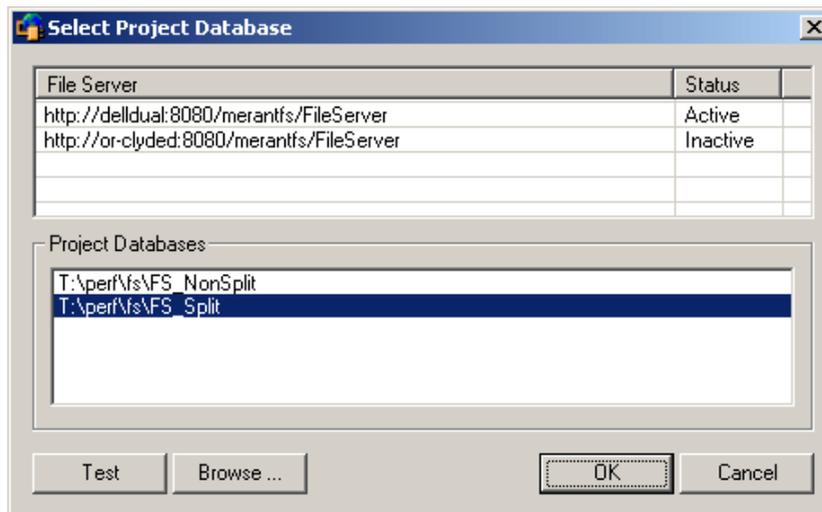
リビジョンにプロモーショングループを割り当てるには、リビジョン、1 つまたは複数のバージョン管理ファイル、プロジェクト、フォルダ、またはプロジェクトデータベースを選択します。

プロモーショングループを割り当てるには

- 1 [Version Manager Options (Version Manager オプション)] ダイアログボックスを開きます (IDE ごとのメニューコマンドについては、93 ページのパート 2、『各 IDE に固有の情報』を参照してください)。
- 2 [General (全般)] タブを選択し、〈Manage Promotion Groups (プロモーショングループの管理)〉グループの【Assign (割り当て)】をクリックします。[Assign Promotion Group (プロモーショングループの割り当て)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 〈Select Project (プロジェクトの選択)〉の下にデフォルトのプロジェクトデータベースが表示されます。別のプロジェクトデータベースで作業する場合は、【Open Database (データベースを開く)】ボタンをクリックします。【Select Project Database (プロジェクトデータベースの選択)】ダイアログボックスが表示されます。



以下のいずれかを実行します。

- 一覧表示されている Version Manager File Server 上にあるプロジェクトデータベースを開くには、〈Project Databases (プロジェクトデータベース)〉リストボックスからプロジェクトデータベースを選択し、【OK】をクリックします。

Version Manager File Server をリストに追加するには、〈File Server (ファイルサーバ)〉リストボックスの空のセルをダブルクリックしてファイルサーバのホストシステム名を入力します。ENTER キーを押すと、入力がオートコンプリート (http:// システム名:8080/serenafs/FileServer) し、テストされます。https サーバまたは非標準ポートを指定するには、オートコンプリートエントリをダブルクリックし、編集して、ENTER キーを押します。

- ローカルファイルシステムまたはネットワーク上のプロジェクトデータベースを開くには、【Browse (参照)】ボタンをクリックして表示されるダイアログボックスから該当の場所を探します。

- 4 〈Select Project (プロジェクトの選択)〉フィールドで、ラベルを割り当てるファイルを含むプロジェクトまたはプロジェクトデータベースを選択します。
- 5 プロジェクトデータベースまたは選択されたプロジェクトのサブプロジェクトにあるすべてのファイルを表示するには、〈Include files in subprojects (サブプロジェクトも含む)〉チェックボックスを選択します。



注 ルートレベルにファイルが含まれていないプロジェクトまたはプロジェクトデータベースを選択した場合は、このチェックボックスを選択する必要があります。

- 6 〈Select Files (ファイルの選択)〉フィールドで、操作の対象となるファイルを選択します。



ヒント 表示されているファイル全部に対して操作を実行する場合は、ファイルを選択しないで【OK】をクリックします。すべてのファイルに対して操作を実行するかどうかを確認するメッセージが表示されます。【Yes (はい)】をクリックします。

- 7 〈Group (プロモーショングループ)〉フィールドでプロモーショングループを指定するか、【Browse (参照)】ボタンをクリックして選択します。

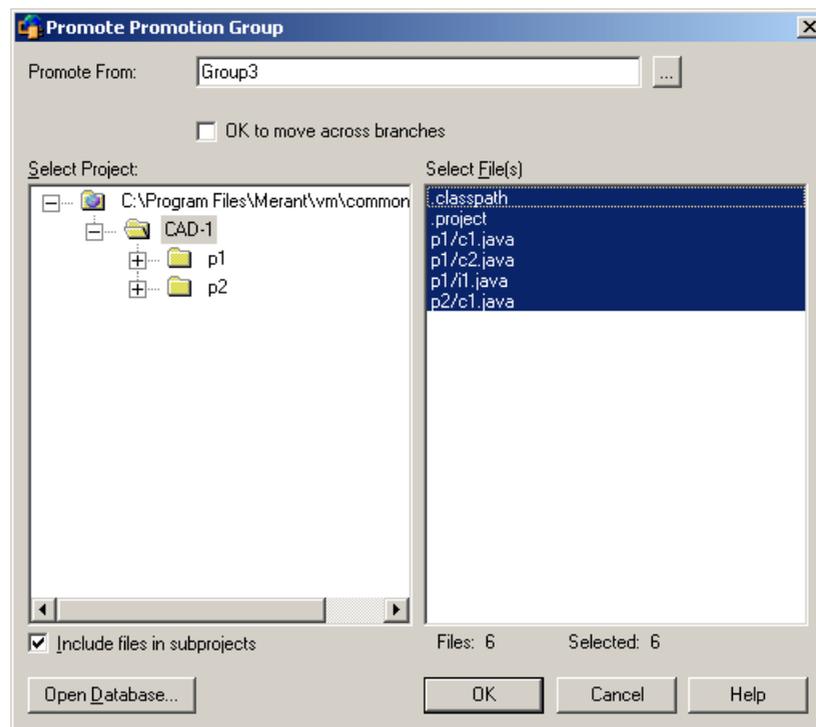
- 8 デフォルトリビジョン以外のリビジョンに割り当てる場合は、〈To Revision (割り当てるリビジョン)〉フィールドで割り当てるリビジョンを入力するか、参照して選択します。
- 9 選択したアーカイブ内のリビジョンに同じバージョンラベルがすでに割り当てられている場合に行われる処理を指定するには、〈If Version Label Exists (バージョンラベルが存在する場合)〉ドロップダウンリストから以下のいずれかを選択します。
 - Prompt (確認する) : 同じプロモーショングループが存在する場合に、実行する操作を尋ねるメッセージが表示されます。
 - Reassign (再度割り当てる) : 選択したリビジョンにプロモーショングループを再度割り当てます。
 - Don't reassign (再度割り当てない) : プロモーショングループをリビジョンに割り当てません。
- 10 【OK】をクリックします。

リビジョンの次のプロモーショングループへのプロモート

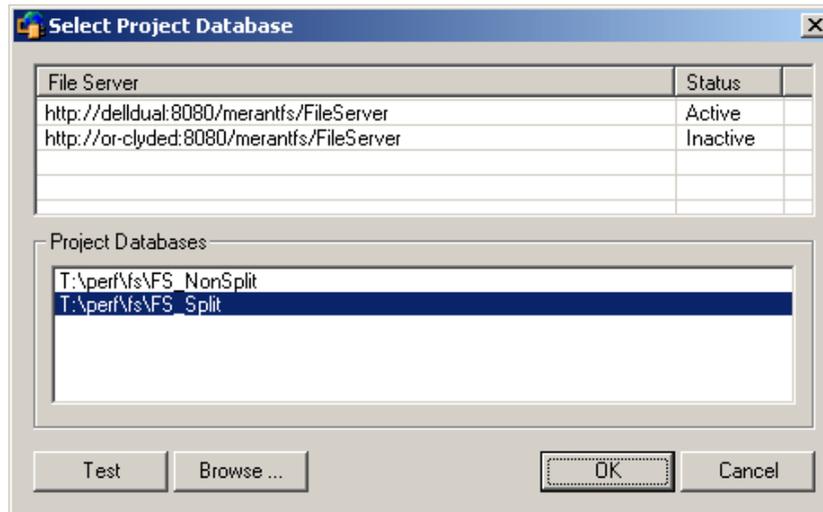
リビジョンを上位プロモーショングループにプロモートするには、リビジョン、1 つまたは複数のバージョン管理ファイル、プロジェクト、フォルダ、またはプロジェクトデータベースのいずれかを選択します。

リビジョンを次のプロモーショングループにプロモートするには

- 1 [Version Manager Options (Version Manager オプション)] ダイアログボックスを開きます (IDE ごとのメニューコマンドについては、93 ページのパート 2、『各 IDE に固有の情報』を参照してください)。
- 2 [General (全般)] タブを選択し、〈Manage Promotion Groups (プロモーショングループの管理)〉グループの【Promote (プロモート)】をクリックします。[Promote Promotion Group (プロモーショングループのプロモート)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 〈Select Project (プロジェクトの選択)〉の下にデフォルトのプロジェクトデータベースが表示されます。別のプロジェクトデータベースで作業する場合は、【Open Database (データベースを開く)】ボタンをクリックします。【Select Project Database (プロジェクトデータベースの選択)】ダイアログボックスが表示されます。



以下のいずれかを実行します。

- 一覧表示されている Version Manager File Server 上にあるプロジェクトデータベースを開くには、〈Project Databases (プロジェクトデータベース)〉リストボックスからプロジェクトデータベースを選択し、【OK】をクリックします。

Version Manager File Server をリストに追加するには、〈File Server (ファイルサーバ)〉リストボックスの空のセルをダブルクリックしてファイルサーバのホストシステム名を入力します。ENTER キーを押すと、入力がオートコンプリート (http:// システム名:8080/serenafs/FileServer) し、テストされます。https サーバまたは非標準ポートを指定するには、オートコンプリートエントリをダブルクリックし、編集して、ENTER キーを押します。

- ローカルファイルシステムまたはネットワーク上のプロジェクトデータベースを開くには、【Browse (参照)】ボタンをクリックして表示されるダイアログボックスから該当の場所を探します。
- 4 〈Select Project (プロジェクトの選択)〉フィールドで、ラベルを割り当てるファイルを含むプロジェクトまたはプロジェクトデータベースを選択します。
- 5 プロジェクトデータベースまたは選択されたプロジェクトのサブプロジェクトにあるすべてのファイルを表示するには、〈Include files in subprojects (サブプロジェクトも含む)〉チェックボックスを選択します。



注 ルートレベルにファイルが含まれていないプロジェクトまたはプロジェクトデータベースを選択した場合は、このチェックボックスを選択する必要があります。

- 6 〈Select Files (ファイルの選択)〉フィールドで、操作の対象となるファイルを選択します。



ヒント 表示されているファイル全部に対して操作を実行する場合は、ファイルを選択しないで【OK】をクリックします。すべてのファイルに対して操作を実行するかどうかを確認するメッセージが表示されます。【Yes (はい)】をクリックします。

- 7 〈Promote From (プロモートするグループ)〉フィールドでプロモーショングループを指定するか、【Browse (参照)】ボタンをクリックして選択します。

- プロモーショングループを異なるブランチに再度割り当てることを可能にするには、〈OK to move across branches (異なるブランチへのプロモートを許可)〉チェックボックスを選択します。このオプションを選択しない場合は、そのプロモーショングループの次の階層にすでに別のブランチのリビジョンが割り当てられていると、プロモーションが失敗します。
- 【OK】をクリックします。

プロモーショングループの変更

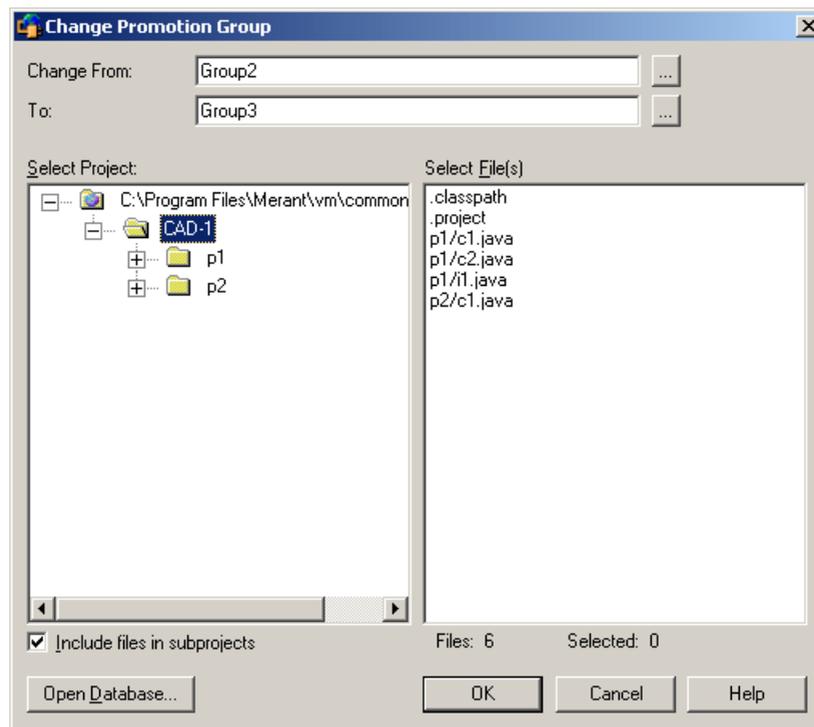
リビジョン、1 つまたは複数のバージョン管理ファイル、プロジェクト、フォルダ、またはプロジェクトデータベースを選択し、プロモーショングループを変更することができます。



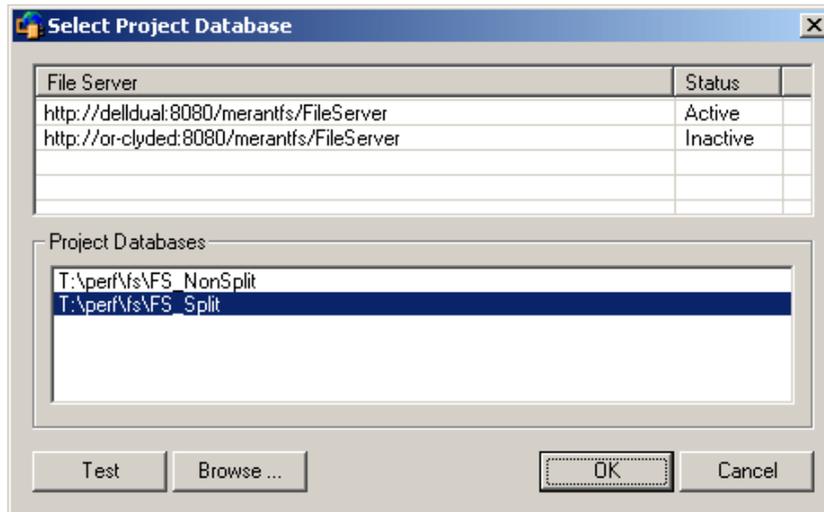
注 プロジェクトデータベースに割り当てられたプロモーションモデルの階層構造を強制的に適用できなくなるため、〈Change (変更)〉オプションを使用してリビジョンをプロモートしないでください。

プロモーショングループを変更するには

- 〔Version Manager Options (Version Manager オプション)〕ダイアログボックスを開きます (IDE ごとのメニューコマンドについては、93 ページのパート 2、『各 IDE に固有の情報』を参照してください)。
- 〔General (全般)〕タブを選択し、〈Manage Promotion Groups (プロモーショングループの管理)〉グループの【Change (変更)】をクリックします。〔Change Promotion Group (プロモーショングループの変更)〕ダイアログボックスが表示されます。



- 3 〈Select Project (プロジェクトの選択)〉の下にデフォルトのプロジェクトデータベースが表示されます。別のプロジェクトデータベースで作業する場合は、【Open Database (データベースを開く)】ボタンをクリックします。【Select Project Database (プロジェクトデータベースの選択)】ダイアログボックスが表示されます。



以下のいずれかを実行します。

- 一覧表示されている Version Manager File Server 上にあるプロジェクトデータベースを開くには、〈Project Databases (プロジェクトデータベース)〉リストボックスからプロジェクトデータベースを選択し、【OK】をクリックします。

Version Manager File Server をリストに追加するには、〈File Server (ファイルサーバ)〉リストボックスの空のセルをダブルクリックしてファイルサーバのホストシステム名を入力します。ENTER キーを押すと、入力がオートコンプリート (http:// システム名:8080/serenafs/FileServer) し、テストされます。https サーバまたは非標準ポートを指定するには、オートコンプリートエントリをダブルクリックし、編集して、ENTER キーを押します。

- ローカルファイルシステムまたはネットワーク上のプロジェクトデータベースを開くには、【Browse (参照)】ボタンをクリックして表示されるダイアログボックスから該当の場所を探します。

- 4 〈Select Project (プロジェクトの選択)〉フィールドで、ラベルを割り当てるファイルを含むプロジェクトまたはプロジェクトデータベースを選択します。
- 5 プロジェクトデータベースまたは選択されたプロジェクトのサブプロジェクトにあるすべてのファイルを表示するには、〈Include files in subprojects (サブプロジェクトも含む)〉チェックボックスを選択します。



注 ルートレベルにファイルが含まれていないプロジェクトまたはプロジェクトデータベースを選択した場合は、このチェックボックスを選択する必要があります。

- 6 〈Select Files (ファイルの選択)〉フィールドで、操作の対象となるファイルを選択します。



ヒント 表示されているファイル全部に対して操作を実行する場合は、ファイルを選択しないで【OK】をクリックします。すべてのファイルに対して操作を実行するかどうかを確認するメッセージが表示されます。【Yes (はい)】をクリックします。

- 7 〈Change From (現在のグループ)〉フィールドでプロモーショングループを指定するか、【Browse (参照)】ボタンをクリックして選択します。

- 8 <To (新しいグループ)> フィールドでプロモーショングループを指定するか、【Browse (参照)】 ボタンをクリックして選択します。
- 9 【OK】 をクリックします。

プロモーショングループの削除

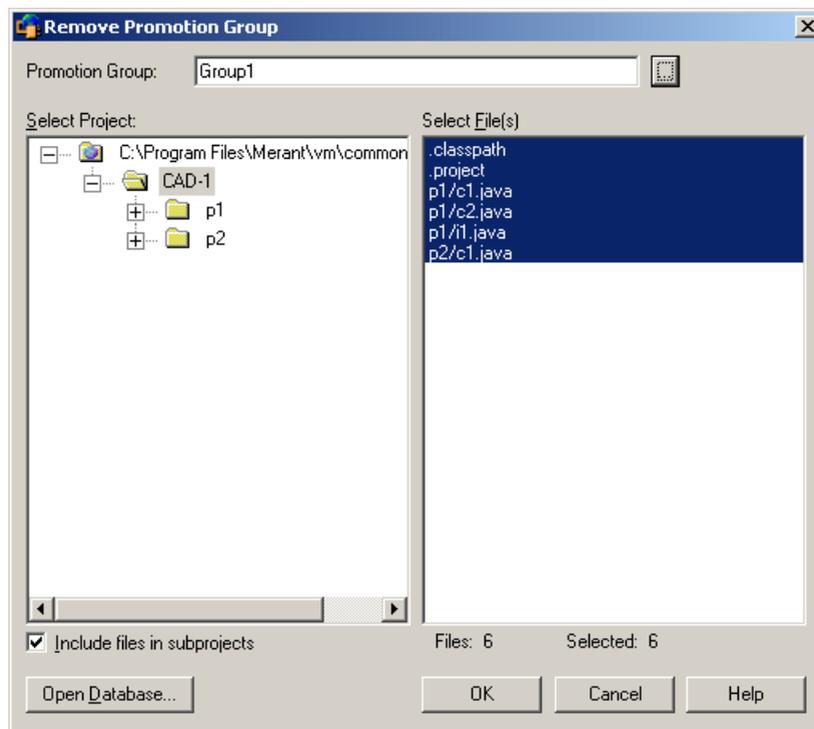
プロモーショングループを削除するには、リビジョン、1 つまたは複数のバージョン管理ファイル、プロジェクト、フォルダ、またはプロジェクトデータベースのいずれかを選択します。



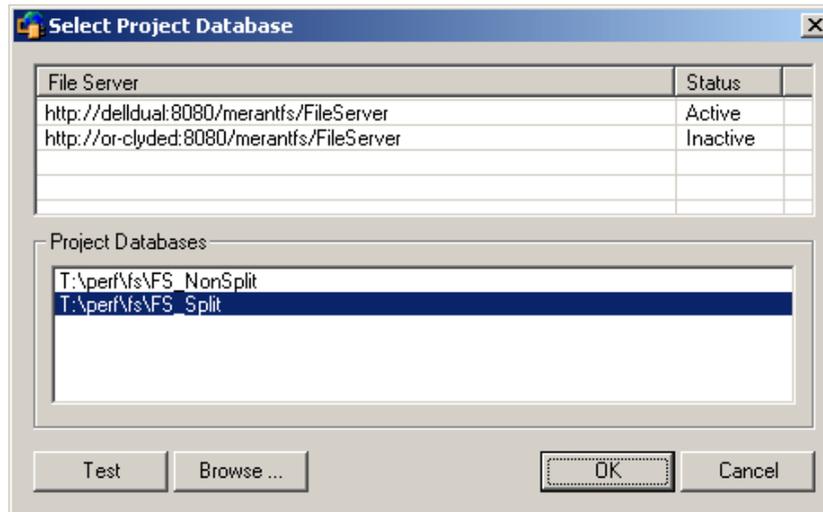
注 リビジョンからプロモーショングループを削除しても、プロモーションモデルがプロモーションデータベースで有効であれば、リビジョンをチェックアウトするたびに、最下位レベルのプロモーショングループが関連付けられます。

リビジョンからプロモーショングループを削除するには

- 1 [Version Manager Options (Version Manager オプション)] ダイアログボックスを開きます (IDE ごとのメニューコマンドについては、93 ページのパート 2、『各 IDE に固有の情報』を参照してください)。
- 2 [General (全般)] タブを選択し、<Manage Promotion Groups (プロモーショングループの管理)> グループの【Remove (削除)】 をクリックします。[Remove Promotion Group (プロモーショングループの削除)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 〈Select Project (プロジェクトの選択)〉の下にデフォルトのプロジェクトデータベースが表示されます。別のプロジェクトデータベースで作業する場合は、【Open Database (データベースを開く)】ボタンをクリックします。〔Select Project Database (プロジェクトデータベースの選択)〕ダイアログボックスが表示されます。



以下のいずれかを実行します。

- 一覧表示されている Version Manager File Server 上にあるプロジェクトデータベースを開くには、〈Project Databases (プロジェクトデータベース)〉リストボックスからプロジェクトデータベースを選択し、【OK】をクリックします。

Version Manager File Server をリストに追加するには、〈File Server (ファイルサーバ)〉リストボックスの空のセルをダブルクリックしてファイルサーバのホストシステム名を入力します。ENTER キーを押すと、入力がオートコンプリート (http:// システム名:8080/serenafs/FileServer) し、テストされます。https サーバまたは非標準ポートを指定するには、オートコンプリートエントリをダブルクリックし、編集して、ENTER キーを押します。

- ローカルファイルシステムまたはネットワーク上のプロジェクトデータベースを開くには、【Browse (参照)】ボタンをクリックして表示されるダイアログボックスから該当の場所を探します。

- 4 〈Select Project (プロジェクトの選択)〉フィールドで、ラベルを割り当てるファイルを含むプロジェクトまたはプロジェクトデータベースを選択します。
- 5 プロジェクトデータベースまたは選択されたプロジェクトのサブプロジェクトにあるすべてのファイルを表示するには、〈Include files in subprojects (サブプロジェクトも含む)〉チェックボックスを選択します。



注 ルートレベルにファイルが含まれていないプロジェクトまたはプロジェクトデータベースを選択した場合は、このチェックボックスを選択する必要があります。

- 6 〈Select Files (ファイルの選択)〉フィールドで、操作の対象となるファイルを選択します。



ヒント 表示されているファイル全部に対して操作を実行する場合は、ファイルを選択しないで【OK】をクリックします。すべてのファイルに対して操作を実行するかどうかを確認するメッセージが表示されます。【Yes (はい)】をクリックします。

- 7 <Promotion Group (プロモーショングループ)> フィールドでプロモーショングループを指定するか、【Browse (参照)】 ボタンをクリックして選択します。
- 8 【OK】 をクリックします。

第 5 章

ソース管理情報の表示

はじめに	82
プロパティ	82
Pulse によるソース管理動作の監視	83
履歴レポートについて	88
相違点レポートについて	91

はじめに

目的 ソース管理に追加したファイルについての以下の情報にアクセスする方法を説明します。

- アーカイブおよびリビジョンのプロパティ
- ほかのチームメンバーのソース管理動作、および自分が行った動作の結果
- アーカイブおよびリビジョンにおけるソース管理動作の履歴
- 2 個のファイル間、2 個のリビジョン間、またはファイルとリビジョン間の相違点

IDE 固有の情報 IDE の中には、上記機能をサポートしないものもあります。ご使用の IDE でサポートする機能については、[93 ページのパート 2、『各 IDE に固有の情報』](#)を参照してください。

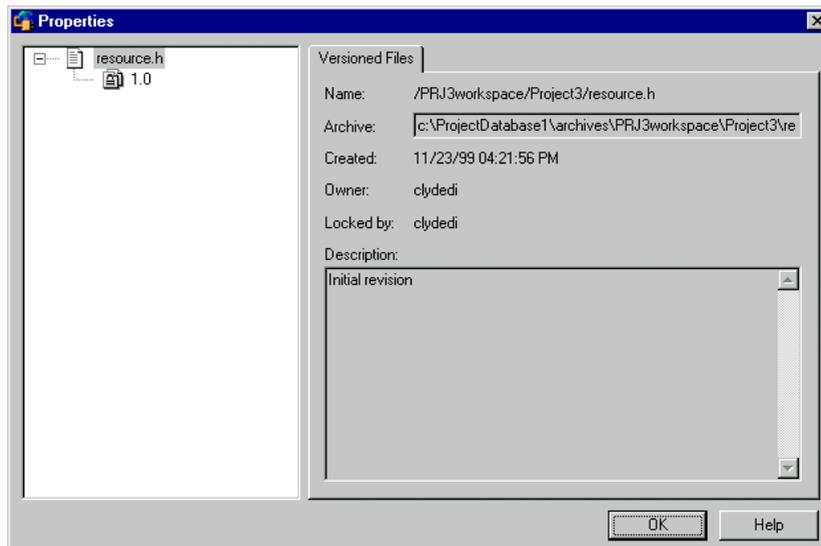
プロパティ

ソース管理下にあるファイルについては、ソース管理のプロパティを表示することができます。

プロパティの参照

ファイルのソース管理プロパティを表示するには、次の操作を行います。

- 1 ソース管理情報を参照するファイルを選択します。
- 2 [Version Manager Properties (Version Manager プロパティ)] ダイアログボックスを開きます (IDE ごとのメニューコマンドについては、[93 ページのパート 2、『各 IDE に固有の情報』](#)を参照してください)。アーカイブは、ダイアログボックスの左側の表示部に表示されます。



- 3 「+」記号をクリックして、アーカイブの表示を展開します。すべてのリビジョン、バージョンラベル、およびプロモーショングループが展開されて表示されます。

タブの表示	<p>〔Version Manager Properties (Version Manager プロパティ)〕 ダイアログボックスの内容は、左側のフィールドで選択した項目により異なります。ダイアログボックスが最初に表示されたときには、アーカイブが選択されており、〔Versioned File (バージョン管理ファイル)〕 タブが表示されます。アーカイブ内のリビジョンを選択すると、〔Revision (リビジョン)〕、〔Version Labels (バージョンラベル)〕、および〔Promotion Groups (プロモーショングループ)〕 の各タブが表示されます。</p>
〔Versioned files (バージョン管理ファイル)〕 タブ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 〔Versioned Files (バージョン管理ファイル)〕 タブには、以下の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • ファイル名 • 関連する Version Manager アーカイブの名前と場所 • アーカイブの作成日 • アーカイブを作成したユーザ名 • アーカイブ内のリビジョンを現在ロックしているユーザ名 • プロジェクトにファイルが追加されたときに入力された説明
〔Revision (リビジョン)〕 タブ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 〔Revision (リビジョン)〕 タブには、以下の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • リビジョン番号 • 選択されたリビジョン用に、ファイルが最後に変更された日時 • リビジョンをチェックインしたユーザ • リビジョンを現在ロックしているユーザ名 • リビジョンがチェックインされたときに入力された変更の説明
〔Version Labels (バージョンラベル)〕 タブ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 〔Version Labels (バージョンラベル)〕 タブには、選択されたリビジョンに割り当てられている全バージョンラベルの一覧が表示されます。
〔Promotion Groups (プロモーショングループ)〕 タブ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 〔Promotion Groups (プロモーショングループ)〕 タブには、選択されたリビジョンに割り当てられている全プロモーショングループの一覧が表示されます。

Pulse によるソース管理動作の監視

Pulse について 同じプロジェクトにログインしているユーザは、Pulse を使用することにより、特定のソース管理イベントを監視できます。たとえば、別のユーザによって、新しいファイルが追加されたり、既存のファイルに加えられた変更がチェックインされると、Pulse によって通知されます。複数の開発環境において、複数の Version Manager プロジェクトで作業している場合は、開いているすべてのプロジェクトの動作を表示したり、特定の環境の動作のみを表示することができます。

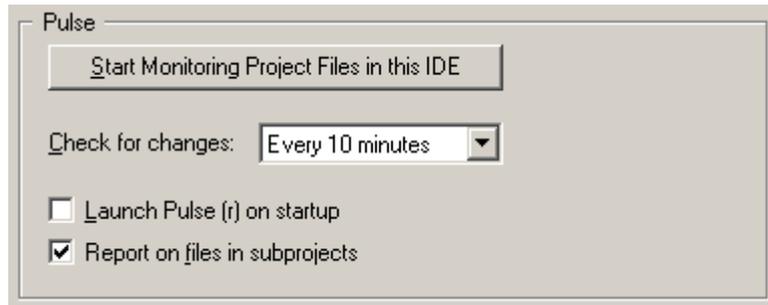
Pulse によって、現在の開発環境から実行するすべてのソース管理アクションに対する結果メッセージも表示されます。たとえば、Visual Basic 内からファイルをチェックアウトした場合に、Pulse にチェックアウトの結果（成功または失敗）が表示されます。

Pulse の設定

Pulse は、使用する前に、〔ChangeMan Options (ChangeMan オプション)〕 ダイアログボックスで設定を行う必要があります。

Pulse を設定するには

- 1 [ChangeMan Options (ChangeMan オプション)] ダイアログボックスを開きます (IDE ごとのメニューコマンドについては、93 ページのパート 2、『各 IDE に固有の情報』を参照してください)。
- 2 [General (全般)] タブを選択します。〈Pulse〉グループボックスに Pulse のオプションが表示されます。



[ChangeMan Options (ChangeMan オプション)] ダイアログボックスから、ご使用の IDE でのソース管理動作の表示を開始および中止できます。Pulse の起動と表示の詳細については、次のセクションを参照してください。

- 3 以下のうち必要な作業を行います。
 - 〈Check for changes (変更を確認)〉ドロップダウンリストから、開いているプロジェクトに変更があるかどうかを Pulse でスキャンする頻度を選択します。デフォルトでは、変更があるかどうか 10 分ごとにチェックされます。このオプションは、プロジェクト全体での動作の監視に適用されます。



注 大規模な Version Manager プロジェクトで作業している場合に、変更があるかどうかを頻繁にスキャンすると、パフォーマンスに影響する可能性があります。

- Version Manager IDE クライアントの起動と同時に Pulse を自動的に起動するには、〈Launch Pulse (r) on startup (スタートアップ時に Pulse を起動)〉チェックボックスを選択します。
- 開いている Version Manager のプロジェクトとサブプロジェクトのすべてのファイルについての変更を表示させるには、〈Report on files in subprojects (サブプロジェクトのファイルについてのレポート)〉チェックボックスを選択します。このオプションが選択されていない場合は、ルートの Version Manager プロジェクトのファイルへの変更のみが表示されます。



注 〈Report on files in subprojects (サブプロジェクトのファイルについてのレポート)〉チェックボックスの設定を変更した場合は、IDE を再起動して、変更を有効にする必要があります。

Pulse の起動について

自動起動 Pulse は、起動するとただちに、ソース管理動作の監視を開始します。Version Manager IDE クライアントを起動するたびに、Pulse が自動的に起動するよう設定できます。83 ページの『Pulse の設定』を参照してください。

- 1 つの IDE Pulse が実行されていない場合や、IDE でのソース管理動作の監視を中止している場合は、〔ChangeMan Options (ChangeMan オプション)〕ダイアログボックスから、監視を開始または再開することができます。
- 複数の IDE ご使用のシステムで実行している複数の IDE で動作を監視するには、各 IDE 内から Pulse を起動します。Pulse には、起動された IDE での動作についての情報のみが表示されます。たとえば、Visual Basic と Visual C++ の両方で Version Manager のプロジェクトに対して作業している場合でも、Visual Basic から起動した Pulse には、Visual Basic のプロジェクトでの動作のみが表示されます。



注 複数の開発環境で作業しており、すべての環境において監視を中断した場合は、【Start Monitoring Project Files in this IDE (プロジェクトファイルの監視を開始)】をクリックしても、監視は再開されません。表示を再開するには、動作の監視の中断を解除する必要があります。[87 ページの『プロジェクト動作の監視の中断』](#)を参照してください。

Pulse の起動

Pulse を起動するには、次の操作を行います。

- 〔ChangeMan Options (ChangeMan オプション)〕ダイアログボックスを開きます (IDE ごとのメニューコマンドについては、[93 ページのパート 2、『各 IDE に固有の情報』](#)を参照してください)。
- 〔General (全般)〕タブを選択します。
- 〔Pulse〕グループボックスで、【Start Monitoring Project Files in this IDE (プロジェクトファイルの監視を開始)】をクリックします。

Pulse の表示

Pulse を起動すると、デスクトップのタスクバーのステータス領域にアイコン () が表示されます。ソース管理動作が検出されると、アイコンが () に変わって、ユーザに通知されます。アイコンが変わったときに〔Pulse〕ウィンドウが表示されていない場合は、アイコンをダブルクリックすると、〔Pulse〕ウィンドウが表示されます。

Pulse の非表示

〔Pulse〕ウィンドウを非表示にするには、【Close (閉じる)】をクリックします。〔Pulse〕ウィンドウを閉じて、監視は中断されません。ウィンドウを再度表示するには、アイコンをダブルクリックします。

ソース管理動作の表示

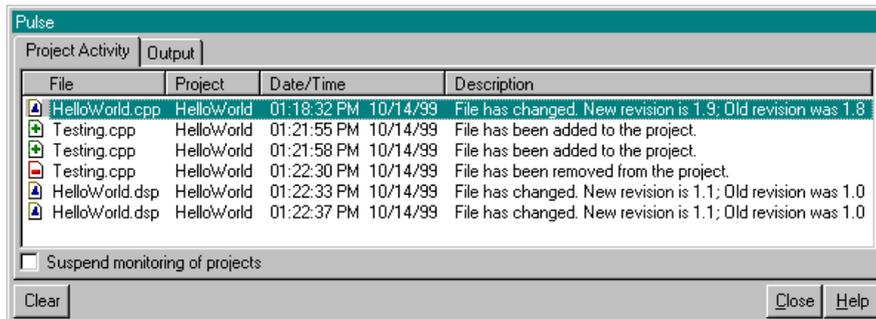
Pulse では、以下の 2 種類のソース管理動作を監視できます。

- | | |
|----------|--|
| プロジェクト全体 | <ul style="list-style-type: none"> ■ Pulse が実行されている各 IDE で開かれている、すべての Version Manager プロジェクトでの動作。これには、ほかのユーザのマシンから実行されている動作、および現在自分のシステムで実行中のほかの開発環境も含まれます。 |
| ローカル | <ul style="list-style-type: none"> ■ 現在、自分が使用している開発環境から実行されている動作。 |

プロジェクト全体での動作

〔Project Activity
(他ユーザの操作)〕
タブ

〔Project Activity (他ユーザの操作)〕タブには、現在システムでアクティブな開発環境以外のインスタンスから発生した動作に関する情報が表示されます。たとえば、別のワークステーションのユーザと Version Manager のプロジェクトを共有しており、そのユーザが新しいファイルをプロジェクトに追加した場合に、Pulse により通知されます。また、同じシステム上の同じ環境の複数のインスタンス全体の動作を監視することもできます。



〈File (ファイル)〉列のアイコンによって、各イベントは以下のように区別されます。

アイコン	発生したイベント
	新しいファイルのソース管理への追加
	ソース管理からのファイルの削除
	チップまたは最新リビジョンとしてのファイルの新規リビジョンのチェックイン

プロジェクト全体の
動作に関する情報

発生する各イベントに対して、〔Project Activity (他ユーザの操作)〕タブに以下の情報が表示されます。

- File (ファイル)：追加、削除、または変更されたファイルの名前です。〈File (ファイル)〉という列ヘッダをクリックすると、イベントがファイル名のアルファベット順にソートされます。
- Project (プロジェクト)：動作によって影響を受ける Version Manager のプロジェクトです。〈Project (プロジェクト)〉という列ヘッダをクリックすると、イベントがプロジェクト名のアルファベット順にソートされます。
- Date/Time (日時)：イベントが検出された日付と時刻です。〈Date/Time (日時)〉という列ヘッダをクリックすると、イベントが日付順にソートされます。
- Description (コメント)：発生したイベントです。新規リビジョンが追加されると、この列には、古いリビジョン番号と新しいリビジョン番号の両方が表示されます。〈Description (コメント)〉という列ヘッダをクリックすると、イベントが説明のアルファベット順にソートされます。

詳細な動作情報

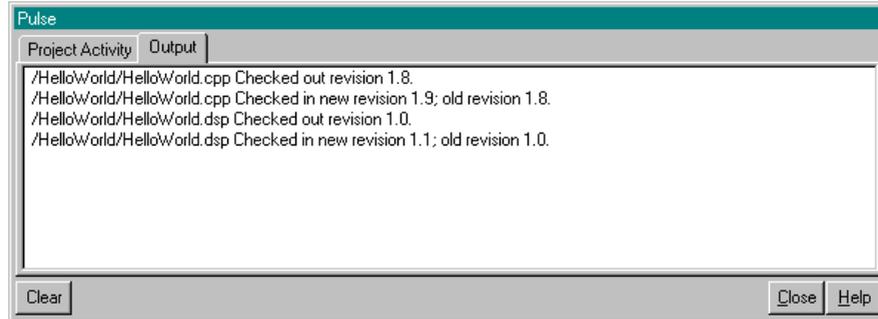
Version Manager プロジェクト内のファイルの場所や、ファイルが追加、削除、または変更された開発環境など、各イベントに関する詳細情報を参照することもできます。

ソース管理イベントに関する詳細情報を表示するには、〔Project Activity (他ユーザの操作)〕タブの下イベントをダブルクリックします。〔Project Activity Details (他ユーザの操作の詳細)〕ウィンドウが表示されます。

ローカルの結果メッセージ

〔Output (アウト
プット)〕タブ

〔Output (アウトプット)〕タブでは、Pulse によって、現在アクティブな開発環境から実行されるすべてのソース管理アクションに対する結果メッセージが表示されます。



プロジェクト動作の監視の中断

特定の IDE のプロジェクトで、プロジェクト全体におけるソース管理動作の監視を中止したり、開かれているすべての IDE の監視を中断したりすることができます。



注 プロジェクトの動作の表示を中断しても、Pulse の〔Output (アウトプット)〕タブに表示されたソース管理結果のメッセージには影響しません。

特定の IDE

特定の IDE の監視を中止するには、次の操作を行います。

- 1 IDE 内から〔ChangeMan Options (ChangeMan オプション)〕ダイアログボックスを開きます (IDE ごとのメニューコマンドについては、93 ページのパート 2、『各 IDE に固有の情報』を参照してください)。
- 2 〔General (全般)〕タブを選択します。
- 3 〈Pulse〉グループボックスで、【Stop/Start Monitoring Project Files in this IDE (プロジェクトファイルの監視を中断)】をクリックします。

監視の再開

【Stop/Start Monitoring Project Files in this IDE (プロジェクトファイルの監視を開始)】をクリックすると、監視を再開できます。

すべての開発環境

開いているすべての IDE の監視を中断するには、次の操作を行います。

- 1 〔Pulse〕ウィンドウが表示されていない場合は、デスクトップのタスクバーのステータス領域に表示されている Pulse アイコン () をダブルクリックします。
- 2 〔Project Activity (他ユーザの操作)〕タブを選択します。
- 3 〈Suspend monitoring of projects (プロジェクトの監視を中断)〉チェックボックスを選択します。デスクトップのタスクバーのステータス領域にあるアイコンは、中断された状態を反映します ()。

監視の再開 <Suspend monitoring of projects (プロジェクトの監視を中断)> チェックボックスの選択を解除すると、監視を再開できます。



ヒント Pulse のタスクバーアイコンを右クリックして、ポップアップメニューから [Suspend (中断)] を選択することにより、プロジェクトの監視を中断または再開することもできます。

Pulse の終了

ご使用の IDE を終了しても、Pulse はアクティブな状態を維持します。Pulse を終了する場合は、Pulse のタスクバーアイコンを右クリックし、ポップアップメニューから [Exit (終了)] を選択します。

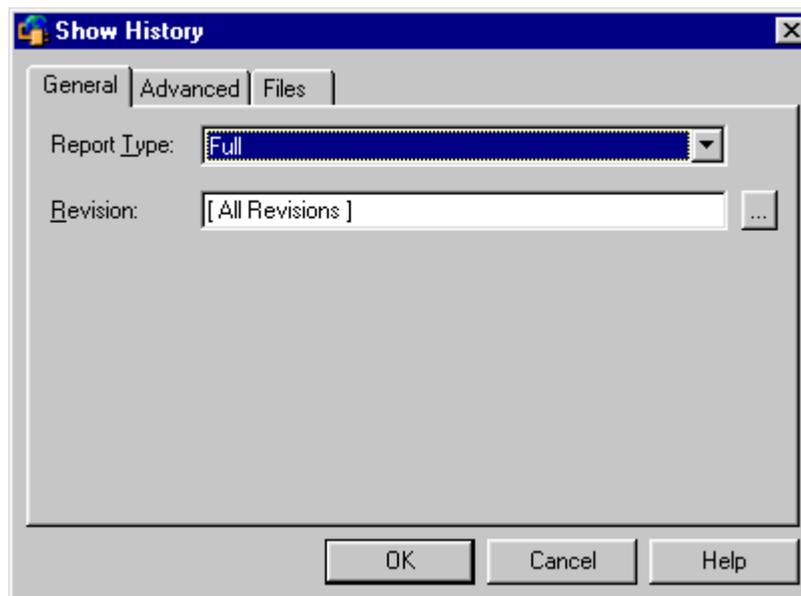
履歴レポートについて

履歴レポートには、開発プロセスの監視、アーカイブ履歴の検証、およびアーカイブ属性のチェックなどに使用できる、アーカイブまたはリビジョン、あるいはその両方に関する情報の概要が出力されます。履歴レポートの内容について詳しくは、『Version Manager ユーザガイド』を参照してください。

履歴レポートの作成

履歴レポートを生成するには、次の操作を行います。

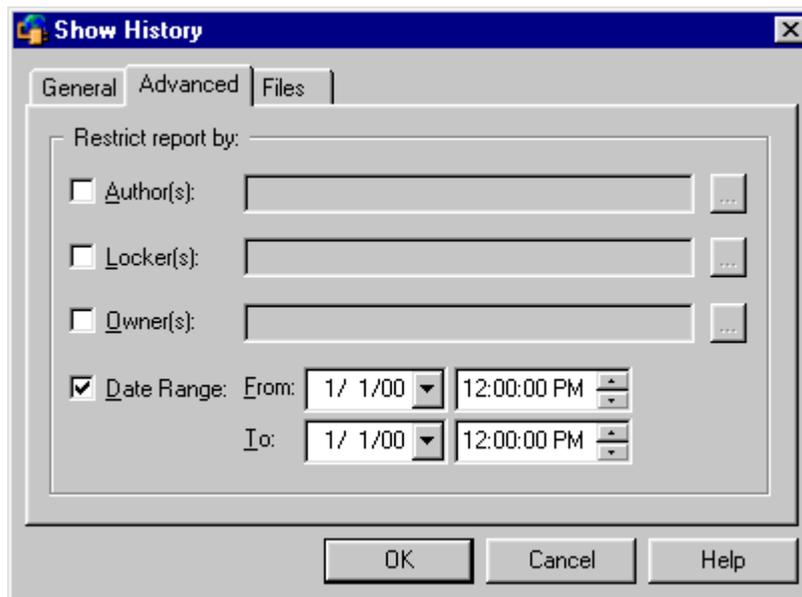
- 1 レポートの対象となるファイルを選択します。
- 2 [Show History (履歴の表示)] ダイアログボックスを開きます (IDE ごとのメニューコマンドについては、93 ページのパート 2、『各 IDE に固有の情報』を参照してください)。



注 [Show History (履歴の表示)] ダイアログボックスに示されるフィールドは、選択するレポートタイプによって異なります。

〔General (全般)〕 タブのオプション	3 〔General (全般)〕 タブの 〈Report Type (レポートタイプ)〉 ドロップダウンリストで、レポートタイプを選択します。
Full (すべての情報)	完全な情報 (ファイル、リビジョン、ロック、およびバージョンラベル)。 特定のリビジョンを選択するには、〈Revision (リビジョン)〉フィールドに、リビジョン番号、バージョンラベル、またはプロモーショングループを入力するか、【Browse (参照)】 ボタンをクリックして選択します。
File information only (ファイル情報のみ)	アーカイブ情報のみ (作成日、所有者、ロック、バージョンラベルなど)。このレポートにはリビジョン履歴は含まれません。
Revision information only (リビジョン情報のみ)	全リビジョンまたは選択したリビジョンのリビジョン情報のみ。 特定のリビジョンを選択するには、〈Revision (リビジョン)〉フィールドにリビジョン番号を (コンマで区切って) 入力します。
List locked revisions (ロックされたリビジョンの 情報)	選択したファイル内のロックされたリビジョンのリスト。
List revisions with version label (バージョン ラベルを含むリビジョンの 情報)	特定のバージョンラベルと一致するリビジョンのリスト。 バージョンラベルを選択するには、〈Label (バージョンラベル)〉フィールドにバージョンラベルを入力するか、【Browse (参照)】 ボタンをクリックして選択します。
List revisions in group (グ ループのリビジョン一覧)	特定のプロモーショングループと一致するリビジョンのリスト。 プロモーショングループを選択するには、〈Group (プロモーショングループ)〉フィールドにプロモーショングループを入力するか、【Browse (参照)】 ボタンをクリックして選択します。
List newest revisions (最 新リビジョン一覧)	最新リビジョンのリスト (複数のファイルを選択した場合)。
Check tips against version/revision (指定リ ビジョンではないチップの 確認)	特定のリビジョンを最新リビジョンと比較した情報。リビジョンを指定するには、〈Revision (リビジョン)〉フィールドに、リビジョン番号、バージョンラベル、またはプロモーショングループを入力するか、【Browse (参照)】 ボタンをクリックして選択します。

- [Advanced (詳細)] タブのオプション
- 4 [Advanced (詳細)] タブでは、作成者、ユーザによるロック、所有者、日付範囲、またはこれらのオプションの組み合わせに基づいてレポートを作成し、レポート情報を制限することができます。



- Author(s) (作成者)
- 特定の作成者に基づいてレポートを作成するには、〈Author(s) (作成者)〉フィールドに作成者名を入力するか、【Browse (参照)】ボタンをクリックして作成者を選択します。複数の作成者を入力する場合は、コンマ (,) で区切ります。
- Locker(s) (ロックしたユーザ)
- ユーザのロックに基づいてレポートを作成するには、〈Locker(s) (ロックしたユーザ)〉フィールドにユーザ名を入力するか、【Browse (参照)】ボタンをクリックしてユーザを選択します。複数のユーザを入力する場合は、コンマ (,) で区切ります。
- Owner(s) (所有者)
- 特定の所有者に基づいてレポートを作成するには、〈Owner(s) (所有者)〉フィールドに所有者名を入力するか、【Browse (参照)】ボタンをクリックして所有者を選択します。複数の所有者を入力する場合は、コンマ (,) で区切ります。
- Date Range (日付範囲)
- 日付範囲に基づいてレポートを作成するには、〈Date Range (日付範囲)〉チェックボックスを選択して、〈From (開始日時)〉フィールドと〈To (終了日時)〉フィールドに日時を指定します。
- [Files (ファイル)] タブ
- 5 [Files (ファイル)] タブで、履歴レポートが作成されるファイルを確認します。
- [Files (ファイル)] タブには、選択したすべてのファイルのリストが表示され、ファイル名には、チェックマークが付けられています。このリストでファイルを選択または選択解除して、選択するファイルを変更できます。
- 6 必要なオプションを選択したら、【OK】をクリックします。履歴レポートが表示されます (多数のファイルについてのレポートを作成すると、時間がかかる場合があります)。

相違点レポートについて

ファイルと比較したり相違点レポートを作成するときは、Merge Tool という別のユーティリティを起動します。比較できる項目は次のとおりです。

- リビジョンと作業ファイル
- 同じアーカイブのリビジョン
- 2つのアーカイブのリビジョン
- 2つの作業ファイル

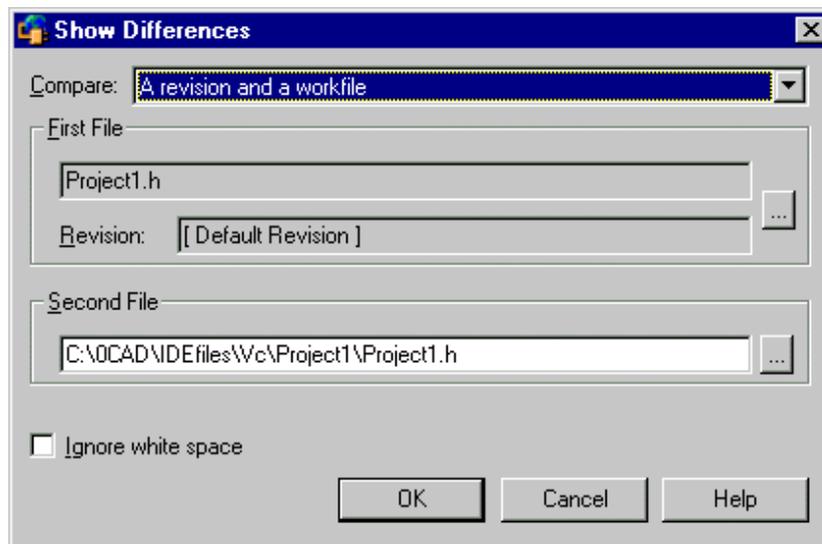
相違点レポートには、以下の機能があります。

- ファイルまたはリビジョン間の相違点を特定する
- チェックインする前にファイルに加えられた変更を確認する
- タイムスタンプが疑わしい場合に、どちらが新しいリビジョンかを確認する

相違点レポートの作成

相違点レポートを作成するには、次の操作を行います。

- 1 レポートの対象となるファイルを選択します。
- 2 [Show Differences (相違点の表示)] ダイアログボックスを開きます (IDE ごとのメニューコマンドについては、93 ページのパート 2、『各 IDE に固有の情報』を参照してください)。



[Show Differences (相違点の表示)] ダイアログボックスの内容は、選択したファイルの種類や比較方法によって異なります。

- 3 実行する比較方法を、〈Compare (比較)〉ドロップダウンリストから選択します。

比較方法	選択する比較項目
リビジョンと作業ファイル	バージョン管理ファイルとリビジョン番号、および作業ファイル
同じバージョン管理ファイルのリビジョン	バージョン管理ファイルとリビジョン番号、および 2 番目のリビジョン番号
2 つのバージョン管理ファイルのリビジョン	2 つのバージョン管理ファイルと 2 つのリビジョン番号
2 つの作業ファイル	2 つの作業ファイル

- 4 〈First File (第 1 のファイル)〉および 〈Second File (第 2 のファイル)〉グループで選択したファイルまたはリビジョンを変更するには、【Browse (参照)】ボタンをクリックして、異なるファイルまたはリビジョンを選択します。
- 5 空白やタブ、改ページを無視する場合は、〈Ignore white space (空白を無視する)〉チェックボックスを選択します。
- 6 【OK】をクリックします。Merge Tool が起動し、別のウィンドウに表示されます。
- 7 相違点を見るには、ファイルをスクロールして色のついたテキストブロックを表示します。〔Merge Tool〕ウィンドウから【Next Difference (次の相違行)】() をクリックすることによって、異なる箇所を直接表示することもできます。

相違点表示の拡張機能および相違点レポートの解釈方法の詳細については、『Serena PVCS Version Manager ユーザガイド』を参照してください。

パート 2

各 IDE に固有の情報

ColdFusion Studio	95
FrontPage	105
PowerBuilder	113
Rational Application Developer 6 (Eclipse 3) のリッチな統合	129
Rational Rose	191
TestDirector	201
VisualAge for Java	211
Visual Basic	227
Visual C++	239
VisualCafe	251
Visual InterDev	263
Visual Studio : SCC 統合	285
Visual Studio .NET 2003 のリッチな統合	301
Visual Studio 2005 のリッチな統合	353
WebSphere Studio Application Developer 5 (Eclipse 2)	419

はじめに

内容と目的 ここでは、サポートされている各 IDE での、Version Manager IDE クライアントの設定および使用方法を説明しています。ご使用の IDE で Version Manager IDE クライアントを設定および使用するための手引きを目的としています。

詳細情報 以下の情報も参照してください。

情報	参照トピック (ページ)
ソース管理の概念	第 1 章、21 ページの『Version Manager ソース管理の概要』
SCC 準拠の IDE での Version Manager IDE クライアントの設定方法	第 2 章、27 ページの『SCC IDE によるソース管理のセットアップ』
Web ベースの IDE プロジェクトでの Version Manager IDE クライアントの設定方法	第 3 章、41 ページの『COM IDE によるソース管理プロジェクトのセットアップ』
デフォルト設定および詳細設定	第 4 章、53 ページの『ソース管理の使用法』
ソース管理下の項目に関する情報の参照	第 5 章、81 ページの『ソース管理情報の表示』
ご使用の IDE におけるソース管理用の設定と実行	ご使用の IDE に付属のドキュメント

第 6 章

ColdFusion Studio

はじめに	96
サポートされている機能の使用	96
ソース管理プロジェクトの設定	97
ソース管理の使用法	103

はじめに

目的 この章の目的は、以下の 4 つです。

- Macromedia® ColdFusion® Studio 5.0 から使用可能な Version Manager の各機能の紹介と、それらの機能の使用方法的説明
- このマニュアルのパート 1 で解説された機能のうち、この開発環境（IDE）には適用されないものの解説
- ソース管理プロジェクトの設定や、ソース管理へのファイルの追加を行う管理者の手引き
- ソース管理下にあるファイルに ColdFusion Studio からアクセスする開発チームの手引き

詳細情報 以下の情報については、[19 ページのパート 1、『Version Manager IDE クライアント』](#)を参照してください。

- ソース管理の概念
- ソース管理のデフォルト動作
- ソース管理の詳細設定

サポートされている機能の使用

サポートされている機能 ColdFusion Studio では、Version Manager IDE クライアントで使用可能なソース管理機能のサブセットがサポートされます。この IDE 特有の制限事項として、下記は使用できません。

- アーカイブのプロパティの表示
- 詳細設定の使用
- プロジェクト間でのアーカイブの共有

機能の使用 次の表にまとめたメニューコマンドには、操作するファイルタイプに応じて、次のいずれかの方法でアクセスします。

- ColdFusion Studio プロジェクトファイルを操作する場合は、[Projects (プロジェクト)] タブのプロジェクト表示部のプロジェクトアイコンを右クリックします。
- ColdFusion Studio 作業ファイルを操作する場合は、[Projects (プロジェクト)] タブのファイル表示部でファイルを選択して右クリックします。

目的	操作	参照セクション
リビジョンの取得	[Source Control (ソース管理)] – [Get Latest Version (最新のファイルを取得)]	103 ページの『ファイルの取得』
リビジョンのチェックアウト	[Source Control (ソース管理)] – [Check Out (チェックアウト)]	103 ページの『ファイルのチェックアウト』
リビジョンのチェックアウトの取り消し	[Source Control (ソース管理)] – [Undo Check Out (チェックアウトの取り消し)]	103 ページの『チェックアウトの取り消し』
リビジョンのチェックイン	[Source Control (ソース管理)] – [Check In (チェックイン)]	104 ページの『ファイルのチェックイン』

目的	操作	参照セクション
バージョンラベルの管理	(Version Manager デスクトップクライアントを使用)	『Version Manager ユーザガイド』
リビジョンまたはアーカイブのプロパティの表示	(Version Manager デスクトップクライアントを使用)	『Version Manager ユーザガイド』
ソース管理動作の監視	[Source Control (ソース管理)] – [Run Source Control Application (ソース管理アプリケーションの実行)]	83 ページの『Pulse によるソース管理動作の監視』
履歴レポートの生成	[Source Control (ソース管理)] – [Show History (履歴の表示)]	88 ページの『履歴レポートについて』
相違点レポートの生成	[Source Control (ソース管理)] – [Show Differences (相違点の表示)]	91 ページの『相違点レポートについて』
[Version Manager Options (Version Manager オプション)] ダイアログボックスの使用	[Source Control (ソース管理)] – [Run Source Control Application (ソース管理アプリケーションの実行)]	33 ページの『[Version Manager Options (Version Manager オプション)] ダイアログボックスのデフォルト値の設定』
ソース管理へのプロジェクトファイルのマッピング (追加)	[Source Control (ソース管理)] – [Map Project to Source Control (ソース管理にプロジェクトを設定)]	98 ページの『ソース管理へのプロジェクトのマッピング』
ソース管理からのプロジェクトファイルの削除	[Source Control (ソース管理)] – [Remove Project File from Source Control (ソース管理からプロジェクトファイルを削除)]	102 ページの『ソース管理からのファイルの削除』
ソース管理への作業ファイルの追加	[Source Control (ソース管理)] – [Add File to Source Control (ソース管理にファイルを追加)]	101 ページの『ソース管理へのファイルの追加』
ソース管理からの作業ファイルの削除	[Source Control (ソース管理)] – [Remove File from Source Control (ソース管理からのファイルの削除)]	102 ページの『ソース管理からのファイルの削除』

ソース管理プロジェクトの設定

内容 このセクションでは、ColdFusion Studio で使用するための Version Manager IDE クライアントの設定方法を説明しています。

前提条件 設定を行う前に、Version Manager デスクトップクライアントを使用して、ColdFusion Studio プロジェクトに関連付けられたソース管理プロジェクトを含むプロジェクトデータベースを作成します (このようなプロジェクトデータベースがまだ作成されていない場合)。

詳細情報 [第 2 章、27 ページの『SCC IDE によるソース管理のセットアップ』](#) を参照してください。

複数ユーザで使用されるプロジェクトの設定

複数のユーザがプロジェクトを使用する場合、複数ユーザ用にプロジェクトを設定する必要があります。

複数のユーザを 1 つのプロジェクトに接続するには、次の操作を行います。

- 1 すべてのユーザがアクセス可能な場所に ColdFusion プロジェクトを作成します。

- 2 すべてのユーザがアクセス可能な場所に Version Manager プロジェクトデータベースを作成します。
- 3 ColdFusion プロジェクトをソース管理に追加します（詳細については、次のセクションを参照してください）。
- 4 ColdFusion IDE を使用して、それぞれの開発システムからプロジェクトを開きます。

**注**

- それぞれの開発システムにログインするには、固有のユーザ ID を使用します。各ユーザが同じ OS ログインを使用する場合は、ユーザがチェックアウトしたファイルは、ログインしたすべてのユーザがチェックインできます。
- 新しいファイルをプロジェクトに追加した後、ColdFusion プロジェクトファイル (.apf) をチェックインします。新規ファイルを表示するには、各ユーザはプロジェクトを再オープンする必要があります。

ソース管理プロバイダの選択

ColdFusion Studio では、プロジェクトごとに個別にソース管理プロバイダを選択することができます。

ソース管理プロバイダを選択するには、次の操作を行います。

- 1 [Projects (プロジェクト)] タブで、プロジェクト表示部のプロジェクトアイコンを右クリックして、[Source Control (ソース管理)] - [Choose Source Control Provider (ソース管理プロバイダの選択)] を選択します。[Choose Source Control Provider (ソース管理プロバイダの選択)] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 <Providers (プロバイダ)> リストボックスから <ChangeMan Version Manager> を選択します。
- 3 【OK】 をクリックします。

ソース管理へのプロジェクトのマッピング

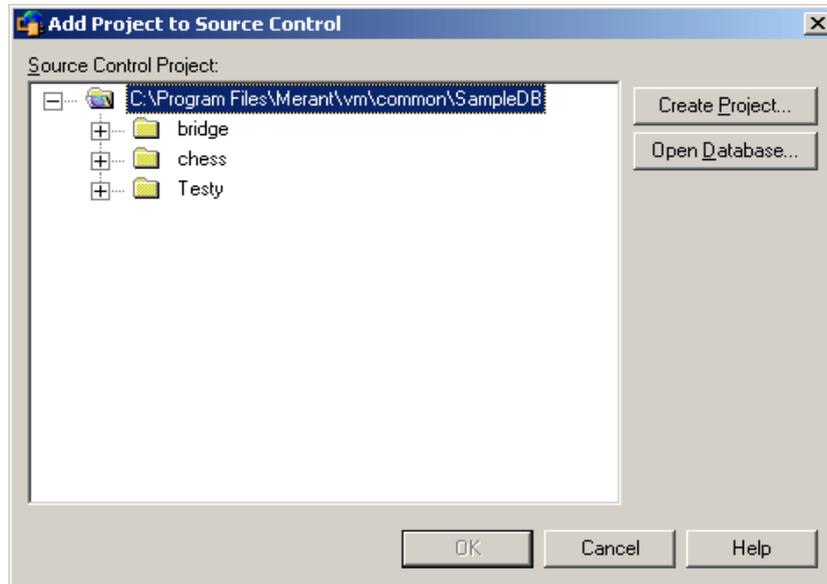
ColdFusion プロジェクトを作成して保存したら、既存の Version Manager プロジェクトデータベースにマッピング（追加）できます。

**重要！**

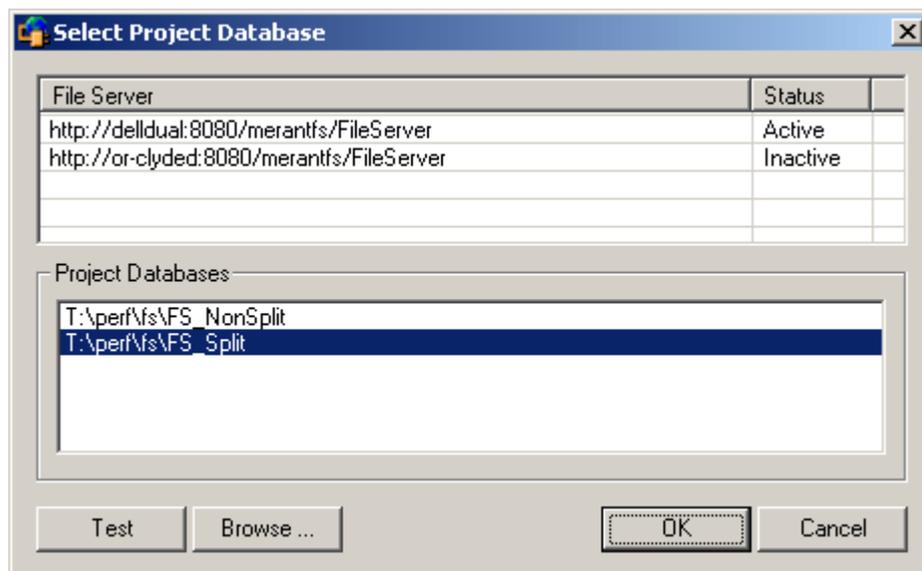
- ColdFusion の各プロジェクトはそれぞれ独自のディレクトリに置く必要があります。1 つのディレクトリに複数の ColdFusion プロジェクトがある場合、そのプロジェクトをソース管理下に置くと、ソース管理に失敗します。
- ColdFusion プロジェクトのすべてのファイルは、ColdFusion プロジェクトファイル (.apf) が入っている、ルートプロジェクトの作業ディレクトリの下に置く必要があります。このプロジェクトディレクトリ構造に入っていないファイルは、ソース管理に追加されません。

プロジェクトをソース管理にマッピングして追加するには、次の操作を行います。

- 1 [Projects (プロジェクト)] タブで、プロジェクト表示部のプロジェクトアイコンを右クリックして、[Source Control (ソース管理)] - [Map Project to Source Control (ソース管理にプロジェクトを設定)] を選択します。[Add Project to Source Control (ソース管理にプロジェクトを追加)] ダイアログボックスが表示されます。



- 2 <Source Control Project (ソース管理プロジェクト)> の下にデフォルトのプロジェクトデータベースが表示されます。別のプロジェクトデータベースにファイルを追加する場合は、【Open Database (データベースを開く)】 ボタンをクリックします。[Select Project Database (プロジェクトデータベースの選択)] ダイアログボックスが表示されます。



以下のいずれかを実行します。

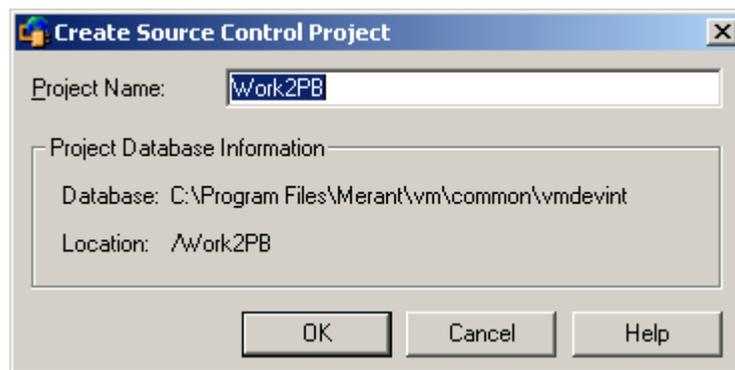
- 一覧表示されている Version Manager File Server 上にあるプロジェクトデータベースを開くには、〈Project Databases (プロジェクトデータベース)〉リストボックスからプロジェクトデータベースを選択し、【OK】をクリックします。

Version Manager File Server をリストに追加するには、〈File Server (ファイルサーバ)〉リストボックスの空のセルをダブルクリックしてファイルサーバのホストシステム名を入力します。ENTER キーを押すと、入力がオートコンプリート (http:// システム名:8080/serenafs/FileServer) し、テストされます。https サーバまたは非標準ポートを指定するには、オートコンプリートエントリをダブルクリックし、編集して、ENTER キーを押します。

- ローカルファイルシステムまたはネットワーク上のプロジェクトデータベースを開くには、【Browse (参照)】 ボタンをクリックして表示されるダイアログボックスから該当の場所を探します。

3 以下のいずれかを実行します。

- 既存のソース管理プロジェクトに追加するには、〈Source Control Project (ソース管理プロジェクト)〉からプロジェクトを選択します。手順 4 に進みます。
- **新規 Version Manager プロジェクトを作成するには、以下の手順に従います。**
 - a 〈Select Source Control Project (ソース管理プロジェクトの選択)〉の下で、新規プロジェクトを作成するプロジェクトデータベースの場所を選択します。
 - b 【Create Project (プロジェクトの作成)】 をクリックします。〔Create Source Control Project (ソース管理プロジェクトの作成)〕 ダイアログボックスが表示されます。



〈Project Database Information (プロジェクトデータベース情報)〉グループには、現在のプロジェクトデータベースの名前と場所、およびこのデータベース内の新規プロジェクトの場所が表示されます。

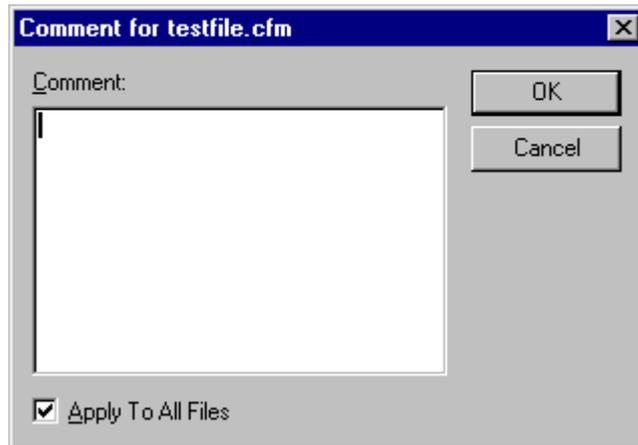
- c デフォルトでは、新しい Version Manager プロジェクトでは IDE プロジェクトと同じ名前を使用します。必要な場合、〈Project Name (プロジェクト名)〉フィールドに別の名前を入力します。

名前の前後にタブや空白を付けることはできません。名前には、アスタリスク (*)、コロン (:)、縦線 (|)、スラッシュ (/)、円記号 (¥)、疑問符 (?)、山かっこ (< >) 以外のすべての文字を使用できます。

- d 【OK】 をクリックします。〔Add Project to Source Control (ソース管理にプロジェクトを追加)〕 ダイアログボックスが再度開き、〈Source Control Project (ソース管理プロジェクト)〉の下に新規プロジェクトが表示されます。

4 【OK】 をクリックします。プロジェクトファイルがソース管理に「マッピング」されます。次の手順に進んで、プロジェクトファイルをソース管理に「追加」します。

- 5 [Projects (プロジェクト)] タブで、プロジェクト表示部のプロジェクトアイコンを右クリックして、[Source Control (ソース管理)] - [Add Project File to Source Control (ソース管理にファイルを追加)] を選択します。[Comment (コメント)] ダイアログボックスが表示されます。



- 6 <Comment (コメント)> フィールドにプロジェクトファイルの説明を入力します。
- 7 【OK】 をクリックします。

次の手順に進んで、プロジェクトファイルをソース管理に追加します。



重要! ソース管理にマッピングされる各プロジェクトについて、「projectname.cache」という名前のファイルが Version Manager によって作成されます。このファイルは、ColdFusion プロジェクトの作業ディレクトリにあります。このファイルが消失した場合は、ColdFusion プロジェクトのマッピングをやり直してプロジェクトをソース管理に復元する必要があります。

ソース管理へのファイルの追加



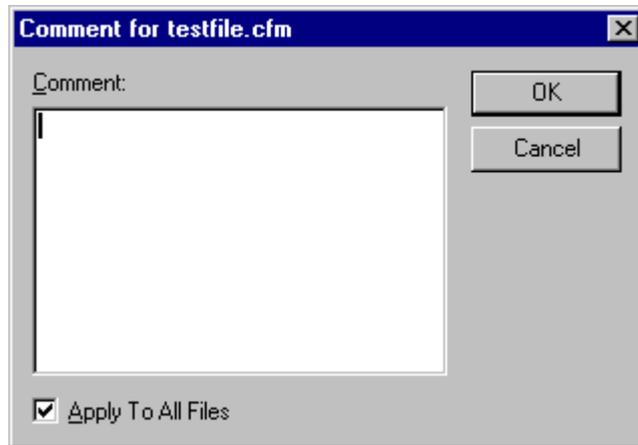
注 ほかのファイルをソース管理プロジェクトに追加する前に、プロジェクト (.apf) ファイルをソース管理に追する必要があります。98 ページの『ソース管理へのプロジェクトのマッピング』を参照してください。

ファイルをソース管理プロジェクトに追加するには、次の操作を行います。

- 1 [Projects (プロジェクト)] タブのプロジェクト表示部でプロジェクトアイコンを右クリックしてプロジェクトファイル (.apf) をチェックアウトし、[Source Control (ソース管理)] - [Check Out (チェックアウト)] を選択します。
- 2 以下のいずれかを実行します。
 - ファイルを ColdFusion Studio プロジェクトに追加する場合、ファイルをソース管理に追加するかどうかを尋ねられます。【Yes (はい)】 をクリックします。

- ファイルがすでに ColdFusion プロジェクトに属しているのに、まだソース管理に追加していない場合は、[Projects (プロジェクト)] タブのファイル表示部でファイルアイコンを右クリックし、[Source Control (ソース管理)] – [Add File to Source Control (ソース管理にファイルを追加)] を選択します。

[Comment (コメント)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 <Comment (コメント)> フィールドにファイルの説明を入力します。この説明は、選択したすべてのファイルに適用されます。



ヒント ファイルごとに独自の説明を使用するには、<Comment (コメント)> フィールドを空白のままにして【OK】をクリックします。各ファイルで [Change Description (変更の説明)] ダイアログボックスが順次表示されます。

- 4 【OK】をクリックします。ファイル表示部のファイルアイコンの隣に赤い点 (.) が表示されて、ファイルがソース管理下に置かれたことが示されます。

ソース管理からのファイルの削除

ソース管理からファイルを削除しても、作業ファイルや Version Manager アーカイブは削除されません。IDE ファイルとアーカイブ間の関連付けが削除されるだけです。この後、いつでもファイルをソース管理に戻すことができます。

作業ファイルの削除

ColdFusion 作業ファイルをソース管理から削除するには、次の操作を行います。

- 1 [Projects (プロジェクト)] タブのファイル表示部で、ソース管理から削除するファイルを選択します。
- 2 右クリックして、[Source Control (ソース管理)] – [Remove File from Source Control (ソース管理からファイルを削除)] を選択します。確認メッセージが表示されます。
- 3 【Yes (はい)】をクリックします。ソース管理から選択したファイルが削除されます。

プロジェクトの削除

ColdFusion プロジェクトファイル (.apf) をソース管理から削除するには、次の操作を行います。

- 1 [Projects (プロジェクト)] タブのプロジェクト表示部で、ソース管理から削除するプロジェクトを選択します。
- 2 右クリックして、[Source Control (ソース管理)] – [Remove Project File from Source Control (ソース管理からプロジェクトファイルを削除)] を選択します。確認メッセージが表示されます。

- 3 【Yes (はい)】をクリックします。選択したプロジェクトファイルがソース管理から削除されません。

ソース管理に
ファイルに戻す

ソース管理にファイルに戻す方法の詳細は、[36 ページの『ソース管理から削除したファイルの追加』](#)を参照してください。

ソース管理の使用法

内容 このセクションでは、ソース管理下のファイルの表示および編集に関する操作を説明します。

詳細情報 [第 4 章、53 ページの『ソース管理の使用法』](#)を参照してください。



ヒント 操作をすばやく行うには、IDE および Version Manager のデフォルト値を、自分が通常行う操作に合わせて設定します。

ファイルの取得

ファイルを取得すると、最新のリビジョンが、作業ファイルの場所に読み取り専用ファイルとしてコピーされます。

リビジョンを取得するには

- 1 [Projects (プロジェクト)] タブのファイル表示部で、ファイルを選択して右クリックします。
- 2 [Source Control (ソース管理)] - [Get Latest Version (最新のファイルを取得)] を選択します。

ファイルのチェックアウト

ファイルをチェックアウトすると、最新 (チップ) リビジョンはロックされ、書き込み可能な作業ファイルが作業ファイルの場所に作成されます。

ファイルをチェックアウトするには

- 1 [Projects (プロジェクト)] タブのファイル表示部で、ファイルを選択して右クリックします。
- 2 [Source Control (ソース管理)] - [Check Out (チェックアウト)] を選択します。緑色のチェックマーク (🟢) がファイル表示部のファイルアイコンの隣に表示されます。

チェックアウトの取り消し

チェックアウトを取り消すと、アーカイブのロックが解除されて読み取り専用の作業ファイルが作業ファイルの場所に残されます。ファイルに加えられた変更は、アーカイブにはチェックインされません。

チェックアウトを取り消すには、次の操作を行います。

- 1 [Projects (プロジェクト)] タブのファイル表示部で、ファイルを選択して右クリックします。
- 2 [Source Control (ソース管理)] - [Undo Check Out (チェックアウトの取り消し)] を選択します。緑色のチェックマーク (🟢) がファイル表示部のファイルアイコンから削除されて、ファイルのロックが解除されたことが示されます。

ファイルのチェックイン

ファイルをチェックインすると、デフォルトでは、以下の処理が行われます。

- 新規リビジョンが作成され、それまでの最新リビジョンの次の番号が割り当てられます。
- 読み取り専用ファイルが作業ファイルの場所に残されます。
- アーカイブのロックが解除されます。

ファイルをチェックインするには、次の操作を行います。

- 1 チェックインする ColdFusion ファイルに対する変更を保存します。
- 2 [Projects (プロジェクト)] タブのファイル表示部で、ファイルを選択して右クリックします。
- 3 [Source Control (ソース管理)] – [Check In (チェックイン)] を選択します。[Comment (コメント)] ダイアログボックスが表示されます。
- 4 変更内容の説明を <Comment (コメント)> フィールドに入力します。この説明は、選択したすべてのファイルに適用されます。



ヒント ファイルごとに独自の説明を入力するには、<Apply To All Files (すべてのファイルに適用)> の選択を解除します。

- 5 【OK】 をクリックします。緑色のチェックマーク () がファイル表示部のファイルアイコンから削除されます。

第 7 章

FrontPage

はじめに	106
サポートされている機能の使用	106
ソース管理プロジェクトの設定	107
ソース管理の使用法	111

はじめに

目的 この章の目的は、以下の 4 つです。

- Microsoft® FrontPage™ 2003 から使用可能な Version Manager の各機能の紹介と、それらの機能の使用法の説明
- このマニュアルのパート 1 で解説された機能のうち、この開発環境（IDE）には適用されないものの解説
- ソース管理プロジェクトの設定や、ソース管理へのファイルの追加を行う管理者の手引き
- ソース管理下にあるファイルに FrontPage からアクセスする開発チームの手引き

詳細情報 以下の情報については、[19 ページのパート 1、『Version Manager IDE クライアント』](#)を参照してください。

- ソース管理の概念
- ソース管理のデフォルト動作
- Web ベースのプロジェクト

サポートされている機能の使用

サポートされている機能 FrontPage では、Version Manager IDE クライアントで使用可能なソース管理機能のサブセットがサポートされます。特有の制限事項には、以下のものがあります。

- FrontPage 内から以前のリビジョンをチェックアウトすることはできません。[49 ページの『以前のリビジョンのチェックアウト』](#)を参照してください。
- FrontPage では、取得はサポートされません。
- マージ、相違点、およびレポートの各機能はこの IDE から起動できません。
- 詳細設定は使用できません。

目的	操作	参照セクション
リビジョンのチェックアウト	[Edit (編集)] - [Check Out (チェックアウト)]	111 ページの『ファイルのチェックアウト』
リビジョンのチェックアウトの取り消し	[Edit (編集)] - [Undo Check Out (チェックアウトの取り消し)]	111 ページの『チェックアウトの取り消し』
リビジョンのチェックイン	[Edit (編集)] - [Check In (チェックイン)]	112 ページの『ファイルのチェックイン』
ソース管理への Web の追加	(Microsoft Management Console を使用)	107 ページの『ソース管理への Web プロジェクトの追加』
ソース管理からの Web の削除	(Microsoft Management Console を使用)	109 ページの『ソース管理からの Web プロジェクトの削除』

ソース管理プロジェクトの設定

内容	このセクションでは、FrontPage で使用するための Version Manager IDE クライアントの設定方法を説明しています。
前提条件	設定を行う前に、以下の作業が必要です。 <ul style="list-style-type: none">■ Version Manager、FrontPage Server Extensions、および Version Manager IDE クライアントを Web サーバにインストールします。『Version Manager インストールガイド』を参照してください。■ Version Manager デスクトップクライアントを使用して、FrontPage プロジェクトに関連付けられたソース管理プロジェクトを含むプロジェクトデータベースを作成します（このようなプロジェクトデータベースがまだ作成されていない場合）。■ Web サーバのセキュリティを設定します。■ デフォルト Web サイトでの外部ソース管理を使用可能にします。
詳細情報	第 3 章、41 ページの『COM IDE によるソース管理プロジェクトの セットアップ』 を参照してください。

ソース管理への Web プロジェクトの追加

新規 Version Manager プロジェクトにデフォルトを設定した後は、Web プロジェクトをソース管理下に置くことができます。



重要！ FrontPage プロジェクトで引き続き既存の Version Manager を使用する場合は、Version Manager プロジェクトの新しいフォーマットにアップグレードする必要があります。[110 ページの『バージョン 6.0 プロジェクトのアップグレード』](#)を参照してください。

FrontPage Web プロジェクトをソース管理下にするには、次の操作を行います。

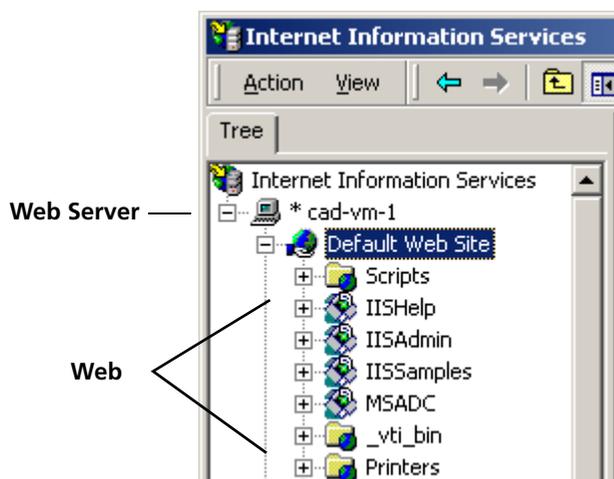
- 1 FrontPage に Web プロジェクトを作成します。



重要！ FrontPage のフォルダ、プロジェクト、ファイル名には、角かっこ [] を使用しないでください。

- 2 FrontPage を終了します。

- 3 Web サーバから、コンピュータの管理コンソールまたはインターネットインフォメーションサービスを起動します。



重要！ Windows ユーザアカウントには、コンピュータの管理コンソールとインターネットインフォメーションサービスを起動する権限が必要です。

- 4 ソース管理に追加する Web で右クリックし、表示されるメニューから [Properties (プロパティ)] を選択します。[Properties (プロパティ)] ダイアログボックスが表示されます。
- 5 [Server Extensions (サーバ拡張)] タブを選択します。
- 6 <Version control (バージョン管理)> ドロップダウンリストから <Use external (外部を使用)> を選択します。



- 7 【OK】をクリックします。[Source Control Project (ソース管理プロジェクト)] ダイアログボックスが表示されます。



Web プロジェクト名がここに表示されます。Version Manager プロジェクトの名前を変更するには、「\$/」とプロジェクトに付ける名前を入力します。

名前の前後にタブや空白を付けることはできません。名前には、アスタリスク (*)、コロン (:)、縦線 (|)、スラッシュ (/)、円記号 (¥)、疑問符 (?)、ポンド記号 (#)、山かっこ (< >) 以外のすべての文字を使用できます。

- 8 【OK】をクリックします。新しい Version Manager プロジェクトがデフォルトプロジェクトデータベースに作成され、FrontPage プロジェクト内のすべてのファイルがソース管理に追加されます。



注 ファイルが別のファイルに従属している場合、このファイルの 2 つのリビジョンがソース管理にチェックインされる場合があります。

「Folders (フォルダ)」、「All Files (すべてのファイル)」、および「Navigation (ナビゲーション)」ビューのファイルアイコンが変化して、ファイルがソース管理下にあることが示されます。

ソース管理下でない場合

 MySite1.htm
 MySite2.htm
 MySite3.htm

緑色のドット

ソース管理下にある場合

 MySite1.htm
 MySite2.htm
 MySite3.htm

ソース管理からの Web プロジェクトの削除

ソース管理からプロジェクトを削除しても、Version Manager アーカイブは削除されません。ソース管理プロジェクトとの関連付けが削除されるだけです。この後、いつでもプロジェクトを追加してソース管理に戻すことができます。



重要! Web プロジェクトをソース管理に再度追加しても、対応する Version Manager アーカイブにファイルは再度追加されません。代わりに、ランダムな名前が付けられた新しいアーカイブが既存のプロジェクトアーカイブディレクトリに作成されます。49 ページの『ソース管理への Web ファイルの復元』を参照してください。

FrontPage Web プロジェクトをソース管理から削除するには、次の操作を行います。

- 1 コンピュータの管理コンソールまたはインターネットインフォメーションサービスを起動します。
- 2 Web で右クリックし、表示されるコンテキストメニューから [Properties (プロパティ)] を選択します。
- 3 [Server Extensions (サーバ拡張)] タブを選択します。
- 4 <Version control (バージョン管理)> ドロップダウンリストボックスから <None (なし)> を選択します。
- 5 【Apply (適用)】をクリックします。
- 6 【OK】をクリックします。ソース管理からプロジェクトが削除されます。

バージョン 6.0 プロジェクトのアップグレード

アップグレードする理由

Version Manager IDE クライアントでは、Version Manager 6.5 以降がサポートされており、プロジェクトデータベース、プロジェクト、およびサブプロジェクトを使用してアーカイブを編成し、実際の作業ディレクトリの構造を反映することができます。設定は、Version Manager 6.0 プロジェクトで使用されるマスタープロジェクトからではなく、プロジェクトデータベースから継承されるようになりました。

現在 FrontPage 6.0 プロジェクトに対して Version Manager が関連付けられている場合には、FrontPage プロジェクトのアップグレードは簡単にできます。既存の 6.0 プロジェクトをアップグレードすると、新規プロジェクトとアーカイブが Web サーバのデフォルトプロジェクトデータベースの場所に作成されます。

元のプロジェクトやアーカイブにアクセスする必要がある場合、Version Manager デスクトップクライアントの元の 6.0 プロジェクトを開くことができます。



注 FrontPage から 6.0 プロジェクトにアクセスするには、FrontPage インターフェイス用の Version Manager を再インストールしてください。Web サーバを登録できるのは一時点では 1 つのソース管理プロバイダだけなので、使用できるのは最後にインストールしたインターフェイスだけです。

プロジェクトのアップグレードのタイミング

アップグレードは、開発プロジェクトの主要段階が完了した時点で行うことをお勧めします。重要な段階でプロジェクトをアップグレードすると、開発ワークフローが中断される場合があります。

プロジェクトをアップグレードする前に

既存のプロジェクトをアップグレードする前に、Version Manager 6.0 プロジェクトドメインとすべてのプロジェクトのアーカイブのバックアップを行います。プロジェクトドメインには、ルートプロジェクトディレクトリおよびその下のすべてが含まれます。

バージョン 5.3/6.0 プロジェクトのアップグレード

既存のプロジェクトを Version Manager 6.5 で導入されたフォーマットにアップグレードするには、次の手順を実行します。

- | | | |
|-------------------|---|--|
| ソース管理からのプロジェクトの削除 | 1 | ソース管理から FrontPage プロジェクトを削除します。ソース管理からプロジェクトを削除する方法の詳細は、 109 ページの『ソース管理からの Web プロジェクトの削除』 を参照してください。 |
| IDE クライアントのインストール | 2 | Version Manager IDE クライアントを Web サーバにインストールします（インストールされていない場合）。Version Manager IDE クライアントはインストールされると、ソース管理プロバイダとして登録されます。

Web サーバへの IDE クライアントのインストールの説明と手順については、『Version Manager インストールガイド』を参照してください。 |
| ソース管理へのプロジェクトの再追加 | 3 | ソース管理にプロジェクトを再追加します。プロジェクトをソース管理に追加する方法については、 107 ページの『ソース管理への Web プロジェクトの追加』 を参照してください。 |

プロジェクトが現在のフォーマットにアップグレードされます。

ソース管理の使用法

- 内容 このセクションでは、ソース管理下のファイルの表示および編集に関する操作を説明します。
- 詳細情報 [第 3 章、41 ページの『COM IDE によるソース管理プロジェクトの セットアップ』](#) を参照してください。

ファイルのチェックアウト

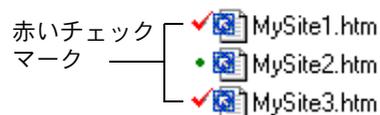
- チップのチェックアウト ファイルをチェックアウトすると、最新（チップ）リビジョンはロックされ、書き込み可能な作業ファイルが作業ファイルの場所に作成されます。FrontPage でのファイルのチェックアウトには、次の 3 つの方法があります。

実行できる操作	結果
ファイルを選択し、[Edit (編集)] - [Check Out (チェックアウト)] を選択します。	ファイルがソース管理からチェックアウトされます。
ファイルを右クリックして、[Check Out (チェックアウト)] を選択します。	ファイルがソース管理からチェックアウトされます。
ファイルをダブルクリックします。	ファイルをチェックアウトするかどうかを確認するメッセージが表示されます。 【YES (はい)】をクリックします。ファイルがソース管理からチェックアウトされ、ファイルに関連付けられたアプリケーションが起動します。

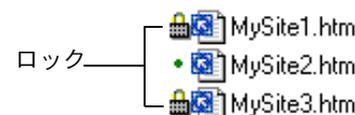
「Folders (フォルダ)」、「All Files (すべてのファイル)」、および「Navigation (ナビゲーション)」ビューのアイコンが変化して、ファイルがチェックアウトされたことが示されます。

ファイルをチェックアウトした場合

自分の画面



ほかのユーザの画面



ファイルアイコンの隣に表示されるロックは、ファイルが現在ほかのユーザによってロックされており、チェックアウトできないことを示します。ファイルをロックしたユーザを調べるには、ロック付きのファイルアイコンを右クリックします。

以前のリビジョンのチェックアウト

ファイルをソース管理からチェックアウトする場合、このファイルの最新のリビジョンがチェックアウトされます。Version Manager デスクトップクライアントでアーカイブを変更すると、ファイルの以前のリビジョンをチェックアウトできます。[49 ページの『以前のリビジョンのチェックアウト』](#) を参照してください。

チェックアウトの取り消し

チェックアウトを取り消すと、アーカイブのロックが解除されて読み取り専用の作業ファイルが作業ファイルの場所に残されます。ファイルに加えられた変更は、アーカイブにはチェックインされません。

チェックアウトを取り消すには、次の操作を行います。

- 1 以下のいずれかを実行します。
 - ファイルを選択し、[Edit (編集)] – [Undo Check Out (チェックアウトの取り消し)] を選択します。
 - ファイルを右クリックして、[Undo Check Out (チェックアウトの取り消し)] を選択します。
確認のダイアログボックスが表示されます。
- 2 【YES (はい)] をクリックします。ファイルのロックが解除されて、ファイルがチェックアウトされた以降に保存したすべての変更が破棄されます。

ファイルのチェックイン

作業ファイルをチェックインすると、デフォルトでは、以下の処理が行われます。

- 新規リビジョンが作成され、それまでの最新リビジョンの次の番号が割り当てられます。
- 読み取り専用ファイルが作業ファイルの場所に残されます。
- アーカイブのロックが解除されます。

ファイルをチェックインするには、次の操作を行います。

- 1 以下のいずれかを実行します。
 - ファイルを選択し、[Edit (編集)] – [Check In (チェックイン)] を選択します。
 - ファイルを右クリックして、[Check In (チェックイン)] を選択します。
[Check In (チェックイン)] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 ファイルの変更内容の説明を〈Comments on version (コメント)〉フィールドに入力します。変更の説明を Version Manager デスクトップクライアントに表示できます。
- 3 変更をチェックインして、引き続きそのファイルで作業を行う場合は、〈Keep files checked out (チェックアウト状態を保持)〉チェックボックスを選択します。
- 4 【OK】 をクリックします。ファイルがチェックインされます。



注 ファイルが別のファイルに従属している場合、このファイルの 2 つのリビジョンがそれぞれのチェックイン操作時にチェックインされます。

第 8 章

PowerBuilder

はじめに	114
Version Manager のプロジェクト構造について	114
PowerBuilder でサポートされている機能の使用	116
PowerBuilder でのソース管理プロジェクトの設定	117
PowerBuilder でのソース管理の使用法	124

はじめに

目的 この章の目的は、以下の 4 つです。

- Sybase® PowerBuilder™ 9 および 10 から使用可能な Version Manager の各機能の紹介と、それらの機能の使用方法的説明
- このマニュアルの第 1 部で解説された機能のうち、この開発環境（IDE）には適用されないものの解説
- ソース管理プロジェクトの設定や、ソース管理へのファイルの追加を行う管理者の手引き
- ソース管理下にあるファイルに PowerBuilder からアクセスする開発チームの手引き

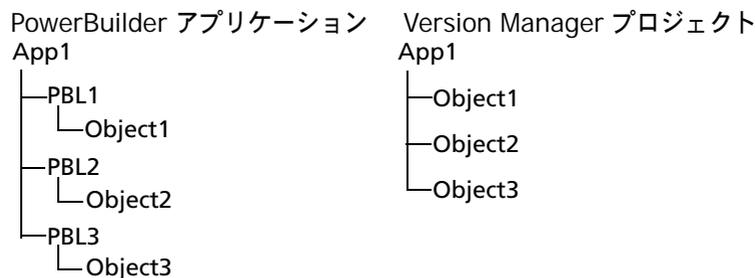
詳細情報 以下の情報については、[19 ページのパート 1、『Version Manager IDE クライアント』](#)を参照してください。

- ソース管理の概念
- ソース管理のデフォルト動作
- ソース管理の詳細設定

Version Manager のプロジェクト構造について

デフォルトプロジェクト構造 プロジェクトをソース管理に追加すると、デフォルトでは、作業ディレクトリ内のファイルの物理的な場所を反映するプロジェクトの階層構造が作成されます。PowerBuilder では、オブジェクトがディレクトリではなくライブラリに格納されるため、Version Manager は、すべてのオブジェクトのバージョン管理ファイルを、アプリケーションの構造に基づいた階層構造ではなく、ルートプロジェクトの直下に作成します。

例 アプリケーション「App1」に 3 つのオブジェクトがあり、それぞれ別々の PBL にある場合、3 つのオブジェクトはすべて 1 つの Version Manager プロジェクト内に表示されます。



アーカイブの編成 Version Manager はプロジェクト構造に基づいてアーカイブを編成します。上記の例では、3 つのオブジェクトに関連付けられたアーカイブは、Version Manager によって「App1」アーカイブディレクトリに置かれます。

PBL 構造の
ミラーリング

バージョン管理ファイルをアプリケーションの PBL 構造に基づいてサブプロジェクトに編成する場合、バージョンラベルの使用をお勧めします。オブジェクトをソース管理に追加すると、PBL の名前に対応するバージョンラベルを割り当てることによって、オブジェクトをグループ化できます。Version Manager デスクトップクライアントを使用すると、バージョンラベルに基づいてバージョン管理ファイルを選択し、サブプロジェクトにコピーすることができます。



注 PowerBuilder では、ワークスペースディレクトリの下にある独自のサブディレクトリに各ターゲットを作成することができますが、デフォルトではそのようになっていません。Version Manager ではターゲットごとにサブプロジェクトが自動的に作成されるので、この機能の使用をお勧めします。

バージョンラベルを使用したプロジェクトの編成

アプリケーションのライブラリ構造をミラーリングする複数プロジェクトにバージョン管理ファイルを選択的にコピーするには、バージョンラベルを使用することができます。

PBL に基づいてプロジェクトを編成するには、次の手順を完了します。

- 1 オブジェクトをソース管理に追加するときに、オブジェクトが属するライブラリの名前に対応するバージョンラベルを割り当てます。バージョンラベルが常に表示されているようにするには、ラベルをチップに対して「浮動」に設定します。浮動バージョンラベルは常にアーカイブの最新のリリースに関連付けられます。
- 2 アプリケーション内のすべてのオブジェクトがソース管理に追加された後で、Version Manager デスクトップクライアントで新規プロジェクトを開きます。
- 3 バージョン管理ファイルのコピー先となるサブプロジェクトを作成します。たとえば、アプリケーション内の各 PBL (PBL1、PBL2、PBL3 など) に対応するサブプロジェクトを作成します。
- 4 プロジェクト表示部で、PowerBuilder で作成した Version Manager プロジェクトを選択します。プロジェクト内のすべてのバージョン管理ファイルがファイル表示部に表示されます。
- 5 [Version Label Filter (バージョンラベルフィルタ)] ダイアログボックスを使用して、指定したラベルが割り当てられるバージョン管理ファイルのみが表示されるようにファイル表示部をカスタマイズします。たとえば、PBL1 のすべてのオブジェクトにラベル PBL1 が割り当てられている場合、ラベルが PBL1 であるバージョン管理ファイルのみを表示するようにファイル表示部にフィルタをかけます。
- 6 ファイル表示部からオブジェクトが属する PBL に対応するサブプロジェクトに選択したバージョン管理ファイルをコピーします。
- 7 アプリケーション内の各 PBL に対して手順 4～6 を繰り返します。

プロジェクトの作成、ファイル表示部のフィルタ、およびバージョン管理ファイルのコピーの詳細については、『Serena PVCS Version Manager ユーザガイド』を参照してください。

PowerBuilder でサポートされている機能の使用

サポートされている機能 PowerBuilder では、Version Manager IDE クライアントから使用可能なソース管理機能のうち、プロジェクト間のアーカイブの共有以外の全機能をサポートしています。次の表を参照してください。

目的	操作	参照セクション
リビジョンの取得	右クリック - [Get Latest Version (最新のファイルを取得)]	124 ページの『オブジェクトの取得』
リビジョンのチェックアウト	右クリック - [Check Out (チェックアウト)]	125 ページの『オブジェクトのチェックアウト』
リビジョンのチェックアウトの取り消し	右クリック - [Undo Check Out (チェックアウトの取り消し)]	126 ページの『チェックアウトの取り消し』
リビジョンのチェックイン	右クリック - [Check In (チェックイン)]	127 ページの『オブジェクトのチェックイン』
バージョンラベルの管理	[Entry (エントリ)] - [Source Control (ソース管理)] - [Advanced Options (詳細設定)]	62 ページの『バージョンラベルについて』
リビジョンまたはアーカイブのプロパティの表示	[Entry (エントリ)] - [Source Control (ソース管理)] - [Serena Source Control Properties (Serena ソース管理プロパティ)]	82 ページの『プロパティ』
ソース管理動作の監視	[Entry (エントリ)] - [Source Control (ソース管理)] - [Advanced Options (詳細設定)]	83 ページの『Pulse によるソース管理動作の監視』
履歴レポートの生成	[Entry (エントリ)] - [Source Control (ソース管理)] - [Show History (履歴の表示)]	88 ページの『履歴レポートについて』
相違点レポートの生成	[Entry (エントリ)] - [Source Control (ソース管理)] - [Show Differences (相違点の表示)]	91 ページの『相違点レポートについて』
[Version Manager Options (Version Manager オプション)] ダイアログボックスの使用	[Entry (エントリ)] - [Source Control (ソース管理)] - [Advanced Options (詳細設定)]	33 ページの『[Version Manager Options (Version Manager オプション)] ダイアログボックスのデフォルト値の設定』
ソース管理へのワークスペースの追加	右クリック - [Properties (プロパティ)]	117 ページの『PowerBuilder でのソース管理プロジェクトの設定』
ソース管理へのオブジェクトの追加	右クリック - [Add to Source Control (ソース管理に追加)]	120 ページの『ソース管理へのオブジェクトの追加』
ソース管理からのワークスペースの削除	右クリック - [Properties (プロパティ)]	123 ページの『ソース管理からのワークスペースの削除』
ソース管理からのオブジェクトの削除	[Entry (エントリ)] - [Source Control (ソース管理)] - [Remove from Source Control (ソース管理から削除)]	123 ページの『ソース管理からのオブジェクトの削除』

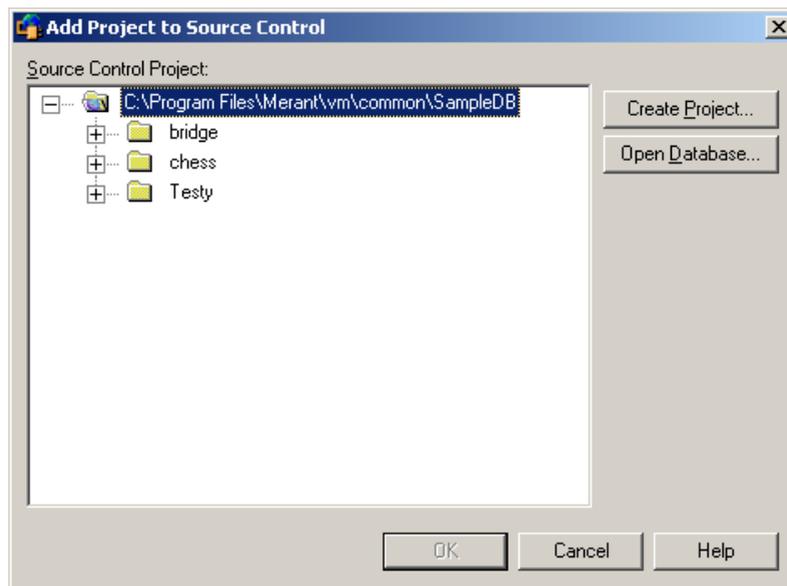
PowerBuilder でのソース管理プロジェクトの設定

最高の結果を得るには、ディレクトリの階層を作成して、各ターゲットがワークスペースディレクトリの下独自のディレクトリに配置されるようにします。これで、ワークスペースの構造を反映する、ネストされたソース管理プロジェクトが作成されます。これによって、複数のターゲットに同じ名前のファイルがあることに関連する問題を防止し、フラットであった PowerBuilder プロジェクトのファイル構造が論理的な階層構造になります。

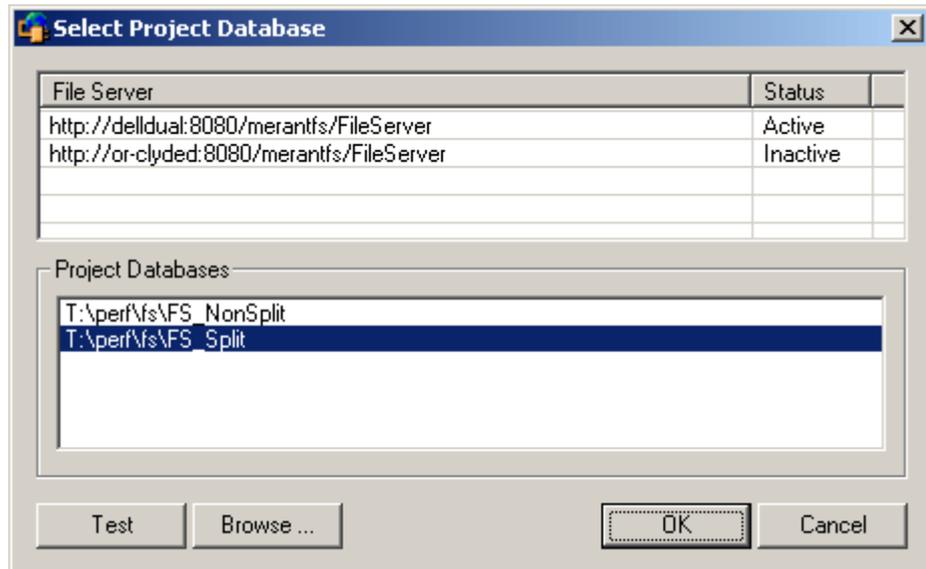
ソース管理への PowerBuilder ワークスペースの追加

PowerBuilder ワークスペースをソース管理に追加するには、次の操作を行います。

- 1 システムツリー表示部のワークスペースオブジェクトを右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- 2 [Properties (プロパティ)] を選択します。[Properties of Workspace (ワークスペースのプロパティ)] ダイアログボックスが [Source Control (ソース管理)] タブに開きます。
- 3 <Source Control System (ソース管理システム)> ドロップダウンメニューで [ChangeMan Version Manager] を選択します。
- 4 <Project (プロジェクト)> フィールドの右にある【Browse (参照)】ボタンをクリックします。[Add Project to Source Control (ソース管理にプロジェクトを追加)] ダイアログボックスが表示されます。



- プロジェクトデータベースの選択 5 <Source Control Project (ソース管理プロジェクト)> の下にデフォルトのプロジェクトデータベースが表示されます。別のプロジェクトデータベースにファイルを追加する場合は、【Open Database (データベースを開く)】 ボタンをクリックします。【Select Project Database (プロジェクトデータベースの選択)】 ダイアログボックスが表示されます。



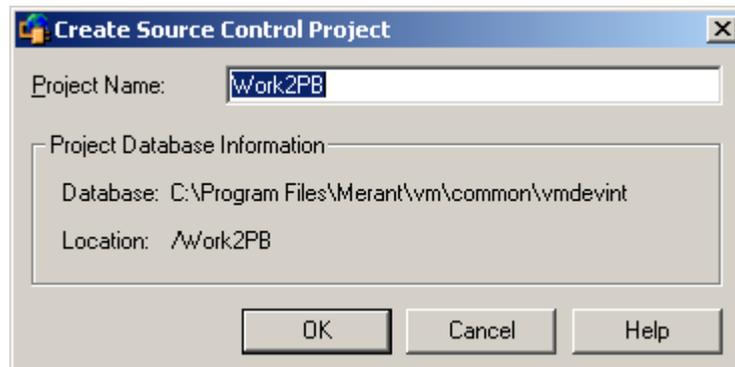
以下のいずれかを実行します。

- 一覧表示されている Version Manager File Server 上にあるプロジェクトデータベースを開くには、<Project Databases (プロジェクトデータベース)> リストボックスからプロジェクトデータベースを選択し、【OK】 をクリックします。
Version Manager File Server をリストに追加するには、<File Server (ファイルサーバ)> リストボックスの空のセルをダブルクリックしてファイルサーバのホストシステム名を入力します。ENTER キーを押すと、入力がオートコンプリート (http:// システム名:8080/serenafs/FileServer) し、テストされます。https サーバまたは非標準ポートを指定するには、オートコンプリートエントリをダブルクリックし、編集して、ENTER キーを押します。
- ローカルファイルシステムまたはネットワーク上のプロジェクトデータベースを開くには、【Browse (参照)】 ボタンをクリックして表示されるダイアログボックスから該当の場所を探します。

プロジェクトの選択 6 以下のいずれかを実行します。

- 既存のソース管理プロジェクトに接続するには、<Source Control Project (ソース管理プロジェクト)> からプロジェクトを選択します。手順 7 に進みます。
- 新規 Version Manager プロジェクトを作成するには、以下の手順に従います。
 - a プロジェクトデータベースツリーで、新規プロジェクトの作成場所を選択します。

- b 【Create Project (プロジェクトの作成)】をクリックします。[Create Source Control Project (ソース管理プロジェクトの作成)] ダイアログボックスが表示されます。



〈Project Database Information (プロジェクトデータベース情報)〉グループには、現在のプロジェクトデータベースの名前と場所、およびこのデータベース内の新規プロジェクトの場所が表示されます。

- c 〈Project Name (プロジェクト名)〉フィールドに、ソース管理プロジェクトの名前を入力します。
- 名前の前後にタブや空白を付けることはできません。名前には、アスタリスク (*)、コロン (:)、縦線 (|)、スラッシュ (/)、円記号 (¥)、疑問符 (?)、山かっこ (<>) 以外のすべての文字を使用できます。
- d 【OK】をクリックします。[Add Project to Source Control (ソース管理にプロジェクトを追加)] ダイアログボックスが再度開き、〈Source Control Project (ソース管理プロジェクト)〉の下に新規プロジェクトが表示されます。
- 7 【OK】をクリックします。[Properties of Workspace (ワークスペースのプロパティ)] ダイアログボックスが再度表示されます。
- 8 このワークスペースのルートディレクトリのパスを 〈Local Root Directory (ローカルルートディレクトリ)〉フィールドに入力するか、参照のボタンをクリックして選択します。



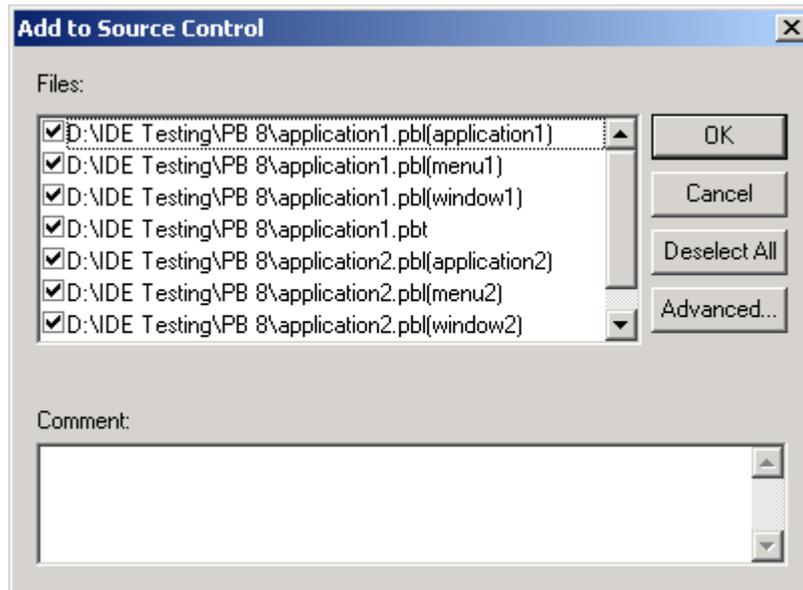
重要! PowerBuilder ワークスペースに属するすべてのオブジェクトをローカルルートディレクトリまたはその下のサブディレクトリに配置する必要があります。

- 9 オプションで、[Properties of Workspace (ワークスペースのプロパティ)] ダイアログボックスのほかのフィールドに入力して、PowerBuilder がソース管理と対話する方式を設定します。この設定の使用の詳細については、PowerBuilder のマニュアルを参照してください。
- 10 【OK】をクリックします。各オブジェクトアイコンの左側に緑色のマーク (+) が表示され、ワークスペースがソース管理に追加されたけれども、オブジェクトはまだソース管理下にあることが示されます。

ソース管理へのオブジェクトの追加

ソース管理にオブジェクトを追加するには、次の操作を行います。

- 1 システムツリー表示部のワークスペースオブジェクトを右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- 2 [Add to Source Control (ソース管理に追加)] を選択します。[Add to Source Control (ソース管理に追加)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 以下のうち必要な作業を行います。
 - 各オブジェクト名の横のチェックボックスを選択または選択解除して、ソース管理に追加するオブジェクトを変更します。
 - 〈Comment (コメント)〉フィールドに、コメントを入力します。
- 4 【OK】をクリックします。[ChangeMan Advanced Add (追加の詳細設定)] ダイアログボックスが開きます
- 5 以下のうち必要な作業を行います。
 - [Advanced (詳細)] タブで、〈Version Label (バージョンラベル)〉フィールドにバージョンラベルを入力するか、【Browse (参照)】ボタンをクリックして選択します。

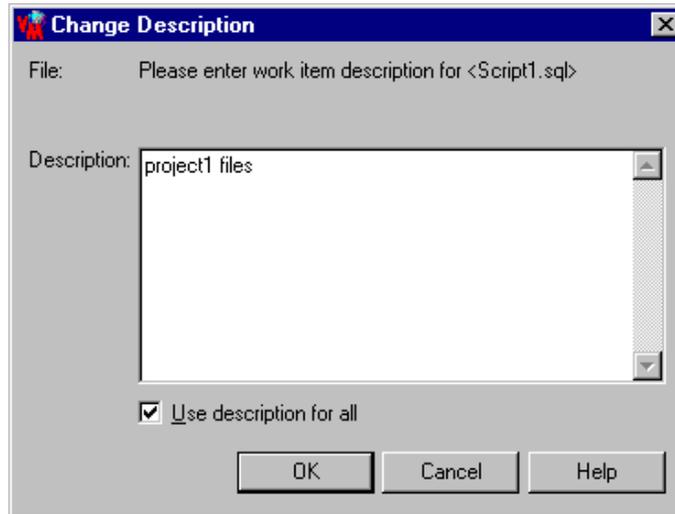
Version Manager デスクトップクライアントを使用して、アプリケーションのライブラリ構造に基づいてバージョン管理ファイルを個別プロジェクトに再編成する場合は、各オブジェクトが属するライブラリに対応するバージョンラベルを割り当てます。たとえば、PBL1 という名前のライブラリからソース管理にオブジェクトを追加する場合、「PBL1」を〈Version Label (バージョンラベル)〉フィールドに入力します。115 ページの『バージョンラベルを使用したプロジェクトの編成』を参照してください。



ヒント ワークスペースディレクトリの下独自のサブディレクトリに各ターゲットを作成する場合は、Version Manager IDE クライアントではディレクトリ構造に基づいて自動的にサブプロジェクトを作成します。

- バージョンラベルが常にアーカイブの最新リビジョンに関連付けられるようにするには、〈Float label with tip (浮動ラベル)〉チェックボックスを選択します。

- [General (全般)] タブで、最低レベルのプロモーショングループを入力してファイルの初期リビジョンに関連付けるか、ブラウズして選択します。
- 6 【OK】 をクリックします。ソース管理に追加するオブジェクトに作業ファイルの説明が未記入の場合、[Change Description (変更の説明)] ダイアログボックスが表示されます。



- 7 <Description (コメント)> フィールドに、現在のオブジェクトの説明を入力します。
- 8 【OK】 をクリックします。ソース管理に追加する各ターゲットについて、ChangeMan の [Advanced Add (追加の詳細設定)] および [Change Description(変更の説明)] ダイアログボックスへの入力を完了します。

各オブジェクトの左側に緑色のドット (●) が表示され、オブジェクトがソース管理下にあり、チェックアウトされていないことが示されます。

複数ユーザ環境でのワークステーションの設定

PowerBuilder ワークスペースをソース管理に追加し、その中のオブジェクトをソース管理に追加した後は、複数ユーザがこのワークスペースを使用できるようになります。そのためには、次の手順を完了する必要があります。

- 1 PowerBuilder ワークスペースのディレクトリ構造をワークステーションにコピーします。ワークスペースとターゲットディレクトリ、PowerBuilder ライブラリ (.PBL) ファイル、および PowerBuilder ターゲット (.PBT) ファイルのみを含めます。



重要!

- ワークスペース (.PBW) ファイルを含めないでください。 .PBW ファイルには絶対パスが含まれます。
- PowerBuilder ワークスペースのディレクトリ構造は、各システムで同一でなければなりません。

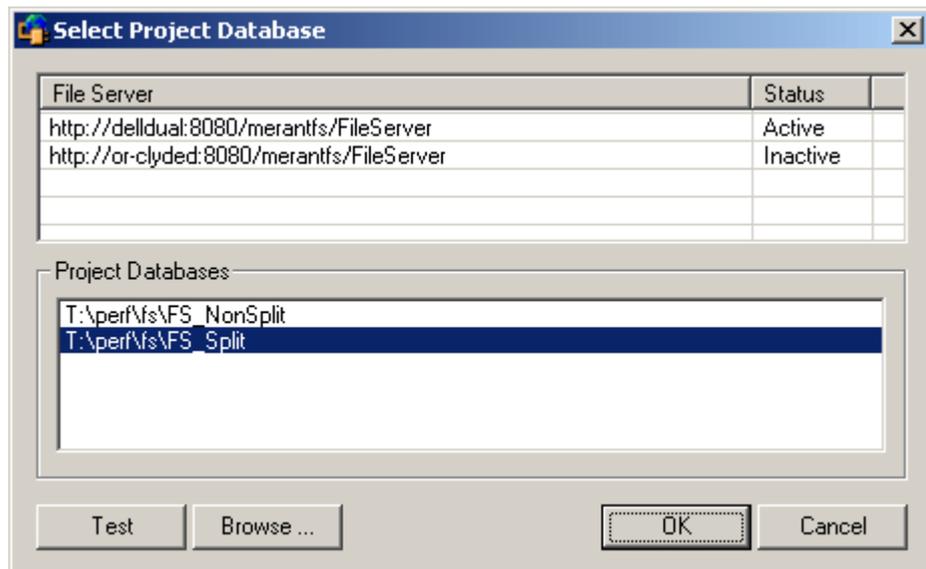
- 2 ワークステーションにコピーしたワークスペースディレクトリに新規 PowerBuilder ワークスペースを作成します。
- 3 コピーしたターゲット (.PBT) ファイルを新規ワークスペースに追加します。
- 4 新規ワークスペースを既存のソース管理プロジェクトに追加します。この手順の詳細については、次のセクションを参照してください。

既存のソース管理プロジェクトへのワークステーションの追加

ワークステーションをソース管理に追加するには、次の操作を行います。

- 1 システムツリー表示部のワークスペースオブジェクトを右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- 2 [Properties (プロパティ)] を選択します。[Properties of Workspace (ワークスペースのプロパティ)] ダイアログボックスが [Source Control (ソース管理)] タブに開きます。
- 3 <Source Control System (ソース管理システム)> ドロップダウンメニューで [ChangeMan Version Manager] を選択します。
- 4 <Project (プロジェクト)> フィールドの右にある【Browse (参照)】 ボタンをクリックします。[Add Project to Source Control (ソース管理にプロジェクトを追加)] ダイアログボックスが表示されます。
- 5 <Source Control Project (ソース管理プロジェクト)> の下にデフォルトのプロジェクトデータベースが表示されます。別のプロジェクトデータベースにファイルを追加する場合は、【Open Database (データベースを開く)】 ボタンをクリックします。[Select Project Database (プロジェクトデータベースの選択)] ダイアログボックスが表示されます。

プロジェクトデータベースの選択



以下のいずれかを実行します。

- 一覧表示されている Version Manager File Server 上にあるプロジェクトデータベースを開くには、<Project Databases (プロジェクトデータベース)> リストボックスからプロジェクトデータベースを選択し、【OK】 をクリックします。

Version Manager File Server をリストに追加するには、<File Server (ファイルサーバ)> リストボックスの空のセルをダブルクリックしてファイルサーバのホストシステム名を入力します。ENTER キーを押すと、入力がオートコンプリート (http:// システム名:8080/serenafs/FileServer) し、テストされます。https サーバまたは非標準ポートを指定するには、オートコンプリートエントリをダブルクリックし、編集して、ENTER キーを押します。

- ローカルファイルシステムまたはネットワーク上のプロジェクトデータベースを開くには、【Browse (参照)】 ボタンをクリックして表示されるダイアログボックスから該当の場所を探します。

- プロジェクトの選択
- 6 ソース管理プロジェクトの下から、ワークスペースの追加先のソース管理プロジェクトを選択します。

- 7 【OK】をクリックします。[Properties of Workspace (ワークスペースのプロパティ)] ダイアログボックスが再度表示されます。
- 8 このワークスペースのルートディレクトリのパスを (Local Root Directory (ローカルルートディレクトリ)) フィールドに入力するか、参照のボタンをクリックして選択します。
- 9 オプションで、PowerBuilder とソース管理との対話方式を設定します。この設定の使用方法的詳細については、PowerBuilder のマニュアルを参照してください。
- 10 【OK】をクリックします。各オブジェクトアイコンの左側にマークが表示され、オブジェクトがソース管理下にあることが示されます。
 - 緑色のドット (●) はオブジェクトがチェックインされたことを示します。
 - 赤のチェックマーク (✓) はオブジェクトがほかのユーザによってチェックアウトされたことを示します。

ソース管理からのオブジェクトの削除

ソース管理からオブジェクトを削除しても、作業ファイルや Version Manager アーカイブは削除「されません」。オブジェクトとアーカイブ間の関連付けが削除されるだけです。この後、いつでもオブジェクトを追加してソース管理に戻すことができます。

ソース管理からオブジェクトを削除するには、次の操作を行います。

- 1 Library Painter で、ソース管理から削除するオブジェクトを選択します。
- 2 [Entry (エントリ)] - [Source Control (ソース管理)] - [Remove from Source Control (ソース管理から削除)] を選択します。[Remove from Source Control (ソース管理から削除)] ダイアログボックスが表示され、ソース管理から削除するオブジェクトの一覧が示されます。
- 3 正しいオブジェクトを選択していることを確認し、【OK】をクリックします。選択したオブジェクトがソース管理から削除されます。

ソース管理に
ファイルに戻す

ソース管理にファイルに戻す方法の詳細は、[36 ページの『ソース管理から削除したファイルの追加』](#)を参照してください。



注 以前にソース管理から削除したオブジェクトをソース管理に再度追加するには、ワークスペースツリーを使用します。Library Painter から追加操作を開始すると、PowerBuilder が予期せず閉じる場合があります。

ソース管理からのワークスペースの削除

ソース管理から PowerBuilder ワークスペースを削除しても、Version Manager プロジェクトには影響がありません。後でいつでも、ワークスペースを Version Manager プロジェクトに再度追加できます。

ソース管理からワークスペースを削除するには、次の操作を行います。

- 1 システムツリー表示部のワークスペースオブジェクトを右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- 2 [Properties (プロパティ)] を選択します。[Properties of Workspace (ワークスペースのプロパティ)] ダイアログボックスが表示されます。

- 3 <Source Control System (ソース管理システム)> フィールドから [None (なし)] を選択します。
- 4 【OK】 をクリックします。ワークスペースがソース管理から削除されます。

PowerBuilder でのソース管理の使用法

内容 このセクションでは、ソース管理下のファイルの表示および編集に関する操作を説明します。

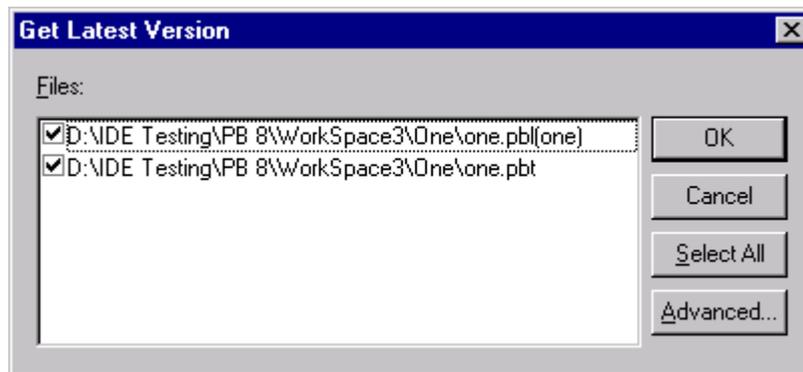
詳細情報 [第 4 章、53 ページの『ソース管理の使用法』](#) を参照してください。

オブジェクトの取得

オブジェクトを取得すると、選択したリビジョンの読み取り専用コピーがターゲットの PBL に配置されます。

リビジョンを取得するには

- 1 オブジェクトを右クリックして表示されるポップアップメニューで、[Get Latest Version (最新のファイルを取得)] を選択します。[Get Latest Version (最新のファイルを取得)] ダイアログボックスが表示され、選択したファイルの一覧が示されます。



- 2 一覧から必要に応じてファイルを選択または選択解除します。
- 3 以下のいずれかを実行します。

詳細設定の使用

- デフォルトの取得オプションを変更するには、【Advanced (詳細)】 をクリックします。[ChangeMan Advanced Get (取得の詳細設定)] ダイアログボックスが表示されます (詳細設定については、[54 ページの『ファイルの取得』](#) を参照してください)。

デフォルト値の使用

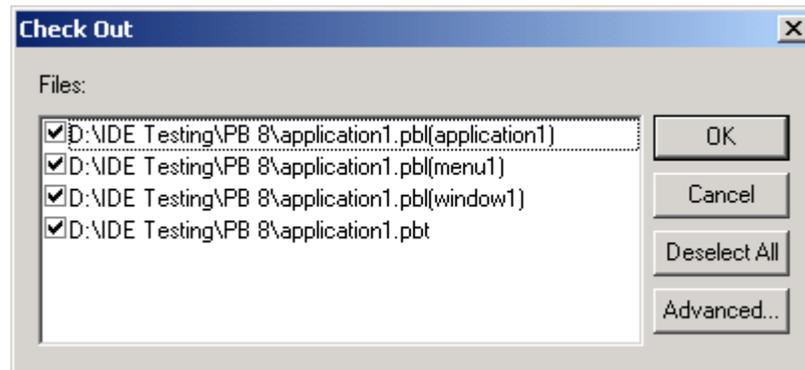
- デフォルトの取得オプションを使用する場合は、【OK】 をクリックします。

オブジェクトのチェックアウト

オブジェクトをチェックアウトすると、リビジョンはロックされ、書き込み可能オブジェクトがターゲット PBL に作成されます。

オブジェクトをチェックアウトするには、次の操作を行います。

- 1 オブジェクトを右クリックして表示されるポップアップメニューで、[Check Out (チェックアウト)] を選択します。[Check Out (チェックアウト)] ダイアログボックスが表示され、選択したファイルの一覧が表示されます。



- 2 一覧から必要に応じてファイルを選択または選択解除します。
- 3 以下のいずれかを実行します。

詳細設定の使用

- デフォルトのチェックアウトオプションを変更するには、【Advanced (詳細)】をクリックします。[ChangeMan Advanced Check Out (ChangeMan チェックアウトの詳細設定)] ダイアログボックスが表示されます (詳細設定については、57 ページの『ファイルのチェックアウト』を参照してください)。

デフォルト値の使用

- デフォルトのオプションをそのまま使用する場合は、【OK】をクリックします。

各オブジェクトアイコンの左側に緑色のチェックマーク (✓) が表示され、ユーザによってオブジェクトがチェックアウトされたことが示されます。



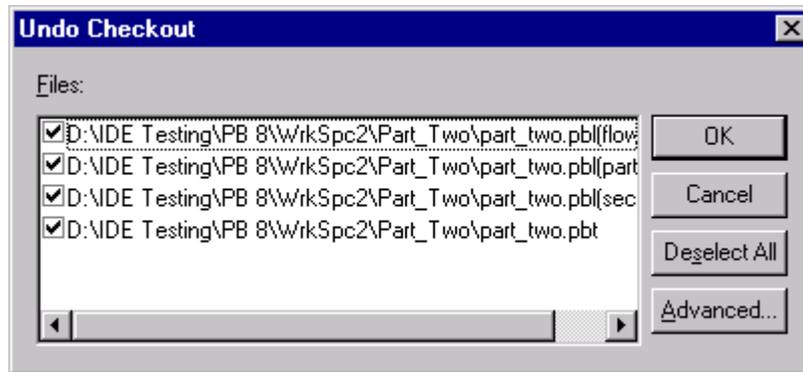
注 赤のチェックマーク (✗) はオブジェクトがほかのユーザによってチェックアウトされたことを示します。

チェックアウトの取り消し

デフォルトでは、チェックアウトを取り消すと、関連する Version Manager アーカイブが変更によって更新されることなくリビジョンのロックが解除されて、オブジェクトのローカルコピーが最新のリビジョンで置き換えられます。

チェックアウトを取り消すには、次の操作を行います。

- 1 オブジェクトを右クリックして表示されるポップアップメニューで、[Undo Check Out (チェックアウトの取り消し)] を選択します。[Undo Check Out (チェックアウトの取り消し)] ダイアログボックスが表示され、選択したファイルの一覧が示されます。



- 2 一覧から必要に応じてファイルを選択または選択解除します。
- 3 以下のいずれかを実行します。

詳細設定の使用

- デフォルトのチェックアウト取り消しオプションを変更するには、【Advanced (詳細)】をクリックします。[ChangeMan Advanced Undo Check Out (ChangeMan チェックアウト取り消しの詳細設定)] ダイアログボックスが表示されます (詳細設定については、59 ページの『チェックアウトの取り消しについて』を参照してください)。

デフォルト値の使用

- デフォルトのオプションをそのまま使用する場合は、【OK】をクリックします。

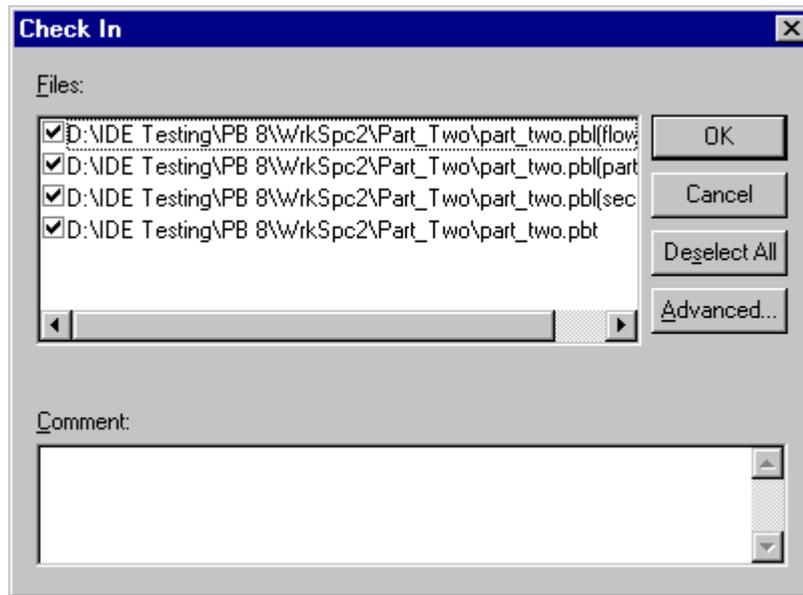
各オブジェクトアイコンの左側に緑色のドット (●) が表示され、オブジェクトがチェックアウト状態でなくなったことが示されます。

オブジェクトのチェックイン

デフォルトでは、オブジェクトをチェックインすると、リビジョンのロックが解除され、新規リビジョンがアーカイブに作成されて、最新リビジョンの次の番号が割り当てられます。

オブジェクトをチェックインするには、次の操作を行います。

- 1 オブジェクトを右クリックして表示されるポップアップメニューで、[Check In (チェックイン)] を選択します。[Check In (チェックイン)] ダイアログボックスが表示され、選択したファイルの一覧が示されます。



- 2 一覧から必要に応じてファイルを選択または選択解除します。
- 3 <Comment (コメント)> フィールドにオブジェクトへの変更内容のコメントを入力します。



注 オブジェクトごとに固有の説明を付ける場合は、<Comment (コメント)> フィールドを空白のままにします。[Check In (チェックイン)] ダイアログボックスへの入力完了すると、ファイルごとに順次、[Change Description (変更の説明)] ダイアログボックスが表示されます。

- 4 以下のいずれかを実行します。

詳細設定の使用

- デフォルトのチェックインオプションを変更するには、【Advanced (詳細)】をクリックします。(詳細設定については、60 ページの『ファイルのチェックイン』を参照してください)。

デフォルト値の使用

- デフォルトのオプションをそのまま使用する場合は、【OK】をクリックします。オブジェクトがチェックインされます。

各オブジェクトアイコンの左側に緑色のドット (●) が表示され、オブジェクトがチェックインされたことが示されます。

新規オブジェクトの追加

ソース管理されたワークスペースに新規オブジェクトを作成すると、各オブジェクトアイコンの左側に緑色のマーク（）が表示され、オブジェクトがまだソース管理下でないことが示されます。新規オブジェクトをソース管理に追加するには、120 ページの『ソース管理へのオブジェクトの追加』の手順に従ってください。



注 以前にソース管理から削除したオブジェクトをソース管理に再度追加するには、ワークスペースツリーを使用します。Library Painter から追加操作を開始すると、PowerBuilder が予期せず閉じる場合があります。

オブジェクトがソース管理に追加された後は、ほかのユーザは、オブジェクトが含まれるターゲットを取得またはチェックアウトしてこのオブジェクトを使用できます。

新規ターゲットまたは PBL の追加

新規ターゲット（.PBT）またはライブラリ（.PBL）をソース管理されたワークスペースに追加する場合、以下を実行する必要があります。

- 1 ターゲットまたはライブラリをソース管理に追加します。120 ページの『ソース管理へのオブジェクトの追加』を参照してください。
- 2 複数のユーザが使用できるようにワークスペースを最初に設定したときと同じように、各ワークステーションに配布します。121 ページの『複数ユーザ環境でのワークステーションの設定』を参照してください。

第 9 章

Rational Application Developer 6 (Eclipse 3) のリッチな統合

はじめに	130
サポートされている機能の使用	130
統合の概要	132
コラボレーティブプロセスの概要	132
ソース管理プロジェクトの設定	136
ソース管理の使用法	149
TeamTrack Issue の関連付けと作業	173
デフォルトオプションの設定	181

はじめに

目的 この章は、以下を目的としています。

- Eclipse 3、および IBM Rational Application Developer 6 から使用可能な Version Manager および TeamTrack の各機能の紹介と、それらの機能の使用方法的説明
- このマニュアルのパート 1 で解説された機能のうち、この統合機能には適用されないものの解説



注 このマニュアルのパート 1 は、ソース管理の概念以外はこの統合機能に適用されません。

- ソース管理プロジェクトの設定や、ソース管理へのファイルの追加を行う管理者の手引き
- ソース管理下にあるファイルに Eclipse からアクセスする開発チームの手引き
- Eclipse 内からソース管理ファイルの TeamTrack Issue に関する開発チームの手引き

サポートされている機能の使用

サポートされている機能 Eclipse 3 ベースの IDE では、Version Manager IDE のリッチな統合機能を通して利用できるソース管理や Issue 管理の全機能をサポートしています。

目的	操作	参照セクション
リビジョンの取得	右クリック - [Team (チーム)] - [Get (取得)]	155 ページの『ファイルの取得』
リビジョンのチェックアウト	右クリック - [Team (チーム)] - [Checkout (チェックアウト)]	157 ページの『ファイルのチェックアウト』
リビジョンのチェックアウトの取り消し	右クリック - [Team (チーム)] - [Undo Checkout (チェックアウトの取り消し)]	158 ページの『チェックアウトの取り消し』
リビジョンのチェックイン	右クリック - [Team (チーム)] - [Check In (チェックイン)]	159 ページの『ファイルのチェックイン』
最新リビジョンのラベル付け	右クリック - [Team (チーム)] - [Label (ラベル)]	153 ページの『バージョンラベルの割り当て』
以前のリビジョンのラベル付け	右クリック - [Team (チーム)] - [History (履歴)]	153 ページの『バージョンラベルの割り当て』
最新のリビジョンをプロモーション階層の次のレベルにプロモート	右クリック - [Team (チーム)] - [Promote (プロモート)]	注： <ul style="list-style-type: none"> ■ チェックアウトしたファイルはプロモートできません。 ■ チェックイン中はプロモートできます。159 ページの『ファイルのチェックイン』を参照してください。
特定のリビジョンをプロモーション階層の次のレベルにプロモート	((History (履歴)) ビューを使用) 右クリック - [Promote to next (次にプロモート)]	151 ページの『[History (履歴)] ビューでの操作』

目的	操作	参照セクション
リビジョン履歴の表示： - リビジョン - バージョンラベル - プロモーショングループ - 日付 - コメント	右クリック - [Team (チーム)] - [History (履歴)]	151 ページの『[History (履歴)]ビューでの操作』
作業ファイルと最新リビジョンの比較	右クリック - [Compare With (比較)] - [Serena Revision (Serena リビジョン)]	168 ページの『Serena の最新リビジョンとの比較』
作業ファイルとローカル履歴の比較	右クリック - [Compare With (比較)] - [Local History (ローカル履歴)]	169 ページの『ローカル履歴との比較』
作業ファイルの相互比較	右クリック - [Compare With (比較)] - [Each Other (相互)]	171 ページの『作業ファイルの相互比較』
作業ファイルとローカル履歴の置き換え	右クリック - [Replace With (置換)] - [Local History (ローカル履歴)]	172 ページの『ローカル履歴との置き換え』
作業ファイルと最新リビジョンの置き換え	右クリック - [Replace With (置換)] - [Latest Serena Revision (Serena の最新リビジョン)]	173 ページの『Serena の最新リビジョンへの置き換え』
プロジェクトをソース管理に追加	右クリック - [Team (チーム)] - [Share Project (プロジェクトの共有)]	137 ページの『ソース管理へのプロジェクトの追加』
ソース管理からプロジェクトを削除	右クリック - [Team (チーム)] - [Disconnect Project (プロジェクトの切断)]	149 ページの『ソース管理からのプロジェクトの削除』
ソース管理からプロジェクトをインポート	[Serena] - [Import Project from Version Manager (Version Manager からのプロジェクトのインポート)]	143 ページの『既存のソース管理に追加するワークステーションソース管理プロジェクト』
オブジェクトの名称変更または移動 (リファクタリング)	該当ドキュメントを参照してください。	163 ページの『名前の変更または移動の使用 (リファクタリング)』
ソース管理ステータスの更新	[Serena] - [Refresh All Status (すべてのステータスの更新)]	150 ページの『ソース管理ステータスの表示』
選択したオブジェクトに対するソース管理ステータスの更新	右クリック - [Team (チーム)] - [Refresh Status (ステータスの更新)]	150 ページの『ソース管理ステータスの表示』
ワークスペース全体とソース管理の同期化	[Serena] - [Compare Workspace (ワークスペースの比較)]	163 ページの『ワークスペースとソース管理の比較と同期化』
選択したプロジェクトとソース管理の同期化	右クリック - [Team (チーム)] - [Compare Workspace (ワークスペースの比較)]	163 ページの『ワークスペースとソース管理の比較と同期化』
TeamTrack Issue の操作	[Serena] - [Show Issues (Issue の表示)]	173 ページの『TeamTrack Issue の関連付けと作業』
ヘルプの表示	(ヘルプが必要なダイアログボックスまたはビューでクリックし、F1 キーを押します。)	注 F1 は、ほとんどのダイアログや表示でヘルプを起動します。

統合の概要

Version Manager のリッチな統合により、開発チームによるソースコードの管理を支援する強力なコラボレーションツールが提供されます。たとえば、次のような機能があります。

- ワークスペースの比較と同期

ローカルワークスペースのすべてのファイルの状態を、対応する Version Manager プロジェクトと簡単に比較できます。これにより、両者の違いや、ローカルワークスペースと Version Manager リポジトリのどちらを更新する必要があるかを特定できます。後はボタンをクリックするだけで、自動的にすべての変更を Version Manager にチェックインし、すべての更新をローカルワークスペースに取得できます。163 ページの『ワークスペースとソース管理の比較と同期化』を参照してください。
- ファイルの自動的なマージ

ワークスペースをチェックインしたり同期したりすると、加えた変更が、Version Manager リポジトリの同じファイルに最近加えられた変更と自動的にマージされます。
- ファイルの比較と競合の解決

特定のローカルファイルを、Version Manager リポジトリのファイルの最新のリビジョンと比較できます。必要に応じて、ファイルを直接編集して、ファイルをチェックインする前に競合を解決することもできます。163 ページの『ワークスペースとソース管理の比較と同期化』を参照してください。
- 実用的ロック

任意のファイルをいつでもチェックインできます。事前にロックする必要はありません。134 ページの『ロックしないファイルの作業』を参照してください。

TeamTrack 統合

組織で Serena TeamTrack を使用して不具合やタスクなどの開発 Issue を追跡している場合は、TeamTrack の Issue を Eclipse から提出および変更し、ファイルの特定のリビジョンに Issue を関連付けることができます。Issue をファイルに関連付けると、リビジョン番号が Issue に追加されます。

TeamTrack Issue の操作に関する詳細は、173 ページの『TeamTrack Issue の関連付けと作業』を参照してください。

コラボレーティブプロセスの概要

Version Manager の統合機能は、各種のコラボレーティブ開発プロセスを柔軟にサポートします。以下の操作を実行できます。

- ワークスペース
 - Version Manager のワークスペースを使用すると、開発者が作業するファイルを正確に定義できます。また、バージョンラベルを自動的に割り当てることによって、ワークスペースの保守を強制的に行うことができます。ワークスペースを使用することによって、同じ開発ブランチで作業しているすべての開発者が必ず同一のファイルを表示および更新することになるため、開発プロジェクトにおけるファイル共有のプロセスが大幅に簡略化されます。133 ページの『ワークスペースの使用』を参照してください。

- 実用的ロック
 - 楽観的（実用的）ロックモデルを使用することにより、ファイルをロックせずにすべてのユーザが共通ファイルで作業することができます。134 ページの『[ロックしないファイルの作業](#)』を参照してください。
- 悲観的ロック
 - 悲観的ロックモデルを使用すると、ファイルを変更する前にチェックアウトし、ファイルに加えられた変更をチェックインするようにユーザに要求することができます。これにより、ファイルのロックが解除されるまで他のユーザは変更をチェックインできなくなります。135 ページの『[ファイルロックを使用したチェックアウト](#)』を参照してください。

ワークスペースの使用

Eclipse へのリッチな統合により、Version Manager のワークスペースを広く活用して、コラボレーティブプロセスを単純化することができます。Version Manager のワークスペースは、共通のデフォルトバージョンラベルを共有する個々のファイルの集まりです。開発者はワークスペースを使用することにより、デフォルトバージョンラベルの定義に基づいて、特定の開発作業やプロジェクトに関連するファイルのみを取得して作業できます。



注 Version Manager のワークスペースには作業ファイルのデフォルトの場所も定義されていますが、この作業ファイルの場所は、Eclipse に統合されている場合は適用されません。代わりに、IDE のワークスペースで作業ファイルの場所が定義されます。ただし、Web クライアントやデスクトップクライアントなど、その他の Version Manager クライアントを使用する場合は、Version Manager の作業ファイルの場所が適用されます。

Eclipse に統合する場合のワークスペースのセットアップ方法と使用方法の概要を以下に示します。

- 1 Version Manager 管理者は、Version Manager でワークスペースをセットアップします。各プロジェクトまたはサブプロジェクト、そして各開発者に対しても固有のワークスペースをセットアップすることができます。最も単純なワークフローでは、プロジェクトチームのすべてのメンバーが共有できる共通のワークスペースを定義します。この共通のワークスペースで、プロジェクトの正しいデフォルトバージョンラベルが定義されます。異なるワークスペースを使用する開発者が共通のプロジェクトで作業する場合は、各ワークスペースのデフォルトバージョンラベルを同じ値に設定する必要があります。各開発者が表示したり変更したりできるファイルはデフォルトバージョンラベルによって決まるため、同じ開発ブランチで作業するすべての開発者が共通のデフォルトバージョンラベルを使用することが重要です。詳細は、『Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。



重要！ 開発者がそれぞれ異なるワークスペースで作業する場合は、いずれかのワークスペースでプロジェクト構造が変更されると他のワークスペースにも反映されることに注意する必要があります。たとえば、Major_Releases というワークスペースで作業している開発者がいくつかのファイルの名前を変更した場合、それらのファイルが含まれている他のワークスペースでもファイル名が変更されます。ワークスペースを定義する際には、こうした依存関係をよく検討することが重要です。

- 2 管理者がワークスペースのデフォルトバージョンラベルを定義します。このデフォルトバージョンラベルによって、ワークスペースに属するファイルが決まります。

たとえば、プロジェクトのすべてのファイルに Latest という浮動ラベルが割り当てられている場合に、プロジェクトのすべてのファイルの最新バージョンがワークスペースに含まれるようにするには、デフォルトバージョンラベルを Latest として定義します。

また、ブランチバージョンラベルが branch_01 であるブランチのすべてのファイルがワークスペースに含まれるようにするには、ワークスペースのデフォルトバージョンラベルを branch_01 として定義します。

詳細は、『Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。

- 3 開発者が適切なワークスペースを選択し、Eclipse プロジェクトをソース管理に追加します。適切なワークスペースを選択すると、そのワークスペースのデフォルトバージョンラベルが、Version Manager に追加されたすべてのファイルに割り当てられます。たとえば、デフォルトバージョンラベルが Latest であるワークスペースを開発者が選択した場合は、Latest というラベルがすべてのファイルに割り当てられます。
- 4 他の開発者は、適切なワークスペースを選び、ソース管理から IDE プロジェクトをインポートします。この選択によって、各自のローカルワークスペースにコピーされるファイルが決まります。たとえば、デフォルトバージョンラベルが「Latest」であるワークスペースを開発者が選択した場合は、「Latest」が割り当てられているファイルのみがローカルワークスペースにコピーされます。
- 5 開発者がワークスペースを同期させてすべての変更を解決します。デフォルトバージョンラベルを持つファイルのチェックインと取得が自動的に行われます。開発者がすべての変更を解決すると、以下の処理が行われます。
 - すべての新しいローカルファイルが Version Manager プロジェクトに追加され、現在のワークスペースのデフォルトバージョンラベルが割り当てられます。
 - Version Manager プロジェクトに含まれる新しいファイルのうち、ローカルワークスペースのデフォルトバージョンラベルが割り当てられているファイルがローカルワークスペースにコピーされます。

ロックしないファイルの作業

「実用的」ロックや「楽観的」ロックなどとも呼ばれるこのモデルでは、複数のユーザが同時にファイルを取得して変更できます。各ユーザの変更は、ファイルをチェックインするときにはほかのユーザの変更と自動的にマージされます。複数のユーザの変更を自動的にマージしようとした結果、マージの競合が発生した場合は、ワークスペースの比較機能を使用して競合を評価および解決しないとチェックインを完了できません。



注 デフォルトでは、楽観的ロックが有効になっています。ただし、管理者は特定のプロジェクトデータベースに対して楽観的ロックを解除することができます。

このプロセスの手順を以下に示します。

- 1 一日の始めに、Version Manager リポジトリの最新の更新がローカルワークスペースにすべて揃っていることを確認します。そのためには、ローカルワークスペースを Version Manager リポジトリと同期させます (163 ページの『ワークスペースとソース管理の比較と同期化』を参照)。既存のローカルファイルが Version Manager リポジトリの最新のリビジョンと異なる場合は、リビジョンがマージされます。異なるリビジョンを自動的にマージしようとした結果、マージの競合が発生した場合は、それらをダブルクリックして比較エディタで開き、マージの競合を評価および解決します。
- 2 ファイルを編集します。
- 3 編集作業が完了したら、ファイルを Version Manager にチェックインします。特定のファイルをチェックインする (159 ページの『ファイルのチェックイン』を参照) か、ワークスペースを Version Manager リポジトリと同期させることができます (163 ページの『ワークスペースとソース管理の比較と同期化』を参照)。



注 実際のチェックイン操作では、Version Manager が新しいリビジョンをリポジトリに追加する際にファイルが一時的にロックされます。

例：コラボレーティブ開発

開発者のチームが、「Source」というプロジェクトデータベースの「Java」というプロジェクトに格納されているファイルを使用して共同で作業しています。この組織では、複数の開発者が共通ファイルで同時に作業できるようになっています。この開発ワークフローは、次のようになります。

- 1 各開発者は一日の始めに、Version Manager の「Java」プロジェクトにある最新の変更で各自のローカルワークスペースを更新します。この開発チームは複数の国にある開発サイトで作業していますが、この手順によって、すべての開発者がすべての開発サイトの最新の更新を取得できます。163 ページの『ワークスペースとソース管理の比較と同期化』を参照してください。
- 2 各開発者は一日の終わりに、各自のワークスペースを Version Manager リポジトリと同期させます。複数の開発者が同じファイルに変更を加えた場合は、マージ機能によって、各ユーザの変更が新しいリビジョンに自動的にマージされます。マージされたファイルや変更されたファイルは、すべてローカルワークスペースにコピーされます。変更を自動的にマージしようとした結果、マージの競合が発生した場合は、チェックインを行っている開発者が競合を解決し、もう一度同期を実行する必要があります。163 ページの『ワークスペースとソース管理の比較と同期化』を参照してください。

ファイルロックを使用したチェックアウト

このワークフローでは、変更するファイルをチェックアウトします。ファイルをチェックアウトすると、Version Manager でファイルがロックされ、ロックを解除するまでほかのユーザは変更をチェックインできなくなります。変更が完了したら、ファイルをチェックインします。このプロセスによって、複数のユーザの変更による競合が回避されます。



重要！ ローカルの変更をチェックインしても、名前が変更されたり、移動されたり、削除されたオブジェクトとは同期されません。リファクタリングまたは削除されたオブジェクトをチェックインするためには、ローカルワークスペースと Version Manager リポジトリを同期させる必要があります。163 ページの『ワークスペースとソース管理の比較と同期化』を参照してください。

例：ファイルのロック

複雑で相互に依存するコードベースで作業する開発チームに参加している中島さんと山本さんは、よく同じファイルで作業します。以下は、典型的な一日の作業の流れです。

- 1 中島さんが、一連のファイルをソース管理からチェックアウトして作業を開始します (157 ページの『ファイルのチェックアウト』を参照)。
- 2 山本さんがプロジェクトを開くと、ファイルアイコンにパッドロック記号 (🔒) が表示されます。この記号は、ファイルが別のユーザによってチェックアウトされていることを示します (150 ページの『ソース管理ステータスの表示』を参照)。山本さんは [History (履歴)] ビューを使用して、ファイルをチェックアウトしたのが中島さんであることを確認します (151 ページの『[History (履歴)] ビューでの操作』を参照)。ファイルの作業にどれくらいかかるか中島さんに確認した山本さんは、早めの昼食を取ることにしました。
- 3 作業を終えた中島さんはファイルをチェックインして、作業の元となった TeamTrack Issue にファイルを関連付けます (159 ページの『ファイルのチェックイン』を参照)。
- 4 昼食から戻った山本さんはソース管理ステータスを更新します。ファイルがすでにチェックインされていることを確認します。山本さんはそれらのファイルをチェックアウトして、作業を開始します。

ソース管理プロジェクトの設定

- 内容** このセクションでは、Eclipse ベースの IDE への Version Manager のリッチな統合の設定方法について説明します。
- 前提条件** 設定を行う前に、管理者は、Version Manager デスクトップクライアントを使用して、IDE プロジェクトに関連付けられたソース管理プロジェクトを含むプロジェクトデータベースを作成します (このようなプロジェクトデータベースがまだ作成されていない場合)。『Serena ChangeMan Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。



重要! UNC パスでは Eclipse は正常に機能しません。UNC パスではなく、Version Manager インストールに対してマップされたドライブ、および Eclipse で使用される Version Manager File Server パスを使用します。

ファイルとディレクトリのソース管理からの除外

ソース管理から指定したファイルとディレクトリを除外するように Eclipse を設定することができます。これによって、プロジェクトデータベースのサイズを最小にできます。たとえば、拡張子が .tmp のすべてのファイルを除外したり、bin ディレクトリとその内容を除外したりできます。



重要! プロジェクトをソース管理に追加する前に、ソース管理から除外するファイルとディレクトリを指定します。

ソース管理から指定したファイルとディレクトリを除外するには

- 1 [Window (ウィンドウ)] – [Preferences (設定)] を選択します。[Preferences (設定)] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 <Team (チーム)> の隣の「+」記号をクリックして <Ignored Resources (無視するリソース)> を選択します。
- 3 ソース管理から除外するファイルタイプやディレクトリが <Ignore Patterns (無視するパターン)> リストボックスにあるか調べます。一覧にない場合、次の操作を行います。
 - a **【Add (追加)】** をクリックします。[Enter Ignore Pattern (無視するパターンの入力)] ダイアログボックスが表示されます。
 - b 無視するファイルタイプまたはディレクトリを定義するパターンを入力します。必要な場合には、ワイルドカードを使用します。
 - アスタリスク (*) は 1 つ以上の文字を表します。
 - 疑問符 (?) は 1 文字を表します。
 - c **【OK】** をクリックします。
- 4 <Ignore Patterns (無視するパターン)> リストボックスで、ソース管理から除外する各ファイルタイプとディレクトリの隣にチェックマークが表示されていることを確認します。
- 5 **【OK】** をクリックします。

以前のバージョンのソース管理統合からのプロジェクトの移行

Version Manager ソース管理下に既存の Eclipse のプロジェクトがある場合にこのプロジェクトをリッチな統合に移行するには、次の手順を実行します。

- Serena-SB の統合
- 1 以前の統合から、変更をすべてチェックインします。
 - 2 同じ IDE でリッチな統合を使用する場合は、以下のようにして、ローカルワークスペースからプロジェクトを削除する必要があります。
 - a プロジェクトを右クリックして、ポップアップメニューで [Delete (削除)] を選択します。 [Confirm Project Delete (プロジェクトの削除の確認)] ダイアログボックスが表示されます。
- リッチな統合
- 3 新しい統合で、[Serena] – [Import Project from Version Manager (Version Manager からのプロジェクトのインポート)] を選択します。作業設定には、作業ファイルの場所、デフォルトバージョン、ベースバージョンおよびブランチバージョンが含まれます。144 ページの『ソース管理からのプロジェクトの取得』を参照してください。
 - 4 プロジェクトが Eclipse 1 (WebSphere Studio Application Developer 4) を使用していた場合は、.project ファイルをチェックインします。このファイルによって、Eclipse 1 で使用されていた .vcm_meta ファイルが置き換わります。



警告! リポジトリから削除するかどうかを確認するメッセージに対しては、【No (いいえ)】と答えます。

- b 内容を削除するオプションを選択して【Yes (はい)】をクリックします。
- c 【Yes To All (すべてはい)】をクリックして、読み取り専用リソースの削除を確認します。



重要! 以前のバージョンの Eclipse からプロジェクトを移行する場合は、古いバージョンの IDE ではそのプロジェクトを開かないでください。

ソース管理へのプロジェクトの追加

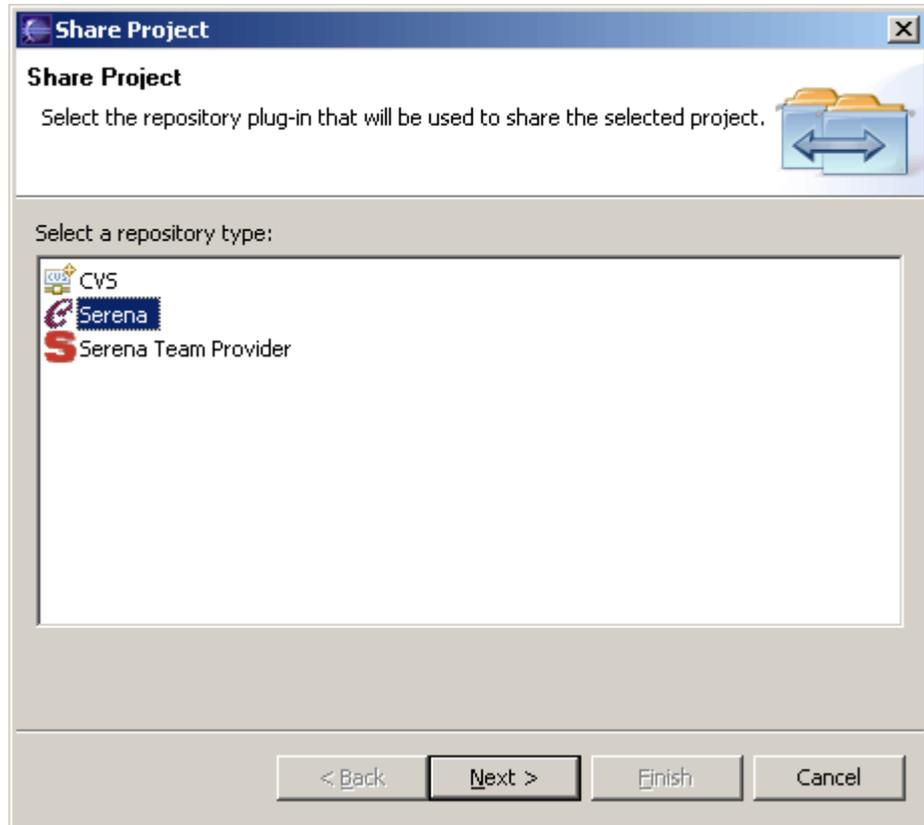
Version Manager 統合機能を使用するためには、IDE プロジェクトをソース管理に追加する必要があります。



重要! プロジェクトをソース管理に追加する前に、プロジェクト内のファイルのうち、ソース管理から除外するものを指定します。136 ページの『ファイルとディレクトリのソース管理からの除外』を参照してください。

ソース管理にプロジェクトを追加するには、次の操作を行います。

- 1 パッケージエクスプローラまたはナビゲータでプロジェクトアイコンを右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- 2 [Team (チーム)] – [Share Project (プロジェクトの共有)] を選択します。[Share Project (プロジェクトの共有)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 〈Select a repository type (リポジトリタイプを選択してください)〉 リストボックスから 〈Serena〉 を選択します。

- 4 【Next (次へ)】をクリックします。プロジェクトの共有ウィザードの [Enter Login Information (ログイン情報の入力)] ページが表示されます。

Share Project

Enter Login Information

Define the login and location information required to connect with a Serena repository

To obtain your login name and password, please contact your IT Administrator.

Project Database:
C:\Program Files\Serena\vm\common\vmdevint

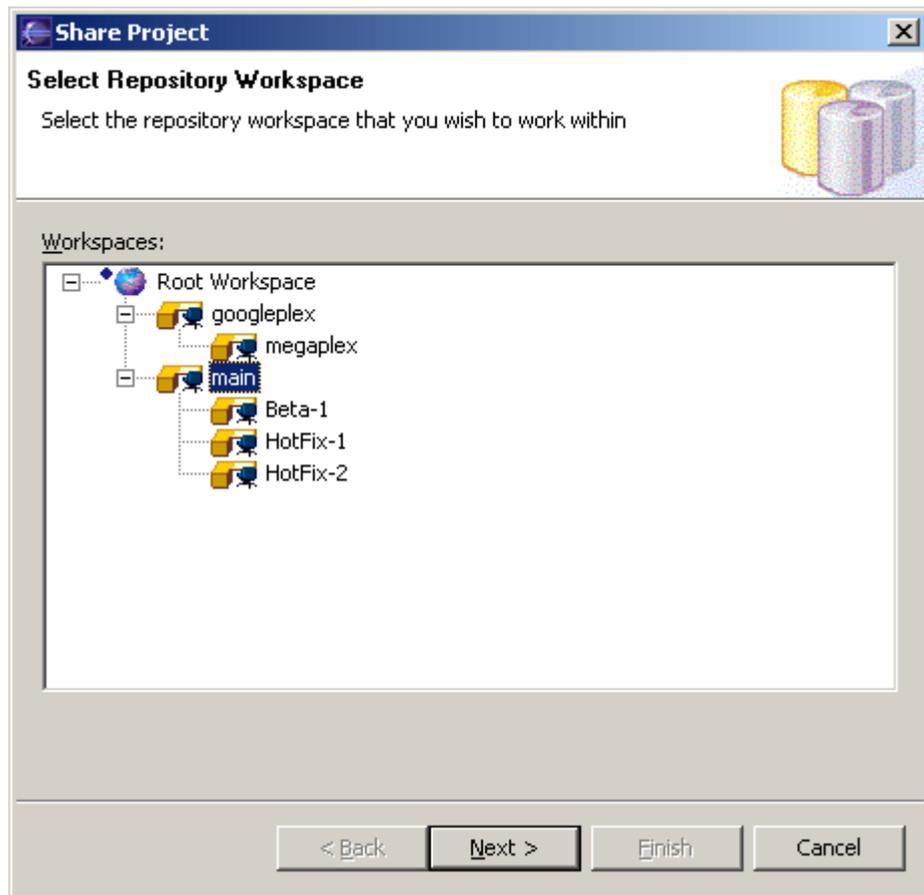
Username:
joeb

Password:

< Back Next > Finish Cancel

- 5 Version Manager プロジェクトデータベースを指定するには、以下のいずれかを行います。
- ルートプロジェクトデータベースディレクトリへのパスを入力するか、ドロップダウンリストから最新プロジェクトデータベースを選択します。
 - 【PDB】 ボタン () をクリックすると、プロジェクトデータベースを参照できます。
 - File Server が Version Manager で定義されている場合は、【File Servers (ファイルサーバ)】 ボタン () をクリックして、Version Manager File Server 上のすべてのプロジェクトデータベースから選択します (Version Manager File Server が定義されていない場合は、このボタンを無視します)。

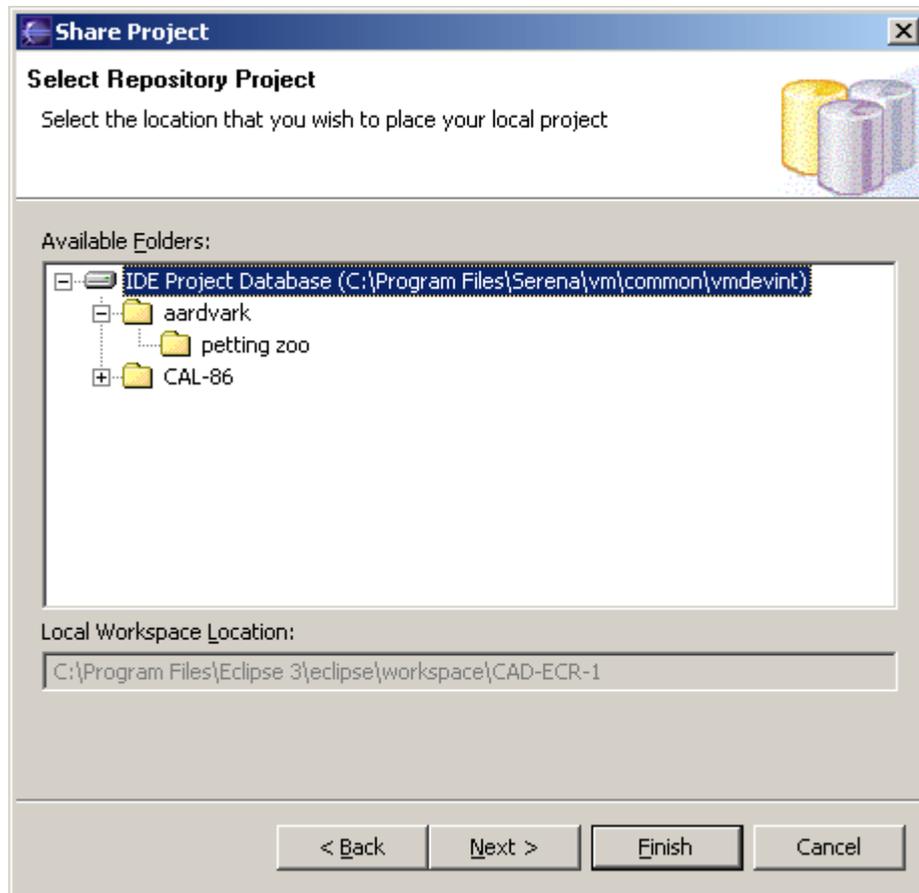
- 6 必要ならば、Version Manager のユーザ名とパスワードを入力し、【Next (次へ)】をクリックします。[Select Repository Workspace (リポジトリワークスペースの選択)] ページが表示されます。



- 7 プロジェクトで使用する Version Manager ワークスペースを選択し、【Next (次へ)】をクリックします。

ワークスペースの選択内容によって、ファイルのデフォルトバージョンとプロモーショングループが決まります。選択内容によって作業ファイルの場所の設定が影響を受けることはありません。すべてのファイルの作業コピーは、IDE ワークスペースに保存されます。このリストには、プロジェクト内のすべてのパブリックワークスペースと、ユーザがアクセス可能なすべてのプライベートワークスペースが表示されます。

〔Select Repository Project (リポジトリプロジェクトの選択)〕ページが表示されます。



- 8 Version Manager が IDE プロジェクトの名前を使用して新規プロジェクトを作成する、プロジェクトデータベース内の場所を選択します。プロジェクト、サブプロジェクト、またはプロジェクトデータベースのルートを選択できます。



注 新しいプロジェクトフォルダをツリーに追加するには、新規フォルダの親になるフォルダを右クリックし、表示されるポップアップメニューから [Create Project (プロジェクトの作成)] を選択します。

- 9 【Next (次へ)】をクリックします。[Select TeamTrack Database (TeamTrack データベースの選択)] ページが表示されます。



注 TeamTrack サーバに接続しない場合は、【Next (次へ)】をクリックして、[手順 12](#)に進みます。

- 10 〈Host (ホスト)〉フィールドに TeamTrack サーバの URL を入力するか、〈Host (ホスト)〉ドロップダウンリストから最近使用した URL を選択します。



ヒント ホストシステムの名前を入力したら、タブを押して次のフィールドに移動します。デフォルトの URL が次の形式で自動的に入力されます。

```
http:// tt_server/tmtrack/tmtrack.dll
```

ここで、tt_server は TeamTrack ホストの名前です。



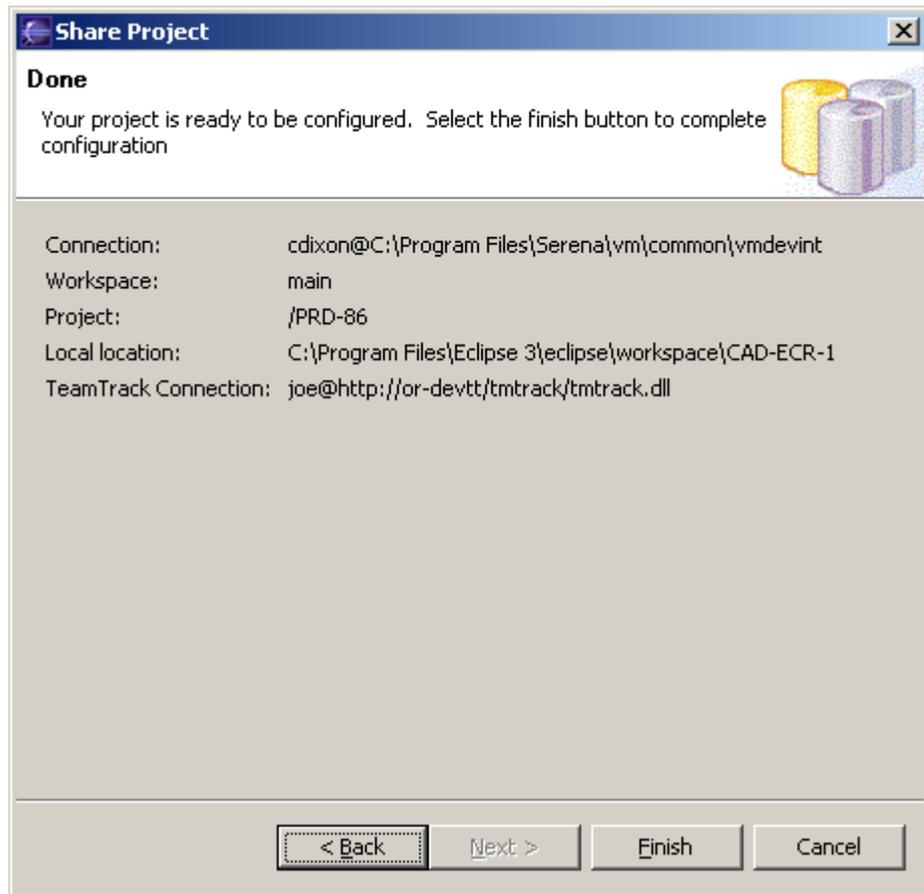
注 デフォルト以外のポート番号 (80 以外のポート) を使用している場合は、ポート番号をサーバ名の後に付加します。たとえば、ポート番号が 89 の場合は次のようになります。

```
http:// tt_server:89/tmtrack/tmtrack.dll
```



注 TeamTrack との統合機能を実行するためには、特定の TeamTrack ユーザー権限が必要です。TeamTrack SourceBridge のドキュメントを参照してください。

- 11 TeamTrack のユーザ名とパスワードを入力し、【Next (次へ)】をクリックします。【Done (完了)】ページが表示されます。



- 12 設定を確認します。設定を変更するには、【Back (戻る)】ボタンをクリックします。
- 13 【Finish (終了)】をクリックします。

既存のソース管理に追加するワークステーションソース管理プロジェクト

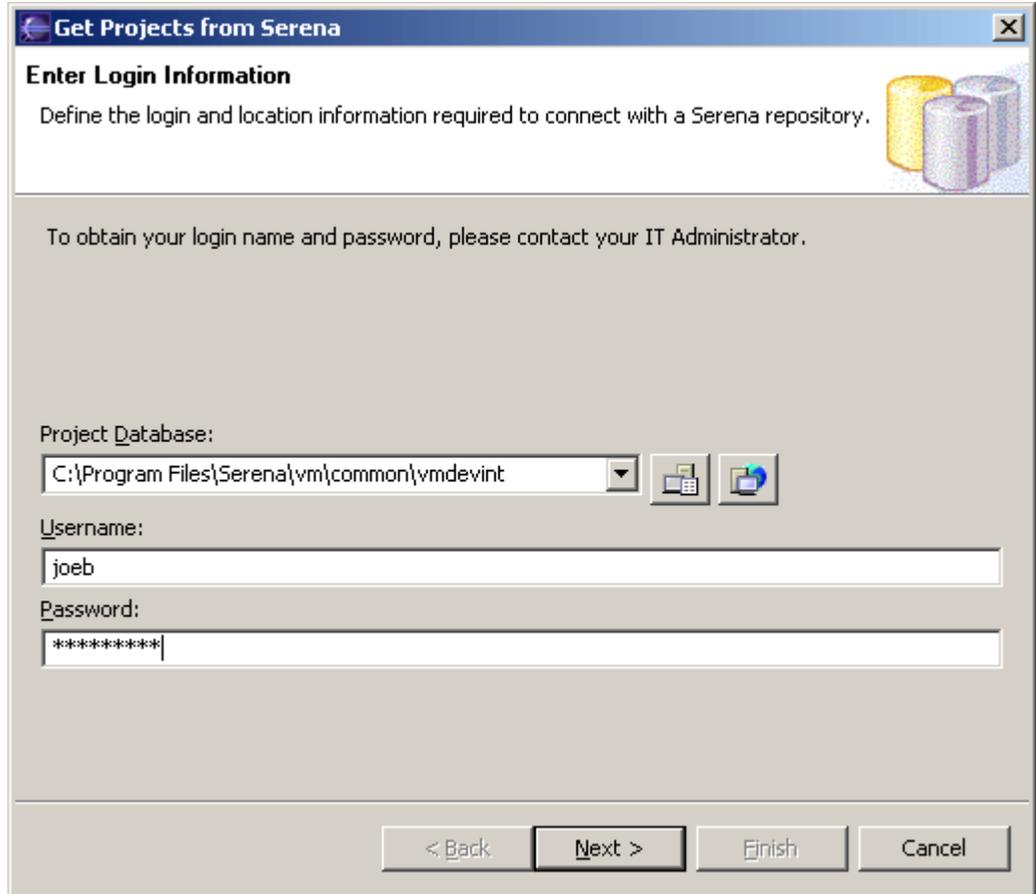
Eclipse プロジェクトがソース管理下に置かれた後は、Version Manager プロジェクトデータベースにアクセス可能な任意のワークステーションからこのプロジェクトを開くことができます。ソース管理プロジェクトに追加するワークステーションを増やす方法として、次の 2 つがあります。

- ソース管理からプロジェクトを取得します。次のセクションを参照してください。
- プロジェクトセットファイルをエクスポートおよびインポートします。148 ページの『プロジェクトセットファイルのエクスポートおよびインポート』を参照してください。

ソース管理からのプロジェクトの取得

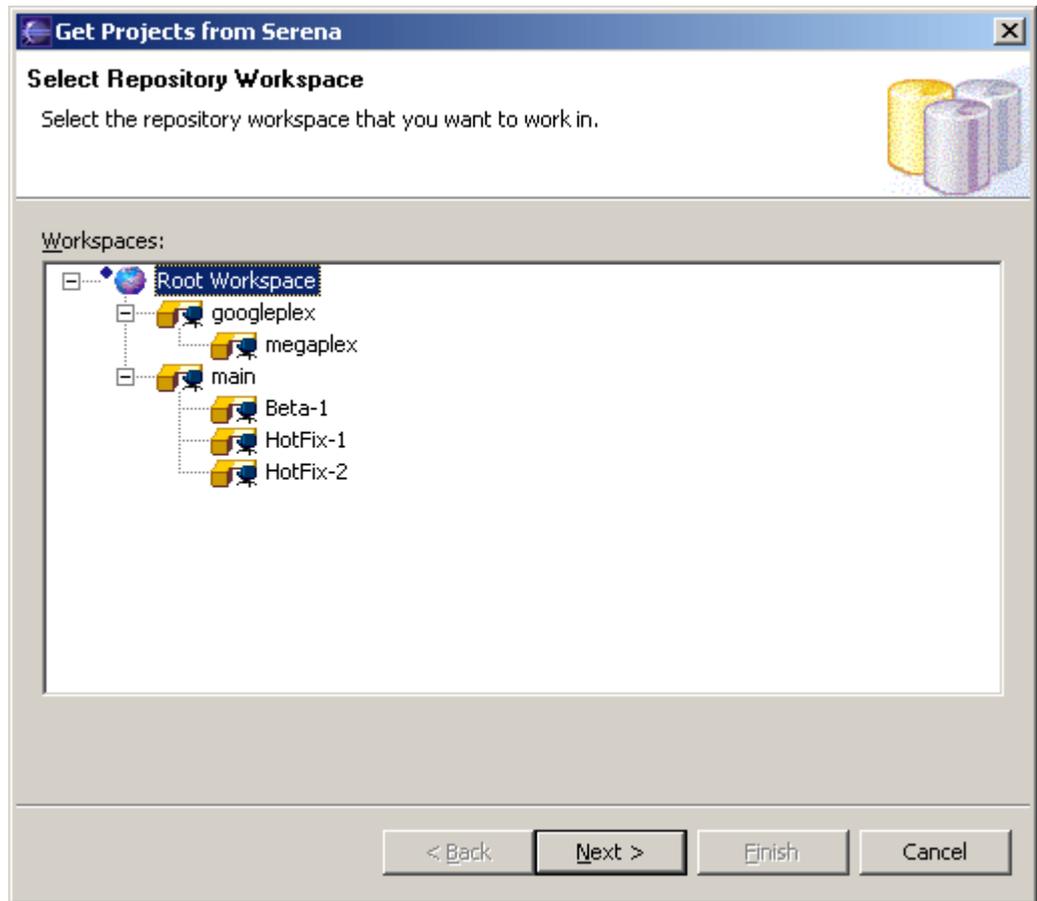
既存の管理対象プロジェクトをワークスペースに追加するには、次の操作を行います。

- 1 [Serena] – [Import Project from Version Manager (Version Manager からのプロジェクトのインポート)] を選択します。〈Get Projects from Serena (Serena からプロジェクトを取得)〉ウィザードが表示されます。



- 2 Version Manager プロジェクトデータベースを指定するには、以下のいずれかを行います。
 - ルートプロジェクトデータベースディレクトリへのパスを入力するか、ドロップダウンリストから最新プロジェクトデータベースを選択します。
 - 【PDB】ボタン () をクリックすると、プロジェクトデータベースを参照できます。
 - File Server が Version Manager で定義されている場合は、【File Servers (ファイルサーバ)】ボタン () をクリックして、Version Manager File Server 上のすべてのプロジェクトデータベースから選択します (Version Manager File Server が定義されていない場合は、このボタンを無視します)。

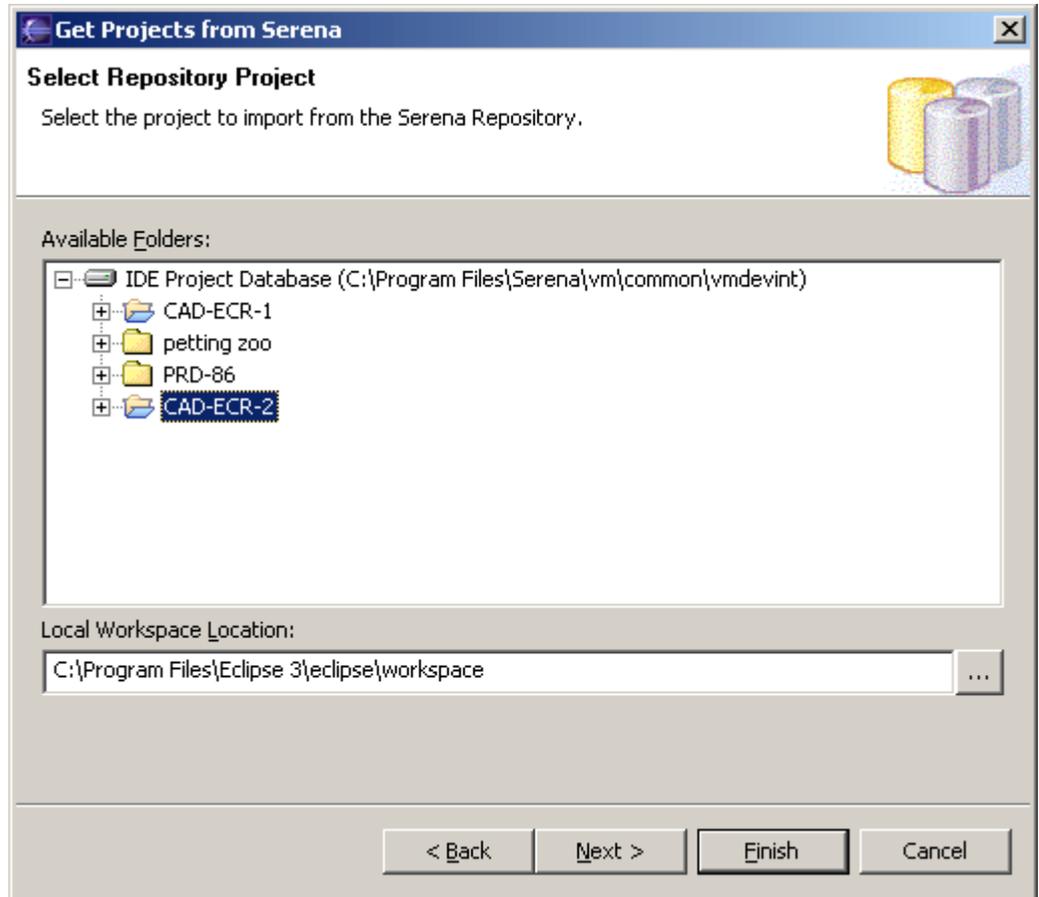
- 3 Version Manager のユーザ名とパスワードを入力し、【Next (次へ)】をクリックします。
〔Select Repository Workspace (リポジトリワークスペースの選択)〕ページが表示されます。



- 4 プロジェクトで使用する Version Manager ワークスペースを選択し、【Next (次へ)】をクリックします。

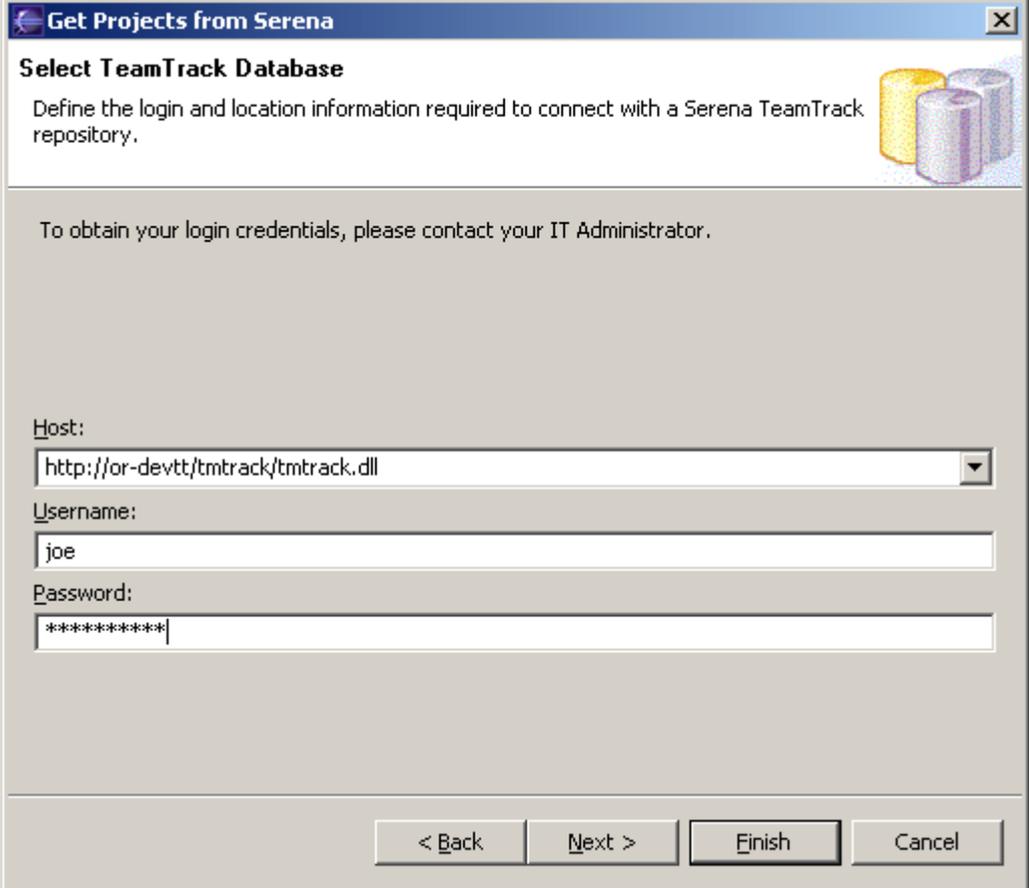
ワークスペースの選択内容によって、ファイルのデフォルトバージョンとプロモーショングループが決まります。選択内容によって作業ファイルの場所の設定が影響を受けることはありません。すべてのファイルの作業コピーは、IDE ワークスペースに保存されます。このリストには、プロジェクト内のすべてのパブリックワークスペースと、ユーザがアクセス可能なすべてのプライベートワークスペースが表示されます。

〔Select Repository Project (リポジトリプロジェクトの選択)〕 ページが表示されます。



- 5 プロジェクトデータベースのフォルダを参照し、Eclipse で開くプロジェクトを見つけて選択します。Version Manager でソースを管理している Eclipse プロジェクトは、青い表紙のフォルダ  で表示されます。
- 6 〈Local Workspace Location (ローカルワークスペースの場所)〉 フィールドに入力するか参照してローカルワークスペースロケーションを選択し、【Next (次へ)】をクリックして選択します。ローカルワークスペースとは、ファイルの作業用コピーを格納するローカルの作業ディレクトリです。

- 7 [Select TeamTrack Database (TeamTrack データベースの選択)] ページが表示されます。



Get Projects from Serena

Select TeamTrack Database

Define the login and location information required to connect with a Serena TeamTrack repository.

To obtain your login credentials, please contact your IT Administrator.

Host:
http://or-devtt/tmtrack/tmtrack.dll

Username:
joe

Password:

< Back Next > Finish Cancel



注 TeamTrack サーバに接続しない場合は、【Next (次へ)】をクリックして、[手順 10](#)に進みます。

- 8 〈Host (ホスト)〉フィールドに TeamTrack サーバの URL を入力するか、〈Host (ホスト)〉ドロップダウンリストから最近使用した URL を選択します。



ヒント ホストシステムの名前を入力したら、タブを押して次のフィールドに移動します。デフォルトの URL が次の形式で自動的に入力されます。

```
http:// tt_server/tmtrack/tmtrack.dll
```

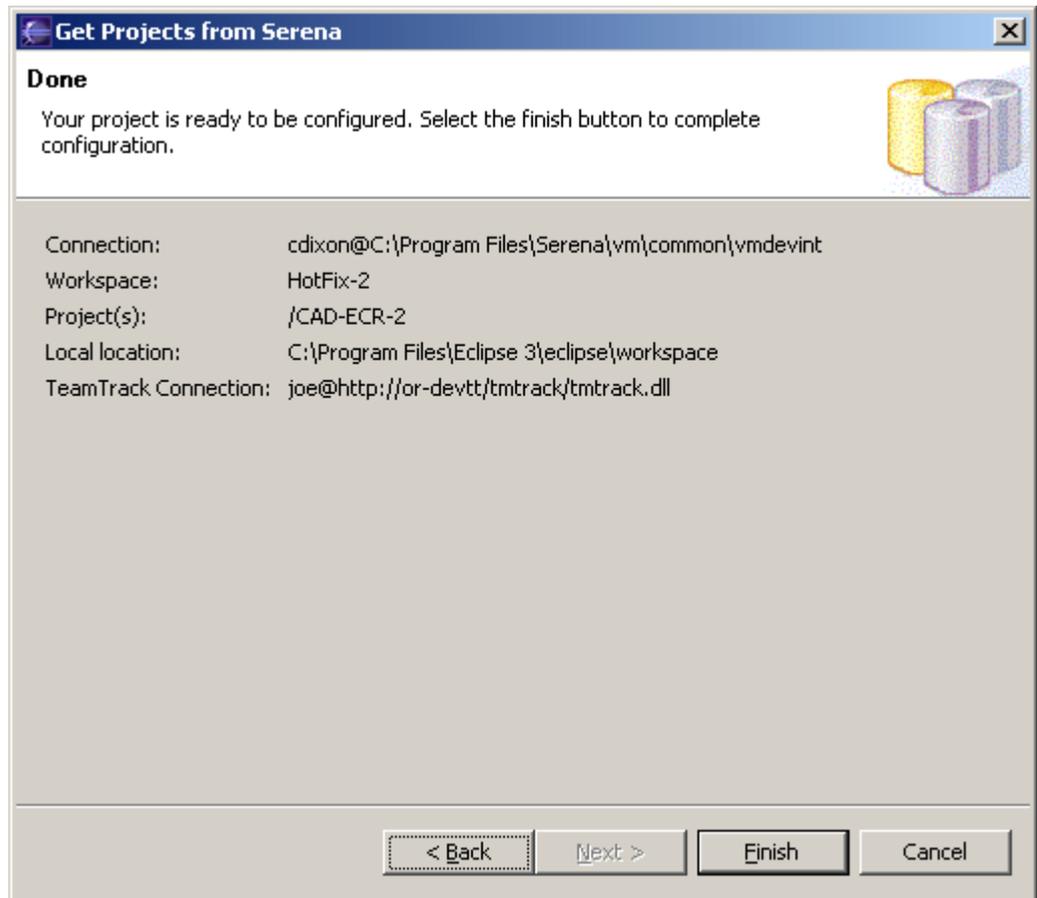
ここで、tt_server は TeamTrack ホストの名前です。



注 デフォルト以外のポート番号 (80 以外のポート) を使用している場合は、ポート番号をサーバ名の後に付加します。たとえば、ポート番号が 89 の場合は次のようになります。

```
http:// tt_server:89/tmtrack/tmtrack.dll
```

- 9 TeamTrack のユーザ名とパスワードを入力し、【Next (次へ)】をクリックします。【Done (完了)】ページが表示されます。



- 10 設定を確認します。設定を変更するには、【Back (戻る)】ボタンをクリックします。
- 11 【Finish (終了)】をクリックします。

プロジェクトセットファイルのエクスポートおよびインポート

プロジェクトセットファイルには、既存のソース管理プロジェクトにほかのワークステーションを追加するために必要なパス情報があります。

プロジェクトセットファイルをエクスポートするには、次の操作を行います。

- 1 [File (ファイル)] – [Export (エクスポート)] を選択します。[Export (エクスポート)] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 <Select an export destination (エクスポート先の選択)> リストボックスから [Team Project Set (チームプロジェクトセット)] を選択します。
- 3 【Next (次へ)】をクリックします。
- 4 エクスポートするプロジェクトを選択します。
- 5 <File name (ファイル名)> フィールドにパスとファイル名を入力するか、参照してエクスポート先を選択します。
- 6 【Finish (終了)】をクリックします。*.PSF ファイルが選択したディレクトリに作成されます。

- 7 この *.PSF ファイルを各ワークステーションに送達するか、ネットワークから使用可能にします。
プロジェクトセットファイルをインポートするには、次の操作を行います。
- 1 [File (ファイル)] – [Import (インポート)] を選択します。[Import (インポート)] ダイアログボックスが表示されます。
 - 2 <Select an import source (インポートソースの選択)> リストボックスから [Team Project Set (チームプロジェクトセット)] を選択します。
 - 3 【Next (次へ)】 をクリックします。
 - 4 <File name (ファイル名)> フィールドにパスと *.PSF ファイルの名前を入力するか、ブラウザして選択します。
 - 5 【Finish (終了)】 をクリックします。

ソース管理からのプロジェクトの削除

ソース管理からプロジェクトを削除しても、Version Manager アーカイブは削除されません。IDE プロジェクトと Version Manager アーカイブ間の関連付けが削除されるだけです。



重要! プロジェクトをソース管理に再追加するには、以下の操作を実行してください。

- ローカル作業ファイルを削除します。
- Version Manager からプロジェクトをインポートします。144 ページの『ソース管理からのプロジェクトの取得』を参照してください。

プロジェクトをソース管理から削除するには、次の操作を行います。

- 1 パッケージエクスプローラまたはナビゲータでプロジェクトアイコンを右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- 2 [Team (チーム)] – [Disconnect (削除)] を選択します。プロジェクトを削除するかどうかを確認するメッセージが表示されます。
- 3 【Yes (はい)】 をクリックします。

ソース管理の使用法

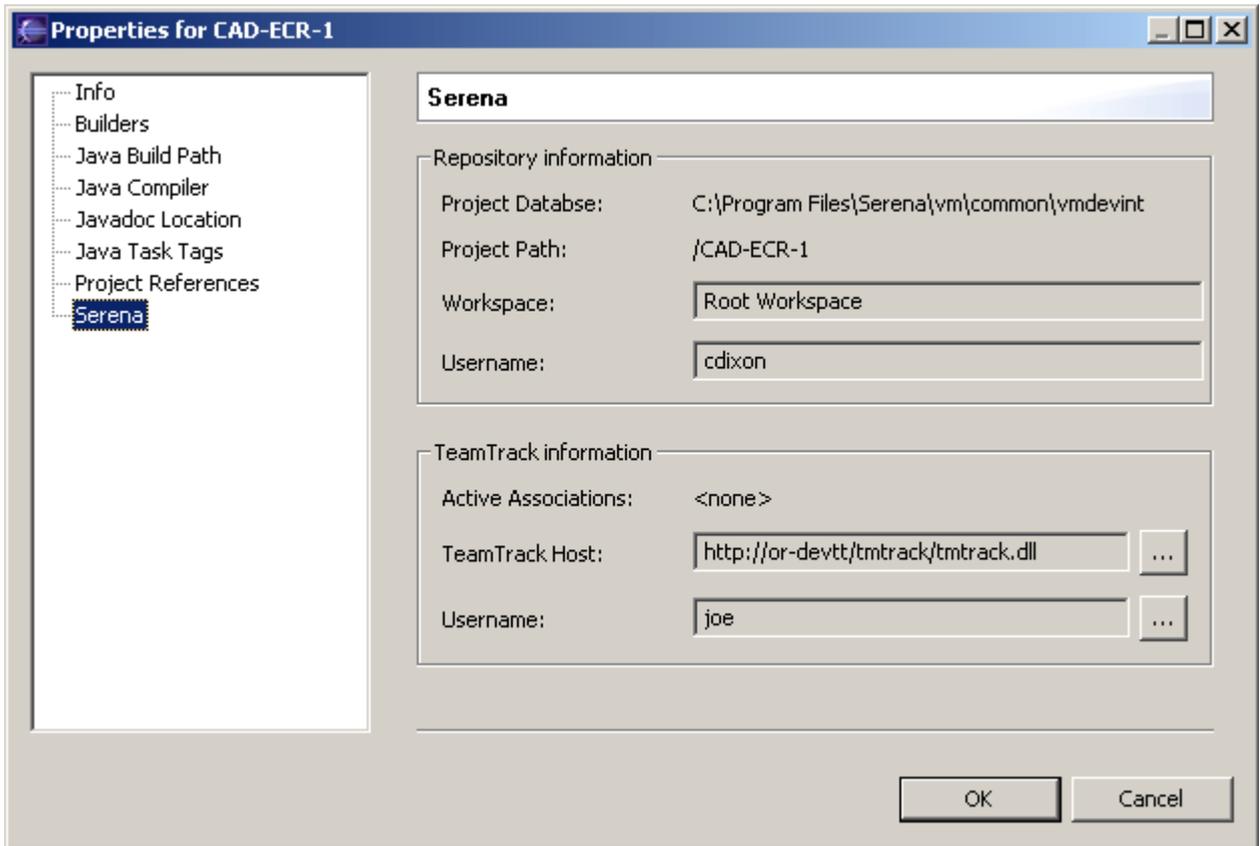
内容 このセクションでは、ソース管理下のファイルの表示および編集に関する操作を説明します。

接続情報の表示

プロジェクトについて、Version Manager と TeamTrack の接続情報を表示できます。

接続情報を表示するには、次の操作を行います。

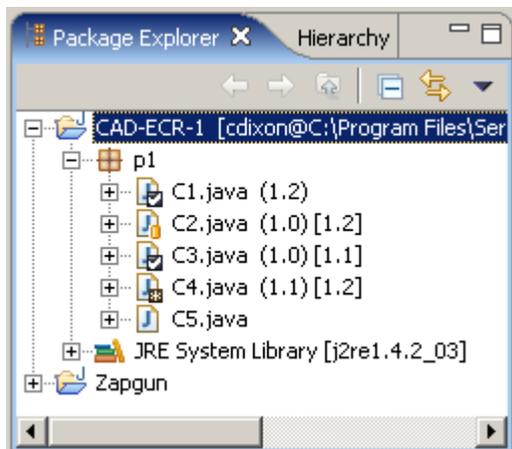
- 1 プロジェクトを右クリックして表示されるポップアップメニューで、[Properties (プロパティ)] を選択します。[Properties (プロパティ)] ダイアログボックスが表示されます。



- 2 左側の表示部で [Serena] を選択します。

ソース管理ステータスの表示

次の図に示すように、パッケージエクスプローラまたはナビゲータのオブジェクトアイコンの隣にマークとテキストを表示してステータスとリビジョン情報が示されます。



次の表に表示される内容を示します。

アイコン / テキスト	説明	意味
(1.0)	カッコ内の番号	ソース管理からワークスペースに取得またはチェックアウトしたリビジョンです。
[1.2]	半角の角カッコ内の番号	チップがワークスペースのリビジョンでない場合、ソース管理リポジトリの現在のチップリビジョンです。
	金色の円柱	オブジェクトがソース管理下にあり、チェックインされています。
	チェックマーク	チェックアウトされたオブジェクトがあります。
	パッドロック	ほかのユーザがオブジェクトをチェックアウトしています。
	アスタリスク	オブジェクトがローカルに変更されて、リポジトリとは同期していません。

ソース管理ステータスを更新するには、次の操作を行います。

- 選択したオブジェクトの場合は、パッケージエクスプローラまたはナビゲータでオブジェクトを右クリックし、表示されるポップアップメニューで [Team (チーム)] - [Refresh Status (ステータスの更新)] を選択します。
- すべてのプロジェクトの場合は、Eclipse のメニューバーで、[Serena] - [Refresh All Status (すべてのステータスの更新)] を選択します。

〔History (履歴)〕 ビューでの操作

〔History (履歴)〕 ビューでは、次の操作を実行できます。

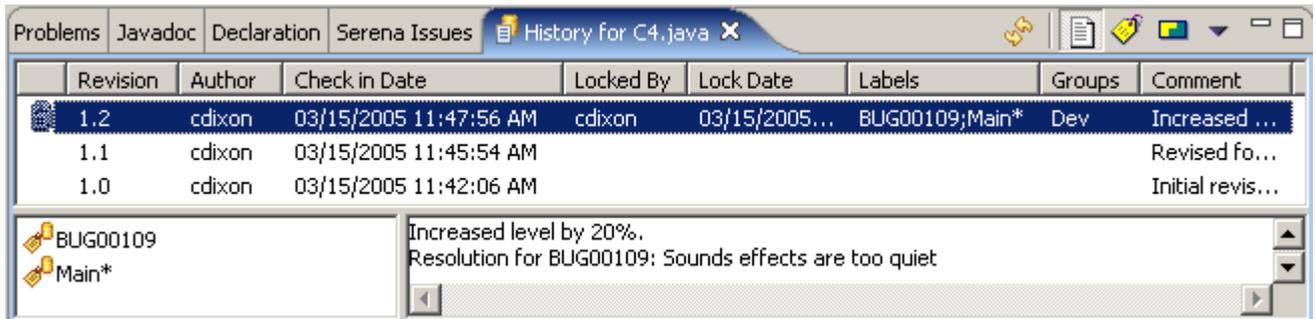
- バージョンラベルの割り当て、名前変更、削除
- すべての割り当て済みバージョンラベルの参照
- リビジョンの次のプロモーショングループへのプロモート
- プロモーショングループ階層の参照
- リビジョンごとのチェックインコメントの参照
- リビジョンごとのチェックイン日付の参照
- リビジョンの比較
- リポジトリからの以前のリビジョンの取得

〔History (履歴)〕 ビューの使用法

リビジョンの履歴を表示するには、次の操作を行います。

- 1 パッケージエクスプローラまたはナビゲータで、参照するファイルを選択して右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。

- 2 [Team (チーム)] – [History (履歴)] を選択します。[History (履歴)] ビューが表示されます。



ヒント パッケージエクスプローラまたはナビゲータからファイルをドラッグし、[History (履歴)] ビューにドロップすることもできます。

- 3 [History (履歴)] ビューの表示を変更するには、以下のいずれかを行います。



- [History (履歴)] ビューを更新するには、【Refresh (更新)】ボタンをクリックします。



- [History (履歴)] ビューをリビジョンごとにまとめて表示するには、【Group by Revisions (リビジョンで分類)】ボタンをクリックします。このビューには、すべてのリビジョンのリストが表示されます。



- [History (履歴)] ビューをバージョンラベルごとにまとめて表示するには、【Group by Labels (ラベルで分類)】ボタンをクリックします。このビューには、バージョンラベルが設定されているリビジョンのみが表示されます。



- [History (履歴)] ビューをプロモーショングループごとにまとめて表示するには、【Group by Promotion Group (プロモーショングループで分類)】ボタンをクリックします。このビューには、プロモーショングループが割り当てられているリビジョンのみが表示されます。各リビジョンは、プロモーションモデルツリーのリーフとして表示されます。



- 【Menu (メニュー)】ボタンをクリックし、〈Show Comment (コメントの表示)〉または〈Show Labels (ラベルの表示)〉、あるいはその両方を選択して、[History (履歴)] ビューの [Comment (コメント)] 表示部と [Label (ラベル)] 表示部の表示と非表示を切り替えます。これらの表示部には、すべてのバージョンラベルと、選択したリビジョンに関連付けられているコメントのリストが、見やすく表示されます。

4 以下のうち必要な作業を行います。

目的	選択するモード	操作
リビジョンをリポジトリ内の最新のリビジョンと比較する	 	リビジョンを右クリックして、[Compare revisions (リビジョンの比較)] を選択します。 比較エディタにリビジョンが表示されます。
リビジョンを別のリビジョンと比較する	 	<ol style="list-style-type: none"> 比較する複数のリビジョンを選択します。 リビジョンを右クリックして、[Compare revisions (リビジョンの比較)] を選択します。 比較エディタにリビジョンが表示されます。
リビジョンを表示する	  	リビジョンを右クリックして、[View revision (リビジョンの表示)] を選択します。 エディタタブにリビジョンが表示されます。
リビジョンをワークスペースに取得する	 	リビジョンを右クリックして、[Get revision (リビジョンの取得)] を選択します。 パッケージエクスプローラまたはナビゲータでファイルをダブルクリックすると、エディタタブでファイルが開きます。
リビジョンにバージョンラベルを割り当てる	 	リビジョンを右クリックして、[Add Label (ラベルの追加)] を選択します。[Label (ラベル)] ダイアログボックスが表示されます。 153 ページの『バージョンラベルの割り当て』 を参照してください。
バージョンラベルの名前を変更する		<ol style="list-style-type: none"> バージョンラベル名をクリックして、編集モードにします。 新しい名前を入力します。 ENTER キーを押して、新しい名前を保存して編集モードを終了します。
バージョンラベルの削除		リビジョン (ラベル名ではありません) をクリックして、DELETE キーを押します。
リビジョンを次のプロモーショングループにプロモートする	  	リビジョンを右クリックして、[Promote to next (次にプロモート)] を選択します。

バージョンラベルの割り当て

バージョンラベルを割り当てるには、次の操作を行います。

- 単一のファイルまたは複数のファイルの最新リビジョンにバージョンラベルを割り当てる方法については、[154 ページの『最新リビジョンのラベル付け』](#)を参照してください。
- 単一のファイルの以前のリビジョンにバージョンラベルを割り当てる方法については、[154 ページの『以前のリビジョンのラベル付け』](#)を参照してください。

最新リビジョンのラベル付け

最新リビジョンにラベルを付けるには、次の操作を行います。

- 1 パッケージエクスプローラまたはナビゲータで、ラベルを付けるファイル、フォルダ、またはプロジェクトを選択して、右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- 2 [Team (チーム)] - [Label (ラベル)] を選択します。[Label (ラベル)] ダイアログボックスが表示されます。154 ページの『[Label (ラベル)] ダイアログボックスへの入力』を参照してください。

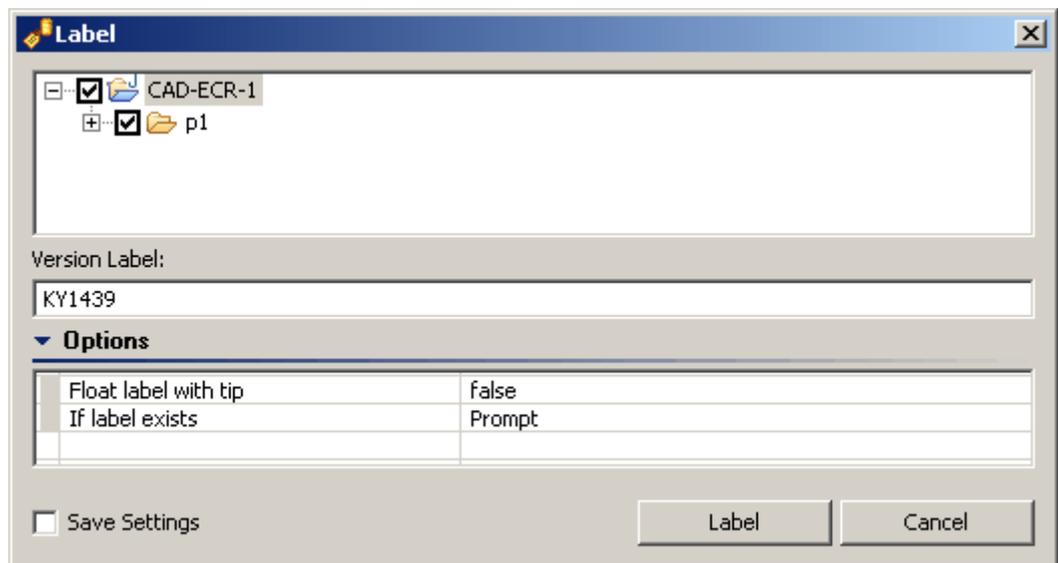
以前のリビジョンのラベル付け

以前のリビジョンにラベルを付けるには、次の操作を行います。

- 1 パッケージエクスプローラまたはナビゲータで、ラベルを付けるファイルを選択して右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- 2 [Team (チーム)] - [History (履歴)] を選択します。[History (履歴)] ビューが表示されます。
- 3 ラベルを付けるリビジョンを右クリックして、[Add Label (ラベルの追加)] を選択します。[Label (ラベル)] ダイアログボックスが表示されます。次のセクションを参照してください。

[Label (ラベル)] ダイアログボックスへの入力

- 1 上記の説明に従って、[Label (ラベル)] ダイアログボックスを開きます。[Label (ラベル)] ダイアログボックスが表示されます。



- 2 <Version Label (バージョンラベル)> フィールドに、バージョンラベルの名前を入力します。バージョンラベルには 254 文字まで入力できます。英字、数字、特殊文字を使用できます。ただし、コロン (:)、アスタリスク (*)、プラス記号 (+)、マイナス記号 (-)、および二重引用符 (") は使用できません。

- オプション 3 ラベルオプションを変更するには、〈Options (オプション)〉バーをクリックし、以下のいずれかを変更します。
- Float label with tip (浮動ラベル) : ラベルがファイルの最新リビジョンに常に割り当てられるようにするには、〈Yes (はい)〉を選択します。新規リビジョンをチェックインするたびに、最新のリビジョンにラベルが移動 (または浮動) されます。現在割り当てているリビジョンに新規ラベルが割り当てられるようにするには、〈No (いいえ)〉を選択します。
 - If label exists (ラベルが存在する場合) : 割り当てるラベルがすでに別のリビジョンに割り当てられている場合の処理を指定します。
 - Prompt (確認する) : 実行する操作を尋ねるメッセージが表示されます。
 - Reassign (再度割り当てる) : 選択したリビジョンにラベルを移動します。
 - Do not Reassign (再度割り当てない) : ラベルを選択したリビジョンに移動せずに、現状のまま維持します。



ヒント これらのオプションを新しいデフォルトとして保存するには、〈Save Settings (設定の保存)〉チェックボックスを選択します。デフォルトオプションの設定の詳細については、[181 ページの『デフォルトオプションの設定』](#)を参照してください。

- 4 【Label (ラベル)】をクリックします。



注 バージョンラベルを削除するには、[151 ページの『\[History \(履歴\)\] ビューでの操作』](#)を参照してください。

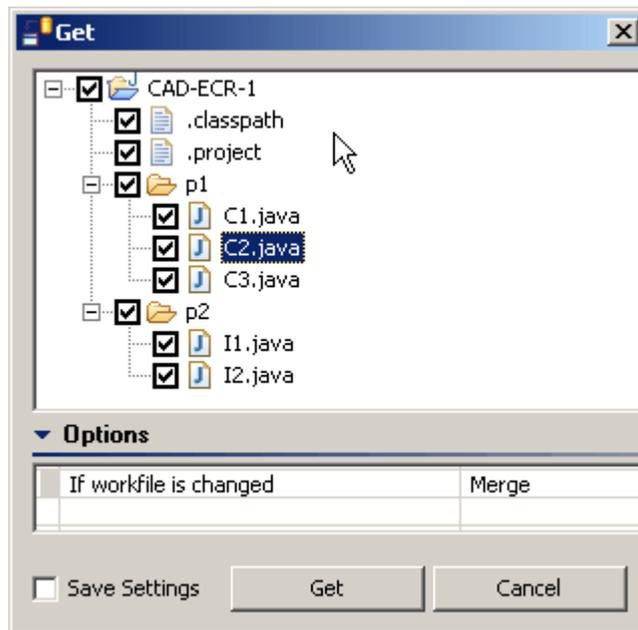
ファイルの取得

ファイルを取得すると、選択されたリビジョンが、作業ファイルの場所に読み取り専用ファイルとしてコピーされます。

リビジョンを取得するには、次の操作を行います。

- 1 パッケージエクスプローラまたはナビゲータで、取得するファイルを選択して、右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。

- 2 [Team (チーム)] – [Get (取得)] を選択します。[Get (取得)] ダイアログボックスに選択したファイルの一覧が表示されます。このリストでファイルを選択または選択解除して、選択対象を変更できます。



- オプション 3 <If workfile is changed (作業ファイルが変更される場合)> オプションで、ローカル作業ファイルが変更される場合の処理を指定します。

- Merge (マージする) : リポジトリリビジョンの内容を、変更したローカル作業ファイルにマージします。これがデフォルト設定ですが、新しい設定を定義することもできます。



重要! マージで競合があった場合、次のようになります。

- エラーが [Console (コンソール)] ビューに表示されます。
- ローカル作業ファイルは変更されません。

ファイルを取得するには、マージの競合を解消 (163 ページの『ワークスペースとソース管理の比較と同期化』を参照) するか、<Overwrite (上書きする)> または <Leave as-is (現状を維持する)> を選択してください。

- Prompt (確認する) : 実行する操作を尋ねるメッセージが表示されます。ファイルごとに別の選択肢を指定する場合は、このオプションを選択します。
- Overwrite (上書きする) : 変更されたローカル作業ファイルをリポジトリのリビジョンと置き換えます。
- Leave as-is (現状を維持する) : 変更されたローカル作業ファイルを維持します。



ヒント これらのオプションを新しいデフォルトとして保存するには、<Save Settings (設定の保存)> チェックボックスを選択します。デフォルトオプションの設定の詳細については、181 ページの『デフォルトオプションの設定』を参照してください。

- 4 【Get (取得)】をクリックします。

ファイルのチェックアウト

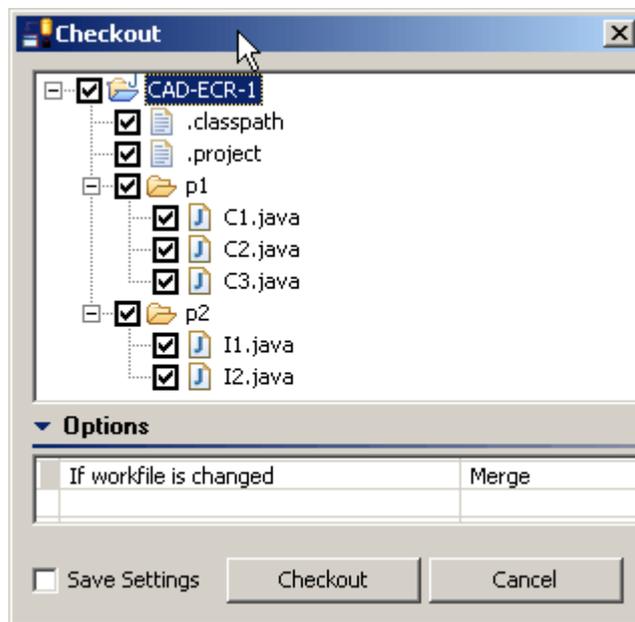
ファイルをチェックアウトすると、最新（チップ）リビジョンはロックされ、書き込み可能な作業ファイルが作業ファイルの場所に作成されます。



注 プロモーションモデルが有効な場合にファイルをチェックアウトするには、チップ（最新）リビジョンを最下位レベルのプロモーショングループに設定する必要があります。

ファイルをチェックアウトするには、次の操作を行います。

- 1 パッケージエクスプローラまたはナビゲータで、チェックアウトするファイルを選択して、右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- 2 [Team (チーム)] - [Checkout (チェックアウト)] を選択します。[Checkout (チェックアウト)] ダイアログボックスが表示され、選択したファイルのリストが示されます。このリストでファイルを選択または選択解除して、選択対象を変更できます。



- オプション 3 <If workfile is changed (作業ファイルが変更される場合)> オプションで、ローカル作業ファイルが変更される場合の処理を指定します。
- Merge (マージする)：最新のリポジトリリビジョンの内容を、変更したローカル作業ファイルにマージします。これがデフォルト設定ですが、新しい設定を定義することもできます。



重要！ マージで競合があった場合、次のようになります。

- エラーが [Console (コンソール)] ビューに表示されます。
- リポジトリリビジョンはロックされません。
- ローカル作業ファイルは変更されません。

ファイルをチェックアウトするには、マージの競合を解消 (163 ページの『ワークスペースとソース管理の比較と同期化』を参照) するか、<Overwrite (上書きする)> または <Leave as-is (現状を維持する)> を選択してください。

- Prompt (確認する) : 実行する操作を尋ねるメッセージが表示されます。ファイルごとに別の選択肢を指定する場合は、このオプションを選択します。
- Overwrite (上書きする) : 変更されたローカル作業ファイルをリポジトリの最新のバージョンと置き換えます。
- Leave as-is (現状を維持する) : リポジトリのファイルをロックしますが、変更されたローカル作業ファイルはそのまま保持します。



ヒント これらのオプションを新しいデフォルトとして保存するには、〈Save Settings (設定の保存)〉チェックボックスを選択します。デフォルトオプションの設定の詳細については、[181 ページの『デフォルトオプションの設定』](#)を参照してください。

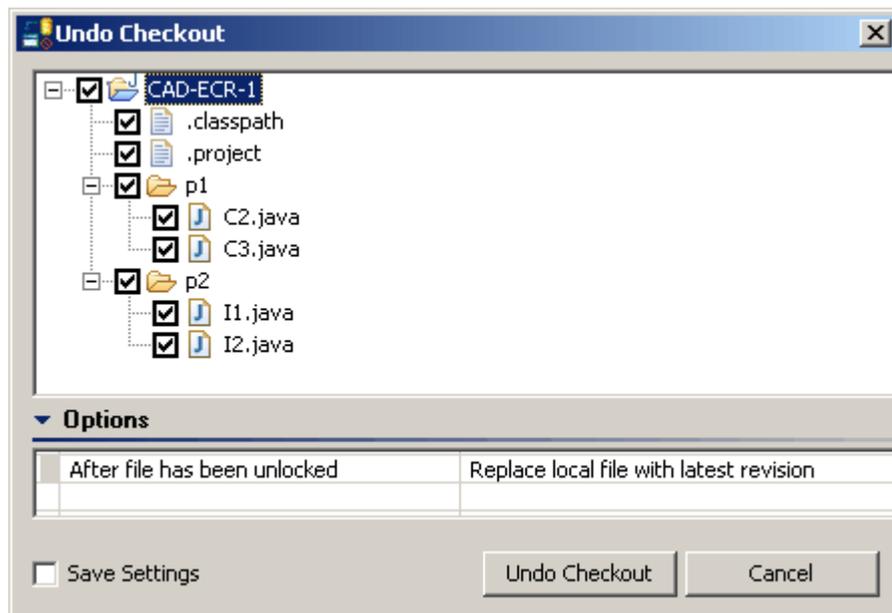
- 4 〈Checkout (チェックアウト)〉をクリックします。各ファイルアイコンの隣にチェックマークが表示されて、ファイルがチェックアウトされたことが示されます。

チェックアウトの取り消し

チェックアウトを取り消すと、アーカイブのロックが解除され、変更内容はアーカイブにチェックインされません。

チェックアウトを取り消すには、次の操作を行います。

- 1 パッケージエクスプローラまたはナビゲータで、ロック解除するファイルを選択して、右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- 2 [Team (チーム)] - [Undo Checkout (チェックアウトの取り消し)] を選択します。[Undo Checkout (チェックアウトの取り消し)] ダイアログボックスが表示され、選択したファイルのリストが示されます。このリストでファイルを選択または選択解除して、選択対象を変更できます。



- オプション 3 〈After file has been unlocked (ファイルのロック解除後の処理)〉オプションで、ローカル作業ファイルの処理を指定します。
- Replace local file with latest revision (ローカルファイルを最新リビジョンに置き換える)：ローカル作業ファイルをリポジトリの最新のリビジョンの読み取り専用コピーに置き換えます。
 - Leave local workspace as-is (ローカルワークスペースの現状を維持する)：ローカル作業ファイルを現状のまま保持します。



ヒント これらのオプションを新しいデフォルトとして保存するには、〈Save Settings (設定の保存)〉チェックボックスを選択します。デフォルトオプションの設定の詳細については、[181 ページの『デフォルトオプションの設定』](#)を参照してください。

- 4 【Undo Checkout (チェックアウトの取り消し)】をクリックします。

ファイルのチェックイン

- 目的** 作業ファイルをチェックインするとき、Version Manager は、すべての変更内容を新しいリビジョンとしてリポジトリに格納します。
- ワークフロー** 悲観的ロック：組織によっては、ファイルを編集する前にチェックアウト（ロック）が義務付けられることがあります。このワークフローにより、特定のファイルを同時に 1 人のユーザだけが変更することが保証されます。これは、Version Manager で従来から使用されてきた方法です。
- 実用的ロック：一方、組織によっては CVS のようなワークフローを奨励しています。この方式では、すべてのユーザがいつでも任意のファイルを変更でき、ファイルはロックされません。このワークフローでは、マージ機能と同期機能を使用して、各ユーザの変更が解決されます。
- ワークフローの詳細については、[132 ページの『コラボレーティブプロセスの概要』](#)を参照してください。
- マージ** デフォルトでは、リポジトリのローカルワークスペースが最後に更新されてから、ほかのユーザが変更をチェックインした場合は、ローカルの変更内容と最新のリビジョンの内容がマージされます。これにより、実用的ロックのワークフローで作業しているときに、どの変更も失われません。ローカルの変更内容が、他のユーザがすでにチェックインした変更内容と競合する場合は、ローカルの変更内容をチェックインするために競合を解消する必要があります。[163 ページの『ワークスペースとソース管理の比較と同期化』](#)を参照してください。

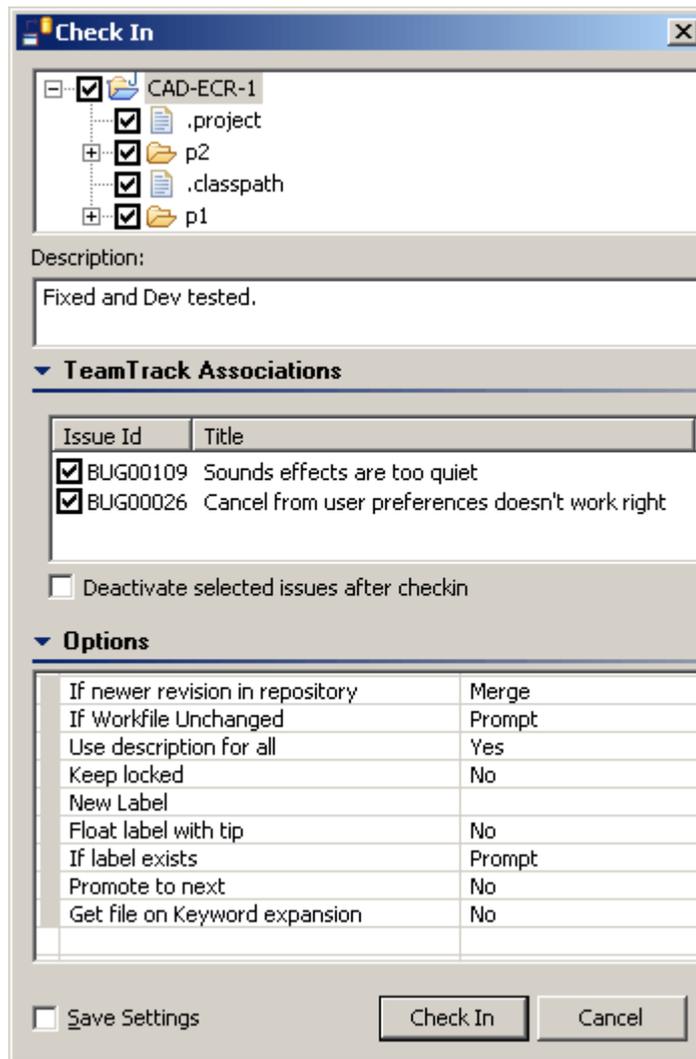


重要！ ローカルの変更をチェックインしても、名前が変更されたり、移動されたり、削除されたオブジェクトとは同期されません。リファクタリングまたは削除されたオブジェクトをチェックインするためには、ローカルワークスペースと Version Manager リポジトリを同期させる必要があります。[163 ページの『ワークスペースとソース管理の比較と同期化』](#)を参照してください。

ファイルをチェックインするには、次の操作を行います。

- 1 パッケージエクスプローラまたはナビゲータで、チェックインするファイルを選択して、右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。

- 2 [Team (チーム)] – [Check In (チェックイン)] を選択します。[Check In (チェックイン)] ダイアログボックスが表示され、選択したファイルのリストが示されます。このリストでファイルを選択または選択解除して、選択対象を変更できます。



- 3 変更内容の説明を〈Description (コメント)〉フィールドに入力します。この説明は、選択したすべてのファイルに適用されます。



ヒント ファイルごとに固有の説明を指定する場合は、〈Comment (コメント)〉フィールドを空白のままにします。[Check In (チェックイン)] ダイアログボックスへの入力完了すると、ファイルごとに順次、[Description (コメント)] ダイアログボックスが表示されます。

変更しなかったファイルについては、説明の入力を求めるメッセージは出されません。変更していないファイルを強制的にチェックインすると、説明が「変更なし」となります。



重要! [Description (コメント)] ダイアログで【Cancel (キャンセル)] ボタンをクリックすると、最初にファイルがロックされていなかった場合でも、ロックされた状態になります。変更済みのローカル作業ファイルを上書きせずにファイルのロックを解除するには、[Undo Checkout (チェックアウトの取り消し)] を実行して、〈Leave local workspace as-is (ローカルワークスペースの現状を維持する)〉オプションを選択します。

- TeamTrack の 4 TeamTrack の Issue を、チェックインするリビジョンに関連付ける場合には、〈TeamTrack
関連付け Associations (TeamTrack の関連付け)〉バーを展開し、関連付ける Issue を選択します。



注 [Check In (チェックイン)] ダイアログボックスには有効な Issue だけが表示され、有効な Issue だけをリビジョンと関連付けることができます。TeamTrack の Issue を有効にする方法については、179 ページの『Issue とファイルの関連付け』を参照してください。

TeamTrack の Issue には、チェックイン日付、リビジョン番号、Version Manager ユーザ ID などの、Issue が関連付けられているリビジョンに関する情報が含まれています。詳細については、173 ページの『TeamTrack Issue の関連付けと作業』を参照してください。

- 5 選択した Issue をチェックイン後に無効にするには、〈Deactivate selected issues after checkin (チェックイン後に選択した Issue を選択解除)〉チェックボックスを選択します。
- オプション 6 チェックインオプションを変更するには、〈Options (オプション)〉バーをクリックし、以下のいずれかを更新します。

オプション	説明
If newer revision in repository (リポジトリ内に新しいリビジョンがある場合)	<p>リポジトリ内のリビジョンが、作業ファイルの元になっているリビジョンよりも新しい場合の処理を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Merge (マージする) : 最新のリポジトリリビジョンとローカル作業ファイルの内容を結合して新しいリビジョンを作成し、それをチェックインします。これが出荷時のデフォルトです。 <p>注 マージで競合があった場合は、[Console (コンソール)] ビューにエラーが表示され、リポジトリリビジョンはロックされたままとなり、ローカル作業ファイルは変更されません。ファイルをチェックインするには、マージの競合を解消 (163 ページの『ワークスペースとソース管理の比較と同期化』を参照) するか、〈Force Checkin (強制的にチェックインする)〉を選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Skip (上書きしない) : ファイルをチェックインしません。 ■ Force Checkin (強制的にチェックインする) : ファイルをチェックインし、マージを行わずに新規リビジョンを作成します。
If workfile unchanged (作業ファイルが変更されない場合)	<p>作業ファイルが変更されていない場合の処理を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Prompt (確認する) : 実行する操作を尋ねるメッセージが表示されます。ファイルごとに別の選択肢を指定する場合は、このオプションを選択します。 ■ Checkin (チェックインする) : ローカル作業ファイルを新しいリビジョンとしてチェックインします。 ■ Leave as-is (現状を維持する) : 作業ファイルをチェックインしません。ファイルがロックされている場合は、ロックが解除されます。

オプション	説明
Use description for all (この説明をすべてのファイルに適用)	<p>チェックインするすべてのファイルに〈Description (コメント)〉フィールドを適用するには、〈Yes (はい)〉を選択します。</p> <p>ファイルごとに固有の説明を指定する場合は、〈No (いいえ)〉を選択します。ファイルごとに順次、〔Description (コメント)〕ダイアログボックスが表示されます。</p> <p>注 変更しなかったファイルについては、説明の入力を求めるメッセージは表示されません。変更していないファイルを強制的にチェックインすると、説明が「変更なし」となります。</p>
Keep locked (ロック状態を保持)	<p>チェックイン後にファイルをロックしたままにするには、〈Yes (はい)〉を選択します。</p> <p>チェックイン後にファイルをロック解除するには、〈No (いいえ)〉を選択します。</p> <p>重要! ロックされたリビジョンはプロモートできません。新規リビジョンをプロモートする場合は、ファイルをロックしないようにしてください。</p>
New label (新規ラベル)	<p>新規リビジョンに割り当てるバージョンラベルを入力します。ラベルには 254 文字まで入力できます。コロン (:)、二重引用符 (")、プラス記号 (+)、またはマイナス記号 (-) は使用できません。</p>
Float label with tip (浮動ラベル)	<p>新規リビジョンにラベルを割り当てる場合は、〈Yes (はい)〉を選択して、ラベルが常にファイルの最新リビジョンに割り当てられるようにします。新規リビジョンをチェックインするたびに、最新のリビジョンにラベルが移動 (または浮動) されます。</p> <p>チェックインするリビジョンに新しいラベルが割り当てられるようにするには、〈No (いいえ)〉を選択します。</p>
If label exists (ラベルが存在する場合)	<p>新規リビジョンに割り当てるラベルがすでに別のリビジョンに割り当てられている場合の処理を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Prompt (確認する) : 実行する操作を尋ねるメッセージが表示されます。ファイルまたラベルごとに別の選択肢を指定する場合は、このオプションを選択します。 ■ Reassign (再度割り当てる) : 新規リビジョンにラベルを移動します。 ■ Leave as-is (現状を維持する) : ラベルを選択したリビジョンに移動せずに、現状のまま維持します。
Promote to next (次にプロモート)	<p>プロモーション階層内の次のグループに新規リビジョンをプロモートするには、〈Yes (はい)〉を選択します。</p> <p>現在のプロモーショングループを維持するには、〈No (いいえ)〉を選択します。</p> <p>重要! ロックされたリビジョンはプロモートできません。新規リビジョンをプロモートする場合は、ファイルをロックしないようにしてください。</p>
Get file on Keyword expansion (キーワード展開時のファイルの取得)	<p>チェックイン中に展開される Version Manager キーワードがチェックインするファイルの中に含まれる場合は、〈Yes (はい)〉を選択することで、展開されたキーワードとともに最新リビジョンがローカルワークスペースにコピーされます。作業ファイル中のキーワードを展開しない場合は、〈No (いいえ)〉を選択します。</p>



ヒント これらのオプションを新しいデフォルトとして保存するには、〈Save Settings (設定の保存)〉チェックボックスを選択します。デフォルトオプションの設定の詳細については、[181 ページの『デフォルトオプションの設定』](#)を参照してください。

- 7 【Check In (チェックイン)】をクリックします。

名前の変更または移動の使用 (リファクタリング)

- 特記事項
- プロジェクトのリファクタリングを行った場合は、変更をチェックインする前に、プロジェクトをリポジトリに同期する必要があります。
 - リファクタリングによってアーカイブ名が作業ファイル名と一致しくなくなります。この結果、Configuration Builder 内から呼び出される CLI スクリプトなどのコマンドラインインターフェイス (CLI) との互換性がなくなります。CLI ではどれがプロジェクトであるかを認識できないので、名前が一致していることが必須条件となります。その代わりに、ユーザはプロジェクトコマンドラインインターフェイス (PCLI) を使用することができます (プロジェクトメタデータを介して作業ファイル名とアーカイブ名を解釈できるので、Version Manager デスクトップクライアントまたは IDE クライアントがこの影響を受けることはありません)。

名前の変更または移動を使用するには

- 1 Java Perspective などパッケージエクスプローラを使用できるパースペクティブを開きます。
- 2 パッケージエクスプローラを選択してアクティブにします。
- 3 名前を変更したり移動したりする項目を選択して、次のいずれかを行います。
 - [Refactor (リファクタリング)] - [Rename (名前の変更) (または Move (移動))] を選択します。
 - 右クリックして、[Refactor (リファクタリング)] - [Rename (名前の変更) (または Move (移動))] を選択します。
- 4 ファイルをチェックアウトした場所以外にチェックインする動作に対して、確認を求めるメッセージが表示されます。この操作を続行します。
- 5 ほかのユーザが、変更したプロジェクトで作業できるように、Version Manager リポジトリと同期する必要があります。その後各ユーザは、ソース管理から更新後のプロジェクトを取得するか、ソース管理と同期します。[163 ページの『ワークスペースとソース管理の比較と同期化』](#)を参照してください。

ワークスペースとソース管理の比較と同期化

目的 複数ユーザ環境では、次の場合にワークスペースとソース管理を同期させる必要があります。

- ほかのユーザが Version Manager リポジトリから削除したファイルをローカルワークスペースから削除する場合
- ほかのユーザが Version Manager リポジトリに追加したファイルをローカルワークスペースに追加する場合



注 Version Manager プロジェクトに対してデフォルトバージョンが定義されている場合に、デフォルトバージョンラベルをファイルに追加したりファイルから削除したりすると、リポジトリのファイルを追加したり削除したりするのと同じことになります。

- ローカルワークスペースに追加したファイルを Version Manager リポジトリに追加する場合
- ローカルワークスペースから削除したファイルを Version Manager リポジトリから削除する場合
- ほかのユーザが変更して Version Manager リポジトリにチェックインした内容で、ユーザのローカルワークスペースのファイルの内容を更新する場合
- ユーザがローカルワークスペースで変更した内容で Version Manager リポジトリのファイルの内容を更新する場合



ヒント Version Manager リポジトリに接続していないときに比較機能を使用すると、最後のリポジトリとの同期以降に加えた変更を確認できます。機内映画を見終わってしまった場合などに便利です。

概要 このプロセスは複数の手順で構成されていますが、すべての手順がワークフローやプロジェクトの日々の作業に適用できるわけではありません。

- 1 164 ページの『ワークスペースとソース管理の比較』では、最後にファイルをリポジトリからチェックアウトまたは取得して以降に、ローカルワークスペースまたはリポジトリ、あるいはその両方で変更されたファイルについて表示されています。
- 2 166 ページの『作業ファイルの内容の比較と編集』では、作業ファイルとリポジトリの最新リリース間の行ごとの相違点が表示されています。最新のリリースリビジョンや、作業ファイルとリポジトリリビジョンの共通の元ファイルを参照しながら、作業ファイルを簡単に編集できます。
- 3 167 ページの『変更の解決』の手順では、受信される変更と送信される変更をローカルプロジェクトと Version Manager リポジトリにコミットします。

ワークスペースとソース管理の比較

最後にファイルをリポジトリからチェックアウトまたは取得して以降に変更されたファイルを、ローカルワークスペースまたはリポジトリ、あるいはその両方について表示します。

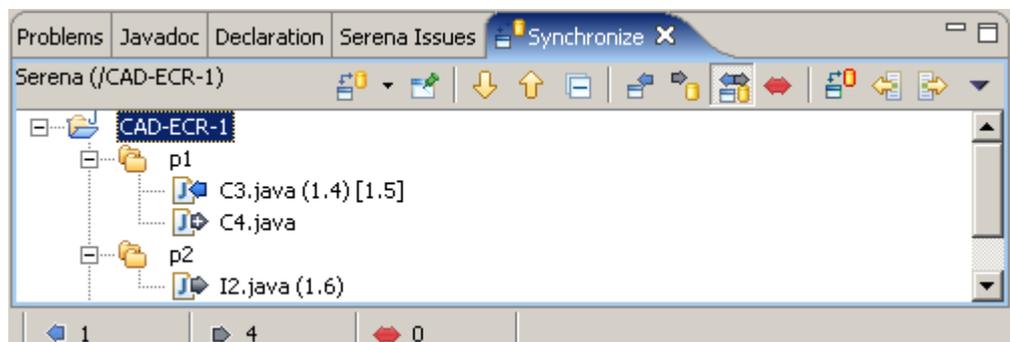
ワークスペースとソース管理を比較するには、次の操作を行います。

- 1 パッケージエクスプローラで、リポジトリと比較するプロジェクトまたはパッケージ、あるいはその両方を選択して右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。



ヒント ワークスペースのすべてのプロジェクトを比較するには、Eclipse のメニューバーで、[Serena] - [Compare Workspaces (ワークスペースの比較)] を選択します。

- 2 [Team (チーム)] - [Compare Workspaces (ワークスペースの比較)] を選択します。[Synchronize (同期)] ビューが表示されます。



- 3 同期モードを選択します。選択するモードによって、使用できるコマンドや表示される変更が決まります。次の中から選択できます。



- リポジトリから受信される変更と競合を表示および操作するには、【Incoming Mode (受信モード)】ボタンをクリックします。



- リポジトリへ送信される変更と競合を表示および操作するには、【Outgoing Mode (送信モード)】ボタンをクリックします。



- 受信および送信の両方の変更と競合を表示および操作するには、【Incoming/Outgoing Mode (受信 / 送信モード)】ボタンをクリックします。



- 競合のみを表示および操作するには、【Conflicts Mode (競合モード)】ボタンをクリックします。

- 4 ローカルオブジェクトとリポジトリオブジェクトの相違点は、次のような形で表示されます。

アイコン / テキスト	説明	意味
(1.0)	かっこ内の番号	ソース管理からワークスペースに取得またはチェックアウトしたリビジョンです。
[1.2]	半角の角かっこ内の番号	Version Manager リポジトリの現在のチップリビジョン。チップがワークスペースのリビジョンでない場合に表示されます。
	灰色の右矢印	送信される編集、名前変更、または移動。リポジトリにはない変更がローカル作業ファイルに含まれていることを示します。
	プラス (+) 記号が付いた灰色の右矢印	送信される追加。リポジトリのプロジェクトにまだ追加されていない作業ファイルがローカルプロジェクトに含まれていることを示します。
	マイナス (-) 記号が付いた灰色の右矢印	送信される削除。ローカルプロジェクトから削除された作業ファイルがリポジトリのプロジェクトにまだ残っていることを示します。
	青色の左矢印	受信される編集、名前変更、または移動。ローカル作業ファイルにはない変更がリポジトリのファイルに含まれていることを示します。
	プラス (+) 記号が付いた青色の左矢印	受信される追加。ローカルワークスペースのプロジェクトにまだ追加されていないファイルがリポジトリに含まれていることを示します。
	マイナス (-) 記号が付いた青色の左矢印	受信される削除。リポジトリのプロジェクトから削除されたファイルがローカルプロジェクトにまだ残っていることを示します。
	赤色の双方向矢印	競合。ローカル作業ファイルとリポジトリファイルの両方が変更されたことを示します。



- 5 現在の [Synchronize (同期)] ビューを保持するには、【Pin Current Synchronization (現在の同期を固定)】ボタンをクリックします。次に [Compare Workspaces (ワークスペースの比較)] を選択したときには、新しい同期が開きますが、固定した同期はそのまま保持されます。



- 6 現在の [Synchronize (同期)] ビュー間を切り替えるには、〈Synchronize (同期)〉ドロップダウンをクリックし、リストから同期を選択します。



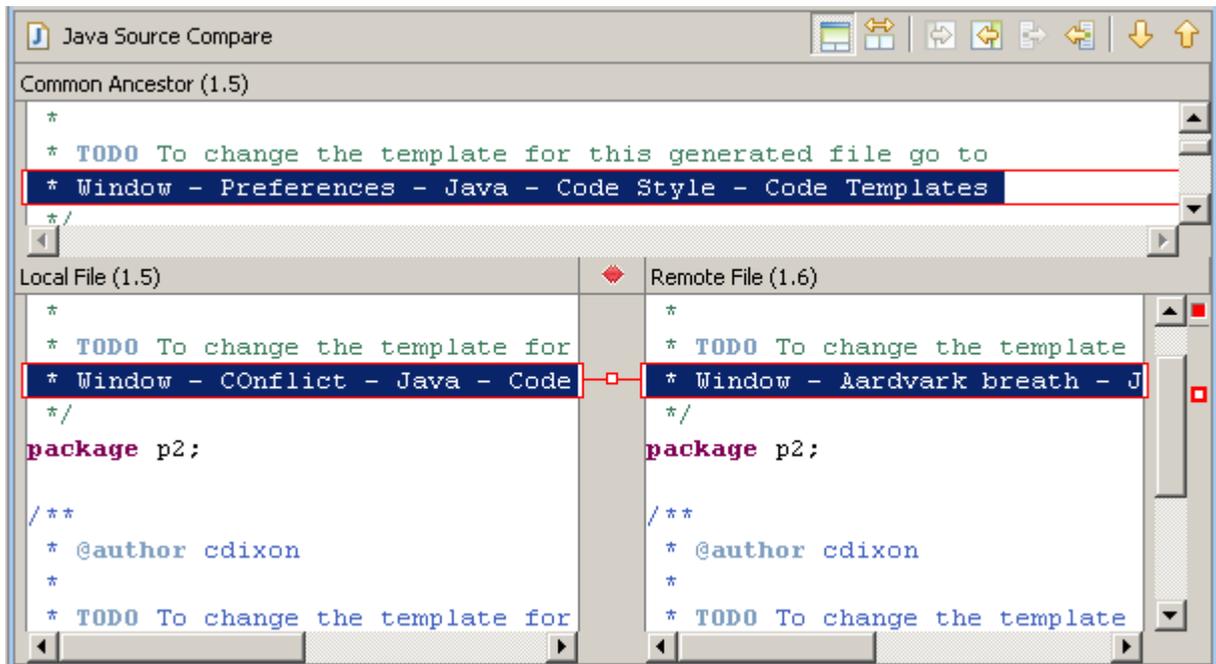
- 7 現在の同期を削除するには、【Menu (メニュー)】ボタンをクリックし、[Remove Current Synchronization (現在の同期を削除)] を選択します。

作業ファイルの内容の比較と編集

比較エディタには、ローカル作業ファイル、リポジトリの最新リビジョン、および両者の共通の元ファイルの相違点が行ごとに表示されます。このビューでは、作業ファイルを編集したり、どの変更を保持するかを決定したりできます。

作業ファイルとソース管理を比較するには、次の操作を行います。

- 1 [Synchronize (同期)] ビューでファイルを右クリックし、[Open In Compare Editor (比較エディタで開く)] を選択します (または、ファイルをダブルクリックします)。ローカル作業ファイルとリポジトリの最新リビジョンが比較エディタに表示されます。



- 2 以下のうち必要な作業を行います。

-  ■ 作業ファイルとリポジトリリビジョンの共通の元ファイルを表示するには、【Show Ancestor Pane (元ファイル表示部の表示)】 ボタンをクリックします。
 -  ■ 作業ファイルとリポジトリリビジョンの共通の元ファイルを非表示にするには、【Two-Way Compare (2 者比較)】 ボタンをクリックします。
 -  ■ 競合しない変更を、リポジトリリビジョンからローカル作業ファイルにすべてコピーするには、【Copy All Non-Conflicting Changes from Right to Left (競合しない変更を右から左にすべてコピーする)】 ボタンをクリックします。
 -  ■ 現在選択している変更を、リポジトリリビジョンからローカル作業ファイルにコピーするには、【Copy Current Change from Right to Left (現在の変更を右から左にコピーする)】 ボタンをクリックします。
 -  ■ 別の変更を選択するには、【Select Next Change (次の変更の選択)】 ボタンまたは【Select Previous Change (直前の変更の選択)】 ボタンをクリックします。
 - リポジトリリビジョンと元ファイルの内容をコピーし、作業ファイルに貼り付けます。
 - 作業ファイルの内容を編集します。
- 3 作業ファイルの変更を終えたら、左側の表示部を右クリックし、ポップアップメニューから [Save (保存)] を選択します (または Ctrl+S キーを押します)。

変更の解決

この手順では、受信される変更と送信される変更をローカルプロジェクトと Version Manager リポジトリに解決します。

変更を解決するには、次の操作を行います。

- 1 適切な同期モードを選択します。



注 同期モード () によって、使用できるコマンドや、表示および操作できる変更が決まります。164 ページの『ワークスペースとソース管理の比較』を参照してください。

- 2 操作するオブジェクトを選択します。プロジェクトやフォルダを選択した場合は、その中のオブジェクトが操作に含まれます（操作の影響を受ける種類の変更がオブジェクトに含まれている場合）。



- 3 変更を比較エディタで表示するには、変更を右クリックして [Open in Compare Editor (比較エディタで開く)] を選択するか、ファイルをダブルクリックするか、【Go to Next Difference (次の相違行に移動)】ボタンまたは【Go to Previous Difference (前の相違行に移動)】ボタンをクリックします。166 ページの『作業ファイルの内容の比較と編集』を参照してください。

- 4 変更を解決するには、次のいずれかを行います。



- 選択した受信および送信の変更と競合を解決するには、【Resolve All Changes (すべての変更を解決)】ボタンをクリックします。このボタンはすべてのモードで使用できます。

送信される変更はリポジトリにチェックインされ、受信される変更はローカルワークスペースにコピーされます。

競合はローカル作業ファイルに自動的にマージされ、送信される変更として表示されます。もう一度【Resolve All Changes (すべての変更を解決)】ボタンをクリックすると、マージされたファイルがリポジトリにチェックインされます。



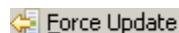
注 マージの競合が見つかった場合は（行ごとの競合）、競合が [Synchronize (同期)] ビューに残り、自動的なマージの失敗が [Console (コンソール)] ビューに表示されます。



- 受信される変更を選択してローカルワークスペースにコピーするには、【Update Workspace With Incoming Changes (ワークスペースを受信される変更で更新)】ボタンをクリックします。このボタンは、受信 () モードおよび受信 / 送信 () モードでしか使用できません。



- 送信される変更を選択してチェックインするには、【Commit Outgoing Changes To Repository (送信される変更をリポジトリにコミット)】ボタンをクリックします。このボタンは、送信 () モードおよび受信 / 送信 () モードでしか使用できません。



- 変更したローカル作業ファイルをリポジトリの最新リビジョンで上書きするには、ファイルを右クリックして [Force Update (強制的に更新する)] を選択します。このメニュー項目は、送信 () モードでしか使用できません。



- リポジトリのリビジョンの方が新しいにもかかわらずローカル作業ファイルを最新リビジョンとしてチェックインするには、ファイルを右クリックして [Force Commit (強制的にコミットする)] を選択します。このメニュー項目は、受信 () モードでしか使用できません。



警告! この場合、最新リビジョンはスキップされ、そこに含まれている変更は一切取り込まれません。

- Mark as Merged (マージ済みとしてマーク) : ローカルワークスペースにもリポジトリにも変更を加えないまま、競合を [Synchronize (同期)] ビューから削除します。このメニュー項目は、競合 () モードでしか使用できません。

すでに比較エディタで作業ファイルを編集して競合を解決済みである場合に、この機能を使用できます。166 ページの『作業ファイルの内容の比較と編集』を参照してください。



注 現在の設定や選択した解決方法によっては、次のいずれかの状態になります。

- ファイルがチェックインされる場合は、[Description (コメント)] ダイアログボックスが表示されます。ファイルごとに説明を入力することも、すべてのファイルに同じ説明を使用することもできます。
- <Association required (必ず関連付け)> オプションがアクティブな場合は、チェックインされるファイルに現在アクティブな TeamTrack Issue が関連付けられます。これらの Issue はアクティブなままとなります。アクティブな Issue がない場合は、[Console (コンソール)] ビューにメッセージが表示されてチェックインに失敗します。



- 5 [Synchronize (同期)] ビューを更新するには、【Synchronize (同期)】 ボタンをクリックします。

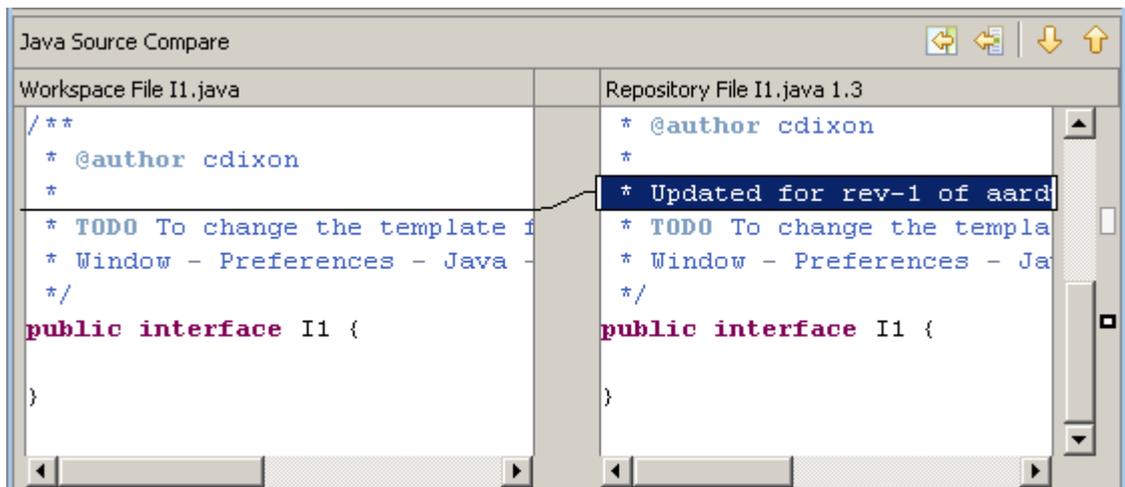
Serena の最新リビジョンとの比較

ローカル作業ファイルを編集し、リポジトリの最新リビジョンと比較できます。

作業ファイルを最新のリポジトリリビジョンと比較するには、次の操作を行います。

- 1 パッケージエクスプローラまたはナビゲータで、比較するファイルを選択して、右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。

- 2 [Compare With (比較)] – [Serena Revision (Serena のリビジョン)] を選択します。ローカル作業ファイルとリポジトリの最新リビジョンが比較エディタに表示されます。



- 3 以下のうち必要な作業を行います。

- 
 - 競合しない変更を、リポジトリリビジョンからローカル作業ファイルにすべてコピーするには、【Copy All Non-Conflicting Changes from Right to Left (競合しない変更を右から左にすべてコピーする)】 ボタンをクリックします。
 - 
 - 現在選択している変更を、リポジトリリビジョンからローカル作業ファイルにコピーするには、【Copy Current Change from Right to Left (現在の変更を右から左にコピーする)】 ボタンをクリックします。
 - 
 - 別の変更を選択するには、【Select Next Change (次の変更の選択)】 ボタンまたは【Select Previous Change (直前の変更の選択)】 ボタンをクリックします。
 - リポジトリリビジョンの内容をコピーし、作業ファイルに貼り付けます。
 - 作業ファイルの内容を編集します。
- 4 作業ファイルの変更を終えたら、左側の表示部を右クリックし、ポップアップメニューから [Save (保存)] を選択します。

ローカル履歴との比較

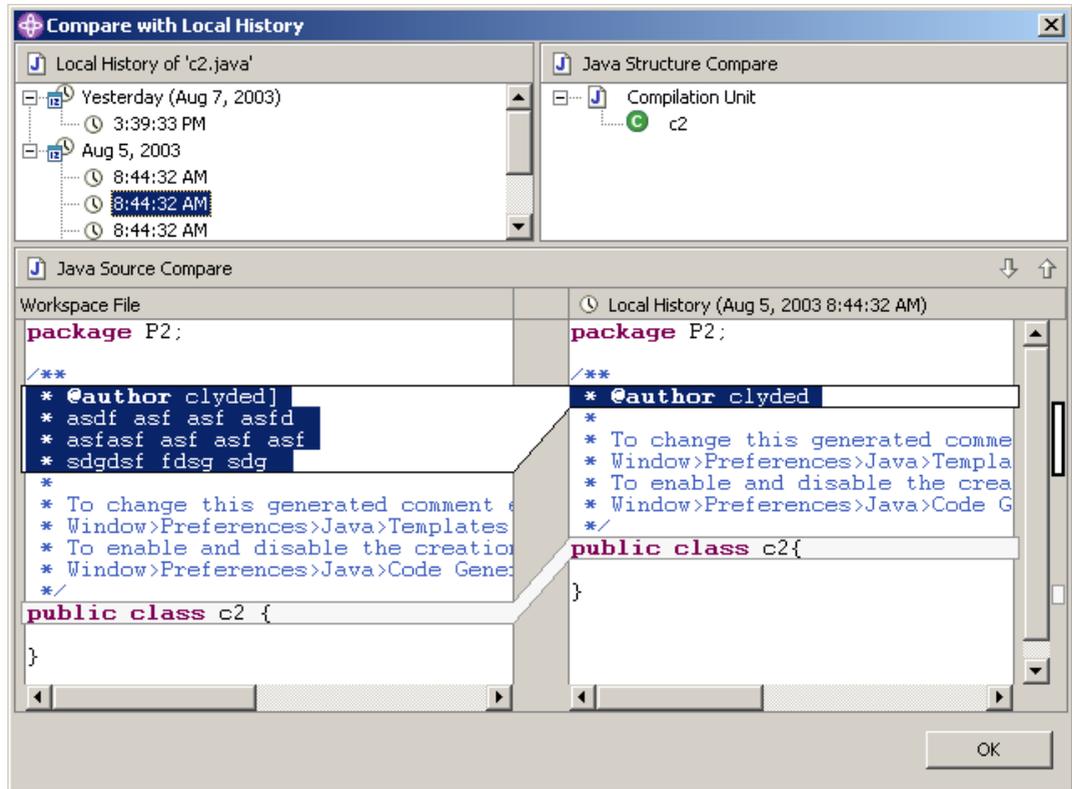
作業ファイルと作業ファイルに対して行われた変更のローカル履歴とを比較することができます。ファイルへの変更を保存するたびに、ローカル履歴に新規エントリが作成されます。



注 エントリの個数と保持期間を設定するには、[Window (ウィンドウ)] – [Preferences (環境設定)] を選択し、[Workbench (ワークベンチ)] の下の [Local History (ローカル履歴)] を選択します。詳細は、Eclipse のヘルプを参照してください。

ローカル履歴との比較

- 1 パッケージエクスプローラまたはナビゲータで、比較するファイルを選択して、右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- 2 [Compare With (比較)] - [Local History (ローカル履歴)] を選択します。[Compare with Local History (ローカル履歴との比較)] ダイアログボックスが表示されます。

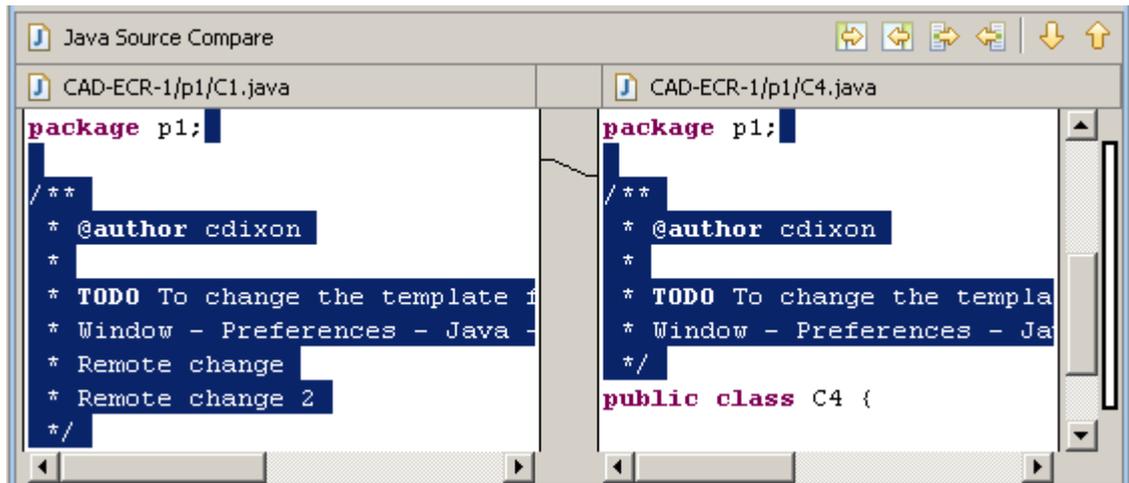


- 3 ファイル名表示部のローカル履歴からローカル履歴エントリを選択します。
- 4 【Select Next Change (次の変更の選択)】(↓) と【Select Previous Change (直前の変更の選択)】(↑) を使用して、変更を 1 つずつたどりま。
- 5 【OK】 をクリックして、比較を終了します。

作業ファイルの相互比較

2 つの作業ファイルを相互に比較するには、次の操作を行います。

- 1 パッケージエクスプローラまたはナビゲータで、CTRL を押しながら 2 つの比較するファイルをクリックして選択し、右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- 2 [Compare With (比較)] - [Each Other (相互)] を選択します。2 つの作業ファイルが比較エディタに表示されます。



3 以下のうち必要な作業を行います。

- 
 - 競合しない変更を、最初の作業ファイルから 2 番目の作業ファイルにすべてコピーするには、【Copy All Non-Conflicting Changes from Left to Right (競合しない変更を左から右にすべてコピーする)】ボタンをクリックします。
 - 
 - 競合しない変更を、2 番目の作業ファイルから最初の作業ファイルにすべてコピーするには、【Copy All Non-Conflicting Changes from Right to Left (競合しない変更を右から左にすべてコピーする)】ボタンをクリックします。
 - 
 - 現在選択されている変更を、最初の作業ファイルから 2 番目の作業ファイルにコピーするには、【Copy Current Change from Left to Right (現在の変更を左から右にコピーする)】ボタンをクリックします。
 - 
 - 現在選択されている変更を、2 番目の作業ファイルから最初の作業ファイルにコピーするには、【Copy Current Change from Right to Left (現在の変更を右から左にコピーする)】ボタンをクリックします。
 - 
 - 別の変更を選択するには、【Select Next Change (次の変更の選択)】ボタンまたは【Select Previous Change (直前の変更の選択)】ボタンをクリックします。
 - 作業ファイルの内容をコピーし、別の作業ファイルに貼り付けます。
 - 作業ファイルの内容を編集します。
- 4 作業ファイルの変更を終えたら、変更したファイルの表示部をクリックし、CTRL+S を押します。

ローカル履歴との置き換え

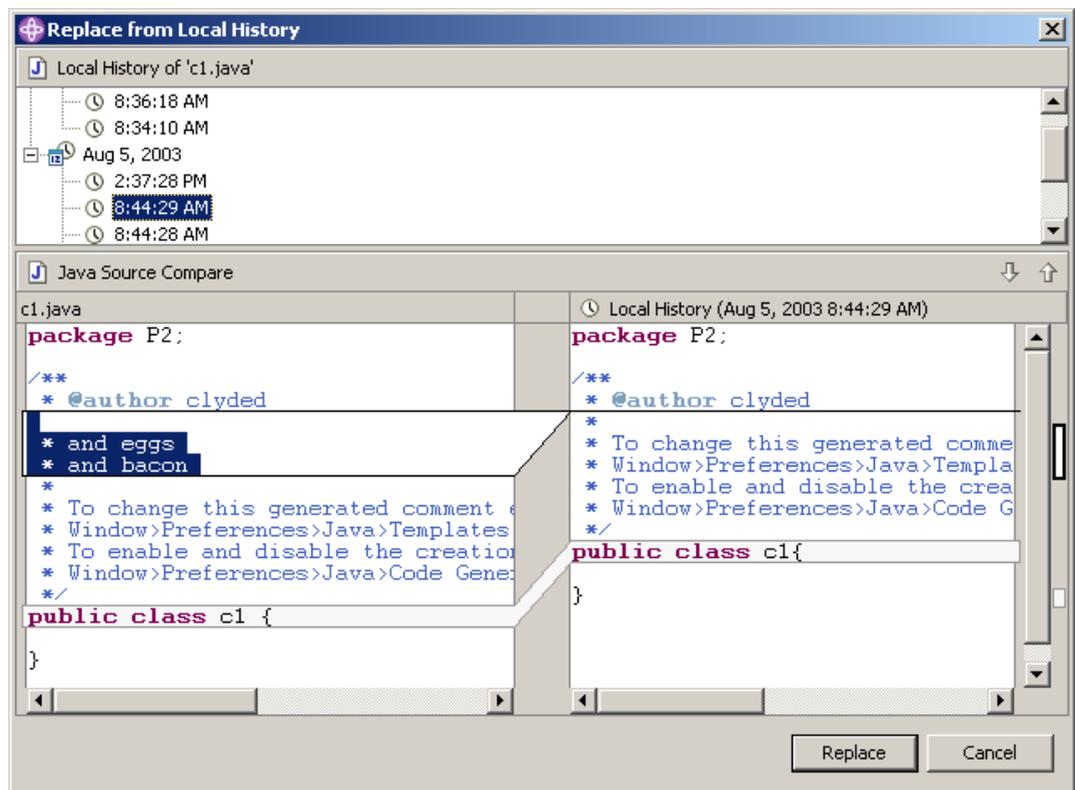
作業ファイルに対して行われた変更のローカル履歴のエントリで作業ファイルを置き換えることができます。ファイルへの変更を保存するたびに、ローカル履歴に新規エントリが作成されます。



注 エントリの個数と保持期間を設定するには、[Window (ウィンドウ)] - [Preferences (環境設定)] を選択し、[Workbench (ワークベンチ)] の下の [Local History (ローカル履歴)] を選択します。詳細は、Eclipse のヘルプを参照してください。

ローカル履歴で置き換えるには

- 1 パッケージエクスプローラまたはナビゲータで、置き換えるファイルを選択して、右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- 2 [Replace With (置換)] - [Local History (ローカル履歴)] を選択します。[Replace from Local History (ローカル履歴からの置換)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 ファイル名表示部のローカル履歴からローカル履歴エントリを選択します。
- 4 【Select Next Change (次の変更の選択)】 (↓) と 【Select Previous Change (直前の変更の選択)】 (↑) を使用して、変更を 1 つずつたどりま。
- 5 以下のいずれかを実行します。
 - 作業ファイルを選択した履歴エントリで置き換えるには、【Replace (上書き)】をクリックします。
 - 作業ファイルを置き換えずにダイアログボックスを閉じるには、【Cancel (キャンセル)】をクリックします。

Serena の最新リビジョンへの置き換え

ローカル作業ファイルをリポジトリの最新のリビジョンで置き換えることができます。



注 複数のファイルを最新リビジョンで置き換えるには、[155 ページの『ファイルの取得』](#)を参照してください。

作業ファイルを最新のリポジトリリビジョンと置き換えるには、次の操作を行います。

- 1 パッケージエクスプローラまたはナビゲータで、置き換えるファイルを選択して、右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- 2 [Replace With (置換)] – [Latest Serena Revision (Serena の最新リビジョン)] を選択します。ローカル作業ファイルがリポジトリの最新のリビジョンで上書きされます。

TeamTrack Issue の関連付けと作業

組織で Serena TeamTrack を使用して不具合やタスクなどの開発 Issue を追跡している場合は、Eclipse に統合した Version Manager から Issue にアクセスすることができます。TeamTrack の Issue を Eclipse から提出および変更し、特定のファイルに Issue を関連付けることができます。Issue をファイルに関連付けると、バージョン管理ファイルの履歴が Issue に追加されます。

TeamTrack と Eclipse の統合についての詳細は、以下のトピックを参照してください。

- [174 ページの『Issue 管理ワークフロー』](#)
- [175 ページの『IDE フォルダの設定』](#)
- [176 ページの『TeamTrack 接続情報の変更』](#)
- [178 ページの『レポートと Issue の表示』](#)
- [178 ページの『Issue の提出と変更』](#)
- [179 ページの『Issue とファイルの関連付け』](#)
- [188 ページの『変更管理オプション』](#)



注 TeamTrack との統合機能を実行するためには、特定の TeamTrack ユーザー権限が必要です。TeamTrack SourceBridge のドキュメントを参照してください。

Issue 管理ワークフロー

次の表は、Eclipse における Issue 管理のワークフローを示しています。Issue を正しく表示し、ファイルに関連付けるには、このワークフローに従う必要があります。

手順	説明
1	<p>IDE フォルダの設定</p> <p>Eclipse から Issue にアクセスできるようにするには、TeamTrack Web クライアントを使用して IDE フォルダを設定する必要があります。IDE フォルダは特殊なシステムフォルダで、Eclipse からアクセスできるようにするリスティングレポートや Issue をここに追加する必要があります。個人フォルダまたはお気に入りフォルダの設定についての詳細は、『Serena TeamTrack ユーザガイド』を参照してください。</p>
2	<p>統合の設定の定義</p> <p>Version Manager デスクトップクライアントで、Eclipse へのリッチな統合における Issue の関連付けに影響する設定をカスタマイズできます。たとえば、次のような点について設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ TeamTrack Issue に関連付けられているすべてのリビジョンに、Issue 番号に基づくバージョンラベルを適用するかどうか。 ■ チェックイン時に Issue の関連付けを義務付けるかどうか。 ■ 関連するリビジョンのチェックインコメントに、関連付けられている Issue に関するメモを自動的に追加するかどうか。 <p>188 ページの『変更管理オプション』を参照してください。</p>
3	<p>TeamTrack サーバへの接続</p> <p>ソース管理にプロジェクトを追加するときや、ソース管理からプロジェクトをインポートするときに、Issue 管理を使用する TeamTrack サーバを指定できます。プロジェクトの追加またはインポート時に TeamTrack サーバを指定しなかった場合や、TeamTrack サーバの接続情報を変更する必要がある場合は、176 ページの『TeamTrack 接続情報の変更』を参照してください。</p> <p>TeamTrack サーバに接続する際には、特定のユーザとしてログインします。これにより、TeamTrack の IDE フォルダにあるすべての Issue とレポートが Eclipse に表示されます。</p>

手順	説明
4	<p>Issue の確認、変更、および提出</p> <p>{Issues} ビューでは、IDE フォルダ内のリスティングレポートを通じて使用できるすべての Issue、または IDE フォルダに直接追加された Issue を表示できます。たとえば、ユーザに割り当てられた Issue だけを一覧表示するような特定のレポートが含まれます。</p> <p>表示された Issue に変更を加えたり、新しい Issue を提出したりできます。178 ページの『レポートと Issue の表示』と 178 ページの『Issue の提出と変更』を参照してください。</p>
5	<p>Issue とファイルリビジョンとの関連付け</p> <p>TeamTrack と Version Manager の統合により、Issue をファイルの特定のリビジョンに「関連付ける」こともできます。Issue をファイルに関連付けると、Issue にはファイルのリビジョンに関する情報を追跡するための〈Version Control History (バージョン管理履歴)〉セクションが、関連付けられているファイルのリビジョンには Issue を識別するためのバージョンラベルが、それぞれデフォルトで追加されます。179 ページの『Issue とファイルの関連付け』を参照してください。</p> <p>次の方法で、Issue を関連付けます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Issue を有効にします。これにより、チェックイン時に必要に応じてファイルに関連付けることができる Issue のキューに Issue が追加されます。 2 Issue の影響を受けるファイルで作業します。たとえば、特定の Issue に記述されている問題を解決するために特定のソースコードファイルを編集する場合などが考えられます。 3 ファイルをチェックインします。チェックイン時には、必要に応じて、現在有効になっている任意の (あるいはすべての) Issue にファイルを「関連付ける」ことができます。どの Issue にファイルに関連付けるかについては、チェックイン時に明示的に選択できます。チェックインするファイルによって、その Issue に対処するために割り当てられた作業が終了する場合は、有効な Issue のリストから Issue を削除することもできます。

IDE フォルダの設定

TeamTrack Web クライアントで次のいずれかを行って、Eclipse からアクセスする Issue を指定します。

- 特定の Issue を IDE フォルダに直接追加します。
- リスティングレポートを IDE フォルダに追加します。



重要! Eclipse からは、特定の Issue またはリスティングレポートにのみアクセスできます。その他の種類のレポートや、その他の種類の項目 (URL など) にはアクセスできません。

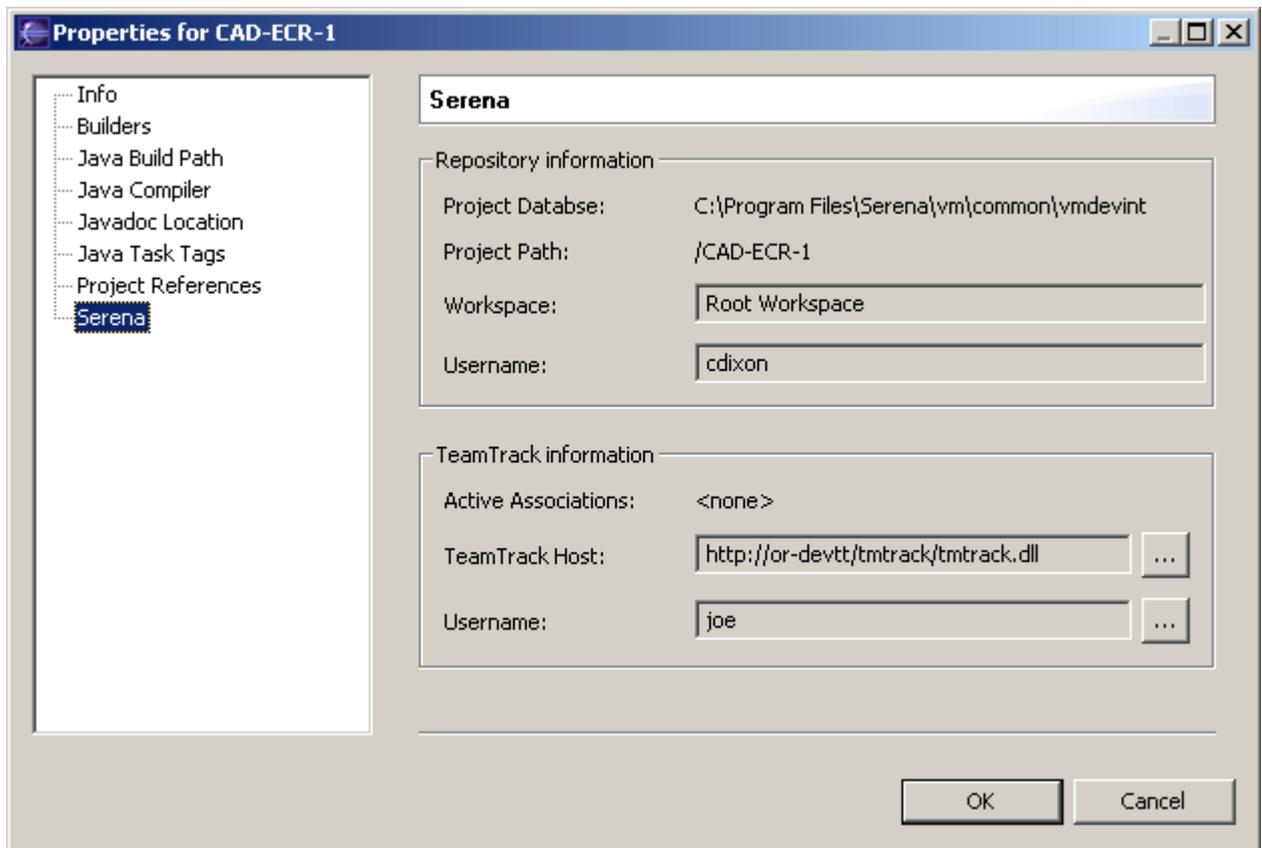
個人フォルダまたはお気に入りフォルダの設定についての詳細は、『Serena TeamTrack ユーザガイド』を参照してください。

TeamTrack 接続情報の変更

ソース管理にプロジェクトを追加するときや、ソース管理からプロジェクトをインポートするとき、Issue 管理を有効にする TeamTrack サーバを指定できます。プロジェクトの追加またはインポート時に TeamTrack サーバを指定しなかった場合や、TeamTrack サーバの接続情報を変更する必要がある場合は、次の手順を実行します。TeamTrack サーバに接続する際には、特定のユーザとしてログインします。これにより、TeamTrack の IDE フォルダにあるすべての Issue とレポートが Eclipse に表示されます。

TeamTrack サーバに接続するには

- 1 プロジェクトを右クリックして表示されるポップアップメニューで、[Properties (プロパティ)] を選択します。[Properties (プロパティ)] ダイアログボックスが表示されます。



- 2 左側の表示部で [Serena] を選択します。

- 3 〈TeamTrack Information (TeamTrack 情報)〉フィールドで、いずれかの【Browse (参照)】ボタンをクリックします。〔Change TeamTrack Information (TeamTrack 情報の変更)〕ダイアログボックスが表示されます。

- 4 〈Host (ホスト)〉フィールドに TeamTrack サーバの URL を入力するか、〈Host (ホスト)〉ドロップダウンリストから最近使用した URL を選択します。



ヒント ホストシステムの名前を入力したら、タブを押して次のフィールドに移動します。デフォルトの URL が次の形式で自動的に入力されます。

```
http://tt_server/tmtrack/tmtrack.dll
```

ここで、tt_server は TeamTrack ホストの名前です。



注 デフォルト以外のポート番号 (80 以外のポート) を使用している場合は、ポート番号をサーバ名の後に付加します。たとえば、ポート番号が 89 の場合は次のようになります。

```
http://tt_server:89/tmtrack/tmtrack.dll
```

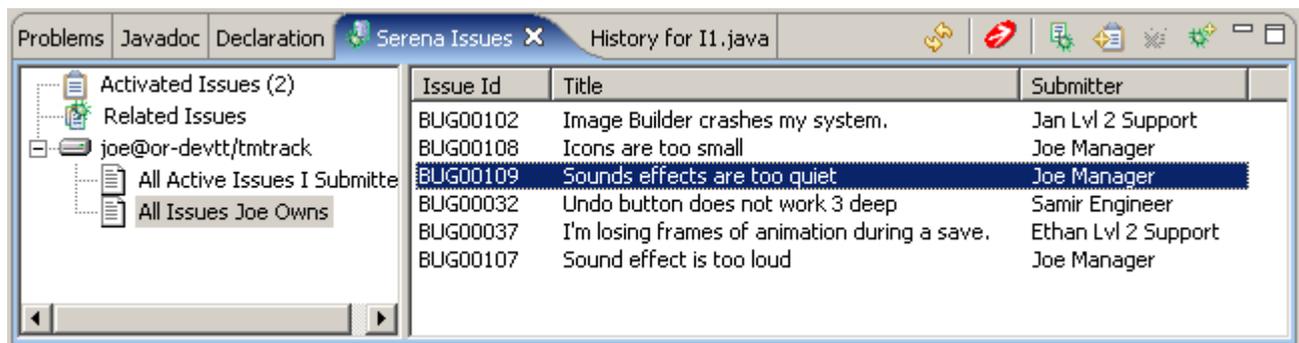
- 5 TeamTrack のユーザ名を入力します。
- 6 【Finish (終了)】をクリックします。
- 7 【OK】をクリックします。

レポートと Issue の表示

〔Issues〕ビューでは、IDE フォルダ内のリスティングレポートを通じて使用できるすべての Issue、または IDE フォルダに直接追加された Issue を表示できます。これには、たとえば自分に割り当てられた Issue のリストのみを表示するようなレポートが含まれます。

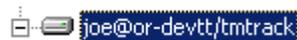
レポートと Issue を表示するには

- 1 [Serena] – [Show Issues (Issue の表示)] を選択します。〔Serena Issues〕ビューが表示されます。



- 2 Issue を確認するには

- 左側の表示部でユーザ名を選択し、IDE フォルダに追加された Issue のリストを表示します。



- ユーザ名を展開し、使用できるすべてのレポートを表示します。ここでは、IDE フォルダに追加されたすべてのリスティングレポートが表示されます。次に、Issue を表示するレポートをクリックします。
- 現在有効な Issue を表示するには、〈Activated Issues (有効な Issue)〉を選択します。これらの Issue が、チェックイン時にリビジョンに関連付けることができる Issue です。



注 〈Related Issues (関連 Issue)〉リストには、特定のファイルに関連付けられているすべての Issue が表示されます。このリストの使用方法についての詳細は、179 ページの『Issue とファイルの関連付け』を参照してください。

- 3 Issue の内容を参照するには、Issue を選択して【View Issue (Issue の参照)】ボタン (🔍) をクリックします。

Issue の提出と変更

TeamTrack の Issue を提出および変更し、Eclipse で行っているタスクの状態と詳細を追跡します。タスク、不具合、完了する必要があるその他のタスクに対して新しい Issue を提出したり、Issue を変更して作業割り当ての元とすることができます。組織のワークフローに応じて、Issue を変更して別の状態に移動させることができます。たとえば、タスクのうち自分が担当している部分が完了し、テスト準備完了状態にする場合などです。

Issue を提出するには

- 1 [Serena] - [Issues] を選択します。[Issues] ビューが表示されます。
- 2 【Submit Issue (Issue の提出)】 ボタン (📄) をクリックします。[Submit Issue (Issue の提出)] タブが表示されます。詳細は、『Serena TeamTrack ユーザガイド』を参照するか、【Help (ヘルプ)】 ボタン (🔗) をクリックして、このページのヘルプを起動します。

Issue を変更するには

- 1 更新する Issue を探します。178 ページの『レポートと Issue の表示』を参照してください。
- 2 Issue を選択し、【View Issue (Issue の参照)】 ボタン (👁) をクリックします。Issue が新しいタブに表示されます。
- 3 必要に応じて Issue を更新します。詳細は、『Serena TeamTrack ユーザガイド』を参照するか、【Help (ヘルプ)】 ボタン (🔗) をクリックして、このページのヘルプを起動します。

Issue とファイルの関連付け

TeamTrack と Version Manager の統合により、特定の Issue やレポートにアクセスできるだけでなく、Issue をファイルの特定のリビジョンに関連付けることができます。デフォルトでは、ファイルに関連付けると、以下のことが行われます。

- <Version Control History (バージョン管理履歴)> セクションが Issue に追加され、以下の内容が追跡されます。
 - 関連付けられているファイルの名前
 - 関連付けられているリビジョンのリビジョン番号
 - チェックイン日付
 - リビジョンをチェックインしたユーザ
 - チェックイン時にユーザが入力した、変更の説明

たとえば、Issue が test.cs というファイルに関連付けられている場合、チェックイン後に以下のような内容が Issue に表示されます。

☐ Version Control History

/Application/app 1/test.cs

Revision 1.3 Checked In by Joe Manager 2/4/2005 3:54:49 AM

Revision 1.2 Checked Out 2/4/2005 3:54:49 AM

minor change



重要！ TeamTrack の Issue の <Version Control History (バージョン管理履歴)> セクションを参照するには、TeamTrack の [User Profile (ユーザプロフィール)] ダイアログで、表示オプション <Version Control History (バージョン管理履歴)> を有効にする必要があります。

- Issue に関連付けられているファイルのリビジョンには、バージョンラベルが割り当てられます。バージョンラベルには、Issue 番号などの Issue に関する情報が含まれます。
- 関連する Issue についての情報が、新しいリビジョンのチェックインコメントに追加されます。

Issue の関連付けオプションの設定についての詳細は、188 ページの『変更管理オプション』を参照してください。

次の方法で、Issue を関連付けます。

- 1 作業対象であり、最終的にファイルリビジョンに関連付ける Issue を探します。178 ページの『レポートと Issue の表示』を参照してください。
- 2 Issue を選択し、【Add to Activated Issues (有効な Issue に追加)】(📁) ボタンをクリックします。Issue が、〈Activated Issues (有効な Issue)〉リストに追加されます。

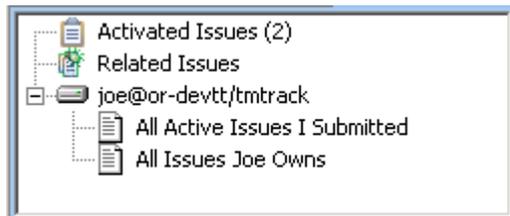


ヒント 〈Activated Issues (有効な Issue)〉リストから Issue を削除するには、リスト内の Issue を選択し、【Remove from Activated Issues (有効な Issue から削除)】(🗑️) ボタンをクリックします。

- 3 Issue を選択して【View Issue (Issue の参照)】ボタン (🔍) をクリックすることで、いつでも Issue の詳細を参照できます。
- 4 Issue を解決するために必要な作業またはそのうちの担当部分を完了します。
- 5 Issue を解決するファイルをチェックインします。[Check In (チェックイン)] ダイアログボックスの〈TeamTrack Associations (TeamTrack の関連付け)〉の下から、ファイルに関連付ける Issue を選択します。チェックイン時に関連付けることができるのは、現在有効な Issue のみです。159 ページの『ファイルのチェックイン』を参照してください。

特定のファイルに関連付けられているすべての Issue を表示するには

パッケージエクスプローラまたはナビゲータで、ファイルを右クリックして、[Team (チーム)] – [Related Issues (関連 Issue)] を選択します。左側の表示部の〈Related Issues (関連 Issue)〉リストが選択された状態で、[Serena Issues] ビューが表示されます。



[Serena Issues] ビューの右側の表示部には、選択したファイルに関連付けられているすべての Issue が表示されます。

Associated TeamTrack Item	File Name	Initiating Revision	Closing Revision	Log Message	Associated Item Table
BUG00107: Sound effect is too loud	/CAD-ECR-1/p1/C3.java	1.3	1.4	For Bob in Denver.	Issues
BUG00108: Icons are too small	/CAD-ECR-1/p1/C3.java	1.3	1.4	For Bob in Denver.	Issues

デフォルトオプションの設定

Version Manager へのソース管理統合や、TeamTrack への Issue 管理統合の動作を設定できます。[181 ページの『ソース管理のオプション』](#)と [188 ページの『変更管理オプション』](#)を参照してください。

ソース管理のオプション

ソース管理ダイアログ (181 ページの『ローカルソース管理オプションの設定』)、ステータスの絵文字 (184 ページの『Serena のアイコン絵文字の設定』)、Serena コンソール出力で使用される色 (185 ページの『Serena コンソールのテキスト色の設定』)、[Synchronize (同期)] ビュー (185 ページの『ローカル同期オプションの設定』と 187 ページの『同期更新のスケジュール』) の動作を設定できます。

ローカルソース管理オプションの設定

ソース管理統合のデフォルトの動作を設定できます。

ソース管理を設定するには、次の操作を行います。

- 1 [Window (ウィンドウ)] - [Preferences (設定)] を選択します。[Preferences (設定)] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 環境設定ツリーで、[Team (チーム)] - [Serena] - [Versioning (バージョン管理)] を展開します。



重要! [Preferences (環境設定)] ダイアログボックスに [Team (チーム)] - [Serena] ノードが表示されない場合は、コアチームサポートを有効にする必要があります。左側の表示部で、[Workbench (ワークベンチ)] - [Capabilities (機能)] を選択します。右側の表示部で、[Team (チーム)] - [Core Team Support (コアチームサポート)] を選択します。

- ラベルの割り当て
- 3 【Assign Label (ラベルの割り当て)】をクリックし、以下のいずれかを変更します。

オプション	説明
Float label with tip (浮動ラベル)	ラベルがファイルの最新リビジョンに常に割り当てられるようにするには、〈Yes (はい)〉を選択します。新規リビジョンをチェックインするたびに、最新のリビジョンにラベルが移動 (または浮動) されます。 現在割り当てられているリビジョンにラベルが割り当てられるようにするには、〈No (いいえ)〉を選択します。
If label exists (ラベルが存在する場合)	リビジョンに割り当てるラベルがすでに別のリビジョンに割り当てられている場合の処理を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Prompt (確認する) : 実行する操作を尋ねるメッセージが表示されます。 ■ Reassign (再度割り当てる) : 選択したリビジョンにラベルを移動します。 ■ Do not Reassign (再度割り当てない) : ラベルを選択したリビジョンに移動せずに、現状のまま維持します。

チェックイン 4 【CheckIn (チェックイン)】をクリックし、以下のいずれかを変更します。

オプション	説明
If newer revision in repository (リポジトリ内に新しいリビジョンがある場合)	リポジトリ内のリビジョンが、作業ファイルの元になっているリビジョンよりも新しい場合の処理を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Merge (マージする)：最新のリポジトリリビジョンとローカル作業ファイルの内容を結合して新しいリビジョンを作成し、それをチェックインします。これが出荷時のデフォルトです。 注 マージで競合があった場合は、[Console (コンソール)] ビューにエラーが表示され、リポジトリリビジョンはロックされたままとなり、ローカル作業ファイルは変更されません。ファイルをチェックインするには、マージの競合を解消 (163 ページの『ワークスペースとソース管理の比較と同期化』を参照) するか、<Force Checkin (強制的にチェックする)> を選択してください。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Skip (上書きしない)：ファイルをチェックインしません。 ■ Force Checkin (強制的にチェックインする)：ファイルをチェックインし、マージを行わずに新規リビジョンを作成します。
If workfile unchanged (作業ファイルが変更されない場合)	作業ファイルが変更されていない場合の処理を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Prompt (確認する) 実行する操作を尋ねるメッセージが表示されます。ファイルごとに別の選択肢を指定する場合は、このオプションを選択します。 ■ Checkin (チェックインする)：ローカル作業ファイルを新しいリビジョンとしてチェックインします。 ■ Leave as-is (現状を維持する)：作業ファイルをチェックインしません。ファイルがロックされている場合は、ロックが解除されます。
Use description for all (この説明をすべてのファイルに適用)	チェックインするすべてのファイルに <Description (コメント)> フィールドを適用するには、<Yes (はい)> を選択します。 <p>ファイルごとに固有の説明を指定する場合は、<No (いいえ)> を選択します。ファイルごとに順次、[Description (コメント)] ダイアログボックスが表示されます。変更しなかったファイルについては、説明の入力を求めるメッセージは表示されません。未変更ファイルには説明として「変更なし」が適用されます。</p>
Keep locked (ロック状態を保持)	チェックイン後にファイルをロックしたままにするには、<Yes (はい)> を選択します。 <p>チェックイン後にファイルをロック解除するには、<No (いいえ)> を選択します。</p> <p>重要! ロックされたリビジョンはプロモートできません。新規リビジョンをプロモートする場合は、ファイルをロックしないようにしてください。</p>
New label (新規ラベル)	新規リビジョンに割り当てるバージョンラベルを入力します。ラベルには 254 文字まで入力できます。コロン (:)、二重引用符 (")、プラス記号 (+)、またはマイナス記号 (-) は使用できません。

オプション	説明
Float label with tip (浮動ラベル)	ラベルがファイルの最新リビジョンに常に割り当てられるようにするには、〈Yes (はい)〉を選択します。新規リビジョンをチェックインするたびに、最新のリビジョンにラベルが移動 (または浮動) されます。 現在割り当てられているリビジョンにラベルが割り当てられるようにするには、〈No (いいえ)〉を選択します。
If label exists (ラベルが存在する場合)	新規リビジョンに割り当てるラベルがすでに別のリビジョンに割り当てられている場合の処理を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Prompt (確認する) : 実行する操作を尋ねるメッセージが表示されます。ファイルまたラベルごとに別の選択肢を指定する場合は、このオプションを選択します。 ■ Reassign (再度割り当てる) : 新規リビジョンにラベルを移動します。 ■ Leave as-is (現状を維持する) : ラベルを選択したリビジョンに移動せずに、現状のまま維持します。
Promote to next (次にプロモート)	プロモーション階層内の次のグループに新規リビジョンをプロモートするには、〈Yes (はい)〉を選択します。 現在のプロモーショングループを維持するには、〈No (いいえ)〉を選択します。 重要! ロックされたリビジョンはプロモートできません。新規リビジョンをプロモートする場合は、ファイルをロックしないようにしてください。
Get file on Keyword expansion (キーワード展開時のファイルの取得)	チェックイン中に展開される Version Manager キーワードがチェックインするファイルの中に含まれる場合は、〈Yes (はい)〉を選択することで、展開されたキーワードとともに最新リビジョンがローカルワークスペースにコピーされます。 作業ファイル中のキーワードを展開しない場合は、〈No (いいえ)〉を選択します。

チェックアウト 5 ローカル作業ファイルが変更される場合の処理を指定するには、【Checkout (チェックアウト)】をクリックします。

- Merge (マージする) : 最新のリポジトリリビジョンの内容を、変更したローカル作業ファイルにマージします。これが出荷時のデフォルトです。



重要! マージで競合があった場合、次のようになります。

- エラーが [Console (コンソール)] ビューに表示されます。
- リポジトリリビジョンはロックされません。
- ローカル作業ファイルは変更されません。

ファイルをチェックアウトするには、マージの競合を解消 ([163 ページの『ワークスペースとソース管理の比較と同期化』](#)を参照) するか、〈Overwrite (上書きする)〉または〈Leave as-is (現状を維持する)〉を選択してください。

- Prompt (確認する) : 実行する操作を尋ねるメッセージが表示されます。ファイルごとに別の選択肢を指定する場合は、このオプションを選択します。
 - Overwrite (上書きする) : 変更されたローカル作業ファイルをリポジトリの最新のバージョンに置き換えます。
 - Leave as-is (現状を維持する) : リポジトリのファイルをロックしますが、変更されたローカル作業ファイルはそのまま保持します。
- 取得 6 ローカル作業ファイルが変更される場合の処理を指定するには、【Get (取得)】をクリックします。
- Merge (マージする) : リポジトリバージョンの内容を、変更したローカル作業ファイルにマージします。これが出荷時のデフォルトです。



重要! マージで競合があった場合、次のようになります。

- エラーが [Console (コンソール)] ビューに表示されます。
- ローカル作業ファイルは変更されません。

ファイルを取得するには、マージの競合を解消 (163 ページの『ワークスペースとソース管理の比較と同期化』を参照) するか、〈Overwrite (上書きする)〉または〈Leave as-is (現状を維持する)〉を選択してください。

- Prompt (確認する) : 実行する操作を尋ねるメッセージが表示されます。ファイルごとに別の選択肢を指定する場合は、このオプションを選択します。
 - Overwrite (上書きする) : 変更されたローカル作業ファイルをリポジトリのバージョンに置き換えます。
 - Leave as-is (現状を維持する) : 変更されたローカル作業ファイルを維持します。
- チェックアウト 7 ローカル作業ファイルの処理を指定するには、【Undo Checkout (チェックアウトの取り消し)】を取り消しをクリックします。
- Replace local file with latest revision (ローカルファイルを最新バージョンに置き換える) : ローカル作業ファイルをリポジトリの最新のバージョンの読み取り専用コピーに置き換えます。
 - Leave local workspace as-is (ローカルワークスペースの現状を維持する) : ローカル作業ファイルを現状のまま保持します。

Serena のアイコン絵文字の設定

デフォルトでは、Serena のアイコン絵文字は、個々の項目のステータスを表します。パッケージまたはプロジェクトの場合は、その中のオブジェクトではなく、そのオブジェクト自体のステータスがアイコンに反映されます。Serena のアイコン絵文字を設定して、パッケージやプロジェクトなどのオブジェクトに、それに含まれるオブジェクトのステータスが反映されるようにできます。ただし、この追加情報を表示すると、パフォーマンスが低下します。

Serena のアイコン絵文字を設定するには、次の操作を行います。

- 1 [Window (ウィンドウ)] – [Preferences (設定)] を選択します。[Preferences (設定)] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 環境設定ツリーで、[Team (チーム)] – [Serena] – [Label Decorations (ラベル装飾)] を選択します。



重要! [Preferences (環境設定)] ダイアログボックスに [Team (チーム)] – [Serena] ノードが表示されない場合は、コアチームサポートを有効にする必要があります。左側の表示部で、[Workbench (ワークベンチ)] – [Capabilities (機能)] を選択します。右側の表示部で、[Team (チーム)] – [Core Team Support (コアチームサポート)] を選択します。

- 3 パッケージやプロジェクトなどのオブジェクトに、それに含まれるオブジェクトのステータスが表示されるようにするには、〈Compute deep folder status (深いフォルダのステータスを計算)〉を選択します。この機能を無効にするには、チェックボックスの選択を解除します。



注 〈Compute deep folder status (深いフォルダのステータスを計算)〉を有効にすると、パフォーマンスが低下します。

- 4 【OK】をクリックします。

Serena コンソールのテキスト色の設定

Serena から [Console (コンソール)] ビューに出力されるさまざまな種類の内容に対して、使用する色を選択できます。

Serena コンソールの色を設定するには、次の操作を行います。

- 1 [Window (ウィンドウ)] – [Preferences (設定)] を選択します。[Preferences (設定)] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 環境設定ツリーで、[Team (チーム)] – [Serena (Serena)] – [Console (コンソール)] を選択します。



重要! [Preferences (環境設定)] ダイアログボックスに [Team (チーム)] – [Serena] ノードが表示されない場合は、コアチームサポートを有効にする必要があります。左側の表示部で、[Workbench (ワークベンチ)] – [Capabilities (機能)] を選択します。右側の表示部で、[Team (チーム)] – [Core Team Support (コアチームサポート)] を選択します。

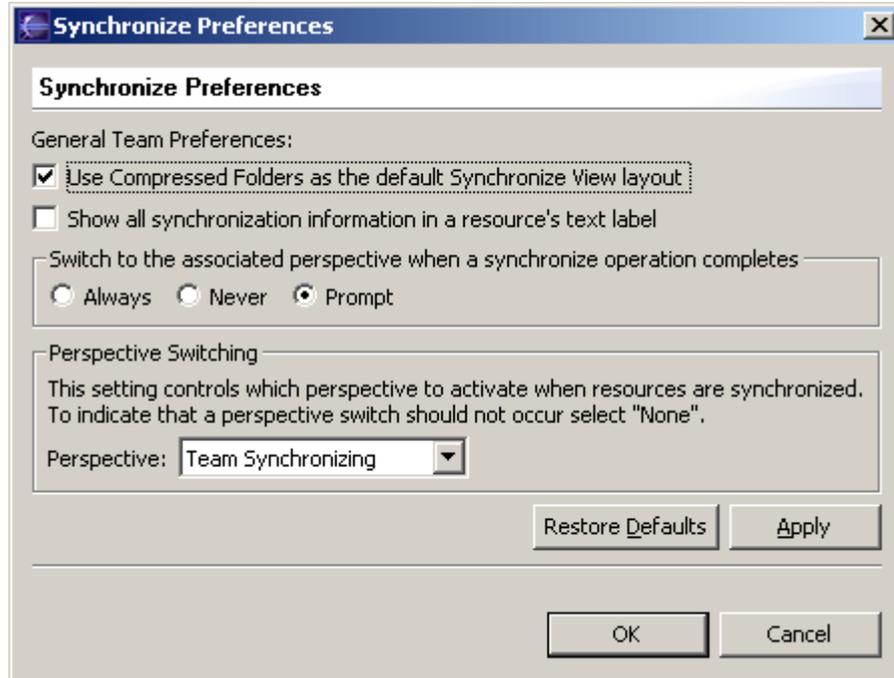
- 3 テキストの種類のある横にある色の付いたボタンをクリックし、新しい色を選択します。以下の種類の Serena コンソールテキストに対して色を選択できます。
 - コマンド (デフォルトは黒)
 - メッセージ (デフォルトは青)
 - エラー (デフォルトは赤)
 - 警告 (デフォルトは金)
- 4 【Apply (適用)】をクリックします。

ローカル同期オプションの設定

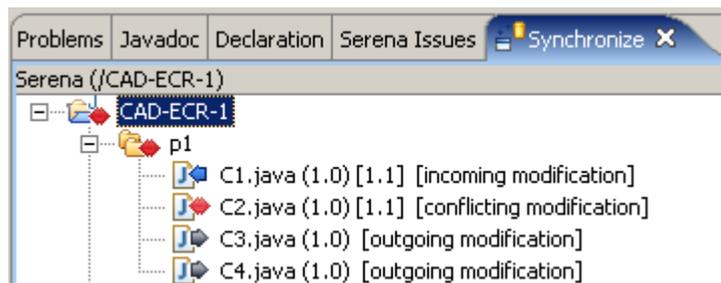
[Synchronize (同期)] ビューのデフォルトの動作を設定できます。

同期オプションを設定するには

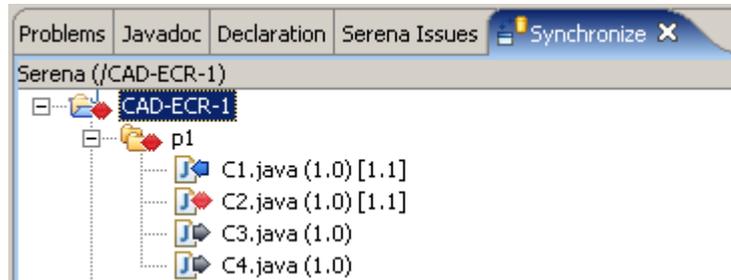
- 1 [Synchronize (同期)] ビューの【Menu (メニュー)] ボタンをクリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- 2 [Preferences (設定)] を選択します。[Synchronize Preferences (同期環境設定)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 [Synchronize (同期)] ビューを表示するときに各フォルダを展開するか折りたたむかを変更するには、〈Use Compressed Folders as default Synchronize View layout (同期ビューのデフォルトのレイアウトとして折りたたんだフォルダを使用)〉を選択または選択解除します。
- 4 それぞれの変更の種類を説明したテキストを表示するには、〈Show all synchronization information in a resource's text label (リソースのテキストラベルにすべての同期情報を表示)〉チェックボックスを選択します。この機能を有効にすると、次のように表示されます。



この機能を無効にすると、次のように表示されます。



- 5 同期するときに別々のパースペクティブを開くかどうかを指定するには、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - Always (常に開く) : 同期するときに、〈Perspective (パースペクティブ)〉フィールドで指定したパースペクティブが開きます。
 - Never (開かない) : 同期を起動したときに開いていたパースペクティブの状態が維持されます。
 - Prompt (確認する) : 〈Perspective (パースペクティブ)〉フィールドで指定したパースペクティブに切り替えるかどうかを確認するダイアログが表示されます。
- 6 同期の際に開くパースペクティブを指定するには、〈Perspective (パースペクティブ)〉フィールドで選択します。
- 7 【OK】をクリックします。

同期更新のスケジュール

同期を自動的に更新するようにスケジュールすることができます。これにより、〔Synchronize (同期)〕ビューに表示される情報が更新されますが、変更内容はコミットまたは解決されません。

同期更新をスケジュールするには、次の操作を行います。

- 1 スケジュールする同期を開きます。

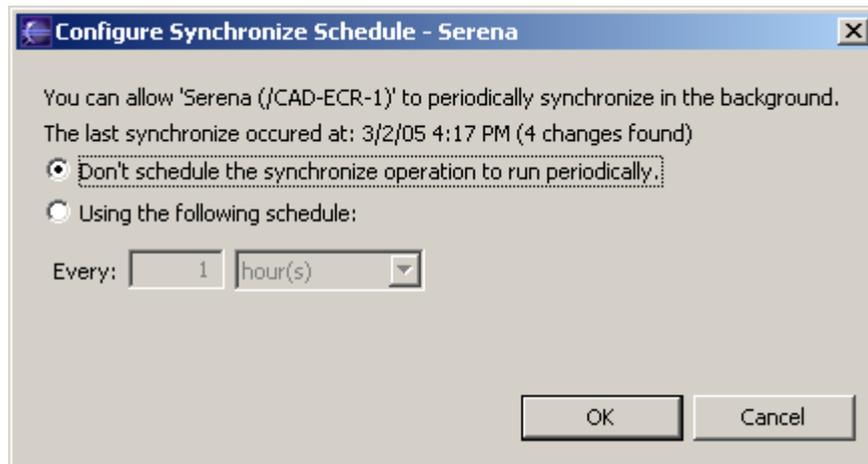


ヒント 固定された () 〔Synchronize (同期)〕ビュー間を切り替えるには、〈Synchronize (同期)〉ドロップダウン () をクリックし、リストから同期を選択します。



- 2 〔Synchronize (同期)〕ビューの【Menu (メニュー)】ボタンをクリックします。ポップアップメニューが表示されます。

- 3 〈Schedule (スケジュール)〉を選択します。[Configure Synchronize Schedule (同期スケジュールの設定)] ダイアログボックスが表示されます。



- 4 現在の同期の自動的な更新を有効にするには、〈Using the following schedule (次のスケジュールを使用)〉オプションを選択します。
- 5 更新の間隔を指定するには、〈hour(s) (時)〉または〈minute(s) (分)〉を選択して、任意の値を入力します。
- 6 【OK】をクリックします。

変更管理オプション

TeamTrack への統合のグローバルおよびローカルな動作を設定できます。188 ページの『グローバル Issue 管理オプションの設定』と 189 ページの『ローカル Issue 管理オプションの設定』を参照してください。

グローバル Issue 管理オプションの設定

Version Manager デスクトップクライアントで、管理者は、IDE と TeamTrack の統合に関して、以下のような設定を定義できます。

- 関連付けられているすべてのリビジョンに、Issue 番号を含んだバージョンラベルを適用するかどうか。
- チェックイン時に Issue の関連付けを義務付けるかどうか。
- 新規リビジョンのチェックインコメントに、関連付けられている Issue に関するメモを自動的に追加するかどうか。

統合の設定を定義するには

- 1 設定を適用するプロジェクトデータベースを選択します。
- 2 Version Manager デスクトップクライアントから、[Admin (管理)] – [SourceBridge settings (SourceBridge の設定)] を選択します。[SourceBridge Settings (SourceBridge の設定)] ダイアログボックスが表示されます。

3 以下のオプションを設定します。

フィールド	説明
Show Issue association dialog on checkin (チェックイン時に Issue との関連付けダイアログを表示) / Association required (必ず関連付け)	チェックイン時に Issue のファイルとの関連付けを義務付ける場合に選択します。このオプションを選択すると、アクティブな Issue がない場合は、ユーザがチェックインを完了できなくなります。〈Show Issue association dialog on checkin (チェックイン時に Issue との関連付けダイアログを表示)〉オプションは、Eclipse へのリッチな統合では意味がありませんが、〈Association required (必ず関連付け)〉オプションを選択するためには、これを選択しておく必要があります。
Tag workfile comment with association (チェックイン時にタグを付加)	<p>ファイルをチェックインする際に、関連付けられている Issue に関する情報を、そのチェックインコメントに追加する場合に選択します。〈Before existing comment (作業ファイルのコメントの前)〉または〈After existing comment (作業ファイルのコメントの後)〉を選択して、コメント中でのこの情報の場所を指定します。</p> <p>〈Tag (タグ)〉フィールドに、チェックインコメントに追加するテキストを入力します。ここでキーワードをいくつか指定することで、関連付けられている Issue に関する情報が自動的に入力されます。キーワードには、以下のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ \$id - Issue ID 番号に展開されます。 ■ \$ownid - Issue 所有者のユーザ ID に展開されます。 ■ \$owner - Issue 所有者の名前に展開されます。 ■ \$project - 現在のプロジェクトの名前に展開されます。 ■ \$title - Issue のタイトルに展開されます。
Use version labels on checkin (チェックイン時にバージョンラベルを使用)	ファイルをチェックインする際に、Issue 番号で構成されるバージョンラベルを適用する場合に選択します。

4 【OK】をクリックします。

ローカル Issue 管理オプションの設定

Issue 管理を設定するには、次の操作を行います。

- 1 [Window (ウィンドウ)] - [Preferences (設定)] を選択します。[Preferences (設定)] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 環境設定ツリーで、[Team (チーム)] - [Serena] - [Issuing (発行)] - [Associations (関連付け)] を選択します。



重要! [Preferences (環境設定)] ダイアログボックスに [Team (チーム)] - [Serena] ノードが表示されない場合は、コアチームサポートを有効にする必要があります。左側の表示部で、[Workbench (ワークベンチ)] - [Capabilities (機能)] を選択します。右側の表示部で、[Team (チーム)] - [Core Team Support (コアチームサポート)] を選択します。

- 3 〈Deactivate selected issues after checkin (チェックイン後に選択した Issue を選択解除)〉チェックボックスを選択または選択解除します。デフォルトでは、Issue はチェックイン後に選択解除されません。
- 4 【OK】をクリックします。

第 10 章

Rational Rose

はじめに	192
サポートされている機能の使用	192
ソース管理プロジェクトの設定	193
ソース管理の使用法	197

はじめに

目的 この章の目的は、以下の 4 つです。

- Rational Rose® Enterprise 2002 から使用可能な Version Manager の各機能の紹介と、それらの機能の使用方法の説明
- このマニュアルのパート 1 で解説された機能のうち、この開発環境 (IDE) には適用されないものの解説
- ソース管理プロジェクトの設定や、ソース管理へのファイルの追加を行う管理者の手引き
- ソース管理下にあるファイルに Rational Rose からアクセスする開発チームの手引き

詳細情報 以下の情報については、19 ページのパート 1、『Version Manager IDE クライアント』を参照してください。

- ソース管理の概念
- ソース管理のデフォルト動作
- ソース管理の詳細設定

サポートされている機能の使用

サポートされている機能 Rational Rose では、Version Manager IDE クライアントで使用可能なソース管理機能のサブセットがサポートされます。次の表を参照してください。



注 Rational Rose では、[Pulse] タブで通常使用可能なプロジェクト全体動作の監視はサポートされません。

目的	操作	参照セクション
リビジョンの取得	[Tools (ツール)] - [Version Control (バージョン管理)] - [Get Latest (最新の取得)]	198 ページの『ファイルの取得』
リビジョンのチェックアウト	[Tools (ツール)] - [Version Control (バージョン管理)] - [Check Out (チェックアウト)]	198 ページの『ファイルのチェックアウト』
リビジョンのチェックアウトの取り消し	[Tools (ツール)] - [Version Control (バージョン管理)] - [Undo Check Out (チェックアウトの取り消し)]	198 ページの『チェックアウトの取り消し』
リビジョンのチェックイン	[Tools (ツール)] - [Version Control (バージョン管理)] - [Check In (チェックイン)]	199 ページの『ファイルのチェックイン』
バージョンラベルの管理	[Tools (ツール)] - [Version Control (バージョン管理)] - [Start Version Control Explorer (バージョン管理エクスプローラの開始)]	62 ページの『バージョンラベルについて』
リビジョンまたはアーカイブのプロパティの表示	[Tools (ツール)] - [Version Control (バージョン管理)] - [File Properties (ファイルのプロパティ)]	82 ページの『プロパティ』

目的	操作	参照セクション
ローカルソース管理動作の監視	[Tools (ツール)] - [Version Control (バージョン管理)] - [Start Version Control Explorer (バージョン管理エクスプローラの開始)]	83 ページの『Pulse によるソース管理動作の監視』
履歴レポートの生成	[Tools (ツール)] - [Version Control (バージョン管理)] - [File History (ファイルの履歴)]	88 ページの『履歴レポートについて』
相違点レポートの生成	(Version Manager デスクトップクライアントを使用)	『Version Manager ユーザガイド』
[Version Manager Options (Version Manager オプション)] ダイアログボックスの使用	[Tools (ツール)] - [Version Control (バージョン管理)] - [Start Version Control Explorer (バージョン管理エクスプローラの開始)]	33 ページの『[Version Manager Options (Version Manager オプション)] ダイアログボックスのデフォルト値の設定』
ソース管理へのファイルの追加	[Tools (ツール)] - [Version Control (バージョン管理)] - [Add to Version Control (バージョン管理への追加)]	193 ページの『ソース管理へのファイルの追加』
ソース管理からのファイルの削除	[Tools (ツール)] - [Version Control (バージョン管理)] - [Remove from Version Control (バージョン管理からの削除)]	197 ページの『ソース管理からのファイルの削除』
複数のプロジェクトによるアーカイブの共有	不可	不可

ソース管理プロジェクトの設定

内容 このセクションでは、Rational Rose で使用するための Version Manager IDE クライアントの設定方法を説明しています。

前提条件 設定を行う前に、以下の作業が必要です。

- ソース管理プロバイダとして Version Manager を選択します (複数の Serena IDE クライアントがインストールされている場合)。29 ページの『SCC プロバイダの選択』を参照してください。
- Version Manager デスクトップクライアントを使用して、Rational Rose プロジェクトに関連付けられたソース管理プロジェクトを含むプロジェクトデータベースを作成します (このようなプロジェクトデータベースがまだ作成されていない場合)。
- Rational Rose の Version Control Add-In コンポーネントをインストールします。

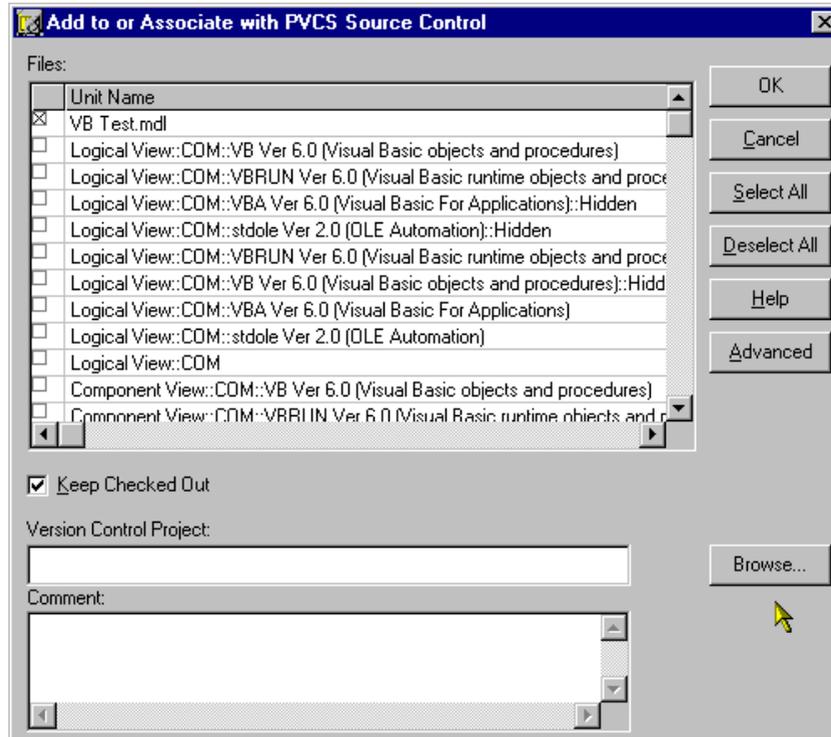
詳細情報 第 2 章、27 ページの『SCC IDE によるソース管理のセットアップ』を参照してください。

ソース管理へのファイルの追加

Rational Rose のファイルにソース管理操作を実行する前に、このファイルを新規または既存の Version Manager プロジェクトに追加する必要があります。

ファイル/ユニットをソース管理に追加するには、次の操作を行います。

- 1 ファイルまたはユニットが含まれるモデル（追加するモデルファイル（.mdl）を除く）をチェックアウトします。
- 2 [Tools (ツール)] - [Version Control (バージョン管理)] - [Add to Version Control (バージョン管理への追加)] を選択します。[Add to or Associate with Serena Source Control (Serena ソース管理での追加または関連付け)] ダイアログボックスが表示されます。

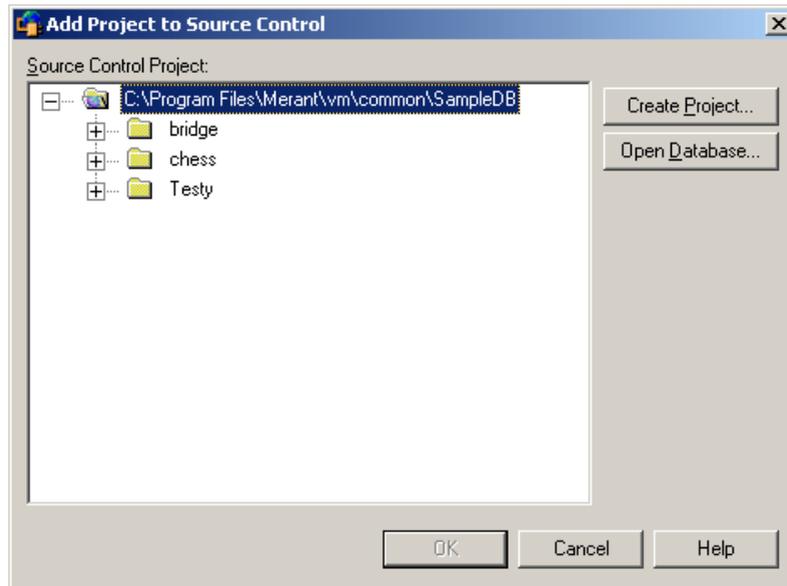


- 3 追加するユニット/ファイルの横のボックスを選択します。ルートプロジェクトの作業ディレクトリ（.mdl ファイルがあるディレクトリ）またはそのサブディレクトリ以外にあるファイルはソース管理に追加されません。

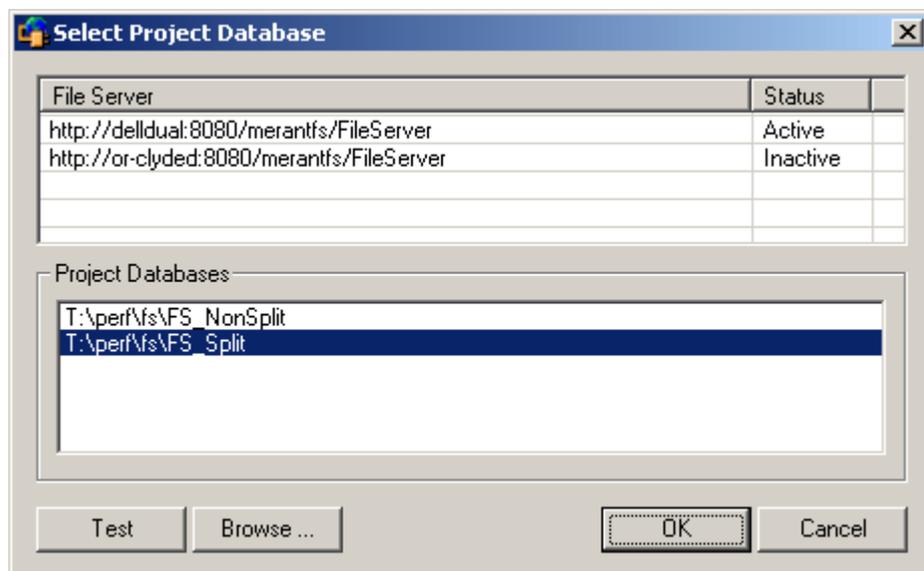


重要！モデル（.mdl）をソース管理下に置いて、ユニットをソース管理に追加する前にこのモデルをチェックアウトする必要があります。

- 4 〈Version Control Project (バージョン管理プロジェクト)〉フィールドに必要な Version Manager プロジェクトのパスが含まれていない場合は、【Browse (参照)】ボタンをクリックします。〔Add Project to Source Control (ソース管理にプロジェクトを追加)〕ダイアログボックスが表示されます。



- 5 〈Source Control Project (ソース管理プロジェクト)〉の下にデフォルトのプロジェクトデータベースが表示されます。別のプロジェクトデータベースにファイルを追加する場合は、【Open Database (データベースを開く)】ボタンをクリックします。〔Select Project Database (プロジェクトデータベースの選択)〕ダイアログボックスが表示されます。



以下のいずれかを実行します。

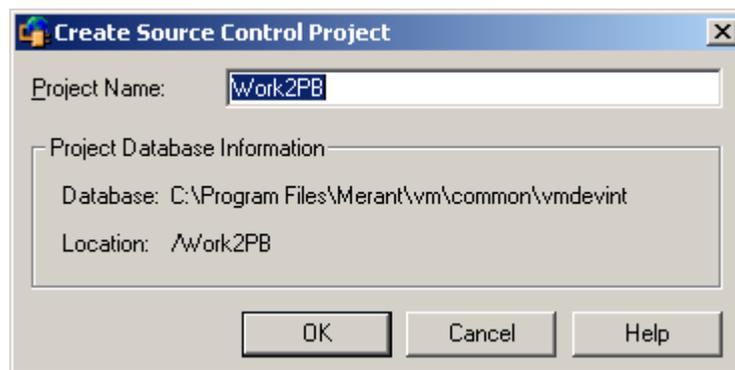
- 一覧表示されている Version Manager File Server 上にあるプロジェクトデータベースを開くには、〈Project Databases (プロジェクトデータベース)〉リストボックスからプロジェクトデータベースを選択し、【OK】をクリックします。

Version Manager File Server をリストに追加するには、〈File Server (ファイルサーバ)〉リストボックスの空のセルをダブルクリックしてファイルサーバのホストシステム名を入力します。ENTER キーを押すと、入力がオートコンプリート (http:// システム名:8080/serenafs/FileServer) し、テストされます。https サーバまたは非標準ポートを指定するには、オートコンプリートエントリをダブルクリックし、編集して、ENTER キーを押します。

- ローカルファイルシステムまたはネットワーク上のプロジェクトデータベースを開くには、【Browse (参照)】 ボタンをクリックして表示されるダイアログボックスから該当の場所を探します。

6 以下のいずれかを実行します。

- 既存のソース管理プロジェクトに追加するには、〈Source Control Project (ソース管理プロジェクト)〉からプロジェクトを選択します。手順 7 に進みます。
- **新規 Version Manager プロジェクトを作成するには、以下の手順に従います。**
 - a 〈Select Source Control Project (ソース管理プロジェクトの選択)〉の下で、新規プロジェクトを作成するプロジェクトデータベースの場所を選択します。
 - b 【Create Project (プロジェクトの作成)】 をクリックします。〔Create Source Control Project (ソース管理プロジェクトの作成)〕 ダイアログボックスが表示されます。



〈Project Database Information (プロジェクトデータベース情報)〉グループには、現在のプロジェクトデータベースの名前と場所、およびこのデータベース内の新規プロジェクトの場所が表示されます。

- c デフォルトでは、新しい Version Manager プロジェクトでは IDE プロジェクトと同じ名前を使用します。必要な場合、〈Project Name (プロジェクト名)〉フィールドに別の名前を入力します。

名前の前後にタブや空白を付けることはできません。名前には、アスタリスク (*)、コロン (:)、縦線 (|)、スラッシュ (/)、円記号 (¥)、疑問符 (?)、山かっこ (< >) 以外のすべての文字を使用できます。

- d 【OK】 をクリックします。〔Add Project to Source Control (ソース管理にプロジェクトを追加)〕 ダイアログボックスが再度開き、〈Source Control Project (ソース管理プロジェクト)〉の下に新規プロジェクトが表示されます。

7 【OK】 をクリックします。〔Add to or Associate with Serena Source Control (Serena ソース管理での追加または関連付け)〕 ダイアログボックスが再度表示されます。

- バージョンラベルまたはプロモーショングループを初期のリビジョンに割り当てるには、【Advanced (詳細)】をクリックします。[ChangeMan Advanced Add (追加の詳細設定)] ダイアログボックスが開きます (詳細設定については、[37 ページの『追加の詳細設定』](#)を参照してください)。



重要! 詳細設定を設定した後でバージョン管理プロジェクトをブラウズすると、詳細設定がクリアされます。詳細設定を設定する前にプロジェクトをブラウズします。

- 〈Comment (コメント)〉フィールドに、コメントを入力します。この説明は、選択したすべてのファイルに適用されます。



ヒント ファイルごとに固有の説明を付ける場合は、〈Comment (コメント)〉フィールドを空白のままにします。[Add to or Associate with Serena Source Control (Serena ソース管理での追加または関連付け)] ダイアログボックスへの入力が終わると、[Change Description (変更の説明)] ダイアログボックスが表示されます。各ファイルに順次説明を入力します。

- 【OK】をクリックします。
- コントロールユニットにこれから分割する手順 3 でモデルの要素を選択した場合、[Save As (別名保存)] ダイアログボックスが表示されます。各要素に名前を付けてモデルファイル (.mdl) ファイルが置かれるディレクトリまたはそのディレクトリ下のサブディレクトリに保存します。

これで、ファイルにソース管理操作を実行できるようになります。

ソース管理からのファイルの削除

ソース管理からファイルを削除しても、作業ファイルや Version Manager アーカイブは削除「されません」。IDE ファイルとアーカイブ間の関連付けが削除されるだけです。この後、いつでもファイルをソース管理に戻すことができます。

ソース管理からファイルを削除するには、次の操作を行います。

- 削除するファイルを選択します。
- [Tools (ツール)] - [Version Control (バージョン管理)] - [Remove from Version Control (バージョン管理からの削除)] を選択します。[Remove from Serena Source Control (Serena ソース管理からの削除)] ダイアログボックスが表示され、ファイルの一覧が示されます。このリストのファイルを選択または選択解除して、削除するファイルを変更できます。
- 【OK】をクリックします。

ソース管理に
ファイルを戻す

ソース管理にファイルを戻す方法の詳細は、[36 ページの『ソース管理から削除したファイルの追加』](#)を参照してください。

ソース管理の使用法

内容 このセクションでは、ソース管理下のファイルの表示および編集に関する操作を説明します。

詳細情報 [第 4 章、53 ページの『ソース管理の使用法』](#)を参照してください。

ファイルの取得

ファイルを取得すると、選択されたリビジョンが、作業ファイルの場所に読み取り専用ファイルとしてコピーされます。

ソース管理からファイルを取得するには、次の操作を行います。

- 1 [Tools (ツール)] - [Version Control (バージョン管理)] - [Get Latest (最新のファイルを取得)] を選択します。[Get Latest from Serena Source Control (Serena ソース管理からの最新ファイルの取得)] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 以下のいずれかを実行します。

詳細設定の使用

- デフォルトの取得オプションを変更するには、【Advanced (詳細)】をクリックします。[ChangeMan Advanced Get (取得の詳細設定)] ダイアログボックスが表示されます (詳細設定については、54 ページの『ファイルの取得』を参照してください)。

デフォルト値の使用

- デフォルトの取得オプションをそのまま使用するには、次の操作を行います。
 - a 【Get (取得)】をクリックします。選択したリビジョンがコピーされ、読み取り専用の作業ファイルが作業ファイル場所に配置されます。
 - b 【OK】をクリックします。

ファイルのチェックアウト

ファイルをチェックアウトすると、リビジョンはロックされ、書き込み可能な作業ファイルが作業ファイルの場所に作成されます。

ファイルをチェックアウトするには、次の操作を行います。

- 1 [Tools (ツール)] - [Version Control (バージョン管理)] - [Check Out (チェックアウト)] を選択します。[Check-out from Serena Source Control (Serena ソース管理からのチェックアウト)] ダイアログボックスが表示され、使用可能なファイルの一覧が示されます。このリストでファイルを選択または選択解除して、選択するファイルを変更できます。
- 2 以下のいずれかを実行します。

詳細設定の使用

- デフォルトのチェックアウトオプションを変更するには、【Advanced (詳細)】をクリックします。[ChangeMan Advanced Check Out (ChangeMan チェックアウトの詳細設定)] ダイアログボックスが表示されます (詳細設定については、57 ページの『ファイルのチェックアウト』を参照してください)。

デフォルト値の使用

- デフォルトのチェックアウトオプションを使用するには、【OK】をクリックします。選択したリビジョンの書き込み可能コピーが作業ファイルの場所にチェックアウトされ、リビジョンがロックされます。

チェックアウトの取り消し

チェックアウトを取り消すと、アーカイブのロックが解除されて読み取り専用の作業ファイルが作業ファイルの場所に残されます。ファイルに加えられた変更は、アーカイブにはチェックインされません。

チェックアウトを取り消すには、次の操作を行います。

- 1 [Tools (ツール)] - [Version Control (バージョン管理)] - [Undo Check Out (チェックアウトの取り消し)] を選択します。[このリストでファイルを選択または選択解除して、選択するファイルを変更できます。]

2 以下のいずれかを実行します。

詳細設定の使用

- デフォルトのチェックアウト取り消しオプションを変更するには、【Advanced (詳細)】をクリックします。[ChangeMan Advanced Undo Check Out (ChangeMan チェックアウト取り消しの詳細設定)] ダイアログボックスが表示されます (詳細設定については、59 ページの『[チェックアウトの取り消しについて](#)』を参照してください)。

デフォルト値の使用

- デフォルトのチェックイン取り消しオプションをそのまま使用する場合は、【OK】をクリックします。アーカイブのロックが解除されて読み取り専用の作業ファイルが作業ファイルの場所に残されます。

ファイルのチェックイン

作業ファイルをチェックインすると、デフォルトでは、以下の処理が行われます。

- 新規リビジョンが作成され、それまでの最新リビジョンの次の番号が割り当てられます。
- 読み取り専用ファイルが作業ファイルの場所に残されます。
- アーカイブのロックが解除されます。

ファイルをチェックインするには、次の操作を行います。

- 1 [Tools (ツール)] - [Version Control (バージョン管理)] - [Check In (チェックイン)] を選択します。[Check-in to Serena Source Control (Serena ソース管理へのチェックイン)] ダイアログボックスが表示され、使用可能なファイルの一覧が示されます。このリストでファイルを選択または選択解除して、選択するファイルを変更できます。
- 2 変更内容の説明を〈Comment (コメント)〉フィールドに入力します。この説明は、選択したすべてのファイルに適用されます。



ヒント ファイルごとに固有の説明を付ける場合は、〈Comment (コメント)〉フィールドを空白のままにします。[Check-in to Serena Source Control (Serena ソース管理へのチェックイン)] ダイアログボックスへの記入が完了すると、ファイルごとに順次、[Change Description (変更の説明)] ダイアログボックスが表示されます。

3 以下のいずれかを実行します。

詳細設定の使用

- デフォルトのチェックインオプションを変更するには、【Advanced (詳細)】をクリックします。[ChangeMan Advanced Check In (ChangeMan チェックインの詳細設定)] ダイアログボックスが表示されます (詳細設定については、60 ページの『[ファイルのチェックイン](#)』を参照してください)。

デフォルト値の使用

- デフォルトのチェックインオプションを変更しない場合は、【OK】をクリックします。ファイルがチェックインされます。

第 11 章

TestDirector

はじめに	202
サポートされている機能の使用	202
ソース管理プロジェクトの設定	203
ソース管理の使用法	205

はじめに

目的 この章の目的は、以下の 4 つです。

- Mercury Interactive TestDirector™ 8 から使用可能な Version Manager の各機能の紹介と、それらの機能の使用方法的説明
- このマニュアルのパート 1 で解説された機能のうち、この開発環境（IDE）には適用されないものの解説
- ソース管理プロジェクトの設定や、ソース管理へのファイルの追加を行う管理者の手引き
- ソース管理下にあるファイルに TestDirector からアクセスする開発チームの手引き

詳細情報 以下の情報については、[19 ページのパート 1、『Version Manager IDE クライアント』](#)を参照してください。

- ソース管理の概念
- ソース管理のデフォルト動作
- Web ベースのプロジェクト

サポートされている機能の使用

サポートされている機能 TestDirector では、Version Manager IDE クライアントで使用可能なソース管理機能のサブセットがサポートされます。特有の制限事項には、以下のものがあります。

- マージ、相違点、およびレポートの各機能はこの IDE からは起動できません。
- 詳細設定は使用できません。

目的	操作	参照セクション
最新リビジョンの取得	[Versions (バージョン)] – [Get Latest Version (最新のファイルを取得)]	205 ページの『最新リビジョンの取得』
以前のリビジョンを取得	[Versions (バージョン)] – [Versions (バージョン)] – [Get version (バージョンの取得)]	206 ページの『以前のリビジョンの取得』
最新のリビジョンをチェックアウト	[Versions (バージョン)] – [Check Out (チェックアウト)]	206 ページの『最新リビジョンのチェックアウト』
以前のリビジョンをチェックアウト	[Versions (バージョン)] – [Versions (バージョン)] – [Check Out (チェックアウト)]	207 ページの『以前のリビジョンのチェックアウト』
リビジョンのチェックアウトの取り消し	[Versions (バージョン)] – [Undo Check Out (チェックアウトの取り消し)]	208 ページの『チェックアウトの取り消し』
リビジョンのチェックイン	[Versions (バージョン)] – [Check In (チェックイン)]	208 ページの『テストのチェックイン』
バージョン履歴の表示	[Versions (バージョン)] – [Versions (バージョン)]	209 ページの『バージョン履歴の表示』

目的	操作	参照セクション
ソース管理へのプロジェクトの追加	(該当ドキュメントを参照してください)	204 ページの『ソース管理へのプロジェクトの追加』
ソース管理からのプロジェクトの削除	(該当ドキュメントを参照してください)	205 ページの『ソース管理からのプロジェクトの削除』
ソース管理ステータスの更新	[Versions (バージョン)] – [Refresh (最新の情報に更新)]	適用外

ソース管理プロジェクトの設定

内容 このセクションでは、TestDirector で使用するための Version Manager IDE クライアントの設定方法を説明しています。

前提条件 設定を行う前に、以下の作業が必要です。

- Version Manager および Version Manager IDE クライアントを Web サーバにインストールします。詳細については、『Serena PVCS Version Manager インストールガイド』を参照してください。
- Version Manager デスクトップクライアントを使用して、TestDirector プロジェクトに関連付けられたソース管理プロジェクトを含むプロジェクトデータベースを作成します（このようなプロジェクトデータベースがまだ作成されていない場合）。
- Web サーバのセキュリティを設定します。
- TestDirector Enterprise 8 をインストールします。また、TestDirector Checker ユーティリティを実行してサーバの使用に伴う問題を解決します。TestDirector のマニュアルを参照してください。

詳細情報 [第 3 章、41 ページの『COM IDE によるソース管理プロジェクトのセットアップ』](#)を参照してください。

ソース管理を使用可能にする

プロジェクトをソース管理下に置く前に、TestDirector Version Control のアドインを使用可能にする必要があります。

ソース管理を使用可能にするには、次の操作を行います。

- 1 TestDirector Site Administrator ([スタート] – [TestDirector] – [Site Administrator]) を起動します。
- 2 サイト管理者でログインします。
- 3 [Site Config (サイトの設定)] タブを選択します。
- 4 VC パラメータを選択します。
- 5 **【Edit (編集)】** をクリックします。[Edit Parameter (パラメータの編集)] ダイアログボックスが表示されます。
- 6 「Y」を〈Value (値)〉フィールドに入力して、**【OK】** をクリックします。

ソース管理へのプロジェクトの追加

ソース管理が使用可能になった後、TestDirector プロジェクトをソース管理下に置くには次の 2 つの方法があります。

- 既存の TestDirector プロジェクトをソース管理に追加する。
- 新規 TestDirector プロジェクトを作成し、ソース管理に追加する。

ソース管理への既存プロジェクトの追加

既存のプロジェクトをソース管理に追加するには、次の操作を行います。

- 1 TestDirector Site Administrator ([スタート] – [TestDirector] – [Site Administrator]) を起動します。
- 2 サイト管理者でログインします。
- 3 [Projects (プロジェクト)] タブの左側の表示部でプロジェクトを選択します。
- 4 このプロジェクトがアクティブな場合、【Deactivate (解除)】をクリックしてから、【Yes (はい)】をクリックして操作を確定します。
- 5 【Enable VC (VC の有効化)】をクリックしてから、【Yes (はい)】をクリックして操作を確定します。



注 この操作には数秒かかります。

- 6 【Activate (登録)】をクリックします。

新規プロジェクトのソース管理への追加

新規プロジェクトを作成してソース管理に追加するには、次の操作を行います。

- 1 TestDirector Site Administrator ([スタート] – [TestDirector] – [Site Administrator]) を起動します。
- 2 サイト管理者でログインします。
- 3 [Projects (プロジェクト)] タブで、【Create Project (プロジェクトの作成)】をクリックします。〈Create Project (プロジェクトの作成)〉ウィザードが表示されます。
- 4 プロジェクト名、ドメイン、およびデータベースタイプを指定してから、【Next (次へ)】をクリックします。〈Create Project (プロジェクトの作成)〉ウィザードの 2 ページ目が表示されます。
- 5 〈Create A Version Control DataBase (バージョン管理データベースの作成)〉チェックボックスを選択し、【Create (作成)】をクリックします。
- 6 バージョン管理が使用可能になったことを示すメッセージが表示されます。【OK】をクリックして、このメッセージを消します。
- 7 プロジェクトが作成されたことを知らせる 2 つ目のメッセージが表示されます。【OK】をクリックして、このメッセージを消します。



ソース管理からのプロジェクトの削除

TestDirector プロジェクトをソース管理から削除しても、Version Manager アーカイブは削除されません。ソース管理プロジェクトとの関連付けが削除されるだけです。後で、Version Manager アーカイブに再度追加することができます。



重要！ ソース管理からプロジェクトを削除する前に、すべてのテストをプロジェクトにチェックインしておかないと、後でソース管理に再追加する場合にテストのチェックインができなくなります。

プロジェクトをソース管理から削除するには、次の操作を行います。

- 1 TestDirector Site Administrator ([スタート] - [TestDirector] - [Site Administrator]) を起動します。
- 2 サイト管理者でログインします。
- 3 [Projects (プロジェクト)] タブの左側の表示部でプロジェクトを選択します。
- 4 このプロジェクトがアクティブな場合、【Deactivate (解除)】をクリックしてから、【Yes (はい)】をクリックして操作を確定します。
- 5 【Disable VC (VC の無効化)】をクリックします。
- 6 [Warning (警告)] ダイアログボックスで【OK】をクリックします。
- 7 [Confirmation (確認)] ダイアログボックスで【Yes (はい)】をクリックします。
- 8 正常終了のメッセージが表示されます。【OK】をクリックして、このメッセージを消します。

ソース管理に再追加

プロジェクトをソース管理に再追加するには、[204 ページの『ソース管理への既存プロジェクトの追加』](#)を参照してください。

ソース管理の使用法

内容 このセクションでは、ソース管理下のテストの表示および編集に関する操作を説明します。

詳細情報 [第 4 章、53 ページの『ソース管理の使用法』](#)を参照してください。

テストの取得

テストを取得すると、テストの読み取り専用コピーが作業ファイルの場所に置かれます。最新のリビジョンまたは以前のリビジョンを取得できます。

最新リビジョンの取得

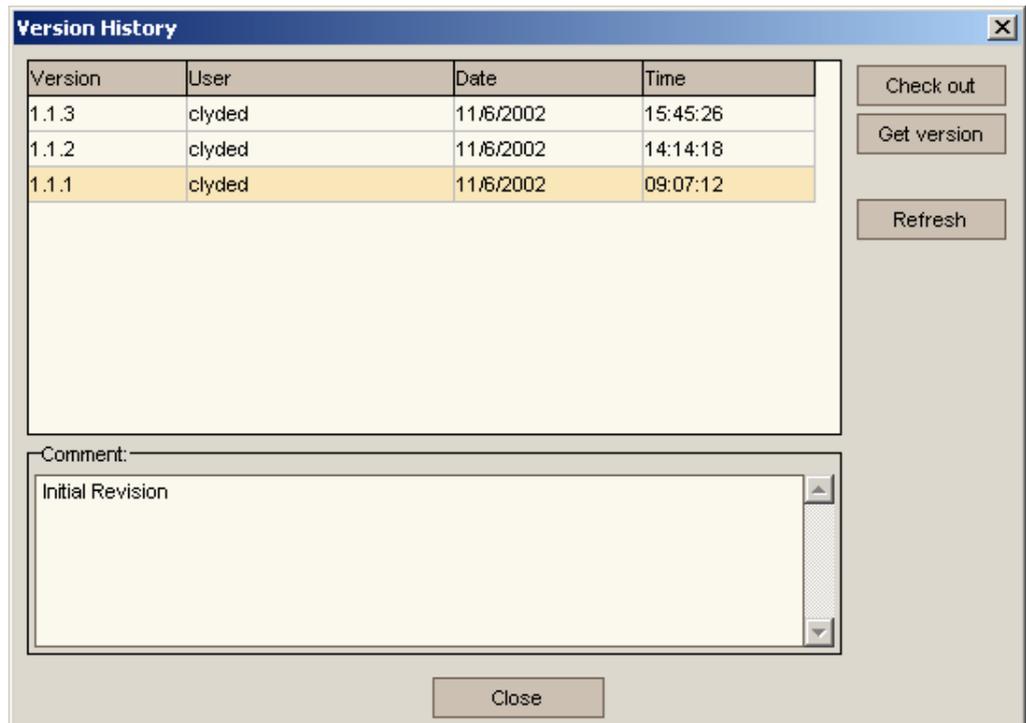
テストを取得するには、次の操作を行います。

- 1 TestDirector クライアントの [TEST PLAN] タブで、プランを右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- 2 [Versions (バージョン)] - [Get Latest Version (最新のファイルを取得)] を選択します。

以前のリビジョンの取得

テストを取得するには、次の操作を行います。

- 1 TestDirector クライアントの〔TEST PLAN〕タブで、プランを右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- 2 [Versions (バージョン)] - [Versions (バージョン)] を選択します。[Version History (バージョン履歴)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 取得するバージョンを選択します。
- 4 【Get version (バージョンの取得)】をクリックします。金色のファイルキャビネット (📁) がテストアイコンの隣に表示され、これが最新のリビジョンではないことが示されます。



注 テストの以前のリビジョンを取得する場合には、テストをチェックアウトする前に最新のリビジョンを取得しておく必要があります。

テストのチェックアウト

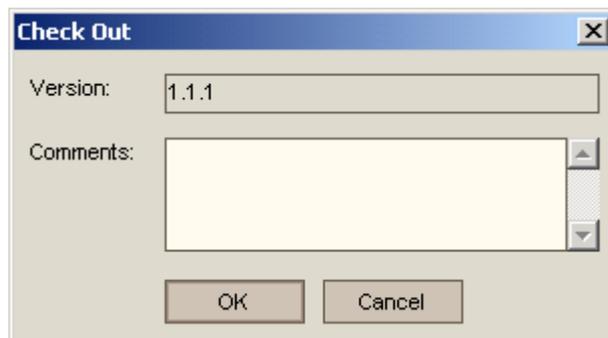
テストをチェックアウトすると、選択されたリビジョンはロックされ、書き込み可能な作業ファイルが作業ファイルの場所に作成されます。最新のリビジョンまたは以前のリビジョンを取得できます。

最新リビジョンのチェックアウト

テストをチェックアウトするには、次の操作を行います。

- 1 TestDirector クライアントの〔TEST PLAN〕タブで、プランを右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。

- 2 [Versions (バージョン)] – [Check Out (チェックアウト)] を選択します。[Check Out (チェックアウト)] ダイアログボックスが表示されます。

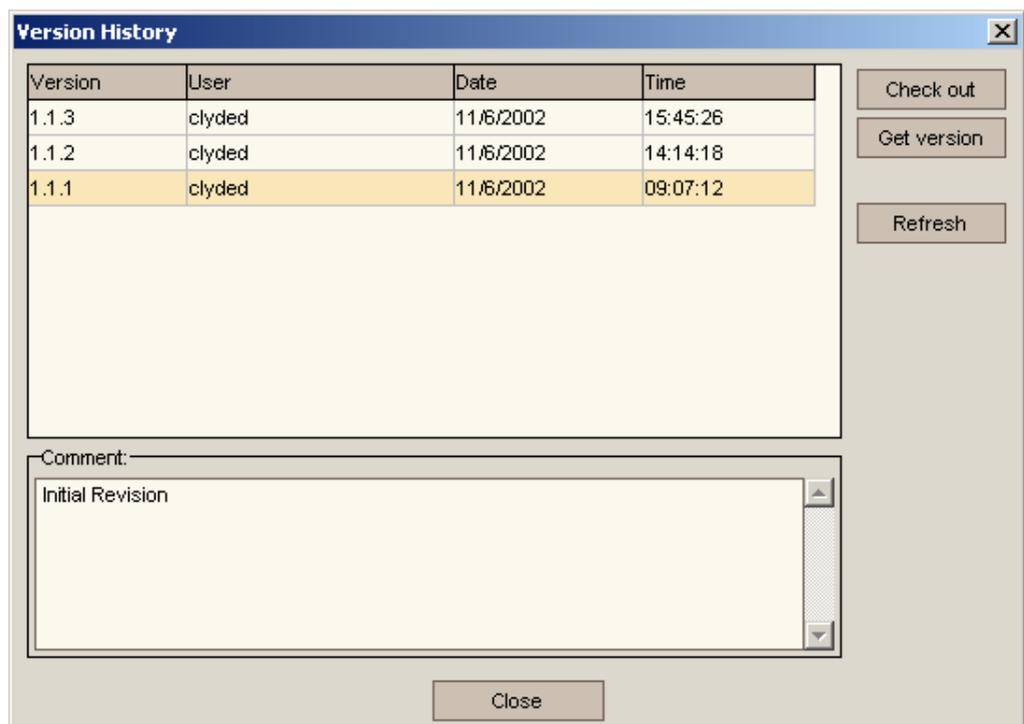


- 3 【OK】をクリックします。赤のパッドロック (🔒) がテストアイコンの隣に表示されます。

以前のリビジョンのチェックアウト

テストをチェックアウトするには、次の操作を行います。

- 1 TestDirector クライアントの [TEST PLAN] タブで、プランを右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- 2 [Versions (バージョン)] – [Versions (バージョン)] を選択します。[Version History (バージョン履歴)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 チェックアウトするバージョンを選択します。
- 4 【Check out (チェックアウト)】をクリックします。確認のダイアログボックスが表示されます。
- 5 【OK】をクリックします。[Check Out (チェックアウト)] ダイアログボックスが表示されます。
- 6 【OK】をクリックします。赤のパッドロック (🔒) がテストアイコンの隣に表示されます。

チェックアウトの取り消し

チェックアウトを取り消すと、アーカイブのロックが解除されて読み取り専用の作業ファイルが作業ファイルの場所に残されます。ファイルに加えられた変更は、アーカイブにはチェックインされません。

チェックアウトを取り消すには、次の操作を行います。

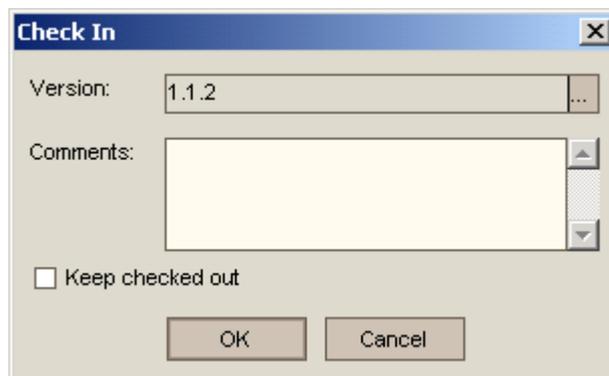
- 1 TestDirector クライアントの〔TEST PLAN〕タブで、プランを右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- 2 [Versions (バージョン)] – [Undo Check Out (チェックアウトの取り消し)] を選択します。確認のダイアログボックスが表示されます。
- 3 【OK】をクリックします。

テストのチェックイン

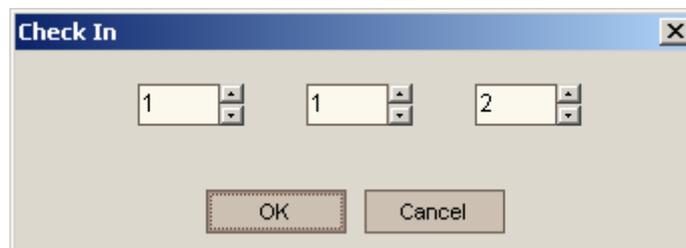
テストをチェックインすると、新規のリビジョンが作成されてそれまでの最新リビジョンの次の番号が割り当てられ、読み取り専用の作業ファイルが作業ファイルの場所に残され、アーカイブのロックが解除されます。

テストをチェックインするには、次の操作を行います。

- 1 TestDirector クライアントの〔TEST PLAN〕タブで、プランを右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- 2 [Versions (バージョン)] – [Check In (チェックイン)] を選択します。[Check In (チェックイン)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 以下のうち必要な作業を行います。
 - 〈Versions (バージョン)〉フィールドに表示された値を変更するには、【Browse (参照)】をクリックします。別の〔Check In (チェックイン)〕ダイアログボックスが表示されます。



- a 必要な値に変更します。

b 【OK】 をクリックします。



注 TestDirector では、この値は Vc Version として参照されます。Version Manager では、この値を使用してリビジョンにラベルを適用します。このフィールドによって、Version Manager のリビジョン番号付け方式が影響を受けることはありません。

- テストをチェックインした後にテストのロックを保持するには、〈Keep checked out (チェックアウト状態を保持)〉チェックボックスを選択します。

4 変更内容の説明を 〈Comments (コメント)〉 フィールドに入力します。



重要! チェックイン操作を完了するには、コメントを入力する必要があります。

5 【OK】 をクリックします。

新規テストの追加

TestDirector プロジェクトがソース管理下にある場合、プロジェクト内で作成した新規テストは自動的にソース管理に追加されます。

バージョン履歴の表示

〔TestDirector Version History (TestDirector バージョン履歴)〕 ダイアログボックスには次の情報が表示されます。

- Version (バージョン) : TestDirector がテストの各バージョンを一意に識別するために使用する番号。Version Manager では、この値を使用してリビジョンごとにバージョンラベルを割り当てますが、この値は Version Manager のリビジョン番号には関係がありません。
- User (ユーザ) : バージョンを作成したユーザの ID。
- Date (日付) : バージョンが作成された日付。
- Time (時刻) : バージョンが作成された時刻。
- Comment (コメント) : バージョンが作成されたときに関連付けられた説明。

履歴情報を表示するには、次の操作を行います。

- 1 TestDirector クライアントの〔TEST PLAN〕タブで、プランを右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- 2 [Versions (バージョン)] - [Versions (バージョン)] を選択します。〔Version History (バージョン履歴)〕ダイアログボックスが表示されます。

第 12 章

VisualAge for Java

はじめに	212
サポートされている機能の使用	212
ソース管理プロジェクトの設定	213
ソース管理の使用法	220

はじめに

目的 この章の目的は、以下の 4 つです。

- IBM® VisualAge® for Java™ 4 から使用可能な Version Manager の各機能の紹介と、それらの機能の使用方法の説明
- このマニュアルのパート 1 で解説された機能のうち、この開発環境（IDE）には適用されないものの解説
- ソース管理プロジェクトの設定や、ソース管理へのファイルの追加を行う管理者の手引き
- ソース管理下にあるファイルに VisualAge for Java からアクセスする開発チームの手引き

詳細情報 以下の情報については、[19 ページのパート 1、『Version Manager IDE クライアント』](#)を参照してください。

- ソース管理の概念
- ソース管理のデフォルト動作

サポートされている機能の使用

サポートされている機能 VisualAge for Java では、Version Manager IDE クライアントで使用可能なソース管理機能のサブセットがサポートされます。この IDE 特有の制限事項として、下記は使用できません。

- 履歴レポートまたは相違点レポートの生成
- プロパティの表示
- プロジェクト間でのアーカイブの共有

機能の使用 下記のメニューコマンドにアクセスするには

- 1 VisualAge for Java ワークベンチで、操作対象の項目を選択します。
- 2 右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。

目的	操作	参照セクション
リビジョンの取得	[Tools (ツール)] – [External Version Control (外部バージョン管理)] – [Refresh Project (プロジェクトの更新)]	221 ページの『プロジェクトの更新 (取得)』
リビジョンのチェックアウト	[Tools (ツール)] – [External Version Control (外部バージョン管理)] – [Check Out (チェックアウト)]	222 ページの『ファイルのチェックアウト』
リビジョンのチェックアウトの取り消し	[Tools (ツール)] – [External Version Control (外部バージョン管理)] – [Undo Check Out (チェックアウトの取り消し)]	223 ページの『チェックアウトの取り消し』
リビジョンのチェックイン	[Tools (ツール)] – [External Version Control (外部バージョン管理)] – [Check In (チェックイン)]	223 ページの『ファイルのチェックイン』
バージョンラベルの管理	[Tools (ツール)] – [External Version Control (外部バージョン管理)] – [Open Version Control (バージョン管理を開く)]	62 ページの『バージョンラベルについて』

目的	操作	参照セクション
リビジョンまたはアーカイブのプロパティの表示	(Version Manager デスクトップクライアントを使用)	『Version Manager ユーザガイド』
ソース管理動作の監視	[Tools (ツール)] – [External Version Control (外部バージョン管理)] – [Open Version Control (バージョン管理を開く)]	83 ページの『Pulse によるソース管理動作の監視』
履歴レポートの生成	(Version Manager デスクトップクライアントを使用)	『Version Manager ユーザガイド』
相違点レポートの生成	(Version Manager デスクトップクライアントを使用)	『Version Manager ユーザガイド』
[Version Manager Options (Version Manager オプション)] ダイアログボックスの使用	[Tools (ツール)] – [External Version Control (外部バージョン管理)] – [Open Version Control (バージョン管理を開く)]	33 ページの『[Version Manager Options (Version Manager オプション)] ダイアログボックスのデフォルト値の設定』
ソース管理へのプロジェクトの追加	[Tools (ツール)] – [External Version Control (外部バージョン管理)] – [Add to Version Control (バージョン管理への追加)]	214 ページの『プロジェクトをソース管理に追加する前に』
ソース管理からのプロジェクトの削除	[Tools (ツール)] – [External Version Control (外部バージョン管理)] – [Remove from Version Control (バージョン管理からの削除)]	219 ページの『ソース管理からのプロジェクトの削除』
ソース管理への新規ファイルの追加	[Tools (ツール)] – [External Version Control (外部バージョン管理)] – [Add (追加)]	224 ページの『新規ファイルのソース管理への追加』
ソース管理からのファイルの削除	[Tools (ツール)] – [External Version Control (外部バージョン管理)] – [Delete (削除)]	226 ページの『ソース管理からのファイルの削除』

ソース管理プロジェクトの設定

内容 このセクションでは、VisualAge for Java で使用するための Version Manager IDE クライアントの設定方法を説明しています。

前提条件 設定を行う前に、以下の作業が必要です。

- Version Manager デスクトップクライアントを使用して、VisualAge for Java プロジェクトに関連付けられたソース管理プロジェクトを含むプロジェクトデータベースを作成します（このようなプロジェクトデータベースがまだ作成されていない場合）。
- VisualAge for Java をインストールします。



重要！

- このインストールに外部バージョン管理機能を含める必要があります。
- IBM EVC Patch 1 をインストールする必要があります。

詳細情報 第 2 章、27 ページの『SCC IDE によるソース管理のセットアップ』および『Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。

プロジェクトをソース管理に追加する前に

このセクションでは、Version Manager と連携して動作するための VisualAge for Java の設定方法を説明します。直前のセクションに記載されている前提条件を参照してください。

Remote Access サーバの起動

ソース管理へ追加するには、事前に Remote Access サーバを稼動しておく必要があります。

Remote Access サーバを起動するには、次の操作を行います。

- 1 VisualAge for Java ワークベンチで、[Window (ウィンドウ)] – [Options (オプション)] を選択します。[Options (オプション)] ウィンドウが表示されます。
- 2 左側の表示部から [Remote Access To Tool API] を選択します。
- 3 【Start Remote Access To Tool API (ツール API へのリモートアクセスの開始)】 ボタンをクリックします。このボタンが使用できない場合、サーバはすでに稼動しています。
- 4 〈Start Remote Access To Tool API on VisualAge startup (VisualAge の起動時にツール API へのリモート アクセスを開始する)〉 チェックボックスを選択します。
- 5 【OK】 をクリックします。

これで、VisualAge for Java を起動するたびに Remote Access サーバが起動します。

ビジュアルコンポジション情報について

VisualAge for Java リポジトリに含まれるビジュアルコンポジション情報は、メタデータとしてエクスポートされるように VisualAge for Java で設定した場合を除いて、ソース管理下には置かれません。

ビジュアルコンポジション情報をメタデータとして生成するには、次の操作を行います。

- 1 [Window (ウィンドウ)] – [Options (オプション)] を選択します。[Options (フォルダオプション)] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 左側の画面から [Visual Composition (ビジュアルコンポジション)] – [Code generation (コード生成)] を選択します。
- 3 〈Generate meta data method (メタデータ方法の生成)〉 チェックボックスを選択します。
- 4 【OK】 をクリックします。

プロジェクトのソース管理への追加

VisualAge for Java プロジェクトでソース管理の操作を実行するには、事前にプロジェクトをソース管理に追加しておく必要があります。これには、次の手順を実行します。

- 1 プロジェクトのソース管理プロバイダとして Version Manager を選択します。初期 IDE プロジェクトにこの手順を実行し、手順 2 を最初に完了した後、各開発者のワークステーションの空のプロジェクトに、この手順を実行します。
- 2 初期 IDE プロジェクトを空のソース管理プロジェクトに追加します。これによって、ソース管理プロジェクトに IDE プロジェクトの内容が読み込まれます。
- 3 各開発者のワークステーションをソース管理プロジェクトに追加します。これによって、各ワークステーションの空の IDE プロジェクトにソース管理プロジェクトの内容が読み込まれます。

手順 1: ソース管理プロバイダとしての Version Manager の選択

初期 IDE プロジェクトにこの手順を実行し、手順 2 を最初に完了した後、各開発者のワークステーションの空のプロジェクトに、この手順を実行します。

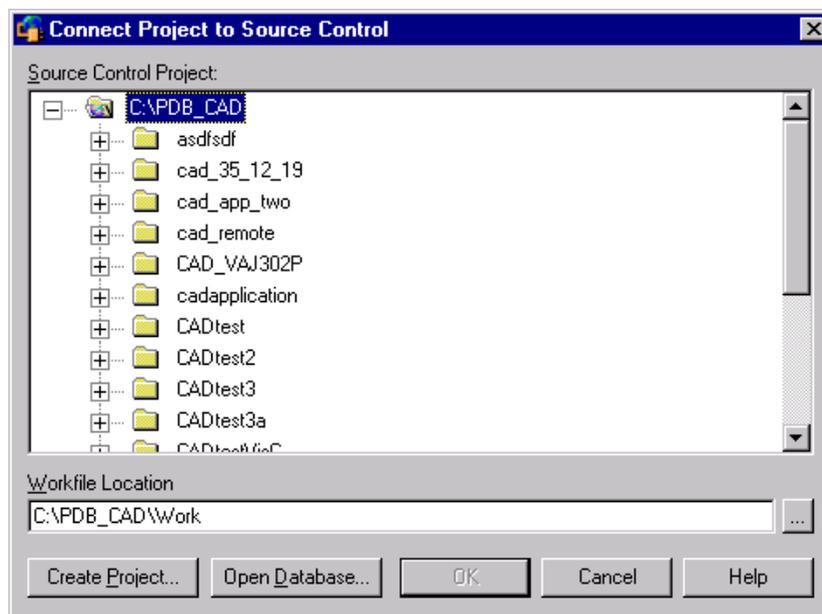
ソース管理プロバイダを選択するには、次の操作を行います。

- 1 ワークベンチから、プロジェクトを選択して右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- 2 [Tools (ツール)] - [External Version Control (外部バージョン管理)] - [Add to Version Control (バージョン管理への追加)] を選択します。[Add to Version Control (バージョン管理への追加)] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 Microsoft SCCI を選択し、【OK】をクリックします。
- 4 複数の SCC 準拠のソース管理システムがインストールされている場合は、[Select SCM System (SCM システムの選択)] ダイアログボックスが表示されます。[ChangeMan Version Manager] を選択し、【OK】をクリックします。



注 Version Manager オプションのデフォルト値を設定するには、(Show advanced options if available (可能な場合の高度な設定)) オプションを選択します。33 ページの『[Version Manager Options (Version Manager オプション)] ダイアログボックスのデフォルト値の設定』を参照してください。

- 5 [Connect Project to Source Control (ソース管理へのプロジェクトの接続)] ダイアログボックスで、デフォルトのプロジェクトデータベースが (Source Control Project (ソース管理プロジェクト)) の下に表示されます。VisualAge for Java プロジェクトを別のプロジェクトデータベースに追加する場合は、【Open Database (データベースを開く)】をクリックし、ブラウザしてファイルを選択します。



- 6 以下のいずれかを実行します。
 - 初期 IDE プロジェクトをソース管理に初めて追加するには、次のセクションに進んでください。

- IDE プロジェクトを既存の Version Manager プロジェクトに追加するには、218 ページの『手順 3: 各開発者のワークステーションをソース管理プロジェクトに追加します。』に進みます。

手順 2: 空のソース管理プロジェクトへの初期 IDE プロジェクトの追加

既存の IDE プロジェクトを空の Version Manager プロジェクトに追加すると、IDE プロジェクト内にあるファイルのアーカイブが作成されます。この手順の実行は、後でソース管理プロジェクトに追加するワークステーションのプロジェクトではなく、初期の IDE プロジェクトについてのみ実行します。

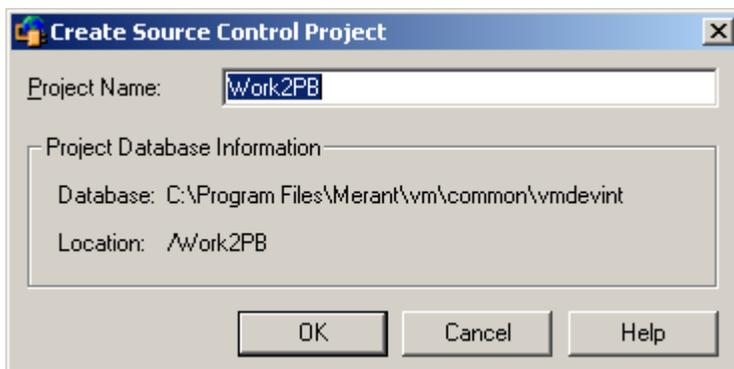


重要！ 先に進む前に、直前の手順を完了する必要があります。

IDE プロジェクトをソース管理に追加するには

1 以下のいずれかを実行します。

- 既存のソース管理プロジェクトに接続するには、〈Source Control Project (ソース管理プロジェクト)〉から空のプロジェクトを選択します。手順 2 に進みます。
- **新規 Version Manager プロジェクトを作成するには、以下の手順に従います。**
 - a 〈Select Source Control Project (ソース管理プロジェクトの選択)〉の下で、新規プロジェクトを作成するプロジェクトデータベースの場所を選択します。
 - b 【Create Project (プロジェクトの作成)】をクリックします。〔Create Source Control Project (ソース管理プロジェクトの作成)〕ダイアログボックスが表示されます。



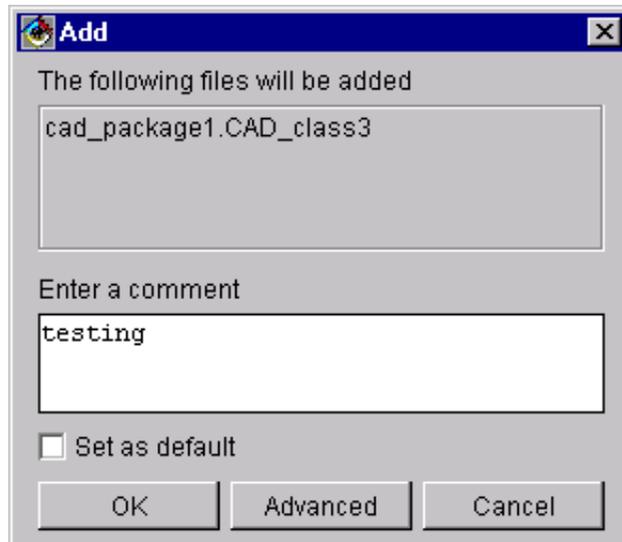
〈Project Database Information (プロジェクトデータベース情報)〉グループには、現在のプロジェクトデータベースの名前と場所、およびこのデータベース内の新規プロジェクトの場所が表示されます。

- c デフォルトでは、新しい Version Manager プロジェクトでは IDE プロジェクトと同じ名前を使用します。必要な場合、〈Project Name (プロジェクト名)〉フィールドに別の名前を入力します。

名前の前後にタブや空白を付けることはできません。名前には、アスタリスク (*)、コロン (:)、縦線 (|)、スラッシュ (/)、円記号 (¥)、疑問符 (?)、山かっこ (< >) 以外のすべての文字を使用できます。

- d 【OK】をクリックします。〔Add Project to Source Control (ソース管理にプロジェクトを追加)〕ダイアログボックスが再度開き、〈Source Control Project (ソース管理プロジェクト)〉の下に新規プロジェクトが表示されます。

- 2 【OK】をクリックします。新規ディレクトリの作成を求めるメッセージが表示されたら、【OK】をクリックします。
- 3 [Unable to Detect Files (ファイルの検出不可)] ダイアログボックスが表示されます。【Continue (続行)】をクリックします。
- 4 [Add to Version Control Smart Guide (バージョン管理スマートガイドに追加)] ダイアログボックスが表示されます。ソース管理に追加するタイプを選択し、【Next (次へ)】をクリックします。
- 5 ソース管理下に置くリソースファイルを選択して【Finish (終了)】をクリックします。選択された追加するファイルの一覧が [Add to Version Control (バージョン管理への追加)] ダイアログボックスに表示されます。



- 6 <Enter a comment (コメントの入力)> フィールドに、ファイルの説明を入力します。この説明が一覧されたすべてのファイルに適用されます。
<Set as default (デフォルトに設定)> チェックボックスを選択すると、今回入力したコメントがデフォルトで、以後の追加操作時に表示されます。



注 ファイルごとに固有の説明を付ける場合は、<Enter a comment (コメントの入力)> フィールドを空白のままにします。[Add (追加)] ダイアログボックスへの入力完了すると、ファイルごとに順次、[Change Description (変更の説明)] ダイアログボックスが表示されます。

- 7 以下のいずれかを実行します。

詳細設定の使用

- バージョンラベルまたはプロモーショングループを初期のリビジョンに割り当てるには、【Advanced (詳細)】をクリックします。[ChangeMan Advanced Add (追加の詳細設定)] ダイアログボックスが開きます (詳細設定については、37 ページの『追加の詳細設定』を参照してください)。

デフォルト値の使用

- デフォルトの追加オプションをそのまま使用する場合は、【OK】をクリックします。

- 8 [Progress Information (進行状況の情報)] ダイアログボックスが表示されます。【OK】をクリックします。

プロジェクトがソース管理に追加され、指定されたアーカイブディレクトリに、アーカイブが作成されます。プロジェクトのパッケージ以外のオブジェクトの右側に緑色の矢印アイコン () が表示され、ソース管理下にあることが示されます。

- 9 218 ページの『VisualAge for Java プロジェクトの設定』に進んで、Version Manager で使用するようにプロジェクトを設定します。

手順 3: 各開発者のワークステーションをソース管理プロジェクトに追加します。

空の IDE プロジェクトを既存の Version Manager プロジェクトに追加すると、Version Manager で取得操作が実行され、アーカイブから IDE プロジェクトにファイルがコピーされます。各ワークステーションでこの手順を繰り返します。



重要！ 先に進む前に、次の手順、215 ページの『手順 1: ソース管理プロバイダとしての Version Manager の選択』を完了する必要があります。

既存のソース管理アーカイブに追加するには、次の操作を行います。

- 1 VisualAge for Java にインポートするアーカイブを保有しているソース管理プロジェクトを選択します。
- 2 【OK】をクリックします。
- 3 IDE プロジェクトにすでにファイルが存在する場合は、アーカイブの内容でファイルの「置き換え」を求めるメッセージが表示されます。【Yes (はい)】をクリックします。



警告！ IDE プロジェクトの既存の内容は、ワークスペースから削除されますが、リポジトリからは削除されません。

- 4 [Select files to Import (インポートするファイルの選択)] ダイアログボックスが表示され、Version Manager プロジェクトに含まれるファイルの一覧が表示されます。
- 5 インポートするファイルを選択し、【OK】をクリックします。[Import Files (ファイルのインポート)] ダイアログボックスが表示され、選択したファイルのリストが表示されます。
- 6 以下のいずれかを実行します。

詳細設定の使用

- デフォルトの取得オプションを変更するには、【Advanced (詳細)】をクリックします。[ChangeMan Advanced Get (取得の詳細設定)] ダイアログボックスが表示されます (詳細設定については、55 ページの『取得オプションの詳細設定』を参照してください)。

デフォルト値の使用

- デフォルトの取得オプションを使用する場合は、【OK】をクリックします。

- 7 [Progress Information (進行状況の情報)] ダイアログボックスが表示されます。【OK】をクリックします。

Version Manager プロジェクトのファイルが IDE プロジェクトに追加されます。プロジェクトのパッケージ以外のオブジェクトの右側に緑色の矢印アイコン () が表示され、ソース管理下にあることが示されます。

- 8 次のセクションに進んで、Version Manager で使用するようにプロジェクトを設定します。

VisualAge for Java プロジェクトの設定

IDE プロジェクトをソース管理に追加した後、適切に設定されていることを確認してください。確認を怠ると、予期しない結果となり、データが失われることがあります。

更新オプションの設定

- 更新の内容** プロジェクトを更新すると、ワークスペースのファイルが次の 2 つのソースのいずれかのファイルで置き換えられます。
- 作業ディレクトリ (Version Manager の作業ファイルディレクトリ)
 - Version Manager のアーカイブ
- 推奨設定** アーカイブから更新することをお奨めします。こうすれば、ワークスペースのファイルがアーカイブに一致します。これによって、詳細設定にもアクセスできるので、チップリビジョンではなく、特定のリビジョンでファイルを更新することができます。

オプションの設定 更新オプションを設定するには、次の操作を行います。

- 1 ワークベンチから、設定するプロジェクトを選択し、右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- 2 [Tools (ツール)] - [External Version Control (外部バージョン管理)] - [Properties (プロパティ)] を選択します。[Properties for ProjectName (プロジェクト名のプロパティ)] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [Microsoft SCCI] タブを選択します。
- 4 以下のいずれかを実行します。
 - <Refresh project from SCM server (SCM サーバからのプロジェクトの更新)> オプションを選択します。これが推奨設定です。
 - <Refresh project from working directory (作業ディレクトリからのプロジェクトの更新)> オプションを選択します。



重要! 作業ディレクトリから更新すると、アーカイブにチェックインしていない、ワークスペースへの変更が取り込まれることがあります。

- 5 【OK】をクリックします。

ソース管理からのプロジェクトの削除

ソース管理からプロジェクトを削除すると、IDE プロジェクトと Version Manager プロジェクト間の関連付けが削除されます。アーカイブは依然として存在しているので、後で再度ソース管理に追加したり、Version Manager デスクトップクライアントからアクセスしたりできます。



重要! プロジェクトをソース管理に戻す際の重要な考慮事項については、[220 ページの『ソース管理にプロジェクトを戻す』](#)を参照してください。

プロジェクトをソース管理から削除するには、次の操作を行います。

- 1 ワークベンチで、ソース管理から削除するプロジェクトを選択して、右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- 2 [Tools (ツール)] - [External Version Control (外部バージョン管理)] - [Remove from Version Control (バージョン管理からの削除)] を選択します。
- 3 ソース管理からのプロジェクトの削除を確認するダイアログが表示されます。【Yes (はい)】をクリックします。

- 4 ソース管理からプロジェクトが削除されたことを確認する情報ダイアログボックスが表示されま
す。【OK】をクリックします。

ソース管理にプロジェクトを戻す

ソース管理からプロジェクトを削除しても、Version Manager のアーカイブは保持されるので、後
でアーカイブを再び追加できます。既存のアーカイブを再び追加しない場合は、プロジェクトを新し
いソース管理プロジェクトに追加して、新しいアーカイブを作成できます。

プロジェクトがアーカイブに再び追加された場合

VisualAge for Java プロジェクトをソース管理のアーカイブに再び追加すると次のようになります。

- IDE プロジェクトの現在の内容がソース管理のアーカイブの内容で置き換えられます。
- ソース管理から削除された後に、IDE プロジェクトに加えられた変更はワークスペースから削除
されます。
- ソース管理から削除された後に、IDE プロジェクトに加えられた変更はリポジトリに保持され
ます。

ソース管理にプロジェクトを戻す

プロジェクトをソース管理に戻すには、以下の点に注意しながら [214 ページの『プロジェクトの
ソース管理への追加』](#)の手順を実行します。

- IDE プロジェクトがソース管理から削除された後に加えられた変更を保持するには、IDE プロ
ジェクトを空のソース管理プロジェクトに追加します。これによって、IDE プロジェクトの現在
の内容に基づいてアーカイブの新しいセットが作成されます。
- IDE プロジェクトの現在の内容をソース管理のアーカイブの内容で置き換えるには、IDE プロ
ジェクトを既存のソース管理のアーカイブに再び追加します。

ソース管理の使用法

内容 このセクションでは、ソース管理下のファイルの表示および編集に関する操作を説明します。

詳細情報 [第 4 章、53 ページの『ソース管理の使用法』](#)を参照してください。

プロジェクトの更新（取得）

プロジェクトを更新すると、ワークスペースのファイルが次の 2 つのソースのいずれかのファイルで置き換えられます。

- Version Manager のアーカイブ
- 作業ディレクトリ（Version Manager の作業ファイルディレクトリ）



重要！作業ディレクトリから更新すると、アーカイブにチェックインしていない、ワークスペースへの変更が取り込まれることがあります。219 ページの『更新オプションの設定』を参照してください。

また、更新を実行して、ワークスペース内のファイルをアーカイブからの以前のリビジョンで置き換えることができます。デフォルトで、最新リビジョンが使用されます。

プロジェクトを更新（取得）するには、次の操作を行います。

- 1 VisualAge for Java ワークベンチで、更新するプロジェクトを選択して右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- 2 [Tools (ツール)] - [External Version Control (外部バージョン管理)] - [Refresh Project (プロジェクトの更新)] を選択します。[Refresh Project (プロジェクトの更新)] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 更新するファイルを次のタブから選択します（必要なタブのみが使用可能になります）。
 - [Refresh Items (アイテムの更新)] タブには更新可能なファイルが一覧されます。
 - [Modified Files (更新ファイルの表示)] タブには、ユーザのシステムで変更したけれどもチェックインされていないファイルが一覧されます。更新するファイルを選択し、【Add (追加)】をクリックします。
 - [Checked Out (チェックアウト)] タブには、ユーザがチェックアウトしたけれども、ほかのユーザがアーカイブで更新したファイルが一覧されます（Version Manager デスクトップクライアントを使用して Version Manager で複数ロックを許可するように設定していた場合）。
 - [Different Version (異なるバージョン)] タブには、最後に変更をチェックインした後、ワークスペースとアーカイブの両方で変更されたファイルが一覧されます。
 - [Removed (削除済み)] タブには、アーカイブから削除されたけれども、VisualAge for Java プロジェクトにまだ残っているファイルが一覧されます。
- 4 【OK】をクリックします。[Import Files (ファイルのインポート)] ダイアログボックスが表示されます。
- 5 以下のいずれかを実行します。

詳細設定の使用

- デフォルトの取得オプションを変更するには、【Advanced (詳細)】をクリックします。[ChangeMan Advanced Get (取得の詳細設定)] ダイアログボックスが表示されます（詳細設定については、54 ページの『ファイルの取得』を参照してください）。

デフォルト値の使用

- デフォルトのオプションをそのまま使用する場合は、【OK】をクリックします。

- 6 [Progress Information (進行状況の情報)] ダイアログボックスが表示されます。【OK】をクリックします。

ファイルのチェックアウト

ファイルをチェックアウトすると、リビジョンはロックされ、書き込み可能な作業ファイルが作業ファイルの場所に作成されます。

ソース管理からのオブジェクトのチェックアウトの手順は、チェックアウトするオブジェクトのタイプによって異なります。

ソース管理からファイルをチェックアウトするには

1 以下のいずれかを実行します。

クラスと
インターフェイス

■ **クラスとインターフェイスをチェックアウトするには**

- a チェックアウトするクラスとインターフェイスを選択するか、これらを含んでいるプロジェクトまたはパッケージを選択して、右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- b [Tools (ツール)] - [External Version Control (外部バージョン管理)] - [Check Out (チェックアウト)] を選択します。

リソース

■ **リソースファイルをチェックアウトするには**

- a [Resources (リソース)] タブを選択します。
- b チェックアウトするリソースを選択して右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- c [Tools (ツール)] - [External Version Control (外部バージョン管理)] - [Check Out (チェックアウト)] を選択します。

2 [Check Out (チェックアウト)] ダイアログボックスが表示されます。

3 以下のいずれかを実行します。

詳細設定の使用

- デフォルトのチェックアウトオプションを変更するには、【Advanced (詳細)] をクリックします。[ChangeMan Advanced Check Out (ChangeMan チェックアウトの詳細設定)] ダイアログボックスが表示されます (詳細設定については、57 ページの『ファイルのチェックアウト』を参照してください)。

デフォルト値の使用

- デフォルトのチェックアウトオプションを使用するには、【OK] をクリックします。

4 最後にチェックインした後に選択したファイルのいずれかを変更していた場合は、[Check Out - Modified Files (チェックアウト-変更したファイル)] ダイアログボックスが表示されます。

- a 変更したファイルをソース管理からチェックアウトしたコピーで置き換えるには、〈Keep the modified items (変更したアイテムを維持)〉リストボックスから該当ファイルを選択します。
- b 【Add (追加)] をクリックしてファイルを 〈Refresh from the SCM server (SCM サーバから更新)〉リストボックスに移動します。
- c 【OK] をクリックします。

5 [Summary (概要)] ダイアログボックスが表示されます。【OK] をクリックします。

パッドロックアイコン (🔒) が各オブジェクトの右側に表示され、オブジェクトがソース管理からチェックアウトされたことが示されます。

チェックアウトの取り消し

チェックアウトを取り消すと、アーカイブのロックが解除されて読み取り専用の作業ファイルが作業ファイルの場所に残されます。ファイルに加えられた変更は、アーカイブにはチェックインされません。

チェックアウトの取り消しの手順は、対象オブジェクトのタイプによって異なります。

チェックアウトを取り消すには、次の操作を行います。

1 以下のいずれかを実行します。

クラスと
インターフェイス

- クラスとインターフェイスの場合

- a ロックを解除するクラスとインターフェイスを選択するか、これらを含んでいるプロジェクトまたはパッケージを選択して、右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- b [Tools (ツール)] - [External Version Control (外部バージョン管理)] - [Undo Check Out (チェックアウトの取り消し)] を選択します。

リソース

- リソースファイルの場合

- a [Resources (リソース)] タブを選択します。
- b ロックを解除するリソースを選択して右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- c [Tools (ツール)] - [External Version Control (外部バージョン管理)] - [Undo Check Out (チェックアウトの取り消し)] を選択します。

2 [Undo Checkout (チェックアウトの取り消し)] ダイアログボックスが表示されます。

3 以下のいずれかを実行します。

詳細設定の使用

- デフォルトのチェックアウト取り消しオプションを変更するには、【Advanced (詳細)】をクリックします。[ChangeMan Advanced Undo Check Out (ChangeMan チェックアウト取り消しの詳細設定)] ダイアログボックスが表示されます (詳細設定については、[59 ページの『チェックアウトの取り消しについて』](#)を参照してください)。

デフォルト値の使用

- デフォルトのチェックアウト取り消しオプションをそのまま使用する場合は、【OK】をクリックします。

4 [Summary (概要)] ダイアログボックスが表示されます。【OK】をクリックします。

パッドロックアイコンが消えて、緑色の矢印アイコン (📌) が表示され、オブジェクトがソース管理下においてチェックインされたことが示されます。

ファイルのチェックイン

作業ファイルをチェックインすると、デフォルトでは、以下の処理が行われます。

- 新規リビジョンが作成され、それまでの最新リビジョンの次の番号が割り当てられます。
- 読み取り専用ファイルが作業ファイルの場所に残されます。
- アーカイブのロックが解除されます。

ソース管理からのオブジェクトのチェックインの手順は、チェックインするオブジェクトのタイプによって異なります。

ファイルをチェックインするには

- 以下のいずれかを実行します。

クラスと
インターフェイス

- **クラスとインターフェイスをチェックインするには**

- チェックインするクラスとインターフェイスを選択するか、これらを含んでいるプロジェクトまたはパッケージを選択して、右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- [Tools (ツール)] - [External Version Control (外部バージョン管理)] - [Check In (チェックイン)] を選択します。

リソース

- **リソースファイルをチェックインするには**

- [Resources (リソース)] タブを選択します。
- チェックインするリソースを選択して右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- [Tools (ツール)] - [External Version Control (外部バージョン管理)] - [Check In (チェックイン)] を選択します。

- [Check In (チェックイン)] ダイアログボックスが表示されます。〈Enter a comment (コメントの入力)〉フィールドに、ファイルの説明を入力します。この説明が一覧されたすべてのファイルに適用されます。

〈Set as default (デフォルトに設定)〉チェックボックスを選択すると、今回入力したコメントがデフォルトで、今後のチェックイン操作時に表示されます。



注 ファイルごとに固有の説明を付ける場合は、〈Enter a comment (コメントの入力)〉フィールドを空白のままにします。[Check In (チェックイン)] ダイアログボックスへの入力 completed すると、ファイルごとに順次、[Change Description (変更の説明)] ダイアログボックスが表示されます。

- 以下のいずれかを実行します。

詳細設定の使用

- デフォルトのチェックインオプションを変更するには、【Advanced (詳細)] をクリックします。[ChangeMan Advanced Check In (ChangeMan チェックインの詳細設定)] ダイアログボックスが表示されます (詳細設定については、60 ページの『ファイルのチェックイン』を参照してください)。

デフォルト値の使用

- デフォルトのチェックインオプションをそのまま使用する場合は、【OK] をクリックします。

- [Summary (概要)] ダイアログボックスが表示されます。【OK] をクリックします。

パッドロックアイコンが消えて、緑色の矢印アイコン (👉) が表示され、オブジェクトがソース管理下においてチェックインされたことが示されます。

新規ファイルのソース管理への追加

新規オブジェクトにソース管理操作を実行するには、事前にオブジェクトをソース管理に追加しておく必要があります。ソース管理にまだ追加されていない新規オブジェクトには、緑色の矢印と黄色の + 記号 (👉+) が付いています。

ソース管理にオブジェクトを追加する手順は、追加するオブジェクトのタイプによって異なります。

新規ファイルをソース管理に追加するには

1 以下のいずれかを実行します。

クラスと
インターフェイス

■ クラスとインターフェイスを追加するには

- a 追加するクラスとインターフェイスを選択するか、これらを含んでいるプロジェクトまたはパッケージを選択して、右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- b [Tools (ツール)] - [External Version Control (外部バージョン管理)] - [Add (追加)] を選択します。

リソース

■ リソースファイルを追加するには

- a [Resources (リソース)] タブを選択します。
- b 追加するリソースを選択して右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- c [Tools (ツール)] - [External Version Control (外部バージョン管理)] - [Add (追加)] を選択します。

2 [Add (追加)] ダイアログボックスが開きます。〈Enter a comment (コメントの入力)〉フィールドに、ファイルの説明を入力します。この説明が一覧されたすべてのファイルに適用されます。

〈Set as default (デフォルトに設定)〉チェックボックスを選択すると、今回入力したコメントがデフォルトで、以後の追加操作時に表示されます。



注 ファイルごとに固有の説明を付ける場合は、〈Enter a comment (コメントの入力)〉フィールドを空白のままにします。[Add (追加)] ダイアログボックスへの入力が完了すると、ファイルごとに順次、[Change Description (変更の説明)] ダイアログボックスが表示されます。

3 以下のいずれかを実行します。

詳細設定の使用

- バージョンラベルまたはプロモーショングループを初期のリビジョンに割り当てるには、【Advanced (詳細)】をクリックします。[ChangeMan Advanced Add (追加の詳細設定)] ダイアログボックスが開きます (詳細設定については、[37 ページの『追加の詳細設定』](#)を参照してください)。

デフォルト値の使用

- デフォルトの追加オプションをそのまま使用する場合は、【OK】をクリックします。

4 [Summary (概要)] ダイアログボックスが表示されます。【OK】をクリックします。

選択したファイルがソース管理に追加され、プロジェクトのアーカイブディレクトリに、アーカイブが作成されます。黄色の + 記号が消えて、緑色の矢印アイコン (➤) が残り、オブジェクトがソース管理下にあることが示されます。

これで、ファイルにソース管理操作を実行できるようになります。

ソース管理からのファイルの削除

オブジェクトをソース管理から削除すると、デフォルトでは次のようになります。

- Version Manager アーカイブは残りますが、VisualAge for Java プロジェクトからは切り離されます。
- オブジェクトは VisualAge for Java プロジェクトに残ります。



注 ソース管理からオブジェクトを削除すると自動的にプロジェクトからもオブジェクトが削除されるように、VisualAge for Java を設定できます。VisualAge for Java のマニュアルを参照してください。

ソース管理からオブジェクトを削除する手順は、削除するオブジェクトのタイプおよび使用している VisualAge for Java のバージョンによって異なります。

ソース管理からファイルを削除するには

- 1 以下のいずれかを実行します。

クラスと
インターフェイス

- **クラスとインターフェイスを削除するには**
 - a 削除するクラスとインターフェイスを選択するか、これらを含んでいるプロジェクトまたはパッケージを選択して、右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
 - b [Tools (ツール)] - [External Version Control (外部バージョン管理)] - [Delete (削除)] を選択します。

リソース

- **リソースファイルを削除するには**
 - a [Resources (リソース)] タブを選択します。
 - b 削除するリソースを選択して右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
 - c [Tools (ツール)] - [External Version Control (外部バージョン管理)] - [Delete (削除)] を選択します。

- 2 [Delete (削除)] ダイアログボックスが表示され、削除するファイルの一覧が示されます。【OK】をクリックします。

- 3 [Summary (概要)] ダイアログボックスが表示されます。【OK】をクリックします。ソース管理からファイルが削除されます。黄色の + 記号アイコン () が各オブジェクトの右側に表示され、ソース管理下にはなくなったことが示されます。



注 VisualAge for Java では、削除操作の後にこのアイコンが変化しないことがときどきあります。結果が [Summary (概要)] ダイアログボックスに表示されるので、操作が正常に行われたことを確認してください。

ソース管理に
ファイルを戻す

ファイルをソース管理に戻すには、36 ページの『ソース管理から削除したファイルの追加』を参照してから、224 ページの『新規ファイルのソース管理への追加』の手順を実行します。

第 13 章

Visual Basic

はじめに	228
サポートされている機能の使用	228
Visual Basic のファイルについて	229
ソース管理プロジェクトの設定	230
ソース管理の使用法	235

はじめに

目的 この章の目的は、以下の 4 つです。

- Microsoft® Visual Basic™ 6.0 から使用可能な Version Manager の各機能の紹介と、それらの機能の使用法の説明
- このマニュアルのパート 1 で解説された機能のうち、この開発環境（IDE）には適用されないものの解説
- ソース管理プロジェクトの設定や、ソース管理へのファイルの追加を行う管理者の手引き
- ソース管理下にあるファイルに Visual Basic からアクセスする開発チームの手引き

詳細情報 以下の情報については、[19 ページのパート 1、『Version Manager IDE クライアント』](#)を参照してください。

- ソース管理の概念
- ソース管理のデフォルト動作
- ソース管理の詳細設定

サポートされている機能の使用

サポートされている機能 Visual Basic では、Version Manager IDE クライアントで使用可能なソース管理の全機能がサポートされます。次の表を参照してください。

目的	操作	参照セクション
リビジョンの取得	[Tools (ツール)] – [Serena] – [Get Latest Version (最新のファイルを取得)]	235 ページの『ファイルの取得』
リビジョンのチェックアウト	[Tools (ツール)] – [Serena] – [Check Out (チェックアウト)]	235 ページの『ファイルのチェックアウト』
リビジョンのチェックアウトの取り消し	[Tools (ツール)] – [Serena] – [Undo Check Out (チェックアウトの取り消し)]	236 ページの『チェックアウトの取り消し』
リビジョンのチェックイン	[Tools (ツール)] – [Serena] – [Check Out (チェックアウト)]	236 ページの『ファイルのチェックイン』
バージョンラベルの管理	[Tools (ツール)] – [Serena] – [Run Serena (Serena の実行)]	62 ページの『バージョンラベルについて』
リビジョンまたはアーカイブのプロパティの表示	[Tools (ツール)] – [Serena] – [Serena Properties (Serena のプロパティ)]	82 ページの『プロパティ』
ソース管理動作の監視	[Tools (ツール)] – [Serena] – [Run Serena (Serena の実行)]	83 ページの『Pulse によるソース管理動作の監視』
履歴レポートの生成	[Tools (ツール)] – [Serena] – [Show History (履歴の表示)]	88 ページの『履歴レポートについて』
相違点レポートの生成	[Tools (ツール)] – [Serena] – [Show Differences (相違点の表示)]	91 ページの『相違点レポートについて』

目的	操作	参照セクション
[Version Manager Options (Version Manager オプション)] ダイアログボックスの使用	[Tools (ツール)] - [Serena] - [Run Serena (Serena の実行)]	33 ページの『[Version Manager Options (Version Manager オプション)] ダイアログボックスのデフォルト値の設定』
ソース管理へのファイルの追加	[Tools (ツール)] - [Serena] - [Add Project to Serena (Serena ヘプロジェクトを追加)]	230 ページの『ファイルのソース管理への追加』
ソース管理からのファイルの削除	(該当ドキュメントを参照してください)	234 ページの『ソース管理からのファイルの削除』
複数のプロジェクトによるアーカイブの共有	[Tools (ツール)] - [Serena] - [Share Files (ファイルの共有)]	38 ページの『複数のプロジェクトによるファイルの共有』

Visual Basic のファイルについて

バイナリファイルとテキストファイル

Visual Basic の特定のテキストファイルにはバイナリファイルが対になっていますが、Visual Basic インターフェイスにはこのバイナリファイルは表示されません。バイナリファイルは、Visual Basic インターフェイスでの作業時には非表示のままですが、表示されるファイルに適用するソース管理の動作と同じ動作が適用されます。たとえば、「my_project.frm」という名前のテキストファイルをチェックアウトすると、バイナリファイルの「my_project.frx」もチェックアウトされます。

同期をとらないリビジョン番号

ただし、ファイルのリビジョン番号が同期しないこともあります。これは、テキストファイルに影響を及ぼすプログラミング変更の中には、バイナリファイルに影響を及ぼさないものもあるからです。デフォルトでは、上記のような変更を行った後でプロジェクトをチェックインすると、バイナリファイルを変更しなかった場合でも、両方のファイルがチェックインされます。ただし、デフォルトのチェックイン動作を変更した場合は、テキストファイルのみが新規リビジョンにチェックインされるので、両方のファイルの同期がずれません。



重要！

- デフォルトでは、ファイルが変更されていなかったり、最新リビジョンより古い場合でも、IDE クライアントによってファイルがチェックインされます。このデフォルトは変更しないでください。デフォルトが変更されている場合、元に戻す方法は、34 ページの『デフォルトの設定』を参照してください。
- Version Manager デスクトップクライアントを使用して Visual Basic ファイルにソース管理アクションを適用する場合は、テキストファイルとバイナリファイルの両方を選択するようにしてください。そうしないとファイルが同期されません。未変更のファイルもチェックインの対象にする必要があります。

TrackerLink ユーザ

TrackerLink を使用して、Visual Basic ファイルの対を Issue と関連付ける場合は、Tracker からの説明が、テキストファイルでしか受け取られない可能性があります。この場合、バイナリファイルは、デフォルトの変更の説明を受け取ります。これは、テキストファイルに影響を及ぼすプログラミング変更の中には、バイナリファイルに影響を及ぼさないものもあるからです。

Visual Basic によって、対にされるファイルは次のとおりです。

テキストファイル	対となるバイナリファイル
*.ctl	*.ctx
*.dob	*.dox
*.dsr	*.dsx
*.frm	*.frx
*.pag	*.pgx

ソース管理プロジェクトの設定

内容 このセクションでは、Visual Basic で使用するための Version Manager IDE クライアントの設定方法を説明しています。

前提条件 設定を行う前に、以下の作業が必要です。

- ソース管理プロバイダとして Version Manager を選択します（複数の Serena IDE クライアントがインストールされている場合）。29 ページの『SCC プロバイダの選択』を参照してください。
- Version Manager デスクトップクライアントを使用して、Visual Basic プロジェクトに関連付けられたソース管理プロジェクトを含むプロジェクトデータベースを作成します（このようなプロジェクトデータベースがまだ作成されていない場合）。

詳細情報 第 2 章、27 ページの『SCC IDE によるソース管理のセットアップ』を参照してください。

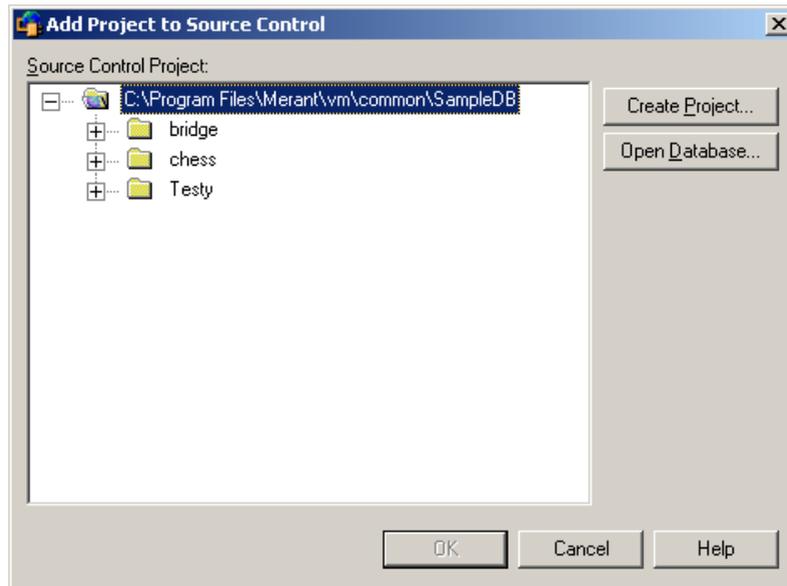
ファイルのソース管理への追加

Visual Basic プロジェクトを作成して保存したら、既存の Version Manager のプロジェクトデータベースに追加できます。

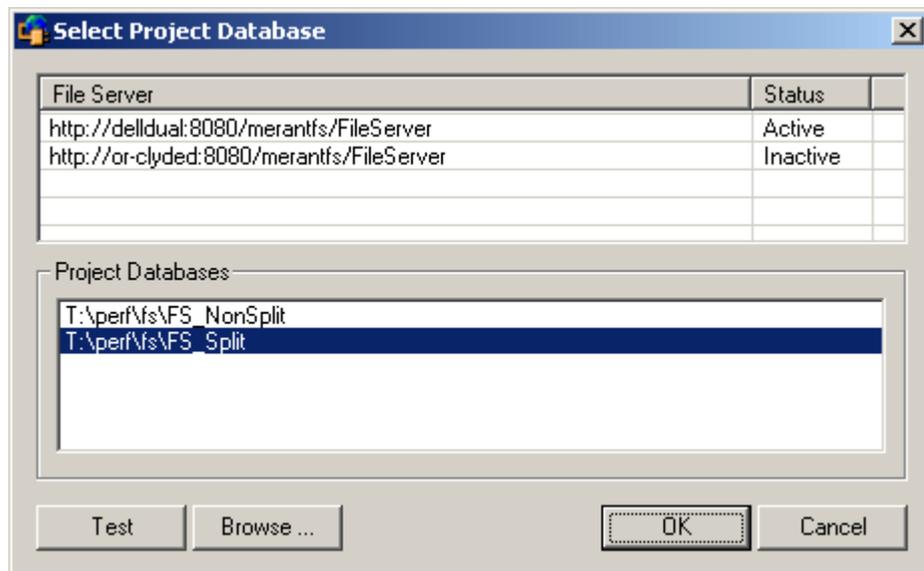
プロジェクトをソース管理に追加するには、次の操作を行います。

- 1 Visual Basic プロジェクトが保存されていることを確認します。既存のソース管理プロジェクトに追加する場合は、Visual Basic プロジェクトファイル（.vbp）をチェックアウトします。

- 2 [Tools (ツール)] – [Serena] – [Add Project to Serena (Serena へプロジェクトを追加)] を選択します。[Add Project to Source Control (ソース管理にプロジェクトを追加)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 <Source Control Project (ソース管理プロジェクト)> の下にデフォルトのプロジェクトデータベースが表示されます。別のプロジェクトデータベースにファイルを追加する場合は、【Open Database (データベースを開く)】 ボタンをクリックします。[Select Project Database (プロジェクトデータベースの選択)] ダイアログボックスが表示されます。



以下のいずれかを実行します。

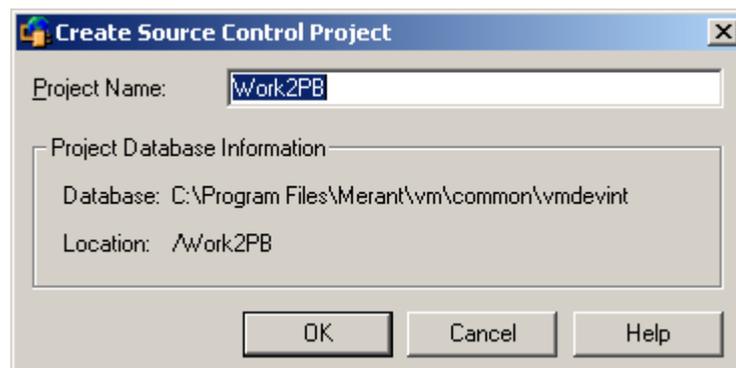
- 一覧表示されている Version Manager File Server 上にあるプロジェクトデータベースを開くには、〈Project Databases (プロジェクトデータベース)〉リストボックスからプロジェクトデータベースを選択し、【OK】をクリックします。

Version Manager File Server をリストに追加するには、〈File Server (ファイルサーバ)〉リストボックスの空のセルをダブルクリックしてファイルサーバのホストシステム名を入力します。ENTER キーを押すと、入力がオートコンプリート (http:// システム名:8080/serenafs/FileServer) し、テストされます。https サーバまたは非標準ポートを指定するには、オートコンプリートエントリをダブルクリックし、編集して、ENTER キーを押します。

- ローカルファイルシステムまたはネットワーク上のプロジェクトデータベースを開くには、【Browse (参照)】 ボタンをクリックして表示されるダイアログボックスから該当の場所を探します。

4 以下のいずれかを実行します。

- 既存のソース管理プロジェクトに追加するには、〈Source Control Project (ソース管理プロジェクト)〉 からプロジェクトを選択し、【OK】をクリックします。手順 5 に進みます。
- **新規 Version Manager プロジェクトを作成するには、以下の手順に従います。**
 - a 〈Select Source Control Project (ソース管理プロジェクトの選択)〉の下で、新規プロジェクトを作成するプロジェクトデータベースの場所を選択します。
 - b 【Create Project (プロジェクトの作成)】 をクリックします。〔Create Source Control Project (ソース管理プロジェクトの作成)〕 ダイアログボックスが表示されます。



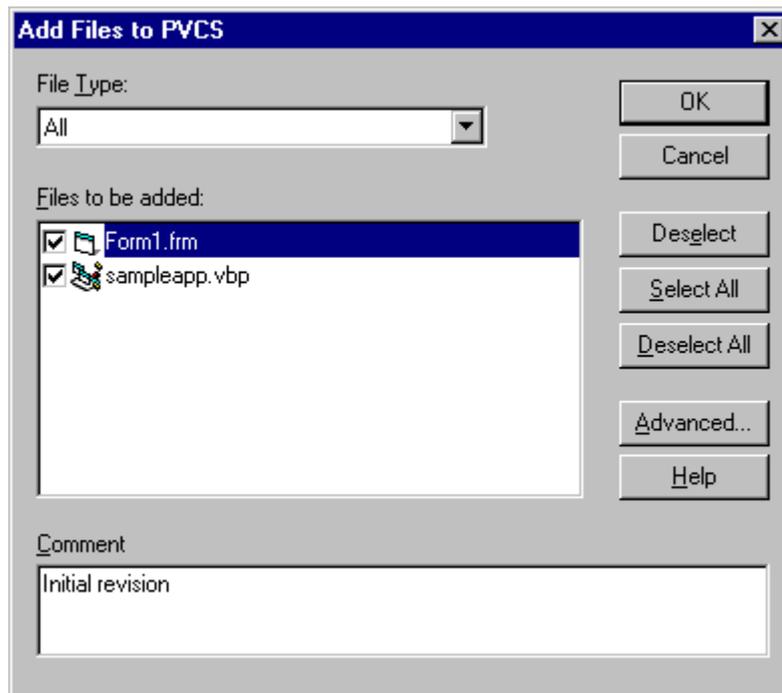
〈Project Database Information (プロジェクトデータベース情報)〉グループには、現在のプロジェクトデータベースの名前と場所、およびこのデータベース内の新規プロジェクトの場所が表示されます。

- c デフォルトでは、新しい Version Manager プロジェクトでは IDE プロジェクトと同じ名前を使用します。必要な場合、〈Project Name (プロジェクト名)〉フィールドに別の名前を入力します。

名前の前後にタブや空白を付けることはできません。名前には、アスタリスク (*)、コロン (:)、縦線 (|)、スラッシュ (/)、円記号 (¥)、疑問符 (?)、山かっこ (< >) 以外のすべての文字を使用できます。

- d 【OK】 をクリックします。〔Add Project to Source Control (ソース管理にプロジェクトを追加)〕 ダイアログボックスが再度開き、〈Source Control Project (ソース管理プロジェクト)〉の下に新規プロジェクトが表示されます。

- 5 【OK】をクリックします。〔Add Files to Serena (Serena へのファイルの追加)〕ダイアログボックスが表示され、追加されるファイル (.vbp ファイルなどのプロジェクトファイル) が選択された状態となっています。



重要! ルートプロジェクト作業ディレクトリおよびそのサブディレクトリ以外に配置されたファイルが Visual Basic プロジェクトに含まれる場合、これらのファイルをルートプロジェクトディレクトリにコピーするかどうかを確認するメッセージが表示されます。これらのファイルをルートプロジェクトディレクトリにコピーしなければ、ソース管理には追加されません。

プロジェクトディレクトリに全ファイルを配置

- 6 選択したファイルの横のチェックマークを調べて選択を確認します。このリストでファイルを選択または選択解除して、選択対象を変更できます。
- 7 〈Comments (コメント)〉フィールドに、ファイルの説明を入力します。この説明は、選択したすべてのファイルに適用されます。



ヒント ファイルごとに固有の説明を付ける場合は、〈Comment (コメント)〉フィールドを空白のままにします。〔Add Files to Serena (Serena へのファイルの追加)〕ダイアログボックスへの入力が完了すると、ファイルごとに順次、〔Change Description (変更の説明)〕ダイアログボックスが表示されます。

Visual Basic では、バイナリファイルは通常非表示になりますが、プロジェクトのテキストファイルとバイナリファイルの両方に説明の入力を求めるメッセージが表示されます。

- 8 以下のいずれかを実行します。

詳細設定の使用

- バージョンラベルまたはプロモーショングループを初期のリビジョンに割り当てるには、【Advanced (詳細)】をクリックします。〔ChangeMan Advanced Add (追加の詳細設定)〕ダイアログボックスが開きます (詳細設定については、37 ページの『追加の詳細設定』を参照してください)。

- デフォルト値の使用
- デフォルトの追加オプションをそのまま使用する場合は、【OK】をクリックします。選択したファイルがソース管理に追加され、指定されたアーカイブディレクトリに、アーカイブが作成されます。

追加される各ファイルについて、プロジェクトエクスプローラのファイルアイコンの左側にページ記号 (📄) が表示され、ファイルがソース管理下にあることが示されます。鍵のマークはファイルが読み取り専用であることを示します。ファイルをチェックアウトすると、この鍵が赤のチェックマークに変わります。

- ファイルの共有
- アーカイブが複数の Version Manager プロジェクトにより共有される場合の詳細については、38 ページの『複数のプロジェクトによるファイルの共有』を参照してください。

ソース管理プロジェクトに追加するワークステーションを増やす

プロジェクトが作成され、ソース管理に追加されると、各開発者が、ソース管理から開くことによってプロジェクトにアクセスできるようになります。プロジェクトをソース管理から開くと、開発者のシステムにプロジェクトのコピーが作成されます。開発者の手元にプロジェクトのローカルコピーが作成された後は、このコピーに対して通常のソース管理操作を実行できます。

ワークステーションを追加するには、次の操作を行います。

- 1 [Tools (ツール)] - [Serena] - [Create Project from Serena (Serena からプロジェクトを作成)] を選択します。[Get Project from Source Control (ソース管理からプロジェクトを取得)] ダイアログボックスが表示されます。
デフォルトのデータベースがソース管理プロジェクトの下に表示されます。取得するプロジェクトが含まれているデータベースが表示されていない場合は、【Open Database (データベースを開く)】をクリックして、正しいデータベースを探します。
- 2 プロジェクトデータベースから、取得するプロジェクトを選択します。
- 3 <Workfile Location (作業ファイルの場所)> フィールドにすべてのプロジェクトファイルに対する場所を入力するか、または【Browse (参照)】ボタンをクリックして場所を選択し、参照してください。
- 4 【OK】をクリックします。プロジェクトファイルが指定した作業ファイルの場所にコピーされて、プロジェクトが Visual Basic に表示されます。



注 ソース管理下において、選択したプロジェクトの下にある、Visual Basic 以外のファイルも作業ファイルの場所にコピーされます。ただし、これらのファイルは Visual Basic インターフェイスには表示されません。

ソース管理からのファイルの削除

- IDE の場合
- デフォルトでは、Visual Basic からファイルを削除すると、これらのファイルをソース管理から削除するかどうかの確認を求めるメッセージが表示されます。ソース管理からファイルを削除しても、作業ファイルや Version Manager アーカイブは削除されず、IDE ファイルとアーカイブ間の関連付けが削除されるだけです。この後、いつでもファイルをソース管理に戻すことができます。
- オプションの設定
- Visual Basic プロジェクトからファイルを削除する際のソース管理アクション (確認、削除、何もしない) は、変更できます。Visual Basic のデフォルトの設定について詳しくは、Visual Basic のドキュメントを参照してください。
- Version Manager デスクトップクライアントの場合
- Visual Basic プロジェクトからは削除せずに、ソース管理からファイルを削除するには、Version Manager デスクトップクライアントを使用します。[Delete (削除)] コマンドの詳細については、『Version Manager ユーザガイド』を参照してください。

ソース管理に
ファイルを戻す

ソース管理にファイルを戻す方法の詳細は、[36 ページの『ソース管理から削除したファイルの追加』](#)を参照してください。

ソース管理の使用法

内容 このセクションでは、ソース管理下のファイルの表示および編集に関する操作を説明します。

詳細情報 [第 4 章、53 ページの『ソース管理の使用法』](#)を参照してください。

ヒント

操作をすばやく行うには、以下の方法があります。

- IDE および Version Manager のデフォルト値を、自分が通常行う操作に合わせて設定します。
- 選択したファイルを右クリックすると、デフォルトの設定を使用してソース管理操作をすばやく実行できるポップアップメニューが表示されます。

ファイルの取得

ファイルを取得すると、選択されたリビジョンが、作業ファイルの場所に読み取り専用ファイルとしてコピーされます。



注 プロジェクト内のすべてのファイルを取得するには、Visual Basic でプロジェクトを開いたときに、すべてのファイルを取得する確認メッセージを受け入れるか、プロジェクトエクスプローラからプロジェクトのすべてのファイルを選択して、以下の取得操作を行います。また、[234 ページの『ソース管理プロジェクトに追加するワークステーションを増やす』](#)を参照してください。

1 つまたは複数のリビジョンを取得するには、次の操作を行います。

- 1 プロジェクトエクスプローラで、取得するファイルを選択します。
- 2 [Tools (ツール)] - [Serena] - [Get Latest Version (最新のファイルを取得)] を選択します。[Get Latest Version (最新のファイルを取得)] ダイアログボックスが表示され、選択したファイルの一覧が示されます。チェックマークが選択したファイルの横に表示されます。このリストでファイルを選択または選択解除して、選択するファイルを変更できます。
- 3 以下のいずれかを実行します。

詳細設定の使用

- デフォルトの取得オプションを変更するには、【Advanced (詳細)】をクリックします。[ChangeMan Advanced Get (取得の詳細設定)] ダイアログボックスが表示されます (詳細設定については、[54 ページの『ファイルの取得』](#)を参照してください)。

デフォルト値の使用

- デフォルトの取得オプションを使用する場合は、【OK】をクリックします。選択したリビジョンがコピーされ、読み取り専用の作業ファイルが作業ファイル場所に配置されます。

ファイルのチェックアウト

ファイルをチェックアウトすると、リビジョンはロックされ、書き込み可能な作業ファイルが作業ファイルの場所に作成されます。

ファイルをチェックアウトするには、次の操作を行います。

- 1 プロジェクトエクスプローラで、チェックアウトするファイルを選択します。
- 2 [Tools (ツール)] - [Serena] - [Check Out (チェックアウト)] を選択します。[Check Out File(s) (ファイルのチェックアウト)] ダイアログボックスが表示され、選択したファイルの一覧が表示されます。このリストでファイルを選択または選択解除して、選択するファイルを変更できます。
- 3 以下のいずれかを実行します。

詳細設定の使用

- デフォルトのチェックアウトオプションを変更するには、【Advanced (詳細)】をクリックします。[ChangeMan Advanced Check Out (ChangeMan チェックアウトの詳細設定)] ダイアログボックスが表示されます (詳細設定については、57 ページの『ファイルのチェックアウト』を参照してください)。

デフォルト値の使用

- デフォルトのチェックアウトオプションをそのまま使用するには、【OK】をクリックします。プロジェクトエクスプローラのファイルアイコンの隣に、赤いチェックマーク () が表示され、チェックアウトされたことが示されます。

チェックアウトの取り消し

チェックアウトを取り消すと、アーカイブのロックが解除されて読み取り専用の作業ファイルが作業ファイルの場所に残されます。ファイルに加えられた変更は、アーカイブにはチェックインされません。

チェックアウトを取り消すには、次の操作を行います。

- 1 プロジェクトエクスプローラで、ロックを解除するファイルを選択します。
- 2 [Tools (ツール)] - [Version Control (バージョン管理)] - [Undo Check Out (チェックアウトの取り消し)] を選択します。[このリストでファイルを選択または選択解除して、選択するファイルを変更できます]。
- 3 以下のいずれかを実行します。

詳細設定の使用

- デフォルトのチェックアウト取り消しオプションを変更するには、【Advanced (詳細)】をクリックします。[ChangeMan Advanced Undo Check Out (ChangeMan チェックアウト取り消しの詳細設定)] ダイアログボックスが表示されます (詳細設定については、59 ページの『チェックアウトの取り消しについて』を参照してください)。

デフォルト値の使用

- デフォルトのチェックアウト取り消しオプションをそのまま使用する場合は、【OK】をクリックします。アーカイブのロックが解除されて読み取り専用の作業ファイルが作業ファイルの場所に残されます。

ファイルのチェックイン

作業ファイルをチェックインすると、デフォルトでは、以下の処理が行われます。

- 新規リビジョンが作成され、それまでの最新リビジョンの次の番号が割り当てられます。
- 読み取り専用ファイルが作業ファイルの場所に残されます。
- アーカイブのロックが解除されます。

ファイルがバイナリファイルと対になっている場合は、バイナリファイルもチェックインされます。Visual Basic ファイルの対の詳細については、229 ページの『Visual Basic のファイルについて』を参照してください。

ファイルをチェックインするには、次の操作を行います。

- 1 プロジェクトエクスプローラで、チェックインするファイルを選択します。
- 2 [Tools (ツール)] - [Serena] - [Check In (チェックイン)] を選択します。[Check In Files to Serena (ファイルのチェックイン - Serena)] ダイアログボックスが表示され、使用可能なファイルの一覧が示されます。このリストでファイルを選択または選択解除して、選択するファイルを変更できます。
- 3 チェックインした後にファイルのロックを保持するには、〈Keep Checked Out (チェックアウト状態を保持)〉チェックボックスを選択します。
- 4 1つのアーカイブ内の2つのリビジョン、2つのアーカイブ、2つの作業ファイル、1つのリビジョンと1つの作業ファイルそれぞれでリビジョンを比較するには、【Differences (相違点)】をクリックします。[Show Differences (相違点の表示)] ダイアログボックスが表示されます。詳細は、91 ページの『相違点レポートについて』を参照してください。
- 5 変更内容の説明を〈Comment (コメント)〉フィールドに入力します。この説明は、選択したすべてのファイルに適用されます。(この説明は [Version Manager Properties (Version Manager プロパティ)] ダイアログボックスに表示されます。詳しくは、82 ページの『プロパティ』を参照してください)。



ヒント ファイルごとに固有の説明を付ける場合は、〈Comment (コメント)〉フィールドを空白のままにします。[Check In Files to Serena (ファイルのチェックイン - Serena)] ダイアログボックスへの入力完了すると、ファイルごとに順次、[Change Description (変更の説明)] ダイアログボックスが表示されます。

Visual Basic では、バイナリファイルは通常非表示になりますが、プロジェクトのテキストファイルとバイナリファイルの両方に説明の入力を求めるメッセージが表示されます。

- 6 以下のいずれかを実行します。

詳細設定の使用

- デフォルトのチェックインオプションを変更するには、【Advanced (詳細)】をクリックします。[ChangeMan Advanced Check In (ChangeMan チェックインの詳細設定)] ダイアログボックスが表示されます (詳細設定については、60 ページの『ファイルのチェックイン』を参照してください)。

デフォルト値の使用

- デフォルトのチェックインオプションを使用する場合は、以下を実行します。
 - a 【OK】をクリックします。[Check In Files to Serena (Serena へのファイルのチェックイン)] ダイアログボックスが表示されます。
 - b 【OK】をクリックします。プロジェクトエクスプローラのファイルアイコンから赤いチェックマーク (☑) が削除され、ファイルがチェックインされたことが示されます。

新しいファイルの追加

最初に Visual Basic プロジェクト (.vbp) ファイルをチェックアウトしてから、新規ファイルを追加する必要があります。そうしないと、.vbp ファイルをチェックアウトするよう求めるメッセージが表示されます。

デフォルトでは、Visual Basic プロジェクトに新しいファイルを追加するとき、ソース管理にファイルを追加するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。【Yes (はい)】をクリックすると、[Add to Source Control (ソース管理に追加)] ダイアログボックスが表示されるので、230 ページの『ファイルのソース管理への追加』の手順 6 以降に従って操作してください。

第 14 章

Visual C++

はじめに	240
サポートされている機能の使用	240
ソース管理プロジェクトの設定	241
ソース管理の使用法	248

はじめに

目的 この章の目的は、以下の 4 つです。

- Microsoft® Visual C++™ 6.0 から使用可能な Version Manager の各機能の紹介と、それらの機能の使用法の説明
- このマニュアルのパート 1 で解説された機能のうち、この開発環境 (IDE) には適用されないものの解説
- ソース管理プロジェクトの設定や、ソース管理へのファイルの追加を行う管理者の手引き
- ソース管理下にあるファイルに Visual C++ からアクセスする開発チームの手引き

詳細情報 以下の情報については、[19 ページのパート 1、『Version Manager IDE クライアント』](#)を参照してください。

- ソース管理の概念
- ソース管理のデフォルト動作
- ソース管理の詳細設定

サポートされている機能の使用

サポートされている機能 Visual C++ では、Version Manager IDE クライアントで使用可能なソース管理の全機能がサポートされます。次の表を参照してください。

目的	操作	参照セクション
リビジョンの取得	[Project (プロジェクト)] – [Source Control (ソース管理)] – [Get Latest Version (最新のファイルを取得)]	248 ページの『ファイルの取得』
リビジョンのチェックアウト	[Project (プロジェクト)] – [Source Control (ソース管理)] – [Check Out (チェックアウト)]	248 ページの『ファイルのチェックアウト』
リビジョンのチェックアウトの取り消し	[Project (プロジェクト)] – [Source Control (ソース管理)] – [Undo Check Out (チェックアウトの取り消し)]	249 ページの『チェックアウトの取り消し』
リビジョンのチェックイン	[Project (プロジェクト)] – [Source Control (ソース管理)] – [Check In (チェックイン)]	249 ページの『ファイルのチェックイン』
バージョンラベルの管理	[Project (プロジェクト)] – [Source Control (ソース管理)] – [Serena]	62 ページの『バージョンラベルについて』
リビジョンまたはアーカイブのプロパティの表示	[Project (プロジェクト)] – [Source Control (ソース管理)] – [Serena Properties (Serena のプロパティ)]	82 ページの『プロパティ』
ソース管理動作の監視	[Project (プロジェクト)] – [Source Control (ソース管理)] – [Serena]	83 ページの『Pulse によるソース管理動作の監視』
履歴レポートの生成	[Project (プロジェクト)] – [Source Control (ソース管理)] – [Show History (履歴の表示)]	88 ページの『履歴レポートについて』

目的	操作	参照セクション
相違点レポートの生成	[Project (プロジェクト)] – [Source Control (ソース管理)] – [Show Differences (相違点の表示)]	91 ページの『相違点レポートについて』
[Version Manager Options (Version Manager オプション)] ダイアログボックスの使用	[Project (プロジェクト)] – [Source Control (ソース管理)] – [Serena]	33 ページの『[Version Manager Options (Version Manager オプション)] ダイアログボックスのデフォルト値の設定』
ソース管理へのファイルの追加	[Project (プロジェクト)] – [Source Control (ソース管理)] – [Add to Source Control (ソース管理に追加)]	241 ページの『ファイルのソース管理への追加』
ソース管理からのファイルの削除	[Project (プロジェクト)] – [Source Control (ソース管理)] – [Remove from Source Control (ソース管理から削除)]	247 ページの『ソース管理からのファイルの削除』
複数のプロジェクトによるアーカイブの共有	[Project (プロジェクト)] – [Source Control (ソース管理)] – [Share from Serena (Serena からの共有)]	38 ページの『複数のプロジェクトによるファイルの共有』

ソース管理プロジェクトの設定

内容 このセクションでは、Visual C++ で使用するための Version Manager IDE クライアントの設定方法を説明しています。

前提条件 設定を行う前に、以下の作業が必要です。

- ソース管理プロバイダとして Version Manager を選択します（複数の Serena IDE クライアントがインストールされている場合）。29 ページの『SCC プロバイダの選択』を参照してください。
- Version Manager デスクトップクライアントを使用して、Visual C++ プロジェクトに関連付けられたソース管理プロジェクトを含むプロジェクトデータベースを作成します（このようなプロジェクトデータベースがまだ作成されていない場合）。

詳細情報 第 2 章、27 ページの『SCC IDE によるソース管理のセットアップ』を参照してください。

ファイルのソース管理への追加

Visual C++ のプロジェクトを作成して保存したら、既存の Version Manager プロジェクトデータベースに追加できます。



注 Visual C++ のワークスペースに含まれるプロジェクトはすべて、同じソース管理プロバイダを使用する必要があります。

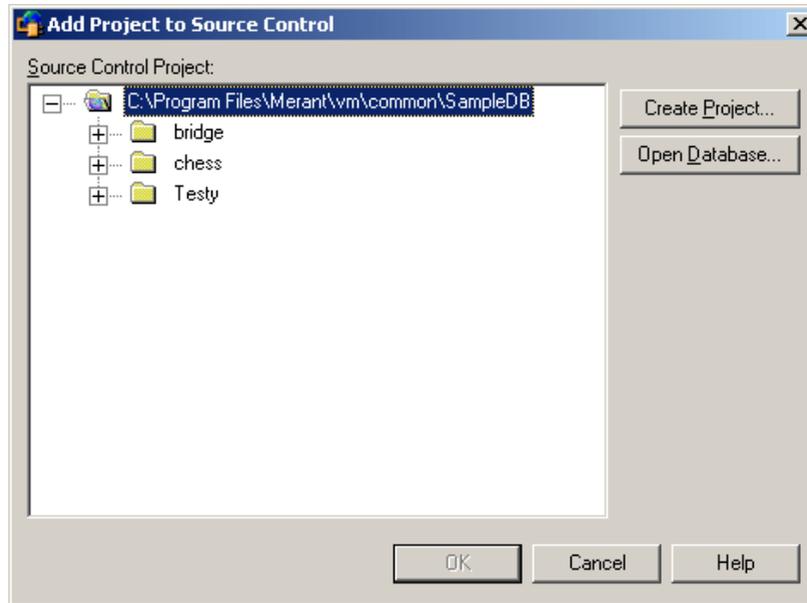
ファイルをソース管理に追加するには

- 1 Visual C++ ワークスペースとプロジェクトが保存されていることを確認します。

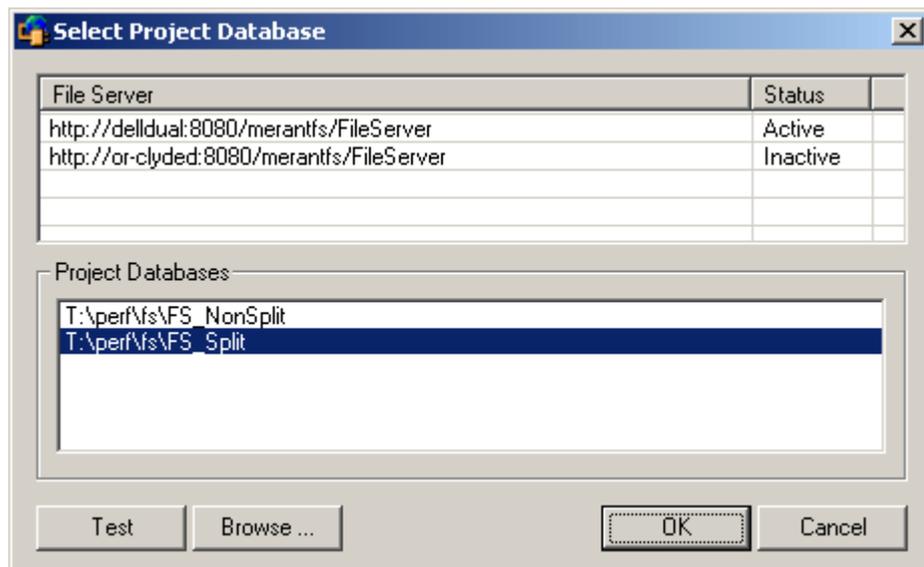


重要! Visual C++ ワークスペースファイル (.dsw) がソース管理下にある場合は、これをチェックアウトしてから、プロジェクトをソース管理に追加します。このようにしなかった場合、ワークスペースファイルとソース管理との関連付けが更新されません。

- 2 [Project (プロジェクト)] – [Source Control (ソース管理)] – [Add to Source Control (ソース管理への追加)] を選択します。[Add Project to Source Control (ソース管理にプロジェクトを追加)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 <Source Control Project (ソース管理プロジェクト)> の下にデフォルトのプロジェクトデータベースが表示されます。別のプロジェクトデータベースにファイルを追加する場合は、【Open Database (データベースを開く)】 ボタンをクリックします。[Select Project Database (プロジェクトデータベースの選択)] ダイアログボックスが表示されます。



以下のいずれかを実行します。

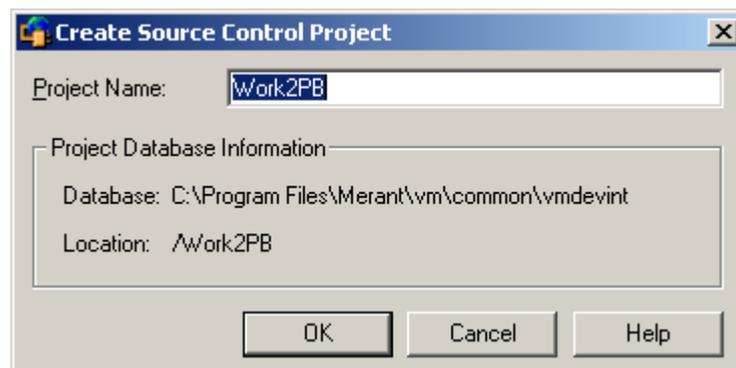
- 一覧表示されている Version Manager File Server 上にあるプロジェクトデータベースを開くには、〈Project Databases (プロジェクトデータベース)〉リストボックスからプロジェクトデータベースを選択し、【OK】をクリックします。

Version Manager File Server をリストに追加するには、〈File Server (ファイルサーバ)〉リストボックスの空のセルをダブルクリックしてファイルサーバのホストシステム名を入力します。ENTER キーを押すと、入力がオートコンプリート (http:// システム名:8080/serenafs/FileServer) し、テストされます。https サーバまたは非標準ポートを指定するには、オートコンプリートエントリをダブルクリックし、編集して、ENTER キーを押します。

- ローカルファイルシステムまたはネットワーク上のプロジェクトデータベースを開くには、【Browse (参照)】 ボタンをクリックして表示されるダイアログボックスから該当の場所を探します。

4 以下のいずれかを実行します。

- 既存のソース管理プロジェクトに追加するには、〈Source Control Project (ソース管理プロジェクト)〉からプロジェクトを選択します。手順 5 に進みます。
- **新規 Version Manager プロジェクトを作成するには、以下の手順に従います。**
 - a 〈Select Source Control Project (ソース管理プロジェクトの選択)〉の下で、新規プロジェクトを作成するプロジェクトデータベースの場所を選択します。
 - b 【Create Project (プロジェクトの作成)】 をクリックします。〔Create Source Control Project (ソース管理プロジェクトの作成)〕 ダイアログボックスが表示されます。



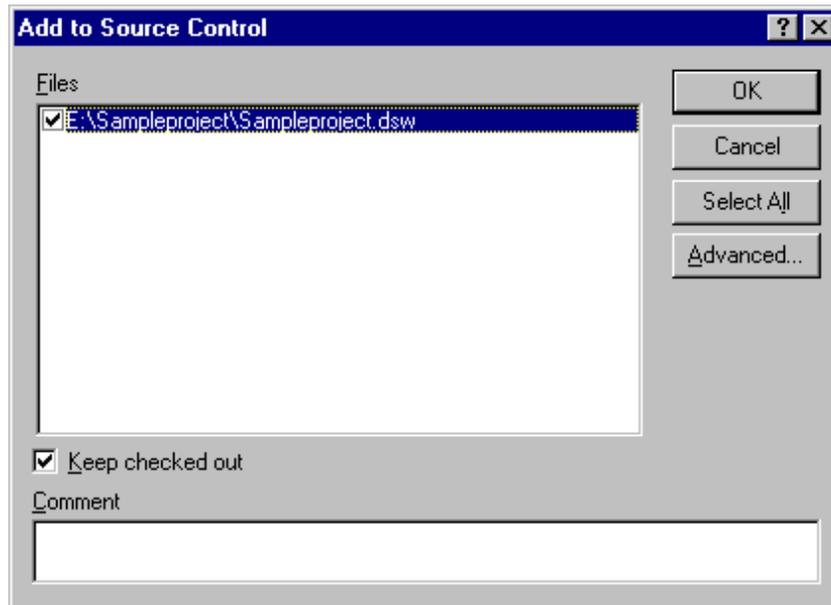
〈Project Database Information (プロジェクトデータベース情報)〉グループには、現在のプロジェクトデータベースの名前と場所、およびこのデータベース内の新規プロジェクトの場所が表示されます。

- c デフォルトでは、新しい Version Manager プロジェクトでは IDE プロジェクトと同じ名前を使用します。必要な場合、〈Project Name (プロジェクト名)〉フィールドに別の名前を入力します。

名前の前後にタブや空白を付けることはできません。名前には、アスタリスク (*)、コロン (:)、縦線 (|)、スラッシュ (/)、円記号 (¥)、疑問符 (?)、山かっこ (< >) 以外のすべての文字を使用できます。

- d 【OK】 をクリックします。〔Add Project to Source Control (ソース管理にプロジェクトを追加)〕 ダイアログボックスが再度開き、〈Source Control Project (ソース管理プロジェクト)〉の下に新規プロジェクトが表示されます。

- 5 【OK】をクリックします。〔Add to Source Control (ソース管理に追加)〕ダイアログボックスが表示され、追加されるファイル (.dsp や .dsw などのプロジェクトファイル) が選択された状態となっています。



重要! ルートプロジェクト作業ディレクトリおよびそのサブディレクトリ以外に配置されたファイルが Visual C++ プロジェクトに含まれる場合、これらのファイルをルートプロジェクトディレクトリにコピーするかどうかを確認するメッセージが表示されます。これらのファイルをルートプロジェクトディレクトリにコピーしなければ、ソース管理には追加されません。

- 6 選択したファイルの横のチェックマークを調べて選択を確認します。このリストでファイルを選択または選択解除して、選択対象を変更できます。
- 7 ソース管理への追加と同時にファイルをチェックアウトし、ロックする場合は、〈Keep checked out (チェックアウト状態を保持)〉チェックボックスを選択します。
- 8 〈Comment (コメント)〉フィールドに、ファイルの説明を入力します。この説明は、選択したすべてのファイルに適用されます。



注 ファイルごとに固有の説明を付ける場合は、〈Comment (コメント)〉フィールドを空白のままにします。〔Add to Source Control (ソース管理に追加)〕ダイアログボックスへの入力が終わると、〔Change Description (変更の説明)〕ダイアログボックスが表示されます。各ファイルに順次説明を入力します。

- 9 以下のいずれかを実行します。

詳細設定の使用

- バージョンラベルまたはプロモーショングループを初期のリビジョンに割り当てるには、【Advanced (詳細)】をクリックします。〔ChangeMan Advanced Add (追加の詳細設定)〕ダイアログボックスが開きます (詳細設定については、37 ページの『追加の詳細設定』を参照してください)。

デフォルト値の使用

- デフォルトの追加オプションをそのまま使用する場合は、【OK】をクリックします。選択したファイルがソース管理に追加され、指定されたアーカイブディレクトリに、アーカイブが作成されます。追加した各ファイルで、ファイルビューのファイルアイコンがグレーに変わり (■)、ファイルがソース管理下になったことが示されます。

ファイルの共有 アーカイブが複数の Version Manager プロジェクトにより共有される場合の詳細については、[38 ページの『複数のプロジェクトによるファイルの共有』](#)を参照してください。

ソース管理プロジェクトに追加するワークステーションを増やす

プロジェクトまたはワークスペースが作成され、ソース管理に追加されると、各開発者が、ソース管理から開くことによってプロジェクトまたはワークスペースにアクセスできるようになります。プロジェクトまたはワークスペースをソース管理から開くと、開発者のシステムにプロジェクトまたはワークスペースのコピーが作成されます。開発者の手元にローカルコピーが作成された後は、このコピーに対して通常のソース管理操作を実行できます。

以下のいずれかを実行します。

- ソース管理からワークスペース全体を取得する方法については、次の手順を参照してください。
- ソース管理から個別にプロジェクトを取得するには、[246 ページの『個々のプロジェクトの取得』](#)を参照してください。

Visual C++ ワークスペースの取得

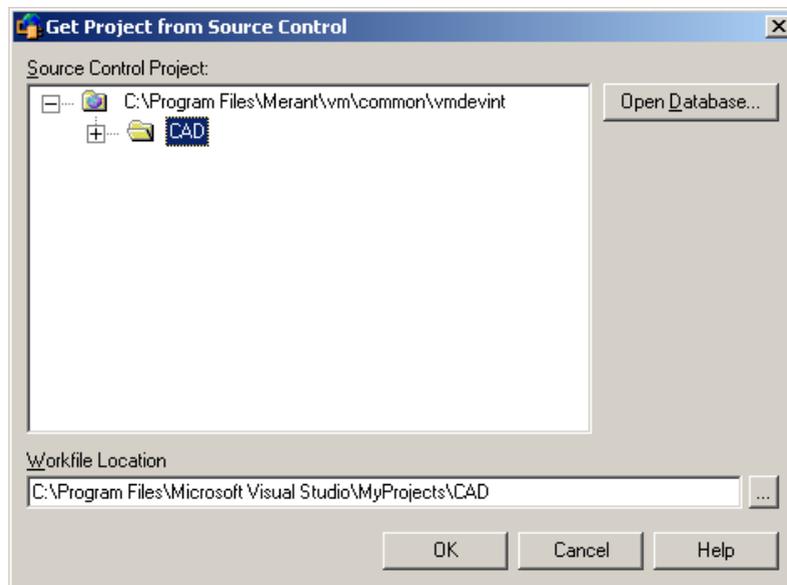
Visual C++ ワークスペースを取得すると、そのワークスペース内の全プロジェクト内の全ファイルが、作業ファイルの場所に読み取り専用ファイルとしてコピーされます。



注 Visual C++ ワークスペース内の複数のプロジェクトを開くには、それらのプロジェクトが同じソース管理プロバイダを使用している必要があります。

ワークスペースのすべてのプロジェクトを取得するには次の操作を行います。

- 1 [File (ファイル)] – [Open Workspace (ワークスペースを開く)] を選択します。
- 2 【Source Control (ソース管理)】をクリックします。[Get Project from Source Control (ソース管理からプロジェクトを取得)] ダイアログボックスが表示され、現在のプロジェクトデータベース内のプロジェクトの一覧が表示されます。



別のプロジェクトデータベースを開く場合は、【Open Database (データベースを開く)】ボタンをクリックします。

- 3 ワークスペースファイル (.dsw) を含むソース管理下のプロジェクトを選択します。
- 4 [Version Manager Login (Version Manager ログイン)] ダイアログボックスが表示される場合は、自分のユザ ID とパスワードを入力し、【OK】をクリックします。
- 5 <Workfile Location (作業ファイルの場所)> フィールドにすべてのプロジェクトファイルに対する場所を入力するか、または【Browse (参照)】ボタンをクリックして場所を選択し、参照してください。
- 6 【OK】をクリックします。[Open Workspace (ワークスペースを開く)] ダイアログボックスが再度表示され、選択したワークスペースが表示されます。
- 7 【Open (開く)】をクリックします。[Get Latest Version (最新のファイルを取得)] ダイアログボックスが表示され、選択したワークスペースに含まれるすべてのプロジェクトファイル (.dsp) が表示されます。
- 8 【OK】をクリックします。プロジェクト内の全ファイルが作業ファイルの場所にコピーされます。



注 エンティティのロードに失敗

エンティティのロードに失敗したというエラーメッセージが Visual C++ から表示された場合、ワークスペース (.dsw) ファイルでプロジェクト (.dsp) ファイルへの参照が失われている可能性があります。Visual C++ プロジェクトをソース管理に追加する際には、ワークスペースファイルがチェックアウトされていることを確認してください。チェックアウトされていない限り、新規プロジェクトを参照するようにワークスペースファイルを更新することはできません。241 ページの『[ファイルのソース管理への追加](#)』を参照してください。

個々のプロジェクトの取得

プロジェクトを取得すると、選択されたプロジェクト内の全ファイルが、作業ファイルの場所に読み取り専用ファイルとしてコピーされます。

プロジェクトを取得するには、次の操作を行います。

- 1 既存の Visual C++ ワークスペースを開くか、新規ワークスペースを作成します。
- 2 [Project (プロジェクト)] - [Insert Projects into Workspace (ワークスペースにプロジェクトを挿入)] を選択します。[Insert Projects into Workspace (ワークスペースにプロジェクトを挿入)] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 【Source Control (ソース管理)】をクリックします。[Get Project from Source Control (ソース管理からプロジェクトを取得)] ダイアログボックスが表示され、現在のプロジェクトデータベース内のプロジェクトの一覧が表示されます。

開こうとしているプロジェクトが含まれているプロジェクトデータベースが表示されていない場合は、【Open Database (データベースを開く)】をクリックして、正しいデータベースを探します。

以下のいずれかを実行します。

- 一覧表示されている Version Manager File Server 上にあるプロジェクトデータベースを開くには、〈Project Databases (プロジェクトデータベース)〉リストボックスからプロジェクトデータベースを選択し、【OK】をクリックします。

Version Manager File Server をリストに追加するには、〈File Server (ファイルサーバ)〉リストボックスの空のセルをダブルクリックしてファイルサーバのホストシステム名を入力します。ENTER キーを押すと、入力がオートコンプリート (http:// システム名:8080/serenafs/FileServer) し、テストされます。https サーバまたは非標準ポートを指定するには、オートコンプリートエントリをダブルクリックし、編集して、ENTER キーを押します。

- ローカルファイルシステムまたはネットワーク上のプロジェクトデータベースを開くには、【Browse (参照)】ボタンをクリックして表示されるダイアログボックスから該当の場所を探します。

- 4 開くプロジェクトを選択します。
- 5 [Version Manager Login (Version Manager ログイン)] ダイアログボックスが表示される場合は、自分のユザ ID とパスワードを入力し、【OK】をクリックします。
- 6 〈Workfile Location (作業ファイルの場所)〉フィールドにすべてのプロジェクトファイルに対する場所を入力するか、または【Browse (参照)】ボタンをクリックして場所を選択し、参照してください。
- 7 【OK】をクリックします。プロジェクトファイルが選択された状態で、[Insert Projects into Workspace (ワークスペースにプロジェクトを挿入)] ダイアログボックスが再度表示されます。
- 8 【Open (開く)】をクリックします。選択したプロジェクト内の全ファイルが作業ファイルの場所にコピーされます。

ソース管理からのファイルの削除

ソース管理からファイルを削除しても、作業ファイルや Version Manager アーカイブは削除されません。IDE ファイルとアーカイブ間の関連付けが削除されるだけです。この後、いつでもファイルをソース管理に戻すことができます。

ソース管理からファイルを削除するには、次の操作を行います。

- 1 ファイルビュー表示部で、ソース管理から削除するファイルを選択します。ソース管理からプロジェクト全体を削除するには、プロジェクトの .dsp ファイルなどプロジェクト内のすべてのファイルを選択します。
- 2 [Project (プロジェクト)] - [Source Control (ソース管理)] - [Remove from Source Control (ソース管理から削除)] を選択します。[Remove from Source Code Control (ソースコード管理から削除)] ダイアログボックスが表示され、選択したファイルの一覧が示されます。このリストでファイルを選択または選択解除して、選択対象を変更できます。
- 3 【OK】をクリックします。ソース管理から選択したファイルが削除されます。

ソース管理に
ファイルに戻す

ソース管理にファイルに戻す方法の詳細は、[36 ページの『ソース管理から削除したファイルの追加』](#)を参照してください。

ソース管理の使用方法

- 内容 このセクションでは、ソース管理下のファイルの表示および編集に関する操作を説明します。
- 詳細情報 [第 4 章、53 ページの『ソース管理の使用方法』](#)を参照してください。

ヒント

操作をすばやく行うには、以下の方法があります。

- IDE および Version Manager のデフォルト値を、自分が通常行う操作に合わせて設定します。
- 選択したファイルを右クリックすると、デフォルトの設定を使用してソース管理操作をすばやく実行できるポップアップメニューが表示されます。

ファイルの取得

ファイルを取得すると、選択されたリビジョンが、作業ファイルの場所に読み取り専用ファイルとしてコピーされます。

リビジョンを取得するには、次の操作を行います。

- 1 ファイルビュー表示部で、取得するファイルを選択します。
- 2 [Project (プロジェクト)] - [Source Control (ソース管理)] - [Get Latest Version (最新のファイルを取得)] を選択します。[このリストでファイルを選択または選択解除して、選択するファイルを変更できます]。
- 3 以下のいずれかを実行します。

詳細設定の使用

- デフォルトの取得オプションを変更するには、【Advanced (詳細)】をクリックします。[ChangeMan Advanced Get (取得の詳細設定)] ダイアログボックスが表示されます (詳細設定については、[54 ページの『ファイルの取得』](#)を参照してください)。

デフォルト値の使用

- デフォルトの取得オプションを使用する場合は、【OK】をクリックします。選択したリビジョンが、読み取り専用ファイルとして作業ファイルの場所にコピーされます。

ファイルのチェックアウト

ファイルをチェックアウトすると、リビジョンはロックされ、書き込み可能な作業ファイルが作業ファイルの場所に作成されます。

ファイルをチェックアウトするには、次の操作を行います。

- 1 ファイルビュー表示部で、チェックアウトするファイルを選択します。
- 2 [Project (プロジェクト)] - [Source Control (ソース管理)] - [Check Out (チェックアウト)] を選択します。[Check Out File(s) (ファイルのチェックアウト)] ダイアログボックスが現れ、選択されたファイルの一覧が表示されます。このリストで新たにファイルを選択したり、ファイルの選択を解除することもできます。

3 以下のいずれかを実行します。

詳細設定の使用

- デフォルトのチェックアウトオプションを変更するには、【Advanced (詳細)】をクリックします。[ChangeMan Advanced Check Out (ChangeMan チェックアウトの詳細設定)] ダイアログボックスが表示されます (詳細設定については、57 ページの『ファイルのチェックアウト』を参照してください)。

デフォルト値の使用

- デフォルトのチェックアウトオプションをそのまま使用する場合は、【OK】をクリックします。プロジェクトエクスプローラのファイルアイコンの隣に、赤いチェックマーク (✓) が表示され、チェックアウトされたことが示されます。

チェックアウトの取り消し

チェックアウトを取り消すと、アーカイブのロックが解除されて読み取り専用の作業ファイルが作業ファイルの場所に残されます。ファイルに加えられた変更は、アーカイブにはチェックインされません。

チェックアウトを取り消すには、次の操作を行います。

- 1 ファイルビュー表示部で、ロックを解除するファイルを選択します。
- 2 [Project (プロジェクト)] - [Source Control (ソース管理)] - [Undo Check Out (チェックアウトの取り消し)] を選択します。[このリストでファイルを選択または選択解除して、選択するファイルを変更できます。]
- 3 以下のいずれかを実行します。

詳細設定の使用

- デフォルトのチェックアウト取り消しオプションを変更するには、【Advanced (詳細)】をクリックします。[ChangeMan Advanced Undo Check Out (ChangeMan チェックアウト取り消しの詳細設定)] ダイアログボックスが表示されます (詳細設定については、59 ページの『チェックアウトの取り消しについて』を参照してください)。

デフォルト値の使用

- デフォルトのチェックアウト取り消しオプションをそのまま使用する場合は、【OK】をクリックします。ファイルビュー表示部のファイルアイコンから赤いチェックマーク (✓) が消えて、ファイルのロックが解除されたことが示されます。

ファイルのチェックイン

作業ファイルをチェックインすると、デフォルトでは、以下の処理が行われます。

- 新規リビジョンが作成され、それまでの最新リビジョンの次の番号が割り当てられます。
- 読み取り専用ファイルが作業ファイルの場所に残されます。
- アーカイブのロックが解除されます。

ファイルをチェックインするには、次の操作を行います。

- 1 ファイルビュー表示部で、チェックインするファイルを選択します。
- 2 [Project (チーム)] - [Source Control (ソース管理)] - [Check In (チェックイン)] を選択します。[Check In File(s) (ファイルのチェックイン)] ダイアログボックスが表示され、選択したファイルの一覧が示されます。このリストでファイルを選択または選択解除して、選択するファイルを変更できます。

3 以下のうち必要な作業を行います。

- ロックの保持
- チェックインした後にファイルのロックを保持するには、〈Keep Checked Out (チェックアウト状態を保持)〉チェックボックスを選択します。
- ファイルの比較
- 1つのアーカイブ内の2つのリビジョン、2つのアーカイブ、2つの作業ファイル、1つのリビジョンと1つの作業ファイルそれぞれでリビジョンを比較するには、【Differences (相違点)】をクリックします。【Show Differences (相違点の表示)】ダイアログボックスが表示されます。詳細は、91ページの『相違点レポートについて』を参照してください。
- 4 変更内容の説明を〈Comment (コメント)〉フィールドに入力します。この説明は、選択したすべてのファイルに適用されます。



ヒント ファイルごとに固有の説明を付ける場合は、〈Comment (コメント)〉フィールドを空白のままにします。各ファイルの変更の説明を順に入力します。

5 以下のいずれかを実行します。

- 詳細設定の使用
- デフォルトのチェックインオプションを変更するには、【Advanced (詳細)】をクリックします。【ChangeMan Advanced Check In (ChangeMan チェックインの詳細設定)】ダイアログボックスが表示されます (詳細設定については、60ページの『ファイルのチェックイン』を参照してください)。
- デフォルト値の使用
- デフォルトのチェックインオプションをそのまま使用する場合は、【OK】をクリックします。ファイルビュー表示部のファイルアイコンから赤いチェックマーク (✓) が消え、ファイルがチェックインされたことが示されます。

新しいファイルの追加

デフォルトでは、Visual C++ プロジェクトに新しいファイルを追加するときに、ソース管理にファイルを追加するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。【Yes (はい)】をクリックすると、【Add to Source Control (ソース管理に追加)】ダイアログボックスが表示されるので、241ページの『ファイルのソース管理への追加』の **手順 6** 以降に従って操作してください。



注 最初に Visual C++ プロジェクト (.dsp) ファイルをチェックアウトしてから、新規ファイルを追加する必要があります。そうしないと、.dsp ファイルをチェックアウトするよう求めるメッセージが表示されます。

第 15 章

VisualCafe

はじめに	252
サポートされている機能の使用	252
ソース管理プロジェクトの設定	253
ソース管理の使用法	258

はじめに

目的 この章の目的は、以下の 4 つです。

- WebGain® VisualCafe™ 4.5 から使用可能な Version Manager の各機能の紹介と、それらの機能の使用方法の説明
- このマニュアルのパート 1 で解説された機能のうち、この開発環境（IDE）には適用されないものの解説
- ソース管理プロジェクトの設定や、ソース管理へのファイルの追加を行う管理者の手引き
- ソース管理下にあるファイルに VisualCafe からアクセスする開発チームの手引き

詳細情報 以下の情報については、[19 ページのパート 1、『Version Manager IDE クライアント』](#)を参照してください。

- ソース管理の概念
- ソース管理のデフォルト動作
- ソース管理の詳細設定

サポートされている機能の使用

サポートされている機能 VisualCafe では、Version Manager IDE クライアントで使用可能なソース管理の機能のうち、アーカイブの共有以外のすべての機能がサポートされています。次の表を参照してください。

目的	操作	参照セクション
リビジョンの取得	[Tools (ツール)] - [Version Control (バージョン管理)] - [Get Latest Version (最新のファイルを取得)]	258 ページの『ファイルの取得』
リビジョンのチェックアウト	[Tools (ツール)] - [Version Control (バージョン管理)] - [Check Out (チェックアウト)]	259 ページの『ファイルのチェックアウト』
リビジョンのチェックアウトの取り消し	[Tools (ツール)] - [Version Control (バージョン管理)] - [Undo Check Out (チェックアウトの取り消し)]	259 ページの『チェックアウトの取り消し』
リビジョンのチェックイン	[Tools (ツール)] - [Version Control (バージョン管理)] - [Check In (チェックイン)]	260 ページの『ファイルのチェックイン』
バージョンラベルの管理	[Tools (ツール)] - [Version Control (バージョン管理)] - [Serena]	62 ページの『バージョンラベルについて』
リビジョンまたはアーカイブのプロパティの表示	[Tools (ツール)] - [Version Control (バージョン管理)] - [Serena Properties (Serena プロパティ)] [Version Manager Properties (Version Manager プロパティ)] ダイアログボックスが表示されます。ファイルを選択して【Show (表示)】をクリックします。	82 ページの『プロパティ』
ソース管理動作の監視	[Tools (ツール)] - [Version Control (バージョン管理)] - [Serena]	83 ページの『Pulse によるソース管理動作の監視』

目的	操作	参照セクション
履歴レポートの生成	[Tools (ツール)] - [Version Control (バージョン管理)] - [Show History (履歴の表示)] [History (履歴)] ダイアログボックスが表示されます。ファイルを選択して【Show (表示)】をクリックします。 注 最初にファイルをチェックアウトする必要があります。	88 ページの『履歴レポートについて』
相違点レポートの生成	[Tools (ツール)] - [Version Control (バージョン管理)] - [Show Differences (相違点の表示)] [Differences (相違点)] ダイアログボックスが表示されます。ファイルを選択して【Show (表示)】をクリックします。	91 ページの『相違点レポートについて』
[Version Manager Options (Version Manager オプション)] ダイアログボックスの使用	[Tools (ツール)] - [Version Control (バージョン管理)] - [Serena]	33 ページの『[Version Manager Options (Version Manager オプション)] ダイアログボックスのデフォルト値の設定』
ソース管理へのファイルの追加	[Tools (ツール)] - [Version Control (バージョン管理)] - [Add to Version Control (バージョン管理への追加)]	253 ページの『ファイルのソース管理への追加』
ソース管理からのファイルの削除	[Tools (ツール)] - [Version Control (バージョン管理)] - [Remove from Version Control (バージョン管理からの削除)]	258 ページの『ソース管理からのファイルの削除』

ソース管理プロジェクトの設定

- 内容** このセクションでは、VisualCafe で使用するための Version Manager IDE クライアントの設定方法を説明しています。
- 前提条件** 設定を行う前に、Version Manager デスクトップクライアントを使用して、VisualCafe プロジェクトに関連付けられたソース管理プロジェクトを含むプロジェクトデータベースを作成します（このようなプロジェクトデータベースがまだ作成されていない場合）。
- 詳細情報** [第 2 章、27 ページの『SCC IDE によるソース管理のセットアップ』](#) を参照してください。

ファイルのソース管理への追加

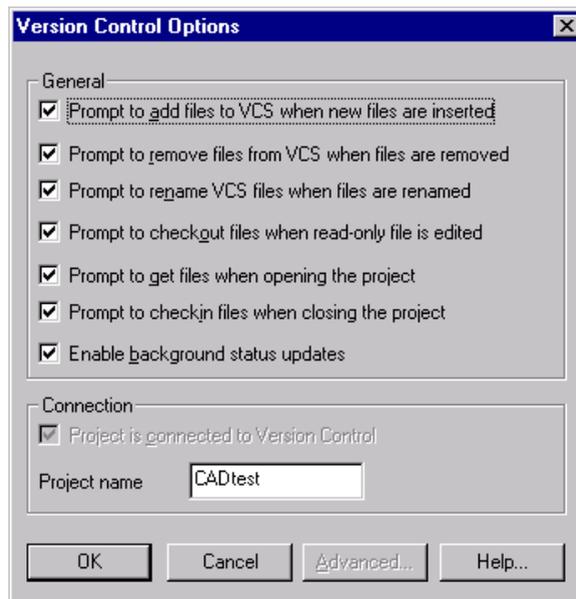
VisualCafe のプロジェクトを作成して保存したら、既存の Version Manager のプロジェクトデータベースに追加できます。



注 プロジェクトがソース管理下に置かれた後は、新しいファイルを追加すると、自動的に [Add to Version Control (バージョン管理への追加)] ダイアログボックスが表示されます。[手順 10](#) を参照してください。

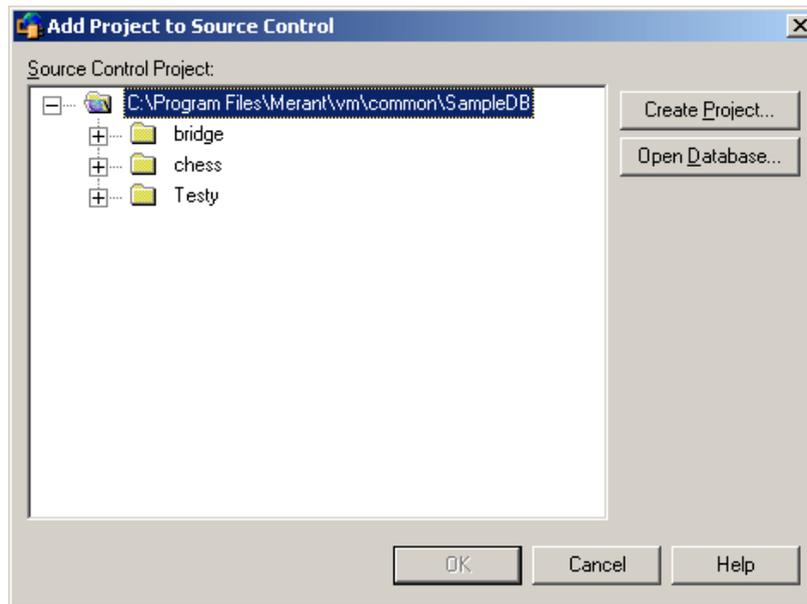
ファイルをソース管理に追加するには、次の操作を行います。

- 1 VisualCafe プロジェクトが保存されていることを確認します。
- 2 [Project (プロジェクト)] – [Options (オプション)] を選択します。[Project Options (プロジェクトオプション)] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [Version Control (バージョン管理)] タブを選択します。
- 4 <Version control providers (バージョン管理プロバイダ)> ドロップダウンリストから <SCC Provider: ChangeMan Version Manager (SCC プロバイダ: ChangeMan Version Manager)> を選択します。
- 5 【OK】 をクリックします。[Version Control Options (バージョン管理オプション)] ダイアログボックスが表示されます。

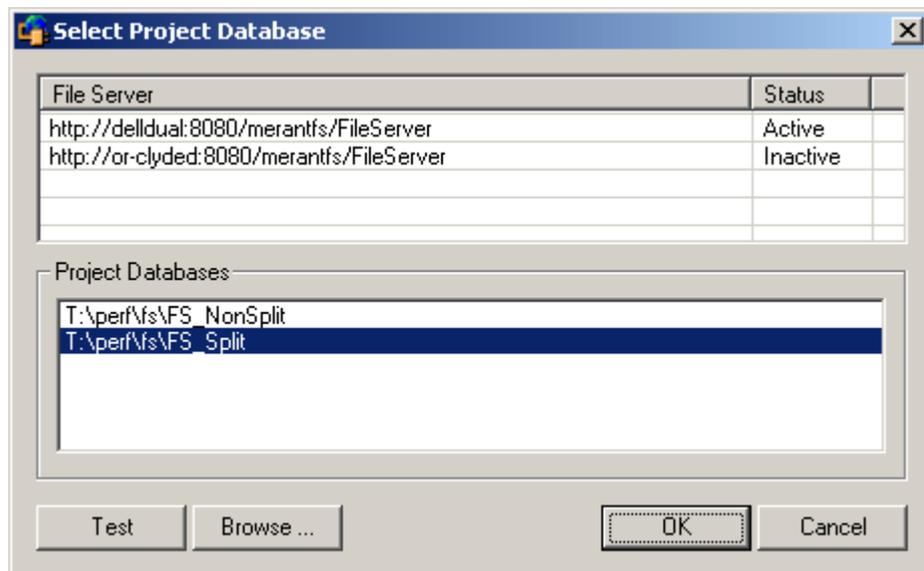


- 6 プロジェクトのデフォルト動作を変更し、【OK】 をクリックします (デフォルトの設定についての詳細は、VisualCafe のドキュメントを参照してください)。

〔Add Project to Source Control (ソース管理にプロジェクトを追加)〕ダイアログボックスが表示されます。



- 7 〈Source Control Project (ソース管理プロジェクト)〉の下にデフォルトのプロジェクトデータベースが表示されます。別のプロジェクトデータベースにファイルを追加する場合は、【Open Database (データベースを開く)】ボタンをクリックします。〔Select Project Database (プロジェクトデータベースの選択)〕ダイアログボックスが表示されます。



以下のいずれかを実行します。

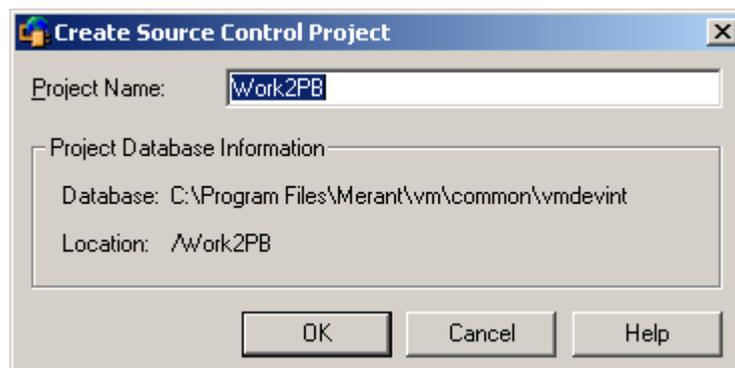
- 一覧表示されている Version Manager File Server 上にあるプロジェクトデータベースを開くには、〈Project Databases (プロジェクトデータベース)〉リストボックスからプロジェクトデータベースを選択し、【OK】をクリックします。

Version Manager File Server をリストに追加するには、〈File Server (ファイルサーバ)〉リストボックスの空のセルをダブルクリックしてファイルサーバのホストシステム名を入力します。ENTER キーを押すと、入力がオートコンプリート (http:// システム名:8080/serenafs/FileServer) し、テストされます。https サーバまたは非標準ポートを指定するには、オートコンプリートエントリをダブルクリックし、編集して、ENTER キーを押します。

- ローカルファイルシステムまたはネットワーク上のプロジェクトデータベースを開くには、【Browse (参照)】 ボタンをクリックして表示されるダイアログボックスから該当の場所を探します。

8 以下のいずれかを実行します。

- 既存のソース管理プロジェクトに追加するには、〈Source Control Project (ソース管理プロジェクト)〉からプロジェクトを選択します。手順 9 に進みます。
- **新規 Version Manager プロジェクトを作成するには、以下の手順に従います。**
 - a 〈Select Source Control Project (ソース管理プロジェクトの選択)〉の下で、新規プロジェクトを作成するプロジェクトデータベースの場所を選択します。
 - b 【Create Project (プロジェクトの作成)】 をクリックします。〔Create Source Control Project (ソース管理プロジェクトの作成)〕 ダイアログボックスが表示されます。



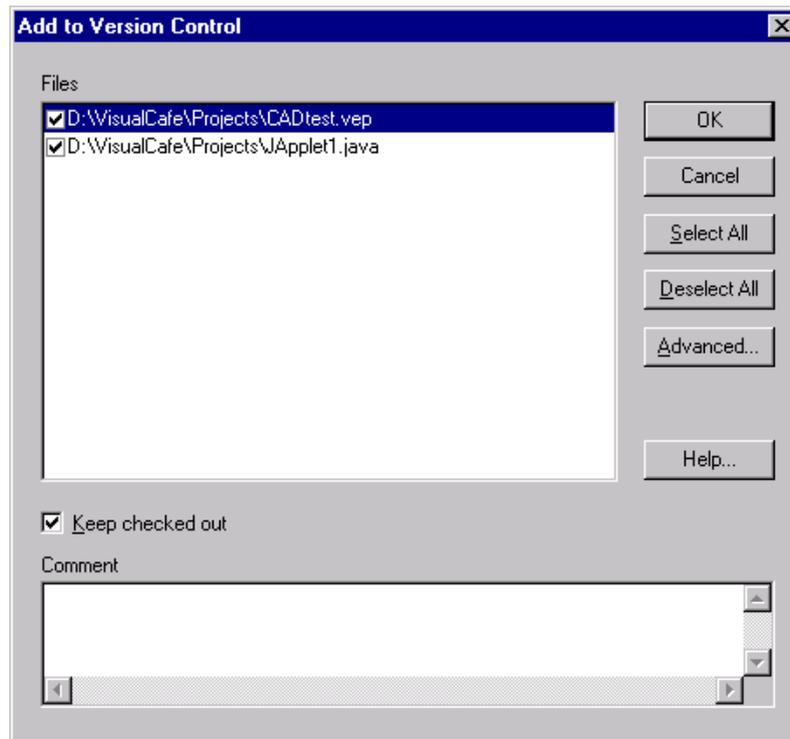
〈Project Database Information (プロジェクトデータベース情報)〉グループには、現在のプロジェクトデータベースの名前と場所、およびこのデータベース内の新規プロジェクトの場所が表示されます。

- c デフォルトでは、新しい Version Manager プロジェクトでは IDE プロジェクトと同じ名前を使用します。必要な場合、〈Project Name (プロジェクト名)〉フィールドに別の名前を入力します。

名前の前後にタブや空白を付けることはできません。名前には、アスタリスク (*)、コロン (:)、縦線 (|)、スラッシュ (/)、円記号 (¥)、疑問符 (?)、山かっこ (< >) 以外のすべての文字を使用できます。

- d 【OK】 をクリックします。〔Add Project to Source Control (ソース管理にプロジェクトを追加)〕 ダイアログボックスが再度開き、〈Source Control Project (ソース管理プロジェクト)〉の下に新規プロジェクトが表示されます。

- 9 【OK】 をクリックします。〔Add to Version Control (バージョン管理への追加)〕 ダイアログボックスが表示され、追加するファイルの一覧が表示されます。



注

- VisualCafe プロジェクト (.vep) ファイルがリストに含まれていますが、選択されていません。ソース管理に .vep ファイルを追加するには、このファイルを選択する必要があります。
- VisualCafe プロジェクトにルートのプロジェクト作業ディレクトリやそのサブディレクトリ以外にあるファイルが含まれている場合、これらのファイルはソース管理に追加されません。

- 10 次のいずれかを行います。
- a 選択および選択解除して、追加するファイルを変更します。
 - b ソース管理への追加と同時にファイルをチェックアウトしたりロックしたりしない場合は、〈Keep checked out (チェックアウト状態を保持)〉チェックボックスの選択を解除します。
- 11 〈Comment (コメント)〉フィールドに、ファイルの説明を入力します。この説明は、選択したすべてのファイルに適用されます。



注 ファイルごとに固有の説明を付ける場合は、〈Comment (コメント)〉フィールドを空白のままにします。〔Add to Version Control (ソース管理に追加)〕 ダイアログボックスへの入力が終わると、〔Change Description (変更の説明)〕 ダイアログボックスが表示されます。各ファイルに順次説明を入力します。

12 以下のいずれかを実行します。

詳細設定の使用

- バージョンラベルまたはプロモーショングループを初期のリビジョンに割り当てるには、【Advanced (詳細)】をクリックします。〔ChangeMan Advanced Add (追加の詳細設定)〕ダイアログボックスが開きます (詳細設定については、37 ページの『追加の詳細設定』を参照してください)。

デフォルト値の使用

- デフォルトの追加オプションをそのまま使用する場合は、【OK】をクリックします。選択したファイルがソース管理に追加され、指定されたアーカイブディレクトリに、アーカイブが作成されます。



注 保存していないファイルを追加しようとすると、ただちに保存を促すメッセージが表示されます。【Save Now (今すぐ保存)】をクリックします。

ソース管理からのファイルの削除

ソース管理からファイルを削除しても、作業ファイルや Version Manager アーカイブは削除されません。IDE ファイルとアーカイブ間の関連付けが削除されるだけです。この後、いつでもファイルをソース管理に戻すことができます。

ソース管理からファイルを削除するには、次の操作を行います。

- 1 [Tools (ツール)] - [Version Control (バージョン管理)] - [Remove from Version Control (バージョン管理からの削除)] を選択します。〔Remove from Version Control (バージョン管理からの削除)〕ダイアログボックスが表示されます。
- 2 〈Files (ファイル)〉から削除するファイルを選択します。
- 3 【OK】をクリックします。ソース管理から選択したファイルが削除されます。

ソース管理に
ファイルを戻す

ソース管理にファイルを戻す方法の詳細は、36 ページの『ソース管理から削除したファイルの追加』を参照してください。

ソース管理の使用法

内容 このセクションでは、ソース管理下のファイルの表示および編集に関する操作を説明します。

詳細情報 第 4 章、53 ページの『ソース管理の使用法』を参照してください。



重要! プロジェクト (.vep) ファイルがソース管理下にある場合は、必ずファイルをチェックアウトしてから、プロジェクトを変更してください。

ファイルの取得

ファイルを取得すると、選択されたリビジョンが、作業ファイルの場所に読み取り専用ファイルとしてコピーされます。

リビジョンを取得するには、次の操作を行います。

- 1 [Tools (ツール)] - [Version Control (バージョン管理)] - [Get Latest Version (最新のファイルを取得)] を選択します。[Get Latest Version (最新のファイルを取得)] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 〈Files (ファイル)〉から取得するファイルを選択します。
- 3 以下のいずれかを実行します。

詳細設定の使用

- デフォルトの取得オプションを変更するには、【Advanced (詳細)】をクリックします。[ChangeMan Advanced Get (取得の詳細設定)] ダイアログボックスが表示されます (詳細設定については、[54 ページの『ファイルの取得』](#)を参照してください)。

デフォルト値の使用

- デフォルトの取得オプションを使用する場合は、【OK】をクリックします。選択したリビジョンがコピーされ、読み取り専用の作業ファイルが作業ファイル場所に配置されます。

ファイルのチェックアウト

ファイルをチェックアウトすると、リビジョンはロックされ、書き込み可能な作業ファイルが作業ファイルの場所に作成されます。

ファイルをチェックアウトするには、次の操作を行います。

- 1 [Tools (ツール)] - [Version Control (バージョン管理)] - [Check Out (チェックアウト)] を選択します。[Check Out Files (ファイルのチェックアウト)] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 〈Files (ファイル)〉からチェックアウトするファイルを選択します。
- 3 以下のいずれかを実行します。

詳細設定の使用

- デフォルトのチェックアウトオプションを変更するには、【Advanced (詳細)】をクリックします。[ChangeMan Advanced Check Out (ChangeMan チェックアウトの詳細設定)] ダイアログボックスが表示されます (詳細設定については、[57 ページの『ファイルのチェックアウト』](#)を参照してください)。

デフォルト値の使用

- デフォルトのチェックアウトオプションをそのまま使用する場合は、【OK】をクリックします。ファイルがチェックアウトされます。

チェックアウトの取り消し

チェックアウトを取り消すと、アーカイブのロックが解除されて読み取り専用の作業ファイルが作業ファイルの場所に残されます。ファイルに加えられた変更は、アーカイブにはチェックインされません。

チェックアウトを取り消すには、次の操作を行います。

- 1 [Tools (ツール)] - [Version Control (バージョン管理)] - [Undo Check Out (チェックアウトの取り消し)] を選択します。[Undo Check Out Files (チェックアウトの取り消し)] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 〈Files (ファイル)〉からロックを解除するファイルを選択します。

3 以下のいずれかを実行します。

詳細設定の使用

- デフォルトのチェックアウト取り消しオプションを変更するには、【Advanced (詳細)】をクリックします。[ChangeMan Advanced Undo Check Out (ChangeMan チェックアウト取り消しの詳細設定)] ダイアログボックスが表示されます (詳細設定については、59 ページの『チェックアウトの取り消しについて』を参照してください)。

デフォルト値の使用

- デフォルトのチェックアウト取り消しオプションをそのまま使用する場合は、【OK】をクリックします。ファイルのロックが解除されます。

ファイルのチェックイン

作業ファイルをチェックインすると、デフォルトでは、以下の処理が行われます。

- 新規リビジョンが作成され、それまでの最新リビジョンの次の番号が割り当てられます。
- 読み取り専用ファイルが作業ファイルの場所に残されます。
- アーカイブのロックが解除されます。

ファイルをチェックインするには、次の操作を行います。

- 1 [Tools (ツール)] - [Version Control (バージョン管理)] - [Check In (チェックイン)] を選択します。[Check In Files (ファイルのチェックイン)] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 <Files (ファイル)> からチェックインするファイルを選択します。
- 3 以下のうち必要な作業を行います。

ロックの保持

- チェックインした後にファイルのロックを保持するには、<Keep checked out (チェックアウト状態を保持)> チェックボックスを選択します。

ファイルの比較

- 1 つのアーカイブ内の 2 つのリビジョン、2 つのアーカイブ、2 つの作業ファイル、1 つのリビジョンと 1 つの作業ファイルそれぞれでリビジョンを比較するには、【Differences (相違点)】をクリックします。[Show Differences (相違点の表示)] ダイアログボックスが表示されます。詳細は、91 ページの『相違点レポートについて』を参照してください。

- 4 変更内容の説明を <Comment (コメント)> フィールドに入力します。この説明は、選択したすべてのファイルに適用されます (この説明は [Version Manager Properties (Version Manager プロパティ)] ダイアログボックスに表示されます)。



注 ファイルごとに固有の説明を付ける場合は、<Comment (コメント)> フィールドを空白のままにします。[Check In Files (ファイルのチェックイン)] ダイアログボックスへの入力 completed すると、ファイルごとに順次、[Change Description (変更の説明)] ダイアログボックスが表示されます。各ファイルに順次説明を入力します。

5 以下のいずれかを実行します。

詳細設定の使用

- デフォルトのチェックインオプションを変更するには、【Advanced (詳細)】をクリックします。[ChangeMan Advanced Check In (ChangeMan チェックインの詳細設定)] ダイアログボックスが表示されます (詳細設定については、60 ページの『ファイルのチェックイン』を参照してください)。

デフォルト値の使用

- デフォルトのチェックインオプションをそのまま使用する場合は、【OK】をクリックします。ファイルがチェックインされます。

新しいファイルの追加

デフォルト デフォルトでは、ソース管理下にある VisualCafe プロジェクトにファイルを追加すると、[Add to Version Control (バージョン管理への追加)] ダイアログボックスが表示されます。253 ページの『ファイルのソース管理への追加』の手順 10 以降に従って操作してください。



重要！ VisualCafe プロジェクト (.vep) ファイルがソース管理下にある場合は、最初にファイルをチェックアウトしてから、新規ファイルを追加する必要があります。

手動 ファイルが IDE プロジェクトに追加されるときに、ファイルをバージョン管理に自動的に追加することを促すメッセージを表示しないようにしていた場合は、[Tools (ツール)] - [Version Control (バージョン管理)] - [Add to Version Control (バージョン管理への追加)] を選択して、ファイルを手動で追加することができます。

デフォルトの設定 ファイルをソース管理に自動的に追加するプロンプトを有効にしたり、無効にしたりするには、[Tools (ツール)] - [Version Control (バージョン管理)] - [Options (オプション)] を選択して表示されるダイアログボックスで設定を変更します。

第 16 章

Visual InterDev

はじめに	264
Web ベースのプロジェクトについて	264
サポートされる機能の Web プロジェクトからの使用	265
Web プロジェクトの設定	266
Web プロジェクトでのソース管理の使用	268
非 Web プロジェクト	272
非 Web プロジェクトでサポートされる機能の使用	272
非 Web プロジェクトの設定	273
非 Web プロジェクトでのソース管理の使用	279

はじめに

Visual InterDev について Visual InterDev では、作業するプロジェクトのタイプ（Web ベースと非 Web ベース）に応じて 2 つの方法でソース管理機能と関連し、連携して機能します。この章は、Web と非 Web のセクションに分かれています。

目的 この章の目的は、以下の 4 つです。

- Microsoft® Visual InterDev™ 6.0 から使用可能な Version Manager の各機能の紹介と、それらの機能の使用方法的説明
- このマニュアルのパート 1 で解説された機能のうち、この開発環境（IDE）には適用されないものの解説
- ソース管理プロジェクトの設定や、ソース管理へのファイルの追加を行う管理者の手引き
- ソース管理下にあるファイルに Visual InterDev からアクセスする開発チームの手引き

詳細情報 以下の情報については、[19 ページのパート 1、『Version Manager IDE クライアント』](#)を参照してください。

- ソース管理の概念
- ソース管理のデフォルト動作
- ソース管理の詳細設定

Web ベースのプロジェクトについて

Visual InterDev は、Web ベースのプロジェクトを Web サーバに保存します。この Web ベースのプロジェクトは Version Manager で使用可能な機能のサブセットをサポートする COM（Component Object Model）インターフェイス経由で Version Manager の機能を使用します。使用可能な機能の早見表については、次のセクションを参照してください。

詳細情報 [第 3 章、41 ページの『COM IDE によるソース管理プロジェクトの セットアップ』](#)を参照してください。

サポートされる機能の Web プロジェクトからの使用

サポートされている機能 Web プロジェクトでの作業時に、Visual InterDev では、Version Manager IDE クライアントで使用可能なソース管理機能のサブセットがサポートされています。次の表を参照してください。

詳細設定のオプション Visual InterDev の Web ベースのプロジェクトでは詳細設定はサポートされません。

目的	操作	参照セクション
個別ファイルの取得	[Project (プロジェクト)] – [Source Control (ソース管理)] – [Get Latest Version (最新のファイルを取得)]	269 ページの『個別ファイルの取得』
プロジェクト内のすべての変更ファイルを更新 (取得)	[Project (プロジェクト)] – [Web Project (Web プロジェクト)] – [Refresh Project View (プロジェクトステータスの更新)]	269 ページの『プロジェクト全体の取得オプション』
変更されたローカルプロジェクトファイルのコピーと同期化 (取得)	[Project (プロジェクト)] – [Web Project (Web プロジェクト)] – [Synchronize Files (ファイルの同期)]	269 ページの『プロジェクト全体の取得オプション』
ファイルのチェックアウト	[Project (プロジェクト)] – [Source Control (ソース管理)] – [Check Out (チェックアウト)]	270 ページの『ファイルのチェックアウト』
ファイルのチェックアウトの取り消し	[Project (プロジェクト)] – [Source Control (ソース管理)] – [Undo Check Out (チェックアウトの取り消し)]	270 ページの『チェックアウトの取り消し』
ファイルのチェックイン	[Project (プロジェクト)] – [Source Control (ソース管理)] – [Check In (チェックイン)]	271 ページの『ファイルのチェックイン』
バージョンラベルの管理	[Project (プロジェクト)] – [Source Control (ソース管理)] – [Serena]	62 ページの『バージョンラベルについて』
リビジョンまたはアーカイブのプロパティの表示	(Version Manager デスクトップクライアントを使用)	『Version Manager ユーザガイド』
ソース管理動作の監視	不可	不可
履歴レポートの生成	(Version Manager デスクトップクライアントを使用)	『Version Manager ユーザガイド』
相違点レポートの生成	(Version Manager デスクトップクライアントを使用)	『Version Manager ユーザガイド』
[Version Manager Options (Version Manager オプション)] ダイアログボックスの使用	[Project (プロジェクト)] – [Source Control (ソース管理)] – [Serena]	33 ページの『[Version Manager Options (Version Manager オプション)] ダイアログボックスのデフォルト値の設定』
ソース管理への Web プロジェクトの追加	[Project (プロジェクト)] – [Source Control (ソース管理)] – [Add to Source Control (ソース管理に追加)]	267 ページの『ソース管理への Web プロジェクトの追加』
ソース管理からの Web プロジェクトの削除	[Project (プロジェクト)] – [Source Control (ソース管理)] – [Disconnect Web Project (プロジェクトの切断)]	268 ページの『ソース管理からの Web プロジェクトの削除』

目的	操作	参照セクション
Visual InterDev およびソース管理からのファイルの削除	[Edit (編集)] – [Delete (削除)]	268 ページの『Visual InterDev およびソース管理からのファイルの削除』
複数のプロジェクトによるアーカイブの共有	不可	不可

Web プロジェクトの設定

内容 このセクションでは、Web ベースの Visual InterDev プロジェクトで使用するための Version Manager IDE クライアントの設定方法を説明しています。

前提条件 設定を行う前に、以下の作業が必要です。

- Version Manager、FrontPage Server Extensions、および Version Manager IDE クライアントを Web サーバにインストールします。
- Version Manager デスクトップクライアントを使用して、Visual InterDev プロジェクトに関連付けられたソース管理プロジェクトを含むプロジェクトデータベースを作成します（このようなプロジェクトデータベースがまだ作成されていない場合）。
- Web サーバのセキュリティを設定します。
- 新しいソース管理プロジェクト用にデフォルト値を設定します。

詳細情報 [第 3 章、41 ページの『COM IDE によるソース管理プロジェクトのセットアップ』](#)を参照してください。

Visual InterDev の Web プロジェクト

Visual InterDev を使用すると、開発者はローカルワークステーションから次のいずれかの方法で Web ファイルを処理することができます。

- マスターモード (🌐)：マスターモードでは、開発者は Web サーバ上で Web アプリケーションのファイルを直接変更します（「マスター」アプリケーション）。
- ローカルモード (🌐)：ローカルモードでは、開発者は Web アプリケーションファイルのローカルコピーを変更します。変更をファイルに保存しても、マスターアプリケーションは自動的に更新されません。開発者はローカルコピーをサーバにチェックインするか、「解放」して、変更内容でマスターコピーを更新することができます。

単一の開発者 Web プロジェクトが 1 人の開発者で維持されている場合には、マスター Web アプリケーションの別個のローカルコピーを維持する必要はありません。

複数開発者 複数開発者環境では、各開発者が個別に Web アプリケーションの作業コピーを作成し、維持するように Microsoft は勧めています。このシナリオでは、開発者はローカルモードでのみ作業します。複数開発者 Web プロジェクトにおけるソース管理の操作では、一時点でファイルを変更できるのは 1 人の開発者だけに限定されます。

ソース管理への Web プロジェクトの追加

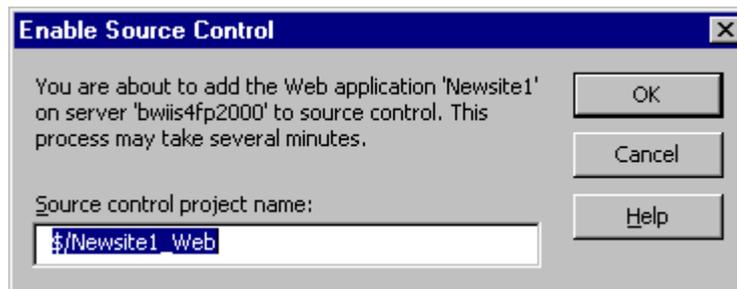
ソース管理にプロジェクトを追加すると、Version Manager プロジェクトの対応するアーカイブディレクトリにアーカイブが作成されます。



重要！ Version Manager デスクトップクライアントを使用して、ファイルを Web ベースのプロジェクトに追加しないでください。Version Manager IDE クライアントからすべてのファイルを追加してください。

Web プロジェクトをソース管理下に置くには、次の操作を行います。

- 1 Visual InterDev で Web プロジェクトを作成するか、または開きます。Web サーバ上でプロジェクトを見つけ出す必要があります。
- 2 プロジェクトエクスプローラでプロジェクトアイコン (🌐) を選択します。
- 3 [Project (プロジェクト)] メニューで [Source Control (ソース管理)] - [Add to Source Control (ソース管理に追加)] を選択します。[Enable Source Control (ソース管理の有効化)] ダイアログボックスが表示されます。



- 4 デフォルトでは、ソース管理プロジェクトには Web プロジェクトと同じ名前が付けられます。〈Source control project name (ソース管理のプロジェクト名) フィールドに新しい名前を入力できます。この名前の前には、ドル記号 (\$) とスラッシュ (/) を付ける必要があります。名前の前後にタブや空白を付けることはできません。名前には、アスタリスク (*)、コロン (:)、縦線 (|)、スラッシュ (/)、円記号 (¥)、疑問符 (?)、ポンド記号 (#)、山かっこ (<>) 以外のすべての文字を使用できます。
- 5 【OK】をクリックします。Visual InterDev プロジェクトエクスプローラのプロジェクトアイコンの隣に鍵マーク (🔑) が表示されて、プロジェクトがソース管理下に置かれたことが示されます。



注 ファイルが別のファイルに從属している場合、このファイルの 2 つのリビジョンがソース管理にチェックインされる場合があります。

ソース管理からの Web プロジェクトの削除

ソース管理からプロジェクトを削除しても、作業ファイルや Version Manager アーカイブは削除「されません」。IDE ファイルとアーカイブ間の関連付けが削除されるだけです。この後、いつでもプロジェクトを追加してソース管理に戻すことができます。



重要！ Web プロジェクトをソース管理に再度追加しても、対応する Version Manager アーカイブにファイルは再度追加されません。代わりに、ランダムな名前が付けられた新しいアーカイブが既存のプロジェクトアーカイブディレクトリに作成されます。49 ページの『ソース管理への Web ファイルの復元』を参照してください。

Web プロジェクトをソース管理から削除するには、次の操作を行います。

- 1 プロジェクトエクスプローラで Web プロジェクトアイコン (🔒🌐) を選択します。
- 2 [Project (プロジェクト)] – [Source Control (ソース管理)] – [Disconnect Web Project (プロジェクトの切断)] を選択します。
- 3 表示されるプロンプトで、【Yes (はい)】をクリックします。ソース管理からプロジェクトが削除されます。

Visual InterDev およびソース管理からのファイルの削除

ファイルを削除すると、このファイルは Visual InterDev プロジェクトからも削除され、Version Manager プロジェクトからの削除を促すメッセージが出されます。この操作でファイルは完全に削除されます。

ファイルを削除するには、次の操作を行います。

- 1 プロジェクトエクスプローラで削除するファイルを選択します。
- 2 [Edit (編集)] – [Delete (削除)] を選択します。
- 3 削除操作の確認を求めるメッセージが表示されます。【Yes (はい)】をクリックします。[Push Remove to Server (サーバに削除をプッシュ)] ダイアログボックスが表示されます。
- 4 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - Remove Now (今すぐ削除) : Version Manager からファイルのアーカイブを削除します。
 - Remind later (後で通知) : 次回、このプロジェクトの操作時に再度プロンプトが出されます。
 - Do nothing (何もしない) : ファイルはソース管理から削除されず、再度プロンプトは出されません。
- 5 【OK】をクリックします。

Web プロジェクトでのソース管理の使用

内容 このセクションでは、ソース管理下の Web ベースファイルの表示および編集に関する操作を説明します。

詳細情報 IDE でソース管理を使用する方法の詳細については、IDE に付属のヘルプとマニュアルを参照してください。

個別ファイルの取得

ファイルを取得すると、Visual InterDev ではマスターファイルのコピーをローカル作業ファイルディレクトリに作成します。これによって、ユーザのローカルコピーがマスターコピーの最新の変更で更新されます。ほかのユーザは引き続きマスターファイルをチェックアウトして編集できます。

個別ファイルの最新のファイルを取得するには、次の操作を行います。

- 1 プロジェクトエクスプローラからファイルを選択します。
- 2 [Project (プロジェクト)] メニューから [Source Control (ソース管理)] - [Get Latest Version (最新のファイルを取得)] を選択します。[Get Latest Version (最新のファイルを取得)] ダイアログボックスが表示され、選択したファイルの一覧が示されます。このリストでファイルを選択または選択解除して、選択対象を変更できます。

プロジェクトサブディレクトリ内のすべての項目を取得するには、<Directories (ディレクトリ)> チェックボックスを選択してから、<Get items from subdirectories (サブディレクトリからアイテムを取得)> チェックボックスを選択します。



ヒント 今後、[Get Latest Version (最新のファイルを取得)] ダイアログボックスが表示されないようにするには、<Don't show any more get dialogs (今後ダイアログを表示しない)> チェックボックスを選択します。

- 3 [OK] をクリックします。Web ファイルのローカルコピーが更新されます。

プロジェクト全体の取得オプション

プロジェクトのローカルコピーを更新するには、「更新する」か、「同期化」します。

ローカルプロジェクトの更新

更新では、書き込み可能ローカルファイルを除く、マスタープロジェクト内のすべての新規ファイルと変更ファイルをローカルプロジェクトにコピーします。書き込み可能ファイルを更新するには、プロジェクトを同期させます。

ローカルプロジェクトを更新するには、次の操作を行います。

- 1 プロジェクトエクスプローラで、プロジェクトを選択します。
- 2 [Project (プロジェクト)] - [Web Project (Web プロジェクト)] - [Refresh Project View (プロジェクトビューの更新)] を選択します。

ローカルプロジェクトの同期化

同期化では、マスターファイルに行われた変更を適用してすべてのローカルファイルを更新します。ローカルプロジェクトに現在含まれていないファイルを取得するには、プロジェクトを更新します。

ローカルプロジェクトを同期化するには、次の操作を行います。

- 1 プロジェクトエクスプローラで、同期化するプロジェクトを選択します。
- 2 [Project (プロジェクト)] - [Web Project (Web プロジェクト)] - [Synchronize Files (ファイルの同期)] を選択します。

ファイルのチェックアウト

ファイルをチェックアウトする場合、このファイルの最新のリビジョンがチェックアウトされます。ファイルの以前のリビジョンをチェックアウトするには、Version Manager デスクトップクライアントでアーカイブを変更する必要があります。49 ページの『[以前のリビジョンのチェックアウト](#)』を参照してください。

ファイルをチェックアウトするには、次の操作を行います。

- 1 プロジェクトエクスプローラでファイルを選択します。
- 2 [Project (プロジェクト)] – [Source Control (ソース管理)] – [Check Out (チェックアウト)] を選択します。[Check out item (アイテムのチェックアウト)] ダイアログボックスが表示され、選択したファイルの一覧が示されます。このリストでファイルを選択または選択解除して、選択対象を変更できます。



ヒント 今後、[Check out item (アイテムのチェックアウト)] ダイアログボックスが表示されないようにするには、〈Don't show any more get dialogs (今後ダイアログを表示しない)〉チェックボックスを選択します。

- 3 【OK】をクリックします。プロジェクトエクスプローラのファイルアイコンの隣に、赤いチェックマークが表示され (✓)、チェックアウトされたことが示されます。

ファイルを開く

チェックアウトしたファイルをエディタで開くには、プロジェクトエクスプローラでファイルを選択してから、[View (表示)] – [Open (開く)] を選択します。

チェックアウトの取り消し

チェックアウトを取り消すと、アーカイブのロックが解除されて読み取り専用の作業ファイルが作業ファイルの場所に残されます。ファイルに加えられた変更は、アーカイブにはチェックインされません。

チェックアウトを取り消すには、次の操作を行います。

- 1 プロジェクトエクスプローラでファイルを選択します。
- 2 [Project (プロジェクト)] – [Source Control (ソース管理)] – [Undo Check Out (チェックアウトの取り消し)] を選択します。[Undo Check Out (チェックアウトの取り消し)] ダイアログボックスが表示され、選択したファイルの一覧が示されます。このリストでファイルを選択または選択解除して、選択対象を変更できます。



ヒント 今後、[Undo Check Out (チェックアウトの取り消し)] ダイアログボックスが表示されないようにするには、〈Don't show any more get dialogs (今後ダイアログを表示しない)〉チェックボックスを選択します。

- 3 【OK】をクリックします。確認のダイアログボックスが表示されます。
- 4 【YES (はい)】をクリックします。ファイルのロックが解除されて、ファイルがチェックアウトされた以降に保存したすべての変更が破棄されます。

ファイルのチェックイン

デフォルトでは、ファイルをチェックインすると、Version Manager で次の動作が行われます。

- 最新リビジョンの次の番号が割り当てられた新規リビジョンを作成します。
- ファイルの読み取り専用コピーを作業ライブラリに残します。
- アーカイブのロックを解除してほかのユーザがファイルをチェックアウトできるようにします。

ファイルをチェックインするには、次の操作を行います。

- 1 プロジェクトエクスプローラでファイルを選択します。
- 2 [Project (プロジェクト)] - [Source Control (ソース管理)] - [Check In (チェックイン)] を選択します。[Check in item (アイテムのチェックイン)] ダイアログボックスに選択したファイルの一覧が表示されます。このリストでファイルを選択または選択解除して、選択対象を変更できます。
- 3 以下のうち必要な作業を行います。
 - 今後、[Check in item (アイテムのチェックイン)] ダイアログボックスが表示されないようにするには、〈Don't show any more get dialogs (今後ダイアログを表示しない)〉チェックボックスを選択します。
 - 【Differences (相違点)】をクリックして、チェックインするファイルとマスタープロジェクトにあるそのファイルの最新リビジョンを比較します。
- 4 〈Comment (コメント)〉フィールドにファイルの変更内容の説明を入力します。変更の説明を Version Manager デスクトップクライアントに表示できます。
- 5 変更をチェックインして、引き続きそのファイルで作業を行う場合は、〈Keep checked out (チェックアウト状態を保持)〉チェックボックスを選択します。
- 6 【OK】をクリックします。ファイルがチェックインされます。



注 ファイルが別のファイルに從属している場合、このファイルの 2 つのリビジョンがそれぞれのチェックイン操作時にチェックインされます。

新しいファイルの追加

ソース管理下にあるマスター Web アプリケーションにファイルを追加すると、ファイルがソース管理プロジェクトに自動的に追加されます。ファイルをローカルプロジェクトに追加する場合は、マスタープロジェクトに追加してソース管理下に置きます。

マスタープロジェクトにファイルを追加するには、次の操作を行います。

- 1 ローカルモードでは、プロジェクトエクスプローラでファイルを選択します。
- 2 [Project (プロジェクト)] - [Web Files (Web ファイル)] - [Add to Master Web (マスター Web に追加)] を選択します。

ファイルがマスター Web にコピーされてソース管理下に置かれます。対応する Version Manager アーカイブがプロジェクトアーカイブディレクトリに作成されます。

以前のリビジョンのチェックアウト

Visual InterDev 6.0 では、ファイルの最新（チップ）リビジョンのみがチェックアウトできるようになっています。ただし、Version Manager で以前のリビジョンを取得してから、チップリビジョンとして再びチェックインできます。この後、Visual InterDev から以前のリビジョンをチェックアウトできます。49 ページの『以前のリビジョンのチェックアウト』を参照してください。

非 Web プロジェクト

データベースやユーティリティプロジェクトなどの非 Web の Visual Studio プロジェクトでは、SCC (Source Code Control) インターフェイス経由で Version Manager と統合されます。このインターフェイスを使用することによって、Visual InterDev の Web プロジェクトでは使用できない、Version Manager の機能にアクセスすることができます。使用可能な機能の早見表については、次のセクションを参照してください。

非 Web プロジェクトでサポートされる機能の使用

サポートされている機能 非 Web プロジェクトでの作業時に、Visual InterDev では、アーカイブの共有以外の、Version Manager IDE クライアントで使用可能なソース管理の全機能がサポートされています。次の表を参照してください。



重要！ ソース管理下のプロジェクトの名前は変更しないでください。プロジェクトの名前を変更した場合は、操作する前にプロジェクトを元の名前に復元する必要があります。

目的	操作	参照セクション
プロジェクトの取得	[Project (プロジェクト)] – [Source Control (ソース管理)] – [Open Project (プロジェクトを開く)]	279 ページの『プロジェクトまたはソリューション取得』
リビジョンの取得	[Project (プロジェクト)] – [Source Control (ソース管理)] – [Get Latest Version (最新のファイルを取得)]	279 ページの『ファイルの取得』
リビジョンのチェックアウト	[Project (プロジェクト)] – [Source Control (ソース管理)] – [Check Out (チェックアウト)]	280 ページの『ファイルのチェックアウト』
リビジョンのチェックアウトの取り消し	[Project (プロジェクト)] – [Source Control (ソース管理)] – [Undo Check Out (チェックアウトの取り消し)]	280 ページの『チェックアウトの取り消し』
リビジョンのチェックイン	[Project (プロジェクト)] – [Source Control (ソース管理)] – [Check In (チェックイン)]	281 ページの『ファイルのチェックイン』
バージョンラベルの管理	[Project (プロジェクト)] – [Source Control (ソース管理)] – [Serena]	62 ページの『バージョンラベルについて』
リビジョンまたはアーカイブのプロパティの表示	[Project (プロジェクト)] – [Source Control (ソース管理)] – [Serena Properties (Serena のプロパティ)]	82 ページの『プロパティ』

目的	操作	参照セクション
ソース管理動作の監視	[Project (プロジェクト)] – [Source Control (ソース管理)] – [Serena]	83 ページの『Pulse によるソース管理動作の監視』
履歴レポートの生成	[Project (プロジェクト)] – [Source Control (ソース管理)] – [History (履歴)]	88 ページの『履歴レポートについて』
相違点レポートの生成	[Project (プロジェクト)] – [Source Control (ソース管理)] – [Compare Versions (バージョンの比較)]	91 ページの『相違点レポートについて』
[Version Manager Options (Version Manager オプション)] ダイアログボックスの使用	[Project (プロジェクト)] – [Source Control (ソース管理)] – [Serena]	33 ページの『[Version Manager Options (Version Manager オプション)] ダイアログボックスのデフォルト値の設定』
ソース管理へのプロジェクトの追加	[Project (プロジェクト)] – [Source Control (ソース管理)] – [Add (追加)]	274 ページの『ソース管理への非 Web プロジェクトの追加』
ソース管理からのプロジェクトの削除	[Project (プロジェクト)] – [Source Control (ソース管理)] – [Change Connection (接続の変更)]	277 ページの『ソース管理からの非 Web プロジェクトの削除』
ソース管理からのファイルの削除	[Project (プロジェクト)] – [Source Control (ソース管理)] – [Remove from Source Control (ソース管理から削除)]	277 ページの『ソース管理からの非 Web ファイルの削除』
Visual InterDev およびソース管理からのファイルの削除	[Edit (編集)] – [Delete (削除)]	278 ページの『Visual InterDev およびソース管理からのファイルの削除』
複数のプロジェクトによるアーカイブの共有	不可	不可

非 Web プロジェクトの設定

内容 このセクションでは、非 Web ベースの Visual InterDev プロジェクトで使用するための Version Manager IDE クライアントの設定方法を説明しています。

前提条件 設定を行う前に、以下の作業が必要です。

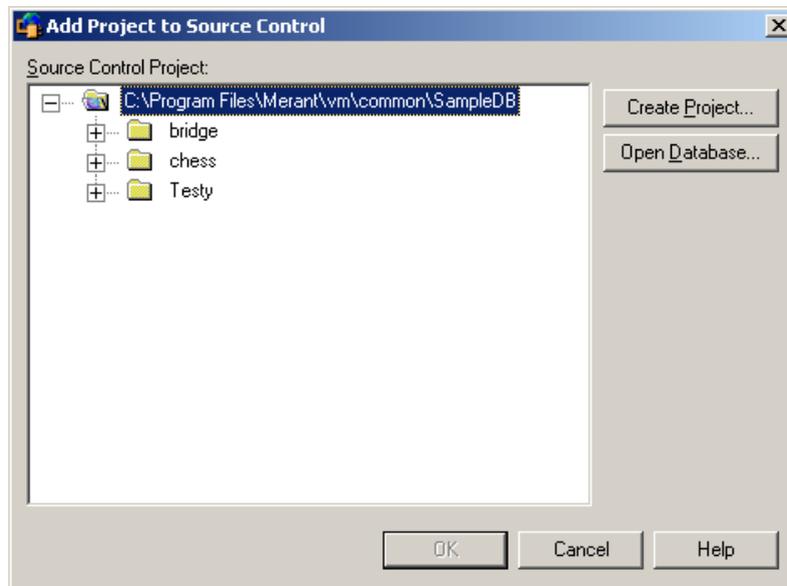
- ソース管理プロバイダとして Version Manager を選択します (複数の Serena IDE クライアントがインストールされている場合)。29 ページの『SCC プロバイダの選択』を参照してください。
- Version Manager デスクトップクライアントを使用して、Visual InterDev プロジェクトに関連付けられたソース管理プロジェクトを含むプロジェクトデータベースを作成します (このようなプロジェクトデータベースがまだ作成されていない場合)。

詳細情報 第 2 章、27 ページの『SCC IDE によるソース管理のセットアップ』を参照してください。

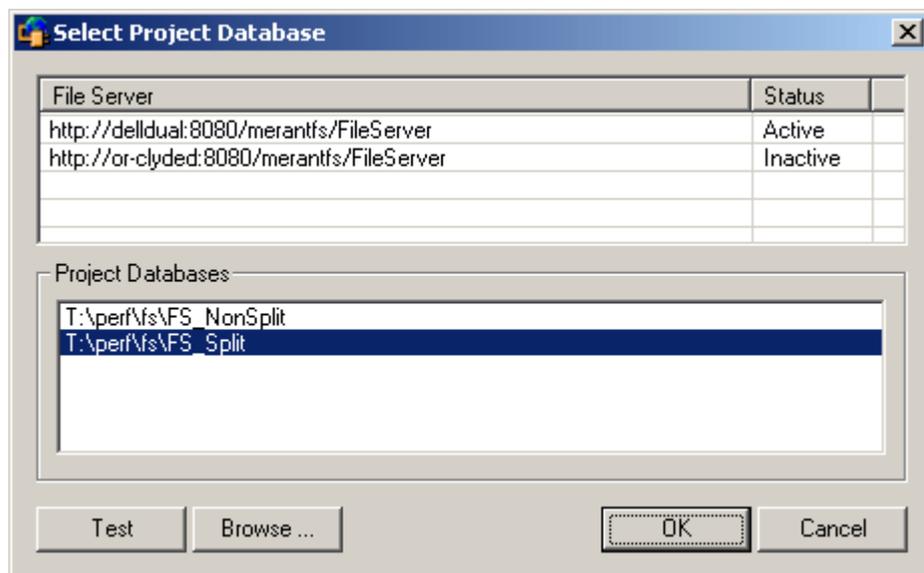
ソース管理への非 Web プロジェクトの追加

Visual InterDev プロジェクトをソース管理に追加するには、次の操作を行います。

- 1 Visual InterDev で非 Web プロジェクトを開くか、または作成します。
- 2 プロジェクトエクスプローラでプロジェクトを選択します。
- 3 [Project (プロジェクト)] – [Source Control (ソース管理)] – [Add to source control (ソース管理に追加)] を選択します。[Add Project to Source Control (ソース管理にプロジェクトを追加)] ダイアログボックスが表示されます。



- 4 <Source Control Project (ソース管理プロジェクト)> の下にデフォルトのプロジェクトデータベースが表示されます。別のプロジェクトデータベースにファイルを追加する場合は、【Open Database (データベースを開く)】 ボタンをクリックします。[Select Project Database (プロジェクトデータベースの選択)] ダイアログボックスが表示されます。



以下のいずれかを実行します。

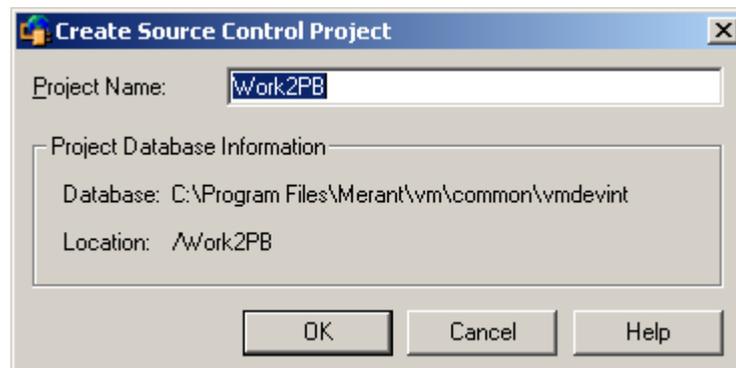
- 一覧表示されている Version Manager File Server 上にあるプロジェクトデータベースを開くには、〈Project Databases (プロジェクトデータベース)〉 リストボックスからプロジェクトデータベースを選択し、【OK】をクリックします。

Version Manager File Server をリストに追加するには、〈File Server (ファイルサーバ)〉 リストボックスの空のセルをダブルクリックしてファイルサーバのホストシステム名を入力します。ENTER キーを押すと、入力がオートコンプリート (http:// システム名:8080/serenafs/FileServer) し、テストされます。https サーバまたは非標準ポートを指定するには、オートコンプリートエントリをダブルクリックし、編集して、ENTER キーを押します。

- ローカルファイルシステムまたはネットワーク上のプロジェクトデータベースを開くには、【Browse (参照)】 ボタンをクリックして表示されるダイアログボックスから該当の場所を探します。

5 以下のいずれかを実行します。

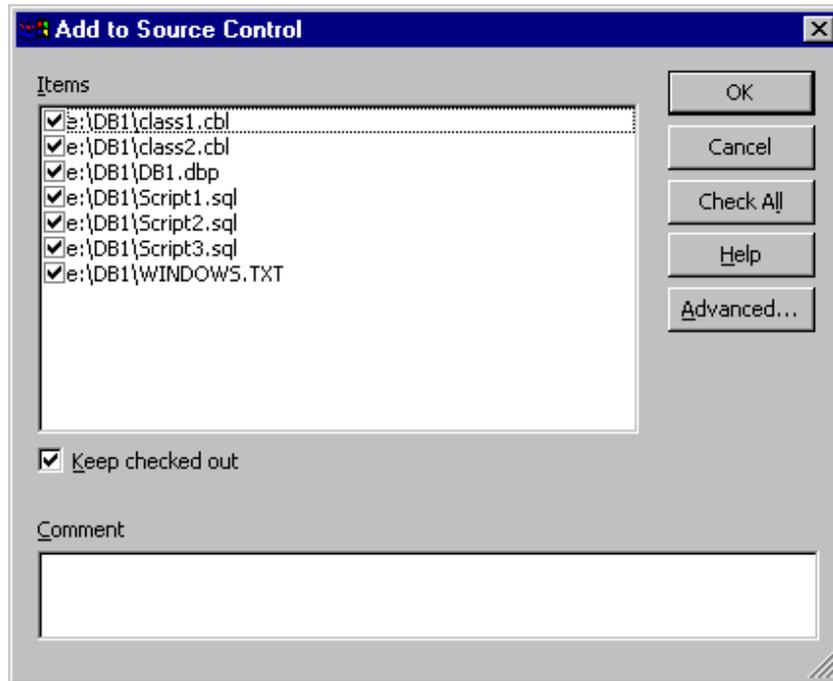
- 既存の Version Manager プロジェクトに追加するには、〈Source Control Project (ソース管理プロジェクト)〉 からプロジェクトを選択します。[手順 6](#)に進みます。
- 新規 Version Manager プロジェクトを作成するには、以下の手順に従います。
 - a 〈Select Source Control Project (ソース管理プロジェクトの選択)〉の下で、新規プロジェクトを作成するプロジェクトデータベースの場所を選択します。
 - b 【Create Project (プロジェクトの作成)】をクリックします。〔Create Source Control Project (ソース管理プロジェクトの作成)〕ダイアログボックスが表示され、現在のプロジェクトデータベースの名前と場所、およびデータベース内の新規プロジェクトの場所が表示されます。



- c 〈Project Name (名前)〉 フィールドに、新しいプロジェクト名を入力します。名前の前後にタブや空白を付けることはできません。名前には、アスタリスク (*)、コロン (:)、縦線 (|)、スラッシュ (/)、円記号 (¥)、疑問符 (?)、山かっこ (< >) 以外のすべての文字を使用できます。
- d 【OK】をクリックします。〔Add Project to Source Control (ソース管理にプロジェクトを追加)〕ダイアログボックスが再度開き、〈Source Control Project (ソース管理プロジェクト)〉の下に新規プロジェクトが表示されます。

6 【OK】 をクリックします。

〔Add to Source Control (ソース管理に追加)〕 ダイアログボックスが表示され、選択したファイルの一覧が表示されます。



重要! ルートのプロジェクト作業ディレクトリおよびそのサブディレクトリ以外に配置されたファイルが Visual InterDev プロジェクトに含まれる場合、これらのファイルをルートプロジェクトディレクトリにコピーするかどうかを確認するメッセージが表示されます。これらのファイルをルートプロジェクトディレクトリにコピーしなければ、ソース管理には追加されません。

7 次のいずれかを行います。

- 選択の変更
- リストのファイルを選択または選択解除して、ソース管理に追加するファイルの選択を変更します。デフォルトでは、プロジェクトのすべてのファイルが選択されています。
- ロックの保持
- ソース管理への追加と同時にファイルをチェックアウトし、ロックする場合は、〈Keep checked out (チェックアウト状態を保持)〉チェックボックスを選択します。
- 8 〈Comment (コメント)〉フィールドに、ファイルの説明を入力します。この説明は、選択したすべてのファイルに適用されます。



ヒント ファイルごとに固有の説明を付ける場合は、〈Comment (コメント)〉フィールドを空白のままにします。〔Add to Source Control (ソース管理に追加)〕 ダイアログボックスへの入力完了すると、ファイルごとに順次、〔Change Description (変更の説明)〕 ダイアログボックスが表示されます。

- 9 【OK】をクリックします。選択したファイルがソース管理に追加され、指定されたアーカイブディレクトリに、アーカイブが作成されます。

追加した各ファイルで、ファイルビューのファイルアイコンが変わり、ファイルがソース管理下になったことが示されます。

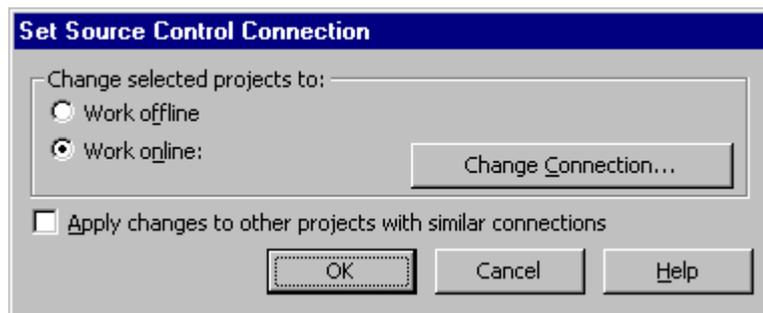
- チェックイン済み  青色の鍵は、ファイルがソース管理下にあり、現在チェックインされていることを示します。
- チェックアウト済み  赤のチェックマークは、ファイルがソース管理下にあり、現在チェックアウトされ、ロックされていることを示します。

ソース管理からの非 Web プロジェクトの削除

ソース管理からプロジェクトを削除しても、作業ファイルや Version Manager アーカイブは削除「されません」。IDE ファイルとアーカイブ間の関連付けが削除されるだけです。この後、いつでもプロジェクトを追加してソース管理に戻すことができます。

プロジェクトをソース管理から削除するには、次の操作を行います。

- 1 プロジェクトエクスプローラでプロジェクトを選択します。
- 2 [Project (プロジェクト)] - [Source Control (ソース管理)] - [Change Connection (接続の変更)] を選択します。[Set Source Control Connection (ソース管理接続の設定)] ダイアログボックスが表示されます。



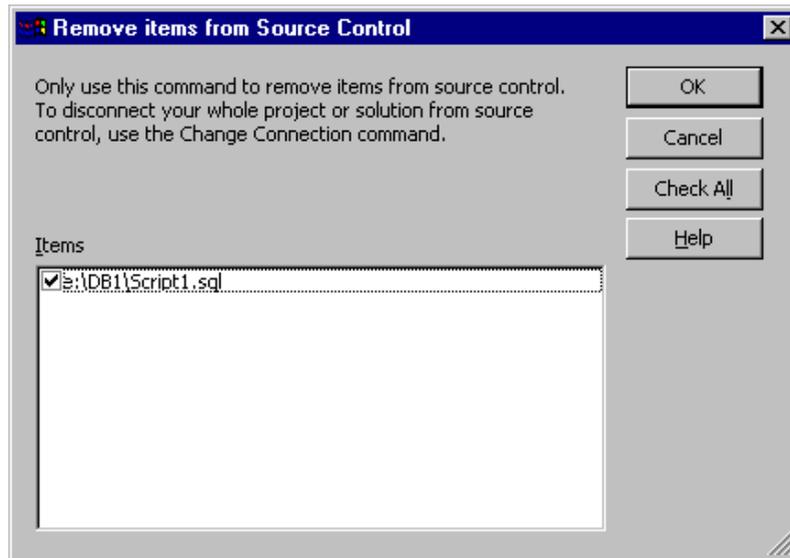
- 3 〈Work offline (オフラインで作業)〉オプションを選択します。
- 4 【OK】をクリックします。ソース管理からプロジェクトが削除されます。

ソース管理からの非 Web ファイルの削除

ソース管理からファイルを削除しても、作業ファイルや Version Manager アーカイブは削除「されません」。IDE ファイルとアーカイブ間の関連付けが削除されるだけです。この後、いつでもファイルをソース管理に戻すことができます。

ソース管理からファイルを削除するには、次の操作を行います。

- 1 プロジェクトエクスプローラで、ソース管理から削除するファイルまたはオブジェクトを選択します。
- 2 [Project (プロジェクト)] - [Source Control (ソース管理)] - [Remove from Source Control (ソース管理から削除)] を選択します。[Remove items from Source Control (ソース管理からのアイテム削除)] ダイアログボックスが示され、選択したファイルの一覧が示されます。このリストでファイルを選択または選択解除して、選択対象を変更できます。



- 3 【OK】をクリックします。ソース管理から選択したファイルが削除されます。

Visual InterDev およびソース管理からのファイルの削除

ファイルを削除すると、このファイルは Visual InterDev プロジェクトからも削除され、Version Manager プロジェクトからの削除を促すメッセージが出されます。この操作でファイルは完全に削除されます。

ファイルを削除するには、次の操作を行います。

- 1 プロジェクトエクスプローラで削除するファイルを選択します。
- 2 [Edit (編集)] - [Delete (削除)] を選択します。
- 3 削除操作の確認を求めるメッセージが表示されます。【Yes (はい)】をクリックします。[Push Remove to Server (サーバに削除をプッシュ)] ダイアログボックスが表示されます。
- 4 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - Remove Now (今すぐ削除) : Version Manager からファイルのアーカイブを削除します。
 - Remind later (後で通知) : 次回、このプロジェクトの操作時に再度プロンプトが出されます。
 - Do nothing (何もしない) : ファイルはソース管理から削除されず、再度プロンプトは出されません。
- 5 【OK】をクリックします。

非 Web プロジェクトでのソース管理の使用

内容 このセクションでは、ソース管理下の非 Web ファイルの表示および編集に関する操作を説明します。

詳細情報 第 4 章、53 ページの『ソース管理の使用法』を参照してください。

プロジェクトまたはソリューション取得

Visual InterDev プロジェクトまたはソリューションを取得すると、そのプロジェクトまたはソリューション内の全ファイルが、作業ファイルの場所に読み取り専用ファイルとしてコピーされます。

ソース管理からプロジェクトを取得するには、次の操作を行います。

- 1 [File (ファイル)] - [Open Project (プロジェクトの作成)] を選択します。[Open Project (プロジェクトを開く)] ダイアログボックスが表示されます。



注 最初に Visual InterDev を起動すると、[Open Project (プロジェクトを開く)] ダイアログボックスも表示されます。

- 2 [Existing (既存)] タブを選択します。
- 3 【Source Control (ソース管理)】をクリックします。[Connect Project to Source Control (ソース管理へのプロジェクトの接続)] ダイアログボックスで、デフォルトのプロジェクトデータベースが (Source Control Project (ソース管理プロジェクト)) の下に示された状態で表示されます。プロジェクトを別のプロジェクトデータベースから取得する場合は、【Open Database (データベースを開く)】をクリックし、ブラウズしてファイルを選択します。
- 4 プロジェクトデータベースから開く Version Manager プロジェクトを選択します。
- 5 (Workfile Location (作業ファイルの場所)) フィールドにすべてのプロジェクトファイルに対する場所を入力するか、または【Browse (参照)】ボタンをクリックして場所を選択し、参照してください。
- 6 【OK】をクリックします。選択した作業ファイルの場所の、選択した Version Manager プロジェクト内のすべてのソリューションおよびプロジェクトが [Open Project (プロジェクトを開く)] ダイアログボックスに表示されます。
- 7 開く Visual InterDev プロジェクトまたはソリューションを選択します。プロジェクトを開くと、新規ソリューションの下に表示されます。
- 8 [Open Project (プロジェクトを開く)] ダイアログボックスで、【OK】をクリックします。

ファイルの取得

ファイルを取得すると、選択されたリビジョンが、作業ファイルの場所に読み取り専用ファイルとしてコピーされます。

リビジョンを取得するには、次の操作を行います。

- 1 プロジェクトエクスプローラからファイルを選択します。
- 2 [Project (プロジェクト)] - [Source Control (ソース管理)] - [Get Latest Version (最新のファイルを取得)] を選択します。[Get Latest Version (最新のファイルを取得)] ダイアログボックスが表示され、選択したファイルの一覧が示されます。このリストでファイルを選択または選択解除して、選択対象を変更できます。

3 以下のうち必要な作業を行います。

- プロジェクト内のすべての項目を取得するには、〈Directories (ディレクトリ)〉チェックボックスを選択してから、〈Get items from subdirectories (サブディレクトリからアイテムを取得)〉チェックボックスを選択します。
- 今後、〔Get Latest Version (最新のファイルを取得)〕ダイアログボックスが表示されないようにするには、〈Don't show any more get dialogs (今後ダイアログを表示しない)〉チェックボックスを選択します。

4 以下のいずれかを実行します。

詳細設定の使用

- デフォルトの取得オプションを変更するには、【Advanced (詳細)】をクリックします。〔ChangeMan Advanced Get (取得の詳細設定)〕ダイアログボックスが表示されます (詳細設定については、54 ページの『ファイルの取得』を参照してください)。

デフォルト値の使用

- デフォルトの取得オプションを使用する場合は、【OK】をクリックします。選択したリビジョンがコピーされ、読み取り専用の作業ファイルが作業ファイル場所に配置されます。

ファイルのチェックアウト

ファイルをチェックアウトすると、Version Manager はそのファイルをロックし、作業ファイルの場所に書き込み可能な作業ファイルを作成します。

ファイルをチェックアウトするには、次の操作を行います。

- 1 プロジェクトエクスプローラでチェックアウトするファイルを選択します。
- 2 [Project (プロジェクト)] - [Source Control (ソース管理)] - [Check Out (チェックアウト)] を選択します。〔Check out item (アイテムのチェックアウト)〕ダイアログボックスが表示され、選択したファイルの一覧が示されます。このリストでファイルを選択または選択解除して、選択対象を変更できます。



ヒント 今後、〔Check out item (アイテムのチェックアウト)〕ダイアログボックスが表示されないようにするには、〈Don't show any more get dialogs (今後ダイアログを表示しない)〉チェックボックスを選択します。

3 以下のいずれかを実行します。

詳細設定の使用

- デフォルトのチェックアウトオプションを変更するには、【Advanced (詳細)】をクリックします。〔ChangeMan Advanced Check Out (ChangeMan チェックアウトの詳細設定)〕ダイアログボックスが表示されます (詳細設定については、57 ページの『ファイルのチェックアウト』を参照してください)。

デフォルト値の使用

- デフォルトのチェックアウトオプションを使用するには、【OK】をクリックします。プロジェクトエクスプローラのファイルアイコンの隣に、赤いチェックマーク (✓) が表示され、チェックアウトされたことが示されます。

ファイルの編集

ソース管理からチェックアウトされたファイルを編集するには、ファイルをダブルクリックするか、ファイルを右クリックしてコンテキストメニューで [Edit (編集)] を選択します。

チェックアウトの取り消し

チェックアウトを取り消すと、アーカイブのロックが解除されて読み取り専用の作業ファイルが作業ファイルの場所に残されます。ファイルに加えられた変更は、アーカイブにはチェックインされません。

チェックアウトを取り消すには、次の操作を行います。

- 1 プロジェクトエクスプローラでファイルを選択します。
- 2 [Project (プロジェクト)] – [Source Control (ソース管理)] – [Undo Check Out (チェックアウトの取り消し)] を選択します。[Undo Check Out (チェックアウトの取り消し)] ダイアログボックスが表示され、選択したファイルの一覧が示されます。このリストでファイルを選択または選択解除して、選択対象を変更できます。



ヒント 今後、[Undo Check Out (チェックアウトの取り消し)] ダイアログボックスが表示されないようにするには、〈Don't show any more get dialogs (今後ダイアログを表示しない)〉チェックボックスを選択します。

- 3 以下のいずれかを実行します。

詳細設定の使用

- デフォルトのチェックアウト取り消しオプションを変更するには、【Advanced (詳細)] をクリックします。[ChangeMan Advanced Undo Check Out (ChangeMan チェックアウト取り消しの詳細設定)] ダイアログボックスが表示されます (詳細設定については、59 ページの『チェックアウトの取り消しについて』を参照してください)。

デフォルト値の使用

- デフォルトのチェックイン取り消しオプションをそのまま使用する場合は、【OK] をクリックします。ファイルビュー表示部のファイルアイコンから赤いチェックマーク (☑) が消えて、ファイルのロックが解除されたことが示されます。

ファイルのチェックイン

作業ファイルをチェックインすると、デフォルトでは、以下の処理が行われます。

- 新規リビジョンが作成され、それまでの最新リビジョンの次の番号が割り当てられます。
- オブジェクトの読み取り専用コピーは作業ライブラリに残されます。
- アーカイブのロックが解除されます。

ファイルをチェックインするには、次の操作を行います。

- 1 プロジェクトエクスプローラでチェックインするファイルを選択します。
- 2 [Project (チーム)] – [Source Control (ソース管理)] – [Check In (チェックイン)] を選択します。[Check In item(s) (アイテムのチェックイン)] ダイアログボックスが表示され、選択したファイルの一覧が示されます。このリストでファイルを選択または選択解除して、選択対象を変更できます。



ヒント 今後、[Check in item (アイテムのチェックイン)] ダイアログボックスが表示されないようにするには、〈Don't show any more get dialogs (今後ダイアログを表示しない)〉チェックボックスを選択します。

- 3 以下のうち必要な作業を行います。

ロックの保持

- チェックインした後にファイルのロックを保持するには、〈Keep Checked Out (チェックアウト状態を保持)〉チェックボックスを選択します。

ファイルの比較

- 1 つのアーカイブ内の 2 つのリビジョン、2 つのアーカイブ、2 つの作業ファイル、1 つのリビジョンと 1 つの作業ファイルそれぞれでリビジョンを比較するには、【Differences (相違点)] をクリックします。[Show Differences (相違点の表示)] ダイアログボックスが表示されます。詳細は、91 ページの『相違点レポートについて』を参照してください。

- 4 変更内容の説明を〈Comment (コメント)〉フィールドに入力します。この説明は、選択したすべてのファイルに適用されます。



注 ファイルごとに固有の説明を付ける場合は、〈Comment (コメント)〉フィールドを空白のままにします。〔Check In File(s) (ファイルのチェックイン)〕ダイアログボックスへの入力 completed と、ファイルごとに順次、〔Change Description (変更の説明)〕ダイアログボックスが表示されます。

- 5 以下のいずれかを実行します。

詳細設定の使用

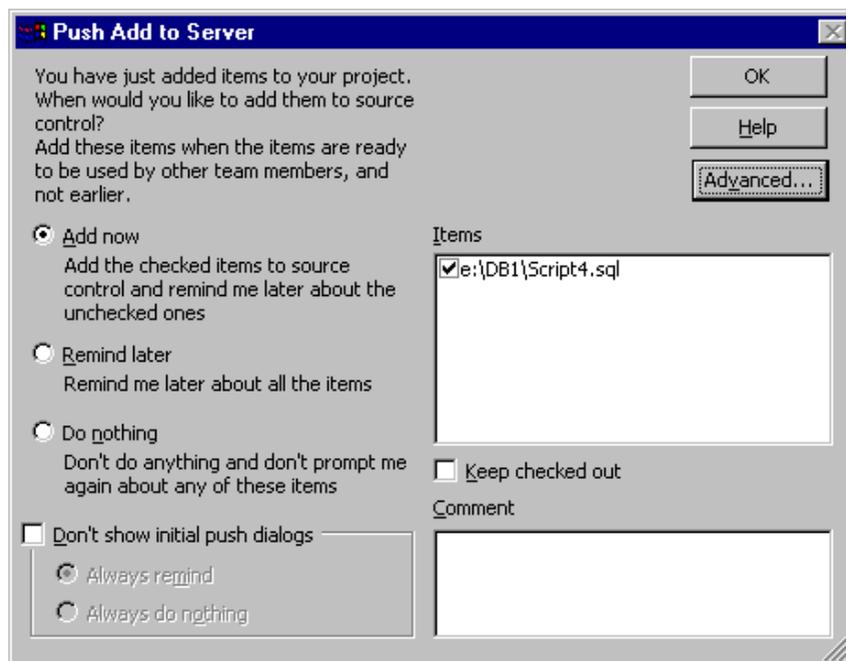
- デフォルトのチェックインオプションを変更するには、【Advanced (詳細)】をクリックします。〔ChangeMan Advanced Check In (ChangeMan チェックインの詳細設定)〕ダイアログボックスが表示されます (詳細設定については、60 ページの『ファイルのチェックイン』を参照してください)。

デフォルト値の使用

- デフォルトのチェックインオプションを変更しない場合は、【OK】をクリックします。プロジェクトエクスプローラのファイルアイコンから赤いチェックマーク (✓) が削除され、ファイルがチェックインされたことが示されます。

新しいファイルの追加

新規ファイルを Visual InterDev プロジェクトに追加すると、〔Push Add to Server (サーバへの追加のプッシュ)〕ダイアログボックスが表示されます。



以下のいずれかを実行します。

Add now
(今すぐ追加)

- 新しいファイルをソース管理に追加するには、〈Add now (今すぐ追加)〉を選択します。次の『ソース管理に今すぐ追加』に進みます。

Remind later
(後で通知)

- 次回ファイルをチェックインするか、またはファイルをソース管理に追加するファイルについて通知を受けようにするには、〈Remind later (後で通知)〉を選択して【OK】をクリックします。

- Do nothing (何もしない)
- 対応するアーカイブを Version Manager プロジェクトに作成せずに、Visual InterDev プロジェクトにファイルを追加するには、〈Do nothing (何もしない)〉を選択して【OK】をクリックします。後でプロンプトが表示されます。

ソース管理に今すぐ追加

〔Push Add to Server (サーバへ追加をプッシュ)〕ダイアログボックスの〈Add now (今すぐ追加)〉オプションを選択した後、次の手順を実行して新規ファイルをソース管理に追加します。

- 1 以下のうち必要な作業を行います。
 - 選択対象ファイルを変更するには、〈Items (アイテム)〉の下に一覧されているファイルを選択または選択解除します。
 - 追加された後にファイルのロックを保持するには、〈Keep checked out (チェックアウト状態を保持)〉チェックボックスを選択します。
- 2 〈Comment (コメント)〉フィールドに、ファイルの説明を入力します。この説明は、選択したすべてのファイルに適用されます。
- 3 以下のいずれかを実行します。

詳細設定の使用

- デフォルトの追加オプションを変更するに、【Advanced (詳細)】をクリックします。〔ChangeMan Advanced Add (追加の詳細設定)〕ダイアログボックスが開きます (詳細設定については、[37 ページの『追加の詳細設定』](#)を参照してください)。

デフォルト値の使用

- デフォルトのオプションをそのまま使用する場合は、【OK】をクリックします。

第 17 章

Visual Studio : SCC 統合

はじめに	286
サポートされている機能の使用	286
Visual Basic のファイルについて	287
ソース管理プロジェクトの設定	288
ソース管理の使用法	295

はじめに

目的 この章の目的は、以下の 4 つです。

- Microsoft® Visual Studio .NET 2003 および Microsoft® Visual Studio 2005 から使用可能な Version Manager の各機能の紹介と、それらの機能の使用方法的説明



注 この章では、SCC 統合 (SCC/COM IDE クライアント) について説明します。Visual Studio .NET 2003 のリッチな統合 (VS .NET 用のプラグイン) をインストールした場合は、[第 18 章、301 ページの『Visual Studio .NET 2003 のリッチな統合』](#)を参照してください。Visual Studio 2005 のリッチな統合 (VS 2005 用のプラグイン) をインストールした場合は、[第 19 章、353 ページの『Visual Studio 2005 のリッチな統合』](#)を参照してください。

- このマニュアルのパート 1 で解説された機能のうち、この開発環境 (IDE) には適用されないものの解説
- ソース管理プロジェクトの設定や、ソース管理へのファイルの追加を行うユーザの手引き
- ユーザがソース管理下のファイルを IDE から使用するための手引き

詳細情報 以下の情報については、[19 ページのパート 1、『Version Manager IDE クライアント』](#)を参照してください。

- ソース管理の概念
- ソース管理のデフォルト動作
- ソース管理の詳細設定

サポートされている機能の使用

サポートされている機能 Visual Studio では、Version Manager IDE クライアントで使用可能なソース管理の全機能がサポートされます。次の表を参照してください。

目的	操作	参照セクション
リビジョンの取得	[File (ファイル)] – [Source Control (ソース管理)] – [Get (取得)]	295 ページの『ファイルの取得』
ソース管理からプロジェクトを開く	[File (ファイル)] – [Source Control (ソース管理)] – [Open From Source Control (ソース管理を開く)]	294 ページの『ソース管理プロジェクトに追加するワークステーションを増やす』
リビジョンのチェックアウト	[File (ファイル)] – [Source Control (ソース管理)] – [Check Out (チェックアウト)]	296 ページの『ファイルのチェックアウト』
リビジョンのチェックアウトの取り消し	[File (ファイル)] – [Source Control (ソース管理)] – [Undo Checkout (チェックアウトの取り消し)]	298 ページの『チェックアウトの取り消し』
リビジョンのチェックイン	[File (ファイル)] – [Source Control (ソース管理)] – [Check In (チェックイン)]	298 ページの『ファイルのチェックイン』
バージョンラベルの管理	[File (ファイル)] – [Source Control (ソース管理)] – [Serena Source Control (Serena ソース管理)]	62 ページの『バージョンラベルについて』

目的	操作	参照セクション
リビジョンまたはアーカイブのプロパティの表示	[File (ファイル)] - [Source Control (ソース管理)] - [Serena Properties (Serena のプロパティ)]	82 ページの『プロパティ』
ソース管理動作の監視	[File (ファイル)] - [Source Control (ソース管理)] - [Serena Source Control (Serena ソース管理)]	83 ページの『Pulse によるソース管理動作の監視』
履歴レポートの生成	[File (ファイル)] - [Source Control (ソース管理)] - [History (履歴)]	88 ページの『履歴レポートについて』
相違点レポートの生成	[File (ファイル)] - [Source Control (ソース管理)] - [Compare Versions (バージョンの比較)]	91 ページの『相違点レポートについて』
[Version Manager Options (Version Manager オプション)] ダイアログボックスの使用	[File (ファイル)] - [Source Control (ソース管理)] - [Serena Source Control (Serena ソース管理)]	33 ページの『[Version Manager Options (Version Manager オプション)] ダイアログボックスのデフォルト値の設定』
ソース管理への非 Web ソリューションの追加	[File (ファイル)] - [Source Control (ソース管理)] - [Add Solution to Source Control (ソース管理へのソリューションの追加)]	290 ページの『ソース管理への Visual Studio ファイルの追加』
ソース管理への Web プロジェクトおよび非 Web プロジェクトの追加	[File (ファイル)] - [Source Control (ソース管理)] - [Add Selected Projects to Source Control (ソース管理への選択したプロジェクトの追加)]	290 ページの『ソース管理への Visual Studio ファイルの追加』
ソース管理からのファイルの除外または削除	[File (ファイル)] - [Source Control (ソース管理)] - [Exclude Selection from Source Control (ソース管理からのファイルの削除)]	290 ページの『ソース管理からのファイルの除外または削除』
Visual Studio に SCC オプションを設定	[Tools (ツール)] - [Options (オプション)]	289 ページの『ソース管理動作の設定』
複数のプロジェクトによるアーカイブの共有	[File (ファイル)] - [Source Control (ソース管理)] - [Share (共有)]	38 ページの『複数のプロジェクトによるファイルの共有』

Visual Basic のファイルについて

バイナリファイルとテキストファイル

Visual Basic プロジェクトにはバイナリファイルと対になったテキストファイルがありますが、通常、Visual Studio インターフェイスにはこのバイナリファイルは表示されません。バイナリファイルは、IDE での作業時には非表示のままですが、表示されるファイルに適用するソース管理の動作との同期が保持されます。たとえば、ファイル Form2.vb をチェックアウトすると、バイナリファイル Form2.resx もチェックアウトされます。

同期をとらない
リビジョン番号

ただし、ファイルのリビジョン番号が同期しないこともあります。これは、テキストファイルに影響を及ぼすプログラミング変更の中には、バイナリファイルに影響を及ぼさないものもあるからです。デフォルトでは、上記のような変更を行った後でプロジェクトをチェックインすると、バイナリファイルを変更しなかった場合でも、両方のファイルがチェックインされます。ただし、デフォルトのチェックイン動作を変更した場合は、テキストファイルのみが新規リビジョンにチェックインされるので、両方のファイルの同期がずれません。



重要！

- デフォルトでは、ファイルが変更されていなかったり、最新リビジョンより古い場合でも、IDE クライアントによってファイルがチェックインされます。このデフォルトは変更しないでください。デフォルトが変更されている場合、元に戻す方法は、[34 ページの『デフォルトの設定』](#)を参照してください。
- Version Manager デスクトップクライアントを使用して Visual Basic ファイルにソース管理アクションを適用する場合は、テキストファイルとバイナリファイルの両方を選択するようにしてください。そうしないとファイルが同期されません。未変更のファイルもチェックインの対象にする必要があります。

TrackerLink ユーザ

TrackerLink を使用して、Visual Basic ファイルの対を Issue と関連付ける場合は、Tracker からの説明が、テキストファイルでしか受け取られない可能性があります。この場合、バイナリファイルは、デフォルトの変更の説明を受け取ります。これは、テキストファイルに影響を及ぼすプログラミング変更の中には、バイナリファイルに影響を及ぼさないものもあるからです。



注 バイナリファイルを表示するには、ソリューションエクスプローラで【Show All Files (すべてのファイルを表示)】をクリックします。

ソース管理プロジェクトの設定

内容 このセクションでは、Visual Studio で使用するための Version Manager IDE クライアントの設定方法を説明しています。

前提条件 設定を行う前に、以下の作業が必要です。

- ソース管理プロバイダとして Version Manager を選択します（複数の Serena IDE クライアントがインストールされている場合）。[29 ページの『SCC プロバイダの選択』](#)を参照してください。
- Version Manager デスクトップクライアントを使用して、Visual Studio .NET プロジェクトに関連付けられたソース管理プロジェクトを含むプロジェクトデータベースを作成します（このようなプロジェクトデータベースがまだ作成されていない場合）。

詳細情報 [第 2 章、27 ページの『SCC IDE によるソース管理のセットアップ』](#)を参照してください。

Visual Studio .NET 2003 から Visual Studio 2005 へのアップグレード

Visual Studio 2005 で Visual Studio .NET 2003 ソリューションを開くと、Visual Studio 変換ウィザードが表示されます。この Microsoft ウィザードは、ご使用中のソリューションを新しい Visual Studio 2005 フォーマットに変換します。変換が完了した後は、引き続き SCC (ソースコード管理) の Version Manager への統合を使用できます。



重要! リッチな Version Manager 統合に移行する場合は、[第 19 章、353 ページの『Visual Studio 2005 のリッチな統合』](#)を参照してください。

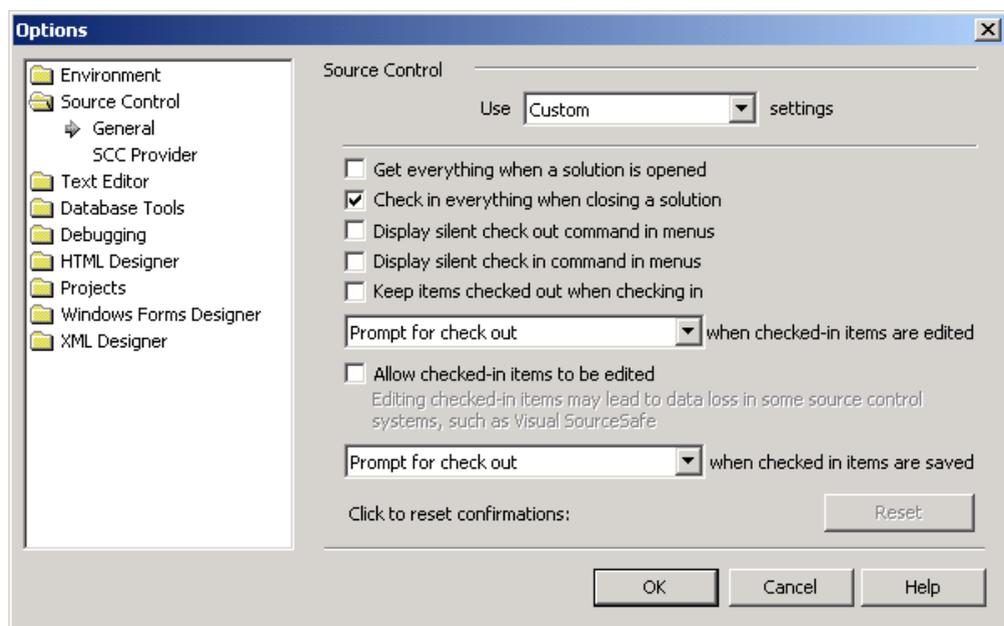
ソース管理動作の設定

Visual Studio で次の操作を実行できるように、Visual Studio を設定します。

- ソース管理操作を自動的に起動
- ソース管理操作を起動しない
- ソース管理操作の起動に権限の確認を表示する

Visual Studio のソース管理動作を設定するには、次の操作を行います。

- 1 [Tools (ツール)] – [Options (オプション)] を選択します。[Options (オプション)] ダイアログボックスが表示されます。



- 2 左側の画面で〈Source Control (ソース管理)〉フォルダを選択します。
- 3 有効または無効にする機能を選択または選択解除します。各機能の詳細については、Visual Studio のマニュアルを参照してください。
- 4 【OK】をクリックします。

Web プロジェクトの設定

デフォルトでは、Visual Studio は、Web プロジェクトおよび非 Web プロジェクトの両方に対して SCC インターフェイス（ファイル共有）を使用するように設定されています。これは推奨設定ですが、Visual InterDev 6 では、Web プロジェクトに対して COM インターフェイス（FrontPage Extensions）を使用しているため、ユーザにとっては未知の設定の可能性があります。

Web プロジェクトへのアクセスを設定するには、次の操作を行います。

- 1 [Tools (ツール)] - [Options (オプション)] を選択します。[Options (フォルダオプション)] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 <Projects (プロジェクト)> フォルダを開いて、[Web Settings (Web 設定)] を選択します。
- 3 <File share (ファイル共有)> オプションを選択します。
- 4 【OK】をクリックします。

Web プロジェクトの処理についての詳細は、Visual Studio のマニュアルを参照してください。

ソース管理からのファイルの除外または削除

「ソース管理から除外」機能を次の 2 つの方法で使用できます。

- プロジェクトがソース管理下に置かれる前。選択したワークスペースファイルのアーカイブファイルが作成されないようにします。
- プロジェクトがソース管理下に置かれた後。既存のアーカイブファイルを保持しますが、除外が削除されるまで新規リビジョンが追加されないようにします。

ソース管理からファイルを除外するには、次の操作を行います。

- 1 プロジェクトエクスプローラでファイルを選択します。
- 2 [File (ファイル)] - [Source Control (ソース管理)] - [Exclude Selection from Source Control (ソース管理から選択したファイルを削除)] を選択します。



注 プロジェクトファイルがまだチェックアウトされていない場合、チェックアウトを促すメッセージが表示されます。

プロジェクトがソース管理下にある場合は、赤い円 (⊖) が各ファイルアイコンの左側に表示されます。



注 除外を削除するには、上記手順を繰り返します。

ソース管理への Visual Studio ファイルの追加

ファイルをソース管理に追加するには、次の操作を行います。

- 1 以下のいずれかを実行します。
 - Web プロジェクトをソース管理に追加するには、次の操作を行います。
 - a ソリューションエクスプローラ画面でプロジェクトを選択します。

- b [Add Selected Projects to Source Control (ソース管理に選択したプロジェクトを追加)] を選択します。



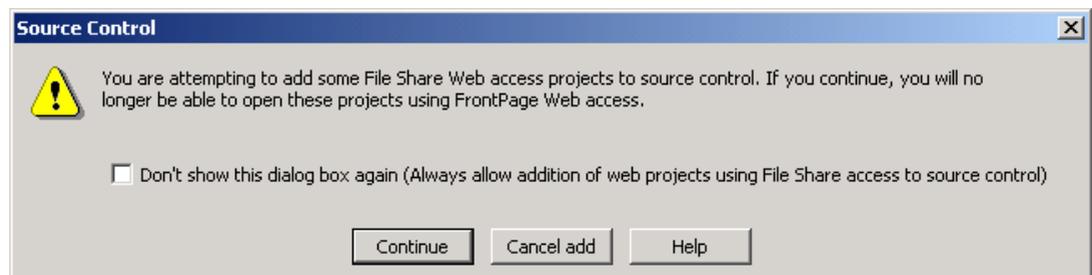
重要! Web ソリューションをソース管理に追加しないでください。代わりに Web プロジェクトを選択してください。

- 非 Web ソリューションおよびその中のプロジェクトをソース管理に追加するには、[File (ファイル)] - [Source Control (ソース管理)] - [Add Solution to Source Control (ソース管理へのソリューションの追加)] を選択します。
- ソリューションをソース管理下に置かずに、プロジェクトをソース管理に追加するには、次の操作を行います。
 - a ソリューションエクスプローラ画面でプロジェクトを右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
 - b [Add Project to Source Control (ソース管理にプロジェクトを追加)] を選択します。
- ソリューションをがすでにソース管理下にあるときに、新規プロジェクトをソース管理に追加するには、次の操作を行います。
 - a ソリューションの初期プロジェクトの下のディレクトリに新規プロジェクトを作成します。新規プロジェクトのファイルが「チェックインの保留」表示部に表示されます。
 - b 【Check In (チェックイン)】 をクリックします。

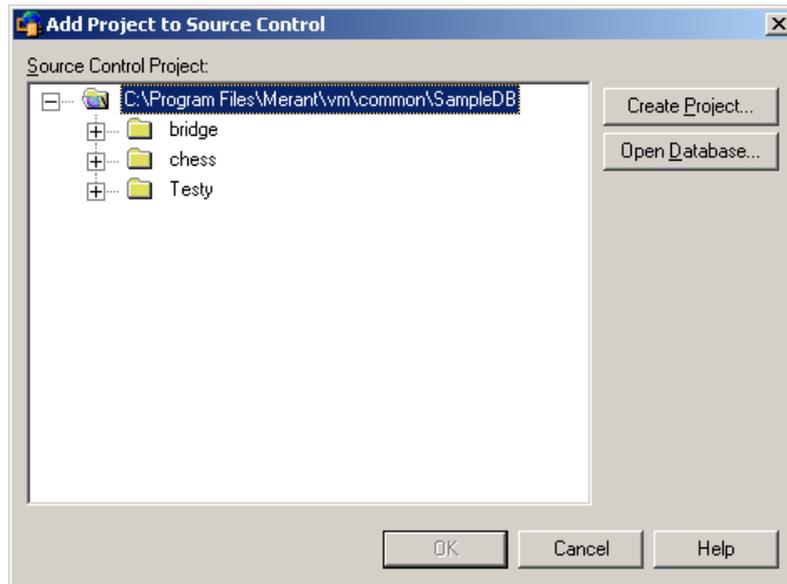


重要! すでにソース管理下にある既存のソリューションまたはプロジェクトにプロジェクトまたはファイルを追加するには、最初にソリューションまたはプロジェクトをチェックアウトする必要があります。

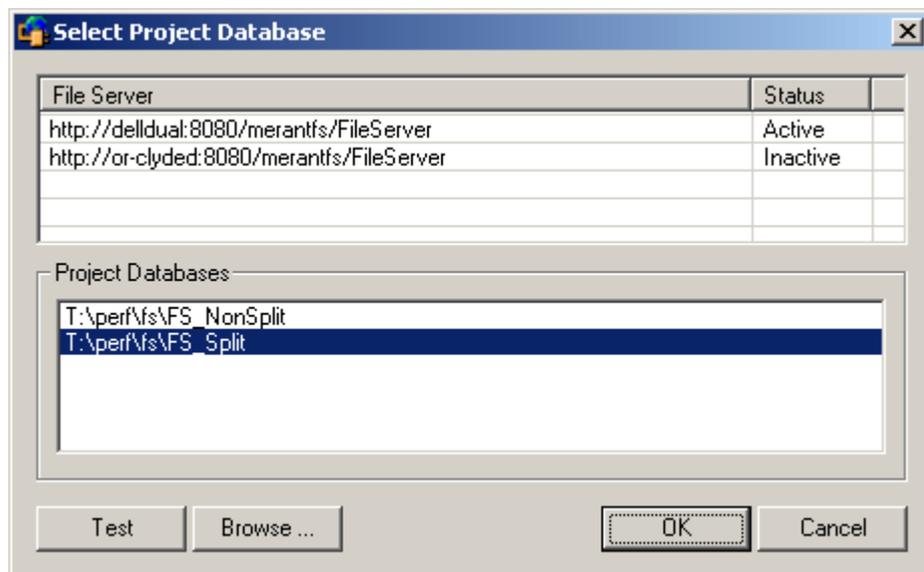
- 2 Web プロジェクトを追加する場合、次のダイアログが表示される場合があります。【Continue (続行)】 をクリックします。詳細は、290 ページの『Web プロジェクトの設定』を参照してください。



- 3 [Tools (ツール)] – [Serena] – [Add Project to Serena (Serena ヘプロジェクトを追加)] を選択します。[Add Project to Source Control (ソース管理にプロジェクトを追加)] ダイアログボックスが表示されます。



- 4 <Source Control Project (ソース管理プロジェクト)> の下にデフォルトのプロジェクトデータベースが表示されます。別のプロジェクトデータベースにファイルを追加する場合は、【Open Database (データベースを開く)】 ボタンをクリックします。[Select Project Database (プロジェクトデータベースの選択)] ダイアログボックスが表示されます。



以下のいずれかを実行します。

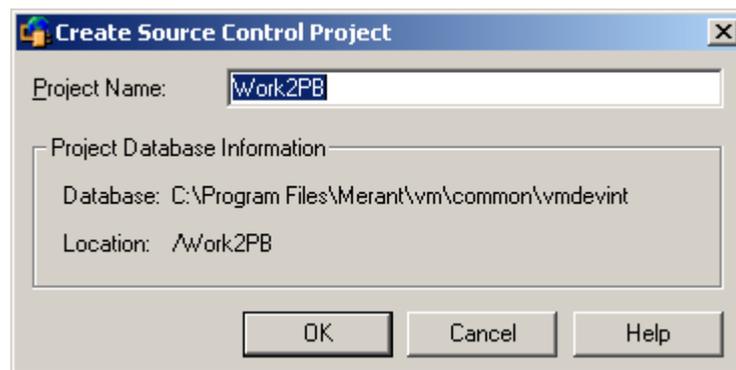
- 一覧表示されている Version Manager File Server 上にあるプロジェクトデータベースを開くには、〈Project Databases (プロジェクトデータベース)〉リストボックスからプロジェクトデータベースを選択し、【OK】をクリックします。

Version Manager File Server をリストに追加するには、〈File Server (ファイルサーバ)〉リストボックスの空のセルをダブルクリックしてファイルサーバのホストシステム名を入力します。ENTER キーを押すと、入力がオートコンプリート (http:// システム名:8080/serenafs/FileServer) し、テストされます。https サーバまたは非標準ポートを指定するには、オートコンプリートエントリをダブルクリックし、編集して、ENTER キーを押します。

- ローカルファイルシステムまたはネットワーク上のプロジェクトデータベースを開くには、【Browse (参照)】 ボタンをクリックして表示されるダイアログボックスから該当の場所を探します。

5 以下のいずれかを実行します。

- 既存のソース管理プロジェクトに追加するには、〈Source Control Project (ソース管理プロジェクト)〉からプロジェクトを選択し、【OK】をクリックします。手順 6 に進みます。
- **新規 Version Manager プロジェクトを作成するには、以下の手順に従います。**
 - a 〈Select Source Control Project (ソース管理プロジェクトの選択)〉の下で、新規プロジェクトを作成するプロジェクトデータベースの場所を選択します。
 - b 【Create Project (プロジェクトの作成)】をクリックします。〔Create Source Control Project (ソース管理プロジェクトの作成)〕ダイアログボックスが表示されます。



〈Project Database Information (プロジェクトデータベース情報)〉グループには、現在のプロジェクトデータベースの名前と場所、およびこのデータベース内の新規プロジェクトの場所が表示されます。

- c デフォルトでは、新しい Version Manager プロジェクトでは IDE プロジェクトと同じ名前を使用します。必要な場合、〈Project Name (プロジェクト名)〉フィールドに別の名前を入力します。

名前の前後にタブや空白を付けることはできません。名前には、アスタリスク (*)、コロン (:)、縦線 (|)、スラッシュ (/)、円記号 (¥)、疑問符 (?)、山かっこ (< >) 以外のすべての文字を使用できます。

- d 【OK】をクリックします。〔Add Project to Source Control (ソース管理にプロジェクトを追加)〕ダイアログボックスが再度開き、〈Source Control Project (ソース管理プロジェクト)〉の下に新規プロジェクトが表示されます。

6 【OK】をクリックします。〔Change Description (変更の説明)〕ダイアログボックスが表示されます。

- 7 以下のうち必要な作業を行います。
 - 〈Description (コメント)〉フィールドに、ファイルの説明を入力します。
 - すべてのファイルに対して同じ説明を使用するには、〈Use description for all (この説明をすべてのファイルに適用)〉チェックボックスを選択します。
 - 各ファイルに異なる説明を使用するには、〈Use description for all (この説明をすべてのファイルに適用)〉チェックボックスを選択「しない」でください。各ファイルで〔Change Description (変更の説明)〕ダイアログボックスが順次表示されます。



注 Visual Basic :

Visual Studio では、バイナリファイルは通常非表示になりますが、Visual Basic プロジェクトのテキストファイルとバイナリファイルの両方に説明の入力を求めるメッセージが表示されます。

- 8 【OK】をクリックします。青色のパッドロック (🔒) が各ファイルアイコンの左側に表示され、ファイルがソース管理にチェックインされたことを示します。

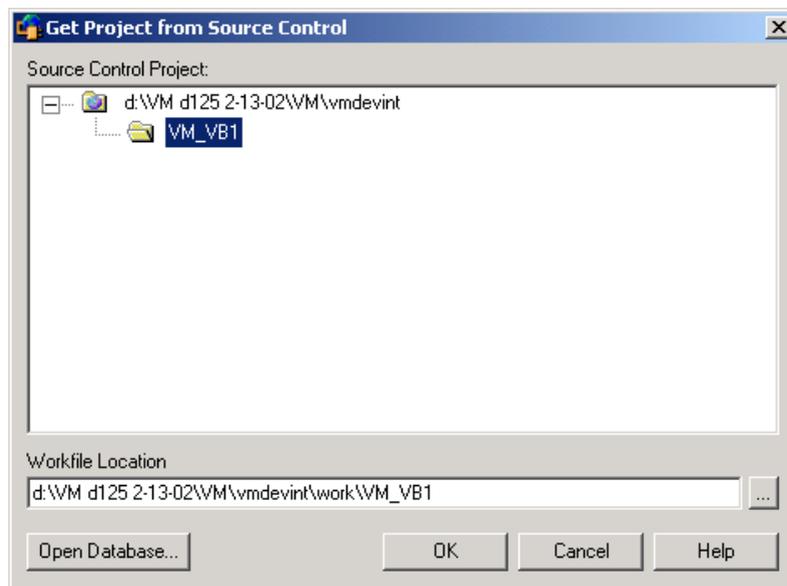
ファイルの共有 アーカイブが複数の Version Manager プロジェクトにより共有される場合の詳細については、[38 ページの『複数のプロジェクトによるファイルの共有』](#)を参照してください。

ソース管理プロジェクトに追加するワークステーションを増やす

プロジェクトが作成され、ソース管理に追加されると、各開発者が、ソース管理から開くことによってプロジェクトにアクセスできるようになります。プロジェクトをソース管理から開くと、開発者のシステムにプロジェクトのコピーが作成されます。開発者の手元にプロジェクトのローカルコピーが作成された後は、このコピーに対して通常のソース管理操作を実行できます。

ソース管理からソリューションまたはプロジェクトを開くには、次の操作を行います。

- 1 [File (ファイル)] - [Source Control (ソース管理)] - [Open From Source Control (ソース管理から開く)] を選択します。〔Get Project from Source Control (ソース管理からプロジェクトを取得)〕ダイアログボックスが表示されます。



デフォルトのデータベースがソース管理プロジェクトの下に表示されます。取得するプロジェクトが含まれているデータベースが表示されていない場合は、【Open Database (データベースを開く)】をクリックして、正しいデータベースを探します。

- 2 プロジェクトデータベースから、取得するプロジェクトを選択します。
- 3 〈Workfile Location (作業ファイルの場所)〉フィールドにすべてのプロジェクトファイルに対する場所を入力するか、または【Browse (参照)】ボタンをクリックして場所を選択します。
- 4 【OK】をクリックします。〔Open Solution (ソリューションを開く)〕ダイアログボックスが表示されます。
- 5 開くソリューションまたはプロジェクトを選択して、【Open (開く)】をクリックします。

ソース管理の使用法

内容 このセクションでは、ソース管理下のファイルの表示および編集に関する操作を説明します。

詳細情報 [第 4 章、53 ページの『ソース管理の使用法』](#)を参照してください。

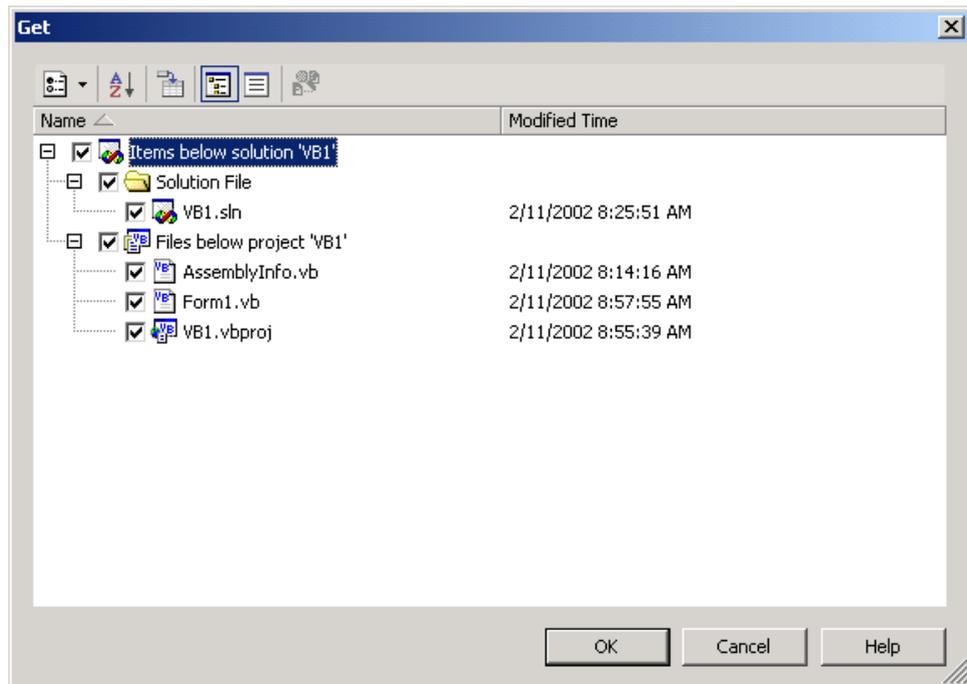
ファイルの取得

ファイルを取得すると、選択されたリビジョンが、作業ファイルの場所に読み取り専用ファイルとしてコピーされます。

ファイルを取得するには、次の操作を行います。

- 1 ソリューションエクスプローラで、取得するソリューション、プロジェクト、またはファイルを選択します。

- 2 [File (ファイル)] – [Source Control (ソース管理)] – [Get (取得)] を選択します。
[Get (取得)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 以下のうち必要な作業を行います。

- 〈Name (名前)〉リストで、ファイルを選択または選択解除します。



- Merge Tool を起動するには、ファイルを選択して【Compare Versions (バージョンの比較)】をクリックします。相違点の詳細については、91 ページの『相違点レポートの作成』を参照してください。

- 4 以下のいずれかを実行します。

詳細設定の使用

- デフォルトの取得オプションを変更するには、【Options (オプション)】(☰) をクリックします。[ChangeMan Advanced Get (取得の詳細設定)] ダイアログボックスが表示されます (詳細設定については、54 ページの『ファイルの取得』を参照してください)。

デフォルト値の使用

- デフォルトの取得オプションを使用する場合は、【OK】をクリックします。選択したリビジョンがコピーされ、読み取り専用の作業ファイルが作業ファイル場所に配置されます。



注 [Get (取得)] ダイアログボックスを起動せずにファイルを取得するには、[File (ファイル)] – [Source Control (ソース管理)] – [Get Latest Version (最新のファイルを取得)] を選択します。

ファイルのチェックアウト

ファイルをチェックアウトすると、リビジョンはロックされ、書き込み可能な作業ファイルが作業ファイルの場所に作成されます。

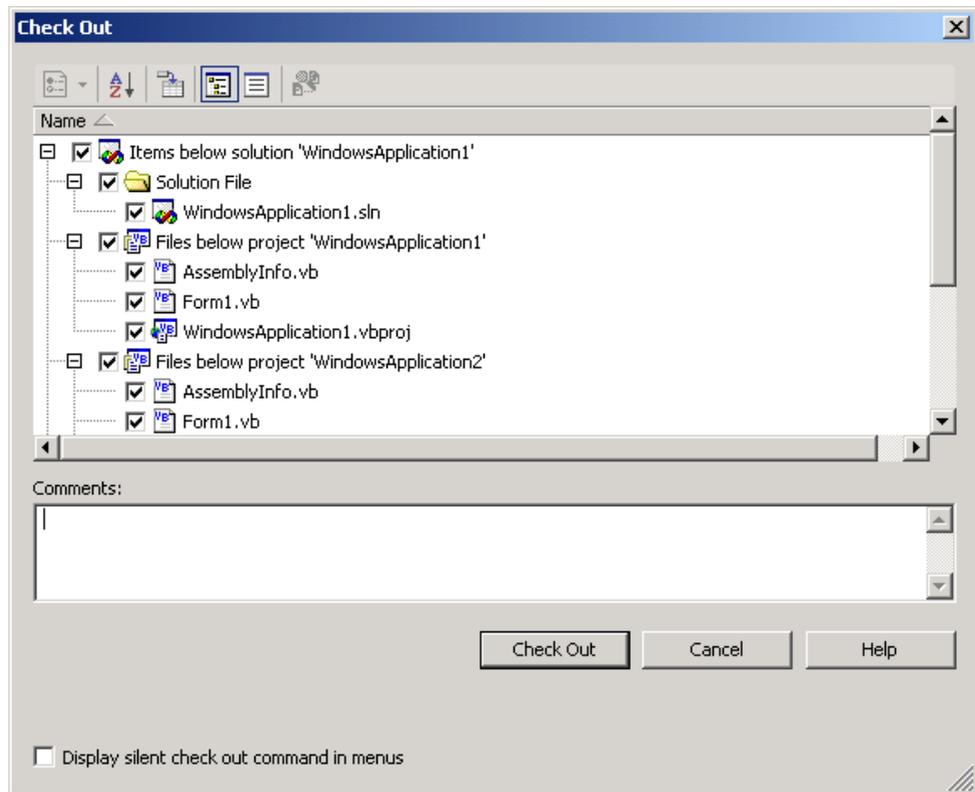
ファイルをチェックアウトするには、次の操作を行います。

- 1 ソリューションエクスプローラ画面で、チェックアウトするファイル、プロジェクト、またはソリューションを選択して右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。



重要！ソリューションおよびプロジェクトファイルがソース管理下にあり、ユーザの変更の影響を受ける場合は、これらをチェックアウトします。チェックアウトしないと、変更が失われます。

- 2 [Actions (アクション)] - [Check Out (チェックアウト)] を選択します。[Check Out (チェックアウト)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 以下のうち必要な作業を行います。

- 〈Name (名前)〉リストで、ファイルを選択または選択解除します。
- Merge Tool を起動するには、ファイルを選択して【Compare Versions (バージョンの比較)】をクリックします。相違点の詳細については、91 ページの『相違点レポートの作成』を参照してください。



- 4 以下のいずれかを実行します。

- デフォルトのチェックアウトオプションを変更するには、【Options (オプション)】ボタン (☰) をクリックします。[ChangeMan Advanced Check Out (ChangeMan チェックアウトの詳細設定)] ダイアログボックスが表示されます (詳細設定については、57 ページの『ファイルのチェックアウト』を参照してください)。

詳細設定の使用

デフォルト値の使用

- デフォルトのチェックアウトオプションをそのまま使用する場合は、【Check Out (チェックアウト)】をクリックします。赤のチェックマーク (✓) が各ファイルアイコンの隣に表示されます。



注 チェックアウト中は〈Comments (コメント)〉フィールドを無視します。チェックイン中はコメントを追加できます。

チェックアウトの取り消し

チェックアウトを取り消すと、アーカイブのロックが解除されて読み取り専用の作業ファイルが作業ファイルの場所に残されます。ファイルに加えられた変更は、アーカイブにはチェックインされません。

チェックアウトを取り消すには、次の操作を行います。

- 1 ソリューションエクスプローラ画面で、チェックアウトするファイル、プロジェクト、またはソリューションを選択して右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- 2 [Undo Checkout (チェックアウトの取り消し)] を選択します。[Undo Checkout (チェックアウトの取り消し)] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 必要に応じて、〈Name (名前)〉リストでファイルを選択または選択解除します。
- 4 以下のいずれかを実行します。

詳細設定の使用

- デフォルトのチェックアウトの取り消しオプションを変更するには、【Options (オプション)】ボタン (☰) をクリックします。[ChangeMan Advanced Undo Check Out (ChangeMan チェックアウト取り消しの詳細設定)] ダイアログボックスが表示されます (詳細設定については、59 ページの『チェックアウトの取り消しについて』を参照してください)。

デフォルト値の使用

- デフォルトのチェックアウトの取り消しオプションをそのまま使用する場合は、【Undo Checkout (チェックアウトの取り消し)】をクリックします。青色のパッドロック (🔒) が各ファイルアイコンの隣に表示されます。

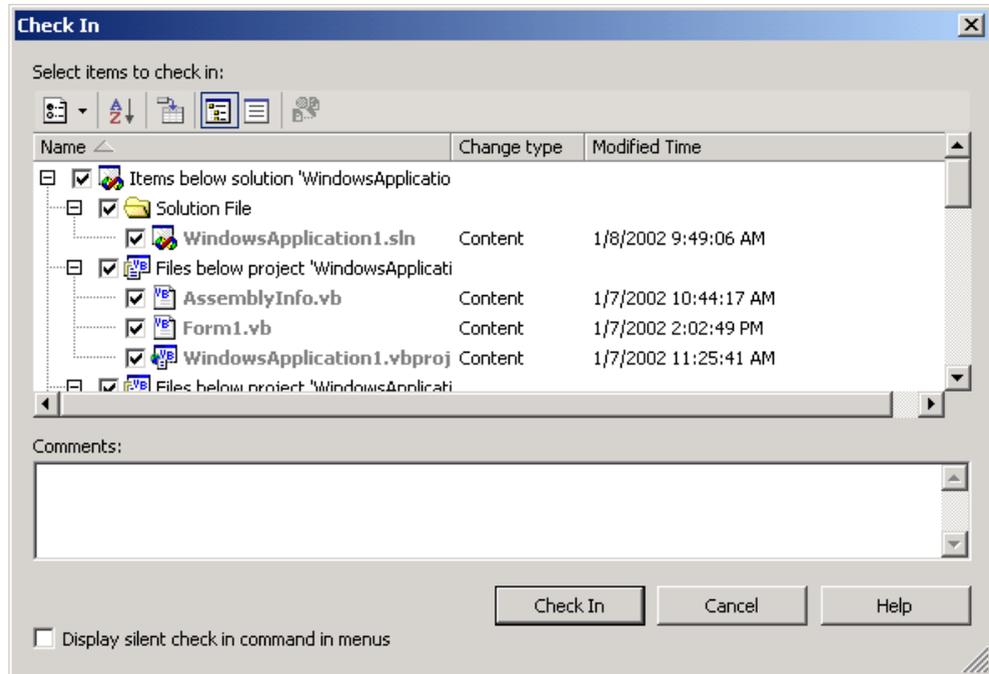
ファイルのチェックイン

作業ファイルをチェックインすると、デフォルトでは、以下の処理が行われます。

- 新規リビジョンが作成され、それまでの最新リビジョンの次の番号が割り当てられます。
- 読み取り専用ファイルが作業ファイルの場所に残されます。
- アーカイブのロックが解除されます。

ファイルをチェックインするには、次の操作を行います。

- 1 ソリューションエクスプローラ画面で、チェックインするファイル、プロジェクト、またはソリューションを選択して右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- 2 [Check In (チェックイン)] を選択します。[Check In (チェックイン)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 以下のうち必要な作業を行います。
 - 〈Name (名前)〉リストで、ファイルを選択または選択解除します。
 - ファイルへの変更内容の説明を〈Comments (コメント)〉フィールドに入力します。



ヒント ファイルごとに固有の説明を付ける場合は、〈Comments (コメント)〉フィールドを空白のままにします。[Check In (チェックイン)] ダイアログボックスへの入力完了すると、変更されたファイルごとに順次、[Change Description (変更の説明)] ダイアログボックスが表示されます。

Visual Studio では、バイナリファイルは通常非表示になりますが、Visual Basic プロジェクトの場合、テキストファイルとバイナリファイルの両方に説明の入力を求めるメッセージが表示されます。



- Merge Tool を起動するには、ファイルを選択して【Compare Versions (バージョンの比較)】をクリックします。相違点の詳細については、91 ページの『相違点レポートの作成』を参照してください。



- チェックイン操作の後、ファイルを自動的に再度チェックアウトするには、【Options (オプション)】をクリックして [Keep Checked Out (チェックアウト状態を保持)] を選択します。

4 以下のいずれかを実行します。

詳細設定の使用

- デフォルトのチェックインオプションを変更するには、【Options (オプション)】ボタン ( →) をクリックします。[ChangeMan Advanced Check In (ChangeMan チェックインの詳細設定)] ダイアログボックスが表示されます (詳細設定については、60 ページの『ファイルのチェックイン』を参照してください)。

デフォルト値の使用

- デフォルトのチェックインオプションをそのまま使用する場合は、【Check In (チェックイン)】をクリックします。青色のパッドロック () が各ファイルアイコンの隣に表示されます (ファイルのチェックアウト状態の保持を選択していない場合)。

第 18 章

Visual Studio .NET 2003 のリッチな統合

はじめに	302
サポートされている機能の使用	302
Visual Studio 2003 のリッチな統合の概要	304
コラボレーティブプロセスの概要	305
SCC インターフェイスプロジェクトの移行	308
Web プロジェクトの操作	310
ソース管理プロジェクトの設定	311
ファイルの編集	318
ダイアログボックスのデフォルトオプションの設定	331
ワークスペースの比較と同期化	333
ファイルの比較と競合の解決	340
TeamTrack Issue の関連付けと操作	347

はじめに

目的 この章の目的は、以下の 4 つです。

- Microsoft® Visual Studio .NET 2003 から使用可能な Version Manager の各機能の紹介と、それらの機能の使用方法的説明



注 この章では、Visual Studio .NET 2003 のリッチな統合 (VS .NET 用のプラグイン) についてのみ説明します。

Visual Studio 2005 のリッチな統合 (VS 2005 用のプラグイン) をインストールした場合は、[第 19 章、353 ページの『Visual Studio 2005 のリッチな統合』](#)を参照してください。

SCC 統合 (SCC/COM IDE クライアント) をインストールした場合は、[第 17 章、285 ページの『Visual Studio : SCC 統合』](#)を参照してください。

- このマニュアルのパート 1 で解説された機能のうち、この開発環境 (IDE) には適用されないものの解説
- ソース管理プロジェクトの設定や、ソース管理へのファイルの追加を行うユーザの手引き
- ユーザがソース管理下のファイルを IDE から使用するための手引き

ソース管理の概念についての詳細は、[19 ページのパート 1、『Version Manager IDE クライアント』](#)を参照してください。

サポートされている機能の使用

Visual Studio .NET 2003 のリッチな統合の機能を使用する方法について、次の表に示します。



重要! リッチな統合により管理されるプロジェクトを操作する場合、次の点に注意してください。

- [File (ファイル)] - [Source Control (ソース管理)] メニューを使用しないでください。
- 右クリック - [Add Solution to Source Control (ソース管理へのソリューションの追加)] メニュー項目を使用しないでください。

これらのメニューは、SCC 統合でのみ使用します。これらは、SCC 統合もインストールされている場合にのみ表示されます。

目的	操作	参照セクション
リビジョンの取得	[File (ファイル)] - [Serena] - [Get Latest Revision (最新リビジョンの取得)]	321 ページの『特定のファイルまたはフォルダの取得』
リビジョンのチェックアウト	[File (ファイル)] - [Serena] - [Check Out (チェックアウト)]	322 ページの『ファイルのチェックアウト』
リビジョンのチェックアウトの取り消し	[File (ファイル)] - [Serena] - [Undo Checkout (チェックアウトの取り消し)]	323 ページの『チェックアウトの取り消し』
リビジョンのチェックイン	[File (ファイル)] - [Serena] - [Check In (チェックイン)]	325 ページの『ファイルのチェックイン』

目的	操作	参照セクション
バージョンラベルの割り当て	[File (ファイル)] – [Serena] – [Label (ラベル)]	329 ページの『 リビジョンのラベル付け 』
リビジョン履歴の表示	[File (ファイル)] – [Serena] – [Show History (履歴の表示)]	319 ページの『 ファイル履歴の参照 』
ファイルのプロモート	[File (ファイル)] – [Serena] – [Promote (プロモート)]	331 ページの『 リビジョンのプロモート 』
TeamTrack Issue の操作	[File (ファイル)] – [Serena] – [Show Issues (Issue の表示)]	347 ページの『 TeamTrack Issue の関連付けと操作 』
ソース管理ステータスの更新	[File (ファイル)] – [Serena] – [Refresh Status (ステータスの更新)]	
ローカルワークスペースとソース管理の比較	[File (ファイル)] – [Serena] – [Compare Workspaces (ワークスペースの比較)]	333 ページの『 ワークスペースの比較と同期化 』
ローカル作業ファイルと Version Manager の最新リビジョンの比較	[File (ファイル)] – [Serena] – [Compare Revision (リビジョンの比較)]	340 ページの『 ファイルの比較と競合の解決 』
ソース管理へのソリューションの追加	[File (ファイル)] – [Serena] – [Add Solution Version Manager (Version Manager へのソリューションの追加)]	311 ページの『 Version Manager へのソリューションおよびプロジェクトの追加 』
ソース管理へのプロジェクトの追加	[File (ファイル)] – [Serena] – [Add Project to Version Manager (Version Manager へのプロジェクトの追加)]	311 ページの『 Version Manager へのソリューションおよびプロジェクトの追加 』
ソース管理からソリューションまたはプロジェクトを開く	[File (ファイル)] – [Serena] – [Open Solution from Version Manager (Version Manager からソリューションを開く)]	314 ページの『 Version Manager からソリューションおよびプロジェクトを開く 』
開いたソリューションへのソース管理内の非 Web プロジェクトの追加	[File (ファイル)] – [Serena] – [Add Project from Version Manager (Version Manager からプロジェクトを追加)]	316 ページの『 Version Manager から非 Web プロジェクトを開く 』

Visual Studio 2003 のリッチな統合の概要

Version Manager の Microsoft Visual Studio .NET 2003 とのリッチな統合により、開発チームによるソースコードの管理を支援する強力なコラボレーションツールが提供されます。たとえば、次のような機能があります。

- ワークスペースの比較と同期

ローカルワークスペースのすべてのファイルの状態を、対応する Version Manager プロジェクトのワークスペースと簡単に比較できます。これにより、両者の違いや、ローカルワークスペースと Version Manager のどちらを更新する必要があるかを特定できます。後はボタンをクリックするだけで、自動的にすべての変更を Version Manager にチェックインし、すべての更新をローカルワークスペースに取得できます。333 ページの『ワークスペースの比較と同期化』を参照してください。

- ファイルの自動的なマージ

ローカルワークスペースをチェックインしたり同期したりすると、加えた変更が、Version Manager の同じファイルに最近加えられた変更と自動的にマージされます。

- ファイルの比較と競合の解決

特定のローカルファイルを、Version Manager のファイルの最新のリビジョンと比較できます。必要に応じて、ファイルを直接編集して、ファイルをチェックインする前に競合を解決することもできます。340 ページの『ファイルの比較と競合の解決』を参照してください。

- 実用的ロック

任意のファイルをいつでもチェックインできます。事前にロックする必要はありません。これにより、明示的にファイルのロックを予約せずに任意のファイルを編集することができます。その後そのファイルをチェックインすると、ローカルに加えた変更が Version Manager の最新のリビジョンとマージされる間、必要に応じてファイルが一時的にロックされます。いったん新しいリビジョンが作成されると、ほかのユーザが変更をチェックインできるようそのファイルはただちにロックが解除されます。

しかし、開発者がファイルを編集する前にロックするよう組織で要求されている場合、ファイルを変更する前にロックしてチェックアウトすることもできます。

TeamTrack 統合

組織で Serena TeamTrack を使用して不具合やタスクなどの開発 Issue を追跡している場合は、Visual Studio 2003 に統合した Version Manager から Issue にアクセスすることができます。TeamTrack の Issue を Visual Studio から提出および変更し、特定のファイルに Issue を関連付けることができます。Issue をファイルのリビジョンに関連付けると、関連するリビジョンの情報が Issue に追加されます。

TeamTrack と Version Manager の統合についての詳細は、347 ページの『TeamTrack Issue の関連付けと操作』を参照してください。

サポートされているプロジェクトタイプ

Visual Studio .NET のリッチな統合は、現在次のタイプのプロジェクトを完全にサポートしています。

- VB：Windows のアプリケーション
- VB：ASP .NET の Web アプリケーション
- VB：空のプロジェクト

- C# : Windows のアプリケーション
- C# : ASP .NET の Web アプリケーション
- C# : 空のプロジェクト
- C++ : ATL プロジェクト
- C++ : MFC アプリケーション
- C++ : Win32 のプロジェクト
- C++ : 空のプロジェクト (.NET)

コラボレーティブプロセスの概要

Version Manager の統合機能は、各種のコラボレーティブ開発プロセスを柔軟にサポートします。以下の操作を実行できます。

- Version Manager のワークスペースを使用すると、開発者が作業するファイルを正確に定義できます。また、バージョンラベルを自動的に割り当てることによって、ワークスペースの保守を強制的に行うことができます。ワークスペースを使用することによって、プロジェクト内で作業するすべての開発者が必ず同一のファイルを表示および更新することになるため、開発プロジェクトにおけるファイル共有が非常に簡単にできます。305 ページの『ワークスペースの使用』を参照してください。
- 楽観的（実用的）ロックモデルを使用することにより、ファイルをロックせずにすべてのユーザが共通ファイルで作業することができます。307 ページの『ロックしないファイルの作業』を参照してください。
- ロックしてチェックアウトすることにより、複数のユーザが同じファイルを変更することを防ぎます。308 ページの『ロックされたファイルのチェックアウト』を参照してください。

ワークスペースの使用

Visual Studio .NET へのリッチな統合により、Version Manager のワークスペースを広く活用して、コラボレーティブプロセスを単純化することができます。Version Manager のワークスペースは、共通のデフォルトバージョンラベルを共有する個々のファイルの集まりです。開発者はワークスペースを使用することにより、デフォルトバージョンラベルの定義に基づいて、特定の開発作業やプロジェクトに関連するファイルのみを取得して作業できます。



注 ワークスペースは、デフォルトの作業ファイルの場所も定義します。しかし、この作業ファイルの場所は、Visual Studio .NET のリッチな統合を使用する場合には適用されません。Visual Studio では、ソリューションワークスペースがワークファイルの場所を定義します。ワークスペース設定は、Web クライアントやデスクトップクライアントなど、その他の Version Manager クライアントを使用する場合に適用されます。

Visual Studio .NET に統合する場合のワークスペースのセットアップ方法と使用方法の概要を以下に示します。

- 1 Version Manager 管理者は、Version Manager でワークスペースをセットアップします。各プロジェクトまたはサブプロジェクト、そして各開発者に対しても固有のワークスペースをセットアップすることができます。最も単純なワークフローでは、プロジェクトチームのすべてのメンバーが共有できる共通のワークスペースを定義します。この共通のワークスペースで、プロジェクトの正しいデフォルトバージョンラベルが定義されます。異なるワークスペースを使用する開発者が共通のプロジェクトで作業する場合は、各ワークスペースのデフォルトバージョンラベルを同じ値に設定する必要があります。各開発者が表示したり変更したりできるファイルはバージョンラベルによって決まるため、同じ開発ブランチで作業するすべての開発者が共通のデフォルトバージョンラベルを使用することが重要です。詳細は、『Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。



重要！開発者がそれぞれ異なるワークスペースで作業する場合は、いずれかのワークスペースでプロジェクト構造が変更されると他のワークスペースにも反映されることに注意する必要があります。たとえば、Major_Releases というワークスペースで作業している開発者がいくつかのファイルの名前を変更した場合、それらのファイルが含まれている他のワークスペースでもファイル名が変更されます。ワークスペースを定義する際には、こうした依存関係をよく検討することが重要です。

- 2 管理者がワークスペースのデフォルトバージョンラベルを定義します。このデフォルトバージョンラベルによって、ワークスペースに属するファイルが決まります。

たとえば、プロジェクトのすべてのファイルに Latest という浮動ラベルが割り当てられている場合に、プロジェクトのすべてのファイルの最新バージョンがワークスペースに含まれるようにするには、デフォルトバージョンラベルを Latest として定義します。

また、ブランチバージョンラベルが branch_01 であるブランチのすべてのファイルがワークスペースに含まれるようにするには、ワークスペースのデフォルトバージョンラベルを branch_01 として定義します。

詳細は、『Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。

- 3 開発者が Visual Studio .NET ソリューションまたはプロジェクトをソース管理に追加し、適切なワークスペースを選択します。適切なワークスペースを選択すると、そのワークスペースのデフォルトバージョンラベルが、Version Manager に追加されたすべてのファイルに割り当てられます。たとえば、デフォルトバージョンラベルが Latest であるワークスペースを開発者が選択した場合は、Latest というラベルがすべてのファイルに割り当てられます。
- 4 他の開発者は、ソース管理からソリューションまたはプロジェクトを開き、適切なワークスペースを選びます。この選択によって、各自のローカルワークスペースにコピーされるファイルが決まります。たとえば、デフォルトバージョンラベルが Latest であるワークスペースを開発者が選択した場合は、Latest が割り当てられているファイルのみがローカルワークスペースにコピーされます。
- 5 開発者がワークスペースを同期させると、デフォルトバージョンラベルを持つファイルのチェックインと取得が自動的に行われます。開発者がローカルワークスペースを Version Manager プロジェクトと同期させると、次のようになります。
 - すべての新しいローカルファイルが Version Manager プロジェクトに追加され、それらに現在のワークスペースのデフォルトバージョンが割り当てられます。
 - Version Manager プロジェクトに含まれる新しいファイルのうち、ローカルワークスペースのデフォルトバージョンラベルが割り当てられているファイルがローカルワークスペースにコピーされます。

ロックしないファイルの作業

このワークフローでは、ファイルはチェックインの際にのみロックされます。「楽観的ロック」などとも呼ばれるこのモデルでは、複数のユーザが同時にファイルを取得して変更できます。各ユーザの変更は、ファイルをチェックインするときにほかのユーザの変更とマージされます。複数のユーザの変更をマージしようとした結果、競合が発生した場合は、マージ機能を使用して競合を評価および解決しないとチェックインを完了できません。



注 デフォルトでは、楽観的ロックは有効になっています。ただし、管理者は特定のプロジェクトデータベースに対して無効にできます。

このプロセスの手順を以下に示します。

- 1 一日の始めに、該当する Version Manager プロジェクトの最新の更新がローカルワークスペースにすべて揃っていることを確認します。これには、ローカルワークスペースを Version Manager プロジェクト内の変更で更新するか (336 ページの『Version Manager からすべての更新を取得』を参照)、ローカルワークスペースを対応するプロジェクトと同期します (333 ページの『ワークスペースの比較と同期化』を参照)。ローカルファイルがすでに存在し、Version Manager 内の最新のリビジョンと異なる場合は、異なるリビジョンがマージされます。異なるリビジョンをマージしようとした結果、競合が発生する場合は、同期を完了する前に競合の解決機能を使用して競合を検討し解決します。
- 2 ファイルを編集します。
- 3 ファイルの作業が済んだら、すべての変更を Version Manager にコミットする (338 ページの『ローカル変更を Version Manager にコミット』を参照) か、ワークスペースを対応する Version Manager ワークスペースと同期します。



注 デフォルトでは、ソース管理からファイルを取得すると、それらのファイルはローカルワークスペース内で読み取り専用を設定されます。それらを変更するには、作業を開始する前に Windows エクスプローラからそれらを書き込み可能にするか、Visual Studio で保存するときにファイルの上書きを選択する必要があります。

例：コラボレーティブ開発

開発者のチームが、Source というプロジェクトデータベースの Patch2 というプロジェクトに格納されているファイルを使用して共同で作業しています。このプロジェクトでは、複数の開発者が共通ファイルで同時に作業できるようになっています。この開発ワークフローは、次のようになります。

- 1 各開発者は一日の始めに、Version Manager の Patch2 プロジェクトにある最新の変更で各自のローカルワークスペースを更新します。この開発チームは複数の国にある開発サイトで作業しているため、この同期によって、すべての開発者がすべての開発サイトの最新の更新を取得できます。339 ページの『ワークスペースの同期化』を参照してください。
- 2 一日の終わりに、各開発者は、ファイルのすべての変更をローカルワークスペースにチェックインするため、各自のワークスペースを対応する Version Manager プロジェクトと同期させます。複数の開発者が同じファイルに変更を加えた場合は、マージ機能によって、各ユーザの変更が新しいリビジョンにマージされます。マージされたファイルや変更されたファイルは、すべてローカルワークスペースにコピーされます。ファイルをマージしようとした結果、競合が発生した場合、チェックインを行う開発者は、競合を解決して再度同期する必要があります。339 ページの『ワークスペースの同期化』を参照してください。

ロックされたファイルのチェックアウト

このワークフローでは、変更するファイルをチェックアウトします。ファイルをチェックアウトすると、Version Manager でファイルがロックされ、ロックを解除するまでほかのユーザは変更をチェックインできなくなります。変更が完了したら、ファイルをチェックインします。このプロセスによって、複数のユーザの変更による競合が回避されます。



重要！ ローカルの変更をチェックインしても、そのような変更は名前が変更されたり、移動されたファイルとして同期されません。これを行うには、すべての変更を Version Manager にコミットする（338 ページの『ローカル変更を Version Manager にコミット』を参照）か、ワークスペースを対応する Version Manager ワークスペースと同期します。

例：ファイルのロック

複雑で相互に依存するコードベースで作業する開発チームに参加している中島さんと山本さんは、よく同じファイルで作業します。以下は、典型的な一日の作業の流れです。

- 1 中島さんが、一連のファイルを Version Manager からチェックアウトして作業を開始します（322 ページの『ファイルのチェックアウト』を参照）。
- 2 山本さんはプロジェクトを開くと、[Compare Workspaces（ワークスペースの比較）] ビューを表示して必要なファイルが現在チェックアウトされているか調べます（335 ページの『ワークスペースの比較』を参照）。それらはチェックされています。山本さんは [History（履歴）] ビューを使用して、ファイルをチェックアウトしたのが中島さんであることを確認します（319 ページの『ファイル履歴の参照』を参照）。
- 3 作業を終えた中島さんはファイルをチェックインして、作業の元となった TeamTrack Issue にファイルを関連付けます（325 ページの『ファイルのチェックイン』を参照）。
- 4 昼食から戻った山本さんは、[Compare Workspaces（ワークスペースの比較）] ビューを表示してファイルの現在の状態を確認します。ファイルがチェックインされていることを確認します。山本さんはそれらのファイルをチェックアウトして、作業を開始します。

SCC インターフェイスプロジェクトの移行

現在 Version Manager への SCC（ソースコード管理）インターフェイスを含む Visual Studio .NET 2003 ソリューションおよびプロジェクトを使用している場合、以下の手順でリッチな統合へ移行します。



注 Visual Studio ソリューションが Visual SourceSafe のソース管理下にある場合は、『Serena Version Manager 管理者ガイド』の『Using the Version Manager Conversion Utility for SourceSafe（Version Manager Conversion Utility for SourceSafe の使用）』の章を参照してください。

移行に関する重要事項

移行を行う前に次のことに注意してください。

- 統合の混在を避けてください。共通のプロジェクトで作業するすべてのユーザは、同じ統合（SCC またはリッチな統合）を使用する必要があります。プロジェクトをリッチな統合へ移行した後は、すべてのユーザがリッチな統合経由でプロジェクトを開く必要があります。

- SCC とリッチな統合は、両方とも同時に Visual Studio からアクセスすることができます。いったんプロジェクトを移行したら、すべての Version Manager 機能は [Serena] または [File (ファイル)] - [Serena] メニューからアクセスします。リッチな統合で管理されているソリューションまたはプロジェクトでは、ファイルを右クリックして主な Version Manager 機能にアクセスすることができます。
- TrackerLink を使用していて引き続き使用する場合は、SCC プロジェクトをリッチな統合へ移行しないでください。リッチな統合は TeamTrack をサポートします。Tracker プロジェクトを無事 TeamTrack へ移行し終えるまでリッチな統合へ移行しないでください。その後、リッチな統合を使用して Visual Studio 内から TeamTrack へ移行することができます。
- SCC 統合では、ファイルステータスが Solution Explorer 内の固有のアイコンで示されます。リッチな統合では、[File Status (ファイルステータス)] および [Compare Workspaces (ワークスペースの比較)] ビューでファイルステータスを表示することができます。

SCC VS 2003 からリッチ VS 2003 への移行

この手順では、Visual Studio .NET 2003 ソリューションを、Version Manager SCC ソース管理統合から Visual Studio 2003 用のリッチな Version Manager 統合へ移行する方法について説明します。



重要！

- ソリューションを移行する前に、すべてのユーザが作業をチェックインして、すべてのファイルのロックを解除する必要があります。
- Visual Studio 2005 への移行には、この手順を使用しないでください ([353 ページの『Visual Studio 2005 のリッチな統合』](#)を参照してください)。

次の方法でソリューションおよびプロジェクトをリッチな統合へ移行します。

- 1 現在 Version Manager の SCC インターフェイス経由で管理されているソリューションを開きます。
- 2 [File (ファイル)] - [Source Control (ソース管理)] - [Change Source Control (ソース管理変更)] を選択します。[Change Source Control (ソース管理変更)] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 【Unbind (アンバインド)】 ボタンをクリックし、確認するメッセージが表示されたら 【Unbind (アンバインド)】 をクリックします。その結果、〈Status (ステータス)〉カラムはソリューションプロジェクトが管理されなくなったことを示します。
- 4 [Change Source Control (ソース管理変更)] ダイアログボックスで 【OK】 をクリックします。
- 5 [File (ファイル)] - [Save All (すべて保存)] を選択して Visual Studio .NET を終了します。
- 6 Windows エクスプローラを開きます。
- 7 ソリューションおよびプロジェクトの作業ディレクトリを探し、次の拡張子を持つすべてのファイルを削除します。
 - .vsscc : 各ルートソリューションディレクトリの下に 1 つの *.vsscc ファイルがあります。
 - .vspcc
 - .scc (MSSCCPRJ.SCC など) : 各ルートソリューションおよびプロジェクトディレクトリの下に 1 つの *.scc ファイルがあります。
 - ファイルタイプが scc で終わるその他のすべてのファイル。

- 8 次に VM デスクトップクライアントから Visual Studio ソリューション (*.sln) およびプロジェクトをチェックインする必要があります。次の方法で行います。
 - a Version Manager デスクトップクライアントを起動し、SCC ソース管理から外したばかりの Visual Studio プロジェクトに対応するプロジェクトを開きます。
 - b まだロックされていないければ、すべての Visual Studio ソリューション (*.sln) およびプロジェクトファイルを選択し、【Lock (ロック)】 ボタンをクリックします。【Lock (ロック)】 ダイアログボックスが表示されます。
 - c 【OK】 をクリックします。
 - d ソリューションおよびプロジェクトファイルを選択し、【Check In (チェックイン)】 をクリックします。【Check In File (チェックイン：ファイル)】 ダイアログボックスが表示されます。
 - e 必要に応じて、〈Check In From (チェックインするファイル)〉 フィールドに入力するか参照して、正しいチェックインロケーションを選択します。
 - f 〈Description (コメント)〉 フィールドに説明を入力して【OK】 をクリックします。
- 9 また、Version Manager デスクトップクライアントから、すべての *.vsscc および *.vspssc ファイルと scc で終わるその他のファイルを削除します。
- 10 Visual Studio へのリッチな統合の各ユーザは、今後ソース管理からソリューションを開く必要があります。これにより、各ユーザは、必ず SCC 統合にバインドされていないチェックインされたばかりのバージョンを持つこととなります。詳細は、[314 ページの『Version Manager からソリューションおよびプロジェクトを開く』](#)を参照してください。

Web プロジェクトの操作

リッチな統合は、ASP Application プロジェクトなどの Web プロジェクトをサポートします。Web を操作する場合、次の点に注意してください。

- ソリューションに Web プロジェクトを追加すると、そのプロジェクトの Web URL を定義することになります。プロジェクト内のすべてのファイルは、Visual Studio ワークスペース内のルートソリューションフォルダのもとはなくこの Web ロケーションに保存されます。この URL は物理ディレクトリに対応します。この物理ディレクトリのマッピングは Web サーバが定義しています。いったんプロジェクトを無事ソリューションに追加したら、ほかのタイプのプロジェクトと同様に、それらを Version Manager に追加することができます。[311 ページの『Version Manager へのソリューションおよびプロジェクトの追加』](#)を参照してください。
- Web プロジェクトを含む Version Manager からソリューションを開くとき、各 Web プロジェクト内のファイルのローカルコピーを保存する物理ディレクトリへのパスを入力する必要があります。これにより、Web プロジェクトのプロジェクトファイルを Solution ファイルの下のサブプロジェクト以外の場所に保存することができます。選ぶ場所は、Web サーバによって定義されているルート Web URL に対応する必要があります。このルート URL はソリューションファイルに保存されています。[314 ページの『Version Manager からソリューションおよびプロジェクトを開く』](#)を参照してください。
- Version Manager から 1 つの Web プロジェクトを開くには、新しい空白のソリューションに開く必要があります。Web プロジェクトを開く手順は、厳密に規定されており、正確に従う必要があります。手順については、[317 ページの『Version Manager から Web プロジェクトを開く』](#)を参照してください。

ソース管理プロジェクトの設定

Visual Studio 2003 への Version Manager 統合を使用するには、プロジェクトの各開発者は、そのローカル Visual Studio プロジェクトを対応する Version Manager プロジェクトと関連付ける必要があります。いったんこれを行うと、プロジェクトで作業しているすべての開発者は、ファイルの最新の更新をすべて入手し、ファイルへの新しい変更をチェックインすることができます。開発者は、そのローカルワークスペースを、すべての開発者の変更の中央リポジトリとなる Version Manager プロジェクトと同期させることができます。これには 2 つの方法があります。

- ソリューションまたはプロジェクトがまだ Version Manager 内に存在しない場合、ソリューションまたはプロジェクトをソース管理に追加します。これにより対応するプロジェクトが作成され、プロジェクト内のすべてのフォルダとファイルが Version Manager に追加されます。[311 ページの『Version Manager へのソリューションおよびプロジェクトの追加』](#)を参照してください。
- ソリューションまたはプロジェクトがすでに Version Manager 内に存在する場合は、それをローカルワークスペースに追加します。これにより、Version Manager プロジェクトのすべてのファイルのコピーが Visual Studio ソリューションに追加され、ローカルソリューションと対応する Version Manager プロジェクトが関連付けられます。[314 ページの『Version Manager からソリューションおよびプロジェクトを開く』](#)を参照してください。

管理対象外ソリューションの操作

Version Manager のリッチな統合では、それ自体ソース管理の対象外であるソリューション内のソース管理下のプロジェクトで作業を行うことができます。場合によってはこれが必要になります。しかし、管理対象外のソリューションを操作する場合、[Compare Workspaces (ワークスペースの比較)] ビューおよびその同期機能をアクセスすることができません。ソリューションエクスプローラからファイルとフォルダをチェックイン/チェックアウトし、その他のリッチな統合機能をアクセスすることができます。このため、どうしてもできない理由がない限りシステム管理に追加されたソリューションで作業を行うことをお勧めします。

Version Manager へのソリューションおよびプロジェクトの追加

まだソリューションまたはプロジェクトを Version Manager に追加していない場合、Version Manager への統合を使用する前に追加する必要があります。以下を選択できます。

- ソリューション全体を Version Manager に追加します。ソリューション全体を追加することにより、ソリューション内のすべてのプロジェクトとファイルを Version Manager 内の 1 つのプロジェクトデータベースに保存することができます。開発シナリオによっては、開発者は 1 つのプロジェクトデータベースのみ取得してそこで作業をすれば良いので、これにより組織内のメンバーのコラボレーティブプロセスが簡素化されます。

- ソリューション内の 1 つのプロジェクトを Version Manager に追加します。ソリューション全体は追加しない場合、ソリューション内の 1 つのプロジェクトだけをソース管理に追加することができます。ただし、311 ページの『管理対象外ソリューションの操作』を参照してください。



重要！

- Web プロジェクトを除いて、Version Manager 統合を使用する Visual Studio ソリューション内のすべてのプロジェクトは、物理的にルートソリューションディレクトリの下になければなりません。プロジェクトをルートソリューションディレクトリ外の場所に保存することはできません。
- 各 Version Manager プロジェクトまたはサブプロジェクトには、1 つのソリューションまたはプロジェクトファイルのみ保存することができます。たとえば、Version Manager の同じプロジェクトに複数のソリューションファイルを保存しないでください。ソース管理にソリューションやプロジェクトを追加するときは、Version Manager で別個の移動先プロジェクトを選択してください。
- ソース管理に空のソリューションを追加することはできません。

ソース管理にソリューションまたはプロジェクトを追加すると次のことが起こります。

- ソリューションまたはプロジェクト内のすべてのファイルが、対象となる Version Manager プロジェクトデータベースに追加されます。
- 追加する各ソリューションまたはプロジェクト内の各プロジェクトまたはフォルダに対して、対応する Version Manager サブプロジェクトが作成されます。たとえば、4 つのプロジェクトを含むソリューションを追加すると、Version Manager プロジェクトデータベース内に 4 つのサブプロジェクトが作成されます。
- ファイルがソース管理に追加される際、選んだワークスペースのデフォルトのバージョンラベルがすべてのファイルに割り当てられます。デフォルトラベルは、「浮動」ラベルとして割り当てられるため、常に最新のリリースと関連付けられています。これによって、このワークスペースを使用するその他のユーザが同じファイル類を確認および処理できるようになります。305 ページの『ワークスペースの使用』を参照してください。

次の方法で Version Manager にソリューションまたはプロジェクトを追加します。

- 1 必要に応じて Version Manager デスクトップクライアントから、ソリューションまたはプロジェクトを追加する Version Manager プロジェクトデータベースを作成します。詳細については、『Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。
- 2 Visual Studio から、Version Manager に追加するソリューションまたはソース管理に追加するプロジェクトを含むソリューションを開きます。
- 3 Version Manager に追加する前にソリューションとその中のすべてのプロジェクトを保存します。
- 4 以下のいずれかを実行します。

この場合	操作
ソース管理にソリューションを追加する	a ソリューションエクスプローラでソリューションルートを選択します。 b [File (ファイル)] - [Serena] - [Add Solution to Version Manager (Version Manager へのソリューションの追加)] を選択します。
ソース管理に特定のプロジェクトを追加する	a ソリューションエクスプローラでプロジェクトを選択します。 b [File (ファイル)] - [Serena] - [Add Project to Version Manager (Version Manager へのプロジェクトの追加)] を選択します。

[Add to Source Control (ソース管理に追加)] ダイアログボックスが表示されます。

- 5 <Connect to Version manager Project Database (Version Manager プロジェクトデータベースへの接続)> ページでソリューションまたはプロジェクトを追加するプロジェクトデータベースを指定します。次のいずれかを行ってプロジェクトデータベースを指定します。
 - ルートプロジェクトデータベースディレクトリへのパスを入力するか、ドロップダウンリストから最新プロジェクトデータベースを選択します。
 - 【Browse for PDB (PDB の参照)】 ボタン (📁) をクリックして、プロジェクトデータベースを参照します。この場合、ルート PDB ディレクトリの直下に配置されている任意の .ser ファイルを選択する必要があります。
 - ファイルサーバが Version Manager で定義されている場合は、【Browse File Servers (File Server の参照)】 ボタン (🌐) をクリックして、Version Manager ファイルサーバ上のすべてのプロジェクトデータベースから選択します。ファイルサーバは、Version Manager デスクトップクライアントから定義する必要があります。Version Manager File Server が定義されていない場合は、このボタンを無視します。
- 6 Version Manager のユーザ名とパスワードを入力し、【Next (次へ)】 をクリックします。
- 7 <Select Workspace (ワークスペースの選択)> ページで、ソリューションまたはプロジェクトで使用する Version Manager ワークスペースを選択して【Next (次へ)】 をクリックします。これによりプロジェクト内のすべてのパブリックワークスペースとアクセス可能なプライベートワークスペースが表示されます。次の点に注意してください。
 - ワークスペースの選択によって、ファイルのデフォルトバージョンラベルが決定されます。このラベルは、Version Manager にファイルが追加されるときに、すべてのファイルに割り当てられます。これによって、このワークスペースを使用するその他のユーザが (たとえば、ソース管理からソリューションまたはプロジェクトを開くことによって) 同じファイルのセットを処理できるようになります。
 - ワークスペースの選択によって作業ファイルの場所の設定が影響を受けることはありません。すべてのファイルの作業コピーは、Visual Studio ワークスペースに保存されます。
- 8 <Select Remote Folder (リモートフォルダの選択)> ページでソリューションまたはプロジェクトを追加するプロジェクトデータベース内のプロジェクトまたはサブプロジェクトを選択します。必要に応じて、プロジェクトデータベース内に新しいプロジェクトまたはサブプロジェクトを作成するには、プロジェクトを追加する対象となるプロジェクトを選択し、【Create Remote Folder (リモートフォルダの作成)】 をクリックします。<Project Name (プロジェクト名)> フィールドにフォルダ名を入力し、【Create (作成)】 をクリックします。



注 各 Version Manager プロジェクトまたはサブプロジェクトには、1 つのソリューションファイルのみ保存することができます。Version Manager の同じプロジェクトに複数のソリューションファイルを保存しないでください。ソース管理にソリューションやプロジェクトを追加するときは、Version Manager で別個の移動先プロジェクトを選択してください。

- 9 【Next (次へ)】 をクリックします。
- 10 <Connect to TeamTrack Server (TeamTrack サーバへの接続)> ページで、<TeamTrack Server (TeamTrack サーバ)> フィールドに TeamTrack サーバ名を入力します。TeamTrack サーバがデフォルト以外のポート番号 (80 以外のポート) を使用している場合は、ポート番号をサーバ名の後に付加します。たとえば、ポート番号が 89 の場合は次のようになります。


```
tt_server:89
```
- 11 TeamTrack のユーザ名とパスワードを入力し、【Next (次へ)】 をクリックします。

- 12 〈Review (確認)〉 ページですべての選択を見直します。設定を変更するには、【Back (戻る)】 ボタンをクリックします。作業が終了したら、【Finish (終了)】 ボタンをクリックします。

Version Manager からソリューションおよびプロジェクトを開く

作業を行う開発プロジェクトがすでに Version Manager に追加されている場合、作業を開始する前にローカルワークスペースでそれを開く必要があります。ソース管理からソリューションまたはプロジェクトを開くと、選択した Version Manager ワークスペース内のすべてのファイルは、すべての Visual Studio ソリューションまたはプロジェクトファイルも含めてローカルワークスペースに取り出されます。

ソリューション全体とその中のすべてのプロジェクトを一度に開き (314 ページの『Version Manager からソリューションを開く』)、開いたソリューションにプロジェクトを追加 (316 ページの『Version Manager から非 Web プロジェクトを開く』) するか、新しいソリューションに 1 つの Web プロジェクトを開く (317 ページの『Version Manager から Web プロジェクトを開く』) ことができます。

Version Manager からソリューションを開く

次の手順に従って Version Manager からソリューション全体とその中のすべてのプロジェクトを開きます。

Version Manager からソリューションを開く手順

- 1 [Serena] - [Open Solution from Version Manager (Version Manager からソリューションを開く)] を選択します。(Open from Source Control (ソース管理から開く)) ウィザードが表示されます。
- 2 〈Connect to Version manager Project Database (Version Manager プロジェクトデータベースへの接続)〉 ページで、開くソリューションを含むプロジェクトデータベースを指定します。次のいずれかを行ってプロジェクトデータベースを指定します。
 - ルートプロジェクトデータベースディレクトリへのパスを入力するか、ドロップダウンリストから最新プロジェクトデータベースを選択します。
 - 【Browse for PDB (PDB の参照)】 ボタン () をクリックして、プロジェクトデータベースを参照します。この場合、ルート PDB ディレクトリの直下に配置されている任意の .ser ファイルを選択する必要があります。
 - 【Browse File Servers (ファイルサーバの参照)】 ボタン () をクリックして、Version Manager ファイルサーバ上のすべてのプロジェクトデータベースから選択します。ファイルサーバは、Version Manager デスクトップクライアントから定義する必要があります。Version Manager File Server が定義されていない場合は、このボタンを無視します。
- 3 Version Manager のユーザ名とパスワードを入力し、【Next (次へ)】 をクリックします。
- 4 [Select Workspace (ワークスペースの選択)] タブで、ソリューション内のすべてのプロジェクトで使用するワークスペースを選択し、【Next (次へ)】 をクリックします。
 - 選択したワークスペースによって、ファイルのデフォルトバージョンラベルとプロモーショングループが決まります。デフォルトバージョンラベルが割り当てられているファイルのみが、ローカルワークスペースで開かれます。後に、ローカルワークスペースを Version Manager と同期するとき、追加するすべての新規ファイルにデフォルトバージョンラベルが割り当てられます。305 ページの『ワークスペースの使用』を参照してください。

- ワークスペースの選択は、開くことができるソリューションファイルも決定します。デフォルトバージョンラベルが割り当てられているソリューションを開くことができます。たとえば、デフォルトバージョンラベルが branch である場合、branch バージョンラベルが割り当てられているソリューションファイルのみ開くことができます。
- 5 [Select Solution/Project File (ソリューション/プロジェクトファイルの選択)] タブから、プロジェクトデータベースのフォルダを参照し、特定のソリューション (.sln) ファイルを見つけて選択します。デフォルトバージョンラベルが割り当てられているすべてのソリューションファイルが、〈Solution (ソリューション)〉カラムのもとに表示されます。デフォルトバージョンラベルが、任意のソリューションファイルの最新リビジョンに割り当てられていない場合、ソリューションファイルは表示されません。
 - 6 〈Local Workspace Location (ローカルワークスペースの場所)〉フィールドに入力するか参照してローカルワークスペースロケーションを選択し、【Next (次へ)】をクリックして選択します。ローカルワークスペースとは、ソリューション内のファイルの作業用コピーを格納するローカルの作業ディレクトリです。



重要! ASP プロジェクトなどの Web プロジェクトを含むソリューションを開く場合、ウィザードの終了後に各 Web プロジェクトの作業ディレクトリを選択するよう求めるメッセージが表示されます。この場合、〈Local Workspace Location (ローカルワークスペースの場所)〉フィールドで指定した場所に、ソリューションファイル、およびソリューションに含まれるすべての非 Web プロジェクトが格納されますが、Web プロジェクトファイルはすべて、ウィザードの終了後に選択する場所に格納されます。

- 7 〈Connect to TeamTrack Server (TeamTrack サーバへの接続)〉ページで、〈TeamTrack Server (TeamTrack サーバ)〉フィールドに TeamTrack サーバ名を入力します。TeamTrack サーバがデフォルト以外のポート番号 (80 以外のポート) を使用している場合は、ポート番号をサーバ名の後に付加します。たとえば、ポート番号が 89 の場合は次のようになります。
`tt_server:89`
- 8 TeamTrack のユーザ名とパスワードを入力し、【Next (次へ)】をクリックします。
- 9 〈Review (確認)〉ページですべての選択を見直します。設定を変更するには、【Back (戻る)】ボタンをクリックします。作業が終了したら、【Finish (終了)】ボタンをクリックします。
- 10 Web プロジェクトを含むソリューションを開く場合、Web サーバのルート URL に対応する物理ディレクトリの完全なパスを入力するよう求めるメッセージが表示されます。ここに Web プロジェクトの作業ファイルが保存されます。たとえば、ルート Web URL (http://localhost など) がディレクトリ c:\inetpub\wwwroot にマップされている場合、Web プロジェクトにディレクトリ c:\inetpub\wwwroot を選択します。

これでソリューション内のファイルの作業を開始できます。

Version Manager から非 Web プロジェクトを開く

次の手順に従って、Version Manager から非 Web プロジェクトを開いたソリューションに追加します。Version Manager から新しいソリューションに 1 つの Web プロジェクトを開くこともできます。この詳しい手順は、317 ページの『Version Manager から Web プロジェクトを開く』を参照してください。



重要！すでにソース管理下に置かれているソリューションに Version Manager からプロジェクトを追加する場合は、ソリューションを保存し、プロジェクトを追加してから Version Manager にソリューションをチェックインする必要があります。これにより、必ず新しいプロジェクトを含むソリューションのバージョンが Version Manager に保存され、すべてのユーザがこの更新を取得することができます。これを簡単に行うには、すべてのローカル変更を Version Manager にコミットします。338 ページの『ローカル変更を Version Manager にコミット』を参照してください。

次の方法で Version Manager から非 Web プロジェクトを開きます。

- 1 プロジェクトを追加するソリューションを開くか、作成します。
- 2 [File (ファイル)] - [Serena] - [Add Project From Version Manager (Version Manager からプロジェクトを追加)] を選択します。〈Open From Source Control (ソース管理から開く)〉ウィザードが表示されます。
- 3 〈Connect to Version manager Project Database (Version Manager プロジェクトデータベースへの接続)〉ページで、プロジェクトを含むプロジェクトデータベースを指定します。複数の Version Manager プロジェクトデータベースからプロジェクトを追加できないことに注意してください。次のいずれかを行ってプロジェクトデータベースを指定します。
 - ルートプロジェクトデータベースディレクトリへのパスを入力するか、ドロップダウンリストから最新プロジェクトデータベースを選択します。
 - 【Browse for PDB (PDB の参照)】 ボタン (📁) をクリックして、プロジェクトデータベースを参照します。この場合、ルート PDB ディレクトリの直下に配置されている任意の .ser ファイルを選択する必要があります。
 - 【Browse File Servers (ファイルサーバの参照)】 ボタン (🌐) をクリックして、Version Manager ファイルサーバ上のすべてのプロジェクトデータベースから選択します。ファイルサーバは、Version Manager デスクトップクライアントから定義する必要があります。Version Manager File Server が定義されていない場合は、このボタンを無視します。
- 4 Version Manager のユーザ名とパスワードを入力し、【Next (次へ)】 をクリックします。
- 5 [Select Workspace (ワークスペースの選択)] タブでワークスペースを選択して【Next (次へ)】 をクリックします。次のことに注意してください。
 - 選択したワークスペースによって、ファイルのデフォルトバージョンラベルとプロモーショングループが決まります。デフォルトバージョンラベルが割り当てられているファイルのみが、ローカルワークスペースで開かれます。後に、ローカルワークスペースを Version Manager と同期するとき、追加するすべての新規ファイルにデフォルトバージョンラベルが割り当てられます。305 ページの『ワークスペースの使用』を参照してください。
 - ワークスペースの選択は、開くことができるプロジェクトファイルも決定します。デフォルトバージョンラベルが割り当てられているプロジェクトを開くことができます。たとえば、デフォルトバージョンラベルが branch である場合、branch バージョンラベルが割り当てられているプロジェクトファイルのみ開くことができます。

- 6 [Select Solution/Project File (ソリューション/プロジェクトファイルの選択)] タブから、プロジェクトデータベースのフォルダを参照し、ローカルに開く特定のプロジェクトファイルを見つけて選択します。デフォルトバージョンラベルが割り当てられているすべてのプロジェクトファイルが表示されます。ワークスペースの選択によって決定されたデフォルトバージョンラベルが、任意のプロジェクトファイルの最新リビジョンに割り当てられていない場合、プロジェクトファイルは表示されません。
- 7 <Local Workspace Location (ローカルワークスペースの場所)> フィールドで、ローカルワークスペースの場所を指定し、【Next (次へ)】をクリックします。ローカルワークスペースとは、ソリューション内のファイルの作業用コピーを格納するローカルの作業ディレクトリです。



重要！すでにソース管理下に置かれているソリューションにプロジェクトを追加する場合は、ルートソリューションワークスペースディレクトリに対する相対的なパスとしてこのパスを定義する必要があります。たとえば、vb_project というサブディレクトリにファイルを配置するには、vb_project と入力します。

- 8 <Connect to TeamTrack Server (TeamTrack サーバへの接続)> ページで、<TeamTrack Server (TeamTrack サーバ)> フィールドに TeamTrack サーバ名を入力します。TeamTrack サーバがデフォルト以外のポート番号 (80 以外のポート) を使用している場合は、ポート番号をサーバ名の後に付加します。たとえば、ポート番号が 89 の場合は次のようになります。
tt_server:89
- 9 TeamTrack のユーザ名とパスワードを入力し、【Next (次へ)】をクリックします。
- 10 [Done (完了)] タブですべての選択を見直します。設定を変更するには、【Back (戻る)】ボタンをクリックします。作業が終了したら、【Finish (終了)】ボタンをクリックします。
- 11 ファイルの作業を開始する前に次のことを行います。
 - a ソリューションを保存します。
 - b ソリューションを閉じて再度開きます。
 - c ソリューションがソース管理下にある場合、ソリューションも調べて同じソリューションを使用しているほかのユーザがプロジェクトを含むバージョンのソリューションを取得することを確認する必要があります。これを簡単に行うには、すべてのローカル変更を Version Manager にコミットします。338 ページの『ローカル変更を Version Manager にコミット』を参照してください。

Version Manager から Web プロジェクトを開く

次の手順に従って 1 つの Web プロジェクトを新しい空白のソリューションに開きます。一度にソリューション全体を開く方が簡単です。しかし、この手順では、ソリューション内のすべてのプロジェクトを操作したくない場合に特定の Web プロジェクトだけを開いて操作することができます。

次の方法で Version Manager から Web プロジェクトを開きます。

- 1 [Serena] – [Open Solution from Version Manager (Version Manager からソリューションを開く)] を選択します。
- 2 次の重要な変更を加えて、314 ページの『Version Manager からソリューションを開く』の手順を実行します。
 - [Select Solution/Project file (ソリューション/プロジェクトファイルの選択)] タブで、特定の Web プロジェクトファイルを選択します。ソリューションファイルは選択しないでください。たとえば、プロジェクトの名前が MyWebApp の場合、MyWebApp.vbproj を選択します。

- また、[Select Solution/Project file (ソリューション/プロジェクトファイルの選択)] タブで、[Local Workspace Location (ローカルワークスペースの場所)] フィールドにルート IIS ディレクトリの下の新しいフォルダのパスを入力します。たとえば、IIS サーバで MyWebApp という名前のプロジェクトのすべての Web ファイルを C:\Inetpub\wwwroot ディレクトリに保存する場合、参照して選択する完全なパスは
C:\Inetpub\wwwroot\MyWebApp です。
このフォルダの名前はプロジェクト名にちなんだ名前にすることを強くお勧めします。
 - 3 ウィザードを完了します。新しいソリューションが作成されますが、プロジェクトファイルは表示されません。ソリューションファイルは、ルート Web ディレクトリの下に作られます。
 - 4 [File (ファイル)] - [Save All (すべて保存)] を選択します。
 - 5 ソリューションエクスプローラで、ソリューションを右クリックして [Add (追加)] - [Existing Project (既存のプロジェクト)] を選択します。[Add Existing Project (既存のプロジェクトの追加)] ダイアログボックスが開きます。
 - 6 [File name (ファイル名)] フィールドに Web プロジェクトファイルへの完全な URL を入力します。たとえば、プロジェクト名が MyWebApp で ISS ルートフォルダの下のある \MyWebApp ディレクトリに追加する場合、URL は
http://localhost/MyWebApp/MyWebApp.vbproj となります。
 - 7 【OK】をクリックします。
 - 8 ソリューションを保存します。
 - 9 インターネットインフォメーションサービスを開きます。
 - 10 Web サイトの一覧を展開します。Version Manager から開いたプロジェクトがフォルダとして表示されますが、仮想ルートではないことに注意してください。Visual Studio で操作する前にこのフォルダを仮想ルートにする必要があります。次の方法で行います。
 - a フォルダを右クリックして、[Properties (プロパティ)] を選択します。
 - b [Directory (ディレクトリ)] タブで、【Create (作成)】 ボタンをクリックします。
 - c 【OK】をクリックします。
- これで Web プロジェクトを操作できるようになりました。

ファイルの編集

このセクションの手順を完了すると次のことができます。

- ファイル履歴の参照。319 ページの『[ファイル履歴の参照](#)』を参照してください。
- ファイルおよびフォルダの取得。321 ページの『[特定のファイルまたはフォルダの取得](#)』を参照してください。
- 特定のファイルまたはフォルダのチェックアウト。322 ページの『[ファイルのチェックアウト](#)』を参照してください。
- チェックアウトの取り消し。323 ページの『[チェックアウトの取り消し](#)』を参照してください。
- ファイルの編集。324 ページの『[ファイルの編集](#)』を参照してください。
- ローカル変更の確認。324 ページの『[ローカル変更の確認](#)』を参照してください。

- 特定のファイルのチェックイン。325 ページの『ファイルのチェックイン』を参照してください。
- ファイルのラベル付け。329 ページの『リビジョンのラベル付け』を参照してください。
- ファイルのプロモート。331 ページの『リビジョンのプロモート』を参照してください。

ファイル履歴の参照

ファイル履歴を参照してチェックイン日付とコメント、作者、割り当てられているバージョンラベルやプロモーショングループなどファイルのリビジョンに関する情報を表示します。

ワークスペースがリビジョン履歴ビューを決定

Version Manager ワークスペースの設定に応じて次のいずれかが表示されます。

- ワークスペースのデフォルトのバージョンラベルが、開発の主流のリビジョンに割り当てられたラベル（または trunk）ならば、トランクのリビジョンのみ表示されます（たとえば、1.1、1.2、1.3）。
- ワークスペースのデフォルトバージョンラベルがブランチラベルならば、ブランチに属するリビジョンのみ表示されます（たとえば、1.3.1、1.3.2、1.3.3）。

リビジョンの更新

このビューでは、次の操作を実行できます。

- バージョンラベルの割り当て、名前変更、削除
- リビジョンのプロモート
- 以前のリビジョンの表示
- 2つのリビジョンの比較

ファイル履歴の参照

次の方法でファイル履歴を参照します。

- 1 ソリューションエクスプローラでファイルを選択します。
- 2 [Serena] - [Show History (履歴の表示)] を選択します。
- 3 このビューから以下を行うことができます。

アイコン	説明
	<p>リビジョンごとにグループ分け すべてのリビジョンを表示します。</p>
	<p>ラベルごとにグループ分け 各バージョンラベルを別々に表示します。特定のラベル名をクリックしてそれを削除するか名前を変更できます。</p>  <p>329 ページの『リビジョンのラベル付け』を参照してください。</p>

アイコン	説明
	プロモーショングループごとにグループ分け プロモーションモデルが定義されている場合、プロモーションモデル内のすべてのプロモーショングループを表示します。331 ページの『 リビジョンのプロモート 』を参照してください。
	コメント / ラベルの表示 ドロップダウン矢印をクリックして、選択したリビジョンのチェックインコメントとバージョンラベルの表示 / 非表示を選択します。コメントは右の表示部に表示され、ラベルは下の表示部に表示されます。
	最新の情報に更新 履歴ビューを最新の情報に更新します。

- 4 リビジョンを右クリックして以下を行うこともできます。

アイコン	説明
	リビジョンの比較 選択した 2 つのリビジョンを比較するか、ローカルファイルを Version Manager 内の最新のリビジョンと比較します。2 つのリビジョンを比較するには、2 つのリビジョンを CTRL を押しながらクリックし、いずれかのリビジョンを右クリックしてこのオプションを選択します。342 ページの『 ファイルの比較 』を参照してください。
	選択したリビジョンの表示 リビジョンを一時的な場所にコピーして Visual Studio で開きます。ファイルは、表示するだけで編集できません。
	ラベルの追加 選択したリビジョンに新しいバージョンラベルを割り当てます。329 ページの『 ラベルの割り当て 』を参照してください。
	次にプロモート 選択したリビジョンを次のプロモーショングループにプロモートします。331 ページの『 リビジョンのプロモート 』を参照してください。
	選択したリビジョンの取得 選択したリビジョンのコピーを取得します。その後それを操作し、実用的ロックモデルを使用する場合はチェックインすることができます。321 ページの『 特定のファイルまたはフォルダの取得 』を参照してください。

特定のファイルまたはフォルダの取得

操作する必要があるファイルを取得してローカルワークスペースにコピーします。ファイルの最新のリビジョンを取得するか、前のリビジョンを操作する必要がある場合は特定のリビジョンを取得することができます。

いったんファイルを取得したら、それを編集してチェックインできます（ただし、チェックアウトとロックをしないとファイルを編集できないように組織で定められている場合は例外です。305 ページの『[コラボレーティブプロセスの概要](#)』を参照してください）。ファイルのローカルコピーは、読み取り専用で設定されています。それらを編集する場合、それらを書き込み可能に設定するか、保存するときに既存のファイルを上書きするという Visual Studio の確認メッセージを受け入れる必要があります。



注 [Compare Workspaces (ワークスペースの比較)] ビューから、ファイルの新しいすべてのリビジョンおよび Version Manager プロジェクトの新しいファイルやほかの変更で、ローカルワークスペースを更新することができます。336 ページの『[Version Manager からすべての更新を取得](#)』を参照してください。

最新リビジョンの取得

すでにファイルのローカルコピーがある場合、必要に応じて、取得する最新のリビジョンを既存のローカルコピーとマージすることもできます。これにより、ローカルに行った変更が確実に保たれます。最新のリビジョンをローカルコピーにマージしようとした結果、競合が発生する場合、取得は失敗し、それらのファイルを再び取得する前に競合を解決する必要があります。344 ページの『[競合の確認と解決](#)』を参照してください。

次の方法でファイルの最新のリビジョンを取得します。

- 1 ソリューションエクスプローラで、取得するファイルまたはフォルダを選択します。
- 2 [File (ファイル)] - [Serena] - [Get Latest Revision (最新リビジョンの取得)] を選択します。[Get (取得)] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 ファイルの選択が正しいことを確認し、必要に応じて変更します。
- 4 その他の設定を表示するには、〈Options (オプション)〉バーをクリックします。最新のリビジョンがファイルのローカル作業コピーと異なる場合の操作を選ぶことができます。最新のリビジョンを自動的にローカルコピーにマージ、ローカルコピーを上書き、ローカルコピーを変更しない、またはファイル単位にオプションを確認するのいずれかを選ぶことができます。
- 5 ファイルを取得するたびに現在のオプション設定をデフォルトとして保存するには、〈Save Settings (設定の保存)〉オプションを選択します。



ヒント [Tools (ツール)] - [Options (オプション)] ダイアログから、すべてのダイアログボックスのデフォルトオプションを定義することもできます。331 ページの『[ダイアログボックスのデフォルトオプションの設定](#)』を参照してください。

- 6 【Get (取得)】をクリックします。
- 7 最新のリビジョンがファイルのローカル作業コピーと異なる場合の操作を選ぶメッセージが表示されたら、適切なオプションを選択して【OK】をクリックします。



重要! ファイルをマージしようとした結果、競合が発生した場合は、取得を完了する前に競合を解決する必要があります。344 ページの『[競合の確認と解決](#)』を参照してください。

以前のリビジョンの取得

次の方法でファイルの以前のリビジョンを取得します。

- 1 ソリューションエクスプローラでファイルを選択し、[Serena] – [Show History (履歴の表示)] を選択します。
- 2 すべてのリビジョンを表示するには、【Group by Revisions (リビジョンで分類)】 ボタン () をクリックします。
- 3 取得するリビジョンを右クリックして、[Get Selected Revision (選択したリビジョンの取得)] を選択します。選択したリビジョンがローカルワークスペースにコピーされます。ファイルがすでに存在する場合は、上書きされます。

ファイルのチェックアウト

ファイルをチェックアウトして Version Manager 内で特定のファイルの最新のリビジョンをロックし、そのファイルをローカルワークスペースにコピーします。ロックされたファイルをチェックアウトすると次のことが可能になります。

- ファイルの作業コピーが書き込み可能になり、編集して変更を保存することができます。
- 変更してチェックインするかチェックアウトを取り消すまでほかのユーザはファイルを変更することができません。これにより、そのファイルにほかのユーザが競合する変更を防ぎます。
- すでにファイルのローカルコピーがある場合、最新のリビジョンを必要に応じてローカルコピーとマージすることもできます。これにより、ローカルに行った変更が確実に保たれます。マージしようとした結果、マージの競合が発生した場合は、チェックアウトが失敗するので、競合を解決して、もう一度ファイルをチェックアウトする必要があります。344 ページの『競合の確認と解決』を参照してください。

ファイルをチェックアウトするには、次の操作を行います。

- 1 ソリューションエクスプローラから、次のいずれかを選択します。

選択	説明
プロジェクトまたはフォルダ	Version Manager の関連するプロジェクトに保存されているすべてのファイルの最新のリビジョンをチェックアウトする。
個別ファイル	個別のファイルの最新のリビジョンをチェックアウトする。

- 2 [File (ファイル)] – [Serena] – [Check Out (チェックアウト)] を選択します。
- 3 ファイルの選択が正しいことを確認し、必要に応じて変更します。
- 4 その他の設定を表示するには、〈Options (オプション)〉バーをクリックします。ファイルのローカル作業コピーが最新のリビジョンと異なる場合、操作の選択を変更することができます。最新のリビジョンを自動的にローカルコピーにマージ、ローカルコピーを上書き、ローカルコピーを変更しない、またはファイル単位にオプションを確認するのいずれかを選ぶことができます。
- 5 ファイルを取得するたびに現在のオプション設定をデフォルトとして保存するには、〈Save Settings (設定の保存)〉オプションを選択します。



ヒント [Tools (ツール)] – [Options (オプション)] ダイアログボックスから、すべてのダイアログボックスのデフォルトオプションを定義することもできます。331 ページの『ダイアログボックスのデフォルトオプションの設定』を参照してください。

- 6 【Checkout (チェックアウト)】をクリックします。
- 7 最新のバージョンがファイルのローカル作業コピーと異なる場合の操作を選ぶメッセージが表示されたら、適切なオプションを選択して【OK】をクリックします。



重要! ファイルをマージしようとした結果、競合が発生した場合は、チェックアウトを完了する前に競合を解決する必要があります。344 ページの『競合の確認と解決』を参照してください。

チェックアウトの取り消し

チェックアウトしたファイルのチェックアウトを取り消すと、ファイルのロックが解除され、ほかのユーザがそのファイルをチェックアウトできるようになります。ファイルのローカルコピーをチェックアウトする前の状態に戻すか、Version Manager の最新のバージョンと置き換えるか、またはそのままにしておくかを選ぶことができます。

チェックアウトを取り消すには、次の操作を行います。

- 1 ソリューションエクスプローラから、次のいずれかを選択します。

選択	説明
プロジェクトまたはフォルダ	Version Manager の関連するプロジェクトに保存されているすべてのファイルのチェックアウトを取り消す。
個別ファイル	特定のファイルのチェックアウトを取り消す。

- 2 [File (ファイル)] - [Serena] - [Undo Checkout (チェックアウトの取り消し)] を選択します。[Undo Checkout (チェックアウトの取り消し)] ダイアログボックスが表示されます。



注 [Serena] - [Show File Status (ファイルステータスの表示)] ビューでファイルを右クリックすることでチェックアウトを取り消すこともできます。

- 3 ファイルの選択が正しいことを確認し、必要に応じて変更します。
- 4 その他の設定を表示するには、〈Options (オプション)〉バーをクリックします。ファイルのローカルコピーをそのまま維持するか、Version Manager の最新のバージョンと置き換えるか選ぶことができます。
- 5 チェックアウトを取り消すたびに現在のオプション設定をデフォルトとして保存するには、〈Save Settings (設定の保存)〉オプションを選択します。



ヒント [Tools (ツール)] - [Options (オプション)] ダイアログから、すべてのダイアログボックスのデフォルトオプションを定義することもできます。331 ページの『ダイアログボックスのデフォルトオプションの設定』を参照してください。

- 6 【Undo Checkout (チェックアウトの取り消し)】をクリックします。

ファイルの編集

いったん操作するファイルを取得するかチェックアウトしたら、それを編集することができます。組織内のワークフローに応じて、ファイルを編集するために次のいずれかを行う必要があります。

- 必要なロック
 - 組織のワークフローが、ファイルを編集する前にチェックアウトしてロックすることを要求している場合、チェックアウトしたファイルはすでに書き込み可能で操作を開始することができます。操作に必要なファイルでまだチェックアウトしていないものがあれば、それらをチェックアウトする必要があります。
- 楽観的ロック
 - 組織が、複数の開発者がファイルをロックせず同時に同じファイル进行操作できる楽観的ロックモデルをサポートしている場合は、ファイルを編集する前にチェックアウトする必要はありません。単にそれらを取得するだけです。ただし、ファイルを取得しただけでは、ファイルのローカルコピーは書き込み可能になりません。ファイル进行操作するには、次のいずれかを行う必要があります。
 - Windows エクスプローラからファイルが読み取り専用設定されていないことを確認する。
 - Visual Studio で保存するたびに既存のファイルの上書きを選ぶ。

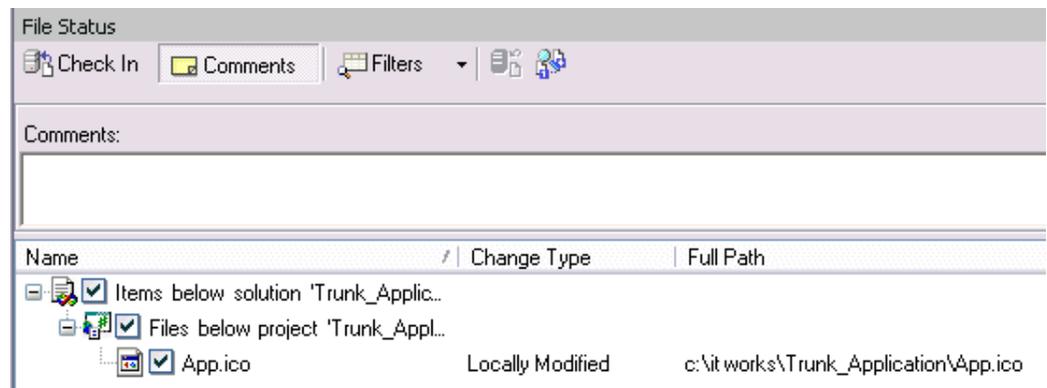
ローカル変更の確認

ローカル変更を確認して次のことを行います。

- ファイルのローカルコピーに対して行ったすべての変更の一覧および追加または削除したファイルを表示します。これは、ワークスペース内のファイルのステータスを簡単に確認する良い方法です。
- 最後にチェックインした後に変更したすべてのファイルを、すばやくチェックインします。328 ページの『すべてのローカル変更のチェックイン』を参照してください。

次の方法でローカルファイルステータスを表示します。

- 1 [Serena] – [Show File Status (ファイルステータスの表示)] を選択します。[File Status (ファイルステータス)] ビューが表示されます。



このビューは、変更または追加したすべてのファイルの一覧を表示します。

- 2 【Filter (フィルタ)】 ボタンをクリックして、現在チェックアウトされているファイル、ローカルに変更されたファイル、または新しいファイルを表示するかどうかを選ぶこともできます。



- 3 変更をチェックインしてここからリビジョンを比較することもできます。328 ページの『すべてのローカル変更のチェックイン』と 342 ページの『ファイルの比較』を参照してください。

ファイルのチェックイン

目的 新しいリビジョンで行った変更を保存するためにファイルをチェックインします。ファイル編集するときにすべてのファイルをロックしてからチェックアウトするようワークフローが要求している場合、ファイルをチェックインする前にロックする必要があります。それ以外の場合、最初にチェックアウトしているか否かにかかわらず、任意のローカルファイルをチェックインすることができます。

チェックインするには、次のいずれかを行います。

- 特定のファイルやフォルダを選択し、[Check In (チェックイン)] ダイアログボックスを完了します。この方法では、TeamTrack Issue の関連のカスタマイズを含むすべてのチェックインオプションを利用することができます。326 ページの『[Check In (チェックイン)] ダイアログボックスでのチェックイン』を参照してください。
- [File Status (ファイルステータス)] ビューからローカルに変更したファイルをチェックインして [Check In (チェックイン)] ダイアログボックスを省略します。この場合、チェックインのデフォルトの設定がすべて適用されます。こちらの方が簡単ですが柔軟性に欠けます。328 ページの『すべてのローカル変更のチェックイン』を参照してください。



重要! チェックインしても、そのような変更は、名前が変更されたり移動されたりしたファイルとして同期されません。これを行うには、すべての変更を Version Manager にコミットする (338 ページの『ローカル変更を Version Manager にコミット』を参照) か、ワークスペースを対応する Version Manager ワークスペースと同期します。

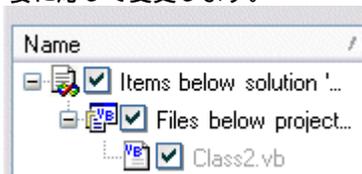
チェックインとマージ

ローカルワークスペースを最新のリビジョンで最後に更新してからほかのユーザがファイルの変更をチェックインしている場合、デフォルトで、変更は最新のリビジョンに自動的にマージされます。これにより変更が失われるのを防ぎます。変更が、ほかのユーザがチェックインした変更内容と競合する場合は、チェックインする前に競合を解消する必要があります。[Compare Workspaces (ワークスペースの比較)] ビューは、Version Manager 内のファイルと競合するすべてのファイルを表示してこの処理を簡素化します。そして、このビューから競合を解決することができます。344 ページの『競合の確認と解決』を参照してください。

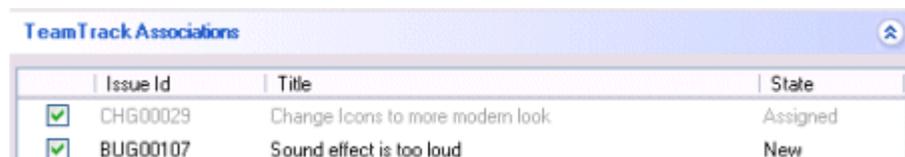
〔Check In (チェックイン)〕 ダイアログボックスでのチェックイン

次の方法で〔Check In (チェックイン)〕 ダイアログボックスを使用して特定のファイルやフォルダをチェックインします。

- 1 プロジェクトやソリューションファイルを含めてチェックインするすべてのファイルを保存します。
- 2 ソリューションエクスプローラで、チェックインするファイルまたはフォルダを選択します。
- 3 [File (ファイル)] - [Serena] - [Check In (チェックイン)] を選択します。〔Check In (チェックイン)〕 ダイアログボックスが表示されます。
- 4 〔Check In (チェックイン)〕 ダイアログボックスでファイルの選択が正しいことを確認し、必要に応じて変更します。



- 5 変更内容の説明を〈Description (コメント)〉フィールドに入力します。複数のファイルをチェックインする場合は、〈Use description for all (この説明をすべてのファイルに適用)〉オプションから〈No (いいえ)〉を選択し、ファイルごとに個別の説明を入力できます。この場合、ファイルごとに固有の説明を入力するように求められます。
- 6 TeamTrack と Version Manager の統合を使用している場合、〈TeamTrack Associations (TeamTrack の関連付け)〉バーを展開して、現在有効なすべての Issue を表示します。



ここで選択する Issue は、チェックインするファイルに関連付けられます。関連付けしない Issue は選択を解除します。TeamTrack Issue の関連とセットアップの詳細は、[347 ページの『TeamTrack Issue の関連付けと操作』](#)を参照してください。

- 7 デフォルトでは、チェックイン時にファイルに関連付ける Issue はすべて選択解除されるため、それらの Issue は、有効な Issue のリストにはありません。有効な Issue のリストに、選択した Issue を残す場合は、〈Deactivate selected issues after checkin (チェックイン後に選択した Issue を選択解除)〉オプションを選択解除します。

- 8 チェックインオプションを変更するには、〈Options (オプション)〉バーをクリックし、以下のいずれかを更新します。

オプション	説明
If newer revision in repository (リポジトリ内に新しいリビジョンがある場合)	<p>最後にファイルを取得した後に、ファイルの新しいリビジョンが Version Manager にチェックインされた場合の処理を選択します。以下のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Merge (マージする)：変更を Version Manager 内の最新リビジョンの変更にマージします。ファイルをマージしようとした結果、競合が発生した場合は、チェックインを完了する前に競合を解決する必要があります。344 ページの『競合の確認と解決』を参照してください。 ■ Skip (上書きしない)：ファイルをチェックインしません。 ■ Force Checkin (強制的にチェックインする)：ファイルをチェックインし、マージを行わずに新規リビジョンを作成します。
If Workfile Unchanged (作業ファイルが変更されない場合)	<p>ローカルで作業中のファイルのバージョンが Version Manager の最新リビジョンと同じである場合の処理を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Prompt (確認する)：ファイルごとに異なるオプションを選択できるメッセージを表示します。 ■ Checkin (チェックイン)：変更されていないすべてのファイルをチェックインします。 ■ Leave as-is (現状を維持する)：変更されていないすべてのファイルをチェックインしません。
Use description for all (この説明をすべてのファイルに適用)	<p>チェックインするすべてのファイルに〈Description (コメント)〉フィールドの説明を適用するには、〈Yes (はい)〉を選択します。〈No (いいえ)〉を選択した場合、ファイルごとに説明を入力するように求められます。</p>
Keep locked (ロック状態を保持)	<p>チェックアウトされたファイルが現在は Version Manager でロックされている場合に、ロック状態を保持するかどうかを選択します。〈Yes (はい)〉を選択した場合、ファイルのロック状態が保持され、ほかのユーザはチェックアウトできなくなります。</p>
New label (新規ラベル)	<p>新規リビジョンに割り当てるバージョンラベルを入力します。ラベルには 254 文字まで入力できます。コロン (:)、二重引用符 (")、プラス記号 (+)、またはマイナス記号 (-) は使用できません。</p>
Float label with tip (浮動ラベル)	<p>新規リビジョンにラベルを割り当てる場合は、〈Yes (はい)〉を選択して、ラベルが常にファイルの最新リビジョンに割り当てられるようにします。新規リビジョンがチェックインされるたびに、新規リビジョンにラベルが移動 (または浮動) されます。</p>
If label exists (ラベルが存在する場合)	<p>新規リビジョンに割り当てるラベルがすでに別のバージョンに割り当てられている場合の処理を選択します。以下のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Prompt (確認する)：チェックイン中にこの Issue が発生した場合、Issue を解決するかどうかを確認します。 ■ Reassign (再度割り当てる)：新規リビジョンへラベルを移動します。 ■ Leave as-is (現状を維持する)：新規リビジョンへ移動しないで、ラベル割り当てを現状のまま維持します。

オプション	説明
Promote to next (次にプロモート)	プロモーション階層内の次のグループに新規リビジョンをプロモートするには、〈Yes (はい)〉を選択します。 重要! チェックイン中に、同時に複数のファイルをロックしたまま、新規リビジョンをプロモートすることはできません。ロックされたリビジョンはプロモートできないためです。新規リビジョンをプロモートする場合は、ファイルはロックしないようにしてください。
Update local file on keyword expansion (キーワード展開時のローカルファイルの更新)	チェックイン中に展開される Version Manager キーワードがチェックインするファイルに含まれる場合は、このオプションを〈Yes (はい)〉に設定することにより、展開されたキーワードとともに最新リビジョンがローカルワークスペースにコピーされます。

- 9 〈Save Settings (設定の保存)〉 チェックボックスを選択して、現在のオプションを将来のチェックインのデフォルトとして保存することができます。



ヒント [Tools (ツール)] – [Options (オプション)] ダイアログから、すべてのダイアログボックスのデフォルトオプションを定義することもできます。331 ページの『ダイアログボックスのデフォルトオプションの設定』を参照してください。

- 10 【Check In (チェックイン)】 をクリックします。



重要! ファイルをマージしようとした結果、競合が発生した場合は、チェックインを完了する前に競合を解決する必要があります。344 ページの『競合の確認と解決』を参照してください。

すべてのローカル変更のチェックイン

次の方法ですべてのローカル変更を簡単にチェックインできます。

- 1 [Serena] – [Show File Status (ファイルステータスの表示)] を選択してローカルに変更したすべてのファイルのリストを表示します。
- 2 【Comments (コメント)】 ボタン ( Comments) をクリックしてローカル更新のコメントを入力します。

Comments:
I corrected defect 4762, but it needs peer review.

これらのコメントは、ファイルをチェックインするときに適用されます。

- 3 チェックインするファイルの選択が適切かどうか確認します。
- 4 【Check In (チェックイン)】 ボタン ( Check In) をクリックします。次の処理が行われます。
 - 〈Comments (コメント)〉 フィールドにコメントを入力すると、コメントが各ファイルに適用されます。入力しないとコメントの入力を求めるメッセージが表示されます。
 - チェックインに TeamTrack Issue の関連付けが必要で、現在有効な Issue がある場合、ファイルはそれらの Issue と関連付けられます。現在有効な Issue がない場合、チェックイン前に Issue を有効にする必要があります。347 ページの『TeamTrack Issue の関連付けと操作』を参照してください。

リビジョンのラベル付け

バージョンラベルを割り当ててファイルに記述テキストラベルを付けます。バージョンラベルは、特定のリリースで使用したリビジョンや特定の変更を含むリビジョンを示すために使用することができます。たとえば、必ずファイルの最新のリビジョンだけを検索するよう、ビルドスクリプトから検索できる浮動ラベル（常にファイルの最新のリビジョンに移動するラベル）を割り当てることができます。以下の操作を実行できます。

- ラベルの割り当て：329 ページの『ラベルの割り当て』を参照してください。
- ラベルの名前変更：330 ページの『バージョンラベル名の変更』を参照してください。
- ラベルの削除：330 ページの『ラベルの削除』を参照してください。

ラベルの割り当て

ファイルの最新のバージョン、または特定のファイルの前のバージョンにラベルを割り当てることができます。

次の方法で、ファイルの最新バージョンまたは選択した複数のファイルにラベルを割り当てます。

- 1 ラベルを付けるファイルを選択します。フォルダ内のすべてのファイルにラベルを付けるにはフォルダを選択します。
- 2 [File (ファイル)] - [Serena] - [Label (ラベル)] を選択します。[Add Label (ラベルの追加)] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 適切な項目を選択していることを確認します。
- 4 〈New Label (新しいラベル)〉フィールドに、ラベルを入力します。ラベルには 254 文字まで入力できます。コロン (:)、二重引用符 (")、プラス記号 (+)、またはマイナス記号 (-) は使用できません。
- 5 ラベルオプションを変更するには、〈Options (オプション)〉バーをクリックし、以下のいずれかを変更します。
 - 定義したラベルが選択したファイルにすでに割り当てられている場合の処理として、〈If label exists (ラベルが存在する場合)〉を〈Prompt (確認する)〉、〈Reassign (再度割り当てる)〉、または〈Leave as-is (現状を維持する)〉に設定します。
 - このラベルをファイルの新しいバージョンへ自動的に移動（または「浮動」）するには、〈Make floating (浮動化)〉を〈Yes (はい)〉に設定します。
- 6 [Add Label (ラベル追加)] ボタンをクリックします。

次の方法で特定のファイルの前のバージョンにラベルを付けます。

- 1 ラベルを付けるファイルを選択します。
- 2 [Serena] - [Show History (履歴の表示)] を選択します。
- 3 ラベルを付けるバージョンを右クリックして、[Add Label (ラベルの追加)] を選択します。[Assign Label (ラベルの割り当て)] ダイアログボックスが表示されます。
- 4 適切な項目を選択していることを確認します。
- 5 〈Version Label (バージョンラベル)〉フィールドにラベルを入力します。

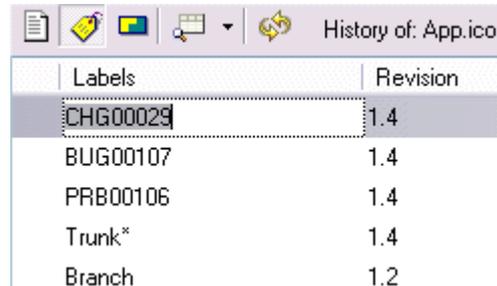
- 6 ラベルオプションを変更するには、〈Options (オプション)〉バーをクリックし、以下のいずれかを変更します。
 - 定義したラベルがファイルのリビジョンにすでに割り当てられている場合の処理として、〈If label exists (ラベルが存在する場合)〉を〈Prompt (確認する)〉、〈Reassign (再度割り当てる)〉、または〈Leave as-is (現状を維持する)〉に設定します。
 - このラベルをファイルの新しいバージョンへ自動的に移動 (または「浮動」) するには、〈Make floating (浮動化)〉を〈Yes (はい)〉に設定します。
- 7 【Add Label (ラベル追加)】 ボタンをクリックします。

バージョンラベル名の変更

既存のラベルの名前を変更するには、バージョンラベルの名前を変更します。特定のファイルの特定のバージョンに割り当てられているラベルの名前を変更することができます。

次の方法でラベルの名前を変更します。

- 1 変更するラベルを含むファイルを選択します。
- 2 [Serena] - [Show History (履歴の表示)] を選択します。
- 3 【Label (ラベル)】 ボタンをクリックしてファイルのリビジョンに割り当てられているすべてのバージョンラベルを表示します。各ラベルは別々に表示されます。



Labels	Revision
CHG00029	1.4
BUG00107	1.4
PRB00106	1.4
Trunk*	1.4
Branch	1.2

- 4 名前を変更するラベルをクリックして新しいテキストを入力します。

ラベルの削除

バージョンラベルを削除してそれをファイルの特定のバージョンから削除します。

次の方法でラベルを削除します。

- 1 削除するラベルを含むファイルを選択します。
- 2 [Serena] - [Show History (履歴の表示)] を選択します。
- 3 【Label (ラベル)】 ボタンをクリックしてファイルのリビジョンに割り当てられているすべてのバージョンラベルを表示します。
- 4 削除するラベルを右クリックして、[Delete Label (ラベルの削除)] を選します。

リビジョンのプロモート

リビジョンをプロモートしてプロモーションモデル内の次のプロモーショングループに関連付けます。リビジョンは、それが開発または製造の次のフェーズへの遷移を表す場合にプロモートします。たとえば、プロモーションモデルの次のグループの名前が test で、テストの準備ができていないファイルを識別するために使われるとします。このとき、コンポーネントをテスト用に準備するリビジョンをチェックインする場合、そのリビジョンをプロモートして test グループを割り当てます。

次の方法で、ファイルの最新バージョンまたは複数のファイルを同時にプロモートします。

- 1 ソリューションエクスプローラで、プロモートするファイルを選択します。フォルダ内のすべてのファイルをプロモートするにはフォルダを選択します。
- 2 [File (ファイル)] - [Serena] - [Promote (プロモート)] を選択します。ファイルが次のグループへプロモートされます。

次の方法で特定のファイルの特定のバージョンをプロモートします。

- 1 プロモートするファイルを選択します。
- 2 [Serena] - [Show History (履歴の表示)] を選択します。
- 3 プロモートするリビジョンを右クリックして、[Promote to Next (次にプロモート)] を選択します。

ダイアログボックスのデフォルトオプションの設定

デフォルトオプションを設定してダイアログボックスのデフォルトの設定と動作を定義します。

次の方法でダイアログボックスのデフォルトオプションを設定します。

- 1 [Tools (ツール)] - [Options (オプション)] を選択します。[Options (フォルダオプション)] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 左側のフォルダのリストから、Serena を選択してオプションの各カテゴリを表示します。
- 3 次のいずれかのカテゴリを選択して、希望のデフォルトオプションを設定します。

カテゴリ	オプション
ラベルの割り当て デフォルトは、バージョンラベルを割り当てるたびに適用されます。 329 ページの『リビジョンのラベル付け』 を参照してください。	If label exists (ラベルが存在する場合) 定義するラベルが選択したファイルにすでに割り当てられている場合の処理として、〈Prompt (確認する)〉、〈Reassign (再度割り当てる)〉、または〈Leave as-is (現状を維持する)〉を設定します。
	Make floating (浮動化) ラベルをファイルの新しいリビジョンへ自動的に移動 (または「浮動」) するには、〈Yes (はい)〉に設定します。

カテゴリ	オプション
<p>Check In (チェックイン) デフォルトは、ファイルをチェックインするたびに適用されます。325 ページの『ファイルのチェックイン』を参照してください。</p>	<p>If newer revision in repository (リポジトリ内に新しいリビジョンがある場合) 以下に設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Merge (マージする)：変更を Version Manager 内の最新リビジョンの変更にマージします。ファイルをマージしようとした結果、競合が発生した場合は、チェックインを完了する前に競合を解決する必要があります。344 ページの『競合の確認と解決』を参照してください。 ■ Skip (上書きしない)：ファイルをチェックインしません。 ■ Force Checkin (強制的にチェックインする)：ファイルをチェックインし、マージを行わずに新規リビジョンを作成します。
	<p>Use description for all (この説明をすべてのファイルに適用) チェックインするときすべてのファイルに〈Comment (コメント)〉フィールドの説明を適用するには、〈Yes (はい)〉を選択します。〈No (いいえ)〉を選択すると、各ファイルの説明の入力を要求するメッセージが表示されます。</p>
	<p>Keep locked (ロック状態を保持) チェックイン後ファイルのロック状態を保持し、ほかのユーザがチェックアウトできないようにするには〈Yes (はい)〉を選択します。</p>
	<p>New label (新規ラベル) ファイルの新しいリビジョンに割り当てるバージョンラベルを入力するか、ドロップダウンリストをクリックして既存のラベルを選択します。</p>
	<p>Float label with tip (浮動ラベル) 新規リビジョンにラベルを割り当てる場合は、〈Yes (はい)〉に設定して、ラベルが常にファイルの最新リビジョンに割り当てられるようにします。新規リビジョンがチェックインされるたびに、新規リビジョンにラベルが移動 (または浮動) されます。</p>
	<p>If label exists (ラベルが存在する場合) 新規リビジョンに割り当てるラベルがすでに別のバージョンに割り当てられている場合の処理を選択します。以下のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Prompt (確認する)：チェックイン中にこの Issue が発生した場合、Issue を解決するかどうかを確認します。 ■ Reassign (再度割り当てる)：新規リビジョンへラベルを移動します。 ■ Leave as-is (現状を維持する)：新規リビジョンへ移動しないで、ラベル割り当てを現状のまま維持します。
	<p>Promote to next (次にプロモート) プロモーション階層内の次のグループに新規リビジョンをプロモートするには、〈Yes (はい)〉を選択します。</p>
	<p>Update local file after Keyword expansion (キーワード展開後のローカルファイルの更新) チェックイン中に展開される Version Manager キーワードがチェックインするファイルに含まれる場合は、このオプションを〈Yes (はい)〉に設定することにより、展開されたキーワードとともに最新リビジョンがローカルワークスペースにコピーされます。</p>

カテゴリ	オプション
Check Out (チェックアウト) デフォルトは、ファイルをチェックアウトするたびに適用されます。322 ページの『ファイルのチェックアウト』を参照してください。	If workfile is changed (作業ファイルが変更された場合) ファイルのローカル作業コピーが最新のリビジョンと異なる場合の操作を選びます。以下のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Merge (マージする) : 自動的に最新リビジョンをローカルコピーにマージします。 ■ Prompt (確認する) : 確認メッセージを表示します。 ■ Overwrite (上書きする) : ローカルコピーに最新リビジョンを上書きします。 ■ Leave as-is (現状を維持する) : ローカルコピーを現状のまま維持します。
Compare and Merge (比較してマージ)	341 ページの『エンコーディングと表示オプションの設定』を参照してください。
Get (取得) デフォルトは、ファイルを取得するたびに適用されます。321 ページの『特定のファイルまたはフォルダの取得』を参照してください。	If workfile is changed (作業ファイルが変更された場合) ファイルのローカル作業コピーが最新のリビジョンと異なる場合の操作を選びます。以下のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Merge (マージする) : 自動的に最新リビジョンをローカルコピーにマージします。 ■ Prompt (確認する) : 確認メッセージを表示します。 ■ Overwrite (上書きする) : ローカルコピーに最新リビジョンを上書きします。 ■ Leave as-is (現状を維持する) : ローカルコピーを現状のまま維持します。
Undo Checkout (チェックアウトの取り消し) デフォルトは、チェックアウトを取り消すたびに適用されます。323 ページの『チェックアウトの取り消し』を参照してください。	After file has been unlocked (ファイルのロック解除後の処理) ファイルのロックを解除した後の処理を選択します。以下のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Leave local workspace as-is (ローカルワークスペースの現状を維持する) : ファイルのすべてのローカル作業コピーを現状のまま維持します。 ■ Replace local workspace with latest revision (ローカルワークスペースを最新リビジョンに置き換える) : ファイルのローカル作業コピーを Version Manager からのコピーの最新リビジョンで上書きします。

ワークスペースの比較と同期化

ワークスペースを同期して、ローカルワークスペースでファイルに加えた変更をチェックインし、ローカルワークスペースを Version Manager のすべての変更で更新します。ワークスペースの同期化には次の手順が含まれます。

- ローカルワークスペースを対応する Version Manager プロジェクトと比較して最後の同期以降の変更を調べます。335 ページの『ワークスペースの比較』を参照してください。
- ローカルファイルのすべての変更をコミットして変更を Version Manager にチェックインします。338 ページの『ローカル変更を Version Manager にコミット』を参照してください。

- Version Manager 内のファイルの更新でローカルワークスペースを更新します。336 ページの『Version Manager からすべての更新を取得』を参照してください。
- ワークスペースを同期して一度にすべてのローカル変更を Version Manager にコミットするとともに、ローカルワークスペースを Version Manager の変更で更新します。339 ページの『ワークスペースの同期化』を参照してください。



重要! ソース管理下ではないソリューション内で操作している場合、[Compare Workspace (ワークスペースの比較)] ビューはアクセスできません。311 ページの『管理対象外ソリューションの操作』を参照してください。

マージ処理

ファイルはチェックインするとき、およびワークスペースを同期するときにマージすることができます。複数のユーザが共有ファイルをチェックアウトせずに変更した場合、それぞれの変更はワークスペースを同期するときマージされます。たとえば、開発者 1 と開発者 2 の 2 人とも Queries.cs をチェックアウトもロックもせずにローカルワークスペースに取得するとします。開発者 1 が変更を含む新しいリビジョンをチェックインします。次に開発者 2 も変更をチェックインします。この時点で、開発者 2 が行った変更は、開発者 1 がチェックインしたファイルのリビジョンにマージされます。競合が発生する場合、開発者 2 はチェックインを完了する前にそれを解決する必要があります。

リファクタリングに関する重要事項

同期すると、ローカルワークスペースは別の Visual Studio 環境で削除、移動、名前変更、または追加されたファイルで自動的に更新されます。ただし、Version Manager クライアント (デスクトップ、Web、またはコマンドラインクライアントなど) からファイルを追加、移動、名前変更、または削除した場合、Visual Studio ソリューションまたはプロジェクトはすべての変更で自動的に更新されるわけではありません。したがって、任意の Visual Studio プロジェクト内のファイルの追加、移動、削除、または名前変更は、Visual Studio 内で済ませることを推奨します。これにより Visual Studio ソリューションとプロジェクト情報が更新され、変更が Visual Studio 内で利用できるようになります。

他の Version Manager インターフェイスからファイルを追加、名前変更、削除、または移動した場合、次の手順に従ってローカルワークスペースを調整して変更を反映する必要があります。

- 1 ワークスペースを同期します。これにより、作業ディレクトリがすべての変更で更新されます。たとえば、Version Manager でファイルの名前を変更した場合、古い名前のファイルが新しい名前のファイルで置き換えられます。Version Manager で削除したファイルは、作業ディレクトリから削除されます。
- 2 ソリューションエクスプローラで、不在のファイルの参照を削除します。これには、名前を変更したり移動したりしたファイルも含まれます。Visual Studio ソリューションやプロジェクトは変更を認識しないため、ファイルは名前が変更されたり移動されたりせず、単に不在と見なされます。
- 3 名前を変更したり、移動したり、追加したりしたファイルを追加します。これらのファイルはすべて、同期時に物理作業ディレクトリに配置されています。Visual Studio のソリューションやプロジェクトによって確実に認識されるよう、これらをソリューションやプロジェクトに追加する必要があります。これらは、必ずワークスペースディレクトリ内の場所に対応するプロジェクト内の場所に追加します。

- 再度ワークスペースと Version Manager を同期します。これにより、ソリューションまたはプロジェクトがすべての変更とともに確実に Version Manager にチェックインされます。これで他の開発者は、移動、名前変更、追加、および削除されたファイルで更新されたソリューションまたはプロジェクトを取得することができます。

ワークスペースの比較

ローカルワークスペースを対応する Version Manager プロジェクトと比較して最後の同期以降の変更を調べます。いったんこれを行うと、すべての変更を更新してコミットするためにローカル変更を Version Manager にコミットする (338 ページの『ローカル変更を Version Manager にコミット』)、ローカルワークスペースを更新する (336 ページの『Version Manager からすべての更新を取得』)、またはワークスペースを同期する (339 ページの『ワークスペースの同期化』) 必要があるか調べることができます。また、ファイルの異なるリビジョン間で競合する変更を解決する必要があるかを調べることもできます。



重要! ソース管理下ではないソリューション内で操作している場合、[Compare Workspace (ワークスペースの比較)] ビューはアクセスできません。311 ページの『管理対象外ソリューションの操作』を参照してください。

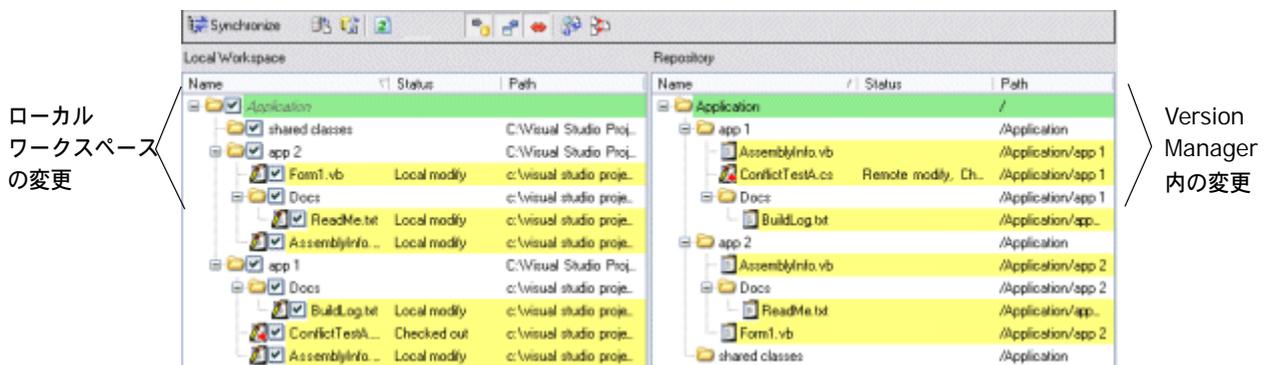
可能性のある変更には次のものがあります。

- ローカルワークスペースまたは Version Manager に新しいファイルが追加されている。
- ローカルワークスペース内でファイルが変更されている。
- ファイルの新しいリビジョンが Version Manager にチェックインされている。
- ワークスペースまたは Version Manager 内でファイルが削除、移動、または名前変更されている。

次の方法でワークスペースを比較します。

- 必ずソリューションおよびプロジェクトファイルを含めてローカルに変更したすべてのファイルを保存します。
- [Serena] - [Compare Workspaces (ワークスペースの比較)] を選択します。[Compare Workspace (ワークスペースの比較)] ビューが表示されます。

デフォルトで、左側の Local Workspace の下にローカルワークスペースの内容が表示されます。右側の Repository の下に Version Manager プロジェクトの内容が表示されます。



- 3 表示を特定の種類の変更に限定するには、次のいずれかのフィルタリングオプションを選択します。
- 【Show local files (ローカルファイルの表示)】 ボタン () を選択 / 選択解除して、ローカルファイルの変更の表示 / 非表示を切り替えます。
 - 【Show remote files (リモートファイルの表示)】 ボタン () を選択 / 選択解除して、Version Manager ファイルの変更の表示 / 非表示を切り替えます。
 - 【Show conflicts (競合の表示)】 ボタン () を選択 / 選択解除して、ローカルワークスペースと Version Manager 内のファイルとの間の競合の表示 / 非表示を切り替えます。

ワークスペース
ステータスアイコン

- 4 以下の表を参照してファイルのステータスを確認します。

ファイルアイコン	ステータス
	更新されたファイル： <ul style="list-style-type: none"> ■ ローカルワークスペースのファイルの場合、Version Manager にチェックインすることができます。 ■ Version Manager のファイルの場合、ローカルワークスペースに取得することができます。
	新規ファイル： <ul style="list-style-type: none"> ■ ローカルワークスペースのファイルの場合、Version Manager に追加することができます。 ■ Version Manager のファイルの場合、ローカルワークスペースに追加することができます。
	削除されたファイル： <ul style="list-style-type: none"> ■ ローカルワークスペースのファイルの場合、Version Manager から削除することができます。 ■ Version Manager のファイルの場合、ローカルワークスペースから削除することができます。
	名前が変更されたファイル： <ul style="list-style-type: none"> ■ ローカルワークスペースのファイルの場合、Version Manager 内で名前を変更することができます。 ■ Version Manager のファイルの場合、ローカルワークスペース内で名前を変更することができます。

Version Manager からすべての更新を取得

Version Manager からすべての更新を取得して、対応する Version Manager プロジェクトのすべての変更でローカルワークスペースを更新します。Version Manager から更新を取得すると、ワークスペースは次の種類の変更に更新されます。

- ファイルのすべての新しいリビジョンがワークスペースにコピーされます。デフォルトで、新しいリビジョンのすべての変更は、最後にチェックインした後ファイルのローカルコピーに行った変更とマージされます。変更が他のユーザの変更と競合する場合、次のいずれかを行う必要があります。
 - 競合を解決して、再度更新します。

- あるいは、競合にかかわらず競合するファイルを強制的に更新します。この場合、ローカル変更は、最新のリビジョンで上書きされます。リビジョンはマージされず、ローカル変更は失われます。337 ページの『更新の強制』を参照してください。
- 最後にすべての更新を取得してから Version Manager に追加され、ワークスペースのデフォルトバージョンラベルが割り当てられている新しいファイルは、すべてローカルワークスペースに追加されます。
- Version Manager から削除されたファイルがあれば、対応するファイルがローカルワークスペースから削除されます。これには、デフォルトのバージョンラベルを削除したファイルも含まれます。
- Version Manager で移動または名前変更したファイルがあれば、対応するファイルがワークスペースで移動および名前変更されます。



重要！ Visual Studio のリッチな統合で行った追加、削除、移動、および名前変更のみ自動的に同期されます。デスクトップなど他のインターフェイスで行った変更のリファクタリングについては、334 ページの『リファクタリングに関する重要事項』を参照してください。

ローカルワークスペースの更新とマージ

次の方法でローカルワークスペースを更新します。

- 1 [Serena] – [Compare Workspaces (ワークスペースの比較)] を選択します。
- 2 ローカルワークスペースを、対応する Version Manager プロジェクトと比較します (335 ページの『ワークスペースの比較』を参照)。特に注意が必要なのは、「受信される」変更です。これらはすべて、ローカルワークスペースで更新される Version Manager プロジェクトの変更です。受信される変更だけを表示するよう比較をフィルタするには、【Show remote files (リモートファイルの表示)】ボタン (📁) をクリックします。
- 3 【Show conflicts (競合の表示)】ボタン (🔴) をクリックして、ローカルファイルと Version Manager 内のファイルが競合するか確認します。競合する場合は、ワークスペースを新しいファイルで更新する前にそれらの競合を解決する必要があります。344 ページの『競合の確認と解決』を参照してください。



ヒント 競合があるが、それらを解決せずに Version Manager からの最新のリビジョンの新しいコピーでやり直す場合は、強制的に更新してそれを行うことができます。337 ページの『更新の強制』を参照してください。

- 4 いったん変更を見直したら、【Update (更新)】ボタン (🔄) をクリックして、Version Manager からすべての新規および更新ファイルを取得します。
- 5 いったん操作が完了すると、再度すべての受信された変更および競合を表示してすべての更新を無事取得したか確認することができます。

更新の強制

ローカルファイルを Version Manager からの最新リビジョンで上書きする場合、強制的に更新してそれを行うことができます。強制的な更新は、ファイルのマージを行いません。ローカルの変更はすべて上書きされます。これは、解決する必要がない競合があり、最新のリビジョンでやり直す場合に便利です。

次の方法で強制的に更新します。

[Compare Workspace (ワークスペースの比較)] ビューでファイルを右クリックし、表示されるメニューから [Force Update (強制的に更新する)] を選択します。ローカルファイルが Version Manager からの最新リビジョンで上書きされます。

ローカル変更を Version Manager にコミット

ローカル変更を Version Manager にコミットして Version Manager プロジェクトをローカルワークスペースのすべての変更で更新します。ローカル変更をコミットすると、Version Manager プロジェクトは次の種類の変更で更新されます。

- ファイルの変更が新規リビジョンにチェックインされます。デフォルトで、すべての変更は、最後にチェックインした後ほかのユーザがチェックインした変更とマージされます。変更が他のユーザの変更と競合する場合、次のいずれかを行う必要があります。
 - 競合を解決して、再度コミットします。
 - 競合にかかわらず競合するファイルを強制的にコミットします。この場合、ローカルファイルから新規リビジョンが作られます。リビジョンはマージされません。339 ページの『[コミットの強制](#)』を参照してください。
- すべての新しいファイルが Version Manager プロジェクトに追加され、それらにワークスペースのデフォルトバージョンラベルが割り当てられます。
- ワークスペースから削除したファイルがあれば、対応するファイルが Version Manager から削除されます。
- ローカルワークスペースで移動または名前変更したファイルがあれば、対応するファイルが Version Manager で移動および名前変更されます。

ローカル変更のコミットとマージ

次の方法でローカル変更を Version Manager にコミットします。

- 1 必ずソリューションおよびプロジェクトファイルを含めてローカルに変更したすべてのファイルを保存します。
- 2 [Serena] - [Compare Workspaces (ワークスペースの比較)] を選択します。
- 3 ローカルワークスペースを、対応する Version Manager プロジェクトと比較します (335 ページの『[ワークスペースの比較](#)』を参照)。特に注意が必要なのは、「送信される」変更です。これらはすべて、Version Manager プロジェクトにコミットされるローカルワークスペースの変更です。送信される変更だけを表示するよう比較をフィルタするには、【Show local files (ローカルファイルの表示)】ボタン (📁) をクリックします。
- 4 【Show conflicts (競合の表示)】ボタン (🔴) をクリックして、ローカルファイルと Version Manager 内のファイルが競合するか確認します。競合する場合は、ワークスペースを新しいファイルで更新する前にそれらの競合を解決する必要があります。344 ページの『[競合の確認と解決](#)』を参照してください。



ヒント 競合があるが、それらを解決せず、ファイルの新規リビジョンをマージせずにチェックインしたい場合は、強制的にコミットしてそれを行うことができます。339 ページの『[コミットの強制](#)』を参照してください。

- 5 いったん変更を見直したら、【Commit (コミット)】ボタン (📁) をクリックして Version Manager プロジェクトを更新します。



重要！ ローカル変更で Version Manager のファイルの最新のリビジョンと競合するものがある場合、ファイルを最新のリビジョンとマージする前にその競合を解決する必要があります。[344 ページの『競合の確認と解決』](#)を参照してください。

コミットの強制

最新のリビジョンとマージせずにファイルのローカルコピーから Version Manager で新規バージョンを作成するには、強制的にコミットしてそれを行うことができます。強制的なコミットは、ファイルのマージを行いません。これは、解決する必要がない競合があり、ローカルファイルを使用して新規リビジョンをチェックインする場合に便利です。

次の方法で強制的にコミットします。

[Compare Workspace (ワークスペースの比較)] ビューでファイルを右クリックし、表示されるメニューから [Force Commit (強制的にコミットする)] を選択します。Version Manager で新規リビジョンが作成されます。

ワークスペースの同期化

ワークスペースを同期して以下の操作をすべて自動的に行います。

- ローカルに変更したファイルの変更をチェックインします。デフォルトで、ファイルのローカルコピーに対するすべての変更は、最後に同期 (または変更をコミット) した後にほかのユーザが Version Manager にチェックインした変更とマージされます。変更がほかのユーザの変更と競合する場合、それらを解決する必要があります。[344 ページの『競合の確認と解決』](#)を参照してください。
- ローカルワークスペースのすべての新規ファイルを、対応する Version Manager プロジェクトに追加し、それらにワークスペースのデフォルトバージョンラベルを割り当てます。
- Version Manager 内のすべてのファイルの最新のリビジョンを取得します。デフォルトで、新しいリビジョンのすべての変更は、最後にチェックインした後ファイルのローカルコピーに行った変更とマージされます。変更が他のユーザの変更と競合する場合、それらを解決する必要があります。[344 ページの『競合の確認と解決』](#)を参照してください。
- 最後に同期してから Version Manager に追加され、デフォルトのバージョンラベルが割り当てられているすべてのファイルを取得します。
- ローカルワークスペースから削除したファイルをすべて Version Manager から削除し、Version Manager から削除されたファイルをローカルワークスペースから削除します。これには、実際には削除されていないがデフォルトのバージョンラベルが削除されたファイルも含まれます。
- ローカルに移動または名前変更したファイルを Version Manager で移動または名前変更し、Version Manager で移動または名前変更したファイルをローカルに移動または名前変更します。



重要！ Visual Studio のリッチな統合で行った追加、削除、移動、および名前変更のみ自動的に同期されます。他のインターフェイスで行った変更のリファクタリングについては、[334 ページの『リファクタリングに関する重要事項』](#)を参照してください。

次の方法でワークスペースを同期します。

- 1 必ずソリューションおよびプロジェクトファイルを含めてローカルに変更したすべてのファイルを保存します。
- 2 ローカルワークスペースを Version Manager プロジェクトと比較して同期する必要がある変更を調べます。335 ページの『ワークスペースの比較』を参照してください。
- 3 必要なら、変更を選択 / 選択解除して同期する特定の変更を選択します。
- 4 【Synchronize (同期)】 ボタン ( Synchronize) をクリックします。

ファイルの比較と競合の解決

Visual Studio のリッチな統合を使用すると、ローカルワークファイルと Version Manager の最新のリビジョンとの間の競合を解決することができます。同じファイルの 2 つのリビジョンを比較することもできます。詳細は、次のセクションを参照してください。

- ファイルの比較で調べられる相違点の種類については、340 ページの『ファイル比較について』を参照してください。
- ファイル比較ツールの表示オプションおよびエンコーディングオプションの設定方法については、341 ページの『エンコーディングと表示オプションの設定』を参照してください。
- ファイルを比較する方法は、342 ページの『ファイルの比較』を参照してください。
- ファイルの異なるリビジョン間の競合を解決する方法は、344 ページの『競合の確認と解決』を参照してください。

ファイル比較について

ファイル比較では、ファイルのローカルコピーと Version Manager の最新のリビジョン、あるいは Version Manager 内のファイルの 2 つのリビジョン間の違いを詳しく調べることができます。ソースコードファイルなど任意のテキストベースのファイルを比較することができます。

相違点の種類

ファイル比較はファイル間で次の種類の相違点を明らかにします。

- 一般的な変更：明確な挿入や削除ではない変更。
- 追加：ファイルの 1 つのリビジョンに対する追加、他のリビジョンにはない追加。
- 削除：ファイルの 1 つのリビジョンから削除された内容で他のリビジョンからは削除されていないもの。
- 移動：ファイルの 1 つのリビジョンで移動された内容で他のリビジョンでは移動されていないもの。

エンコーディングと表示オプションの設定

エンコーディングと表示オプションを設定して以下を定義します。

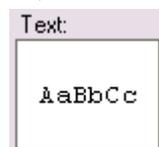
- 各種の相違点（変更、削除、競合など）のマークアップを含むファイル比較時のテキストの表示方法。
- ファイル比較時のテキストのエンコード方法。
- 行番号を表示するかどうか。
- タブを置き換えるスペースの数。
- 競合を解決するとき、競合ファイルと同時に元のファイルを表示するかどうか。

次の方法でファイル比較のエンコーディングと表示オプションを設定します。

- 1 [Tools (ツール)] - [Options (オプション)] を選択します。[Options (フォルダオプション)] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 左側のオプションのリストから、Serena を選択します。
- 3 [Compare and Merge (比較してマージ)] を選択してファイル比較設定を表示します。
- 4 以下のように、一般設定を行います。

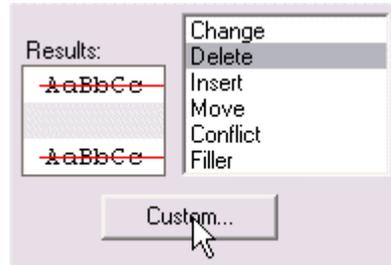
オプション	説明
Show ancestor (元ファイルを表示)	競合を解決するとき常に元ファイル（または「オリジナル」）リビジョン表示部を表示するときに選択します。
Syntax highlighting (構文の強調表示)	ファイル比較時にキーワードを強調表示するときに選択します。以下のタイプのファイルで構文を強調表示できます。 CSharp, CPP, Java, Visual Basic, HTML, XML, Java Script, VB Script, CSS, SQL, Python, .ini
Tab size (タブサイズ)	タブを構成するスペースの数を入力します。
Line numbers (行番号)	ファイル比較時に行番号を表示する場合に選択します。

- 5 <Encoding (エンコーディング)> オプションでは次の中から選びます。
 - UTF-8 : 8 ビットユニコード
 - UTF-16 : 16 ビットユニコード（「ユニコード」は一般的にこのエンコーディングを意味します）
 - UTF-16BE : Big-endian ユニコード
 - ASCII : 7 ビット文字
 - UTF-7 または high-ASCII : 一般的に電子メールで使われる可変長エンコーディング
- 6 <Display (表示)> オプションでは、【Font (フォント)】、【Text Color (テキスト色)】、または【Background (背景)】 ボタンをクリックして、ファイル比較時のテキストの表示方法を変更することができます。<Text (テキスト)> ボックスでテキストのスタイルを確認することができます。



- 7 〈Display (表示)〉オプションでは、相違のタイプを選択して【Custom (カスタム)】ボタンをクリックし、特定の相違のタイプのマークアップをカスタマイズすることもできます。変更、削除、挿入、および移動のテキストスタイルと強調表示をカスタマイズすることができます。競合とフィルタのテキスト色をカスタマイズすることができます。

たとえば、デフォルトで削除は赤の打ち消し文字でマークアップされます。これを変更するには、〈Delete (削除)〉を選択して【Custom (カスタム)】をクリックします。



- 8 【OK】をクリックします。

ファイルの比較

次の方法でファイルを比較します。

- まず、比較するファイルを選択し、ファイル比較ビューを表示します。ローカルファイルを Version Manager の最新のリビジョンと比較するか、同じファイルの 2 つのリビジョンを比較することができます。342 ページの『[ファイル比較の表示](#)』を参照してください。
- その後で相違点を確認することができます。343 ページの『[ファイル比較の使い方の概要](#)』と 344 ページの『[相違点の操作](#)』を参照してください。

ファイル比較の表示

次の方法でファイル比較を表示します。

以下のいずれかを実行します。

結果	手順
ファイルのローカルコピーを、Version Manager の最新のリビジョンと比較	<p>a ソリューションエクスプローラでファイルを選択します。</p> <p>b [File (ファイル)] - [Serena] - [Compare Revision (リビジョンの比較)] を選択します。</p> <p>または</p> <p>a [Serena] - [Show File Status (ファイルステータスの表示)] を選択します。</p> <p>b ファイルを選択します。</p> <p>c 【Compare Revisions (リビジョンの比較)】ボタン  をクリックします。</p>
Version Manager の同じファイルの 2 つのリビジョンを比較	<p>a ソリューションエクスプローラでファイルを選択します。</p> <p>b [File (ファイル)] - [Serena] - [Show History (履歴の表示)] を選択します。</p> <p>c 2 つのリビジョンを選択し、右クリックして、[Compare Revisions (リビジョンの比較)] を選択します。</p>

Serena Compare ツールが表示されます。デフォルトで、両方のリビジョンが並んで表示されます。各ファイルの情報が表示部の上に表示されます。

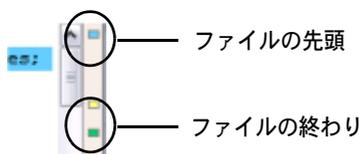
次のボタンをクリックしてどちらかのファイルを表示 / 非表示できます。

-  ファイル 1 のみ表示します。
-  ファイル 2 のみ表示します。

ファイル比較の使い方の概要

ファイル比較内の各相違点と競合は、固有の図式で表されます。これらの図式は、相違点の種類に応じて表示されます。これらの図式を利用して相違点レポートを参照することができます。各相違点は次のように表示されます。

- マーカ：各ファイル表示部の右のバーにある色つきのマーカがすべての相違点を要約しています。相違点の種類によってマーカの色が異なります。相違点ごとに別なマーカが表示されます。バーはファイル全体を表します。たとえば次のとおりです。



- テキストマークアップ：相違点は、テキスト内で強調表示されています。相違点の種類ごとに異なる色とスタイルが適用されています。相違点の種類ごとにテキストマークアップスタイルをカスタマイズすることができます。詳細は、[341 ページの『エンコーディングと表示オプションの設定』](#)を参照してください。

次の表で、相違点の種類ごとに表示されるマーカ、アイコン、およびデフォルトのテキストマークアップスタイルを説明します。

タイプ	マーカ	デフォルトのテキストマークアップ
変更 追加でも競合でもない相違点は、変更としてマークされます。		黄： : : <code>returnEDI</code> : : <code>EDITm</code>
削除行 比較しているファイルの 1 つのリビジョンから削除されたテキストです。		打ち消し： <code>127</code> <code>m-CountOfTypeOccura</code>
追加行 比較しているファイルの 1 つのリビジョンに追加されたテキストです。		緑： : : <code>//AI</code>
競合行 2 つのリビジョンのどちらかで変更されていて、何らかの理由で他のリビジョンの同じテキストと競合するテキストです。 チェックインするときファイルの 2 つのリビジョンをマージするには競合を解決する必要があります。 344 ページの『競合の確認と解決』 を参照してください。		灰： 2 <code></code>
移動 比較しているファイルの 1 つのリビジョンで移動されたテキストです。		青： <code>AaBbCc</code>

相違点の操作

相違点レポートで変更を確認するには、次の操作を行います。

- 1 相違点マーカをクリックして特定の相違点へ移動します。1 つのファイル表示部でマーカをクリックすると、すべてのファイル表示部が自動的に同じマーカへ移動し、相違点を並べて比較することができます。
- 2 現在の変更から次の変更へ移動するには、【Next Difference (次の相違行)】ボタン () をクリックします。
- 3 現在の変更から前の変更へ移動するには、【Previous Difference (前の相違行)】ボタン () をクリックします。

競合の確認と解決

以下にファイルのローカルコピーと Version Manager の最新のリリースとの競合を確認する方法およびファイルの新規リリースをチェックインする前にそれらの競合を解決する方法を示します。

- 344 ページの『相違点と競合の確認』
- 345 ページの『マージファイルの競合の解決』
- 346 ページの『マージの終了』

ローカル更新を Version Manager の最新のリリースとマージする場合は、チェックインする前に競合を解決する必要があります。



注 競合の解決ウィンドウは、Serena Compare ツールと同じグラフィカルユーザインターフェイスを使用してファイル間の相違を表します。

相違点と競合の確認

Merge ツールからの相違点および競合を確認する方法については以下の点に注意してください。

- ファイルの比較で相違点と競合を確認して操作する方法については、342 ページの『ファイルの比較』を参照してください。
- 相違点の種類は、Latest (最新)、Local (ローカル)、および Merged (マージ) ファイル表示部の左の特定のアイコンで示されています。
 - 追加：
 - 削除：
 - 編集：
- 競合は、左側の【Copy edits to solution (ソリューションに編集をコピー)】() ボタンで示されます。詳細は、345 ページの『マージファイルの競合の解決』を参照してください。
- 【Next Conflict (次の競合行)】() および【Previous Conflict (前の競合行)】() ボタンを使用して次の競合行または前の競合行へ移動することができます。

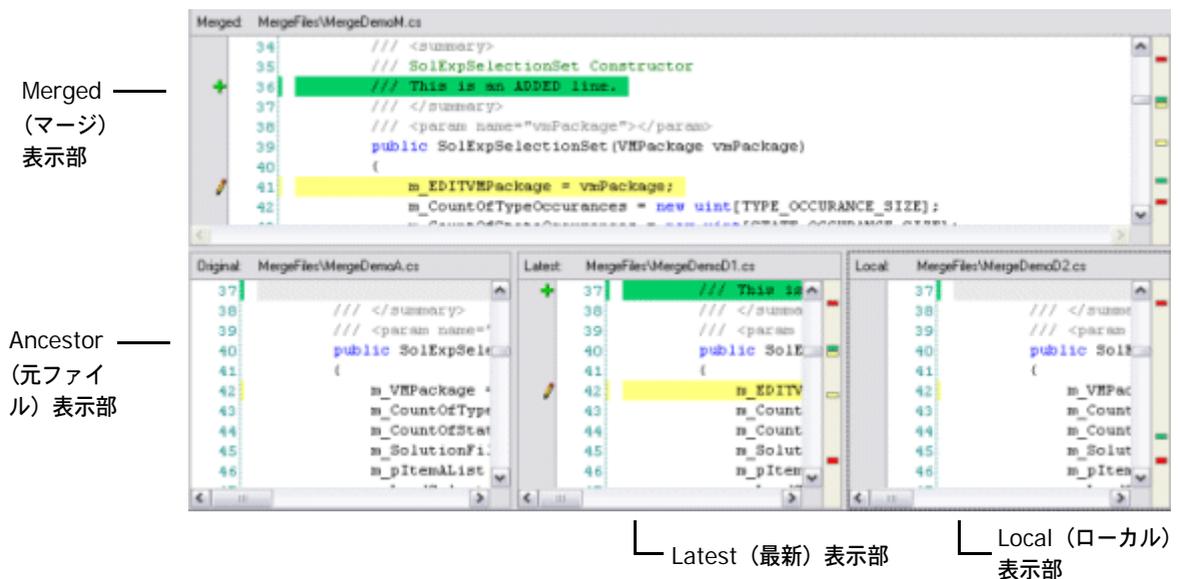
マージファイルの競合の解決

マージファイルの競合を解決して、ファイルのローカルコピーで行った変更が、別のユーザがそれらのファイルにチェックインした変更と競合しないことを確認します。ファイルを取得、チェックアウト、またはチェックインする前にマージファイルの競合をすべて解決する必要があります。Merged ファイル表示部に競合が表示されなくなったらマージファイルをチェックインまたは取得することができます。

次の方法でマージファイルの競合を解決します。

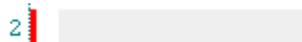
- 1 Merge ツールを表示してファイルのローカル作業コピーと Version Manager の最新のリリースとの競合を解決します。競合しているファイルは、[Compare Workspace (ワークスペースの比較)] ビューで探することができます。詳細は、[335 ページの『ワークスペースの比較』](#)を参照してください。

デフォルトで Merge ツールには、Original (元)、Latest (最新)、Local (ローカル)、および Merged (マージ) の 4 つの表示部があります。



- Ancestor (元ファイル) 表示部は、マークアップなしで元のファイルを表示します。
- Latest (最新) 表示部は、Version Manager の最新のリリースを表示し、元のファイルとの相違点を強調表示します。
- Local (ローカル) 表示部は、ファイルのローカルコピーを変更とともに表示し、元のファイルとの相違点を強調表示します。
- Merged (マージ) 表示部は、新規の解決したファイルをマージ操作の結果とともに表示します。

- 2 解決する競合を探します。【Next Conflict (次の競合行)】 (🔍) ボタンまたは【Previous Conflict (前の競合行)】 (🔍) ボタンをクリックするか、右端の赤いマーカ (🔴) をクリックして、移動することができます。Merged (マージ) ファイル表示部では、競合が発生する場所は空白で、次のように灰色で示されます。

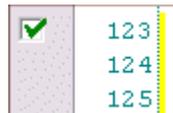


1 つのファイル表示部で競合を操作すると、すべての表示部が対応する点へ移動します。たとえば、Merged (マージ) ファイル表示部で競合表示へ移動すると Latest (最新) と Local (ローカル) ファイル表示部は互いに競合する対応行を表示します。

- 3 Latest (最新) と Local (ローカル) 表示部で競合行を確認して解決方法を選択します。次の方法で解決することができます。

ソリューション	手順
テキストを直接編集	Merged (マージ) ファイル表示部で競合表示をクリックし、競合を解決するテキストを入力します。 別なウィンドウまたはアプリケーションからテキストを Merged (マージ) ファイル表示部へドラッグアンドドロップすることもできます。
Latest (最新) または Local (ローカル) ファイル表示部の行を使用する	Latest (最新) または Local (ローカル) ファイル表示部で【Copy edits to solution (ソリューションに編集をコピー)】ボタン () をクリックします。行が Merged (マージ) ファイル表示部の対応する位置へコピーされます。 Merged (マージ) ファイル表示部へコピーする行をクリックし、ツールバーの【Copy edits to solution (ソリューションに編集をコピー)】ボタン () をクリックすることもできます。

- 4 競合を解決すると、Merged (マージ) ファイル表示部で更新されたテキストの左にチェックボックスが表示されます。



マージの終了

すべての競合を解決したら【Done (終了)】ボタンをクリックして次のいずれかを行います。

- ローカルワークスペースを対応する Version Manager プロジェクトと一括同期する場合、[Compare Workspaces (ワークスペースの比較)] ビューからワークスペースを同期します。339 ページの『ワークスペースの同期化』を参照してください。
- ファイルをチェックインする場合、ソリューションエクスプローラからチェックインするか、すべてのローカル変更の一括コミットを行います。325 ページの『ファイルのチェックイン』または 338 ページの『ローカル変更を Version Manager にコミット』を参照してください。
- ファイルを取得する場合、ソリューションエクスプローラから取得するか、Version Manager からすべてのローカル変更を一括取得します。325 ページの『ファイルのチェックイン』または 336 ページの『Version Manager からすべての更新を取得』を参照してください。
- ファイルをチェックアウトする場合、ソリューションエクスプローラからチェックアウトします。322 ページの『ファイルのチェックアウト』を参照してください。

TeamTrack Issue の関連付けと操作

組織で Serena TeamTrack を使用して不具合やタスクなどの開発 Issue を追跡している場合は、Visual Studio 2003 に統合した Version Manager から Issue にアクセスすることができます。TeamTrack の Issue を Visual Studio から提出および変更し、特定のファイルに Issue を関連付けることができます。Issue をファイルに関連付けると、バージョン管理ファイルの履歴が Issue に追加されます。



注 TeamTrack との統合機能を実行するためには、特定の TeamTrack ユーザー権限が必要です。TeamTrack SourceBridge のドキュメントを参照してください。

TeamTrack と Visual Studio の統合についての詳細は、以下のトピックを参照してください。

- 347 ページの『Issue 管理ワークフロー』
- 348 ページの『IDE フォルダの設定』
- 関連付けオプションの定義 349
- 350 ページの『TeamTrack へのログイン』
- 350 ページの『レポートと Issue の表示』
- 351 ページの『Issue の提出と変更』
- 351 ページの『Issue の関連付け』

Issue 管理ワークフロー

次の表は、Visual Studio における Issue 管理のワークフローを示しています。Issue を正しく表示し、ファイルに関連付けるには、このワークフローに従う必要があります。

手順	説明
1	<p>IDE フォルダの設定</p> <p>Visual Studio から Issue にアクセスする前に、TeamTrack Web クライアントで IDE フォルダを設定する必要があります。IDE フォルダは特殊なシステムフォルダで、Visual Studio および Eclipse のリッチな統合から特定の Issue やリスティングレポートを表示することができます。アクセスするリスティングレポートや Issue を TeamTrack から IDE フォルダに追加します。個人フォルダまたはお気に入りフォルダの設定についての詳細は、『Serena TeamTrack ユーザガイド』を参照してください。</p>
2	<p>統合の設定の定義</p> <p>オプションとして、Version Manager デスクトップクライアントで、Visual Studio へのリッチな統合における Issue の関連付けに影響する設定を更新できます。たとえば、次のような点について設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ TeamTrack Issue に関連するすべてのリビジョンに、Issue 番号を含むバージョンラベルを適用するかどうか。 ■ チェックイン時に Issue の関連付けを義務付けるかどうか。 ■ 新規リビジョンのチェックインコメントに、関連付けられている Issue に関するメモを自動的に追加するかどうか。 <p>349 ページの『関連付けオプションの定義』を参照してください。</p>

手順	説明
3	<p>TeamTrack サーバへの接続</p> <p>Visual Studio では、ソース管理でプロジェクトの追加か取得を行うときに、Issue の管理に使用するソリューションを含む TeamTrack サーバを指定することができます。その時点で TeamTrack サーバを指定しなかった場合や、TeamTrack サーバの接続を変更する必要がある場合は、次の手順を実行します。TeamTrack サーバに接続する際には、特定のユーザとしてログインします。350 ページの『TeamTrack へのログイン』を参照してください。</p>
4	<p>Issue の確認、変更、および提出</p> <p>〔Issues〕ビューでは、IDE フォルダ内のリスティングレポートを通じて使用できるすべての Issue、または IDE フォルダに直接追加された Issue を表示できます。たとえば、ユーザに割り当てられた Issue だけを一覧表示するような特定のレポートが含まれます。</p> <p>表示された Issue に変更を加えたり、新しい Issue を提出したりできます。350 ページの『レポートと Issue の表示』と 351 ページの『Issue の提出と変更』を参照してください。</p>
5	<p>Issue とファイルのリビジョンの関連付け</p> <p>TeamTrack と Version Manager の統合により、Issue をファイルの特定のリビジョンに「関連付ける」こともできます。Issue をファイルに関連付けると、Issue にファイルのリビジョンに関する情報を追跡する（Version Control History（バージョン管理履歴））セクションが追加されます。関連するリビジョンには、Issue ID を含むバージョンラベルを割り当てることもできます。詳細は、351 ページの『Issue の関連付け』を参照してください。</p> <p>次の方法で、Issue を関連付けます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Issue を有効にします。これにより、ファイルをチェックインするとき必要に応じてファイルに関連付けることができる Issue のキューに Issue が追加されます。 2 Issue の影響を受けるファイルで作業します。たとえば、特定の Issue に記述されている問題を解決するために特定のソースコードファイルを編集する場合などが考えられます。 3 ファイルをチェックインします。チェックイン時には、必要に応じて、現在有効になっている任意の（あるいはすべての）Issue にファイルを「関連付ける」ことができます。このとき、どの Issue にファイルに関連付けるかを明示的に選択できます。チェックインするファイルによって、その Issue に対処するために割り当てられた作業が終了する場合は、Issue を無効にすることもできます。

IDE フォルダの設定

TeamTrack Web クライアントで次のいずれかを行って、Visual Studio からアクセスする Issue を決定します。

- 特定の Issue を IDE フォルダに直接追加します。
- リスティングレポートを IDE フォルダに追加します。



重要！ Visual Studio からは、特定の Issue またはリスティングレポートのみアクセスできます。その他の種類のレポートや、その他の種類の項目（URL など）にはアクセスできません。

個人フォルダまたはお気に入りフォルダの設定についての詳細は、『Serena TeamTrack ユーザガイド』を参照してください。

関連付けオプションの定義

Version Manager デスクトップクライアントで、管理者は、IDE と TeamTrack の統合に関して、以下のような設定を定義できます。

- 関連付けられているすべてのリビジョンに、Issue 番号を含んだバージョンラベルを適用するかどうか。
- チェックイン時に Issue の関連付けを義務付けるかどうか。
- 新規リビジョンのチェックインコメントに、関連付けられている Issue に関するメモを自動的に追加するかどうか。

次の方法で関連付けオプションを定義します。

- 1 設定を適用するプロジェクトデータベースを選択します。
- 2 Version Manager デスクトップクライアントから、[Admin (管理)] – [SourceBridge settings (SourceBridge の設定)] を選択します。[SourceBridge Settings (SourceBridge の設定)] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 以下のオプションを設定します。

フィールド	説明
Show Issue association dialog on checkin (チェックイン時に Issue との関連付けダイアログを表示) / Association required (必ず関連付け)	チェックイン時に Issue のファイルとの関連付けを義務付ける場合に選択します。このオプションを選択すると、アクティブな Issue がない場合は、ユーザがチェックインを完了できなくなります。〈Show Issue association dialog on checkin (チェックイン時に Issue との関連付けダイアログを表示) オプションは、Visual Studio へのリッチな統合では意味がありませんが、〈Association required (必ず関連付け) オプションを選択するには、これを選択しておく必要があります。
Tag workfile comment with association (チェックイン時にタグを付加)	ファイルをチェックインする際に、関連付けられている Issue に関する情報を、そのチェックインコメントに追加する場合に選択します。〈Before existing comment (作業ファイルのコメントの前)〉または 〈After existing comment (作業ファイルのコメントの後)〉を選択して、コメント中でのこの情報の場所を指定します。〈Tag (タグ) フィールドに、チェックインコメントに追加するテキストを入力します。ここでキーワードをいくつか指定することで、関連付けられている Issue に関する情報が自動的に入力されます。キーワードには、以下のものがあります。 <ul style="list-style-type: none"> ■ \$id – Issue ID 番号に展開されます。 ■ \$ownid – Issue 所有者のユーザ ID に展開されます。 ■ \$owner – Issue 所有者の名前に展開されます。 ■ \$project – 現在のプロジェクトの名前に展開されます。 ■ \$title – Issue のタイトルに展開されます。
Use Version Labels on checkin (チェックイン時にバージョンラベルを使用)	ファイルをチェックインする際に、Issue 番号で構成されるバージョンラベルを適用する場合に選択します。

- 4 【OK】 をクリックします。

TeamTrack へのログイン

Version Manager からプロジェクトを追加するか開くとき、Issue の管理に使用するソリューションを含む TeamTrack サーバを指定することができます。その時点で TeamTrack サーバを指定しなかった場合や、TeamTrack サーバの接続を変更する必要がある場合は、次の手順を実行します。TeamTrack サーバに接続するには、特定のユーザとしてログインします。TeamTrack の IDE フォルダで表示できるすべての Issue は Visual Studio で表示できます。

TeamTrack サーバに接続するには、次の操作を行います。

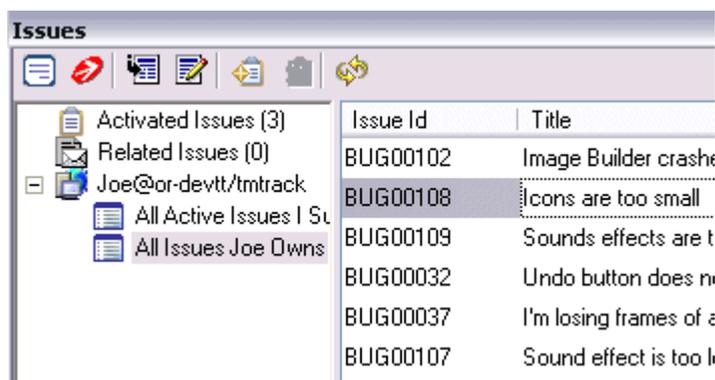
- 1 [Serena] - [Show Issues (Issue の表示)] を選択します。[Issues] ビューが表示されます。
- 2 【TeamTrack Login (TeamTrack ログイン)】 ボタン () をクリックします。[Connect to TeamTrack (TeamTrack への接続)] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 <TeamTrack Host (TeamTrack ホスト)> フィールドに TeamTrack サーバ名を入力します。TeamTrack サーバがデフォルト以外のポート番号 (80 以外のポート) を使用している場合は、ポート番号をサーバ名の後に付加します。たとえば、ポート番号が 89 の場合は次のようになります。
tt_server:89
- 4 TeamTrack のユーザ名とパスワードを入力し、【Next (次へ)】 をクリックします。
- 5 【Finish (終了)】 をクリックします。

レポートと Issue の表示

[Issues] ビューでは、IDE フォルダ内のリスティングレポートを通じて使用できるすべての Issue、または IDE フォルダに直接追加された Issue を表示できます。たとえば、ユーザに割り当てられた Issue だけを一覧表示するような特定のレポートが含まれます。

レポートと Issue を表示するには、次の操作を行います。

- 1 [Serena] - [Show Issues (Issue の表示)] を選択します。[Issues] ビューが表示されます。



- 2 Issue を確認するには、次の操作を行います。
 - ユーザ名を選択し、IDE フォルダに追加された Issue のリストを表示します。



- ユーザ名を展開し、使用できるすべてのレポートを表示します。ここでは、IDE フォルダに追加されたすべてのリスティングレポートが表示されます。次に、Issue を表示するレポートをクリックします。



- 現在有効な Issue（現在操作している Issue）を表示するには、〈Activated Issues（有効な Issue）〉を選択します。



注 〈Related Issues（関連 Issue）〉リストには、特定のファイルに関連付けられているすべての Issue が表示されます。このリストの使用方法についての詳細は、351 ページの『Issue の関連付け』を参照してください。

- 3 Issue の内容を参照するには、Issue を選択して【View Issue（Issue の参照）】ボタン（）をクリックします。

Issue の提出と変更

TeamTrack の Issue を提出および変更し、Visual Studio で行っているタスクの状態と詳細を追跡します。タスク、不具合、完了する必要があるその他のタスクに対して新しい Issue を提出したり、Issue を変更して作業割り当ての元とすることができます。組織のワークフローに応じて、Issue を変更して別の状態に移動させることができます。たとえば、タスクのうち自分が担当している部分が完了し、テスト準備完了状態にする場合などです。

Issue を提出するには、次の操作を行います。

- 1 [Serena] - [Show Issues（Issue の表示）] を選択します。[Issues] ビューが表示されます。
- 2 【Submit Issue（Issue の提出）】ボタン（）をクリックします。Issue の提出についての詳細は、『Serena TeamTrack ユーザガイド』を参照してください。

Issue を変更するには、次の操作を行います。

- 1 更新する Issue を探します。350 ページの『レポートと Issue の表示』を参照してください。
- 2 Issue を選択し、【View Issue（Issue の参照）】ボタン（）をクリックします。
- 3 必要に応じて Issue を更新します。Issue の更新についての詳細は、『Serena TeamTrack ユーザガイド』を参照してください。

Issue の関連付け

TeamTrack と Version Manager の統合により、特定の Issue やレポートにアクセスできるだけでなく、Issue をファイルの特定のリリースに「関連付ける」ことができます。Issue をファイルに関連付けると、以下のことが行われます。

- 〈Version Control History（バージョン管理履歴）〉セクションが Issue に追加され、以下の内容が追跡されます。
 - 関連付けられているファイルの名前
 - リビジョン番号
 - チェックイン日付

- ファイルをチェックインしたユーザ
- チェックイン時にユーザが入力した、変更に関する説明

たとえば、Issue が test.cs というファイルに関連付けられている場合、チェックイン後に以下のような内容が Issue に表示されます。

☐ Version Control History

/Application/app 1/test.cs

Revision 1.3 Checked In by Joe Manager 2/4/2005 3:54:49 AM

Revision 1.2 Checked Out 2/4/2005 3:54:49 AM

minor change

- オプションで、Issue に関連付けられているファイルのリビジョンには、バージョンラベルが割り当てられます。バージョンラベルには、Issue 番号が含まれます。
- オプションで、関連付けられている Issue に関する情報が、新しいリビジョンのチェックインコメントに追加されます。

関連付けオプションの設定の詳細については、349 ページの『[関連付けオプションの定義](#)』を参照してください。

次の方法で、Issue を関連付けます。

- 1 作業対象となる、最終的にファイルリビジョンに関連付ける Issue を探します。350 ページの『[レポートと Issue の表示](#)』を参照してください。
- 2 Issue を選択し、【Activate Issue (Issue の選択)】ボタン (📄) をクリックします。Issue が、〈Activated Issues (有効な Issue)〉リストに追加されます。



ヒント 〈Activated Issues (有効な Issue)〉リストから Issue を削除するには、リスト内の Issue を選択し、【Deactivate Issue (Issue の選択解除)】ボタン (🗑️) をクリックします。

- 3 Issue を選択して【View Issue (Issue の参照)】ボタン (📄) をクリックすることで、いつでも Issue の詳細を参照できます。
- 4 Issue を解決するために必要な作業またはそのうちの担当部分を完了します。
- 5 Issue を解決するファイルをチェックインします。【Check In (チェックイン)】ダイアログボックスの〈TeamTrack Associations (TeamTrack の関連付け)〉の下から、ファイルに関連付ける Issue を選択します。チェックイン時に関連付けることができるのは、現在有効な Issue のみです。325 ページの『[ファイルのチェックイン](#)』を参照してください。

特定のファイルに関連付けられているすべての Issue を表示するには、次の操作を行います。

ソリューションエクスプローラで、ファイルを右クリックして、【View Related Issues (関連する Issue の表示)】を選択します。〈Related Issues (関連 Issue)〉リストが選択された状態で、【Issues】ビューが表示されます。



関連するすべての Issue が右側に表示されます。

第 19 章

Visual Studio 2005 のリッチな統合

はじめに	354
サポートされている機能の使用	354
Visual Studio 2005 のリッチな統合の概要	356
コラボレーティブプロセスの概要	357
Visual Studio ソリューションの移行と変換	360
Web プロジェクトの操作	366
ブランチの操作	366
ソース管理プロジェクトの設定	373
ファイルの編集	380
ダイアログボックスのデフォルトオプションの設定	395
ワークスペースの比較と同期化	400
ファイルの比較と競合の解決	406
TeamTrack Issue の関連付けと操作	411

はじめに

目的 この章の目的は、以下の 4 つです。

- Microsoft® Visual Studio 2005 から使用可能な Version Manager の各機能の紹介と、それらの機能の使用方法の説明



注 この章では、Visual Studio 2005 のリッチな統合 (VS 2005 用のプラグイン) についてのみ説明します。

Visual Studio .NET 2003 のリッチな統合 (VS .NET 用のプラグイン) をインストールした場合は、[第 18 章、301 ページの『Visual Studio .NET 2003 のリッチな統合』](#)を参照してください。

Visual Studio に SCC 統合 (SCC/COM IDE クライアント) をインストールした場合は、[第 17 章、285 ページの『Visual Studio : SCC 統合』](#)を参照してください。

- このマニュアルのパート 1 で解説された機能のうち、この開発環境 (IDE) には適用されないものの解説
- ソース管理プロジェクトの設定や、ソース管理へのファイルの追加を行うユーザの手引き
- ユーザがソース管理下のファイルを IDE から使用するための手引き

ソース管理の概念についての詳細は、[19 ページのパート 1、『Version Manager IDE クライアント』](#)を参照してください。

サポートされている機能の使用

Visual Studio 2005 のリッチな統合の機能を使用する方法について、次の表に示します。右クリックメニュー項目は [File (ファイル)] - [Source Control (ソース管理)] から利用できます。

目的	操作	参照セクション
リビジョンの取得	右クリック - [Get Latest Revision (最新リビジョンの取得)]	383 ページの『特定のファイルまたはフォルダの取得』
ソース管理からプロジェクトを開く	[File (ファイル)] - [Source Control (ソース管理)] - [Open Project from Source Control (ソース管理からプロジェクトを開く)]	376 ページの『ソース管理からソリューションおよびプロジェクトを開く』
リビジョンのチェックアウト	右クリック - [Check Out (チェックアウト)]	384 ページの『ファイルのチェックアウト』
リビジョンのチェックアウトの取り消し	右クリック - [Undo CheckOut (チェックアウトの取り消し)]	386 ページの『チェックアウトの取り消し』
リビジョンのチェックイン	右クリック - [Check In (チェックイン)]	388 ページの『ファイルのチェックイン』
バージョンラベルの割り当て	右クリック - [Label (ラベル)]	392 ページの『リビジョンのラベル付け』
リビジョン履歴の表示	右クリック - [History (履歴)]	381 ページの『ファイル履歴の参照』
ファイルのプロモート	([History (履歴)] ビューから) 右クリック - [Promote to Next (次にプロモート)]	395 ページの『リビジョンのプロモート』

目的	操作	参照セクション
TeamTrack Issue の操作	右クリック [Related Issues (関連 Issue)]	411 ページの『TeamTrack Issue の関連付けと操作』
ローカルワークスペースとソース管理の比較	右クリック [Compare Workspaces (ワークスペースの比較)]	400 ページの『ワークスペースの比較と同期化』
ローカル作業ファイルと Version Manager の最新リビジョンの比較	右クリック [Compare Revisions (リビジョンの比較)]	406 ページの『ファイルの比較と競合の解決』
SCC からリッチな統合へ、および 2003 から 2005 への移行	[File (ファイル)] – [Source Control (ソース管理)] – [Migrate (移行)]	360 ページの『Visual Studio ソリューションの移行と変換』
Version Manager デスクトップクライアントの起動	[File (ファイル)] – [Source Control (ソース管理)] – [Launch Version Manager (Version Manager の起動)]	『Serena Version Manager ユーザガイド』および『Serena Version Manager 管理者ガイド』
TeamTrack Issue の表示と提出	[View (表示)] – [Issues (Issue)]	411 ページの『TeamTrack Issue の関連付けと操作』
現在選択されているファイルに関連する TeamTrack Issue の表示	右クリック [Related Issues (関連 Issue)]	416 ページの『Issue の関連付け』

Serena ソース管理ツールバーについて

統合には、特定の機能にすばやくアクセスするためのツールバーがあります。このツールバーは、Visual Studio のツールバーにドッキングすることも、ドッキングしないでおくこともできます。



デフォルトでは、ツールバーには以下のボタンが含まれます。

- | | |
|------------------------------------|---|
| 1 Check Out (チェックアウト) | 6 History (履歴) |
| 2 Check In (チェックイン) | 7 View Issues (Issue の表示) |
| 3 Undo Checkout (チェックアウトの取り消し) | 8 Compare Revisions (リビジョンの比較) |
| 4 Get Latest Revision (最新リビジョンの取得) | 9 Compare Workspaces (ワークスペースの比較) |
| 5 File Status (ファイルのステータス) | 10 Launch Version Manager (Version Manager の起動) |

ツールバーに表示するボタンを変更するには、ドロップダウンメニューをクリックし、[Add or Remove Buttons (ボタンの追加または削除)] – [Serena Source Control (Serena ソース管理)] を選択します。一覧からアイテムを選択または選択解除します。

Visual Studio 2005 のリッチな統合の概要

Version Manager の Microsoft Visual Studio とのリッチな統合により、開発チームによるソースコードの管理を支援する強力なコラボレーションツールが提供されます。たとえば、次のような機能があります。

- ワークスペースの比較と同期：ローカルワークスペースのすべてのファイルの状態を、対応する Version Manager プロジェクトのワークスペースと簡単に比較できます。これにより、両者の違いや、ローカルワークスペースと Version Manager のどちらを更新する必要があるかを特定できます。後はボタンをクリックするだけで、自動的にすべての変更を Version Manager にチェックインし、すべての更新をローカルワークスペースに取得できます。400 ページの『ワークスペースの比較と同期化』を参照してください。
- ファイルの自動的なマージ：ローカルワークスペースをチェックインしたり同期したりすると、加えた変更が、Version Manager の同じファイルに最近加えられた変更と自動的にマージされます。
- ファイルの比較と競合の解決：特定のローカルファイルを、Version Manager のファイルの最新のリビジョンと比較できます。必要に応じて、ファイルを直接編集して、ファイルをチェックインする前に競合を解決することもできます。406 ページの『ファイルの比較と競合の解決』を参照してください。
- 実用的ロック：任意のファイルをいつでもチェックインできます。事前にロックする必要はありません。これにより、明示的にファイルをロックせずに任意のファイルを編集することができます。その後そのファイルをチェックインすると、ローカルに加えた変更が Version Manager の最新のリビジョンとマージされる間、必要に応じてファイルが一時的にロックされます。いったん新しいリビジョンが作成されると、ほかのユーザが変更をチェックインできるようそのファイルはただちにロックが解除されます。



注 デフォルトでは、実用的（楽観的）ロックは有効になっています。ただし、管理者は特定のプロジェクトデータベースに対して無効にし、ユーザがファイルを編集前にチェックアウトできるようにできます。

TeamTrack 統合

組織で Serena TeamTrack を使用して不具合やタスクなどの開発 Issue を追跡している場合は、Visual Studio に統合した Version Manager から Issue にアクセスすることができます。TeamTrack の Issue を Visual Studio から提出および変更し、特定のファイルに Issue を関連付けることができます。Issue をファイルのリビジョンに関連付けると、関連するリビジョンの情報が Issue に追加されます。

TeamTrack と Version Manager の統合についての詳細は、411 ページの『TeamTrack Issue の関連付けと操作』を参照してください。

サポートされているプロジェクトタイプ

Visual Studio とのリッチな統合は、Visual Studio でソース管理操作作用に使用できるすべてのプロジェクトタイプを処理できます。



重要！ 特定の CAB プロジェクトまたは C++ プロジェクトのすべてのファイルは、Visual Studio プロジェクトのルートディレクトリの下に存在する必要があります。ある C++ プロジェクトのファイルを切り取って、Visual Studio の内部にある別のプロジェクトに貼り付けると、この要件に違反します。

コラボレーティブプロセスの概要

Version Manager の統合機能は、各種のコラボレーティブ開発プロセスを柔軟にサポートします。以下の操作を実行できます。

- Version Manager のワークスペースを使用すると、開発者が作業するファイルを正確に定義できます。また、バージョンラベルを自動的に割り当てることによって、ワークスペースの保守を強制的に行うことができます。ワークスペースを使用することによって、プロジェクト内で作業するすべての開発者が必ず同一のファイルを表示および更新することになるため、開発プロジェクトにおけるファイル共有が非常に簡単にできます。357 ページの『ワークスペースの使用』を参照してください。
- 実用的（楽観的）ロックモデルを使用することにより、ファイルをロックせずにすべてのユーザが共通ファイルで作業することができます。359 ページの『ロックしないファイルの作業』を参照してください。
- ファイルの編集にロックを要求することにより、複数のユーザが同じファイルを変更するのを防ぎます。360 ページの『ロックされたファイルのチェックアウト』を参照してください。

ワークスペースの使用

Visual Studio へのリッチな統合により、Version Manager のワークスペースを広く活用して、コラボレーティブプロセスを単純化することができます。Version Manager のワークスペースは、共通のデフォルトバージョンラベルを共有する個々のファイルの集まりです。開発者はワークスペースを使用することにより、デフォルトバージョンラベルの定義に基づいて、特定の開発作業やプロジェクトに関連するファイルのみを取得して作業できます。



注 Version Manager のワークスペースには作業ファイルのデフォルトの場所が定義されています。しかし、この作業ファイルの場所は、Visual Studio のリッチな統合など、IDE クライアントには適用されません。代わりに、Visual Studio に指定された作業ファイルの場所が使用されます。CLI クライアント、Web クライアントなど、その他の Version Manager クライアントでは、Version Manager ワークスペースに定義された作業ファイルの場所を使用します。

Visual Studio に統合する場合のワークスペースのセットアップ方法と使用方法の概要を以下に示します。

- 1 Version Manager 管理者は、Version Manager でワークスペースをセットアップします。各プロジェクトまたはサブプロジェクト、そして各開発者に対しても固有のワークスペースをセットアップすることができます。最も単純なワークフローでは、プロジェクトチームのすべてのメンバーが共有できる共通のワークスペースを定義します。この共通のワークスペースで、プロジェクトの正しいデフォルトバージョンラベルが定義されます。異なるワークスペースを使用する開発者が共通のプロジェクトで作業する場合は、各ワークスペースのデフォルトバージョンラベルを同じ値に設定する必要があります。各開発者が表示したり変更したりできるファイルはバージョンラベルによって決まるため、同じ開発ブランチで作業するすべての開発者が共通のデフォルトバージョンラベルを使用することが重要です。詳細は、『Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。



重要！ 1 つのワークスペースのプロジェクト構造を変更すると、Visual Studio プロジェクトを含んでいるほかのすべてのワークスペースに影響します。開発者がファイルの名前変更、移動、サクジョ、または追加を行うと、その変更はほかのワークスペースに表示されます。ワークスペースを定義するときは、こうした依存関係をよく検討してください。

- 2 管理者がワークスペースのデフォルトバージョンラベルを定義します。このデフォルトバージョンラベルによって、ワークスペースに属するファイルが決まります。

たとえば、プロジェクトのすべてのファイルに Latest という浮動ラベルが割り当てられている場合に、プロジェクトのすべてのファイルの最新バージョンがワークスペースに含まれるようにするには、デフォルトバージョンラベルを Latest として定義します。

また、ブランチバージョンラベルが branch_01 であるブランチのすべてのファイルがワークスペースに含まれるようにするには、ワークスペースのデフォルトバージョンラベルを branch_01 として定義します。

詳細は、366 ページの『ブランチの操作』および『Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。

- 3 開発者は、Visual Studio ソリューションまたはプロジェクトソース管理に追加するとき、適切なワークスペースを選択します。適切なワークスペースを選択すると、そのワークスペースのデフォルトバージョンラベルが、Version Manager に追加されたすべてのファイルに割り当てられます。たとえば、デフォルトバージョンラベルが Latest であるワークスペースを開発者が選択した場合は、Latest というラベルがすべてのファイルに割り当てられます。
- 4 他の開発者は、ソース管理からソリューションまたはプロジェクトを開くとき、適切なワークスペースを選びます。この選択によって、各自のローカルワークスペースにコピーされるファイルが決まります。たとえば、デフォルトバージョンラベルが Latest であるワークスペースを開発者が選択した場合は、Latest が割り当てられているファイルのみがローカルワークスペースにコピーされます。
- 5 開発者がワークスペースを同期させると、デフォルトバージョンラベルを持つファイルのチェックインと取得が自動的に行われます。開発者がローカルワークスペースを Version Manager プロジェクトと同期させると、次のようになります。
 - すべての新しいローカルファイルが Version Manager プロジェクトに追加され、現在のワークスペースのデフォルトバージョンラベルが割り当てられます。
 - Version Manager プロジェクトに含まれる新しいファイルのうち、ローカルワークスペースのデフォルトバージョンラベルが割り当てられているファイルがローカルワークスペースにコピーされます。

ロックしないファイルの作業

このワークフローで、ファイルは、ファイル操作の開始前ではなく、実際に変更をチェックインした時点にのみ一時的にロックされます。Version Manager では、これを実用的ロックと呼びます。このモデルを使用すると、複数のユーザが同時に同じファイルを取得し、変更できます。各ユーザの変更は、ファイルをチェックインするときにほかのユーザの変更と自動的にマージされます。複数のユーザの変更を自動的にマージしようとした結果、マージの競合が発生した場合は、競合ファイルのチェックインが失敗します。このような競合を解決するには、[Compare Workspaces (ワークスペースの比較)] ビューから Merge ツールを起動します。また、初めから [Check In File(s) (ファイルのチェックイン)] ダイアログボックスを呼び出さずに、[Compare Workspaces (ワークスペースの比較)] ビューから同期化することもできます。



注 デフォルトでは、実用的 (楽観的) ロックは有効になっています。ただし、管理者は特定のプロジェクトデータベースに対して無効にし、ユーザがファイルを編集前にチェックアウトすることができます。『Serena Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。

このプロセスの手順を以下に示します。

- 1 一日の始めに、該当する Version Manager プロジェクトの最新の更新がローカルワークスペースにすべて揃っていることを確認します。これには、ローカルワークスペースを Version Manager プロジェクト内の変更で更新するか (402 ページの『Version Manager からすべての更新を取得』を参照)、ローカルワークスペースを対応するプロジェクトと同期します (400 ページの『ワークスペースの比較と同期化』を参照)。ローカルファイルがすでに存在し、Version Manager 内の最新のリビジョンと異なる場合は、異なるリビジョンがマージされます。異なるリビジョンをマージしようとした結果、競合が発生する場合は、[Compare Workspaces (ワークスペースの比較)] ビューでファイルを識別し、Merge ツールで解決します。
- 2 ファイルを編集します。
- 3 ファイルの作業が済んだら、すべての変更を Version Manager にコミットする (404 ページの『ローカル変更を Version Manager にコミット』を参照) か、ワークスペースを対応する Version Manager ワークスペースと同期します。



注 デフォルトでは、ソース管理からファイルを取得すると、それらのファイルはローカルワークスペース内で読み取り専用を設定されます。それらを変更するには、作業を開始する前に Windows エクスプローラからそれらを書き込み可能にするか、Visual Studio で変更内容を保存するときにファイルの上書きを選択する必要があります。

例：コラボレーティブ開発

開発者のチームが、Source というプロジェクトデータベースの Patch2 というプロジェクトに格納されているファイルを使用して共同で作業しています。このプロジェクトでは、複数の開発者が共通ファイルで同時に作業できるようになっています。この開発ワークフローは、次のようになります。

- 1 各開発者は一日の始めに、Version Manager の Patch2 プロジェクトにある最新の変更で各自のローカルワークスペースを更新します。この開発チームは複数の国にある開発サイトで作業しているため、この同期によって、すべての開発者がすべての開発サイトの最新の更新を取得できます。405 ページの『ワークスペースの同期化』を参照してください。

- 2 一日の終わりに、各開発者は、ファイルのすべての変更をローカルワークスペースにチェックインするため、各自のワークスペースを対応する Version Manager プロジェクトと同期させます。複数の開発者が同じファイルに変更を加えた場合は、マージ機能によって、各ユーザの変更が新しいリビジョンにマージされます。マージされたファイルや変更されたファイルは、すべてローカルワークスペースにコピーされます。ファイルをマージしようとした結果、競合が発生した場合、チェックインを行う開発者は、競合を解決して再度同期する必要があります。[405 ページの『ワークスペースの同期化』](#)を参照してください。

ロックされたファイルのチェックアウト

このワークフローでは、変更するファイルをチェックアウトします。ファイルをチェックアウトすると、Version Manager でファイルがロックされ、ロックを解除するまでほかのユーザは変更をチェックインできなくなります。変更が完了したら、ファイルをチェックインします。このプロセスによって、複数のユーザの変更による競合が回避されます。



重要！ ローカルの変更をチェックインしても、そのような変更は名前が変更されたり、移動されたファイルとして同期されません。これを行うには、すべての変更を Version Manager にコミットする ([404 ページの『ローカル変更を Version Manager にコミット』](#)を参照) か、ワークスペースを対応する Version Manager ワークスペースと同期します。



注 デフォルトでは、実用的 (楽観的) ロックは有効になっています。ただし、管理者は特定のプロジェクトデータベースに対して無効にし、ユーザがファイルを編集前にチェックアウトすることができます。

例：ファイルのロック

複雑で相互に依存するコードベースで作業する開発チームに参加している中島さんと山本さんは、よく同じファイルで作業します。以下は、典型的な一日の作業の流れです。

- 1 中島さんが、一連のファイルを Version Manager からチェックアウトして作業を開始します ([384 ページの『ファイルのチェックアウト』](#)を参照)。
- 2 山本さんはプロジェクトを開くと、[Compare Workspaces (ワークスペースの比較)] ビューを表示して必要なファイルが現在チェックアウトされているか調べます ([401 ページの『ワークスペースの比較』](#)を参照)。それらはチェックされています。山本さんは [History (履歴)] ビューを使用して、ファイルをチェックアウトしたのが中島さんであることを確認します ([381 ページの『ファイル履歴の参照』](#)を参照)。
- 3 作業を終えた中島さんはファイルをチェックインして、作業の元となった TeamTrack Issue にファイルを関連付けます ([388 ページの『ファイルのチェックイン』](#)を参照)。
- 4 昼食から戻った山本さんは、[Compare Workspaces (ワークスペースの比較)] ビューを表示してファイルの現在の状態を確認します。ファイルがチェックインされていることを確認します。山本さんはそれらのファイルをチェックアウトして、作業を開始します。

Visual Studio ソリューションの移行と変換

Visual Studio ソリューションを移行する前に、次のことに注意してください。

- 統合の混在を避けてください。共通のプロジェクトで作業するすべてのユーザは、同じ統合 (SCC またはリッチな統合) を使用する必要があります。プロジェクトをリッチな統合へ移行した後は、すべてのユーザがリッチな統合経由でプロジェクトを開く必要があります。

- すべてのプロジェクトは、ソリューションフォルダの下に存在する必要があります。ソリューションツリーの外部にあるプロジェクトは移行できません。
- TrackerLink を使用して引き続き使用する場合は、SCC プロジェクトをリッチな統合へ移行しないでください。リッチな統合は TeamTrack をサポートします。Tracker プロジェクトを無事 TeamTrack へ移行し終えるまでリッチな統合へ移行しないでください。その後、リッチな統合を使用して Visual Studio 内から TeamTrack へ移行することができます。

次の移行パスを使用できます。

移行前	移行後	
	リッチ VS 2003	リッチ VS 2005
SCC VS 2003	第 18 章、301 ページの『Visual Studio .NET 2003 のリッチな統合』を参照してください。 注：現在の Visual Studio 2005 の統合は、これよりもさらにリッチな機能になっています。	363 ページの『SCC VS 2003 からリッチ VS 2005 への移行』を参照してください。
リッチ VS 2003	不可	361 ページの『リッチ VS 2003 からリッチ VS 2005 への移行』を参照してください。
SCC VS 2005	不可	364 ページの『SCC VS 2005 からリッチ VS 2005 への移行』を参照してください。



注 Visual Studio ソリューションが Visual SourceSafe のソース管理下にある場合は、『Serena Version Manager 管理者ガイド』の『Using the Version Manager Conversion Utility for SourceSafe (Version Manager Conversion Utility for SourceSafe の使用)』の章を参照してください。

リッチ VS 2003 からリッチ VS 2005 への移行

この手順では、Visual Studio .NET 2003 から Visual Studio 2005 にソリューションを変換し、ソース管理統合を Visual Studio 用のリッチな Version Manager 統合の最新バージョンに更新する方法について説明します。この新しいバージョンのリッチな統合は、以前のバージョンから機能が大きく向上していますが、Visual Studio 2005 でしか動作しません。



重要！ソリューションを移行する前に、すべてのユーザが作業をチェックインして、すべてのファイルのロックを解除する必要があります。

リッチな統合を 2003 から 2005 にアップグレードするには、次の操作を行います。

- 1 Version Manager デスクトップクライアントを使用して、ソリューションおよびそのプロジェクトとサブプロジェクトをすべてチェックアウトします。
- 2 Visual Studio 2005 を起動します。
- 3 ソリューションを開きます。Visual Studio 変換ウィザードが表示されます。
- 4 Visual Studio 変換ウィザードでの作業を完了します。詳細は、Microsoft のドキュメントを参照してください。

- 5 [File (ファイル)] – [Save All (すべて保存)] を選択します。
- 6 [File (ファイル)] – [Source Control (ソース管理)] – [Migrate (移行)] を選択します。Serena 移行ウィザードの 1 ページ目が表示されます。
- 7 Visual Studio ソリューションを含む Version Manager プロジェクトデータベースを指定するには、次のいずれかを行います。
 - ルートプロジェクトデータベースディレクトリへのパスを入力するか、ドロップダウンリストから最新プロジェクトデータベースを選択します。
 - 【Browse for PDB (PDB の参照)】 ボタン () をクリックして、プロジェクトデータベースを参照します。この場合、ルート PDB ディレクトリの直下に配置されている .ser ファイルを選択する必要があります。
 - 【Browse File Servers (ファイルサーバの参照)】 ボタン () をクリックして、Version Manager ファイルサーバ上のすべてのプロジェクトデータベースから選択します。ファイルサーバは、Version Manager デスクトップクライアントから定義する必要があります。Version Manager File Server が定義されていない場合は、このボタンを無視します。
- 8 Version Manager のユーザ名とパスワードを入力し、【Next (次へ)】 をクリックします。ウィザードの 2 ページ目が表示されます。
- 9 使用する Version Manager ワークスペースを選択し、【Next (次へ)】 をクリックします。次のことに注意してください。
 - 選択したワークスペースによって、ファイルのデフォルトバージョンラベルとプロモーショングループが決まります。デフォルトバージョンラベルが割り当てられているファイルのみが、ローカルワークスペースで開かれます。後に、ローカルワークスペースを Version Manager と同期するとき、追加するすべての新規ファイルにデフォルトバージョンラベルが割り当てられます。357 ページの『ワークスペースの使用』を参照してください。
 - ワークスペースの選択は、開くことができるプロジェクトファイルも決定します。デフォルトバージョンラベルが割り当てられているプロジェクトを開くことができます。たとえば、デフォルトバージョンラベルが branch である場合、branch バージョンラベルが割り当てられているプロジェクトファイルのみ開くことができます。

ウィザードの 3 ページ目が表示されます。
- 10 移行する Version Manager プロジェクトを選択します。
- 11 <Solution file (ソリューションファイル)> フィールドで、移行する Visual Studio ソリューション (.sln) ファイルの作業ファイルの場所を入力するか、参照して選択します。手順 1 でファイルをチェックアウトしたのと同じ場所を必ず指定してください。
- 12 【Next (次へ)】 をクリックします。
ウィザードの 4 ページ目が表示されます。
- 13 選択した内容を確認します。設定を変更するには、【Back (戻る)】 ボタンをクリックします。作業が終了したら、【Finish (終了)】 ボタンをクリックします。
- 14 [File (ファイル)] – [Save All (すべて保存)] を選択します。
- 15 ソリューションを閉じます ([File (ファイル)] – [Close Solution (ソリューションを閉じる)])。
- 16 Version Manager デスクトップクライアントを使用して、ソリューションおよびそのプロジェクトとサブプロジェクトをすべてチェックインします。

- 17 各ユーザは今後、更新されたソリューションをソース管理から開く必要があります ([File (ファイル)] - [Source Control (ソース管理)] - [Open Project from Source Control (ソース管理からプロジェクトを開く)])。376 ページの『ソース管理からソリューションおよびプロジェクトを開く』を参照してください。

SCC VS 2003 からリッチ VS 2005 への移行

この手順では、Visual Studio .NET 2003 から Visual Studio 2005 にソリューションを変換し、ソース管理統合を Version Manager SCC から Visual Studio 2005 用のリッチな Version Manager 統合に移行する方法について説明します。



重要! ソリューションを移行する前に、すべてのユーザが作業をチェックインして、すべてのファイルのロックを解除する必要があります。

2003 SCC 統合を 2005 のリッチな統合にアップグレードするには、次の操作を行います。

- 1 Version Manager デスクトップクライアントを使用して、ソリューションおよびそのプロジェクトとサブプロジェクトをすべてチェックアウトします。
- 2 Visual Studio 2005 を起動します。
- 3 開いているソリューションをすべて閉じます ([File (ファイル)] - [Close Solution (ソリューションを閉じる)])。
- 4 [File (ファイル)] - [Source Control (ソース管理)] - [Migrate (移行)] を選択します。Serena 移行ウィザードの 1 ページ目が表示されます。
- 5 Visual Studio ソリューションを含む Version Manager プロジェクトデータベースを指定するには、次のいずれかを行います。
 - ルートプロジェクトデータベースディレクトリへのパスを入力するか、ドロップダウンリストから最新プロジェクトデータベースを選択します。
 - 【Browse for PDB (PDB の参照)】 ボタン (📁) をクリックして、プロジェクトデータベースを参照します。この場合、ルート PDB ディレクトリの直下に配置されている .ser ファイルを選択する必要があります。
 - 【Browse File Servers (ファイルサーバの参照)】 ボタン (🌐) をクリックして、Version Manager ファイルサーバ上のすべてのプロジェクトデータベースから選択します。ファイルサーバは、Version Manager デスクトップクライアントから定義する必要があります。Version Manager File Server が定義されていない場合は、このボタンを無視します。
- 6 Version Manager のユーザ名とパスワードを入力し、【Next (次へ)】 をクリックします。ウィザードの 2 ページ目が表示されます。
- 7 使用する Version Manager ワークスペースを選択し、【Next (次へ)】 をクリックします。次のことに注意してください。
 - 選択したワークスペースによって、ファイルのデフォルトバージョンラベルとプロモーショングループが決まります。デフォルトバージョンラベルが割り当てられているファイルのみが、ローカルワークスペースで開かれます。後に、ローカルワークスペースを Version Manager と同期するとき、追加するすべての新規ファイルにデフォルトバージョンラベルが割り当てられます。357 ページの『ワークスペースの使用』を参照してください。

- ワークスペースの選択は、開くことができるプロジェクトファイルも決定します。デフォルトバージョンラベルが割り当てられているプロジェクトを開くことができます。たとえば、デフォルトバージョンラベルが branch である場合、branch バージョンラベルが割り当てられているプロジェクトファイルのみ開くことができます。

ウィザードの 3 ページ目が表示されます。

- 8 移行する Version Manager プロジェクトを選択します。
- 9 〈Solution file (ソリューションファイル)〉フィールドで、移行する Visual Studio ソリューション (.sln) ファイルの作業ファイルの場所を入力するか、参照して選択します。手順 1 でファイルをチェックアウトしたのと同じ場所を必ず指定してください。
- 10 【Next (次へ)】をクリックします。
ウィザードの 4 ページ目が表示されます。
- 11 選択した内容を確認します。設定を変更するには、【Back (戻る)】ボタンをクリックします。作業が終了したら、【Finish (終了)】ボタンをクリックします。Visual Studio 変換ウィザードが表示されます。
- 12 Visual Studio 変換ウィザードでの作業を完了します。詳細は、Microsoft のドキュメントを参照してください。
- 13 [File (ファイル)] - [Save All (すべて保存)] を選択します。
- 14 Version Manager デスクトップクライアントを使用して、ソリューションおよびそのプロジェクトとサブプロジェクトをすべてチェックインします。
- 15 各ユーザは今後、更新されたソリューションをソース管理から開く必要があります ([File (ファイル)] - [Source Control (ソース管理)] - [Open Project from Source Control (ソース管理からプロジェクトを開く)])。376 ページの『ソース管理からソリューションおよびプロジェクトを開く』を参照してください。

SCC VS 2005 からリッチ VS 2005 への移行

この手順では、Visual Studio 2005 ソリューションを、SCC Version Manager 統合からリッチな Version Manager 統合に変換する方法について説明します。



重要！ソリューションを移行する前に、すべてのユーザが作業をチェックインして、すべてのファイルのロックを解除する必要があります。

2005 SCC 統合を 2005 のリッチな統合に移行するには、次の操作を行います。

- 1 Version Manager デスクトップクライアントを使用して、ソリューションおよびそのプロジェクトとサブプロジェクトをすべてチェックアウトします。
- 2 Visual Studio 2005 を起動します。
- 3 開いているソリューションをすべて閉じます ([File (ファイル)] - [Close Solution (ソリューションを閉じる)])。
- 4 [File (ファイル)] - [Source Control (ソース管理)] - [Migrate (移行)] を選択します。Serena 移行ウィザードの 1 ページ目が表示されます。

- 5 Visual Studio ソリューションを含む Version Manager プロジェクトデータベースを指定するには、次のいずれかを行います。
 - ルートプロジェクトデータベースディレクトリへのパスを入力するか、ドロップダウンリストから最新プロジェクトデータベースを選択します。
 - **【Browse for PDB (PDB の参照)】** ボタン () をクリックして、プロジェクトデータベースを参照します。この場合、ルート PDB ディレクトリの直下に配置されている .ser ファイルを選択する必要があります。
 - **【Browse File Servers (ファイルサーバの参照)】** ボタン () をクリックして、Version Manager ファイルサーバ上のすべてのプロジェクトデータベースから選択します。ファイルサーバは、Version Manager デスクトップクライアントから定義する必要があります。Version Manager File Server が定義されていない場合は、このボタンを無視します。
- 6 Version Manager のユーザ名とパスワードを入力し、**【Next (次へ)】** をクリックします。ウィザードの 2 ページ目が表示されます。
- 7 使用する Version Manager ワークスペースを選択し、**【Next (次へ)】** をクリックします。次のことに注意してください。
 - 選択したワークスペースによって、ファイルのデフォルトバージョンラベルとプロモーショングループが決まります。デフォルトバージョンラベルが割り当てられているファイルのみが、ローカルワークスペースで開かれます。後に、ローカルワークスペースを Version Manager と同期するとき、追加するすべての新規ファイルにデフォルトバージョンラベルが割り当てられます。357 ページの『ワークスペースの使用』を参照してください。
 - ワークスペースの選択は、開くことができるプロジェクトファイルも決定します。デフォルトバージョンラベルが割り当てられているプロジェクトを開くことができます。たとえば、デフォルトバージョンラベルが branch である場合、branch バージョンラベルが割り当てられているプロジェクトファイルのみ開くことができます。ウィザードの 3 ページ目が表示されます。
- 8 移行する Version Manager プロジェクトを選択します。
- 9 〈Solution file (ソリューションファイル)〉フィールドで、移行する Visual Studio ソリューション (.sln) ファイルの作業ファイルの場所を入力するか、参照して選択します。手順 1 でファイルをチェックアウトしたのと同じ場所を必ず指定してください。
- 10 **【Next (次へ)】** をクリックします。
ウィザードの 4 ページ目が表示されます。
- 11 選択した内容を確認します。設定を変更するには、**【Back (戻る)】** ボタンをクリックします。作業が終了したら、**【Finish (終了)】** ボタンをクリックします。
- 12 Version Manager デスクトップクライアントを使用して、ソリューションおよびそのプロジェクトとサブプロジェクトをすべてチェックインします。
- 13 各ユーザは今後、更新されたソリューションをソース管理から開く必要があります ([File (ファイル)] - [Source Control (ソース管理)] - [Open Project from Source Control (ソース管理からプロジェクトを開く)])。376 ページの『ソース管理からソリューションおよびプロジェクトを開く』を参照してください。

Web プロジェクトの操作

リッチな統合は、ASP Application プロジェクトなどの Web プロジェクトをサポートします。Web を操作する場合、次の点に注意してください。

- ソリューションに Web プロジェクトを追加すると、そのプロジェクトの Web URL を定義することになります。プロジェクト内のすべてのファイルは、Visual Studio ワークスペース内のルートソリューションフォルダのもとはなくこの Web ロケーションに保存されます。この URL は物理ディレクトリに対応します。この物理ディレクトリのマッピングは Web サーバが定義しています。いったんプロジェクトを無事ソリューションに追加したら、ほかのタイプのプロジェクトと同様に、それらを Version Manager に追加することができます。[373 ページの『Version Manager へのソリューションおよびプロジェクトの追加』](#)を参照してください。
- ソース管理から 1 つの Web プロジェクトを開くと、新しい空白のソリューションが開きます。Web プロジェクトを開く手順は、非 Web プロジェクトを開く手順と若干異なります。[379 ページの『ソース管理から Web プロジェクトを開く』](#)を参照してください。

ブランチの操作

ブランチは、トランク（開発のメインライン）のリビジョンまたは別のブランチから分岐した、1 つまたは複数のリビジョンから成る開発ラインです。ブランチにより、トランクまたは別のブランチで作業している開発者と並行して、ファイルの別バージョンを開発できます。

ブランチは、以下のような目的で作成されます。

- ファイルのプラットフォーム固有のバージョンを開発する。
- 開発のメインラインを中断せずにバグを修正するか新しい機能を開発する。
- 開発のメインラインに影響を与えずに特定の顧客のニーズに合わせてコードをカスタマイズする。

ブランチを作成すると、新しいリビジョンが作成されます。この新しいリビジョンのリビジョン番号はブランチ元のリビジョンと同じですが、最後に 2 つの数字 1.0 が追加されます。したがって、リビジョン 1.5 からブランチする場合、新しいブランチの最初のリビジョンはリビジョン 1.5.1.0 になります。

ブランチファイルの表示

特定ファイルの全ブランチはリビジョンはすべて [History (履歴)] ビューで表示できます。

ブランチのリビジョンを表示するには、次の操作を行います。

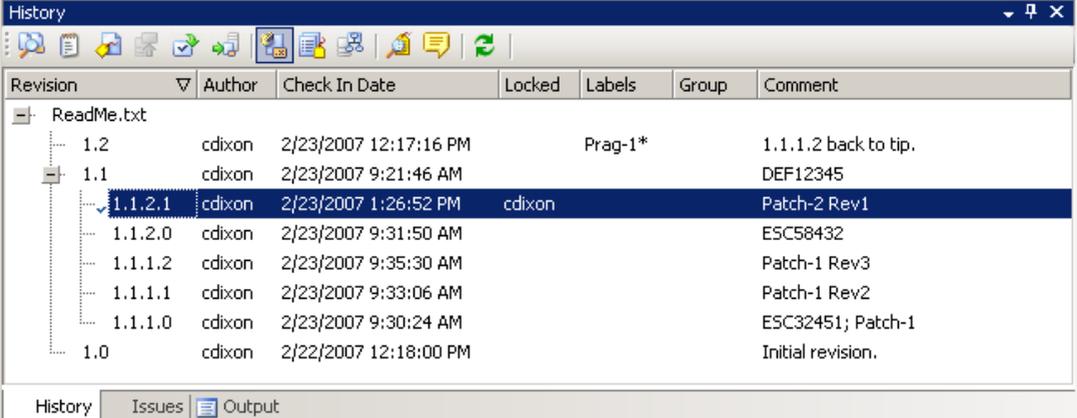
- 1 ソリューションエクスプローラで対象ファイルを右クリックし、表示されるメニューから [History (履歴)] を選択します。[History (履歴)] ビューにはファイルの前バージョンのリストが表示されます。
- 2 リビジョンを探するため、必要に応じてノードをクリックし、ツリーのブランチを展開します。

トランクとブランチ、およびブランチ同士を区別する方法

次のイメージを説明します。

- 1.0 は ReadMe.txt. ファイルの初期リビジョンです。

- 1.2 は、デフォルトバージョンラベル Prag-1 で定義された開発のメインライン（トランク）の最新（チップ）リビジョンです。
- 1.1.1.0 はリビジョン 1.1 から最初に分岐したブランチの初期リビジョンです。
- 1.1.1.2 は 1.1.1.x ブランチのチップリビジョンです。
- 1.1.2.0 はリビジョン 1.1 から 2 番目に分岐したブランチの初期リビジョンです。
- 1.1.2.1 は 1.1.2.x ブランチのチップリビジョンです。



Revision	Author	Check In Date	Locked	Labels	Group	Comment
1.2	cdixon	2/23/2007 12:17:16 PM		Prag-1*		1.1.1.2 back to tip.
1.1	cdixon	2/23/2007 9:21:46 AM				DEF12345
1.1.2.1	cdixon	2/23/2007 1:26:52 PM	cdixon			Patch-2 Rev1
1.1.2.0	cdixon	2/23/2007 9:31:50 AM				ESC58432
1.1.1.2	cdixon	2/23/2007 9:35:30 AM				Patch-1 Rev3
1.1.1.1	cdixon	2/23/2007 9:33:06 AM				Patch-1 Rev2
1.1.1.0	cdixon	2/23/2007 9:30:24 AM				ESC32451; Patch-1
1.0	cdixon	2/22/2007 12:18:00 PM				Initial revision.

ファイルのブランチ方法

統合には、ブランチファイルを作成し、操作する 2 つの方法があります。

- ラベルベースの自動ブランチ：以下の操作が可能です。
 - プロジェクト全体またはファイルグループをブランチする。
 - プロジェクト全体またはファイルグループのブランチをチェックアウトする。
 - 異なる Version Manager ワークスペースで各ブランチとトランクを管理する。
- 手動ブランチ：以下の操作が可能です。
 - 1 回の 1 つのブランチファイルを作成する。
 - 1 回の 1 つのブランチファイルをチェックアウトする。

1 つまたは 2 つのファイルのみブランチする場合、手動の方法を使用できます。多数のファイルまたはプロジェクト全体をブランチするには、ラベルベースの自動ブランチを使用します。

ラベルベースの自動ブランチ

適切な権限を持つユーザは、Version Manager デスクトップクライアントを使用して、ラベルベースの自動ブランチ用のワークスペースを設定する必要があります。

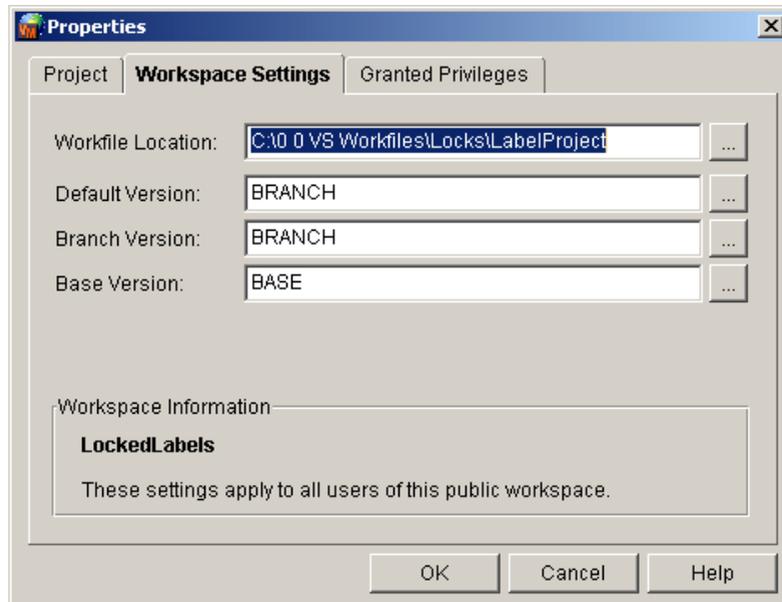
ブランチの作成

- 1 Version Manager デスクトップクライアントから、ブランチのワークスペースを作成します。たとえば、開発のメインライン用にワークスペース TRUNK、新しいブランチ用にワークスペース PATCH-1 を使用するとします。357 ページの『ワークスペースの使用』および『Serena PVCS Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。



重要！ 1 つのワークスペースのプロジェクト構造を変更すると、Visual Studio プロジェクトを含んでいるほかのすべてのワークスペースに影響します。開発者がファイルの名前変更、移動、削除、または追加を行うと、その変更はほかのワークスペースに表示されます。ワークスペースを定義するときは、こうした依存関係をよく検討してください。

- 2 ブランチ用を作成したワークスペースに切り替えます（デスクトップクライアントの下部にあるワークスペースアイコン  RootWorkspace をクリックし、表示されるダイアログボックスからワークスペースを選択します）。
- 3 デスクトップクライアントから、ブランチする階層の最上部にあるプロジェクト / フォルダを選択します。
- 4 右クリックして表示されるメニューで、[Properties (プロパティ)] を選択します。[Properties (プロパティ)] ダイアログボックスが表示されます。
- 5 [Workspace Settings (ワークスペースの設定)] タブを選択します。



- 6 次の手順に従います。
 - a Workfile Location (作業ファイルの場所)：このフィールドは Visual Studio 統合には適用されません。ただし、ほかの Version Manager クライアントを使用してファイルにアクセスすると、そのファイルの取得とチェックアウト時にこの場所に書き込まれます。

- b Default Version (デフォルトバージョン) : ここに入力したバージョンラベルによって、ソース管理の対象リビジョンが決まります。ブランチの各ファイルの最新リビジョンに関連付けるバージョンラベルを入力します。



ヒント デフォルトバージョンを定義する前に、これらのフィールドに関連付けられたラベルを適用の方が簡単なことがあります。デフォルトバージョンを定義すると、デフォルトバージョンに定義したラベルがすでに存在する場合を除き、すべてのアクション (ラベルの適用を含む) で対象となる特定のリビジョンを指定する必要があります。

- c Branch Version (ブランチバージョン) : 〈Default Version (デフォルトバージョン)〉フィールドに入力したバージョンラベルと同じものを入力します。トランクのチップではなく、ブランチのチップを操作できるようになります。
- d Base Version (ベースバージョン) : ここに入力したバージョンラベルによって、ブランチが分岐する既存のリビジョンが決まります。
- 7 〈Default Version (デフォルトバージョン)〉と〈Base Version (ベースバージョン)〉に定義したバージョンラベルをブランチするリビジョンに割り当てます。浮動ラベルではなく、通常の固定ラベルを適用してください。



注 デフォルトバージョンを定義した後に関連付けられたラベルを適用する場合、ラベルを適用するため、特定のリビジョンを指定する必要があります。たとえば、1.* を指定すると、トランクのチップにラベルが適用されます。

結果 : TRUNK がトランクのチップを示す浮動ラベルであり、BASE と BRANCH がブランチ対象のリビジョンのラベルである場合、Visual Studio の [History (履歴)] ビューで結果は次のように表示されます。

Revision	Author	Check In Date	Locked	Labels	Group	Comment
1.2	cdixon	3/14/2007 10:50:46 AM		TRUNK*		Another revision on the trunk
1.1	cdixon	3/14/2007 10:49:18 AM		BASE; BRANCH		A revision on the trunk
1.0	cdixon	3/14/2007 10:34:58 AM				Initial revision.

- 8 Visual Studio から、ブランチするソリューション、プロジェクト、フォルダ、またはファイルを選択し、チェックアウトします。

結果 : トランクのチップではなく、デフォルトバージョンに対応するラベルを持つリビジョンがチェックアウトされます。

Revision	Author	Check In Date	Locked	Labels	Group	Comment
1.2	cdixon	3/14/2007 10:50:46 AM		TRUNK*		Another revision on the trunk
1.1	cdixon	3/14/2007 10:49:18 AM	cdixon	BASE; BRANCH		A revision on the trunk
1.0	cdixon	3/14/2007 10:34:58 AM				Initial revision.

- 9 Visual Studio から、ブランチするアイテムをチェックインします。



重要！ [Options (オプション)] タブで、〈If file is unchanged (ファイルが変更されていない場合)〉オプションを〈Check In (チェックイン)〉に設定します。ブランチを作成するには、新しいリビジョンをチェックインする必要があります。

結果：ブランチが作成され、ブランチバージョンとして定義したラベルはブランチのチップで浮動ラベルになります。

Revision	Author	Check In Date	Locked	Labels	Group	Comment
1.2	cdixon	3/14/2007 10:50:46 AM		TRUNK*		Another revision on the trunk
1.1	cdixon	3/14/2007 10:49:18 AM		BASE		A revision on the trunk
1.1.1.0	cdixon	3/14/2007 12:27:38 PM		BRANCH*		Create branch
1.0	cdixon	3/14/2007 10:34:58 AM				Initial revision.

ブランチとワークスペースの設定の詳細については、『Serena PVCS Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。

手動ブランチ

手動でブランチを作成するには、2つの方法があります。

- ファイルをチェックインするとき、〈Force branch (強制的にブランチさせる)〉オプションを選択する。
- チップ以外のリビジョン (特定のトランクまたはブランチで最新リビジョン以外のリビジョン) をチェックアウトし、再びチェックインする。

〈Force branch (強制的にブランチさせる)〉オプションの使用

チェックイン時に〈Force branch (強制的にブランチさせる)〉オプションを使用し、ブランチを作成できます。

ブランチを作成するには、次の操作を行います。

- 1 ブランチするファイルを選択し、[Check In (チェックイン)] ダイアログボックス (右クリック - [Check In (チェックイン)]) を呼び出します。



注 組織で強制的に悲観的のロックを使用する場合、最初にファイルをチェックアウトする必要があります (右クリック - [Check Out (チェックアウト)])。

- 2 [Options (オプション)] タブで、〈Force branch (強制的にブランチさせる)〉オプションを選択します。



重要！ [Options (オプション)] タブで、〈If file is unchanged (ファイルが変更されていない場合)〉オプションを〈Check In (チェックイン)〉に設定します。ブランチを作成するには、新しいリビジョンをチェックインする必要があります。

- 3 コメントを入力し、必要に応じてほかのオプションを設定します。

- 4 【Check In (チェックイン)】をクリックします。

〔Check In (チェックイン)〕ダイアログボックスの詳細については、[388 ページの『ファイルのチェックイン』](#)を参照してください。

チップ以外のリビジョンのチェックインによるブランチ

ファイルのチップ以外のリビジョンをチェックアウトし、再びチェックインすることでブランチを作成できます。

ブランチを作成するには、次の操作を行います。

- 1 ソリューションエクスプローラで対象ファイルを選択します。
- 2 右クリックして表示されるメニューで、[History (履歴)] を選択します。〔History (履歴)〕ビューにはファイルの前バージョンのリストが表示されます。
〔History (履歴)〕ビューの青のチェックマークは、ローカルワークスペースに現在あるリビジョンを示します。
- 3 リビジョンを探すため、必要に応じてノードをクリックし、ツリーのブランチを展開します。
- 4 対象リビジョンを右クリックし、表示されるメニューから [Check Out Revision (リビジョンのチェックアウト)] を選択します。
ソリューションエクスプローラでファイルの横に赤のチェックマークが表示され、〔History (履歴)〕ビューのリビジョンの横に青のチェックマークが表示されます。ファイルがチェックアウトされます。
- 5 ソリューションエクスプローラでファイルを右クリックし、表示されるメニューから [Check In (チェックイン)] を選択します。〔Check In (チェックイン)〕ダイアログボックスが表示されます。



重要! 〔Options (オプション)〕タブで、〈If file is unchanged (ファイルが変更されていない場合)〉オプションを〈Check In (チェックイン)〉に設定します。ブランチを作成するには、新しいリビジョンをチェックインする必要があります。

- 6 コメントを入力し、必要に応じてほかのオプションを設定します。
- 7 【Check In (チェックイン)】をクリックします。

〔Check In (チェックイン)〕ダイアログボックスの詳細については、[388 ページの『ファイルのチェックイン』](#)を参照してください。

ブランチのリビジョンの編集

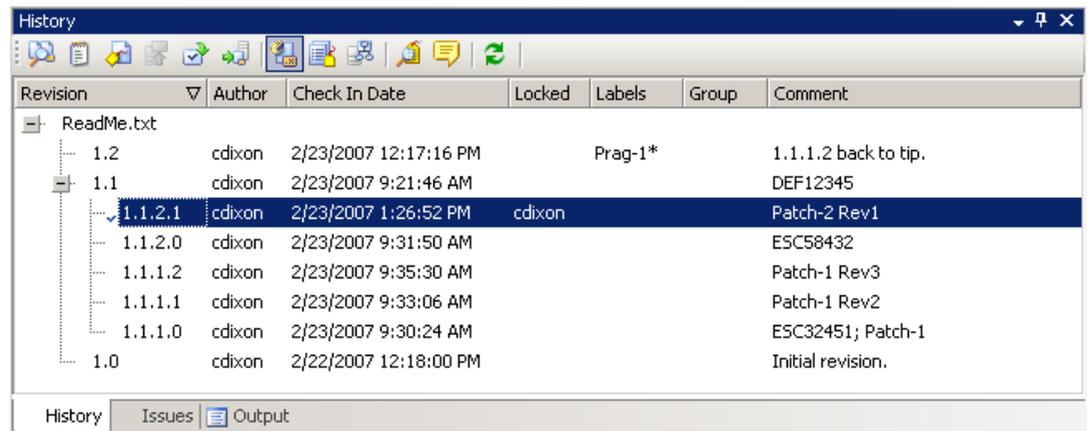
〔History (履歴)〕ビューでは任意のブランチのリビジョンを表示し、編集できます。

ブランチのリビジョンを編集するには、次の操作を行います。

- 1 ソリューションエクスプローラで対象ファイルを右クリックし、表示されるメニューから [History (履歴)] を選択します。〔History (履歴)〕ビューにはファイルの前バージョンのリストが表示されます。
- 2 リビジョンを探すため、必要に応じてノードをクリックし、ツリーのブランチを展開します。

- 3 対象リビジョンを右クリックし、ファイルの編集にロックを必要とするかどうかによって、表示されるメニューから [Check Out Revision (リビジョンのチェックアウト)] または [Get Revision (リビジョンの取得)] を選択します。

[History (履歴)] ビューの青のチェックマークは、ローカルワークスペースにあるリビジョンを示します。〈Locked (ロック済み)〉列は、ロックされたリビジョンとロックしているユーザを示します。



ブランチファイルのチェックイン

ファイルをチェックインすると (ブランチしているかどうかに関係なく)、Version Manager ワークスペースがどのように設定され、チップ以外のリビジョンがチェックアウトされているかどうかに従って、新しいリビジョンが以下のいずれかの場所に作成されます。

この場合	これを行う
リビジョンがロックされておらず、さらにワークスペースにデフォルトバージョンが定義され、ファイルに適用されている。	新しいリビジョンは、デフォルトバージョンで定義されたブランチまたはトランクのチップとしてチェックインされます。
リビジョンがロックされておらず、さらにファイルにデフォルトバージョンが適用されていない。	新しいリビジョンはトランクのチップとしてチェックインされます。
1 つのチップリビジョンがロックされている。	新しいリビジョンは、ロックされたリビジョンを含むブランチまたはトランクのチップとしてチェックインされます。
複数のリビジョンがロックされている。	ロック解除するリビジョンの選択が求められます。新しいリビジョンは、ロック解除するブランチまたはトランクのチップとしてチェックインされます。
チップ以外のリビジョンがロックされている。	新しいリビジョンは、ロックされたリビジョンから分岐した新しいブランチのチップとしてチェックインされます。

ブランチファイルをチェックインするには、次の操作を行います。

- 1 プロジェクトやソリューションファイルを含めてチェックインするすべてのファイルを保存します。
- 2 ソリューションエクスプローラで対象ファイルまたはフォルダを右クリックし、表示されるメニューから [Check In (チェックイン)] を選択します。[Check In (チェックイン)] ダイアログボックスが表示されます。

- 3 コメントを入力し、必要に応じてほかのオプションを設定します。
- 4 【Check In (チェックイン)】をクリックします。



注 ファイルの複数のリビジョンがロックされている場合、ロック解除するリビジョンの選択が求められます。

〔Check In (チェックイン)〕ダイアログボックスの詳細については、[388 ページの『ファイルのチェックイン』](#)を参照してください。

ソース管理プロジェクトの設定

Visual Studio への Version Manager 統合を使用するには、プロジェクトの各開発者は、そのローカル Visual Studio プロジェクトを対応する Version Manager プロジェクトと関連付ける必要があります。いったんこれを行うと、プロジェクトで作業しているすべての開発者は、ファイルの最新の更新をすべて入手し、ファイルへの新しい変更をチェックインすることができます。開発者は、そのローカルワークスペースを、すべての開発者の変更の中央リポジトリとなる Version Manager プロジェクトと同期させることができます。これには 2 つの方法があります。

- ソリューションまたはプロジェクトがまだ Version Manager 内に存在しない場合、ソリューションまたはプロジェクトをソース管理に追加します。これにより対応するプロジェクトが作成され、プロジェクト内のすべてのフォルダとファイルが Version Manager に追加されます。[373 ページの『Version Manager へのソリューションおよびプロジェクトの追加』](#)を参照してください。
- ソリューションまたはプロジェクトがすでに Version Manager 内に存在する場合は、それをローカルワークスペースに追加します。これにより、Version Manager プロジェクトから Visual Studio ワークスペースにすべてのファイルがコピーされ、ローカルソリューションと対応する Version Manager プロジェクトの関係が確立されます。[376 ページの『ソース管理からソリューションおよびプロジェクトを開く』](#)を参照してください。

Version Manager へのソリューションおよびプロジェクトの追加

まだソリューションまたはプロジェクトを Version Manager に追加していない場合、Version Manager への統合を使用する前に追加する必要があります。以下を選択できます。

- ソリューション全体を Version Manager に追加します。ソリューション全体を追加することにより、ソリューション内のすべてのプロジェクトとファイルを Version Manager 内の 1 つのプロジェクトデータベースに保存することができます。開発シナリオによっては、開発者は 1 つのプロジェクトデータベースのみ取得してそこで作業をすれば良いので、これにより組織内のメンバーのコラボレーティブプロセスが簡素化されます。

- ソリューション内の一部のプロジェクトを Version Manager に追加します。ソリューション全体を追加したくない場合は、ソリューション内の一部のプロジェクトだけをソース管理に追加することができます。それ自体ソース管理の対象外であるソリューション内のソース管理下のプロジェクトで作業を行うことができます。状況によっては、これが必要な場合や望ましい場合があります。



重要！

- Visual Studio プロジェクトは、ソリューションのルートディレクトリの下にある必要はありません。しかし、プロジェクトがソリューションのルートの下にある場合は、ソリューションと同じ Version Manager プロジェクトデータベースに追加する必要があります。
- 特定の CAB プロジェクトまたは C++ プロジェクトのすべてのファイルは、Visual Studio プロジェクトのルートディレクトリの下に存在する必要があります。ある C++ プロジェクトのファイルを切り取って、Visual Studio の内部にある別のプロジェクトに貼り付けると、この要件に違反します。
- 各 Version Manager プロジェクトまたはサブプロジェクトには、1 つのソリューションまたはプロジェクトファイルのみ保存することができます。たとえば、Version Manager の同じプロジェクトに複数のソリューションファイルを保存しないでください。ソース管理にソリューションやプロジェクトを追加するときは、Version Manager で別個の移動先プロジェクトを選択してください。

ソース管理にソリューションまたはプロジェクトを追加すると次のことが起こります。

- ソリューションまたはプロジェクト内のすべてのファイルが、対象となる Version Manager プロジェクトデータベースに追加されます。ただし、Visual Studio のソース管理操作によって無視されるファイルタイプは除きます。
- 追加する各ソリューションまたはプロジェクト内の各プロジェクトまたはフォルダに対して、対応する Version Manager サブプロジェクトが作成されます。たとえば、4 つのプロジェクトを含むソリューションを追加すると、Version Manager プロジェクトデータベース内に 4 つのサブプロジェクトが作成されます。
- ファイルがソース管理に追加される際、選んだワークスペースのデフォルトのバージョンラベルがすべてのファイルに割り当てられます。デフォルトラベルは、「浮動」ラベルとして割り当てられるため、常に最新のリリースと関連付けられています。これによって、このワークスペースを使用するその他のユーザが同じファイル類を確認および処理できるようになります。[357 ページの『ワークスペースの使用』](#)を参照してください。

次の方法で Version Manager にソリューションまたはプロジェクトを追加します。

- 1 必要に応じて Version Manager デスクトップクライアントから、ソリューションまたはプロジェクトを追加する Version Manager プロジェクトデータベースを作成します。詳細については、『Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。
- 2 Visual Studio から、Version Manager に追加するソリューションまたはソース管理に追加するプロジェクトを含むソリューションを開きます。
- 3 Version Manager に追加する前にソリューションとその中のすべてのプロジェクトを保存します。

4 以下のいずれかを実行します。

この場合	これを行う
ソース管理にソリューションを追加する	a ソリューションエクスプローラでソリューションルートを選択します。 b 右クリックして表示されるメニューで、[Add Solution to Source Control (ソース管理へのソリューションの追加)] を選択します。
ソース管理に特定のプロジェクトを追加する	a ソリューションエクスプローラでプロジェクトを選択します。 b 右クリックして表示されるメニューで、[Add Project to Source Control (ソース管理へのプロジェクトの追加)] を選択します。

〈Add to Source Control (ソース管理に追加)〉ウィザードが表示されます。

- 5 ソリューションまたはプロジェクトを追加するプロジェクトデータベースを指定します。次のいずれかを行ってプロジェクトデータベースを指定します。
 - ルートプロジェクトデータベースディレクトリへのパスを入力するか、ドロップダウンリストから最新プロジェクトデータベースを選択します。
 - 【Browse for PDB (PDB の参照)】 ボタン () をクリックして、プロジェクトデータベースを参照します。この場合、ルート PDB ディレクトリの直下に配置されている任意の .ser ファイルを選択する必要があります。
 - ファイルサーバが Version Manager で定義されている場合は、【Browse File Servers (File Server の参照)】 ボタン () をクリックして、Version Manager ファイルサーバ上のすべてのプロジェクトデータベースから選択します。ファイルサーバは、Version Manager デスクトップクライアントから定義する必要があります。Version Manager File Server が定義されていない場合は、このボタンを無視します。
- 6 Version Manager のユーザ名とパスワードを入力し、【Next (次へ)】 をクリックします。ウィザードの [Workspace (ワークスペース)] ページが表示されます。
- 7 ソリューションまたはプロジェクトで使用する Version Manager ワークスペースを選択します。プロジェクト内のすべてのパブリックワークスペースとアクセス可能なプライベートワークスペースが表示されます。次の点に注意してください。
 - ワークスペースの選択によって、ファイルのデフォルトバージョンラベルが決定されます。このラベルは、Version Manager にファイルが追加されるときに、すべてのファイルに割り当てられます。これによって、このワークスペースを使用するその他のユーザが (たとえば、ソース管理からソリューションまたはプロジェクトを開くことによって) 同じファイルのセットを処理できるようになります。
 - ワークスペースの選択によって作業ファイルの場所の設定が影響を受けることはありません。すべてのファイルの作業コピーは、Visual Studio ワークスペースに保存されます。
- 8 【Next (次へ)】 をクリックします。ウィザードの [Create Project (プロジェクトの作成)] ページが表示されます。

- ソリューションまたはプロジェクトを追加するプロジェクトデータベース内のプロジェクトまたはサブプロジェクトを選択します。



重要！各 Version Manager プロジェクトまたはサブプロジェクトには、1 つのソリューションファイルのみ保存することができます。Version Manager の同じプロジェクトに複数のソリューションファイルを保存しないでください。ソース管理にソリューションやプロジェクトを追加するときは、Version Manager で別個の移動先プロジェクトを選択してください。

- 【Next (次へ)】をクリックします。ウィザードの [TeamTrack] ページが表示されます。
- 〈TeamTrack Server (TeamTrack サーバ)〉フィールドに TeamTrack サーバ名を入力します。TeamTrack サーバがデフォルト以外のポート番号 (80 以外のポート) を使用している場合は、ポート番号をサーバ名の後に付加します。たとえば、ポート番号が 89 の場合は次のようになります。
tt_server:89
- TeamTrack のユーザ名とパスワードを入力します。
- 【Next (次へ)】をクリックします。ウィザードの [Review (確認)] ページが表示されます。
- 選択した内容を確認します。設定を変更するには、【Back (戻る)】ボタンをクリックします。作業が終了したら、【Finish (終了)】ボタンをクリックします。

ソース管理からソリューションおよびプロジェクトを開く

作業する Visual Studio プロジェクトが、別のコンピュータからソース管理に追加したものである場合、作業を始めるためには、先にソース管理からプロジェクトを開く必要があります。ソース管理からソリューションまたはプロジェクトを開くと、Visual Studio ソリューションまたはプロジェクトファイルをローカルワークスペースで使用できるようになります。

ソリューション全体とその中のすべてのプロジェクトを一度に開き (376 ページの『ソース管理からソリューションを開く』)、開いたソリューションにプロジェクトを追加 (378 ページの『ソース管理から非 Web プロジェクトを開く』) するか、新しいソリューションに 1 つの Web プロジェクトを開く (379 ページの『ソース管理から Web プロジェクトを開く』) ことができます。

ソース管理からソリューションを開く

次の手順に従って Version Manager からソリューション全体とその中のすべてのプロジェクトを開きます。

Version Manager からソリューションを開く手順

- [File (ファイル)] - [Open Solution From Source Control (ソース管理からソリューションを開く)] を選択します。〈Open from Source Control (ソース管理から開く)〉ウィザードが表示されます。
- 開くソリューションを含むプロジェクトデータベースを指定します。次のいずれかを行ってプロジェクトデータベースを指定します。
 - ルートプロジェクトデータベースディレクトリへのパスを入力するか、ドロップダウンリストから最新プロジェクトデータベースを選択します。
 - 【Browse for PDB (PDB の参照)】ボタン (🔍) をクリックして、プロジェクトデータベースを参照します。この場合、ルート PDB ディレクトリの直下に配置されている任意の .ser ファイルを選択する必要があります。

- **【Browse File Servers (ファイルサーバの参照)】** ボタン () をクリックして、Version Manager ファイルサーバ上のすべてのプロジェクトデータベースから選択します。ファイルサーバは、Version Manager デスクトップクライアントから定義する必要があります。Version Manager File Server が定義されていない場合は、このボタンを無視します。
- 3 Version Manager のユーザ名とパスワードを入力します。
 - 4 **【Next (次へ)】** をクリックします。ウィザードの [Workspace (ワークスペース)] ページが表示されます。
 - 5 ソリューション内のすべてのプロジェクトで使用するワークスペースを選択します。注：
 - 選択したワークスペースによって、ファイルのデフォルトバージョンラベルとプロモーショングループが決まります。デフォルトバージョンラベルが割り当てられているファイルのみが、ローカルワークスペースで開かれます。後に、ローカルワークスペースを Version Manager と同期するとき、追加するすべての新規ファイルにデフォルトバージョンラベルが割り当てられます。357 ページの『ワークスペースの使用』を参照してください。
 - ワークスペースの選択は、開くことができるソリューションファイルも決定します。デフォルトバージョンラベルが割り当てられているソリューションを開くことができます。たとえば、デフォルトバージョンラベルが branch である場合、branch バージョンラベルが割り当てられているソリューションファイルのみ開くことができます。
 - 6 **【Next (次へ)】** をクリックします。ウィザードの [Create Project (プロジェクトの作成)] ページが表示されます。
 - 7 プロジェクトデータベースのフォルダを参照し、開くソリューション (.sln) ファイルを見つけて選択します。デフォルトバージョンラベルが割り当てられているすべてのソリューションファイルが表示されます。デフォルトバージョンラベルが、任意のソリューションファイルの最新バージョンに割り当てられていない場合、ソリューションファイルは表示されません。
 - 8 <Workfile Location (作業ファイルの場所)> フィールドで、ローカルワークスペースの場所を入力するか、参照して選択します。これは、ソリューション内のファイルの作業コピーを格納するローカルの作業ディレクトリです。
 - 9 **【Next (次へ)】** をクリックします。ウィザードの [TeamTrack] ページが表示されます。
 - 10 <TeamTrack Server (TeamTrack サーバ)> フィールドに TeamTrack サーバ名を入力します。TeamTrack サーバがデフォルト以外のポート番号 (80 以外のポート) を使用している場合は、ポート番号をサーバ名の後に付加します。たとえば、ポート番号が 89 の場合は次のようになります。

```
tt_server:89
```
 - 11 TeamTrack のユーザ名とパスワードを入力します。
 - 12 **【Next (次へ)】** をクリックします。ウィザードの [Review (確認)] ページが表示されます。
 - 13 選択した内容を確認します。設定を変更するには、**【Back (戻る)】** ボタンをクリックします。作業が終了したら、**【Finish (終了)】** ボタンをクリックします。
 - 14 Web プロジェクトを含むソリューションを開く場合、Web サーバのルート URL に対応する物理ディレクトリの完全なパスを入力するよう求めるメッセージが表示されます。ここに Web プロジェクトの作業ファイルが保存されます。たとえば、ルート Web URL (http://localhost など) がディレクトリ c:\inetpub\wwwroot にマップされている場合、Web プロジェクトにディレクトリ c:\inetpub\wwwroot を選択します。

ソース管理から非 Web プロジェクトを開く

次の手順に従って、Version Manager から非 Web プロジェクトを開いたソリューションに追加します。Version Manager から新しいソリューションに 1 つの Web プロジェクトを開くこともできます。これについての詳細は、[379 ページの『ソース管理から Web プロジェクトを開く』](#)を参照してください。



重要！すでにソース管理下に置かれているソリューションに Version Manager からプロジェクトを追加する場合は、ソリューションを保存し、プロジェクトを追加してから Version Manager にソリューションをチェックインする必要があります。これにより、必ず新しいプロジェクトを含むソリューションのバージョンが Version Manager に保存され、すべてのユーザがこの更新を取得することができます。これを簡単に行うには、すべてのローカル変更を Version Manager にコミットします。[404 ページの『ローカル変更を Version Manager にコミット』](#)を参照してください。

次の方法で Version Manager から非 Web プロジェクトを開きます。

- 1 プロジェクトを追加するソリューションを開くか、作成します。
- 2 [File (ファイル)] - [Source Control (ソース管理)] - [Open Project from Source Control (ソース管理からプロジェクトを開く)] を選択します。(Open from Source Control (ソース管理から開く)) ウィザードが表示されます。
- 3 開くプロジェクトが含まれているプロジェクトデータベースを指定します。次のいずれかを行ってプロジェクトデータベースを指定します。
 - ルートプロジェクトデータベースディレクトリへのパスを入力するか、ドロップダウンリストから最新プロジェクトデータベースを選択します。
 - 【Browse for PDB (PDB の参照)】 ボタン () をクリックして、プロジェクトデータベースを参照します。この場合、ルート PDB ディレクトリの直下に配置されている任意の .ser ファイルを選択する必要があります。
 - 【Browse File Servers (ファイルサーバの参照)】 ボタン () をクリックして、Version Manager ファイルサーバ上のすべてのプロジェクトデータベースから選択します。ファイルサーバは、Version Manager デスクトップクライアントから定義する必要があります。Version Manager File Server が定義されていない場合は、このボタンを無視します。
- 4 Version Manager のユーザ名とパスワードを入力します。
- 5 【Next (次へ)】 をクリックします。ウィザードの [Workspace (ワークスペース)] ページが表示されます。
- 6 目的のワークスペースを選択します。次のことに注意してください。
 - 選択したワークスペースによって、ファイルのデフォルトバージョンラベルとプロモーショングループが決まります。デフォルトバージョンラベルが割り当てられているファイルのみが、ローカルワークスペースで開かれます。後に、ローカルワークスペースを Version Manager と同期するとき、追加するすべての新規ファイルにデフォルトバージョンラベルが割り当てられます。[357 ページの『ワークスペースの使用』](#)を参照してください。
 - ワークスペースの選択は、開くことができるプロジェクトファイルも決定します。デフォルトバージョンラベルが割り当てられているプロジェクトを開くことができます。たとえば、デフォルトバージョンラベルが branch である場合、branch バージョンラベルが割り当てられているプロジェクトファイルのみ開くことができます。
- 7 【Next (次へ)】 をクリックします。ウィザードの [Create Project (プロジェクトの作成)] ページが表示されます。

- 8 プロジェクトデータベースのフォルダを参照し、ローカルに開く特定のプロジェクトファイルを見つけて選択します。デフォルトバージョンラベルが割り当てられているすべてのプロジェクトファイルが表示されます。ワークスペースの選択によって決定されたデフォルトバージョンラベルが、任意のプロジェクトファイルの最新リビジョンに割り当てられていない場合、プロジェクトファイルは表示されません。
- 9 〈Workfile location (作業ファイルの場所)〉フィールドで、ローカルワークスペースの場所を指定します。これは、ソリューション内のファイルの作業コピーを格納するローカルの作業ディレクトリです。
- 10 Visual Studio で現在開いているソリューションにプロジェクトを追加するには、〈Add to Solution (ソリューションに追加)〉オプションを選択します。または、現在のソリューションを閉じてプロジェクト用に新しいソリューションを作成する場合は、〈Close Solution (ソリューションを閉じる)〉オプションを選択します。
- 11 【Next (次へ)】をクリックします。ウィザードの [TeamTrack] ページが表示されます。
- 12 〈TeamTrack Server (TeamTrack サーバ)〉フィールドに TeamTrack サーバ名を入力します。TeamTrack サーバがデフォルト以外のポート番号 (80 以外のポート) を使用している場合は、ポート番号をサーバ名の後に付加します。たとえば、ポート番号が 89 の場合は次のようになります。
`tt_server:89`
- 13 TeamTrack のユーザ名とパスワードを入力します。
- 14 【Next (次へ)】をクリックします。ウィザードの [Review (確認)] ページが表示されます。
- 15 選択した内容を確認します。設定を変更するには、【Back (戻る)】ボタンをクリックします。作業が終了したら、【Finish (終了)】ボタンをクリックします。
- 16 ファイルの作業を開始する前に次のことを行います。
 - a ソリューションを保存します。
 - b ソリューションを閉じて再度開きます。
 - c ソリューションがソース管理下にある場合、ソリューションも調べて同じソリューションを使用しているほかのユーザがプロジェクトを含むバージョンのソリューションを取得することを確認する必要があります。これを簡単に行うには、すべてのローカル変更を Version Manager にコミットします。404 ページの『ローカル変更を Version Manager にコミット』を参照してください。

ソース管理から Web プロジェクトを開く

次の手順に従って 1 つの Web プロジェクトを新しい空白のソリューションに開きます。一度にソリューション全体を開く方が簡単です。しかし、この手順では、ソリューション内のすべてのプロジェクトを操作したくない場合に特定の Web プロジェクトだけを開いて操作することができます。

ソース管理から Web プロジェクトを開くには、次の操作を行います。

- 1 [File (ファイル)] - [Open (開く)] - [Web Site (Web サイト)] を選択します。[Open Web Site (Web サイトを開く)] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 左側の表示部で 〈Source Control (ソース管理)〉を選択します。
- 3 【Select Source Control Project (ソース管理プロジェクトの選択)】ボタンをクリックします。〈Open Web Project from Source Control (ソース管理から Web プロジェクトを開く)〉ウィザードが表示されます。

- 4 ウィザードの [Create Project (プロジェクトの作成)] ページで次のように変更して、[376 ページの『ソース管理からソリューションを開く』](#)の手順を実行します。
 - フォルダツリーから特定の Web プロジェクトを選択します。ソリューションは選択しないでください。
 - 〈Workfile location (作業ファイルの場所)〉フィールドに、ルート IIS ディレクトリの下の新しいフォルダへのパスを入力します。たとえば、IIS サーバで MyWebApp という名前のプロジェクトのすべての Web ファイルを C:\Inetpub\wwwroot ディレクトリに保存する場合、参照して選択する完全なパスは
C:\Inetpub\wwwroot\MyWebApp です。
このフォルダの名前はプロジェクト名にちなんだ名前にすることを強くお勧めします。
- 5 ウィザードを完了します。ウィザードが完了すると、[Open Web Site (Web サイトを開く)] ダイアログボックスが再度表示されます。
- 6 Web プロジェクトを IIS Web サイトとして実行するには、〈Run as IIS web site (IIS Web サイトとして実行する)〉チェックボックスを選択します。デフォルトでは、Web プロジェクトはファイルベースの Web サイトとして実行されます。
- 7 【Open (開く)】 ボタンをクリックします。

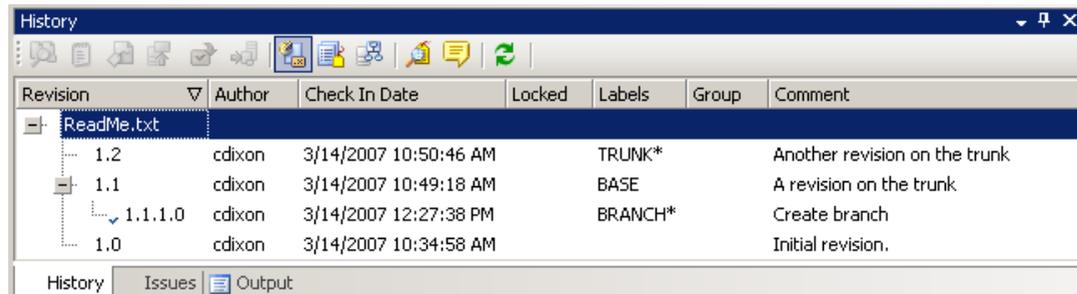
ファイルの編集

このセクションの手順を完了すると次のことができます。

- ファイル履歴の参照。[381 ページの『ファイル履歴の参照』](#)を参照してください。
- ファイルおよびフォルダの取得。[383 ページの『特定のファイルまたはフォルダの取得』](#)を参照してください。
- 特定のファイルまたはフォルダのチェックアウト。[384 ページの『ファイルのチェックアウト』](#)を参照してください。
- チェックアウトの取り消し。[386 ページの『チェックアウトの取り消し』](#)を参照してください。
- ファイルの編集。[387 ページの『ファイルの編集』](#)を参照してください。
- ローカル変更の確認。[387 ページの『ローカル変更の確認』](#)を参照してください。
- 特定のファイルのチェックイン。[388 ページの『ファイルのチェックイン』](#)を参照してください。
- ファイルのラベル付け。[392 ページの『リビジョンのラベル付け』](#)を参照してください。
- ファイルのプロモート。[395 ページの『リビジョンのプロモート』](#)を参照してください。

ファイル履歴の参照

ファイル履歴を参照してチェックイン日付とコメント、作者、割り当てられているバージョンラベルやプロモーショングループなどファイルのリビジョンに関する情報を表示します。



ファイル履歴の参照

次の方法でファイル履歴を参照します。

- 1 ソリューションエクスプローラでファイルを選択します。
- 2 右クリックして表示されるメニューで、[View History (履歴の表示)] を選択します。
[History (履歴)] ビューが表示されます。
- 3 [History (履歴)] ビューのツールバーでは、以下を行うことができます。



1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

アクションボタン

- 1 Compare Revisions (リビジョンの比較)：選択した 2 つのリビジョンを比較するか、ローカルファイルを Version Manager 内の最新のリビジョンと比較します。2 つのリビジョンを比較するには、CTRL を押しながら 2 つのリビジョンをクリックしてから、ボタンをクリックします。407 ページの『ファイルの比較』を参照してください。
- 2 View Selected Revision (選択したリビジョンの表示)：リビジョンを一時的な場所にコピーして Visual Studio で開きます。ファイルは、表示するだけで編集できません。
- 3 Assign Label (ラベルの割り当て)：選択したリビジョンに新しいバージョンラベルを割り当てます。392 ページの『最新リビジョンへのラベルの割り当て』を参照してください。
- 4 Promote to Next (次にプロモート)：選択したリビジョンを次のプロモーショングループにプロモートします。395 ページの『リビジョンのプロモート』を参照してください。
- 5 Check Out Selected Revision (選択したリビジョンのチェックアウト)：選択したリビジョンをチェックアウトします。384 ページの『ファイルのチェックアウト』を参照してください。
チップ以外のリビジョンをチェックアウトすると、チェックイン時にブランチが作成されます。366 ページの『ブランチの操作』を参照してください。
- 6 Get Selected Revision (選択したリビジョンの取得)：選択したリビジョンのコピーを取得します。その後それを操作し、実用的ロックモデルを使用する場合はチェックインすることができます。383 ページの『特定のファイルまたはフォルダの取得』を参照してください。

表示ボタン

- 7 Revision History (リビジョン履歴)：ファイルのすべてのリビジョンとブランチを一覧表示します。
- 8 Labels (ラベル)：ファイルのあるリビジョンに割り当てられている各バージョンラベルを一覧表示します。特定のラベル名をクリックしてそれを削除するか名前を変更できます。
- 9 Promotion Groups (プロモーショングループ)：ファイルのリビジョンに割り当てられている各プロモーショングループを一覧表示します。
- 10 Show Labels (ラベルの表示)：選択したリビジョンの複数のバージョンラベルを表示または非表示にします。
- 11 Show Comments (コメントの表示)：選択したリビジョンのチェックインコメント全体を表示または非表示にします。
- 12 Refresh (更新)：[History (履歴)] ビューを最新の情報に更新します。



ヒント リビジョンを右クリックすると、この機能のほとんどを使用できます。

特定のファイルまたはフォルダの取得

操作する必要があるファイルを取得してローカルワークスペースにコピーします。ファイルの最新のリビジョンを取得するか、特定のブランチから特定のリビジョンを取得することができます。

いったんファイルを取得したら、それを編集してチェックインできます（ただし、チェックアウトしないとファイルを編集できないように組織で定められている場合は例外です。357 ページの『[コラボレーティブプロセスの概要](#)』を参照してください）。ファイルのローカルコピーは、読み取り専用で設定されています。それらを編集する場合、それらを書き込み可能に設定するか、保存するときに既存のファイルを上書きするという Visual Studio の確認メッセージを受け入れる必要があります。



注 [Compare Workspaces (ワークスペースの比較)] ビューから、ファイルの新しいすべてのリビジョンおよび Version Manager プロジェクトの新しいファイルやほかの変更で、ローカルワークスペースを更新することができます。402 ページの『[Version Manager からすべての更新を取得](#)』を参照してください。

最新リビジョンの取得

すでにファイルのローカルコピーがある場合、必要に応じて、取得する最新のリビジョンを既存のローカルコピーとマージすることもできます。これにより、ローカルに行った変更が確実に保たれます。マージしようとした結果、競合が発生した場合は、取得は失敗します。競合を解決してから、ファイルを取得してください。408 ページの『[競合の確認と解決](#)』を参照してください。

次の方法でファイルの最新のリビジョンを取得します。

- 1 ソリューションエクスプローラで、取得するファイルまたはフォルダを選択します。
- 2 右クリックして表示されるメニューで、[Get Latest Revision (最新リビジョンの取得)] を選択します。[Get Latest (最新の取得)] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 ファイルの選択が正しいことを確認し、必要に応じて変更します。
- 4 ローカル作業ファイルを Version Manager の最新リビジョンと比較するには、ファイルを選択して、【Compare (比較)】 ボタンをクリックします。【Compare Revisions (リビジョンの比較)】 ウィンドウでファイルが開かれます。407 ページの『[ファイルの比較](#)』を参照してください。
- 5 デフォルトの取得オプションを変更するには、[Options (オプション)] タブを選択し、次のいずれかを行います。
 - 最新リビジョンが Version Manager にチェックインされた後でローカル作業ファイルが変更されている場合の処理を指定します。
 - Prompt (確認する) : ファイル単位で処理をユーザに確認します。
 - Merge (マージする) : Version Manager の最新リビジョンを、ローカル作業ファイルに自動的にマージします。競合する変更があると、取得は失敗します。競合を解決してから、ファイルを取得してください。408 ページの『[競合の確認と解決](#)』を参照してください。
 - Replace (置き換える) : ローカル作業ファイルを Version Manager の最新リビジョンで上書きします。
 - Leave (現状を維持する) : ローカル作業ファイルをそのまま保持します。

- Make writable (書き込み可能にする)：このチェックボックスを選択すると、作業ファイルが読み取り専用ではなく書き込み可能になります。



注 書き込み属性は、リビジョンが実際にリポジトリから取得された場合にのみ変更されません。ローカルファイルが最新リビジョンに一致するか、ローカルファイルは異なるが上記の〈Leave (現状を維持する)〉オプションを選択した場合、リビジョンは取得されません。

- Save settings (設定の保存)：このチェックボックスを選択すると、これらの設定が新しいデフォルトになります。



ヒント [Tools (ツール)] - [Options (オプション)] ダイアログボックスから、すべてのダイアログボックスのデフォルトオプションを定義することもできます。395 ページの『ダイアログボックスのデフォルトオプションの設定』を参照してください。

6 【Get (取得)】をクリックします。

選択したオプションによっては、変更された作業ファイルに対する処理、または自動マージの競合を解決するための処理の指定が求められる場合があります。

以前のリビジョンの取得または特定ブランチからの取得

ファイルの特定のリビジョンを取得するには、次の操作を行います。

- 1 ソリューションエクスプローラでファイルを選択します。
- 2 右クリックして表示されるメニューで、[View History (履歴の表示)] を選択します。
[History (履歴)] ビューが表示されます。
- 3 すべてのリビジョンとブランチを表示するには、【Revision History (リビジョン履歴)】ボタン () をクリックします。左側の列のチェックマークは、ローカルワークスペースに現在あるリビジョンを示します。
- 4 取得するリビジョンを右クリックし、表示されるメニューで、[Get Revision (リビジョンの取得)] を選択します。
- 5 取得するリビジョンよりローカル作業ファイルが新しい場合は、次のいずれかのオプションを選択して【OK】をクリックするよう求めるメッセージが表示されます。
 - Merge the workfile with the revision requested (要求されたリビジョンと作業ファイルをマージする)：Version Manager の選択したリビジョンを、ローカル作業ファイルに自動的にマージします。競合する変更があると、取得は失敗します。競合を解決してから、リビジョンを取得してください。408 ページの『競合の確認と解決』を参照してください。
 - Leave the workfile as is (作業ファイルの現状を維持する)：ローカル作業ファイルをそのまま保持します。
 - Overwrite the workfile with the requested revision (作業ファイルを要求したリビジョンで上書きする)：ローカル作業ファイルを Version Manager の選択したリビジョンで上書きします。

ファイルのチェックアウト

ファイルをチェックアウトして Version Manager 内で特定のファイルの最新のリビジョン (または特定のリビジョン) をロックし、そのファイルをローカルワークスペースにコピーします。ファイルをチェックアウトすると次のことが可能になります。

- ファイルの作業コピーが書き込み可能になり、編集して変更を保存することができます。

- 変更してチェックインするかチェックアウトを取り消すまでほかのユーザはファイルを変更することができません。これにより、そのファイルにほかのユーザが競合する変更を防ぎます。
- すでにファイルのローカルコピーがある場合、リポジトリリビジョンを必要に応じてローカルコピーとマージすることもできます。これにより、ローカルに行った変更が確実に保たれます。マージしようとした結果、競合が発生した場合は、チェックアウトは失敗します。競合を解決してから、ファイルをチェックアウトしてください。408 ページの『競合の確認と解決』を参照してください。
- チップ以外のリビジョン（特定のトランクまたはブランチで最新リビジョン以外のリビジョン）をロックした場合、そのリビジョンをチェックインすると、新しいブランチが作成されます。366 ページの『ブランチの操作』を参照してください。

ファイルをチェックアウトするには、次の操作を行います。

- 1 以下のいずれかを実行します。

チェックアウト対象	操作
デフォルトリビジョン (ワークスペースのデフォルトバージョン (ラベル) またはプロモーショングループで定義されたもの、またはトランクのチップ)	<ol style="list-style-type: none"> a ソリューションエクスプローラでプロジェクト、フォルダ、または個々のファイルを選択します。 b 右クリックして表示されるメニューで、[Check Out (チェックアウト)] を選択します。[Check Out (チェックアウト)] ダイアログボックスが表示されます。 c 手順 2 に進みます。
特定のリビジョン	<ol style="list-style-type: none"> a ソリューションエクスプローラで対象ファイルを選択します。 b 右クリックして表示されるメニューで、[History (履歴)] を選択します。[History (履歴)] ビューにはファイルの全バージョンのリストが表示されます。 [History (履歴)] ビューの青のチェックマークは、ローカルワークスペースに現在あるリビジョンを示します。 c リビジョンを探すため、必要に応じてノードをクリックし、ツリーのブランチを展開します。 d 対象リビジョンを右クリックし、表示されるメニューから [Check Out Revision (リビジョンのチェックアウト)] を選択します。 ソリューションエクスプローラでファイルの横に赤色チェックマークが表示され、[History (履歴)] ビューのリビジョンの横に青のチェックマークが表示されます。ファイルがチェックアウトされます。 e 作業が終了しました。残りの手順をスキップします。

- 2 ファイルの選択が正しいことを確認し、必要に応じて変更します。
- 3 ローカル作業ファイルを Version Manager の最新リビジョンと比較するには、ファイルを選択して、【Compare (比較)】ボタンをクリックします。[Compare Revisions (リビジョンの比較)] ウィンドウでファイルが開かれます。407 ページの『ファイルの比較』を参照してください。

- 4 デフォルトのチェックアウトオプションを変更するには、[Options (オプション)] タブを選択し、次のいずれかを行います。
 - 最新リビジョンが Version Manager にチェックインされた後でローカル作業ファイルが変更されている場合の処理を指定します。
 - Prompt (確認する)：ファイル単位で処理をユーザに確認します。
 - Merge (マージする)：Version Manager の最新リビジョンを、ローカル作業ファイルに自動的にマージします。競合する変更があると、チェックアウトは失敗します。競合を解決してから、ファイルをチェックアウトしてください。[408 ページの『競合の確認と解決』](#)を参照してください。
 - Replace (置き換える)：ローカル作業ファイルを Version Manager の最新リビジョンで上書きします。
 - Leave (現状を維持する)：ローカル作業ファイルをそのまま保持します。
 - Save settings (設定の保存)：このチェックボックスを選択すると、これらの設定が新しいデフォルトになります。



ヒント [Tools (ツール)] - [Options (オプション)] ダイアログボックスから、すべてのダイアログボックスのデフォルトオプションを定義することもできます。[395 ページの『ダイアログボックスのデフォルトオプションの設定』](#)を参照してください。

- 5 【Check Out (チェックアウト)】をクリックします。

選択したオプションによっては、変更された作業ファイルに対する処理、または自動マージの競合を解決するための処理の指定が求められる場合があります。

チェックアウトの取り消し

チェックアウトを取り消すと、ほかのユーザがそのファイルをチェックアウトできるようになります。ファイルのローカルコピーをチェックアウトする前の状態に戻すか、Version Manager の最新のリビジョンと置き換えるか、またはそのままにしておくかを選ぶことができます。

チェックアウトを取り消すには、次の操作を行います。

- 1 ソリューションエクスプローラから、次のいずれかを選択します。

選択	説明
プロジェクトまたはフォルダ	フォルダのプロジェクトに保存されているすべてのファイルのチェックアウトを取り消す。
個別ファイル	特定のファイルのチェックアウトを取り消す。

- 2 右クリックして表示されるメニューで、[Undo Checkout (チェックアウトの取り消し)] を選択します。[Undo Checkout (チェックアウトの取り消し)] ダイアログボックスが表示されます。



ヒント [File Status (ファイルステータス)] ビュー ([View (表示)] - [File Status (ファイルのステータス)]) でファイルを右クリックして、チェックアウトを取り消すこともできます。

- 3 ファイルの選択が正しいことを確認し、必要に応じて変更します。

- 4 ローカル作業ファイルを Version Manager の最新リビジョンと比較するには、ファイルを選択して、【Compare (比較)】ボタンをクリックします。【Compare Revisions (リビジョンの比較)】ウィンドウでファイルが開かれます。407 ページの『ファイルの比較』を参照してください。
- 5 デフォルトのチェックアウトの取り消しオプションを変更するには、【Options (オプション)】タブを選択し、次のいずれかを行います。
 - ファイルのロックが解除された後でローカル作業ファイルの処理を指定します。
 - Leave (現状を維持する)：ローカル作業ファイルをそのまま保持します。
 - Replace with latest (最新で置換)：Version Manager の最新リビジョンの読み取り専用コピーでローカル作業ファイルを上書きします。
 - Save settings (設定の保存)：このチェックボックスを選択すると、これらの設定が新しいデフォルトになります。



ヒント 【Tools (ツール)】 - 【Options (オプション)】ダイアログボックスから、すべてのダイアログボックスのデフォルトオプションを定義することもできます。395 ページの『ダイアログボックスのデフォルトオプションの設定』を参照してください。

- 6 【Undo Checkout (チェックアウトの取り消し)】をクリックします。

ファイルの編集

いったん操作するファイルを取得するかチェックアウトしたら、それを編集することができます。組織内のワークフローに応じて、ファイルを編集するために次のいずれかを行う必要があります。

- 悲観的ロック
 - 組織のワークフローが、ファイルを編集する前にチェックアウト (ロック) することを要求している場合、チェックアウトしたファイルはすでに書き込み可能で操作を開始することができます。ファイルをまだチェックアウトしていない場合、チェックアウトする必要があります。
- 楽観的ロック
 - 組織が、複数の開発者がファイルをロックせず同時に同じファイルを操作できる楽観的ロックモデルをサポートしている場合は、ファイルを編集する前にチェックアウトする必要はありません。単にそれらを取得するだけです。ただし、デフォルトでは、ファイルを取得しただけでは、ファイルのローカルコピーは書き込み可能になりません。ファイルを操作するには、次のいずれかを行う必要があります。
 - Version Manager からファイルを取得するときに、〈Make writable (書き込み可能にする)〉オプションを選択する。



注 書き込み属性は、リビジョンが実際にリポジトリから取得された場合にのみ変更されません。ローカルファイルが最新リビジョンに一致するか、ローカルファイルは異なるが〈Leave (現状を維持する)〉オプションを選択した場合、リビジョンは取得されません。

- Windows エクスプローラを使用して、ファイルを書き込み可能にする。
- Visual Studio で指定を求められたときに、既存のファイルの上書きを選択する。これは、変更を保存するときに行われます。

ローカル変更の確認

ローカル変更を確認して次のことを行います。

- ファイルのローカルコピーに対して行ったすべての変更の一覧および追加または削除したファイルを表示します。これは、ワークスペース内のファイルのステータスを簡単に確認する良い方法です。

- 最後にチェックインした後に変更したすべてのファイルを、すばやくチェックインします。392 ページの『すべてのローカル変更のチェックイン』を参照してください。

次の方法でローカルファイルステータスを表示します。

- 1 [View (表示)] - [File Status (ファイルのステータス)] を選択します。[File Status (ファイルステータス)] ビューが表示され、最後のチェックイン以降に変更または追加したすべてのファイルの一覧を表示します。
- 2 一覧に表示するファイルを変更するには、【Filter (フィルタ)】ボタンをクリックし、以下のオプションを選択または選択解除します。
 - Checked Out (チェックアウト済み)：現在チェックアウトされているファイルの一覧を表示します。
 - Locally Modified (ローカルで変更済み)：最後のチェックイン以降に変更したファイルの一覧を表示します。
 - New Files (新規ファイル)：最後のチェックイン以降に追加したファイルの一覧を表示します。



ヒント [File Status (ファイルステータス)] ビューから、変更をチェックインしてリビジョンを比較することもできます。392 ページの『すべてのローカル変更のチェックイン』および 407 ページの『ファイルの比較』を参照してください。

ファイルのチェックイン

目的 新しいリビジョンで行った変更を保存するためにファイルをチェックインします。ファイル編集するときすべてのファイルをチェックアウト (ロック) するようワークフローが要求している場合、ファイルをチェックインする前にロックする必要があります。それ以外の場合、最初にチェックアウトしているか否かにかかわらず、任意のローカルファイルをチェックインすることができます。

ファイルをチェックインすると、Version Manager ワークスペースがどのように設定され、チップ以外のリビジョンがチェックアウトされているかどうかに従って、新しいリビジョンが以下のいずれかの場所に作成されます。

この場合	これを行う
リビジョンがロックされておらず、さらにワークスペースにデフォルトバージョンが定義され、ファイルに適用されている。	新しいリビジョンは、デフォルトバージョンで定義されたブランチまたはトランクのチップとしてチェックインされます。
リビジョンがロックされておらず、さらにファイルにデフォルトバージョンが適用されていない。	新しいリビジョンはトランクのチップとしてチェックインされます。
1 つのリビジョンがロックされている。	新しいリビジョンは、ロックされたリビジョンを含むブランチまたはトランクのチップとしてチェックインされます。
複数のリビジョンがロックされている。	ロック解除するリビジョンの選択が求められます。新しいリビジョンは、ロック解除するブランチまたはトランクのチップとしてチェックインされます。
チップ以外のリビジョンがロックされている。	新しいリビジョンは、ロックされたリビジョンから分岐した新しいブランチのチップとしてチェックインされます。

ブランチの詳細については、366 ページの『ブランチの操作』を参照してください。

チェックインするには、次のいずれかを行います。

- 特定のファイルやフォルダを選択し、[Check In (チェックイン)] ダイアログボックスを完了します。この方法では、TeamTrack Issue の関連のカスタマイズを含むすべてのチェックインオプションを利用することができます。389 ページの『[Check In (チェックイン)] ダイアログボックスでのチェックイン』を参照してください。
- [File Status (ファイルステータス)] ビューからローカルに変更したファイルをチェックインして [Check In (チェックイン)] ダイアログボックスを省略します。この場合、チェックインのデフォルトの設定がすべて適用されます。こちらの方が簡単ですが柔軟性に欠けます。392 ページの『すべてのローカル変更のチェックイン』を参照してください。



重要! チェックインしても、そのような変更は、名前が変更されたり移動されたりしたファイルとして同期されません。これを行うには、すべての変更を Version Manager にコミットする (404 ページの『ローカル変更を Version Manager にコミット』を参照) か、ワークスペースを対応する Version Manager ワークスペースと同期します。

チェックインとマージ

ローカルワークスペースを最新のリリースで最後に更新してからほかのユーザがファイルの変更をチェックインしている場合、デフォルトで、変更は最新のリリースに自動的にマージされます。これにより変更が失われるのを防ぎます。変更が、ほかのユーザがチェックインした変更内容と競合する場合は、チェックインする前に競合を解消する必要があります。[Compare Workspaces (ワークスペースの比較)] ビューは、Version Manager 内のファイルと競合するすべてのファイルを表示してこの処理を簡素化します。408 ページの『競合の確認と解決』を参照してください。

[Check In (チェックイン)] ダイアログボックスでのチェックイン

次の方法で [Check In (チェックイン)] ダイアログボックスを使用して特定のファイルやフォルダをチェックインします。

- 1 プロジェクトやソリューションファイルを含めてチェックインするすべてのファイルを保存します。
- 2 ソリューションエクスプローラで、チェックインするファイルまたはフォルダを選択します。



注 チップ以外のリリース (特定のトランクまたはブランチで最新リリース以外のリリース) をロックした場合、そのリリースをチェックインすると、新しいブランチが作成されます。366 ページの『ブランチの操作』を参照してください。

- 3 右クリックして表示されるメニューで、[Check In (チェックイン)] を選択します。[Check In (チェックイン)] ダイアログボックスが表示されます。
- 4 ファイルの選択が正しいことを確認し、必要に応じて変更します。
- 5 変更内容の説明を (Description (コメント)) フィールドに入力します。



ヒント ファイルごとに個別の説明を順次入力するには、[Options (オプション)] タブの (Use description for all (この説明をすべてのファイルに適用)) チェックボックスの選択を解除します。

- 現在有効な TeamTrack Issue の一覧が表示されます。デフォルトでは、これらの Issue は、チェックインするファイルに関連付けられます。チェックインするファイルと関連付けたくない Issue は、選択を解除してください。



注 デフォルトでは、チェックイン時にファイルに関連付ける Issue はすべて選択解除されます。これらの Issue は、有効な Issue のリストに表示されなくなります。有効な Issue のリストに Issue を残す場合は、〈Deactivate selected issues after checkin (チェックイン後に選択した Issue を選択解除)〉チェックボックスを選択解除します。

TeamTrack Issue の関連付けとセットアップの詳細は、[411 ページの『TeamTrack Issue の関連付けと操作』](#)を参照してください。

- チェックインオプションを変更するには、[Options (オプション)] タブをクリックし、以下のいずれかを更新します。

オプション	説明
Newer file is checked in (新しいファイルをチェックインする)	最後にファイルを取得した後に、ファイルの新しいリビジョンが Version Manager にチェックインされた場合の処理を選択します。以下のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> Merge (マージする)：変更を Version Manager 内の最新リビジョンにマージします。ファイルをマージしようとした結果、競合が発生した場合は、チェックインを完了する前に競合を解決する必要があります。408 ページの『競合の確認と解決』を参照してください。 Leave (現状を維持する)：ファイルをチェックインしません。ファイルのロックが解除されます。 Force check in (強制的にチェックインする)：ファイルをチェックインし、作業ファイルだけを基にして新しいリビジョンを作成します。
If file is unchanged (ファイルが変更されていない場合)	ローカル作業ファイルが Version Manager の最新リビジョンと同じである場合の処理を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> Prompt (確認する)：未変更の作業ファイルごとに順次処理を選択できるメッセージを表示します。 Check in (チェックインする)：未変更の作業ファイルを新しいリビジョンとしてチェックインします。 Leave (現状を維持する)：未変更の作業ファイルをチェックインしません。新しいリビジョンは作成されません。ファイルのロックが解除されます。
Use description for all (この説明をすべてのファイルに適用)	〈Description (コメント)〉フィールドの説明をすべてのファイルに適用する場合に選択します。ファイルごとに固有の説明を順次入力する場合は、選択を解除します。
Keep checked out (チェックアウト状態を保持)	チェックイン操作が完了した後で、現在ロックされているファイルをロックしたままにする場合に選択します。
Update after keyword expansion (キーワード展開後に更新)	このオプションは、チェックイン中に展開される Version Manager キーワードがチェックインするファイルに含まれる場合のみ適用されます。選択すると、キーワードが展開された後で、最新リビジョンがローカルワークスペースにコピーされます。

オプション	説明
Promote (プロモート)	<p>選択すると、プロモーション階層内の次のグループに新規リビジョンがプロモートされます。</p> <p>重要! チェックイン中に、同時に複数のファイルをロックしたまま、新規リビジョンをプロモートすることはできません。ロックされたリビジョンはプロモートできないためです。新規リビジョンをプロモートする場合は、ファイルはロックしないようにしてください。</p>
Force branch (強制的にブランチさせる)	<p>ファイルのアーカイブに新しいブランチを構成的に作成する場合に選択します。新しいブランチは、デフォルトラベルで定義されているブランチに作成されます。デフォルトラベルがない場合、通常デフォルトブランチは、リビジョンがチェックアウトされたトランクまたはブランチのチップになります。</p> <p>ブランチの詳細については、366 ページの『ブランチの操作』を参照してください。</p>
Label: Name (ラベル: 名前)	<p>新規リビジョンに割り当てるバージョンラベルを入力します。ラベルには 254 文字まで入力できます。コロン (:), 二重引用符 ("), プラス記号 (+), またはマイナス記号 (-) は使用できません。</p>
Label: If label exists (ラベル: ラベルが存在する場合)	<p>新規リビジョンに割り当てるラベルが同じファイルの別のリビジョンにすでに割り当てられている場合の処理を選択します。以下のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Prompt (確認する): ファイルごとに順次処理を選択できるメッセージを表示します。 ■ Reassign (再度割り当てる): 新規リビジョンにラベルを移動します。 ■ Leave (現状を維持する): ラベルの割り当てを現状のままにします。新規リビジョンに移動しません。
Float with tip (チップとともに移動)	<p>ラベルをファイルの最新 (チップ) リビジョンと常に関連付ける場合に選択します。浮動ラベルは、将来のチェックインの際に最新のリビジョンに自動的に再度割り当てられます。</p>
Save settings (設定の保存)	<p>選択すると、これらの設定が新しいデフォルトになります。</p> <p>ヒント: [Tools (ツール)] - [Options (オプション)] ダイアログから、すべてのダイアログボックスのデフォルトオプションを定義することもできます。395 ページの『ダイアログボックスのデフォルトオプションの設定』を参照してください。</p>
Deactivate selected issues after check in (チェックイン後に選択した Issue を選択解除)	<p>選択すると、チェックイン時にファイルに関連付ける Issue はすべて選択解除されます。これらの Issue は、有効な Issue のリストに表示されなくなります。有効な Issue のリストに Issue を残す場合は、このチェックボックスの選択を解除します。</p> <p>注: この設定は、〈Save Settings (設定の保存)〉オプションとは別に保持されます。</p>

8 【Check In (チェックイン)】をクリックします。

選択したオプションによっては、既存のラベル、未変更の作業ファイル、リポジトリ内の新しいリビジョンに対する処理、または自動マージの競合を解決するための処理の指定が求められる場合があります。



注 ファイルの複数のリビジョンがロックされている場合、ロック解除するリビジョンの選択が求められます。

すべてのローカル変更のチェックイン

次の方法ですべてのローカル変更を簡単にチェックインできます。

- 1 [View (表示)] - [File Status (ファイルのステータス)] を選択します。[File Status (ファイルステータス)] ビューが表示され、最後のチェックイン以降に変更または追加したすべてのファイルの一覧を表示します。
- 2 ファイルへの変更内容のコメントを入力するには、【Comments (コメント)】 ボタンをクリックして、<Comments (コメント)> フィールドを展開します。



ヒント ファイルごとに個別の説明を入力するには、<Comments (コメント)> フィールドを空白のままにします。ファイルごとに順次、[Comments (コメント)] ダイアログボックスが表示されます。

- 3 ファイルの選択が正しいことを確認し、必要に応じて変更します。
- 4 【Check In (チェックイン)】 をクリックします。



注 チェックインに TeamTrack Issue の関連付けが必要で、現在有効な Issue がある場合、ファイルはそれらの Issue と関連付けられます。現在有効な Issue がない場合、チェックイン前に Issue を有効にする必要があります。411 ページの『TeamTrack Issue の関連付けと操作』を参照してください。

リビジョンのラベル付け

バージョンラベルは、特定のリリースで使用したリビジョンや特定の変更を含むリビジョンを示すために使用することができます。たとえば、必ずファイルの最新のリビジョンだけを検索するよう、ビルドスクリプトから検索できる浮動ラベル (常にファイルの最新のリビジョンに移動するラベル) を割り当てることができます。以下の操作を実行できます。

- ラベルの割り当て：392 ページの『最新リビジョンへのラベルの割り当て』と 393 ページの『以前のリビジョンへのラベルの割り当て』を参照してください。
- ラベルの名前変更：394 ページの『ラベル名の変更』を参照してください。
- ラベルの削除：394 ページの『ラベルの削除』を参照してください。

最新リビジョンへのラベルの割り当て

ファイルの最新リビジョンまたは選択したファイルにラベルを付けるには、次の操作を行います。

- 1 ラベルを付けるファイルを選択します。フォルダ内のすべてのファイルにラベルを付けるにはフォルダを選択します。
- 2 右クリックして表示されるメニューで、[Label (ラベル)] を選択します。[Assign Label (ラベルの割り当て)] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 ファイルの選択が正しいことを確認し、必要に応じて変更します。
- 4 ローカル作業ファイルを Version Manager の最新リビジョンと比較するには、ファイルを選択して、【Compare (比較)】 ボタンをクリックします。[Compare Revisions (リビジョンの比較)] ウィンドウでファイルが開かれます。407 ページの『ファイルの比較』を参照してください。
- 5 <Label (ラベル)> フィールドにラベルを入力します。ラベルには 254 文字まで入力できます。コロン (:), 二重引用符 ("), プラス記号 (+), またはマイナス記号 (-) は使用できません。

- 6 デフォルトのラベルオプションを変更するには、[Options (オプション)] タブを選択し、次のいずれかを行います。
 - 割り当てるラベルが同じファイルの別のリビジョンにすでに割り当てられている場合の処理を選択します。以下のいずれかを選択します。
 - Prompt (確認する)：ファイルごとに順次処理を選択できるメッセージを表示します。
 - Reassign (再度割り当てる)：最新リビジョンにラベルを移動します。
 - Leave (現状を維持する)：ラベルの割り当てを現状のままにします。最新リビジョンに移動しません。
 - Float label (浮動ラベル)：ラベルをファイルの最新 (チップ) リビジョンと常に関連付ける場合にこのチェックボックスを選択します。浮動ラベルは、将来のチェックインの際に最新のリビジョンに自動的に再度割り当てられます。
 - Save settings (設定の保存)：このチェックボックスを選択すると、これらの設定が新しいデフォルトになります。



ヒント [Tools (ツール)] - [Options (オプション)] ダイアログボックスから、すべてのダイアログボックスのデフォルトオプションを定義することもできます。[395 ページの『ダイアログボックスのデフォルトオプションの設定』](#)を参照してください。

- 7 [Assign Label (ラベルの割り当て)] ボタンをクリックします。

以前のリビジョンへのラベルの割り当て

特定のファイルの以前のリビジョンにラベルを付けるには、次の操作を行います。

- 1 ラベルを付けるファイルを選択します。
- 2 右クリックして表示されるメニューで、[View History (履歴の表示)] を選択します。[History (履歴)] ビューが表示されます。
- 3 取得するリビジョンを右クリックし、表示されるメニューから [Assign Label (ラベルの割り当て)] を選択します。[Assign Label (ラベルの割り当て)] ダイアログボックスが表示されます。
- 4 ローカル作業ファイルを Version Manager の最新リビジョンと比較するには、ファイルを選択して、[Compare (比較)] ボタンをクリックします。[Compare Revisions (リビジョンの比較)] ウィンドウでファイルが開かれます。[407 ページの『ファイルの比較』](#)を参照してください。
- 5 <Label (ラベル)> フィールドにラベルを入力します。ラベルには 254 文字まで入力できます。コロン (:)、二重引用符 (")、プラス記号 (+)、またはマイナス記号 (-) は使用できません。
- 6 デフォルトのラベルオプションを変更するには、[Options (オプション)] タブを選択し、次のいずれかを行います。
 - 割り当てるラベルが同じファイルの別のリビジョンにすでに割り当てられている場合の処理を選択します。以下のいずれかを選択します。
 - Prompt (確認する)：処理を選択できるダイアログボックスを表示します。
 - Reassign (再度割り当てる)：選択したリビジョンにラベルを移動します。
 - Leave (現状を維持する)：ラベルの割り当てを現状のままにします。選択したリビジョンに移動しません。
 - Float label (浮動ラベル)：ラベルをファイルの最新 (チップ) リビジョンと常に関連付ける場合にこのチェックボックスを選択します。浮動ラベルは、将来のチェックインの際に最新のリビジョンに自動的に再度割り当てられます。

- Save settings (設定の保存)：このチェックボックスを選択すると、これらの設定が新しいデフォルトになります。



ヒント [Tools (ツール)] - [Options (オプション)] ダイアログボックスから、すべてのダイアログボックスのデフォルトオプションを定義することもできます。395 ページの『ダイアログボックスのデフォルトオプションの設定』を参照してください。

7 【Assign Label (ラベルの割り当て)】 ボタンをクリックします。

ラベル名の変更

Visual Studio からは、特定のファイルの特定のリビジョンに割り当てられているラベルの名前を変更できます。



注 複数のファイルのラベル名を変更するには、Version Manager デスクトップクライアントを使用します。

次の方法でラベルの名前を変更します。

- 1 変更するラベルを含むファイルを選択します。
- 2 右クリックして表示されるメニューで、[View History (履歴の表示)] を選択します。
[History (履歴)] ビューが表示されます。
- 3 【Label (ラベル)】 ボタン () をクリックして、ファイルのリビジョンに割り当てられているすべてのバージョンラベルを表示します。
- 4 名前を変更するラベルをクリックし、新しいテキストを入力して、ENTER キーを押します。

ラベルの削除

Visual Studio からは、特定のファイルの特定のリビジョンに割り当てられているラベルの名前を削除できます。



注 複数のファイルのラベル名を削除するには、Version Manager デスクトップクライアントを使用します。

次の方法でラベルを削除します。

- 1 削除するラベルを含むファイルを選択します。
- 2 右クリックして表示されるメニューで、[View History (履歴の表示)] を選択します。
[History (履歴)] ビューが表示されます。
- 3 【Label (ラベル)】 ボタン () をクリックして、ファイルのリビジョンに割り当てられているすべてのバージョンラベルを表示します。
- 4 削除するラベルを右クリックし、表示されるメニューで、[Delete Label (ラベルの削除)] を選択します。

リビジョンのプロモート

リビジョンをプロモートしてプロモーションモデル内の次のプロモーショングループに関連付けます。たとえば、プロモーションモデルの次のグループの名前が test で、テストの準備ができていてファイルを識別するために使われるとします。このとき、コンポーネントをテスト用に準備するリビジョンをチェックインする場合、そのリビジョンをプロモートして test グループを割り当てます。

リビジョンのプロモート

次の方法で特定のファイルの特定のバージョンをプロモートします。

- 1 プロモートするファイルを選択します。
- 2 右クリックして表示されるメニューで、[View History (履歴の表示)] を選択します。[History (履歴)] ビューが表示されます。
- 3 プロモートするリビジョンを右クリックして、表示されるメニューから [Promote to Next (次にプロモート)] を選択します。



ヒント チェックイン中にファイルをプロモートできます。[388 ページの『ファイルのチェックイン』](#)を参照してください。

ダイアログボックスのデフォルトオプションの設定

デフォルトオプションを設定してダイアログボックスのデフォルトの設定と動作を定義します。



注 [File Status (ファイルステータス)] ビューからのチェックインなどのサイレント操作でも、これらのデフォルトが使用されます。

次の方法でダイアログボックスのデフォルトオプションを設定します。

- 1 [Tools (ツール)] - [Options (オプション)] を選択します。[Options (フォルダオプション)] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 左側のツリーで、[Source Control (ソース管理)] - [Commands (コマンド)] を選択します。

3 以下のデフォルトオプションを設定します。

カテゴリ	オプション
<p>Label (ラベル) (これらのオプションを表示するには、〈Check In (チェックイン)〉グループで【Label (ラベル)】ボタンをクリックします)</p> <p>デフォルトは、バージョンラベルを割り当てるたびに適用されます。392 ページの『リビジョンのラベル付け』を参照してください。</p>	<p>If label exists (ラベルが存在する場合) 割り当てるラベルが同じファイルの別のリビジョンにすでに割り当てられている場合の処理を選択します。以下のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Prompt (確認する)：ファイルごとに順次処理を選択できるメッセージを表示します。 ■ Reassign (再度割り当てる)：新規リビジョンにラベルを移動します。 ■ Leave (現状を維持する)：ラベルの割り当てを現状のままにします。新規リビジョンに移動しません。
	<p>Float with tip (チップとともに移動) ラベルをファイルの最新 (チップ) リビジョンと常に関連付ける場合に選択します。浮動ラベルは、将来のチェックインの際に最新のリビジョンに自動的に再度割り当てられます。</p>
	<p>Name (名前) デフォルトで割り当てるバージョンラベルを入力します。ラベルには 254 文字まで入力できます。コロン (:)、二重引用符 (")、プラス記号 (+)、またはマイナス記号 (-) は使用できません。</p>

カテゴリ	オプション
<p>Check in (チェックイン) デフォルトは、ファイルをチェックインするたびに適用されます。388 ページの『ファイルのチェックイン』を参照してください。</p>	<p>If newer is checked in (新しいリビジョンがチェックインされた場合) 最後にファイルを取得した後に、ファイルの新しいリビジョンが Version Manager にチェックインされた場合の処理を選択します。以下のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Merge (マージする)：変更を Version Manager 内の最新リビジョンにマージします。ファイルをマージしようとした結果、競合が発生した場合は、チェックインを完了する前に競合を解決する必要があります。408 ページの『競合の確認と解決』を参照してください。 ■ Leave (現状を維持する)：ファイルをチェックインしません。ファイルのロックが解除されます。 ■ Force check in (強制的にチェックインする)：ファイルをチェックインし、作業ファイルだけを基にして新しいリビジョンを作成します。
	<p>If file is unchanged (ファイルが変更されていない場合) ローカル作業ファイルが Version Manager の最新リビジョンと同じである場合の処理を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Prompt (確認する)：未変更の作業ファイルごとに順次処理を選択できるメッセージを表示します。 ■ Check in (チェックインする)：未変更の作業ファイルを新しいリビジョンとしてチェックインします。 ■ Leave (現状を維持する)：未変更の作業ファイルをチェックインしません。新しいリビジョンは作成されません。ファイルのロックが解除されます。
	<p>Use description for all (この説明をすべてのファイルに適用) (Description (コメント)) フィールドの説明をすべてのファイルに適用する場合に選択します。ファイルごとに固有の説明を順次入力する場合は、選択を解除します。</p>
	<p>Keep checked out (チェックアウト状態を保持) チェックイン操作が完了した後で、現在ロックされているファイルをロックしたままにする場合に選択します。</p>
	<p>Update after keyword expansion (キーワード展開後に更新) このオプションは、チェックイン中に展開される Version Manager キーワードがチェックインするファイルに含まれる場合にのみ適用されます。 選択すると、キーワードが展開された後で、最新リビジョンがローカルワークスペースにコピーされます。</p>
	<p>Promote (プロモート) 選択すると、プロモーション階層内の次のグループに新規リビジョンがプロモートされます。</p> <p>重要! チェックイン中に、同時に複数のファイルをロックしたまま、新規リビジョンをプロモートすることはできません。ロックされたリビジョンはプロモートできないためです。新規リビジョンをプロモートする場合は、ファイルはロックしないようにしてください。</p>

カテゴリ	オプション
<p>Get latest (最新の取得) デフォルトは、ファイルを取得するたびに適用されます。383 ページの『特定のファイルまたはフォルダの取得』を参照してください。</p>	<p>If file has changed (ファイルが変更された場合) 最新リビジョンが Version Manager にチェックインされた後でローカル作業ファイルが変更されている場合の処理を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Prompt (確認する)：ファイル単位で処理をユーザに確認します。 ■ Merge (マージする)：Version Manager の最新リビジョンを、ローカル作業ファイルに自動的にマージします。競合する変更があると、取得は失敗します。競合を解決してから、ファイルを取得してください。408 ページの『競合の確認と解決』を参照してください。 ■ Replace (置き換える)：ローカル作業ファイルを Version Manager の最新リビジョンで上書きします。 ■ Leave (現状を維持する)：ローカル作業ファイルをそのまま保持します。 <hr/> <p>Make writable (書き込み可能にする) このチェックボックスを選択すると、作業ファイルが読み取り専用ではなく書き込み可能になります。</p>
<p>Check out (チェックアウト) デフォルトは、ファイルをチェックアウトするたびに適用されます。384 ページの『ファイルのチェックアウト』を参照してください。</p>	<p>If file has changed (ファイルが変更された場合) 最新リビジョンが Version Manager にチェックインされた後でローカル作業ファイルが変更されている場合の処理を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Prompt (確認する)：ファイル単位で処理をユーザに確認します。 ■ Merge (マージする)：Version Manager の最新リビジョンを、ローカル作業ファイルに自動的にマージします。競合する変更があると、取得は失敗します。競合を解決してから、ファイルを取得してください。408 ページの『競合の確認と解決』を参照してください。 ■ Replace (置き換える)：ローカル作業ファイルを Version Manager の最新リビジョンで上書きします。 ■ Leave (現状を維持する)：ローカル作業ファイルをそのまま保持します。
<p>Undo checkout (チェックアウトの取り消し) デフォルトは、チェックアウトを取り消すたびに適用されます。386 ページの『チェックアウトの取り消し』を参照してください。</p>	<p>After file is unlocked (ファイルのロック解除後) ファイルのロックが解除された後でローカル作業ファイルの処理を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Leave (現状を維持する)：ローカル作業ファイルをそのまま保持します。 ■ Replace with latest (最新で置換)：Version Manager の最新リビジョンの読み取り専用コピーでローカル作業ファイルを上書きします。

4 【OK】をクリックします。



ヒント ダイアログボックスの [Options (オプション)] タブの (Save Settings (設定の保存)) チェックボックスを選択すると、ダイアログボックスの現在の設定をデフォルトとして保存できます。

エンコーディングと表示オプションの設定

以下のことを定義するには、比較ツールとマージツールに対してエンコーディングと表示オプションを設定します。

- 各種の相違点（変更、削除、競合など）のマークアップを含むファイル比較時のテキストの表示方法。
- ファイル比較時のテキストのエンコード方法。
- 行番号を表示するかどうか。
- タブを置き換えるスペースの数。
- 競合を解決するとき、競合ファイルと同時に元のファイルを表示するかどうか。

次の方法でファイル比較のエンコーディングと表示オプションを設定します。

- 1 [Tools (ツール)] – [Options (オプション)] を選択します。[Options (オプション)] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 左側のツリーで、[Source Control (ソース管理)] – [Compare and Merge (比較してマージ)] を選択します。
- 3 以下のように、一般設定を行います。

オプション	説明
Show ancestor (元ファイルを表示)	競合を解決するとき常に元ファイル（または「オリジナル」）リビジョン表示部を表示するときに選択します。
Syntax highlighting (構文の強調表示)	ファイル比較時にキーワードを強調表示するときに選択します。以下のタイプのファイルで構文を強調表示できます。 CSharp、CPP、Java、Visual Basic、HTML、XML、Java Script、VB Script、CSS、SQL、Python、.ini
Tab size (タブサイズ)	タブを構成するスペースの数を入力します。
Line numbers (行番号)	ファイル比較時に行番号を表示する場合に選択します。

- 4 〈Encoding (エンコーディング)〉 オプションでは次の中から選びます。
 - UTF-8 : 8 ビットユニコード
 - UTF-16 : 16 ビットユニコード (「ユニコード」は一般的にこのエンコーディングを意味します)
 - UTF-16BE : Big-endian ユニコード
 - ASCII : 7 ビット文字
 - UTF-7 または high-ASCII : 一般的に電子メールで使われる可変長エンコーディング
- 5 〈Display (表示)〉 オプションでは、【Font (フォント)】、【Text Color (テキスト色)】、または【Background (背景)】 ボタンをクリックして、ファイル比較時のテキストの表示方法を変更することができます。〈Text (テキスト)〉ボックスでテキストのスタイルを確認することができます。

- 6 また、〈Display (表示)〉オプションでは、相違のタイプを選択して【Custom (カスタム)】ボタンをクリックし、特定の相違のタイプのマークアップをカスタマイズすることもできます。変更、削除、挿入、および移動のテキストスタイルと強調表示をカスタマイズすることができます。競合とフィルタのテキスト色をカスタマイズすることができます。

たとえば、デフォルトで削除は赤の打ち消し文字でマークアップされます。これを変更するには、〈Delete (削除)〉を選択し、【Custom (カスタム)】をクリックして、表示されるダイアログボックスで新しいテキストプロパティを選択します。

- 7 【OK】をクリックします。

ワークスペースの比較と同期化

ワークスペースを同期して、ローカルワークスペースでファイルに加えた変更をチェックインし、ほかのユーザが Version Manager にチェックインした変更でローカルワークスペースを更新します。ワークスペースの同期化には次の手順が含まれます。

- ローカルワークスペースを対応する Version Manager プロジェクトと比較して最後の同期以降の変更を調べます。401 ページの『ワークスペースの比較』を参照してください。
- ローカルファイルのすべての変更をコミットして変更を Version Manager にチェックインします。404 ページの『ローカル変更を Version Manager にコミット』を参照してください。
- Version Manager 内のファイルの更新でローカルワークスペースを更新します。402 ページの『Version Manager からすべての更新を取得』を参照してください。
- ワークスペースを同期して一度にすべてのローカル変更を Version Manager にコミットするとともに、ローカルワークスペースを Version Manager の変更で更新します。405 ページの『ワークスペースの同期化』を参照してください。

マージ処理

ファイルはチェックインするとき、およびワークスペースを同期するときにマージすることができます。複数のユーザが共有ファイルをチェックアウトせずに変更した場合、それぞれの変更はワークスペースを同期するときマージされます。たとえば、開発者 1 と開発者 2 の 2 人とも Queries.cs を最初にチェックアウトせずにローカルワークスペースに取得するとします。開発者 1 が変更を含む新しいリビジョンをチェックインします。次に開発者 2 も変更をチェックインします。この時点で、開発者 2 が行った変更は、開発者 1 がチェックインしたファイルのリビジョンにマージされます。競合が発生する場合、開発者 2 はチェックインを完了する前にそれを解決する必要があります。

リファクタリングに関する重要事項

同期すると、ローカルワークスペースは別の Visual Studio 環境で削除、移動、名前変更、または追加されたファイルで自動的に更新されます。ただし、Version Manager クライアント（デスクトップ、Web、またはコマンドラインクライアントなど）からファイルを追加、移動、名前変更、または削除した場合、Visual Studio ソリューションまたはプロジェクトはすべての変更で自動的に更新されるわけではありません。したがって、任意の Visual Studio プロジェクト内のファイルの追加、移動、削除、または名前変更は、Visual Studio 内で済ませることを推奨します。これにより Visual Studio ソリューションとプロジェクト情報が更新され、変更が Visual Studio 内で利用できるようになります。



重要！特定の CAB プロジェクトまたは C++ プロジェクトのすべてのファイルは、Visual Studio プロジェクトのルートディレクトリの下に存在している必要があります。ある C++ プロジェクトのファイルを切り取って、Visual Studio の内部にある別のプロジェクトに貼り付けると、この要件に違反します。

他の Version Manager インターフェイスからファイルを追加、名前変更、削除、または移動した場合、次の手順に従ってローカルワークスペースを調整して変更を反映する必要があります。

- 1 ワークスペースを同期します。これにより、作業ディレクトリがすべての変更で更新されます。たとえば、Version Manager でファイルの名前を変更した場合、古い名前のファイルが新しい名前のファイルで置き換えられます。Version Manager で削除したファイルは、作業ディレクトリから削除されます。
- 2 ソリューションエクスプローラで、不在のファイルの参照を削除します。これには、名前を変更したり移動したりしたファイルも含まれます。Visual Studio ソリューションやプロジェクトは変更を認識しないため、ファイルは名前が変更されたり移動されたりせず、単に不在と見なされます。
- 3 名前を変更したり、移動したり、追加したりしたファイルを追加します。これらのファイルはすべて、同期時に物理作業ディレクトリに配置されています。Visual Studio のソリューションやプロジェクトによって確実に認識されるよう、これらをソリューションやプロジェクトに追加する必要があります。これらは、必ずワークスペースディレクトリ内の場所に対応するプロジェクト内の場所に追加します。
- 4 再度ワークスペースと Version Manager を同期します。これにより、ソリューションまたはプロジェクトがすべての変更とともに確実に Version Manager にチェックインされます。これで他の開発者は、移動、名前変更、追加、および削除されたファイルで更新されたソリューションまたはプロジェクトを取得することができます。

ワークスペースの比較

ローカルワークスペースを対応する Version Manager プロジェクトと比較して最後の同期以降の変更を調べます。いったんこれを行うと、すべての変更を更新してコミットするためにローカル変更を Version Manager にコミットする（[404 ページの『ローカル変更を Version Manager にコミット』](#)）、ローカルワークスペースを更新する（[402 ページの『Version Manager からすべての更新を取得』](#)）、またはワークスペースを同期する（[405 ページの『ワークスペースの同期化』](#)）必要があるか調べることができます。また、ファイルの異なるリビジョン間で競合する変更を解決する必要があるかを調べることもできます。



重要！ソース管理下のプロジェクトだけを比較できます。ただし、ソリューションはソース管理下になくてもかまいません。これにより、ソリューション構造の外部にプロジェクトを配置できます。

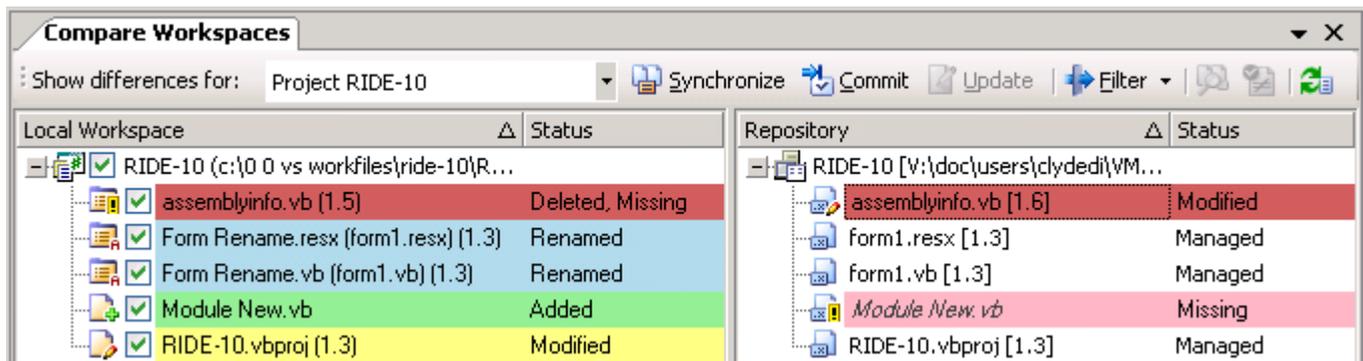
可能性のある変更には次のものがあります。

- ローカルワークスペースまたは Version Manager に新しいファイルが追加されている。
- ローカルワークスペース内でファイルが変更されている。
- ファイルの新しいリビジョンが Version Manager にチェックインされている。
- ワークスペースまたは Version Manager 内でファイルが削除、移動、または名前変更されている。

次の方法でワークスペースを比較します。

- 1 必ずソリューションおよびプロジェクトファイルを含めてローカルに変更したすべてのファイルを保存します。
- 2 [File (ファイル)] - [Source Control (ソース管理)] - [Compare Workspaces (ワークスペースの比較)] を選択します。[Compare Workspace (ワークスペースの比較)] ビューが表示されます。

デフォルトで、左側の Local Workspace の下にローカルワークスペースの内容が表示されます。右側の Repository の下に Version Manager プロジェクトの内容が表示されます。



- 3 表示を特定の種類の变更に限定するには、【Filter (フィルタ)】ボタンをクリックし、次のいずれかのフィルタリングオプションを選択します。
 - ローカルファイルの变更の表示 / 非表示を切り替えるには、〈Outgoing (送信)〉を選択 / 選択解除します。
 - Version Manager ファイルの变更の表示 / 非表示を切り替えるには、〈Incoming (受信)〉を選択 / 選択解除します。
 - ローカルワークスペースと Version Manager 内のファイルとの間の競合の表示 / 非表示を切り替えるには、〈Conflicts (競合)〉を選択 / 選択解除します。
- 4 Merge ツールで競合を開くには、競合を選択し、【Resolve conflicts (競合の解決)】ボタン (🔄) をクリックします。408 ページの『競合の確認と解決』を参照してください。

Version Manager からすべての更新を取得

Version Manager からすべての更新を取得して、対応する Version Manager プロジェクトのすべての変更でローカルワークスペースを更新します。Version Manager から更新を取得すると、ワークスペースは次の種類の変更で更新されます。

- ファイルのすべての新しいリビジョンがワークスペースにコピーされます。デフォルトで、新しいリビジョンのすべての変更は、最後にチェックインした後ファイルのローカルコピーに行った変更とマージされます。変更が他のユーザの変更と競合する場合、次のいずれかを行う必要があります。
 - 競合を解決して、再度更新します。
 - あるいは、競合にかかわらず競合するファイルを強制的に更新します。この場合、ローカル変更は、最新のリビジョンで上書きされます。リビジョンはマージされず、ローカル変更は失われます。404 ページの『更新の強制』を参照してください。
- 最後にすべての更新を取得してから Version Manager に追加され、ワークスペースのデフォルトバージョンラベルが割り当てられている新しいファイルは、すべてローカルワークスペースに追加されます。
- Version Manager から削除されたファイルがあれば、対応するファイルがローカルワークスペースから削除されます。これには、デフォルトのバージョンラベルを削除したファイルも含まれます。
- Version Manager で移動または名前変更したファイルがあれば、対応するファイルがワークスペースで移動および名前変更されます。



重要！ Visual Studio のリッチな統合で行った追加、削除、移動、および名前変更のみ自動的に同期されます。デスクトップなど他のインターフェイスで行った変更のリファクタリングについては、401 ページの『リファクタリングに関する重要事項』を参照してください。

ローカルワークスペースの更新とマージ

次の方法でローカルワークスペースを更新します。

- 1 [File (ファイル)] - [Source Control (ソース管理)] - [Compare Workspaces (ワークスペースの比較)] を選択します。[Compare Workspaces (ワークスペースの比較)] ビューが表示されます。
- 2 ローカルワークスペースを、対応する Version Manager プロジェクトと比較します (401 ページの『ワークスペースの比較』を参照)。特に注意が必要なのは、「受信される」変更です。これらはすべて、ローカルワークスペースで更新される Version Manager プロジェクトの変更です。
- 3 ローカルファイルと Version Manager 内のファイルが競合するか確認します。競合する場合は、ワークスペースを新しいファイルで更新する前にそれらの競合を解決する必要があります。Merge ツールで競合を開くには、競合を選択し、【Resolve conflicts (競合の解決)】ボタン (📄) をクリックします。408 ページの『競合の確認と解決』を参照してください。



ヒント 競合があるが、それらを解決せずに Version Manager からの最新のリビジョンの新しいコピーでやり直す場合は、強制的に更新してそれを行うことができます。404 ページの『更新の強制』を参照してください。

- 4 いったん変更を見直したら、【Update (更新)】ボタンをクリックして、Version Manager からすべての新規および更新ファイルを取得します。
- 5 いったん操作が完了すると、再度すべての受信された変更および競合を表示してすべての更新を無事取得したか確認することができます。

更新の強制

ローカルファイルを Version Manager からの最新リビジョンで上書きする場合、強制的に更新してそれを行うことができます。強制的な更新は、ファイルのマージを行いません。ローカルの変更はすべて上書きされます。これは、解決する必要がない競合があり、最新のリビジョンでやり直す場合に便利です。

次の方法で強制的に更新します。

[Compare Workspace (ワークスペースの比較)] ビューでファイルを右クリックし、表示されるメニューから [Force Update (強制的に更新する)] を選択します。ローカルファイルが Version Manager からの最新リビジョンで上書きされます。

ローカル変更を Version Manager にコミット

ローカル変更を Version Manager にコミットして Version Manager プロジェクトをローカルワークスペースのすべての変更で更新します。ローカル変更をコミットすると、Version Manager プロジェクトは次の種類の変更で更新されます。

- ファイルの変更が新規リビジョンにチェックインされます。デフォルトで、すべての変更は、最後にチェックインした後ほかのユーザがチェックインした変更とマージされます。変更が他のユーザの変更と競合する場合、次のいずれかを行う必要があります。
 - 競合を解決して、再度コミットします。
 - 競合にかかわらず競合するファイルを強制的にコミットします。この場合、ローカルファイルから新規リビジョンが作られます。リビジョンはマージされません。405 ページの『[コミットの強制](#)』を参照してください。
- すべての新しいファイルが Version Manager プロジェクトに追加され、それらにワークスペースのデフォルトバージョンラベルが割り当てられます。
- ワークスペースから削除したファイルがあれば、対応するファイルが Version Manager から削除されます。
- ローカルワークスペースで移動または名前変更したファイルがあれば、対応するファイルが Version Manager で移動および名前変更されます。

ローカル変更のコミットとマージ

次の方法でローカル変更を Version Manager にコミットします。

- 1 必ずソリューションおよびプロジェクトファイルを含めてローカルに変更したすべてのファイルを保存します。
- 2 [File (ファイル)] - [Source Control (ソース管理)] - [Compare Workspaces (ワークスペースの比較)] を選択します。[Compare Workspaces (ワークスペースの比較)] ビューが表示されます。
- 3 ローカルワークスペースを、対応する Version Manager プロジェクトと比較します (401 ページの『[ワークスペースの比較](#)』を参照)。特に注意が必要なのは、「送信される」変更です。これらはすべて、Version Manager プロジェクトにコミットされるローカルワークスペースの変更です。

- ローカルファイルと Version Manager 内のファイルが競合するか確認します。競合する場合は、ワークスペースを新しいファイルで更新する前にそれらの競合を解決する必要があります。[408 ページの『競合の確認と解決』](#)を参照してください。



ヒント 競合があるが、それらを解決せず、ファイルの新規リビジョンをマージせずにチェックインしたい場合は、強制的にコミットしてそれを行うことができます。[405 ページの『コミットの強制』](#)を参照してください。

- いったん変更を見直したら、【Commit (コミット)】ボタンをクリックして、Version Manager プロジェクトを更新します。



重要! ローカル変更で Version Manager のファイルの最新のリビジョンと競合するものがある場合、ファイルを最新のリビジョンとマージする前にその競合を解決する必要があります。[408 ページの『競合の確認と解決』](#)を参照してください。

コミットの強制

最新のリビジョンとマージせずにファイルのローカルコピーから Version Manager で新規バージョンを作成するには、強制的にコミットしてそれを行うことができます。強制的なコミットは、ファイルのマージを行いません。これは、解決する必要がない競合があり、ローカルファイルを使用して新規リビジョンをチェックインする場合に便利です。

次の方法で強制的にコミットします。

[Compare Workspace (ワークスペースの比較)] ビューでファイルを右クリックし、表示されるメニューから [Force Commit (強制的にコミットする)] を選択します。Version Manager で新規リビジョンが作成されます。

ワークスペースの同期化

ワークスペースを同期して以下の操作をすべて自動的に行います。

- ローカルに変更したファイルの変更をチェックインします。デフォルトで、ファイルのローカルコピーに対するすべての変更は、最後に同期（または変更をコミット）した後にほかのユーザが Version Manager にチェックインした変更とマージされます。変更がほかのユーザの変更と競合する場合、それらを解決する必要があります。[408 ページの『競合の確認と解決』](#)を参照してください。
- ローカルワークスペースのすべての新規ファイルを、対応する Version Manager プロジェクトに追加し、それらにワークスペースのデフォルトバージョンラベルを割り当てます。
- Version Manager 内のすべてのファイルの最新のリビジョンを取得します。デフォルトで、新しいリビジョンのすべての変更は、最後にチェックインした後ファイルのローカルコピーに行った変更とマージされます。変更が他のユーザの変更と競合する場合、それらを解決する必要があります。[408 ページの『競合の確認と解決』](#)を参照してください。
- 最後に同期してから Version Manager に追加され、デフォルトのバージョンラベルが割り当てられているすべてのファイルを取得します。
- ローカルワークスペースから削除したファイルをすべて Version Manager から削除し、Version Manager から削除されたファイルをローカルワークスペースから削除します。これには、実際には削除されていないがデフォルトのバージョンラベルが削除されたファイルも含まれます。

- ローカルに移動または名前変更したファイルを Version Manager で移動または名前変更し、Version Manager で移動または名前変更したファイルをローカルに移動または名前変更します。



重要！ Visual Studio のリッチな統合で行った追加、削除、移動、および名前変更のみ自動的に同期されます。他のインターフェイスで行った変更のリファクタリングについては、[401 ページの『リファクタリングに関する重要事項』](#)を参照してください。

次の方法でワークスペースを同期します。

- 1 必ずソリューションおよびプロジェクトファイルを含めてローカルに変更したすべてのファイルを保存します。
- 2 ローカルワークスペースを Version Manager プロジェクトと比較して同期する必要がある変更を調べます。[401 ページの『ワークスペースの比較』](#)を参照してください。
- 3 必要なら、変更を選択 / 選択解除して同期する特定の変更を選択します。
- 4 【Synchronize (同期)】 ボタンをクリックします。

ファイルの比較と競合の解決

Visual Studio のリッチな統合を使用すると、ローカルワークファイルと Version Manager の最新のリビジョンとの間の競合を解決することができます。同じファイルの 2 つのリビジョンを比較することもできます。詳細は、次のセクションを参照してください。

- ファイルの比較で調べられる相違点の種類については、[406 ページの『ファイル比較について』](#)を参照してください。
- ファイル比較ツールの表示オプションおよびエンコーディングオプションの設定方法については、[399 ページの『エンコーディングと表示オプションの設定』](#)を参照してください。
- ファイルを比較する方法は、[407 ページの『ファイルの比較』](#)を参照してください。
- ファイルの異なるリビジョン間の競合を解決する方法は、[408 ページの『競合の確認と解決』](#)を参照してください。

ファイル比較について

ファイル比較では、ファイルのローカルコピーと Version Manager の最新のリビジョン、あるいは Version Manager 内のファイルの 2 つのリビジョン間の違いを詳しく調べることができます。ソースコードファイルなど任意のテキストベースのファイルを比較することができます。

相違点の種類

ファイル比較はファイル間で次の種類の相違点を明らかにします。

- 一般的な変更：明確な挿入や削除ではない変更。
- 追加：ファイルの 1 つのリビジョンに対する追加、他のリビジョンにはない追加。
- 削除：ファイルの 1 つのリビジョンから削除された内容で他のリビジョンからは削除されていないもの。
- 移動：ファイルの 1 つのリビジョンで移動された内容で他のリビジョンでは移動されていないもの。

ファイルの比較

次の方法でファイルを比較します。

- まず、比較するファイルを選択し、ファイル比較ビューを表示します。ローカルファイルを Version Manager の最新のリビジョンと比較するか、同じファイルの 2 つのリビジョンを比較することができます。407 ページの『[ファイル比較の表示](#)』を参照してください。
- その後で相違点を確認することができます。407 ページの『[ファイル比較の使い方の概要](#)』と 408 ページの『[相違点の操作](#)』を参照してください。

ファイル比較の表示

次の方法でファイル比較を表示します。

以下のいずれかを実行します。

比較する内容	操作
ファイルのローカルコピーと Version Manager の最新のリビジョン	a ソリューションエクスプローラでファイルを選択します。 b 右クリックして表示されるメニューで、[Compare Revisions (リビジョンの比較)] を選択します。
Version Manager の同じファイルの 2 つのリビジョン	a ソリューションエクスプローラでファイルを選択します。 b 右クリックして表示されるメニューで、[View History (履歴の表示)] を選択します。 c CTRL を押しながら 2 つのリビジョンをクリックして選択し、右クリックして表示されるメニューで [Compare Revisions (リビジョンの比較)] を選択します。

[Compare Revisions (リビジョンの比較)] ビューが表示されます。デフォルトで、両方のリビジョンが並んで表示されます。各ファイル表示部の上に、パスとリビジョンの情報が表示されます。

次のボタンをクリックしてどちらかのファイルを表示 / 非表示できます。

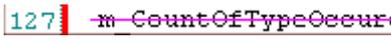
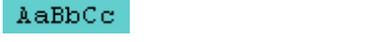
-  ファイル 1 のみ表示します。
-  ファイル 2 のみ表示します。

ファイル比較の使い方の概要

ファイル比較内の各相違点と競合は、固有の図式で表されます。これらの図式を利用して相違点レポートを参照することができます。各相違点は次のように表示されます。

- マーカ：各ファイル表示部の右のバーにある色つきのマーカがすべての相違点を要約しています。相違点の種類によってマーカの色が異なります。相違点ごとに別なマーカが表示されます。
- テキストマークアップ：相違点は、テキスト内で強調表示されています。相違点の種類ごとに異なる色とスタイルが適用されています。相違点の種類ごとにテキストマークアップスタイルをカスタマイズすることができます。詳細は、399 ページの『[エンコーディングと表示オプションの設定](#)』を参照してください。

次の表で、相違点の種類ごとに表示されるマーカ、アイコン、およびデフォルトのテキストマークアップスタイルを説明します。

タイプ	マーカ	デフォルトのテキストマークアップ
変更 追加でも競合でもない相違点は、変更としてマークされます。		黄： 
削除 比較しているファイルの 1 つのリビジョンから削除されたテキストです。		打ち消し： 
追加 比較しているファイルの 1 つのリビジョンに追加されたテキストです。		緑： 
競合 2 つのリビジョンのどちらかで変更されていて、何らかの理由で他のリビジョンの同じテキストと競合するテキストです。 チェックインするときファイルの 2 つのリビジョンをマージするには競合を解決する必要があります。408 ページの『競合の確認と解決』を参照してください。		灰： 
移動 比較しているファイルの 1 つのリビジョンで移動されたテキストです。		青： 

相違点の操作

相違点レポートで変更を確認するには、次の操作を行います。

- 1 相違点マーカをクリックして特定の相違点へ移動します。1 つのファイル表示部でマーカをクリックすると、すべてのファイル表示部が自動的に同じマーカへ移動し、相違点を並べて比較することができます。
- 2 現在の変更から次の変更へ移動するには、【Next Difference (次の相違行)】ボタン () をクリックします。
- 3 現在の変更から前の変更へ移動するには、【Previous Difference (前の相違行)】ボタン () をクリックします。

競合の確認と解決

以下にファイルのローカルコピーと Version Manager の最新のリビジョンとの競合を確認する方法およびファイルの新規リビジョンをチェックインする前にそれらの競合を解決する方法を示します。

- 409 ページの『相違点と競合の確認』
- 409 ページの『競合の解決』
- 410 ページの『マージの終了』

ローカル更新を Version Manager の最新のリビジョンとマージする場合は、チェックインする前に競合を解決する必要があります。

相違点と競合の確認

Merge ツールからの相違点および競合を確認する方法については以下の点に注意してください。

- ファイルの比較で相違点と競合を確認して操作する方法については、[407 ページの『ファイルの比較』](#)を参照してください。
- 相違点の種類は、Latest（最新）、Local（ローカル）、および Merged（マージ）ファイル表示部の左の特定のアイコンで示されています。
 - 追加：
 - 削除：
 - 編集：
- 競合は、左側の【Copy edits to solution（ソリューションに編集をコピー）】() ボタンで示されます。詳細は、[409 ページの『競合の解決』](#)を参照してください。
- 【Next Conflict（次の競合行）】() および【Previous Conflict（前の競合行）】() ボタンを使用して次の競合行または前の競合行へ移動することができます。

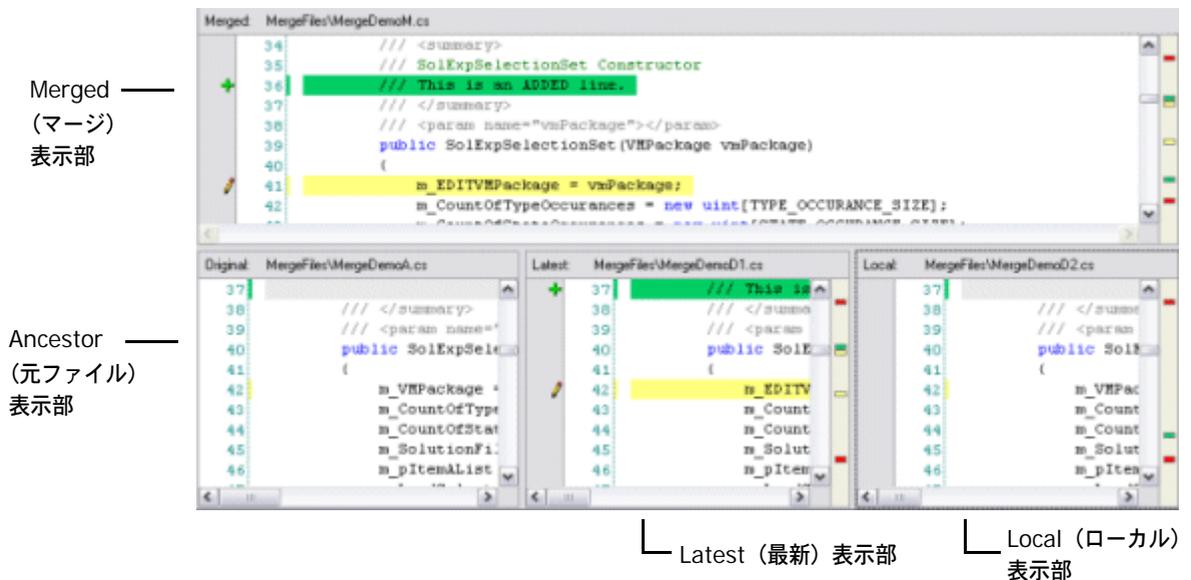
競合の解決

ファイルの取得、チェックアウト、またはチェックインの前に、ファイルの競合をすべて解決する必要があります。Merged ファイル表示部に競合が表示されなくなったらファイルをチェックインまたは取得することができます。

競合を解決するには、次の操作を行います。

- 1 【Compare Workspaces（ワークスペースの比較）】ビューで競合するファイルを選択し、【Resolve conflicts（競合の解決）】ボタン() をクリックします。Merge ツールでファイルが開きます。【Compare Workspaces（ワークスペースの比較）】ビューの詳細については、[401 ページの『ワークスペースの比較』](#)を参照してください。

デフォルトで Merge ツールには、Ancestor（元ファイル）、Latest（最新）、Local（ローカル）、および Merged（マージ）の 4 つの表示部があります。



- Ancestor（元ファイル）表示部は、マークアップなしで元のファイルを表示します。
- Latest（最新）表示部は、Version Manager の最新のリビジョンを表示し、元のファイルとの相違点を強調表示します。

- Local (ローカル) 表示部は、ファイルの編集済みローカルコピーを変更とともに表示し、元のファイルとの相違点を強調表示します。
 - Merged (マージ) 表示部は、新規の解決したファイルをマージ操作の結果とともに表示します。
- 2 解決する競合を探します。【Next Conflict (次の競合行)】() ボタンまたは【Previous Conflict (前の競合行)】() ボタンをクリックするか、右端の赤いマーカ () をクリックして、移動することができます。Merged (マージ) ファイル表示部では、競合が発生する場所は空白で、次のように灰色で示されます。

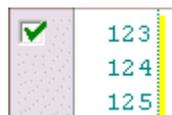


1 つのファイル表示部で競合を操作すると、すべてのファイル表示部が対応する点へ移動します。たとえば、Merged (マージ) ファイル表示部で競合表示へ移動すると Latest (最新) と Local (ローカル) ファイル表示部は互いに競合する対応行を表示します。

- 3 Latest (最新) と Local (ローカル) 表示部で競合行を確認して解決方法を選択します。次の方法で解決することができます。

ソリューション	手順
テキストを直接編集	Merged (マージ) ファイル表示部で競合表示をクリックし、競合を解決するテキストを入力します。 別なウィンドウまたはアプリケーションからテキストを Merged (マージ) ファイル表示部へドラッグアンドドロップすることもできます。
Latest (最新) または Local (ローカル) ファイル表示部の行を使用する	Latest (最新) または Local (ローカル) ファイル表示部で、【Copy edits to solution (ソリューションに編集をコピー)】ボタンをクリックします。  行が Merged (マージ) ファイル表示部の対応する位置へコピーされます。 Merged (マージ) ファイル表示部へコピーする行をクリックし、ツールバーの【Copy edits to solution (ソリューションに編集をコピー)】ボタン () をクリックすることもできます。

- 4 競合を解決すると、Merged (マージ) ファイル表示部で更新されたテキストの左にチェックボックスが表示されます。



マージの終了

すべての競合を解決したら【Done (終了)】ボタンをクリックして次のいずれかを行います。

- ローカルワークスペースを対応する Version Manager プロジェクトと一括同期する場合、[Compare Workspaces (ワークスペースの比較)] ビューからワークスペースを同期します。[405 ページの『ワークスペースの同期化』](#)を参照してください。
- ファイルをチェックインする場合、ソリューションエクスプローラからチェックインするか、すべてのローカル変更の一括コミットを行います。[388 ページの『ファイルのチェックイン』](#)または [404 ページの『ローカル変更を Version Manager にコミット』](#)を参照してください。
- ファイルを取得する場合、ソリューションエクスプローラから取得するか、Version Manager からすべてのローカル変更を一括取得します。[388 ページの『ファイルのチェックイン』](#)または [402 ページの『Version Manager からすべての更新を取得』](#)を参照してください。

- ファイルをチェックアウトする場合、ソリューションエクスプローラからチェックアウトします。384 ページの『ファイルのチェックアウト』を参照してください。

TeamTrack Issue の関連付けと操作

組織で Serena TeamTrack を使用して不具合やタスクなどの開発 Issue を追跡している場合は、Visual Studio に統合した Version Manager から Issue にアクセスすることができます。TeamTrack の Issue を Visual Studio から提出および変更し、特定のファイルに Issue を関連付けることができます。Issue をファイルに関連付けると、バージョン管理ファイルの履歴が Issue に追加されます。



注 TeamTrack との統合機能を実行するためには、特定の TeamTrack ユーザー権限が必要です。TeamTrack SourceBridge のドキュメントを参照してください。

TeamTrack と Visual Studio の統合についての詳細は、以下のトピックを参照してください。

- 412 ページの『Issue 管理ワークフロー』
- 413 ページの『IDE フォルダの設定』
- 関連付けオプションの定義 414
- 415 ページの『TeamTrack へのログイン』
- 415 ページの『レポートと Issue の表示』
- 416 ページの『Issue の提出と変更』
- 416 ページの『Issue の関連付け』

Issue 管理ワークフロー

次の表は、Visual Studio における Issue 管理のワークフローを示しています。Issue を正しく表示し、ファイルに関連付けるには、このワークフローに従う必要があります。

手順	説明
1	<p>IDE フォルダの設定</p> <p>Visual Studio から Issue にアクセスする前に、TeamTrack Web クライアントで IDE フォルダを設定する必要があります。IDE フォルダは特殊なシステムフォルダで、Visual Studio および Eclipse のリッチな統合から特定の Issue やリスティングレポートを表示することができます。アクセスするリスティングレポートや Issue を TeamTrack から IDE フォルダに追加します。個人フォルダまたはお気に入りフォルダの設定についての詳細は、『Serena TeamTrack ユーザガイド』を参照してください。</p>
2	<p>統合の設定の定義</p> <p>オプションとして、Version Manager デスクトップクライアントで、Visual Studio へのリッチな統合における Issue の関連付けに影響する設定を更新できます。たとえば、次のような点について設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ TeamTrack Issue に関連するすべてのリビジョンに、Issue 番号を含むバージョンラベルを適用するかどうか。 ■ チェックイン時に Issue の関連付けを義務付けるかどうか。 ■ 新規リビジョンのチェックインコメントに、関連付けられている Issue に関するメモを自動的に追加するかどうか。 <p>414 ページの『関連付けオプションの定義』を参照してください。</p>
3	<p>TeamTrack サーバへの接続</p> <p>Visual Studio では、ソース管理でプロジェクトの追加か取得を行うときに、Issue の管理に使用するソリューションを含む TeamTrack サーバを指定することができます。その時点で TeamTrack サーバを指定しなかった場合や、TeamTrack サーバの接続を変更する必要がある場合は、次の手順を実行します。TeamTrack サーバに接続する際には、特定のユーザとしてログインします。415 ページの『TeamTrack へのログイン』を参照してください。</p>

手順	説明
4	<p>Issue の確認、変更、および提出</p> <p>{Issues} ビューでは、IDE フォルダ内のリスティングレポートを通じて使用できるすべての Issue、または IDE フォルダに直接追加された Issue を表示できます。たとえば、ユーザに割り当てられた Issue だけを一覧表示するような特定のレポートが含まれます。</p> <p>表示された Issue に変更を加えたり、新しい Issue を提出したりできます。415 ページの『レポートと Issue の表示』と 416 ページの『Issue の提出と変更』を参照してください。</p>
5	<p>Issue とファイルのリビジョンの関連付け</p> <p>TeamTrack と Version Manager の統合により、Issue をファイルの特定のリビジョンに「関連付ける」こともできます。Issue をファイルに関連付けると、Issue にファイルのリビジョンに関する情報を追跡する (Version Control History (バージョン管理履歴)) セクションが追加されます。関連するリビジョンには、Issue ID を含むバージョンラベルを割り当てることもできます。詳細は、416 ページの『Issue の関連付け』を参照してください。</p> <p>次の方法で、Issue を関連付けます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Issue を有効にします。これにより、ファイルをチェックインするとき必要に応じてファイルに関連付けることができる Issue のキューに Issue が追加されます。 2 Issue の影響を受けるファイルで作業します。たとえば、特定の Issue に記述されている問題を解決するために特定のソースコードファイルを編集する場合などが考えられます。 3 ファイルをチェックインします。チェックイン時には、必要に応じて、現在有効になっている任意の (あるいはすべての) Issue にファイルを「関連付ける」ことができます。このとき、どの Issue にファイルに関連付けるかを明示的に選択できます。チェックインするファイルによって、その Issue に対処するために割り当てられた作業が終了する場合は、Issue を無効にすることもできます。

IDE フォルダの設定

TeamTrack Web クライアントで次のいずれかを行って、Visual Studio からアクセスする Issue を決定します。

- 特定の Issue を IDE フォルダに直接追加します。
- リスティングレポートを IDE フォルダに追加します。



重要! Visual Studio からは、特定の Issue またはリスティングレポートのみアクセスできます。その他の種類のレポートや、その他の種類の項目 (URL など) にはアクセスできません。

個人フォルダまたはお気に入りフォルダの設定についての詳細は、『Serena TeamTrack ユーザガイド』を参照してください。

関連付けオプションの定義

Version Manager デスクトップクライアントで、管理者は、IDE と TeamTrack の統合に関して、以下のような設定を定義できます。

- 関連付けられているすべてのリビジョンに、Issue 番号を含んだバージョンラベルを適用するかどうか。
- チェックイン時に Issue の関連付けを義務付けるかどうか。
- 新規リビジョンのチェックインコメントに、関連付けられている Issue に関するメモを自動的に追加するかどうか。

次の方法で関連付けオプションを定義します。

- 1 Version Manager デスクトップクライアントから、設定を適用するプロジェクトデータベースを選択します。
- 2 [Admin (管理)] – [SourceBridge settings (SourceBridge の設定)] を選択します。
[SourceBridge Settings (SourceBridge の設定)] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 以下のオプションを設定します。

フィールド	説明
Show Issue association dialog on checkin (チェックイン時に Issue との関連付けダイアログを表示) / Association required (必ず関連付け)	チェックイン時に Issue のファイルとの関連付けを義務付ける場合に選択します。このオプションを選択すると、アクティブな Issue がない場合は、ユーザがチェックインを完了できなくなります。 (Show Issue association dialog on checkin (チェックイン時に Issue との関連付けダイアログを表示)) オプションは、Visual Studio へのリッチな統合では意味がありませんが、(Association required (必ず関連付け)) オプションを選択するには、これを選択しておく必要があります。
Tag workfile comment with association (チェックイン時にタグを付加)	ファイルをチェックインする際に、関連付けられている Issue に関する情報を、そのチェックインコメントに追加する場合に選択します。 (Before existing comment (作業ファイルのコメントの前)) または (After existing comment (作業ファイルのコメントの後)) を選択して、コメント中でのこの情報の場所を指定します。 (Tag (タグ)) フィールドに、チェックインコメントに追加するテキストを入力します。ここでキーワードをいくつか指定することで、関連付けられている Issue に関する情報が自動的に入力されます。キーワードには、以下のものがあります。 <ul style="list-style-type: none"> ■ \$id – Issue ID 番号に展開されます。 ■ \$ownid – Issue 所有者のユーザ ID に展開されます。 ■ \$owner – Issue 所有者の名前に展開されます。 ■ \$project – 現在のプロジェクトの名前に展開されます。 ■ \$title – Issue のタイトルに展開されます。
Use Version Labels on checkin (チェックイン時にバージョンラベルを使用)	ファイルをチェックインする際に、Issue 番号で構成されるバージョンラベルを適用する場合に選択します。

- 4 【OK】をクリックします。

TeamTrack へのログイン

Version Manager からプロジェクトを追加するか開くとき、Issue の管理に使用するソリューションを含む TeamTrack サーバを指定することができます。その時点で TeamTrack サーバを指定しなかった場合や、TeamTrack サーバの接続を変更する必要がある場合は、次の手順を実行します。TeamTrack サーバに接続する際には、特定のユーザとしてログインします。TeamTrack の IDE フォルダで表示できるすべての Issue は Visual Studio で表示できます。

TeamTrack サーバに接続するには、次の操作を行います。

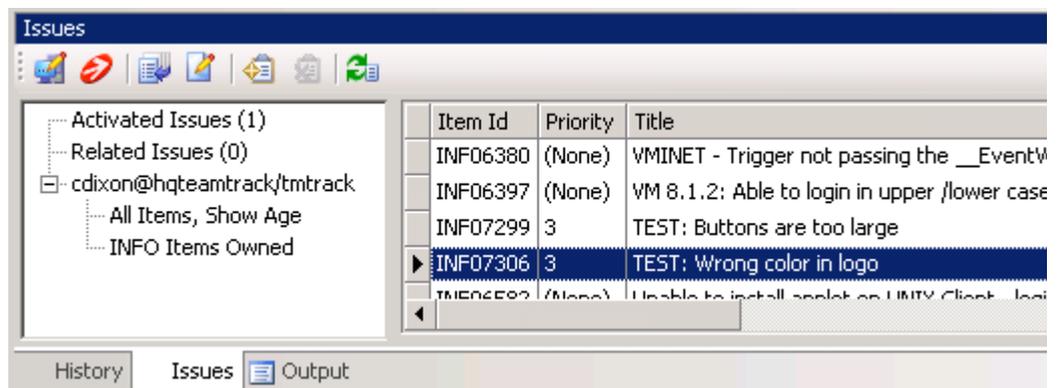
- 1 [View (表示)] - [Issues (Issue)] を選択します。[Issues] ビューが表示されます。
- 2 【TeamTrack Login (TeamTrack ログイン)】 ボタン (🔑) をクリックします。[Connect to TeamTrack (TeamTrack への接続)] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 <TeamTrack Host (TeamTrack ホスト)> フィールドに TeamTrack サーバ名を入力します。TeamTrack サーバがデフォルト以外のポート番号 (80 以外のポート) を使用している場合は、ポート番号をサーバ名の後に付加します。たとえば、ポート番号が 89 の場合は次のようになります。
tt_server:89
- 4 TeamTrack のユーザ名とパスワードを入力し、【Next (次へ)】 をクリックします。
- 5 【Finish (終了)】 をクリックします。

レポートと Issue の表示

[Issues] ビューでは、IDE フォルダ内のリスティングレポートを通じて使用できるすべての Issue、または IDE フォルダに直接追加された Issue を表示できます。たとえば、ユーザに割り当てられた Issue だけを一覧表示するような特定のレポートが含まれます。

レポートと Issue を表示するには、次の操作を行います。

- 1 [View (表示)] - [Issues (Issue)] を選択します。[Issues] ビューが表示されます。



- 2 Issue を確認するには、次の操作を行います。
 - ユーザ名ノードを選択し、IDE フォルダに追加された Issue のリストを表示します。
 - ユーザ名ノードを展開し、使用できるすべてのレポートを表示します。ここでは、IDE フォルダに追加されたすべてのリスティングレポートが表示されます。次に、Issue を表示するレポートをクリックします。

- 現在有効な Issue（現在操作している Issue）を表示するには、〈Activated Issues（有効な Issue）〉ノードを選択します。



注 〈Related Issues（関連 Issue）〉ノードには、特定のファイルに関連付けられているすべての Issue が表示されます。このリストの使用方法についての詳細は、416 ページの『Issue の関連付け』を参照してください。

- 3 Issue の内容を参照するには、Issue を選択して【View Issue（Issue の参照）】ボタン（) をクリックします。

Issue の提出と変更

TeamTrack の Issue を提出および変更し、Visual Studio で行っているタスクの状態と詳細を追跡します。タスク、不具合、完了する必要があるその他のタスクに対して新しい Issue を提出したり、Issue を変更して作業割り当ての元とすることができます。組織のワークフローに応じて、Issue を変更して別の状態に移動させることができます。たとえば、タスクのうち自分が担当している部分が完了し、テスト準備完了状態にする場合などです。

Issue を提出するには、次の操作を行います。

- 1 [Serena] – [Show Issues（Issue の表示）] を選択します。[Issues] ビューが表示されます。
- 2 【Submit Issue（Issue の提出）】ボタン（) をクリックします。Issue の提出についての詳細は、『Serena TeamTrack ユーザガイド』を参照してください。

Issue を変更するには、次の操作を行います。

- 1 更新する Issue を探します。415 ページの『レポートと Issue の表示』を参照してください。
- 2 Issue を選択し、【View Issue（Issue の参照）】ボタン（) をクリックします。
- 3 必要に応じて Issue を更新します。Issue の更新についての詳細は、『Serena TeamTrack ユーザガイド』を参照してください。

Issue の関連付け

TeamTrack と Version Manager の統合により、特定の Issue やレポートにアクセスできるだけでなく、Issue をファイルの特定のリビジョンに「関連付ける」ことができます。Issue をファイルに関連付けると、以下のことが行われます。

- 〈Version Control History（バージョン管理履歴）〉セクションが Issue に追加され、以下の内容が追跡されます。
 - 関連付けられているファイルの名前
 - リビジョン番号
 - チェックイン日付
 - ファイルをチェックインしたユーザ
 - チェックイン時にユーザが入力した、変更に関する説明

たとえば、Issue が test.cs というファイルに関連付けられている場合、チェックイン後に以下のような内容が Issue に表示されます。

☐ Version Control History

/Application/app 1/test.cs

Revision 1.3 Checked In by Joe Manager 2/4/2005 3:54:49 AM

Revision 1.2 Checked Out 2/4/2005 3:54:49 AM

minor change

- オプションで、Issue に関連付けられているファイルのリビジョンには、バージョンラベルが割り当てられます。バージョンラベルには、Issue 番号が含まれます。
- オプションで、関連付けられている Issue に関する情報が、新しいリビジョンのチェックインコメントに追加されます。

関連付けオプションの設定の詳細については、[414 ページの『関連付けオプションの定義』](#)を参照してください。

次の方法で、Issue を関連付けます。

- 1 作業対象となる、最終的にファイルリビジョンに関連付ける Issue を探します。[415 ページの『レポートと Issue の表示』](#)を参照してください。
- 2 Issue を選択し、【Activate Issue (Issue の選択)】ボタン () をクリックします。Issue が、〈Activated Issues (有効な Issue)〉リストに追加されます。



ヒント 〈Activated Issues (有効な Issue)〉リストから Issue を削除するには、リスト内の Issue を選択し、【Deactivate Issue (Issue の選択解除)】ボタン () をクリックします。

- 3 Issue を選択して【View Issue (Issue の参照)】ボタン () をクリックすることで、いつでも Issue の詳細を参照できます。
- 4 Issue を解決するために必要な作業またはそのうちの担当部分を完了します。
- 5 Issue を解決するファイルをチェックインします。〔Check In (チェックイン)〕ダイアログボックスの〈TeamTrack Associations (TeamTrack の関連付け)〉の下から、ファイルに関連付ける Issue を選択します。チェックイン時に関連付けることができるのは、現在有効な Issue のみです。[388 ページの『ファイルのチェックイン』](#)を参照してください。

特定のファイルに関連付けられているすべての Issue を表示するには、次の操作を行います。

ソリューションエクスプローラで、ファイルを右クリックして表示されるメニューで、[Related Issues (関連する Issue)] を選択します。〈Related Issues (関連 Issue)〉ノードが選択された状態で、[Issues] ビューが表示されます。右側の表示部には、現在選択されているファイルに関連するすべての Issue が一覧表示されます。

第 20 章

WebSphere Studio Application Developer 5 (Eclipse 2)

はじめに	420
サポートされている機能の使用	420
ソース管理プロジェクトの設定	421
ソース管理の使用法	430

はじめに

目的 この章の目的は、以下の 4 つです。

- Eclipse 2 と 3、および IBM® WebSphere™ Studio Application Developer 5.1.2 から使用可能な Version Manager の各機能の紹介と、それらの機能の使用方法的説明
- このマニュアルのパート 1 で解説された機能のうち、この開発環境 (IDE) には適用されないものの解説
- ソース管理プロジェクトの設定や、ソース管理へのファイルの追加を行う管理者の手引き
- ソース管理下にあるファイルに Eclipse からアクセスする開発チームの手引き

詳細情報 以下の情報については、[19 ページのパート 1、『Version Manager IDE クライアント』](#)を参照してください。

- ソース管理の概念
- ソース管理のデフォルト動作
- ソース管理の詳細設定

サポートされている機能の使用

サポートされている機能 Eclipse 2 と 3 ベースの IDE では、Version Manager IDE クライアントから使用可能なソース管理機能のうち、プロジェクト間のアーカイブの共有以外の全機能をサポートしています。

目的	操作	参照セクション
リビジョンの取得	右クリック - [Team (チーム)] - [Get (取得)]	431 ページの『ファイルの取得』
リビジョンのチェックアウト	右クリック - [Team (チーム)] - [Checkout (チェックアウト)]	431 ページの『ファイルのチェックアウト』
作業ファイルを上書きせずにリビジョンをロック	右クリック - [Team (チーム)] - [Lock (ロック)]	432 ページの『ファイルのロック』
リビジョンのチェックアウトの取り消し	右クリック - [Team (チーム)] - [Undo Checkout (チェックアウトの取り消し)]	433 ページの『チェックアウトの取り消し』
リビジョンのチェックイン	右クリック - [Team (チーム)] - [Checkin (チェックイン)]	433 ページの『ファイルのチェックイン』
バージョンラベルの管理	[Serena-SB] - [Run Serena Client (Serena クライアントの実行)]	62 ページの『バージョンラベルについて』
リビジョンまたはアーカイブのプロパティの表示	右クリック - [Team (チーム)] - [Show Serena Properties (Serena プロパティの表示)]	82 ページの『プロパティ』
ソース管理動作の監視	[Serena-SB] - [Run Serena Client (Serena クライアントの実行)]	83 ページの『Pulse によるソース管理動作の監視』
履歴レポートの生成	右クリック - [Team (チーム)] - [Show History (履歴の表示)]	88 ページの『履歴レポートについて』

目的	操作	参照セクション
相違点レポートの生成	右クリック - [Compare With (比較)] - [Serena Team Provider (Serena チームプロバイダ)]	91 ページの『相違点レポートについて』
ワークスペースをローカル履歴と比較	右クリック - [Compare With (比較)] - [Local History (ローカル履歴)]	442 ページの『ローカル履歴との比較』
ワークスペースをローカル履歴で置き換え	右クリック - [Replace With (置換)] - [Local History (ローカル履歴)]	443 ページの『ローカル履歴との置き換え』
[Version Manager Options (Version Manager オプション)] ダイアログボックスの使用	[Serena-SB] - [Run Serena Client (Serena クライアントの実行)]	33 ページの『[Version Manager Options (Version Manager オプション)] ダイアログボックスのデフォルト値の設定』
プロジェクトをソース管理に追加	右クリック - [Team (チーム)] - [Share Project (プロジェクトの共有)]	423 ページの『プロジェクトのソース管理への追加』
ソース管理への新規ファイルの追加	右クリック - [Team (チーム)] - [Add (追加)]	428 ページの『新規ファイルのソース管理への追加』
ソース管理からプロジェクトを削除	右クリック - [Team (チーム)] - [Disconnect Project (プロジェクトの切断)]	429 ページの『ソース管理からのプロジェクトの削除』
ソース管理からのファイルの削除	右クリック - [Team (チーム)] - [Remove (削除)]	429 ページの『ソース管理からのファイルの削除』
ソース管理からプロジェクトを開く	[Serena-SB] - [Open from Serena Team Provider (Serena チームプロバイダから開く)]	426 ページの『ソース管理プロジェクトに追加するワークステーションを増やす』
ファイルをチェックアウトせずにローカルに編集 (ローカルモード)	右クリック - [Team (チーム)] - [Local Mode (ローカルモード)]	435 ページの『ローカルモードの使用』
ローカルモードのファイルをソース管理に戻す	右クリック - [Team (チーム)] - [Revert Controlled (ソース管理に戻す)]	435 ページの『ローカルモードの使用』
オフラインモードのオン、オフ	該当ドキュメントを参照してください。	438 ページの『オフライン処理』
オブジェクトの名称変更または移動 (リファクタリング)	該当ドキュメントを参照してください。	435 ページの『名前の変更または移動の使用 (リファクタリング)』
ソース管理ステータスの更新	右クリック - [Team (チーム)] - [Refresh Project Status (プロジェクトステータスの更新)]	430 ページの『ソース管理ステータスの表示』
ワークスペースとソース管理の同期化	右クリック - [Team (チーム)] - [Synchronize Project (プロジェクトの同期)]	439 ページの『ワークスペースとソース管理の同期化』

ソース管理プロジェクトの設定

内容 このセクションでは、Eclipse ベースの IDE で使用するための Version Manager IDE クライアントの設定方法を説明しています。

前提条件 設定を行う前に、Version Manager デスクトップクライアントを使用して、IDE プロジェクトに関連付けられたソース管理プロジェクトを含むプロジェクトデータベースを作成します（このようなプロジェクトデータベースがまだ作成されていない場合）。



重要！ Eclipse では、JRE 1.3 または 1.4 を必要としますが、パスで検出された最初の JRE の使用を試みます。Eclipse には JRE が含まれていません。



重要！ UNC パスでは Eclipse は正常に機能しません。UNC パスではなく、Version Manager インストールに対してマップされたドライブ、および Eclipse で使用される Version Manager File Server パスを使用します。

詳細情報 [第 2 章、27 ページの『SCC IDE によるソース管理のセットアップ』](#) を参照してください。

ファイルとディレクトリのソース管理からの除外

ソース管理から指定したファイルとディレクトリを除外するように Eclipse を設定することができます。これによって、プロジェクトデータベースのサイズを最小にできます。たとえば、拡張子が .tmp のすべてのファイルを除外したり、bin ディレクトリとその内容を除外したりできます。



重要！ プロジェクトをソース管理に追加する前に、ソース管理から除外するファイルとディレクトリを指定します。

ソース管理から指定したファイルとディレクトリを除外するには、次の操作を行います。

- 1 [Window (ウィンドウ)] – [Preferences (設定)] を選択します。[Preferences (設定)] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 <Team (チーム)> の隣の「+」記号をクリックして <Ignored Resources (無視するリソース)> を選択します。
- 3 ソース管理から除外するファイルタイプやディレクトリが <Ignore Patterns (無視するパターン)> リストボックスにあるか調べます。一覧にない場合、次の操作を行います。
 - a 【Add (追加)】をクリックします。[Enter Ignore Pattern (無視するパターンの入力)] ダイアログボックスが表示されます。
 - b 無視するファイルタイプまたはディレクトリを定義するパターンを入力します。必要な場合には、ワイルドカードを使用します。
 - アスタリスク (*) は 1 つ以上の文字を表します。
 - 疑問符 (?) は 1 文字を表します。
 - c 【OK】をクリックします。
- 4 <Ignore Patterns (無視するパターン)> リストボックスで、ソース管理から除外する各ファイルタイプとディレクトリの隣にチェックマークが表示されていることを確認します。
- 5 【OK】をクリックします。

WebSphere Studio Application Developer の移行 バージョン 4 のプロジェクトをバージョン 5 へ



重要！ WebSphere Studio Application Developer 4 は Version Manager 8 ではサポートされていません。Version Manager 7 がまだインストールされている間に、WebSphere Studio Application Developer 4 のプロジェクトを移行してください。

Version Manager ソース管理下に WebSphere Studio Application Developer 4 のプロジェクトがある場合にこのプロジェクトをバージョン 5 に移行するには、次の操作を行います。

- 1 WebSphere Studio Application Developer 4 から、すべてのコードの変更をリポジトリに格納します。
- 2 WebSphere Studio Application Developer 5 で、ソース管理からプロジェクトを取得します。426 ページの『ソース管理プロジェクトに追加するワークステーションを増やす』を参照してください。
- 3 .project ファイルをソース管理に追加します。このファイルが WebSphere Studio Application Developer 4 で使用された .vcm_meta ファイルに置き換わります。



重要！ プロジェクトを WebSphere Studio Application Developer 5 に移行した後は、再度 WebSphere Studio Application Developer 4 からはプロジェクトを開かないでください。

プロジェクトのソース管理への追加

IDE のファイルをソース管理下に置く前に、IDE プロジェクトをソース管理に追加する必要があります。

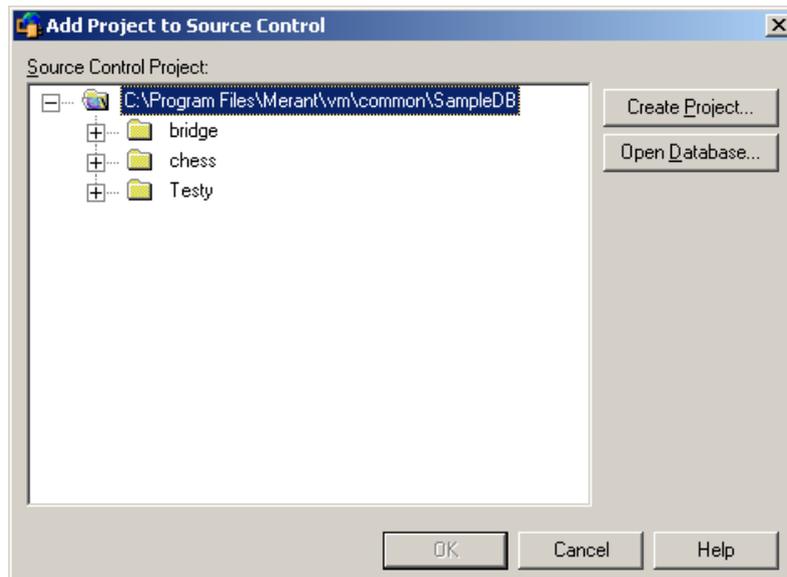


重要！ プロジェクトをソース管理に追加する前に、プロジェクト内のファイルのうち、ソース管理から除外するものを指定します。422 ページの『ファイルとディレクトリのソース管理からの除外』を参照してください。

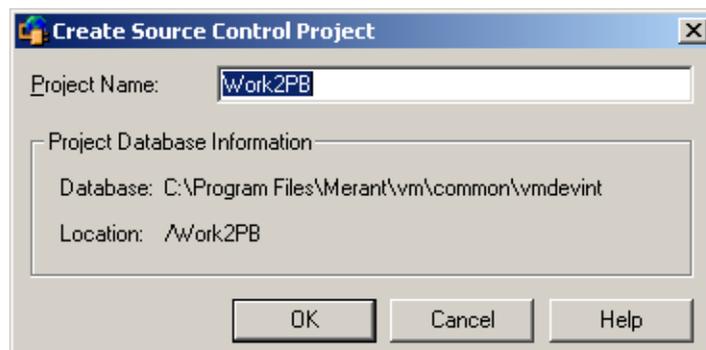
Version Manager プロジェクトデータベースに追加するには、次の操作を行います。

- 1 パッケージエクスプローラまたはナビゲータでプロジェクトアイコンを右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- 2 [Team (チーム)] - [Share Project (プロジェクトの共有)] を選択します。[Share Project (プロジェクトの共有)] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 <Select a repository type (リポジトリタイプを選択してください)> リストボックスから <Serena Team Provider (Serena チームプロバイダ)> を選択します。
- 4 【Next (次へ)】をクリックします。[Create or Select a Serena Team Provider Project (Serena チームプロバイダプロジェクトの生成 / 選択)] ダイアログボックスが表示されます。

- 5 【Create/Select (生成 / 選択)】をクリックします。[Add Project to Source Control (ソース管理にプロジェクトを追加)] ダイアログボックスが表示されます。

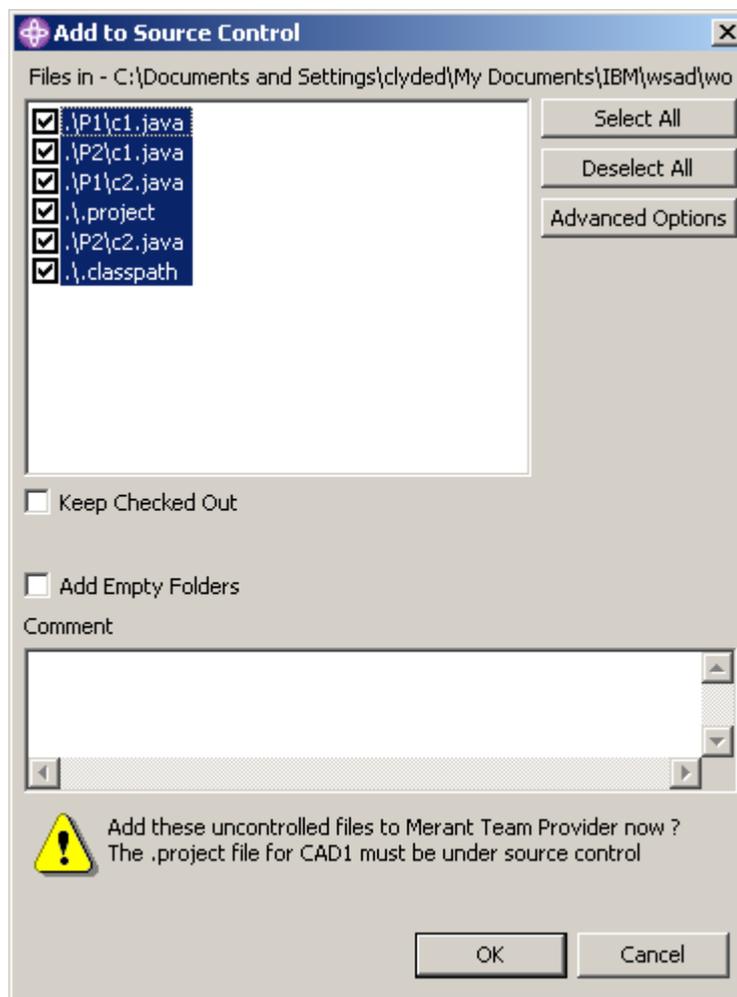


- 6 <Source Control Project (ソース管理プロジェクト)> の下にデフォルトのプロジェクトデータベースが表示されます。ファイルを別のプロジェクトデータベースに追加する場合は、【Open Database (データベースを開く)】をクリックし、ブラウズしてファイルを選択するか、【Browse Database (参照)】をクリックして Version Manager File Server で公開されているプロジェクトデータベースの一覧をブラウズします。
- 7 以下のいずれかを実行します。
- 既存のソース管理プロジェクトに追加するには、<Source Control Project (ソース管理プロジェクト)> からプロジェクトを選択します。手順 8 に進みます。
 - 新規 Version Manager プロジェクトを作成するには、以下の手順に従います。
 - a <Source Control Project (ソース管理プロジェクト)> で、新規プロジェクトを作成するプロジェクトデータベースの場所を選択します。
 - b 【Create Project (プロジェクトの作成)】をクリックします。[Create Source Control Project (ソース管理プロジェクトの作成)] ダイアログボックスが表示されます。



<Project Database Information (プロジェクトデータベース情報)> グループには、現在のプロジェクトデータベースの名前と場所、およびこのデータベース内の新規プロジェクトの場所が表示されます。

- c デフォルトでは、新しい Version Manager プロジェクトでは IDE プロジェクトと同じ名前を使用します。必要な場合、〈Project Name (プロジェクト名)〉フィールドに別の名前を入力します。
- 名前の前後にタブや空白を付けることはできません。名前には、アスタリスク (*)、コロン (:)、縦線 (|)、スラッシュ (/)、円記号 (¥)、疑問符 (?)、山かっこ (< >) 以外のすべての文字を使用できます。
- d 【OK】 をクリックします。〔Add Project to Source Control (ソース管理にプロジェクトを追加)〕ダイアログボックスが再度開き、〈Source Control Project (ソース管理プロジェクト)〉の下に新規プロジェクトが表示されます。
- 8 【OK】 をクリックします。〔Select a Merant Team Provider Project (Merant チームプロバイダプロジェクトの生成 / 選択)〕ダイアログボックスが再表示されます。
- 9 【Finish (終了)】 をクリックします。〔Team (チーム)〕 - 〔Add (追加)〕 を選択します。〔Add to Source Control (ソース管理に追加)〕ダイアログボックスに選択された追加するファイルの一覧が表示されます。



10 以下のうち必要な作業を行います。

- 選択対象ファイルを変更するには、〈Files in (ファイルの場所)〉リストボックスでファイルを選択または選択解除します。



注 .project ファイルをソース管理に追加する必要があります。

- ソース管理への追加と同時にファイルをチェックアウトし、ロックする場合は、〈Keep Checked Out (チェックアウト状態を保持)〉チェックボックスを選択します。
- 空のフォルダをソース管理に追加するには、〈Add Empty Folders (空のフォルダの追加)〉チェックボックスを選択します。開発者がソース管理からプロジェクトを開いたときに空のフォルダが追加されます。

11 〈Comment (コメント)〉フィールドに、ファイルの説明を入力します。この説明は、選択したすべてのファイルに適用されます。



ヒント ファイルごとに固有の説明を付ける場合は、〈Comment (コメント)〉フィールドを空白のままにします。〔Add to Source Control (ソース管理に追加)〕ダイアログボックスへの入力が終わると、〔Change Description (変更の説明)〕ダイアログボックスが表示されます。各ファイルに順次説明を入力します。

12 以下のいずれかを実行します。

詳細設定の使用

- バージョンラベルまたはプロモーショングループを初期のリビジョンに割り当てるには、【Advanced Options (詳細設定)】をクリックします。〔Merant Advanced Add (追加の詳細設定)〕ダイアログボックスが開きます (詳細設定については、[37 ページの『追加の詳細設定』](#)を参照してください)。

デフォルト値の使用

- デフォルトの追加オプションをそのまま使用する場合は、【OK】をクリックします。選択したファイルがソース管理に追加され、指定されたアーカイブディレクトリに、アーカイブが作成されます。各項目のアイコンに金色の円柱 (📌) が付いて、その項目がソース管理下にあることが示されます。

ソース管理プロジェクトに追加するワークステーションを増やす

Eclipse プロジェクトがソース管理下に置かれた後は、Version Manager プロジェクトデータベースにアクセス可能な任意のワークステーションからこのプロジェクトを開くことができます。ソース管理プロジェクトに追加するワークステーションを増やす方法として、次の 2 つがあります。

- 〈Merant Team Provider (Merant チームプロバイダ)〉からプロジェクトを開きます。
- プロジェクトセットファイルをエクスポートおよびインポートします。

〈Merant Team Provider (Merant チームプロバイダ)〉から開く

既存のリポジトリをワークスペースに追加するには、次の操作を行います。

- 1 [Serena-SB] - [Open from Serena Team Provider (Serena チームプロバイダから開く)] を選択します。[Get Project from Source Control (ソース管理からプロジェクトを取得)] ダイアログボックスが表示され、現在のプロジェクトデータベース内のプロジェクトの一覧が表示されます。
開こうとしているプロジェクトが含まれているプロジェクトデータベースが表示されていない場合は、【Open Database (データベースを開く)】をクリックして、正しいデータベースを探します。
- 2 開くプロジェクトを選択します。
- 3 [Login (ログイン)] ダイアログボックスが表示される場合は、自分のユーザ ID とパスワードを入力します。
- 4 〈Workfile Location (作業ファイルの場所)〉フィールドにすべてのプロジェクトファイルに対する場所を入力するか、または【Browse (参照)】ボタンをクリックして場所を選択します。
- 5 【OK】をクリックします。

プロジェクトセットファイルのエクスポートおよびインポート

プロジェクトセットファイルには、既存のソース管理プロジェクトにほかのワークステーションを追加するために必要なパス情報があります。

プロジェクトセットファイルをエクスポートするには、次の操作を行います。

- 1 [File (ファイル)] - [Export (エクスポート)] を選択します。[Export (エクスポート)] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 〈Select an export destination (エクスポート先の選択)〉リストボックスから [Team Project Set (チームプロジェクトセット)] を選択します。
- 3 【Next (次へ)】をクリックします。
- 4 〈File name (ファイル名)〉フィールドにパスとファイル名を入力するか、ブラウズしてエクスポート先を選択します。
- 5 【Finish (終了)】をクリックします。*.PSF ファイルが選択したディレクトリに作成されます。
- 6 この *.PSF ファイルを各ワークステーションに送達するか、ネットワークから使用可能にします。

プロジェクトセットファイルをインポートするには、次の操作を行います。

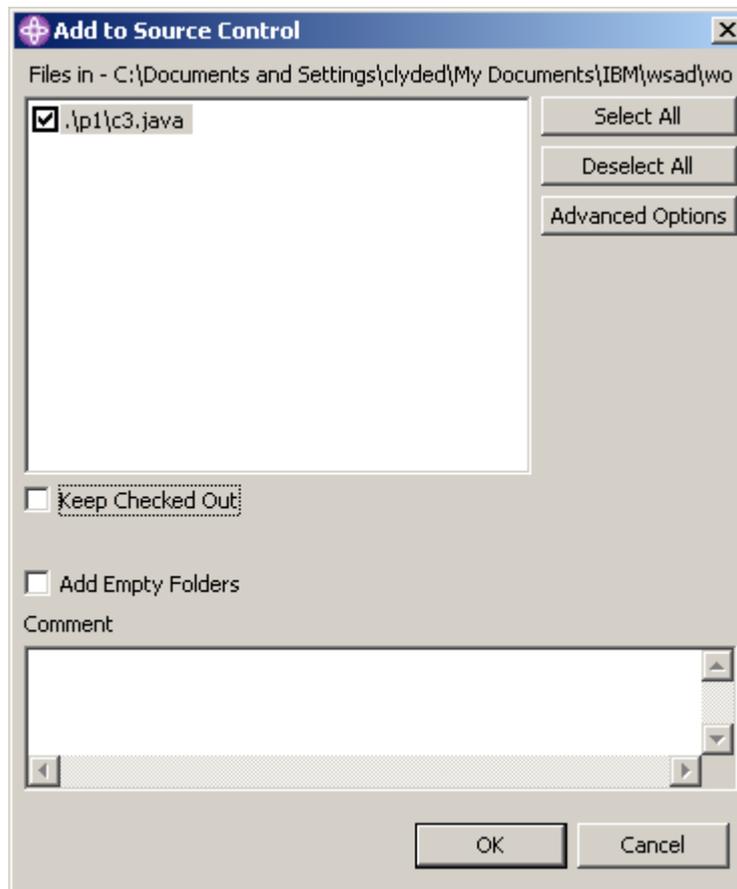
- 1 [File (ファイル)] - [Import (インポート)] を選択します。[Import (インポート)] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 〈Select an import source (インポートソースの選択)〉リストボックスから [Team Project Set (チームプロジェクトセット)] を選択します。
- 3 【Next (次へ)】をクリックします。
- 4 〈File name (ファイル名)〉フィールドにパスと *.PSF ファイルの名前を入力するか、ブラウズして選択します。
- 5 【Finish (終了)】をクリックします。

新規ファイルのソース管理への追加

Eclipse プロジェクトをソース管理に追加した後は、新規 IDE ファイルをいつでもソース管理に追加できます (Eclipse をプロジェクトデータベースに追加する方法については、423 ページの『プロジェクトのソース管理への追加』を参照してください)。

すでにソース管理下にある IDE プロジェクトに新規ファイルを追加するには、次の操作を行います。

- 1 パッケージエクスプローラまたはナビゲータで IDE プロジェクトのルートをクリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- 2 [Team (チーム)] – [Add (追加)] を選択します。[Add to Source Control (ソース管理に追加)] ダイアログボックスに選択された追加するファイルの一覧が表示されます。



- 3 以下のうち必要な作業を行います。
 - 選択対象ファイルを変更するには、〈Files in (ファイルの場所)〉リストボックスでファイルを選択または選択解除します。
 - ソース管理への追加と同時にファイルをチェックアウトし、ロックする場合は、〈Keep Checked Out (チェックアウト状態を保持)〉チェックボックスを選択します。
 - 空のフォルダをソース管理に追加するには、〈Add Empty Folders (空のフォルダの追加)〉チェックボックスを選択します。開発者がソース管理からプロジェクトを開いたときに空のフォルダが追加されます。

- 4 〈Comment (コメント)〉フィールドに、ファイルの説明を入力します。この説明は、選択したすべてのファイルに適用されます。



ヒント ファイルごとに固有の説明を付ける場合は、〈Comment (コメント)〉フィールドを空白のままにします。〔Add to Source Control (ソース管理に追加)〕ダイアログボックスへの入力が終わると、〔Change Description (変更の説明)〕ダイアログボックスが表示されます。各ファイルに順次説明を入力します。

- 5 以下のいずれかを実行します。

詳細設定の使用

- バージョンラベルまたはプロモーショングループを初期のリビジョンに割り当てるには、【Advanced Options (詳細設定)】をクリックします。〔Merant Advanced Add (追加の詳細設定)〕ダイアログボックスが開きます (詳細設定については、[37 ページの『追加の詳細設定』](#)を参照してください)。

デフォルト値の使用

- デフォルトの追加オプションをそのまま使用する場合は、【OK】をクリックします。選択したファイルがソース管理に追加され、指定されたアーカイブディレクトリに、アーカイブが作成されます。各項目のアイコンに金色の円柱 (📌) が付いて、その項目がソース管理下にあることが示されます。

ソース管理からのプロジェクトの削除

ソース管理からプロジェクトを削除しても、Version Manager アーカイブは削除されません。IDE プロジェクトとアーカイブ間の関連付けが削除されるだけです。

プロジェクトをソース管理から削除するには、次の操作を行います。

- 1 パッケージエクスプローラまたはナビゲータでプロジェクトアイコンを右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- 2 [Team (チーム)] - [Disconnect Project (プロジェクトの削除)] を選択します。プロジェクトを削除するかどうかを確認するメッセージが表示されます。
- 3 【Yes (はい)】をクリックします。

ソース管理からのファイルの削除

ソース管理からファイルを削除しても、Version Manager アーカイブは削除されません。IDE ファイルとアーカイブ間の関連付けが削除されるだけです。この後、いつでもファイルをソース管理に戻すことができます。

ソース管理からファイルを削除するには、次の操作を行います。

- 1 パッケージエクスプローラまたはナビゲータで削除するファイルを選択して、右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- 2 [Team (チーム)] - [Remove (削除)] を選択します。削除するファイルが〔Remove from Merant Team Provider (Merant チームプロバイダからの削除)〕ダイアログボックスに表示されます。
- 3 一覧から必要に応じてファイルを選択または選択解除します。
- 4 【OK】をクリックします。

ソース管理に
ファイルを戻す

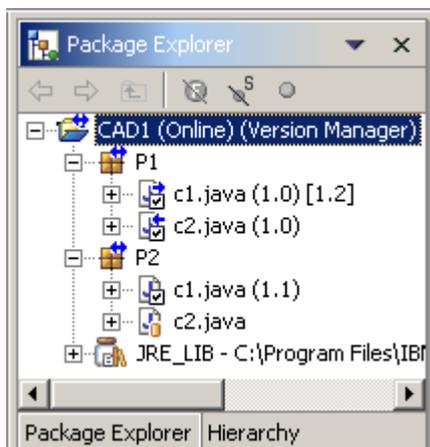
ソース管理にファイルを戻す方法の詳細は、[36 ページの『ソース管理から削除したファイルの追加』](#)を参照してください。

ソース管理の使用法

内容 このセクションでは、ソース管理下のファイルの表示および編集に関する操作を説明します。

ソース管理ステータスの表示

次の図に示すように、パッケージエクスプローラまたはナビゲータのオブジェクトアイコンの隣にマークとテキストを表示してステータスとリビジョン情報が示されます。



次の表に表示される内容を示します。

図形 / テキスト . . .	状態 . . .
(Online (オンライン)) (Offline (オフライン))	オンラインモードまたはオフラインモードで作業中です。
(1.0)	ソース管理からワークスペースに取得またはチェックアウトしたりリビジョンです。
[1.2]	チップがワークスペースのリビジョンでない場合、ソース管理リポジトリの現在のチップリビジョンです。
	オブジェクトがソース管理下にあり、チェックインされています。
	チェックアウトされたオブジェクトがあります。
	ほかのユーザがオブジェクトをチェックアウトしています。
	複数のユーザがオブジェクトをチェックアウトしていますが、ユーザ本人は含まれていません。
	複数のユーザがオブジェクトをチェックアウトしていますが、ユーザ本人が含まれています。
	オブジェクトはローカルモードです。
	オブジェクトには、ローカルに変更されたオブジェクトが含まれているか、ソース管理リポジトリに新しいリビジョンがあります。

図形 / テキスト . . .	状態 . . .
→	オブジェクトがローカルに変更されて、リポジトリとは同期していません。
+	リポジトリにはこのオブジェクトの新しいリビジョンが含まれています。 注 ローカルオブジェクトを変更すると、図形が右向き矢印に変わります。

ステータス情報を更新するには、プロジェクトを右クリックし、[Team (チーム)] - [Refresh Project Status (プロジェクトステータスの更新)] を選択します。

Merant アイコンの絵文字を有効にする

デフォルトでは、Merant のアイコン絵文字が使用可能になっています。

Merant のアイコン絵文字を使用可能にするには、次の操作を行います。

- 1 [Window (ウィンドウ)] - [Preferences (設定)] を選択します。[Preferences (設定)] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 [Workbench (ワークベンチ)] の隣の「+」記号をクリックして [Label Decorations (ラベル装飾)] を選択します。
- 3 <Available label decorations (使用可能ラベル装飾)> リストボックスで [Merant] を選択します。
- 4 【OK】をクリックします。

ファイルの取得

ファイルを取得すると、選択されたリビジョンが、作業ファイルの場所に読み取り専用ファイルとしてコピーされます。

リビジョンを取得するには、次の操作を行います。

- 1 パッケージエクスプローラまたはナビゲータで、取得するファイルを選択して、右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- 2 [Team (チーム)] - [Get (取得)] を選択します。[Get (取得)] ダイアログボックスに選択したファイルの一覧が表示されます。このリストでファイルを選択または選択解除して、選択するファイルを変更できます。
- 3 以下のいずれかを実行します。

詳細設定の使用

- デフォルトの取得オプションを変更するには、【Advanced Options (詳細設定)] をクリックします。[Merant Advanced Get (取得の詳細設定)] ダイアログボックスが開きます (詳細設定については、54 ページの『ファイルの取得』を参照してください)。

デフォルト値の使用

- デフォルトの取得オプションを使用する場合は、【OK】をクリックします。選択したリビジョンが、読み取り専用ファイルとして作業ファイルの場所にコピーされます。

ファイルのチェックアウト

ファイルをチェックアウトすると、リビジョンはロックされ、書き込み可能な作業ファイルが作業ファイルの場所に作成されます。

ファイルをチェックアウトするには、次の操作を行います。

- 1 パッケージエクスプローラまたはナビゲータで、チェックアウトするファイルを選択して、右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- 2 [Team (チーム)] - [Checkout (チェックアウト)] を選択します。[Check Out (チェックアウト)] ダイアログボックスに選択したファイルの一覧が表示されます。このリストでファイルを選択または選択解除して、選択するファイルを変更できます。
- 3 (オプション) 最初にファイルをソース管理でロックしないで、ファイルをローカルに変更するには、〈Make Files Local (ファイルをローカルで作成)〉チェックボックスを選択します。



注 ユーザがローカルモードで使用中のファイルに対して、ほかのユーザは引き続きチェックアウト、変更、変更内容のチェックインができます。ローカルモードで行った変更をチェックインすることにした場合に、コードの競合が発生した場合は、ユーザ自身が競合を解決する必要があります。435 ページの『ローカルモードの使用』を参照してください。

- 4 以下のいずれかを実行します。

詳細設定の使用

- デフォルトのチェックアウトオプションを変更するには、【Advanced Options (詳細設定)】をクリックします。[Merant Advanced Check Out (Merant チェックアウトの詳細設定)] ダイアログボックスが開きます (詳細設定については、57 ページの『ファイルのチェックアウト』を参照してください)。

デフォルト値の使用

- デフォルトのチェックアウトオプションを使用するには、【OK】をクリックします。プロジェクトエクスプローラのファイルアイコンの隣に、チェックマーク (☑) が表示され、チェックアウトされたことが示されます。

ファイルのロック

ファイルをロックすると、リビジョンがソース管理でロックされますが、作業ファイルの場所にはファイルは書き込まれません。したがって、既存の作業ファイルには上書きされません。リビジョンをロックしても作業ファイルの書き込み属性は変更されません。

ファイルをロックするには、次の操作を行います。

- 1 パッケージエクスプローラまたはナビゲータで、ロックするファイルを選択して、右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- 2 [Team (チーム)] - [Lock (ロック)] を選択します。[Check Out (チェックアウト)] ダイアログボックスに選択したファイルの一覧が表示されます。このリストでファイルを選択または選択解除して、選択するファイルを変更できます。
- 3 (オプション) 最初にファイルをソース管理でロックしないで、ファイルをローカルに変更するには、〈Make Files Local (ファイルをローカルで作成)〉チェックボックスを選択します。



注 ユーザがローカルモードで使用中のファイルに対して、ほかのユーザは引き続きチェックアウト、変更、変更内容のチェックインができます。ローカルモードで行った変更をチェックインすることにした場合に、コードの競合が発生した場合は、ユーザ自身が競合を解決する必要があります。435 ページの『ローカルモードの使用』を参照してください。

4 以下のいずれかを実行します。

詳細設定の使用

- デフォルトのチェックアウトオプションを変更するには、【Advanced Options (詳細設定)】をクリックします。[Merant Advanced Check Out (Merant チェックアウトの詳細設定)] ダイアログボックスが開きます (詳細設定については、57 ページの『ファイルのチェックアウト』を参照してください)。

デフォルト値の使用

- デフォルトのチェックアウトオプションを使用するには、【OK】をクリックします。プロジェクトエクスプローラのファイルアイコンの隣に、チェックマーク (☑) が表示され、ロックされたことが示されます。

チェックアウトの取り消し

チェックアウトを取り消すと、アーカイブのロックが解除されて読み取り専用の作業ファイルが作業ファイルの場所に残されます。ファイルに加えられた変更は、アーカイブにはチェックインされません。

チェックアウトを取り消すには、次の操作を行います。

- 1 パッケージエクスプローラまたはナビゲータで、ロック解除するファイルを選択して、右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- 2 [Team (チーム)] - [Undo Checkout (チェックアウトの取り消し)] を選択します。[Undo Check Out (チェックアウトの取り消し)] ダイアログボックスが表示され、選択したファイルの一覧が示されます。このリストでファイルを選択または選択解除して、選択するファイルを変更できます。
- 3 以下のいずれかを実行します。

詳細設定の使用

- デフォルトのチェックアウト取り消しオプションを変更するには、【Advanced Options (詳細設定)】をクリックします。[Merant Advanced Undo Check Out (Merant チェックアウトの取り消しの詳細設定)] ダイアログボックスが表示されます。(詳細設定については、59 ページの『チェックアウトの取り消しについて』を参照してください)。

デフォルト値の使用

- デフォルトのチェックアウト取り消しオプションをそのまま使用する場合は、【OK】をクリックします。プロジェクトエクスプローラのファイルアイコンの隣に、チェックマークが消え、ロック解除されたことが示されます。

ファイルのチェックイン

作業ファイルをチェックインすると、デフォルトでは、以下の処理が行われます。

- ローカルモードのファイルを変更し、チップリビジョンが開始時のリビジョンよりも新しい場合には、Merant Merge Tool の実行を促すメッセージが表示されます。
- 新規リビジョンが作成され、それまでの最新リビジョンの次の番号が割り当てられます。
- 読み取り専用ファイルが作業ファイルの場所に残されます。
- アーカイブのロックが解除されます。

ファイルをチェックインするには、次の操作を行います。

- 1 パッケージエクスプローラまたはナビゲータで、チェックインするファイルを選択して、右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
 - 2 [Team (チーム)] - [Checkin (チェックイン)] を選択します。[Check In (チェックイン)] ダイアログボックスが表示され、選択したファイルのリストが示されます。このリストでファイルを選択または選択解除して、選択するファイルを変更できます。
 - 3 以下のうち必要な作業を行います。
 - チェックインした後にファイルのロックを保持するには、〈Keep Checked Out (チェックアウト状態を保持)〉チェックボックスを選択します。
- ロックの保持
- ファイルの比較
- 1つのアーカイブ内の2つのリビジョン、2つのアーカイブ、2つの作業ファイル、1つのリビジョンと1つの作業ファイルそれぞれでリビジョンを比較するには、次の操作を行います。
 - a 〈Files in (ファイルの場所)〉リストボックスから1つのファイルを選択します。
 - b 【Differences (相違点)】をクリックします。[Show Differences (相違点の表示)] ダイアログボックスが表示されます。詳細は、91 ページの『相違点レポートについて』を参照してください。
- 4 変更内容の説明を〈Comment (コメント)〉フィールドに入力します。この説明は、選択したすべてのファイルに適用されます。



ヒント ファイルごとに固有の説明を付ける場合は、〈Comment (コメント)〉フィールドを空白のままにします。[Add to Source Control (ソース管理に追加)] ダイアログボックスへの入力が終わると、[Change Description (変更の説明)] ダイアログボックスが表示されます。各ファイルに順次説明を入力します。

変更しなかったファイルについては、説明の入力を求めるメッセージは出されません。未変更ファイルには説明として「変更なし」が適用されます。

- 5 以下のいずれかを実行します。

詳細設定の使用

- デフォルトのチェックインオプションを変更するには、【Advanced Options (詳細設定)】をクリックします。[Merant Advanced Check In (Merant チェックインの詳細設定)] ダイアログボックスが開きます (詳細設定については、60 ページの『ファイルのチェックイン』を参照してください)。

デフォルト値の使用

- デフォルトのチェックインオプションを変更しない場合は、【OK】をクリックします。プロジェクトエクスプローラのファイルアイコンの隣に、チェックマークが消え、チェックインされたことが示されます。

名前の変更または移動の使用（リファクタリング）



注

- オフラインモードでは、リファクタリングできますが、かなりのリスクを伴います。ユーザがオフラインの間にほかのユーザがコードをリファクタリングすると、ユーザのオフラインリファクタリングではほかのユーザが行った変更を認識できません。この結果、エラーとなり、手動による修正が必要になります。
- リファクタリングによってアーカイブ名が作業ファイル名と一致しなくなります。この結果、Configuration Builder 内から呼び出される CLI スクリプトなどのコマンドラインインターフェイス（CLI）との互換性がなくなります。CLI ではどれがプロジェクトであることを認識できないので、名前が一致していることが必須条件となります。その代わりに、ユーザはプロジェクトコマンドラインインターフェイス（PCLI）を使用することができます（プロジェクトメタデータを介して作業ファイル名とアーカイブ名を解釈できるので、Version Manager デスクトップクライアントまたは IDE クライアントがこの影響を受けることはありません）。

名前の変更または移動を使用するには、次の操作を行います。

- 1 複数のユーザからアクセスされるプロジェクトの名前の変更したり、移動する前に、すべてのユーザは変更をチェックインする必要があります。
- 2 Java Perspective などパッケージエクスプローラを使用できるパースペクティブを開きます。
- 3 パッケージエクスプローラを選択してアクティブにします。
- 4 名前を変更したり移動したりする項目を選択して、次のいずれかを行います。
 - [Refactor（リファクタリング）] - [Rename（名前の変更）（または Move（移動）)] を選択します。
 - 右クリックして、[Refactor（リファクタリング）] - [Rename（名前の変更）（または Move（移動）)] を選択します。
- 5 ファイルをチェックアウトした場所以外にチェックインする動作に対して、確認を求めるメッセージが表示されます。この操作を続行します。
- 6 変更したプロジェクトで作業するには、すべてのユーザがソース管理から更新後のプロジェクトを取得する必要があります。431 ページの『ファイルの取得』または 439 ページの『ワークスペースとソース管理の同期化』を参照してください。

ローカルモードの使用

ローカルモードで作業をすると、ソース管理からチェックアウトせずにプロジェクトまたはファイルあるいはその両方を編集することができます。ローカルモードは、IDE 全体に影響を及ぼすオフラインモードとは異なり、個別のプロジェクトまたはファイル単位で使用可能にできます。

ファイルをローカルモードにする

ファイルをローカルモードにするには、次の操作を行います。

- 1 パッケージエクスプローラまたはナビゲータで、ローカルモードで処理するプロジェクトまたはファイルを選択して、右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- 2 以下のいずれかを実行します。
 - [Team（チーム）] - [Local Mode（ローカルモード）] を選択します。

- [Team (チーム)] – [Checkout (チェックアウト)] を選択し、続いて [Checkout (チェックアウト)] ダイアログボックスの〈Make Files Local (ファイルをローカルで作成)〉チェックボックスを選択します。通常どおりに、チェックアウト操作を完了します。

ローカルモードの図形 (回) が、選択したファイルのアイコンに表示されます。

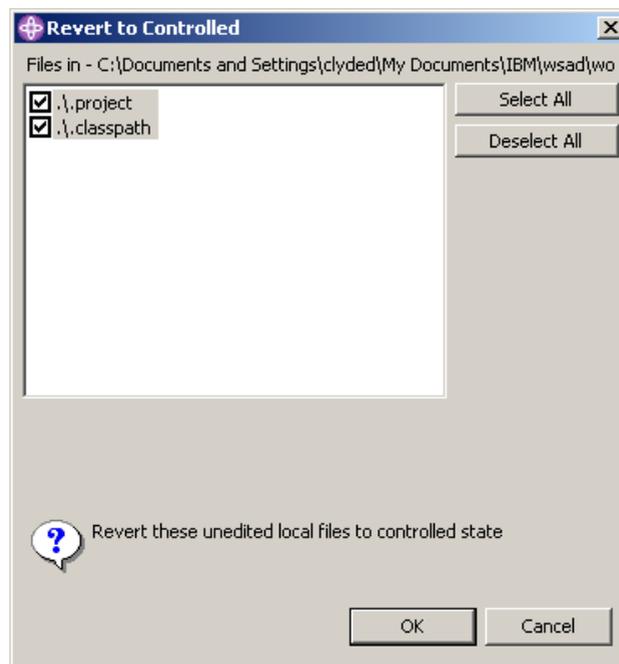


ヒント [Check Out (チェックアウト)] ダイアログボックスの〈Make Files Local (ファイルをローカルで作成)〉チェックボックスを選択してもファイルをローカルモードにすることができます。

ローカルモードのファイルをコントロールモードに戻す

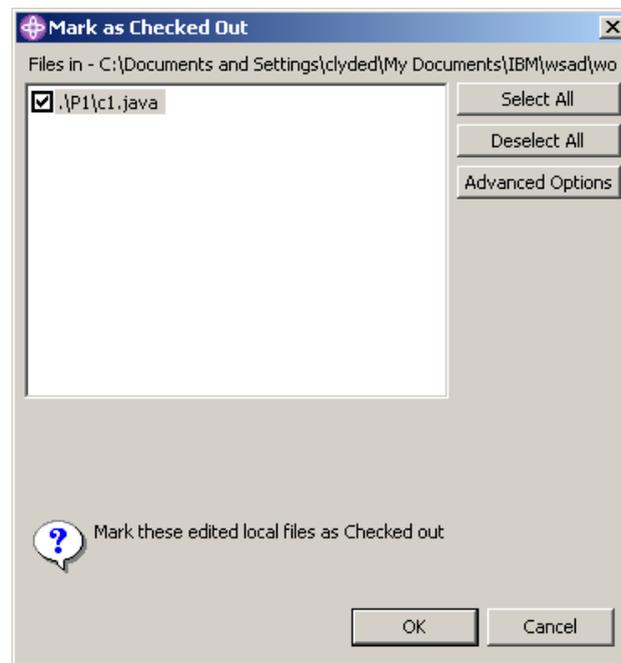
ファイルをコントロールモードに戻すには、次の操作を行います。

- 1 パッケージエクスプローラまたはナビゲータで、コントロールモードに戻すプロジェクトまたはファイルを選択します。ポップアップメニューが表示されます。
- 2 [Team (チーム)] – [Revert Controlled (ソース管理に戻す)] を選択します。検出される変更内容に応じて、次のいずれかの状態になります。
 - [Revert Controlled (ソース管理に戻す)] ダイアログボックスに、ローカルモードの間に変更されなかったファイルの一覧が表示されます。

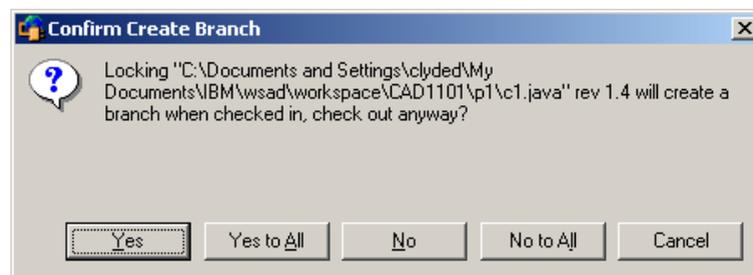


この一覧で必要なファイルを選択または選択解除して、【OK】をクリックします。選択解除されたファイルがローカルモードではなくなります。

- [Mark as Checked Out (チェックアウトとしてマーク)] ダイアログボックスに、ローカルモードで編集したファイルの一覧が表示されます。



- この一覧で必要なファイルを選択または選択解除して、【OK】をクリックします。
- ユーザがオフラインの際に、ほかのユーザがファイルの変更をチェックインしていた場合、[Confirm Create Branch (ブランチ生成の確認)] ダイアログボックスが表示されます。



【Yes (はい)】または【Yes to All (すべてはい)】をクリックします。



注 ファイルをチェックインすると、後で、チップリビジョンにマージするかどうか尋ねられます。【Yes (はい)】をクリックすると、Merge ツールが起動します。【No (いいえ)】をクリックすると、リビジョンを開始したときのリビジョンのブランチとしてチェックインされます。

選択したファイルがローカルモードでなくなり、ユーザによってチェックアウトされたことが示されます。ローカルモードでの編集をソース管理に追加するには、ファイルをチェックインします。

選択解除されたファイルがローカルモードではなくなります。ローカルモードの編集を上書きするには、取得またはチェックアウトを行います。

オフライン処理

オフラインモードでの処理が可能となるように、統合を設定できます。この設定によって、ファイルをソース管理からチェックアウトせずに、プロジェクトをローカルモードで編集できるようになります。次を行う場合には、この機能が役立ちます。

- コードを試すだけで、変更をチェックインしない場合
- ネットワーク接続されていない間に開発を継続し、再接続時にオフラインでの変更をソース管理に同期化させる場合



注 オフラインモードでは、リファクタリングできますが、かなりのリスクを伴います。ユーザがオフラインの間にほかのユーザがコードをリファクタリングすると、ユーザのオフラインリファクタリングではほかのユーザが行った変更を認識できません。この結果、エラーとなり、手動による修正が必要になります。

オンライン / オフラインでの確認を可能にする

IDE の起動時に表示される、オンラインまたはオフラインいずれのモードで作業するかを尋ねる確認を行うことができます。

オンライン / オフラインでの確認を可能にするには、次の操作を行います。

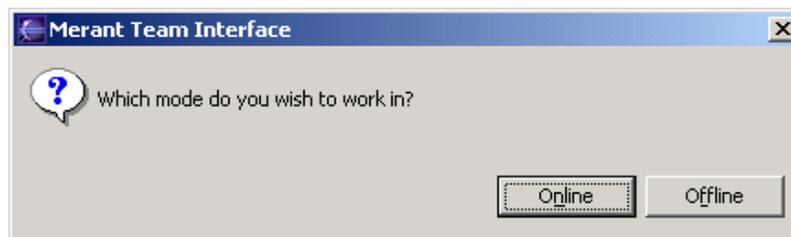
- 1 [Window (ウィンドウ)] - [Preferences (設定)] を選択します。[Preferences (設定)] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 左側の表示部の [Team (チーム)] の下にある [Merant] を選択します。Merant 表示部が表示されます。
- 3 <Ask to go Offline at startup (スタート時にオフラインでの作業を確認)> チェックボックスを選択します。
- 4 【OK】をクリックします。

オフラインモードを開始 / 終了するには

オンライン / オフライン確認が使用可能になった後は、IDE の開始時にオフラインモードを開始したり、終了したりできます。

オフラインモードを開始 / 終了するには、次の操作を行います。

- 1 IDE を起動します。IDE が起動すると確認メッセージが表示されます。



- 2 【Online (オンライン)】をクリックしてオンラインモードに入るか、【Offline (オフライン)】をクリックしてオフラインモードに入ります。選択したモードは、IDE を再起動するか、別の選択を行うまで有効状態を続けます。パッケージエクスプローラおよびナビゲータの各プロジェクトの隣に現在のモードが (オンライン) または (オフライン) として表示されます。



注 オフラインモードの間に行った変更をチェックインする場合は、オンラインモードに入ってから、ローカルワークスペースをソース管理に同期させる必要があります (次のセクションを参照)。

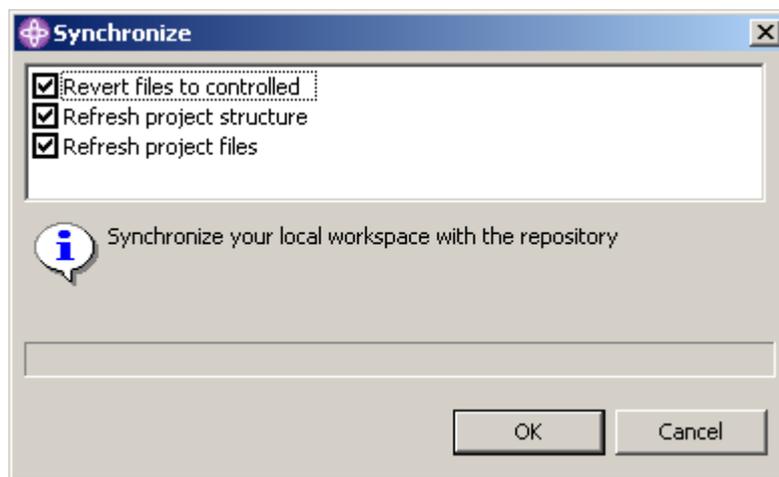
ワークスペースとソース管理の同期化

複数ユーザ環境では、次の場合にワークスペースとソース管理を同期させる必要があります。

- ほかのユーザがソース管理プロジェクトから削除した、ユーザのワークスペースからファイルを削除する場合
- ほかのユーザがソース管理プロジェクトに追加した、ユーザのワークスペースにファイルを追加する場合
- 自分のローカルワークスペースに追加したソース管理プロジェクトにファイルを追加する場合
- ほかのユーザが変更してソース管理プロジェクトにチェックインした、ユーザのローカルワークスペース内のファイルの内容を更新する場合
- 自分のローカルワークスペースで変更したソース管理プロジェクト内のファイルの内容を更新する場合

ワークスペースとソース管理を同期化するには、次の操作を行います。

- 1 パッケージエクスプローラまたはナビゲータで、同期化するプロジェクトを選択して、右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- 2 [Team (チーム)] - [Synchronize Project (プロジェクトの同期)] を選択します。
[Synchronize (同期)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 実行する同期化操作のタイプを選択します。
 - Revert files to controlled (ファイルをコントロールモードに戻す) : ローカルワークスペース内のローカルモードのファイルをアクティブソース管理ステータスに戻します。ファイルが変更されている場合は、チェックアウトのマークが付けられます。[Refresh project files (プロジェクトファイルの更新)] を同時に選択すると、変更されたファイルがチェックインされます。

- Refresh project structure (プロジェクト構造の更新) : プロジェクトやファイルを追加または削除して、ワークスペースとソース管理プロジェクトを更新します。
 - Refresh project files (プロジェクトファイルの更新) : ローカルワークスペース内およびソース管理プロジェクト内のファイルの内容を更新します。
- 4 【OK】をクリックします。選択した同期化のタイプと検出された変更内容に応じて、次のいずれかの状態になります。

ファイルをコントロールモードに戻す

- [Revert to Controlled (ソース管理に戻す)] ダイアログボックスにローカルモードの間に変更されなかったファイルの一覧が表示されます。
 - a 一覧から必要に応じてファイルを選択または選択解除します。
 - b 【OK】をクリックします。選択解除されたファイルがローカルモードではなくなります。
- [Mark as Checked Out (チェックアウトとしてマーク)] ダイアログボックスにローカルモードで編集したファイルの一覧が表示されます。
 - a 一覧から必要に応じてファイルを選択または選択解除します。
 - b 【OK】をクリックします。選択したファイルがローカルモードでなくなり、ユーザによってチェックアウトされたことが示されます。

ローカルモードでの編集をソース管理に追加するには、ファイルをチェックインします。[Synchronize (同期)] ダイアログボックスで [Refresh project files (プロジェクトファイルの更新)] を選択していた場合は、次のダイアログボックスでファイルがチェックインされます。以下を参照してください。

プロジェクト構造を更新する

- [Refresh Project Structure (プロジェクト構造の更新) - New Repository Files (新規リポジトリファイル)] ダイアログボックスに、ソース管理プロジェクトにはあるがローカルワークスペースにはないファイルの一覧が表示されます。この一覧のファイルを選択および選択解除できます。
 - a 一覧から必要に応じてファイルを選択または選択解除します。
 - b 以下のいずれかを実行します。
 - デフォルトの取得オプションを変更するには、【Advanced Options (詳細設定)] をクリックします。[Merant Advanced Get (取得の詳細設定)] ダイアログボックスが開きます (詳細設定については、54 ページの『ファイルの取得』を参照してください)。
 - デフォルトの取得オプションを使用する場合は、【OK】をクリックします。ファイルが、読み取り専用ファイルとして作業ファイルの場所にコピーされます。
- [Refresh Project Structure (プロジェクト構造の更新) - New Local Files (新規ローカルファイル)] ダイアログボックスに、ローカルワークスペースにはあるがソース管理プロジェクトにはないファイルの一覧が表示されます。
 - a 以下のうち必要な作業を行います。
 - 選択対象ファイルを変更するには、(Files in (ファイルの場所)) リストボックスでファイルを選択または選択解除します。
 - ソース管理への追加と同時にファイルをチェックアウトし、ロックする場合は、(Keep Checked Out (チェックアウト状態を保持)) チェックボックスを選択します。
 - 空のフォルダをソース管理に追加するには、(Add Empty Folders (空のフォルダの追加)) チェックボックスを選択します。

- b <Comment (コメント)> フィールドに、ファイルの説明を入力します。この説明は、選択したすべてのファイルに適用されます。



ヒント ファイルごとに固有の説明を付ける場合は、<Comment (コメント)> フィールドを空白のままにします。〔Add to Source Control (ソース管理に追加)〕ダイアログボックスへの入力が終わると、〔Change Description (変更の説明)〕ダイアログボックスが表示されます。各ファイルに順次説明を入力します。

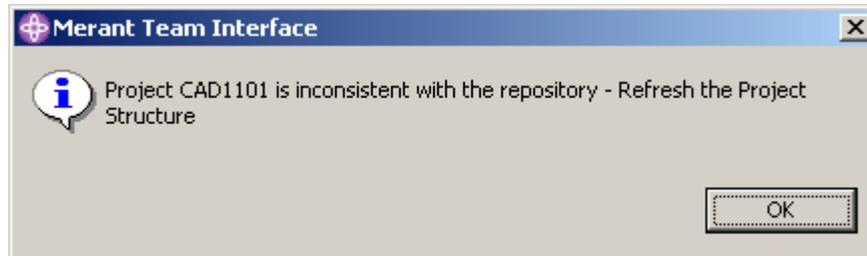
- c 以下のいずれかを実行します。

- バージョンラベルまたはプロモーショングループを初期のリビジョンに割り当てるには、【Advanced Options (詳細設定)】をクリックします。〔Merant Advanced Add (追加の詳細設定)〕ダイアログボックスが開きます (詳細設定については、[37 ページの『追加の詳細設定』](#)を参照してください)。
 - デフォルトの追加オプションをそのまま使用する場合は、【OK】をクリックします。各項目のアイコンに金色の円柱 (📌) が付いて、その項目がソース管理下にあることが示されます。
- [Refresh Project Structure (プロジェクト構造の更新) - Remove from Workspace (ワークスペースから削除)] ダイアログボックスにソース管理プロジェクトから削除されたが、まだローカルワークスペースに存在するファイルの一覧が表示されます。
- a 一覧から必要に応じてファイルを選択または選択解除します。
- b 【OK】をクリックします。
- [Check in Edited Files (編集ファイルのチェックイン)] ダイアログボックスが表示されます。
- a 一覧から必要に応じてファイルを選択または選択解除します。
- b チェックインと同時にファイルをチェックアウトし、ロックする場合は、<Keep Checked Out (チェックアウト状態を保持)> チェックボックスを選択します。
- c 編集内容の説明を <Comment (コメント)> フィールドに入力します。
- d 以下のいずれかを実行します。
- デフォルトのチェックインオプションを変更するには、【Advanced Options (詳細設定)】をクリックします。〔Merant Advanced Check In (Merant チェックインの詳細設定)〕ダイアログボックスが開きます (詳細設定については、[60 ページの『ファイルのチェックイン』](#)を参照してください)。
 - デフォルトのチェックインオプションを変更しない場合は、【OK】をクリックします。プロジェクトエクスプローラのファイルアイコンの隣に、チェックマークが消え、チェックインされたことが示されます。
- [Get Changed Files (変更ファイルの取得)] ダイアログボックスが表示されます。
- a 一覧から必要に応じてファイルを選択または選択解除します。
- b 以下のいずれかを実行します。
- デフォルトの取得オプションを変更するには、【Advanced Options (詳細設定)】をクリックします。〔Merant Advanced Get (取得の詳細設定)〕ダイアログボックスが開きます (詳細設定については、[54 ページの『ファイルの取得』](#)を参照してください)。
 - デフォルトの取得オプションを使用する場合は、【OK】をクリックします。ファイルが、読み取り専用ファイルとして作業ファイルの場所にコピーされます。

プロジェクト
ファイルの更新

オープン時にプロジェクト構造レポートの更新を可能にする

開こうとしているプロジェクトのリポジトリに、ワークスペース内の構造とは異なる構造がある場合、ユーザ宛てに通知が行われるように統合を設定することができます。設定した場合、ワークスペースとリポジトリを同期化するように確認メッセージが表示されます。【OK】をクリックして、確認メッセージを消去します。



注 ファイルがプロジェクトに追加されたり、削除された場合にのみ、確認メッセージが表示されません。ファイルの内容の変化は考慮されません。

オープン時にプロジェクト構造を更新する確認メッセージが出されるようにするには、次の操作を行います。

- 1 [Window (ウィンドウ)] – [Preferences (設定)] を選択します。[Preferences (設定)] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 左側の表示部のチームの下にある [Merant] を選択します。
- 3 <Refresh Project Structure Report on open (オープン時にプロジェクト構造更新の通知を行う)> チェックボックスを選択します。
- 4 【OK】をクリックします。

ローカル履歴との比較

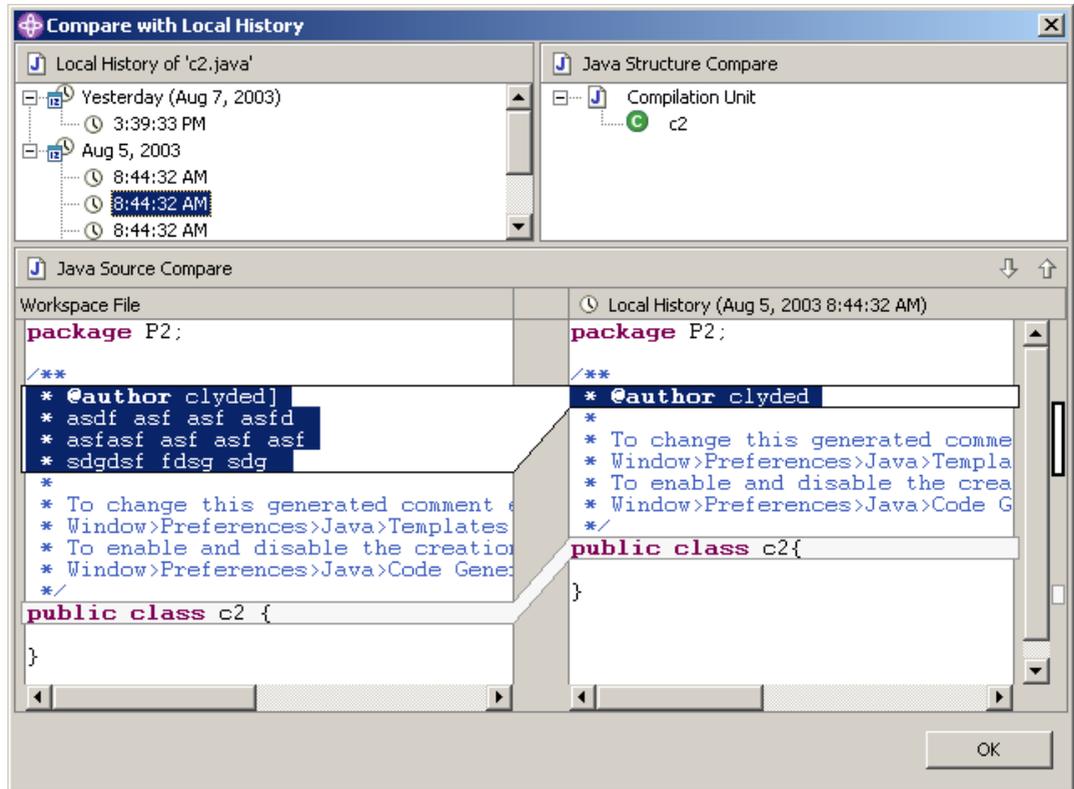
作業ファイルと作業ファイルに対して行われた変更のローカル履歴とを比較することができます。ファイルへの変更を保存するたびに、ローカル履歴に新規エントリが作成されます。



注 エントリの個数と保持期間を設定するには、[Window (ウィンドウ)] – [Preferences (環境設定)] を選択し、[Workbench (ワークベンチ)] の下の [Local History (ローカル履歴)] を選択します。詳細は、WebSphere Studio のヘルプを参照してください。

ローカル履歴との比較

- 1 パッケージエクスプローラまたはナビゲータで、比較するファイルを選択して、右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- 2 [Compare With (比較)] - [Local History (ローカル履歴)] を選択します。[Compare with Local History (ローカル履歴との比較)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 ファイル名表示部のローカル履歴からローカル履歴エントリを選択します。
- 4 【Select Next Change (次の変更の選択)】 (↓) と【Select Previous Change (直前の変更の選択)】 (↑) を使用して、変更を1つずつたどりま。
- 5 【OK】をクリックして、比較を終了します。

ローカル履歴との置き換え

作業ファイルに対して行われた変更のローカル履歴のエントリで作業ファイルを置き換えることができます。ファイルへの変更を保存するたびに、ローカル履歴に新規エントリが作成されます。



注 エントリの個数と保持期間を設定するには、[Window (ウィンドウ)] - [Preferences (環境設定)] を選択し、[Workbench (ワークベンチ)] の下の [Local History (ローカル履歴)] を選択します。詳細は、WebSphere Studio のヘルプを参照してください。

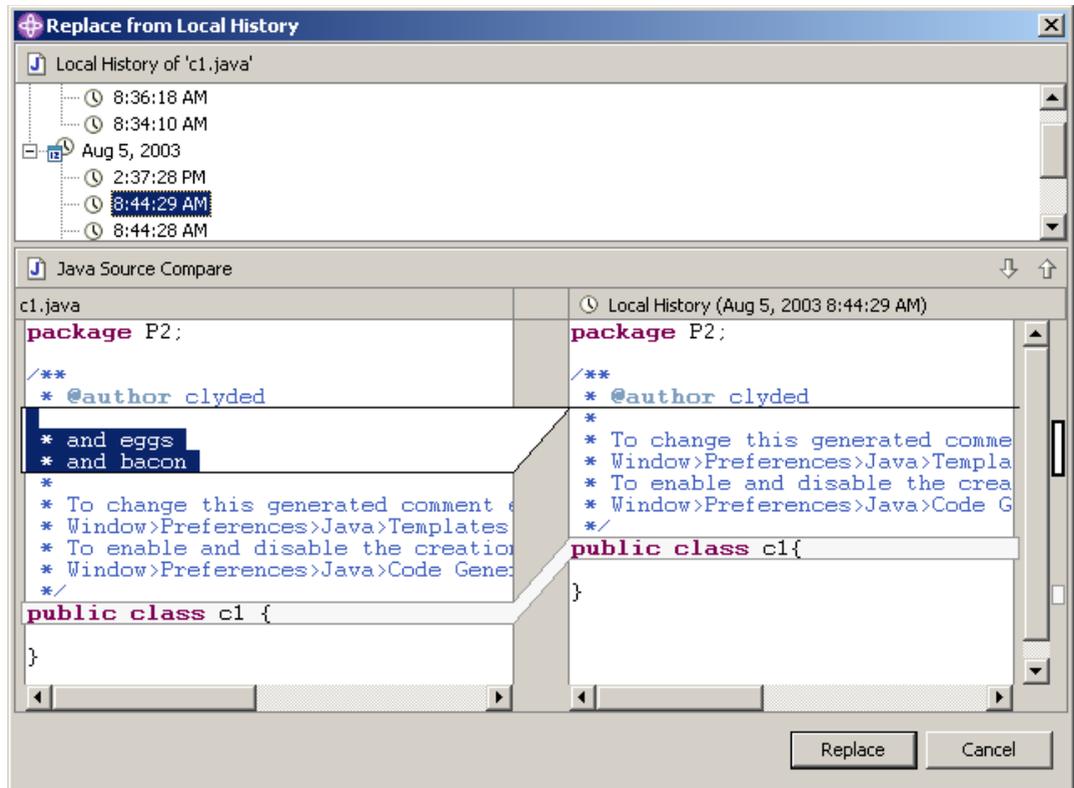
ローカル履歴で置き換えるには、次の操作を行います。

- 1 パッケージエクスプローラまたはナビゲータで、置き換えるファイルを選択して、右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。



注 ファイルはチェックアウトする必要があります。

- 2 [Replace With (置換)] - [Local History (ローカル履歴)] を選択します。[Replace from Local History (ローカル履歴からの置換)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 ファイル名表示部のローカル履歴からローカル履歴エントリを選択します。
- 4 【Select Next Change (次の変更の選択)】 (↓) と 【Select Previous Change (直前の変更の選択)】 (↑) を使用して、変更を 1 つずつたどりま。
- 5 以下のいずれかを実行します。
 - 作業ファイルを選択した履歴エントリで置き換えるには、【Replace (上書き)】をクリックします。
 - 作業ファイルを置き換えずにダイアログボックスを閉じるには、【Cancel (キャンセル)】をクリックします。

パート 3

5.3/6.0 プロジェクト

5.3/6.0 プロジェクトの変換	447
PowerBuilder プロジェクトの変換について	455
Visual Basic プロジェクトの変換について	459
Visual C++ プロジェクトの変換について	463

はじめに

- 内容** ここでは、Version Manager 5.3/6.0 のプロジェクトを Version Manager 6.5 以降のプロジェクトフォーマットに変換する場合の共通の概念および手順を説明します。IDE 固有の変換情報も含まれています。
- 目的** ここでは、既存の 5.3/6.0 プロジェクトから新しいプロジェクトフォーマットへの変換作業の手引きとなることを目的としています。
- 詳細情報** ここに記載されている情報のほかに、以下の各ドキュメントも参照してください。

情報	参照先
Version Manager プロジェクトの設定	『Version Manager 管理者ガイド』
ご使用の IDE におけるソース管理用の設定と実行	IDE ベンダが提供するドキュメントおよびオンラインヘルプ

第 21 章

5.3/6.0 プロジェクトの変換

はじめに	448
変換する理由	448
プロジェクトの変換	448
プロジェクトの変換時の処理	449
プロジェクト変換の準備	449
5.3/6.0 プロジェクトの変換	450
変換レポートの表示	454
変換の完了	454

はじめに

内容と目的	この章では、5.3/6.0 のプロジェクトを Version Manager 6.5 以降のプロジェクトフォーマットに変換する場合の概念および手順を説明します。この章では、以下の作業の手引きとなることを目的としています。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 5.3/6.0 プロジェクトを変換すべきかどうかの決定 ■ 変換のタイミングの決定 ■ プロジェクトの変換 ■ 変換されたプロジェクトの検証
IDE 固有の情報	各 IDE に固有な、変換の準備や作業手順については、この章の後にある、各 IDE の章を参照してください。
FrontPage	この章に含まれている手順は、FrontPage プロジェクトの変換には適用されません。110 ページの『バージョン 6.0 プロジェクトのアップグレード』を参照してください。

変換する理由

新規プロジェクトの設定	Version Manager IDE クライアントでは、Version Manager 6.5 以降がサポートされており、プロジェクトデータベース、プロジェクト、およびサブプロジェクトを使用してバージョン管理ファイルを編成し、実際の作業ディレクトリの構造を反映することができます。設定は、Version Manager 5.3/6.0 プロジェクトで使用されるマスタープロジェクトからではなく、プロジェクトデータベースから継承されるようになりました。
新機能	6.5 以降の Version Manager のプロジェクトでのみ使用可能な機能には、ネストされたプロジェクトのサポートのほかに、プロジェクトアーカイブの共有、プロジェクト全体でのバージョンラベルの割り当てなどがあります。 既存のプロジェクトでこれらの機能を使用し、Version Manager 6.5 以降のプロジェクトとの互換性を保つには、現在の Version Manager プロジェクトフォーマットに変換する必要があります。
5.3/6.0 プロジェクトの取り扱い	Version Manager 5.3/6.0 と Version Manager Source Code Control (SCC) Interface 6.0 の両方がシステムにインストールされている場合は、既存のバージョン 5.3/6.0 プロジェクトで引き続き作業を行うことができます。ただし、1 つの IDE 内で複数プロジェクトを開くには、それらのプロジェクトが同じソース管理プロバイダを使用する必要があります。
バージョンの切り替え	Version Manager IDE クライアントを使用すると、複数の Serena ソース管理プロバイダがインストールされている場合は、そのいずれかを選択することができます。詳細は、29 ページの『ソース管理プロバイダの選択』を参照してください。

プロジェクトの変換

変換は、開発プロジェクトの主要段階が完了した時点で行うことをお勧めします。変換したプロジェクトは、テストを行って確認してください。重要な段階でプロジェクトを変換すると、開発ワークフローが中断される場合があります。

プロジェクトの変換時の処理

5.3/6.0 プロジェクトを変換すると、Version Manager では以下の処理が行われます。

1 作業ファイルの階層に基づいてプロジェクトのテンポラリコピーを作成する

Version Manager により、まずプロジェクトのルートディレクトリに元のプロジェクトのコピーが作成されます。コピーされたプロジェクトの名前は !TEMP!source となります。source は、ソースプロジェクトの名前です。たとえば、Project1 という名前のプロジェクトをコピーすると、コピーされたプロジェクトの名前は !TEMP!Project1 となります。

作業ファイルの階層に基づいたプロジェクト構造

コピーの構造は、元のプロジェクトの作業ファイル階層に基づいています。元のプロジェクトが IDE プロジェクトの作業ディレクトリ以外にある作業ファイルを参照していても、それらのファイルは、変換したプロジェクトには表示されません。



注 作業ファイルをプロジェクトの作業ディレクトリ以外に置いて、複数の開発プロジェクトで作業ファイルを共有できるようにしていた場合は、それらの作業ファイルは新しいプロジェクトには表示されません。プロジェクト間での作業ファイル共有の復元については、ご使用の IDE での変換に関する章を参照してください。

2 選択したプロジェクトデータベースに新規プロジェクトを作成する

Version Manager によって、保存先として選択したプロジェクトデータベースに新規プロジェクトが作成されます。変換の最初の処理で作成されたテンポラリプロジェクトをコピーして、新しいプロジェクトを作成します。新規プロジェクトの名前は、ソースプロジェクトの名前と同じです。



注 名前に !TEMP! の付いたプロジェクトをコピーしても、新規プロジェクト名に !TEMP! は付きません。

3 変換レポートを作成する

変換の結果を記録する prjcvr.txt というログファイルが作成され、これによって変換が正常に行われたことが記録されます。新規プロジェクトに正常にコピーされなかったプロジェクトのファイルがある場合は、このログファイルに記録されています。デフォルトでは、変換レポートは変換したプロジェクトと同じディレクトリに保存されます。

プロジェクト変換の準備

5.3/6.0 プロジェクトを現在のプロジェクトフォーマットに変換する前に、以下の作業を行ってください。

- 使用している IDE での変換の説明の章で、プロジェクトの変換の前に行う手順を参照してください。
- 半角の角かっこ ([]) を含む名前を持つ 5.3/6.0 プロジェクトおよびフォルダはすべて、別の名前に変更してください。

5.3/6.0 プロジェクトの変換

前のセクションに記載されている、プロジェクトの準備が終わったら、現在のプロジェクトフォーマットへの変換を行います。

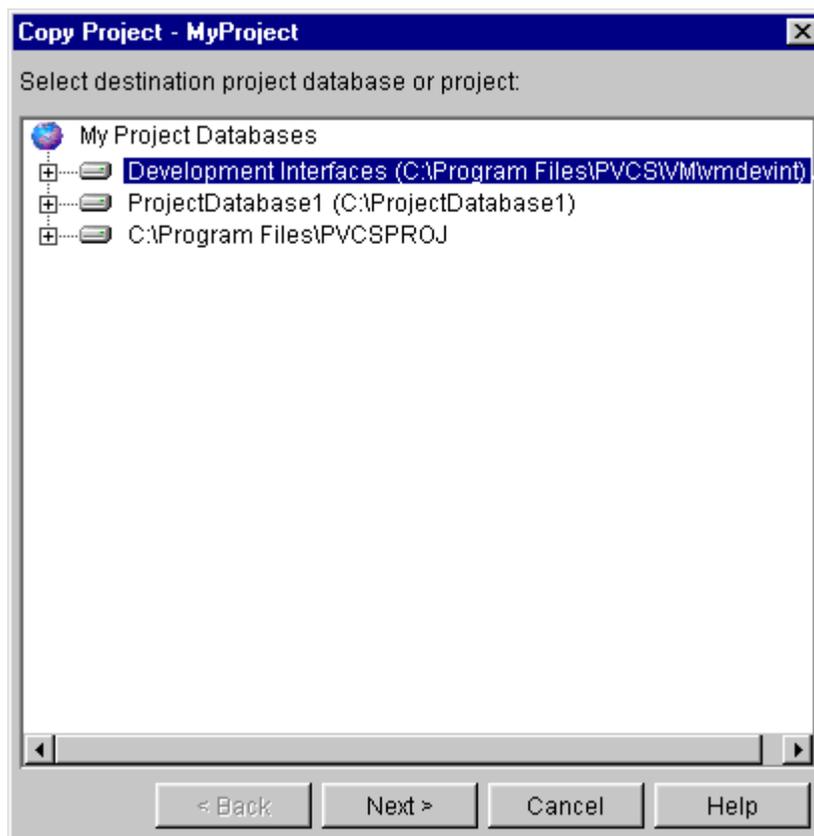
バージョン 5.3/6.0 のプロジェクトをプロジェクトデータベースにコピーするには、次の操作を行います。

- 1 Version Manager デスクトップクライアント（バージョン 6.5 以降）を起動します。
- 2 新規プロジェクトを作成するプロジェクトデータベースを作成するか、開きます。プロジェクトデータベース作成の詳細については、『Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。



重要！プロジェクトをコピーするには、目的のプロジェクトデータベースに Admin または SuperUser 権限が与えられているユーザ ID でログインする必要があります。

- 3 変換するプロジェクトを含むバージョン 5.3/6.0 のプロジェクトルートを開きます。
- 4 プロジェクト表示部で、変換するプロジェクトを選択します。一度に選択できるプロジェクトは 1 つだけです。
- 5 [Edit (編集)] – [Copy (コピー)] を選択します。最初の [Copy Project (コピー プロジェクト)] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスには、現在開いているプロジェクトデータベースがすべて表示されます。

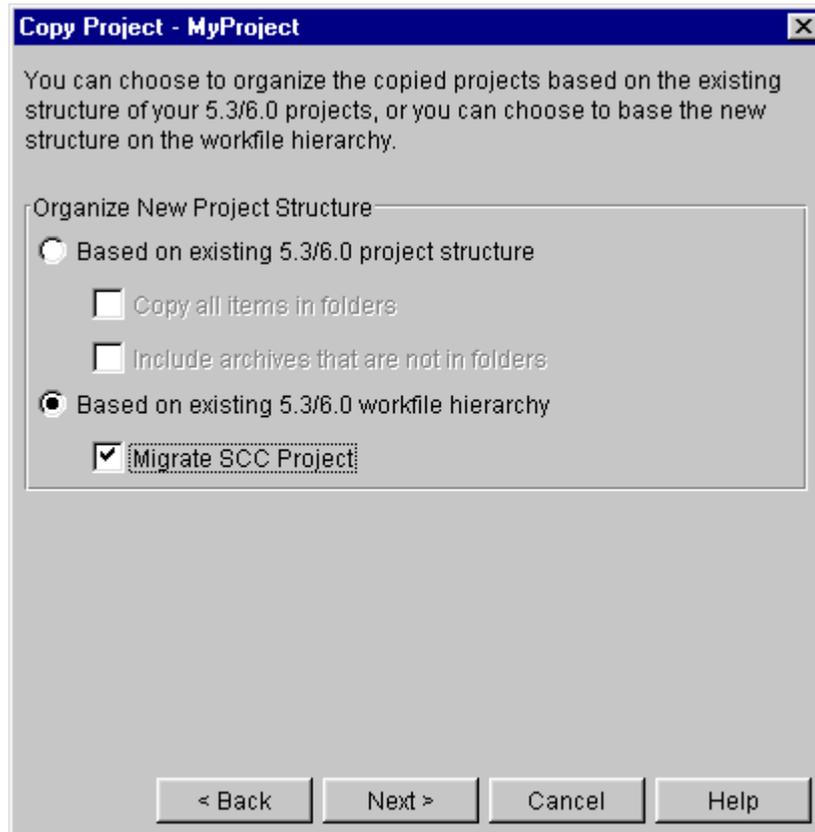


- プロジェクトのコピー先となるプロジェクトデータベース内のプロジェクトデータベースまたはプロジェクトを選択します。



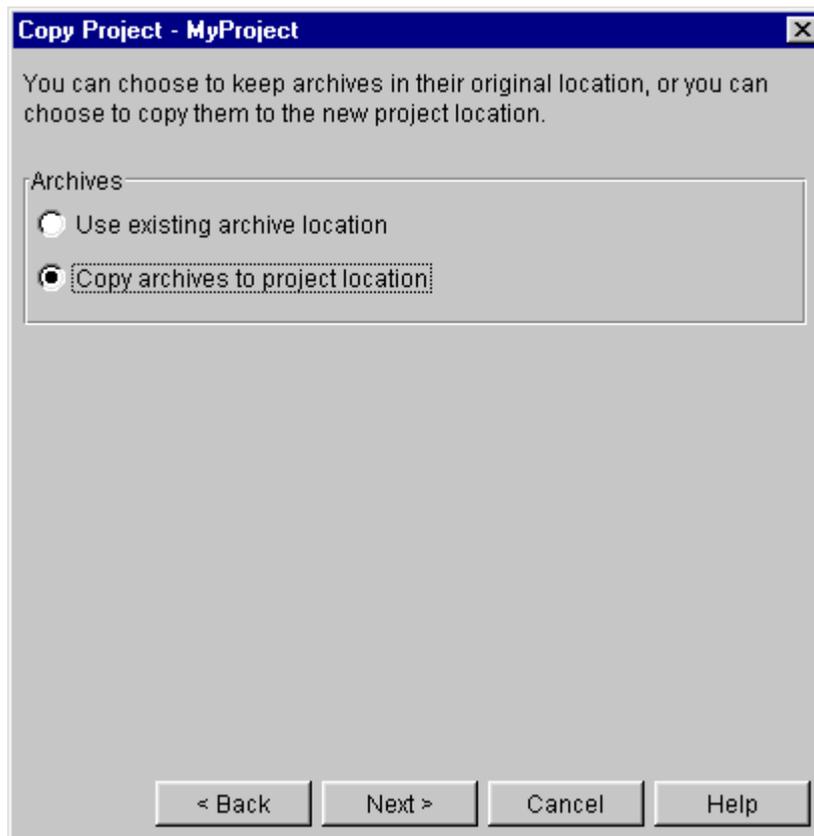
注 複数のプロジェクトでファイルを共有する場合は、すべてのプロジェクトに対して同じコピー先プロジェクトデータベースを選択する必要があります。38 ページの『複数のプロジェクトによるファイルの共有』を参照してください。

- 【Next (次へ)】をクリックします。2 番目の [Copy Project (コピープロジェクト)] ダイアログボックスが開き、新規プロジェクトの編成方法を選択するオプションが表示されます。



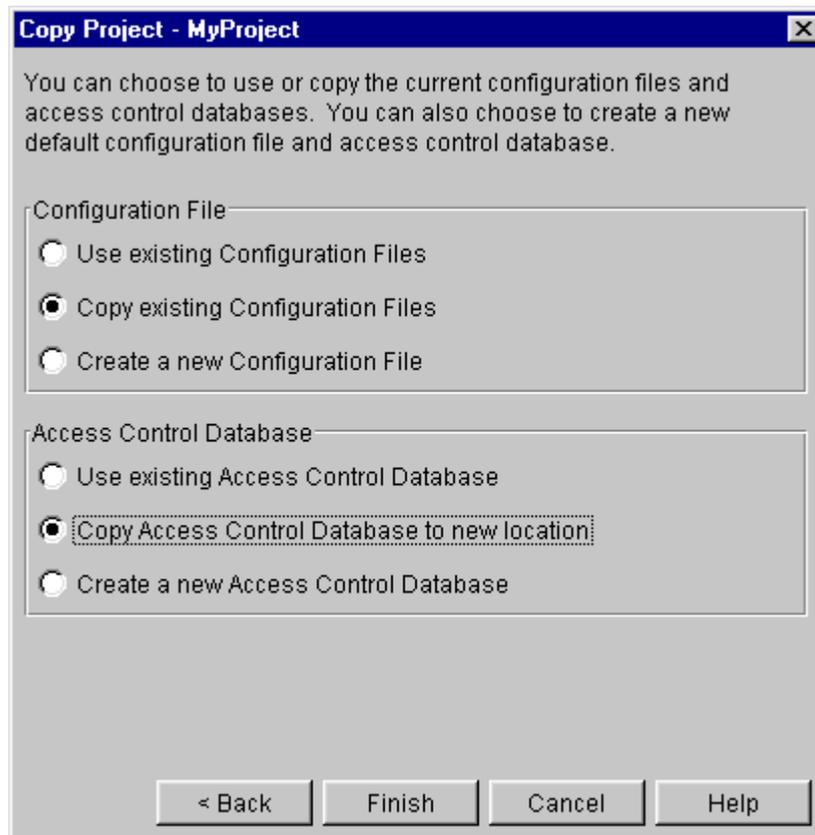
- 〈Based on existing 5.3/6.0 workfile hierarchy (既存の 5.3/6.0 作業ファイル階層構造に基づく)〉オプションを選択します。
- 〈Migrate SCC Project (SCC プロジェクトの移行)〉チェックボックスを選択します。

- 10 【Next (次へ)】をクリックします。3 番目の [Copy Project (コピープロジェクト)] ダイアログボックスが開き、アーカイブを新規プロジェクトのアーカイブディレクトリにコピーするか、既存の場所に残すかを選択するオプションが表示されます。



- 11 以下のいずれかのオプションを選択します。
- 〈Use existing archive location (既存のアーカイブの場所を使用)〉を選択して、現在の場所にある既存のアーカイブを引き続き参照します。このオプションでは、コピーされたプロジェクトは、バージョン 5.3/6.0 プロジェクトのアーカイブを共有します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。コピーされたプロジェクトに新しく追加されたファイルは、5.3/6.0 プロジェクトのアーカイブの場所ではなく、新しいプロジェクトのアーカイブの場所を参照します。
 - 〈Copy archives to project location (プロジェクトの場所にアーカイブをコピー)〉を選択して、アーカイブを新規プロジェクトディレクトリにコピーします。新規プロジェクトディレクトリのアーカイブは、元のプロジェクトディレクトリと同様に編成されます。

- 12 【Next (次へ)】をクリックします。4 番目の [Copy Project (コピープロジェクト)] ダイアログボックスが表示されます。



- 13 以下のオプションを選択します。
- プロジェクトでコンフィグレーションファイルを使用する場合は、〈Configuration Files (コンフィグレーションファイル)〉グループから〈Copy existing Configuration Files (既存のコンフィグレーションファイルをコピー)〉オプションを選択します。このオプションを選択すると、既存のコンフィグレーションファイルがコピーされ、新規プロジェクト構造に配置されます。
 - プロジェクトでアクセスコントロールデータベースを使用する場合は、〈Access Control Database (アクセスコントロールデータベース)〉グループから〈Copy Access Control Database to new location (アクセスコントロールを新しい場所にコピー)〉を選択します。このオプションを選択すると、既存のすべてのアクセスコントロールデータベースがコピーされ、新規プロジェクト構造に配置されます。
- 14 【Finish (終了)】をクリックします。Version Manager によって、新規プロジェクトが、保存先として選択したプロジェクトデータベースに作成されます。

Visual C++ のみ

Visual C++ プロジェクトを自動的に更新して、新しい Version Manager プロジェクトが参照されるようにするかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。変換が完了した後で、プロジェクトファイル (.dsp) を手動で更新することもできます。

以下のいずれかを実行します。

- 自動的に Visual C++ プロジェクトを更新する場合は、【Yes (はい)】をクリックします。
- Visual C++ プロジェクトを自動的に更新せずに変換を完了する場合は、【No (いいえ)】をクリックします。変換が完了した時点で、新しいプロジェクトが参照されるように Visual C++ プロジェクトファイル (.dsp) を手動で更新することもできます。465 ページの『[Visual C++ プロジェクトファイルの更新](#)』を参照してください。

- 15 変換レポートを表示するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。【Yes (はい)】をクリックします。

デフォルトのテキスト (.txt) エディタで、変換レポートの一時コピーが表示されます。変換レポートの表示については、次のセクションを参照してください。

変換レポートの表示

変換レポートの場所 変換中に、変換レポートの一時コピー（システムの一時ディレクトリにある PvMig）の表示を求められます。実際のレポートのファイル (prjcvr.txt) は、元の 5.3/6.0 プロジェクトのディレクトリに保存されています。

変換レポートの内容 変換レポートには、以下の情報が含まれます。

- 元の 5.3/6.0 プロジェクトおよび新しいプロジェクトの名前と場所
- 新しいプロジェクトに正しく追加されたファイルの一覧
- 元の 5.3/6.0 プロジェクトのファイルで、新しいプロジェクトにコピーされなかったものについてのエラーメッセージ

エラー ファイルが新しいプロジェクトに追加されない状況としては、以下のいずれかが考えられます。

- **プロジェクトのルートの作業ディレクトリ以外にあるファイル**

プロジェクトのルートの作業ディレクトリ以外にあるファイルは、新しいプロジェクトに含まれません。たとえば、元のプロジェクトの作業ディレクトリが c:\projectfiles で、そこに home.htm というファイルのみが含まれており、その作業ディレクトリが D:\workarea に設定されている場合は、以下のメッセージが表示されます。

```
FAILED - Cannot use the workfile path D:\workarea for the archive  
home.htm_v
```

- **関連付けられているアーカイブとは異なるファイル名を持つファイル**

元の 5.3/6.0 プロジェクトの作業ファイルが、関連付けられたアーカイブとは異なる名前の場合、新しいプロジェクトに含まれない場合があります。この場合は、変換レポートに以下のメッセージが表示されます。

```
FAILED - File information does not match for archive File.xxx_v.
```

変換の完了

レポートのウィンドウを閉じて、Version Manager に戻ります。変換を完了するには、ご使用の IDE での変換についての章を参照してください。

第 22 章

PowerBuilder プロジェクトの変換について

はじめに	456
プロジェクト変換の準備	456
変換	456
変換の完了	457

はじめに

- 内容と目的 この章では、Version Manager 5.3/6.0 のプロジェクトを Version Manager 6.5 以降のプロジェクトフォーマットに変換する場合の IDE 固有の手順を説明します。この章の目的は、変換プロセスの準備と完了に必要な IDE 固有の手順を実行するための手引きです。
- 詳細情報 変換の詳細については、[第 21 章、447 ページの『5.3/6.0 プロジェクトの変換』](#)を参照してください。

プロジェクト変換の準備

バージョン 5.3/6.0 プロジェクトを新しいプロジェクトフォーマットに変換する前に、以下の操作を行います。



重要！一度に変換できる Version Manager プロジェクトは 1 つだけです。

- 1 PowerBuilder プロジェクトのアプリケーションオブジェクトをソース管理に追加していない場合は、Version Manager SCC Interface 6.0 を使用して追加します。
- 2 プロジェクト内のアプリケーションオブジェクトを含むすべてのオブジェクトをチェックインします。
- 3 すべての PBL および Version Manager プロジェクトに関連付けられたファイルのバックアップを作成します。
- 4 Version Manager 5.3/6.0 のプロジェクトドメインとすべてのプロジェクトアーカイブのバックアップを作成します。プロジェクトドメインには、ルートプロジェクトディレクトリおよびその下のすべてが含まれます。



注 変換したプロジェクトを既存のプロジェクトがある Version Manager プロジェクトデータベースに追加する場合は、プロジェクトデータベースをバックアップすることをお勧めします。

- 5 既存の 5.3/6.0 プロジェクトのアーカイブが PBL 構造に基づいて構成されている場合、変換を完了する前に PBL の名前に対応するバージョンラベルを割り当てます。変換が完了したら、Version Manager デスクトップクライアントでバージョンラベルを使用してフィルタをかけて、特定の PBL に関連付けられたバージョン管理ファイルを、アプリケーションの PBL 構造を反映したサブプロジェクトにコピーします。

変換

前のセクションに記載された手順を完了したら、[第 21 章、447 ページの『5.3/6.0 プロジェクトの変換』](#)にある、変換の手順に従ってください。

[第 21 章、447 ページの『5.3/6.0 プロジェクトの変換』](#)の変換の手順を実行したら、この章に記載されている、IDE 固有の変換手順を実行してください。

変換の完了

PowerBuilder から変換された Version Manager プロジェクトでの作業を始める前に、以下の操作を完了する必要があります。

- 1 prjcvr.txt ログファイルを参照して、Version Manager が正常にすべてのオブジェクトを新規プロジェクトにコピーしたことを確認します。454 ページの『[変換レポートの表示](#)』を参照してください。
- 2 アプリケーションの各コピーを再設定して、新規 Version Manager プロジェクトを参照するようにします。457 ページの『[ソース管理設定の再設定](#)』を参照してください。

ソース管理設定の再設定

変換が完了したら、アプリケーションを再設定して新規 Version Manager プロジェクトを参照するようにします。複数の開発者がアプリケーションのそれぞれのローカルコピーを新規 Version Manager プロジェクトに追加して、次の手順をアプリケーションのすべてのコピーに繰り返し実行します。

アプリケーションのソース管理設定を再設定するには、次の手順を実行します。

- 1 PowerBuilder が現在開かれていないことを確認します。
- 2 PowerBuilder の初期化ファイル (PB.INI) を見つけて、テキストエディタで開きます。PB.INI ファイルは PowerBuilder 実行可能ファイル (.exe) と同じディレクトリに格納されています。
- 3 PB.INI ファイルのバックアップコピーを別の場所に保存します。
- 4 [Library] セクションで、アプリケーションに既存のソース管理コンフィグレーションファイル (.cfg) を関連付ける行を見つけて、削除します。たとえば、アプリケーションオブジェクトがドライブ C:\named APP1 の PBL に格納されていて、APP1.cfg という名前のコンフィグレーションファイルに関連付けられている場合、次の行を削除します。

```
$C:\APP1(APP1)=c:\APP1.cfg
```
- 5 PB.INI ファイルを保存します。
- 6 PowerBuilder でアプリケーションを開きます。
- 7 Library Painter を開きます。PB.INI ファイルから既存のソース管理コンフィグレーションファイルへの参照を削除しているので、ソース管理プロバイダを選択してアプリケーションをソース管理に追加するよう促すメッセージが表示されます。
- 8 次の点を考慮して、117 ページの『[ソース管理への PowerBuilder ワークスペースの追加](#)』の手順を実行します。
 - 新規ソース管理コンフィグレーションファイルを作成する必要があります。複数の開発者のアプリケーションのコピーを新規 Version Manager プロジェクトに追加する場合、開発者ごとにローカルコンフィグレーションファイルを作成することを推奨します。
 - [Add Project to Source Control (ソース管理にプロジェクトを追加)] ダイアログボックスで、新規 Version Manager プロジェクトを選択します。



注 オブジェクトをアプリケーションに再登録する必要はありません。

変換が正常に行われたことを確認したら、古いコンフィグレーションファイル (.cfg) を削除できます。

第 23 章

Visual Basic プロジェクトの変換について

はじめに	460
プロジェクト変換の準備	460
変換	460
変換の完了	461

はじめに

- 内容と目的 この章には、5.3/6.0 プロジェクトから新しいプロジェクトフォーマットへの変換について、IDE 固有の情報が記載されています。この章の目的は、変換プロセスの準備と完了に必要な IDE 固有の手順を実行するための手引きです。
- 詳細情報 変換の詳細については、[第 21 章、447 ページの『5.3/6.0 プロジェクトの変換』](#)を参照してください。

プロジェクト変換の準備

バージョン 5.3/6.0 プロジェクトを新しいプロジェクトフォーマットに変換する前に、以下の操作を行います。

- 1 プロジェクトファイル (.vbp) をソース管理に追加していない場合は、Version Manager SCC Interface 6.0 を使用して追加します。



重要！複数の Version Manager プロジェクトに関連付けられた複数のプロジェクトがワークスペースにある場合でも、一度に変換できるプロジェクトは 1 つのみです。

- 2 プロジェクトのすべてのファイルをチェックインします。これには、すべての作業ファイルとプロジェクトファイル (.vbp) が含まれます。
- 3 Visual Basic プロジェクトのバックアップを作成します。
- 4 Version Manager 5.3/6.0 のプロジェクトドメインとすべてのプロジェクトアーカイブのバックアップを作成します。プロジェクトドメインには、ルートプロジェクトディレクトリおよびその下のすべてが含まれます。



注 変換したプロジェクトを既存のプロジェクトがある Version Manager プロジェクトデータベースに追加する場合は、プロジェクトデータベースをバックアップすることをお勧めします。

変換

前のセクションに記載された手順を完了したら、[第 21 章、447 ページの『5.3/6.0 プロジェクトの変換』](#)にある、変換の手順に従ってください。

[第 21 章、447 ページの『5.3/6.0 プロジェクトの変換』](#)の変換の手順を実行したら、この章に記載されている、IDE 固有の変換手順を実行してください。

変換の完了

Visual Basic から新規 Version Manager プロジェクトでの作業を始める前に、以下の操作を完了する必要があります。

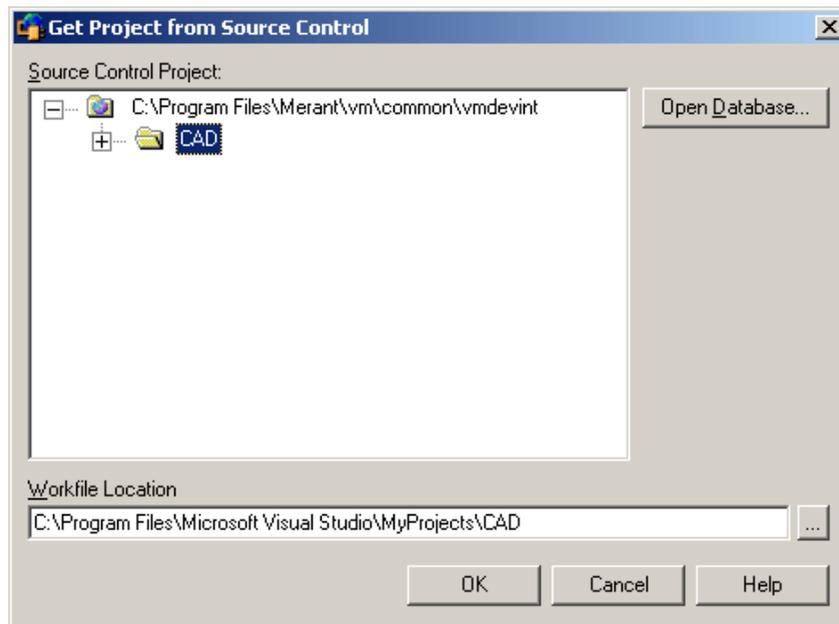
- 1 prjcv.t.txt ログファイルを参照して、Version Manager が正常にすべてのファイルを新規プロジェクトにコピーしたことを確認します。454 ページの『[変換レポートの表示](#)』を参照してください。
- 2 Visual Basic プロジェクトを開きます。ソース管理からプロジェクトの新しいコピーを開く必要があります。次のセクションを参照してください。
- 3 必要に応じて、新規 Version Manager プロジェクトにファイルを復元します。変換中に追加されなかったファイルすべてを新しいプロジェクトに追加する必要があります。462 ページの『[新規プロジェクトへのファイルの復元](#)』を参照してください。
- 4 プロジェクト間でのファイルの共有を解決します。462 ページの『[プロジェクト間でのファイルの共有の復元](#)』を参照してください。

変換したプロジェクトのオープン

プロジェクトに対してすべてのソース管理設定が正しく更新されていることを確認するには、ソース管理から新しいプロジェクトを開く必要があります。

変換したプロジェクトを開くには、次の操作を行います。

- 1 Visual Basic を起動します。
- 2 [Tools (ツール)] – [Serena] – [Create Project from Serena (Serena からプロジェクトを作成)] を選択します。[Get Project from Source Control (ソース管理からプロジェクトを取得)] ダイアログボックスが表示されます。



[Get Project from Source Control (ソース管理からプロジェクトを取得)] ダイアログボックスには、現在のプロジェクトデータベースまたはデフォルトのプロジェクトデータベース内のプロジェクトの一覧が表示されます。

- 3 変換したプロジェクトを選択するか、【Open Database (データベースを開く)】をクリックして、プロジェクトを含むプロジェクトデータベースを選択します。
- 4 〈Workfile Location (作業ファイルの場所)〉フィールドに作業ファイルの場所を入力するか、【Browse (参照)】をクリックして選択します。
- 5 【OK】をクリックします。プロジェクトが作業ファイルの場所にコピーされ、Visual Basic に表示されます。

新規プロジェクトへのファイルの復元

元のバージョン 5.3/6.0 プロジェクトのアーカイブが Visual Basic プロジェクトの作業ファイルディレクトリ以外の作業ファイルを参照している場合は、そのファイルは新規プロジェクトに表示されません。

prjcv.t.txt ファイルを参照して新規プロジェクトに正常に追加されなかったファイルがないか確認します。追加されなかったファイルがある場合は、Visual Basic からソース管理にこれらのファイルを追加する必要があります。



注 複数の開発プロジェクトで作業ファイルを共有できるように、バージョン 5.3/6.0 プロジェクトの作業ファイルディレクトリ以外に作業ファイルを配置している場合、プロジェクト間でのファイルの共有を Visual Basic から復元する方法については、次のセクションを参照してください。

プロジェクトの作業ディレクトリ以外にあるファイルを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 アーカイブの場所を新規プロジェクトディレクトリに変更する場合は、追加するファイルに関連付けられたアーカイブを、元のバージョン 5.3/6.0 プロジェクトのアーカイブから新規プロジェクトディレクトリにコピーするか移動します。これにより、ファイルは、ソース管理に追加される際に、元のアーカイブを参照するようになります。アーカイブを新規アーカイブディレクトリにコピーまたは移動しない場合は、ファイルがソース管理に追加されるときに新しいアーカイブが作成されます。
- 2 Visual Basic でプロジェクトを開きます。
- 3 ソース管理にファイルを追加します。ファイルをローカル作業ディレクトリにコピーするよう促すメッセージが表示されます。ファイルをソース管理に正常に追加するには、【Yes (はい)】をクリックする必要があります。ファイルの追加について、詳しくは [230 ページの『ファイルのソース管理への追加』](#) を参照してください。

プロジェクト間でのファイルの共有の復元

バージョン 5.3/6.0 の動作	複数の Version Manager 5.3/6.0 プロジェクトで同じ作業ファイルにアクセスできるようにするには、プロジェクトの作業ディレクトリ以外に作業ファイルを配置することが必要な場合があります。
バージョン 6.5 以降 の動作	Version Manager IDE クライアントを使用すると、プロジェクトデータベース内の複数プロジェクトで同一アーカイブを共有することができます。この機能を使用すると、アーカイブを共有するすべてのプロジェクトは、ファイルのコピーを作業ファイルディレクトリにチェックアウトしてから、変更をソースアーカイブにチェックインすることができます。
ファイル共有の復元	特定のファイルを共有するすべてのプロジェクト（共有ファイルのアーカイブが属するプロジェクトを含む）を同一プロジェクトデータベースにコピーするには、Version Manager デスクトップクライアントを使用します。その後、Visual Basic から共有を設定することができます。

詳細情報 [38 ページの『複数のプロジェクトによるファイルの共有』](#) を参照してください。

第 24 章

Visual C++ プロジェクトの変換について

はじめに	464
プロジェクト変換の準備	464
変換	464
変換の完了	465

はじめに

- 内容と目的 この章では、Version Manager 5.3/6.0 のプロジェクトを Version Manager 6.5 以降のプロジェクトフォーマットに変換する場合の IDE 固有の手順を説明します。この章の目的は、変換プロセスの準備と完了に必要な IDE 固有の手順を実行するための手引きです。
- 詳細情報 変換の詳細については、[第 21 章、447 ページの『5.3/6.0 プロジェクトの変換』](#)を参照してください。

プロジェクト変換の準備

バージョン 5.3/6.0 プロジェクトを新しいプロジェクトフォーマットに変換する前に、以下の操作を行います。

- 1 プロジェクトファイル (.dsp) をソース管理に追加していない場合は、Visual C++ で Version Manager SCC Interface 6.0 を使用して追加します。



重要! 複数の Version Manager プロジェクトに関連付けられた複数のプロジェクトがワークスペースにある場合でも、一度に変換できるプロジェクトは 1 つのみです。既存のワークスペースファイル (.dsw) は変換されません。変換が完了してから、新規ワークスペースを作成する必要があります。

- 2 プロジェクトのすべてのファイルをチェックインします。これには、すべての作業ファイル、ユーザのワークスペースファイル、およびユーザのプロジェクトファイルが含まれます。



注 .opt ファイルはソース管理に追加する必要はありません。変換が終了した後、更新されたソース管理の設定を使用して、新規に .opt ファイルが生成されます。

- 3 Visual C++ プロジェクトのバックアップを作成します。
- 4 Version Manager 5.3/6.0 のプロジェクトドメインとすべてのプロジェクトアーカイブのバックアップを作成します。プロジェクトドメインには、ルートプロジェクトディレクトリおよびその下のすべてが含まれます。



注 変換したプロジェクトを既存のプロジェクトがある Version Manager プロジェクトデータベースに追加する場合は、プロジェクトデータベースをバックアップすることをお勧めします。

変換

前のセクションに記載された手順を完了したら、[第 21 章、447 ページの『5.3/6.0 プロジェクトの変換』](#)にある、変換の手順に従ってください。

[第 21 章、447 ページの『5.3/6.0 プロジェクトの変換』](#)の変換の手順を実行したら、この章に記載されている、IDE 固有の変換手順を実行してください。

変換の完了

Visual C++ から新規 Version Manager プロジェクトでの作業を始める前に、以下の操作を完了する必要があります。

- 1 prjcvr.txt ログファイルを参照して、Version Manager が Visual C++ プロジェクトファイル (.dsp) を正常に更新したことを確認します。454 ページの『[変換レポートの表示](#)』を参照してください。
- 2 必要に応じて、新規 Version Manager プロジェクトを参照するように、Visual C++ プロジェクトファイル (.dsp) を更新します。465 ページの『[Visual C++ プロジェクトファイルの更新](#)』を参照してください。
- 3 Visual C++ プロジェクトを開きます。ソース管理からプロジェクトの新しいコピーを開く必要があります。466 ページの『[変換したプロジェクトのオープン](#)』を参照してください。
- 4 必要に応じて、新規 Version Manager プロジェクトにファイルを復元します。変換中に追加されなかったファイルすべてを新しいプロジェクトに追加する必要があります。467 ページの『[新規プロジェクトへのファイルの復元](#)』を参照してください。
- 5 プロジェクト間でのファイルの共有を解決します。468 ページの『[プロジェクト間でのファイルの共有の復元](#)』を参照してください。

Visual C++ プロジェクトの設定の確認

正常に実行された更新

prjcvr.txt ファイルを参照して、Visual C++ プロジェクトに関連付けられた .dsp ファイルが正常に更新されたことを確認してください。正常に更新された場合は、以下のメッセージが示されます。

```
IDE file File.dsp has been modified.
```

正常に実行されなかった更新

prjcvr.txt ログファイルに、.dsp ファイルの更新が正常に行われず、新しい Version Manager プロジェクトが参照されないことを通知する行が含まれる場合は、手動で .dsp ファイルを更新しなければ、Visual C++ でプロジェクトを開くことはできません。たとえば、以下のいずれかの行が prjcvr.txt ファイルに含まれる場合は、手動で .dsp ファイルを更新する必要があります。

```
Unable to open the IDE files.
Unable to find the IDE file.
```

Visual C++ の .dsp ファイルの手動による更新について詳しくは、次のセクションを参照してください。

Visual C++ プロジェクトファイルの更新

必要な場合は、以下の手順で、Visual C++ プロジェクトのソース管理の設定を更新します。

- 1 バージョン 6.5 以降の Version Manager デスクトップクライアントで、変換された新しいプロジェクトを含むプロジェクトデータベースを開きます。
- 2 ファイル表示部で Visual C++ プロジェクトファイル (.dsp) を探します。たとえば、NewApp という名前の Visual C++ プロジェクトの場合、NewApp.dsp という名前のファイルを見つけます。
- 3 .dsp ファイルをチェックアウトし、テキストエディタで開きます。

- 4 .dsp ファイルで、次の行を見つけます。

```
#PROP Scc_ProjName 「プロジェクト名」
```

ここで、「プロジェクト名」は、Visual C++ プロジェクトが現在関連付けられているソース管理プロジェクトです。

- 5 「プロジェクト名」の値が新規 Version Manager プロジェクトの名前と一致しない場合は、新しいプロジェクトの名前で置き換えます。たとえば、プロジェクトの名前が Project1 で、PDB1 という名前のデータベースにある場合、この行は次のようになります。

```
#PROP Scc_ProjName "/Project1?PVCS Version Manager?drive:path?"
```

Project1 が既存のプロジェクトの下にネストされている場合は、次のようになります。

```
#PROP Scc_ProjName "/ 既存のプロジェクト /Project1?PVCS Version Manager?drive:path?"
```

ここで、既存のプロジェクトは、既存のプロジェクトの名前で、drive:path は、データベースのドライブとパスです。Version と Manager の間にスペースがあることに注意してください。

- 6 .dsp ファイルを保存し、変換されたプロジェクトに再びチェックインします。

変換したプロジェクトのオープン

Visual C++ プロジェクトファイルが新規 Version Manager プロジェクトを参照するように更新されたことを確認したら、Visual C++ プロジェクトを開くことができます。プロジェクトに対してすべてのソース管理設定が正しく更新されていることを確認するには、ソース管理から新しいプロジェクトを開く必要があります。

変換したプロジェクトを開くには、次の操作を行います。

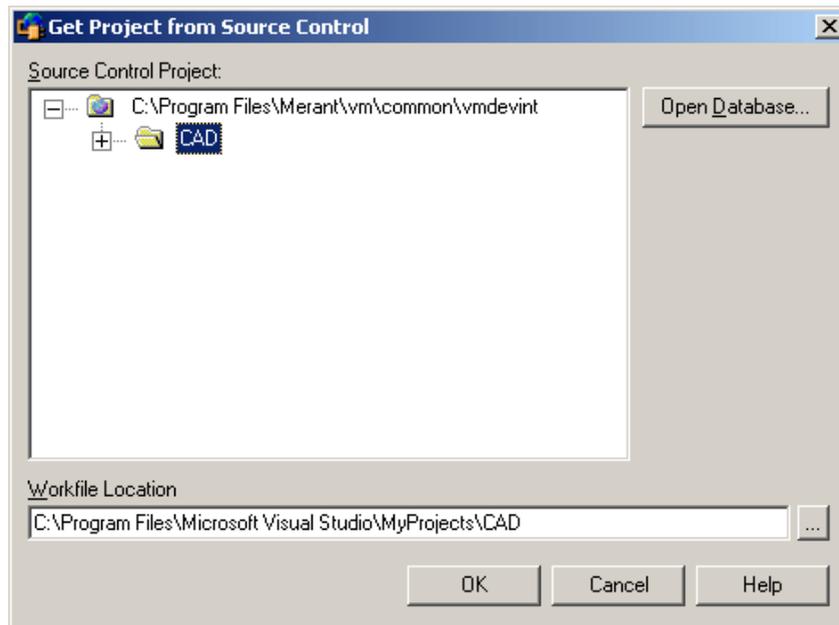
- 1 Visual C++ を起動します。
- 2 [File (ファイル)] - [New (新規)] を選択します。[New (新規)] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [Workspaces (ワークスペース)] タブを選択します。
- 4 <Workspace name (ワークスペース名)> フィールドに名前を入力し、【OK】をクリックして、新しい空のワークスペースを作成します。



重要！ Visual C++ ワークスペースは変換できません。変換されたプロジェクト用に新規ワークスペースを作成する必要があります。

- 5 [Project (プロジェクト)] - [Insert Project into Workspace (ワークスペースにプロジェクトを挿入)] を選択します。[Insert Projects into Workspace (ワークスペースにプロジェクトを挿入)] ダイアログボックスが表示されます。

- 6 【Source Control (ソース管理)】をクリックします。〔Get Project from Source Control (ソース管理からプロジェクトを取得)〕ダイアログボックスが表示されます。



〔Get Project from Source Control (ソース管理からプロジェクトを取得)〕ダイアログボックスには、現在のプロジェクトデータベースまたはデフォルトのプロジェクトデータベース内のプロジェクトの一覧が表示されます。

- 7 変換したプロジェクトを選択するか、【Open Database (データベースを開く)】をクリックして、プロジェクトを含むプロジェクトデータベースを選択します。
- 8 〈Workfile Location (作業ファイルの場所)〉フィールドに作業ファイルの場所を入力するか、【Browse (参照)】をクリックして作業ファイルの場所を探して選択します。
- 9 【OK】をクリックします。プロジェクトファイルが選択された状態で、〔Insert Projects into Workspace (ワークスペースにプロジェクトを挿入)〕ダイアログボックスが再度表示されます。
- 10 【OK】をクリックします。プロジェクトが作業ファイルの場所にコピーされます。

新規プロジェクトへのファイルの復元

ファイルの復元について

元のバージョン 5.3/6.0 プロジェクトのアーカイブが Visual C++ プロジェクトの作業ディレクトリ以外にある作業ファイルを参照している場合、その作業ファイルは新規プロジェクトに表示されません。

prjcv.t.txt ファイルを参照して新規プロジェクトに正常に追加されなかったファイルがないか確認します。追加されなかったファイルがある場合、Visual C++ からソース管理にこれらのファイルを追加する必要があります。



注 共有ファイル

複数の開発プロジェクトで作業ファイルを共有する目的でバージョン 5.3/6.0 のプロジェクトの作業ファイルディレクトリ以外に作業ファイルを配置している場合に、プロジェクト間でのファイルの共有を Visual C++ から復元する方法については、次のセクションを参照してください。

ファイルの復元 **プロジェクトの作業ディレクトリ以外にあるファイルを追加するには、次の手順を実行します。**

- 1 アーカイブの場所を新規プロジェクトディレクトリに変更する場合は、追加するファイルに関連付けられたアーカイブを、元のバージョン 5.3/6.0 プロジェクトのアーカイブから新規プロジェクトディレクトリにコピーするか移動します。これにより、ファイルは、ソース管理に追加される際に、元のアーカイブを参照するようになります。アーカイブを新規アーカイブディレクトリにコピーまたは移動しない場合は、ファイルがソース管理に追加されるときに新しいアーカイブが作成されます。
- 2 Visual C++ でプロジェクトを開きます。
- 3 ソース管理にファイルを追加します。ファイルをローカル作業ディレクトリにコピーするよう促すメッセージが表示されます。ファイルをソース管理に正常に追加するには、【Yes (はい)】をクリックする必要があります。ファイルの追加についての詳細は、[241 ページの『ファイルのソース管理への追加』](#)を参照してください。

プロジェクト間でのファイルの共有の復元

バージョン 6.0 の動作	複数の Version Manager 5.3/6.0 プロジェクトで同じ作業ファイルにアクセスできるようにするには、プロジェクトの作業ディレクトリ以外に作業ファイルを配置することが必要な場合があります。
バージョン 6.5 以降の動作	Version Manager IDE クライアントを使用すると、プロジェクトデータベース内の複数プロジェクトで同一アーカイブを共有することができます。この機能を使用すると、アーカイブを共有するすべてのプロジェクトは、ファイルのコピーを作業ファイルディレクトリにチェックアウトしてから、変更をソースアーカイブにチェックインすることができます。
ファイル共有の復元	特定のファイルを共有するすべてのプロジェクト（共有ファイルのアーカイブが属するプロジェクトを含む）を同一プロジェクトデータベースにコピーするには、Version Manager デスクトップクライアントを使用します。その後、Visual C++ から共有を設定することができます。
詳細情報	38 ページの『複数のプロジェクトによるファイルの共有』 を参照してください。

索引

数字

- 5.3/6.0 プロジェクト、変換 445
- 5.3/6.0 プロジェクトのアップグレード 445

A

- Adobe Acrobat 16

C

ColdFusion Studio

- ソース管理からのファイルの削除 102
- チェックアウトの取り消し 103
- 追加
 - ソース管理にファイルを追加 101
 - プロジェクトからソース管理に追加 98
- ファイルの取得 103
- ファイルのチェックアウト 103
- ファイルのチェックイン 104
- 複数ユーザの設定 97
- COM、ソース管理を使用可能にする 47
- COM 準拠の IDE 26

E

Eclipse 2

- Eclipse 1 からの移行 423
- アイコン絵文字の有効化 431
- オフラインモード 438
- ソース管理からのファイルの削除 429
- ソース管理からのファイルの除外 422
- ソース管理からのプロジェクトの削除 429
- ソース管理ステータス 430
- ソース管理に追加するワークステーションを増やす 426
- ソース管理へのファイルの追加 423
- チェックアウトの取り消し 433
- ファイルの取得 431
- ファイルのチェックアウト 431
- ファイルのチェックイン 433
- ファイルのロック 432
- ローカル履歴との置き換え 443
- ローカル履歴との比較 442
- Eclipse のリッチな統合
 - TeamTrack Issue の関連付け 179
 - TeamTrack Issue の操作 173
 - TeamTrack Issue の提出 178
 - ソース管理からのファイルの除外 136

- ソース管理からのプロジェクトの削除 149
- ソース管理ステータス 150
- ソース管理に追加するワークステーションを増やす 143
- ソース管理の同期化 163
- ソース管理へのファイルの追加 137
- チェックアウトの取り消し 158
- デフォルトオプションの設定 181
- ファイルの取得 155
- ファイルのチェックアウト 157
- ファイルのチェックイン 159
- ローカル履歴との置き換え 172
- ローカル履歴との比較 169

F

FrontPage

- 以前のリビジョンのチェックアウト 49
- 6.0 プロジェクト、アップグレード 110
- チェックアウトの取り消し 111
- ファイルのチェックアウト 111
- ファイルのチェックイン 112
- プロジェクト
 - ソース管理からの削除 109
 - ソース管理への追加 107

N

- NT セキュリティ 43

P

PowerBuilder

- オブジェクト
 - ソース管理からの削除 123
- オブジェクトの取得 124
- オブジェクトのチェックアウト 125
- オブジェクトのチェックイン 127
- チェックアウトの取り消し 126
- バージョン 8
 - ソース管理からの削除 123
- プロジェクトの取得 124

Pulse

- 概要 83
- 起動 84
- 設定 83
- 中断 87

- Pulse の起動 84

- PVCS Merge 91

PVCSCLIServ サービス 31

R

Rational Application Developer

- TeamTrack Issue の関連付け 179
- TeamTrack Issue の操作 173
- TeamTrack Issue の提出 178
- ソース管理からのファイルの除外 136
- ソース管理からのプロジェクトの削除 149
- ソース管理ステータス 150
- ソース管理に追加するワークステーションを増やす 143
- ソース管理の同期化 163
- ソース管理へのファイルの追加 137
- チェックアウトの取り消し 158
- デフォルトオプションの設定 181
- ファイルの取得 155
- ファイルのチェックアウト 157
- ファイルのチェックイン 159
- ローカル履歴との置き換え 172
- ローカル履歴との比較 169

Rational Rose

- ソース管理からのファイルの削除 197
- ソース管理へのファイルの追加 193
- チェックアウトの取り消し 198
- ファイルの取得 198
- ファイルのチェックアウト 198
- ファイルのチェックイン 199

S

SCC 起動のテスト 31

SCC 準拠の IDE 26

SCC プロジェクト、Visual Studio .NET 2003 の
リッチな統合への移行 308

SCC プロジェクト、Visual Studio 2005 のリッチな
統合への移行 360

SCC プロバイダ

- 選択 29
- テスト 31

Serena、問い合わせ先 17

T

TeamTrack

- IDE フォルダ 348, 413
- Issue
 - 関連付け 351, 416
 - 提出と変更 351, 416
 - 表示 350, 415
- 関連付けオプション 349, 414
- ログイン 350, 415
- ワークフロー 347, 412

TeamTrack Issue の確認 350, 415

TeamTrack Issue の関連付け 351, 416

TestDirector

- サポートされる機能 202
- 新規テストの追加 209
- ソース管理からのプロジェクト削除 205
- ソース管理の使用可能化 203
- ソース管理へのファイルの追加 204
- チェックアウトの取り消し 208
- テストの取得 205
- テストのチェックアウト 206
- テストのチェックイン 208
- バージョン履歴の表示 209

V

Version Manager

- 起動 33
- プロジェクトデータベースについて 22
- ワークスペース 32
- ワークスペース、Visual Studio での使用 305, 357

Visual Basic

- ソース管理からのファイルの削除 234
- ソース管理へのファイルの追加 230
- チェックアウトの取り消し 236
- バイナリファイル 229
- ファイルの組合せ 229
- ファイルの取得 235
- ファイルのチェックアウト 236
- ファイルのチェックイン 237

Visual C++

- 取得
 - ファイル 248
 - プロジェクト 246
 - ワークスペース 245
- ソース管理からのファイルの削除 247
- ソース管理へのファイルの追加 241
- チェックアウトの取り消し 249
- ファイルのチェックアウト 248
- ファイルのチェックイン 249

Visual InterDev

- Web プロジェクト
 - 新しいファイルの追加 271
 - 以前のリビジョンのチェックアウト 49
 - 概要 266
 - 更新 269
 - ソース管理からの削除 268
 - ソース管理への追加 267
 - チェックアウトの取り消し 270
 - 同期化 269
 - ファイルのチェックアウト 270
 - ファイルのチェックイン 271
- 非 Web プロジェクト
 - 概要 272
 - サーバへの追加のプッシュ 282
 - ソース管理からの削除 277
 - ソース管理への追加 274
 - チェックアウトの取り消し 280
 - ファイルの削除 278

- ファイルの取得 279
- ファイルのチェックアウト 280
- ファイルのチェックイン 281
- プロジェクトの取得 279
- Visual Studio .NET 2003 のリッチな統合
 - SCC プロジェクトの移行 308
 - TeamTrack の使用 347
 - Version Manager からソリューションおよびプロジェクトを開く 314
 - Version Manager へのソリューションおよびプロジェクトの追加 311
 - 概要 304
 - 競合の解決 340
 - ファイルの編集 318
 - ワークスペースの使用 305
 - ワークスペースの同期化 333
- Visual Studio .NET 2003 のリッチな統合への SCC プロジェクトの移行 308
- Visual Studio .NET SCC
 - SCC 動作の設定 289
 - サポートされる機能 286
 - ソース管理からのファイルの削除 290
 - ソース管理へのファイルの追加 290
 - チェックアウトの取り消し 298
 - ファイルの取得 295
 - ファイルのチェックアウト 296
 - ファイルのチェックイン 298
- Visual Studio 2005 のリッチな統合
 - SCC プロジェクトの移行 360
 - Serena ソース管理ツールバー 355
 - TeamTrack の使用 411
 - Version Manager からソリューションおよびプロジェクトを開く 376
 - Version Manager へのソリューションおよびプロジェクトの追加 373
 - 概要 356
 - 競合の解決 406
 - チェックイン時にブランチを常に作成 366, 391
 - ツールバー 355
 - ファイルの編集 380
 - ブランチについて 366
 - ワークスペースの使用 357
 - ワークスペースの同期化 400
- Visual Studio 2005 のリッチな統合への SCC プロジェクトの移行 360
- VisualAge for Java
 - ソース管理からのファイルの削除 226
 - ソース管理への追加 214
 - ソース管理へのファイルの追加 224
 - チェックアウトの取り消し 223
 - ファイルの取得 221
 - ファイルのチェックアウト 222
 - ファイルのチェックイン 224
- VisualCafe
 - ソース管理からのファイルの削除 258
 - ソース管理へのファイルの追加 253
 - チェックアウトの取り消し 259
 - ファイルの取得 258
 - ファイルのチェックアウト 259
 - ファイルのチェックイン 260

W

- WebSphere Studio Application Developer 5
 - WebSphere Studio Application Developer 4 からの管理 423
 - アイコン絵文字の有効化 431
 - オフラインモード 438
 - ソース管理からのファイルの削除 429
 - ソース管理からのファイルの除外 422
 - ソース管理からのプロジェクトの削除 429
 - ソース管理ステータス 430
 - ソース管理に追加するワークステーションを増やす 426
 - ソース管理へのファイルの追加 423
 - チェックアウトの取り消し 433
 - ファイルの取得 431
 - ファイルのチェックアウト 431
 - ファイルのチェックイン 433
 - ファイルのロック 432
 - ローカル履歴との置き換え 443
 - ローカル履歴との比較 442
- Web サーバアクセスの制限 43
- Web サーバセキュリティ 43
- Web プロジェクト
 - 設定 45
 - チーム開発 43
- Web プロジェクト用のソース管理のセットアップ 45
- Windows NT セキュリティ 43
- Windows ディレクトリサービス 43

あ

- アーカイブ
 - 共有 38
 - 共有、概要 24
 - 作成 22, 36
 - 定義 22
 - ディレクトリ構造 36
 - プロパティ、参照 82
 - 履歴 25
- アクセス、Web サーバ 43
- アクセスリスト、定義 22

お

- オプション、環境のセットアップ 33
- オンラインドキュメント 16
- オンラインヘルプ
 - アクセス 15
 - コマンドラインインターフェイス用 15
 - デスクトップクライアント用 15

か

- 環境、設定 33

管理ワークフロー
Web プロジェクト 42
非 Web プロジェクト 28

き

キーワード展開 47
規則、表記上 15
起動
Version Manager 33
Pulse 84

く

グローバルワークセット。「ルートワークスペース」を参照 32

け

結果メッセージ、表示 83

こ

更新間隔、Pulse 84

さ

サーバセキュリティ、設定 43
作業ファイル
定義 23
比較 91
プロジェクトへの追加 36
サブプロジェクト、定義 22
サポートされている IDE 26

し

使用
バージョンラベル 62
レポート 82
情報、ソース管理 82
初期設定 33
初期リビジョン、定義 23

せ

生成
相違点レポート 91
履歴レポート 88
製品項目。「バージョン管理ファイル」を参照
製品サポート 17

セキュリティ、Web サーバ 43
設計部品、最上位レベル。『プロジェクトデータベース』を参照
設計部品。「プロジェクト」を参照
設計部品。「プロジェクト」を参照 448
設定
Version Manager のデフォルト 34
Web サーバセキュリティ 43
Web プロジェクトのデフォルト値 45
ソース管理環境 33
プロジェクトデータベース 32
設定、ソース管理 33
選択、SCCプロバイダ 29

そ

相違点レポート
概要 25
生成 91
ソース管理からのファイルの削除
COM IDE 49
SCC IDE 39
ソース管理
SCC プロジェクトの削除 39
Web プロジェクトの削除 49
概念 22
環境、設定 33
情報、表示 24, 82
ソース管理動作の監視
概要 83
複数環境 85
ソース管理へのファイルの追加 36

た

タイムスタンプ、設定 56, 58

ち

チーム環境
個人用ワークスペース 32
作業ファイルの更新 56
ファイルの共有 38
チェックアウト
デフォルトオプション 57
デフォルトの変更 57
取り消し 59
日付による 58
リビジョンによる 58
チェックアウトの取り消し 59
チェックイン
手順 60
デフォルト値 60
デフォルトの変更 61
チップリビジョン、定義 23

て

ディレクトリサービス、Windows 43

デフォルト

- 取得オプション 54
- チェックアウトオプション 57
- チェックインオプション 60
- リビジョン、定義 23

デルタファイル 47

と

トランク、定義 24

ね

ネストされたプロジェクト構造 22, 25, 48

は

バージョン 5.3/6.0 プロジェクトの変換 445

バージョン管理ファイル

- 比較 91
- 編集 57

バージョンラベル

- 以前のリビジョンへの割り当て 393
- 再割り当て 65
- 削除 67, 330, 394
- 定義 23
- 名前の変更 65, 330, 394
- 表示 82, 319, 381
- 浮動 37, 65
- 割り当て 37, 63, 329, 392

バージョンラベルの再割り当て 65

バージョンラベルの削除 67

バージョンラベル名の変更 65, 330, 394

パブリックワークスペース 32

パブリックワークセット。「パブリックワークスペース」を参照 32

ひ

表記上の規則 15

表示

- Visual Studio でのファイルステータス 324, 387
- ソース管理動作 83
- プロパティ 24, 82

ふ

ファイル

- 取得 54

ソース管理への追加

Web プロジェクト 48

非 Web プロジェクト 36

チェックアウト 57

チェックイン 60

ファイルの共有

対応策 38

定義 24

ファイルの取得

デフォルトオプション 54

デフォルトの変更 55

日付による 56

プロモーショングループによる 55

リビジョンによる 55

ファイルの比較 25, 91

ファイルの編集 57

ファイルのロック、定義 23

ファイルのロック解除 59, 60

ファイルへの変更、保存 60

ファイルへの変更を保存 60

浮動ラベル 37

ブランチ

作成 62

定義 24

プロジェクト

5.3/6.0 フォーマット 25, 448

作成

COM IDE の場合 48

設定 28

定義 22

作成

SCC IDE の場合 36

プロジェクトデータベース

作成 32

定義 22

プロジェクト動作、監視 83

プロジェクトの作成

COM IDE 48

SCC IDE 36

プロジェクトの編成 22, 25

プロジェクトへのログイン 54

プロパティ、参照 24, 82

プロパティの表示 82

プロモーション

グループ

参照 82

チェックアウト 58

定義 23

割り当て 37

モデル、定義 23

プロモーショングループ 69

概要 69

権限 70

削除 77

次のグループへのプロモート 73

プロモーショングループのリビジョンへの割り当て 71

プロモーションモデルのセットアップ 69

変更 75
リビジョンのチェックアウト 70
プロモーションモデル
概要 69
設定 69

へ

並行開発。「ブランチ」を参照 24

ゆ

ユーザ
ID、入力 54
権限、定義 43
種類 44

ら

ラベル
再割り当て 65
削除 67, 330, 394
名前の変更 65, 330, 394
浮動 65
割り当て 63, 329, 392

り

リッチな統合
TeamTrack と Visual Studio .NET 2003 347
TeamTrack と Visual Studio 2005 411
Visual Studio .NET 2003 304, 356

リビジョン
チェックアウト
プロモーショングループに割り当てられたリ
ビジョンのチェックアウト 70
定義 23
バージョンラベルの割り当て 23
番号付け 23
比較 91
プロパティ、参照 82
プロモーショングループへのリビジョンの割り当て 71
プロモート 73
リビジョンの番号付け 23
リビジョンへのバージョンラベルの割り当て 63
履歴レポート
概要 25
種類 89
生成 88

る

ルートワークスペース 32

れ

レポート
相違点
概要 25
生成 91
履歴
概要 25
生成 88

わ

ワークスペース
Version Manager 32
Visual Studio
概要 305, 357
同期化 339, 405
比較 335, 401
定義 24
ワークセット。「ワークスペース」を参照 32
ワークフロー
TeamTrack の Visual Studio とのリッチな統合 347,
412
Web プロジェクト 42
非 Web プロジェクト 28